

城山遺跡 第96地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

2021

埼玉県志木市教育委員会



調査区全景（モザイク空中写真）

旧石器時代



TP8 第1文化層 石器・礫出土状況（東から）／奥は第3文化層

旧石器時代



TP8 第2文化層 石器・礫出土状況（東から）

縄文時代



7号住居跡 貝類・縄文土器出土状況（東から）

縄文時代



住居跡から出土した諸磯式土器

弥生時代



10号住居跡 弥生土器・石器出土状況（南西から）

弥生時代



10号住居跡出土 弥生時代中期宮ノ台式土器・石器・異形土製品

古墳時代



315号住居跡 遺物出土状況（南から）

古墳時代



315号住居跡出土 古墳時代後期（7世紀中葉）の土師器・紡錘車・鎌・鉄鏃・刀子・砥石



住居跡から出土した平安時代の遺物



68号溝跡（西から）



69号溝跡（西から）

はじめに

志木市教育委員会
教育長 柚木 博

ここに刊行する『城山遺跡第96地点埋蔵文化財発掘調査報告書』は、教育委員会が令和元年度から令和2年度にかけて実施した発掘調査の成果をまとめたものです。

現在、市内には、15カ所の埋蔵文化財包蔵地が登録されています。これらの埋蔵文化財は祖先が残してきた貴重な文化遺産であり、私たちはこれを大切に保護し後世に伝えていく使命があると言えます。

城山遺跡については、これまでの調査成果から、旧石器時代から縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世・近世までの幅広い時期にわたる複合遺跡であることが判明しています。

今回の調査においても本市の歴史を知る上で欠くことのできない貴重な資料を得ることができました。この成果が郷土史研究をはじめ、多くの人々に幅広く活用されることを切に願っております。

最後になりましたが、本書の刊行にあたり、格別のご理解とご協力を頂いた事業主体者や土地所有者、そして深いご理解とご協力を賜りました地元の多くの方々並びに関係者の皆様に対し、心から感謝申し上げます。

例 言

1. 本書は、令和元年度～令和2年度に発掘調査を実施した、埼玉県志木市に所在する城山遺跡第96地点の発掘調査報告書である。
2. 本調査は、市営墓地拡張工事に伴う記録保存のための発掘調査として、工事主体者である志木市からの委任を受け、志木市教育委員会が調査主体者として実施した。
3. 埋蔵文化財保存事業の実施にあたり、発掘作業・整理作業・報告書刊行作業の支援業務を株式会社東京航業研究所（代表取締役 中本直士）に委託した。
4. 発掘作業は令和元年5月27日から11月2日まで行い、整理作業・報告書刊行作業を令和3年3月25日まで行った。
5. 本書は尾形則敏・徳留彰紀・大久保聡が監修し、編集は遠竹陽一郎が行った。執筆は第1章第1節を尾形、第1章第2節と第2章第1節を徳留、第2章第2・3節・第3章第2～7節・第4章第2・4～6節を遠竹、第3章第1節・第4章第1節を坂下、第4章第3節を宅間が担当した。遺物の観察は石器・石製品を坂下・竹内、縄文時代から平安時代の土器・土製品を柳井、中世以降の土器・陶磁器を根田、金属製品を遠竹が主に行った。
6. 本報告に係る出土品及び記録図面・写真等は、志木市立埋蔵文化財保管センターで一括して保管している。
7. 調査組織は以下の通りである。

【志木市教育委員会組織】

調査主体者	志木市教育委員会
教育長	柚木博
教育政策部長	土岐隆一（～令和元年度）
〃	北村竜一（令和2年度～）
教育政策部次長	北村竜一（～令和元年度）
〃	大熊克之（令和2年度～）
生涯学習課長	原田謙二（～令和元年度）
〃	山本 勲（令和2年度～）
生涯学習課副課長	中原敦也（令和2年度～）
生涯学習課主幹	中原敦也（～令和元年度）
	浅見千穂（令和2年度～）
生涯学習課主査	浅見千穂（～令和元年度）
〃	武井香代子
〃	尾形則敏
〃	徳留彰紀（令和2年度～）
生涯学習課主任	松永真知子
〃	徳留彰紀（～令和元年度）
〃	大久保 聡

生涯学習課主事補	鈴木楓月
調査担当者	尾形則敏 徳留彰紀 大久保 聡
志木市文化財保護審議会	井上國夫(会長) 深瀬 克(委員) 上野守嘉(委員) 新田泰男(委員) 金子博一(委員)(令和2年4月1日～) 高橋 豊(委員)(～令和2年3月31日)

【株式会社東京航業研究所】

○発掘作業

調査員	遠竹陽一郎
現場代理人	鈴木智之
調査補助員	小森暁生・根田洋平・坂下貴則
作業員	伊藤 茂・稲川信子・大川早苗・梶原優太・上川明美・栗原雅基・ 小池幹男・小坂信雄・小林義明・坂 有子・榊原健二・佐野紀夫・ 白尾 司・空 博己・高瀬之夫・竹村洋一・立川榮二・田中雅弘・ 為石 篤・並木智子・古間果那子・増澤勝実・真仁田晃子・三邊有希・ 吉田美和
測 量	大久保聡・樫尾哲夫・川下由光・高田拓郎・奈治原亮年・八島大介
機材整備	向井正憲

○整理作業・報告書刊行作業

調査員	遠竹陽一郎
調査補助員	小森暁生・根田洋平・坂下貴則・宅間清公
作業員	大川亜弓・大久保文子・岡田ヒサコ・荻島里江・栗原雅基・兼目恵美・ 酒井成男・島崎美代子・高橋 昇・田上達恵・田口陽祐・竹内あい・ 東條高士・中原はつね・中山幸恵・西村由美子・野 島 泉・羽鳥久子・ 布施比登美・松山純示・三原浩之・宮崎浩子・村井建三・持田つる子・ 森田 望・柳井維都花・柳澤美樹・大和 修・山羽 孝

8. 発掘作業及び整理作業・報告書作成には、以下の諸機関・諸氏のご教示・ご援助を賜った。記して感謝する次第である(敬称略)。

埼玉県教育局市町村支援部文化資源課・(公財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団・朝霞市教育委員会・朝霞市博物館・新座市教育委員会・和光市教育委員会・富士見市教育委員会・富士見市立水子貝塚資料館

石川日出志・江原 順・大屋道則・加藤秀之・川畑隼人・隈本健介・小出輝雄・

- 齊藤 純・齋藤欣延・斯波 治・鈴木一郎・柴田 徹・照林敏郎・野沢 均・
早坂廣人・堀 善之・前田秀則・村山 卓・柳井章宏・山本 龍・和田晋治
9. 本報告に係る文化財保護法に基づく各種届出等及び指示通知については、下記の通りである。
- 周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について（通知）
平成31年4月26日付け 教文資第4-203号
 - 埋蔵物の文化財認定について（通知）
令和2年3月26日付け 教文資第7-154号

凡 例

1. 本報告書で使用した地図は以下のとおりである。
 - 第1図 1：10,000「志木市全図」アジア航測株式会社調製
 - 第2図 1：5,000 ゼンリン電子住宅地図 デジタウン「埼玉県志木市」平成27年4月発行株式会社ゼンリン
2. 本書の国家座標、緯度、経度は、世界測地系に則している。
3. 挿図版の縮尺は、それぞれに明記した。
4. 遺構挿図版中の水系レベルは、海拔標高を示す。
5. ビット・掘り込み内の数値は、床面もしくは確認面からの深さを示し、単位はcmである。また、同一遺構内にあるビットでも、おそらく後世のビットと思われるものには、数値を省略した。
6. 遺構挿図版中のドットは遺物出土位置を示すが、遺物が密集する場合は個別にドットマークを換えて表示した。番号は遺物挿図版中の遺物番号と一致する。
7. 挿図版中のスクリーントーンについては、各挿図版内に内容を示した。
8. 土器一覧表「法量」項中にある表記については、以下のとおりである。また、現存値は〔 〕、推定値は（ ）を付した。
高：器高 口：口径 底：底径 厚：器厚
9. 遺構の略記号は、以下のとおりである。
U＝旧石器時代の石器集中地点 礫＝旧石器時代の礫群 J＝縄文時代の住居跡
Y＝弥生時代中期～古墳時代前期の住居跡 H＝古墳時代後期・平安時代の住居跡
S＝縄文時代の集石 D＝土坑 M＝溝跡 道＝道路状遺構 P＝ビット
T＝掘立柱建築遺構 方＝方形周溝墓 F P＝炉穴

目 次

巻頭図版／はじめに

例 言／凡 例／目 次／挿図目次／表 目 次／図版目次

第1章 遺跡の立地と環境	1
第1節 市域の地形と遺跡	1
第2節 遺跡の概要	7
第2章 発掘調査の概要	16
第1節 調査に至る経緯	16
第2節 調査の方法と経過	18
第3節 基本層序	22
第3章 検出された遺構と遺物	26
第1節 旧石器時代	26
第2節 縄文時代	59
第3節 弥生時代中期～古墳時代前期	106
第4節 古墳時代後期	126
第5節 平安時代	231
第6節 中世以降	241
第7節 遺構外出土遺物	283
第4章 調査のまとめ	304
第1節 旧石器時代	304
第2節 縄文時代	307
第3節 弥生時代中期～古墳時代前期	309
第4節 古墳時代後期	310
第5節 平安時代	316
第6節 中世以降	317

[付編] 自然科学分析

I. 放射性炭素年代測定	325
II. 城山遺跡第96地点出土炭化材の樹種同定	327
III. 城山遺跡第96地点出土黒曜石の産地推定	334

図 版

報告書抄録

插图目次

第 1 图 市域の地形と遺跡分布 (1/20,000)	2	第 30 图 縄文時代遺構全体図 (1/300)	59
第 2 图 城山遺跡の調査地点 (1/3,000)	9	第 31 图 4号住居跡 (1/60)	60
第 3 图 確認調査時の遺構分布 (1/300)	17	第 32 图 4号住居跡遺物出土状態・炉跡 (1/60・1/30)	61
第 4 图 調査区画図 (1/1,000)	18	第 33 图 4号住居跡出土遺物 (2/3・1/4)	61
第 5 图 基本土層の位置 (1/300)	22	第 34 图 5号住居跡・遺物出土状態 (1/60)	63
第 6 图 基本層序 1 (1/60)	23	第 35 图 5号住居跡出土遺物 (1/3・1/4)	63
第 7 图 基本層序 2 (1/60)	24	第 36 图 6号住居跡・遺物出土状態 (1/60)	65
第 8 图 遺構分布図 (1/300)	25	第 37 图 6号住居跡出土遺物 (2/3・1/3・1/4)	66
第 9 图 TP配置図 (1/300)	26	第 38 图 7号住居跡・遺物出土状態・炉跡 (1/60・1/30)	68
第 10 图 第1～3文化層概略図 (1/100)	27	第 39 图 7号住居跡出土遺物 (1/3・1/4)	69
第 11 图 9号石器集中地点 器種別分布図 (1/60・1/3)・組成グラフ	29	第 40 图 8号住居跡・遺物出土状態 (1/60)	73
第 12 图 9号石器集中地点 石質別分布図 (1/60・1/3)・組成グラフ	30	第 41 图 8号住居跡出土遺物 (1/3・1/4)	74
第 13 图 9号石器集中地点出土石器 1 (2/3)	31	第 42 图 9号住居跡・炉跡 (1/60・1/30)	76
第 14 图 9号石器集中地点出土石器 2 (2/3)	32	第 43 图 9号住居跡遺物出土状態 (1/60)	77
第 15 图 9号石器集中地点出土石器 3 (2/3)	33	第 44 图 9号住居跡出土遺物 1 (1/3・1/4)	78
第 16 图 9号石器集中地点出土石器 4 (2/3)	34	第 45 图 9号住居跡出土遺物 2 (1/3・1/4)	79
第 17 图 9号石器集中地点出土石器 5 (2/3)	35	第 46 图 10号住居跡・炉跡 (1/60・1/30)	83
第 18 图 10号石器集中地点 器種別・石質分布図 (1/60・1/3)・組成グラフ	36	第 47 图 10号住居跡遺物出土状態 (1/60)	84
第 19 图 10号石器集中地点出土石器 1 (1/3・2/3)	37	第 48 图 10号住居跡出土遺物 (1/3・1/4)	84
第 20 图 10号石器集中地点出土石器 2 (2/3)	38	第 49 图 11・13・14号住居跡 (1/60)	86
第 21 图 11号石器集中地点 器種別分布図 (1/60)・組成グラフ	39	第 50 图 11・13・14号住居跡遺物出土状態 (1/60)	87
第 22 图 11号石器集中地点 石質別分布図 (1/60・1/3)・組成グラフ	40	第 51 图 11・13・14号住居跡出土遺物 (1/3・1/4)	87
第 23 图 11号石器集中地点出土石器 1 (2/3)	41	第 52 图 12号住居跡・遺物出土状態 (1/60)	89
第 24 图 11号石器集中地点出土石器 2 (2/3)	42	第 53 图 12号住居跡 (1/60)	90
第 25 图 11号石器集中地点出土石器 3 (2/3)	43	第 54 图 12号住居跡出土遺物 (1/3・1/4)	90
第 26 图 10号礎群 出土状態概観図 (1/60)	44	第 55 图 6号集石・出土遺物 (1/60・1/3)	92
第 27 图 10号礎群 重量別分布図 (1/60)・組成グラフ	45	第 56 图 7号集石 (1/60)	92
第 28 图 11号礎群 重量別分布図・出土状態概観図 (1/60)・組成グラフ	46	第 57 图 炉穴 (1/60)	94
第 29 图 遺構外出土石器 (2/3・1/60)	48	第 58 图 炉穴出土遺物 (1/3)	94
		第 59 图 縄文時代土坑 1 (1/60)	100
		第 60 图 縄文時代土坑 2 (1/60)	101
		第 61 图 1095号土坑出土遺物 (1/3・1/4)	102
		第 62 图 1096号土坑出土遺物 (1/3)	102

第 63 図	1097 号土坑出土遺物 (1/3).....	103	第 96 図	304 号住居跡 (1/60)	136
第 64 図	1121 号土坑出土遺物 (1/3).....	103	第 97 図	304 号住居跡遺物出土状態 (1/60)	137
第 65 図	1125 号土坑出土遺物 (2/3・1/3・1/4)	103	第 98 図	304 号住居跡・カマド (1/60・1/30).....	138
第 66 図	1127 号土坑出土遺物 (1/3).....	104	第 99 図	304 号住居跡出土遺物 1 (1/4).....	139
第 67 図	1131 号土坑出土遺物 (1/3).....	104	第 100 図	304 号住居跡出土遺物 2 (1/2・1/4).....	140
第 68 図	189 号ピット (1/60).....	105	第 101 図	305 号住居跡 (1/60)	143
第 69 図	189 号ピット出土遺物 (1/4)	105	第 102 図	305 号住居跡遺物出土状態 (1/60)	144
第 70 図	弥生時代中期～古墳時代前期遺構全体図 (1/300)	106	第 103 図	305 号住居跡カマド (1/30)	145
第 71 図	8 号住居跡 (1/60)	107	第 104 図	305 号住居跡出土遺物 (1/3・1/4) ...	145
第 72 図	8 号住居跡遺物出土状態 (1/60)	108	第 105 図	306 号住居跡 (1/60)	147
第 73 図	8 号住居跡出土遺物 (1/3・1/4)	108	第 106 図	306 号住居跡遺物出土状態 (1/60)	148
第 74 図	9 号住居跡 (1/60)	109	第 107 図	306 号住居跡カマド (1/30・1/60) ...	149
第 75 図	9 号住居跡遺物出土状態 (1/60)	110	第 108 図	306 号住居跡出土遺物 1 (1/4).....	150
第 76 図	9 号住居跡出土遺物 (1/3・1/4)	111	第 109 図	306 号住居跡出土遺物 2 (1/4).....	151
第 77 図	10 号住居跡 (1/60)	112	第 110 図	306 号住居跡出土遺物 3 (1/4).....	152
第 78 図	10 号住居跡カマド・遺物出土状態 1 (1/60・1/30)	113	第 111 図	308 号住居跡 (1/60)	155
第 79 図	10 号住居跡遺物出土状態 2 (1/60・1/30).....	114	第 112 図	308 号住居跡遺物出土状態・ カマド (1/60・1/30)	156
第 80 図	10 号住居跡 (1/60)	115	第 113 図	308 号住居跡出土遺物 (1/4).....	157
第 81 図	10 号住居跡出土遺物 1 (1/4)	116	第 114 図	309 号住居跡 (1/60)	158
第 82 図	10 号住居跡出土遺物 2 (1/3・1/4) ...	117	第 115 図	309 号住居跡遺物出土状態 (1/60)	159
第 83 図	10 号住居跡出土遺物 3 (1/3・1/4) ...	118	第 116 図	309 号住居跡カマド (1/30)	160
第 84 図	10 号住居跡出土遺物 4 (1/3・1/4) ...	119	第 117 図	309 号住居跡出土遺物 (1/3・1/4) ...	161
第 85 図	11 号住居跡・遺物出土状態 (1/60)	123	第 118 図	311 号住居跡 (1/60)	163
第 86 図	11 号住居跡出土遺物 (1/4)	124	第 119 図	311 号住居跡・遺物出土状態 (1/60) ...	164
第 87 図	1 号方形周溝墓 (1/60)	125	第 120 図	311 号住居跡カマド (1/30)	165
第 88 図	古墳時代後期遺構全体図 (1/300)	126	第 121 図	311 号住居跡出土遺物 1 (1/4).....	166
第 89 図	301 号住居跡 (1/60)	127	第 122 図	311 号住居跡出土遺物 2 (1/4).....	167
第 90 図	301 号住居跡遺物出土状態・カマド (1/60・1/30).....	128	第 123 図	311 号住居跡出土遺物 3 (1/3・1/4) ..	168
第 91 図	301 号住居跡出土遺物 (1/4)	129	第 124 図	312 号住居跡・遺物出土状態 (1/60) ...	171
第 92 図	302 号住居跡・遺物出土状態 (1/60)	130	第 125 図	312 号住居跡カマド (1/30)	172
第 93 図	303 号住居跡 (1/60)	131	第 126 図	312 号住居跡出土遺物 (1/4).....	173
第 94 図	303 号住居跡カマド・遺物出土状態 (1/30・1/60).....	132	第 127 図	313 号住居跡 (1/60)	174
第 95 図	303 号住居跡出土遺物 (1/4・1/3) ...	133	第 128 図	313 号住居跡遺物出土状態 (1/60)	175
			第 129 図	313 号住居跡・カマド (1/60・1/30) ..	176
			第 130 図	313 号住居跡出土遺物 1 (1/4).....	177
			第 131 図	313 号住居跡出土遺物 2 (1/4).....	178

第132図	313号住居跡出土遺物3 (1/2・1/4)	179	(1/3・1/4)	224	
第133図	314号住居跡・遺物出土状態 (1/60)	182	第170図	平安時代遺構全体図 (1/300)	231
第134図	314号住居跡カマド (1/30)	183	第171図	300号住居跡・出土遺物 (1/60・1/4)	232
第135図	314号住居跡出土遺物1 (1/4)	184	第172図	307号住居跡・遺物出土状態 (1/60)	233
第136図	314号住居跡出土遺物2 (1/4)	185	第173図	307号住居跡カマド (1/30)	234
第137図	315号住居跡 (1/60)	187	第174図	307号住居跡出土遺物 (1/4)	235
第138図	315号住居跡・遺物出土状態1 (1/60)	188	第175図	310号住居跡・遺物出土状態 (1/60)	236
第139図	315号住居跡・遺物出土状態2 (1/60)	189	第176図	310号住居跡カマド (1/30)	237
第140図	315号住居跡カマド (1/30)	190	第177図	310号住居跡出土遺物 (1/3・1/4)	237
第141図	315号住居跡出土遺物1 (1/3・1/4)	191	第178図	12号掘立柱建物遺構 (1/60)	239
第142図	315号住居跡出土遺物2 (1/4)	192	第179図	12号掘立柱建物遺構 (1/60)	240
第143図	315号住居跡出土遺物3 (1/4)	193	第180図	中世以降の遺構全体図 (1/300)	241
第144図	315号住居跡出土遺物4 (1/4)	194	第181図	68号溝跡 (1/60)	243
第145図	315号住居跡出土遺物5 (1/3・1/4)	195	第182図	68号溝跡出土遺物 (1/3・1/4)	243
第146図	316号住居跡・遺物出土状態 (1/60)	199	第183図	69号溝跡 (1/60)	244
第147図	316号住居跡出土遺物 (1/4)	199	第184図	69号溝跡出土遺物 (1/3・1/4)	244
第148図	317号住居跡 (1/60)	201	第185図	68号溝跡 (1/100)	245
第149図	317号住居跡・遺物出土状態 (1/60)	202	第186図	69号溝跡 (1/100)	245
第150図	317号住居跡カマド (1/30)	203	第187図	3号道路状遺構 (1/100)	247
第151図	317号住居跡出土遺物 (1/4)	204	第188図	3号道路状遺構 (1/60)	249
第152図	318号住居跡・遺物出土状態 (1/60)	206	第189図	A群2類 方形の土坑 (1/60)	251
第153図	318号住居跡出土遺物 (1/4)	207	第190図	B群2類 幅狭長方形の土坑 (1/60)	253
第154図	319号住居跡 (1/60)	208	第191図	B群3類 幅広長方形の土坑1 (1/60)	255
第155図	319号住居跡遺物出土状態・カマド (1/60・1/30)	209	第192図	B群3類 幅広長方形の土坑2 (1/60)	257
第156図	319号住居跡出土遺物1 (1/4)	210	第193図	C群 円形・楕円形の土坑 (1/60)	261
第157図	319号住居跡出土遺物2 (1/4)	211	第194図	F群 T字形の土坑・遺物出土状態 (1/30)	265
第158図	320号住居跡 (1/60)	213	第195図	土坑出土遺物 (1/1・1/3・1/4)	266
第159図	320号住居跡遺物出土状態 (1/60)	214	第196図	173号ピット (1/30)	267
第160図	320号住居跡出土遺物 (1/4)	214	第197図	ピット全体図 (1/300)	268
第161図	321号住居跡・遺物出土状態 (1/60)	216	第198図	ピット区分図1 (1/100)	269
第162図	321号住居跡カマド (1/30)	217	第199図	ピット区分図2 (1/100)	270
第163図	321号住居跡出土遺物1 (1/4)	218	第200図	ピット区分図3 (1/100)	271
第164図	321号住居跡出土遺物2 (1/4)	219	第201図	ピット区分図4 (1/100)	272
第165図	321号住居跡出土遺物3 (1/4)	220	第202図	ピット区分図5 (1/100)	273
第166図	321号住居跡出土遺物4 (1/4)	221	第203図	縄文時代遺構外出土遺物1 (1/3・1/4)	284
第167図	321号住居跡出土遺物5 (1/4)	222	第204図	縄文時代遺構外出土遺物2 (1/3・1/4)	285
第168図	321号住居跡出土遺物6 (1/4)	223	第205図	縄文時代遺構外出土遺物3 (1/3)	286
第169図	321号住居跡出土遺物7				

第206図	縄文時代遺構外出土遺物4 (1/3・1/4) 287	第216図	望月ダイアグラム (Rb分率図/城山遺跡 第96地点) …… 341
第207図	縄文時代遺構外出土遺物5 (1/3) …… 288	第217図	望月ダイアグラム (Rb分率図/城山遺跡 第96地点) …… 341
第208図	縄文時代遺構外出土遺物6 (2/3・1/4) 296	第218図	望月ダイアグラム (Rb分率拡大図/城山遺跡 第96地点) …… 342
第209図	縄文時代遺構外出土遺物7 (1/4) …… 297	第219図	望月ダイアグラム (Sr分率拡大図/城山遺跡 第96地点) …… 342
第210図	縄文時代遺構外出土遺物8 (1/4) …… 298	第220図	望月ダイアグラム (Rb分率拡大図/城山遺跡 第96地点) …… 343
第211図	弥生時代遺構外出土遺物 (1/3・1/4) 300	第221図	望月ダイアグラム (Sr分率拡大図/城山遺跡 第96地点) …… 343
第212図	古墳時代遺構外出土遺物 (1/3・1/4) 302		
第213図	中世以降遺構外出土遺物1 (1/3・1/4) 302		
第214図	中世以降遺構外出土遺物2 (1/1・1/3・1/4) …… 303		
第215図	暦年校正結果 …… 327		

目 次

第1表	志本市埋蔵文化財包蔵地一覧 …… 1	第12表	遺構外出土石器 …… 58
第2表	城山遺跡調査一覧(1) …… 10	第13表	4号住居跡出土遺物一覧 …… 62
	城山遺跡調査一覧(2) …… 11	第14表	5号住居跡出土遺物一覧 …… 64
	城山遺跡調査一覧(3) …… 12	第15表	6号住居跡出土遺物一覧(1) …… 66
第3表	志本市の発掘調査報告書一覧(1) …… 13		6号住居跡出土遺物一覧(2) …… 67
	志本市の発掘調査報告書一覧(2) …… 14	第16表	7号住居跡出土遺物一覧(1) …… 69
	志本市の発掘調査報告書一覧(3) …… 15		7号住居跡出土遺物一覧(2) …… 70
第4表	発掘調査工程表(1) …… 19	第17表	7号住居跡出土具類計量表(1) …… 70
	発掘調査工程表(2) …… 20		7号住居跡出土具類計量表(2) …… 71
	発掘調査工程表(3) …… 21	第18表	7号住居跡出土マガキ・ヤマトシジミ計量表 …… 71
第5表	9号石器集中地点出土石器(1) …… 49	第19表	7号住居跡出土マガキ・ヤマトシジミ計量表 …… 72
	9号石器集中地点出土石器(2) …… 50	第20表	7号住居跡出土陸産貝類数量表 …… 72
第6表	10号石器集中地点出土石器 …… 51	第21表	8号住居跡出土遺物一覧 …… 74
第7表	11号石器集中地点出土石器(1) …… 51	第22表	8号住居跡出土具類計量表 …… 75
	11号石器集中地点出土石器(2) …… 52	第23表	8号住居跡出土マガキ・ヤマトシジミ計量表 …… 75
第8表	10号礫群出土礫属性表(1) …… 53	第24表	8号住居跡出土マガキ・ヤマトシジミ計量表 …… 75
	10号礫群出土礫属性表(2) …… 54	第25表	8号住居跡出土陸産貝類数量表 …… 75
	10号礫群出土礫属性表(3) …… 55	第26表	9号住居跡出土遺物一覧(1) …… 80
	10号礫群出土礫属性表(4) …… 56		9号住居跡出土遺物一覧(2) …… 81
	10号礫群出土礫属性表(5) …… 57	第27表	9号住居跡出土具類計量表 …… 82
第9表	10号礫群接合礫属性表(1) …… 57	第28表	9号住居跡出土マガキ・ヤマトシジミ計量表 …… 82
	10号礫群接合礫属性表(2) …… 58	第29表	9号住居跡出土マガキ・ヤマトシジミ計量表 …… 82
第10表	11号礫群出土礫属性表 …… 58	第30表	10号住居跡出土遺物一覧 …… 85
第11表	11号礫群接合礫属性表 …… 58	第31表	11・13・14号住居跡出土遺物一覧 …… 88

第 32 表	12 号住居跡出土遺物一覽	91	第 62 表	317 号住居跡出土遺物一覽	205
第 33 表	6 号集石出土遺物一覽	92	第 63 表	318 号住居跡出土遺物一覽	207
第 34 表	集石出土土器観察表	92	第 64 表	319 号住居跡出土遺物一覽 (1)	211
第 35 表	19 号が六出土遺物一覽	94		319 号住居跡出土遺物一覽 (2)	212
第 36 表	21 号が六出土遺物一覽	94	第 65 表	320 号住居跡出土遺物一覽	215
第 37 表	1095 号土坑出土遺物一覽	102	第 66 表	321 号住居跡出土遺物一覽 (1)	224
第 38 表	1096 号土坑出土遺物一覽	102		321 号住居跡出土遺物一覽 (2)	225
第 39 表	1097 号土坑出土遺物一覽	103		321 号住居跡出土遺物一覽 (3)	226
第 40 表	1121 号土坑出土遺物一覽	103		321 号住居跡出土遺物一覽 (4)	227
第 41 表	1125 号土坑出土遺物一覽	104		321 号住居跡出土遺物一覽 (5)	228
第 42 表	1127 号土坑出土遺物一覽	104		321 号住居跡出土遺物一覽 (6)	229
第 43 表	1131 号土坑出土遺物一覽	104		321 号住居跡出土遺物一覽 (7)	230
第 44 表	189 号ピット出土遺物一覽	105	第 67 表	300 号住居跡出土遺物一覽	232
第 45 表	8 号住居跡出土遺物一覽	108	第 68 表	307 号住居跡出土遺物一覽	235
第 46 表	9 号住居跡出土遺物一覽	111	第 69 表	310 号住居跡出土遺物一覽	238
第 47 表	10 号住居跡出土遺物一覽 (1)	120	第 70 表	68 号溝跡出土遺物一覽	243
	10 号住居跡出土遺物一覽 (2)	121	第 71 表	69 号溝跡出土遺物一覽	249
	10 号住居跡出土遺物一覽 (3)	122	第 72 表	土坑集計表	250
第 48 表	11 号住居跡出土遺物一覽	124	第 73 表	1077 号土坑出土遺物一覽	266
第 49 表	301 号住居跡出土遺物一覽	129	第 74 表	1089 号土坑出土遺物一覽	266
第 50 表	303 号住居跡出土遺物一覽	134	第 75 表	1098 号土坑出土遺物一覽	266
第 51 表	304 号住居跡出土遺物一覽 (1)	141	第 76 表	1102 号土坑出土遺物一覽	267
	304 号住居跡出土遺物一覽 (2)	142	第 77 表	1109 号土坑出土遺物一覽	267
第 52 表	305 号住居跡出土遺物一覽	146	第 78 表	1118 号土坑出土遺物一覽	267
第 53 表	306 号住居跡出土遺物一覽 (1)	153	第 79 表	1123 号土坑出土遺物一覽	267
	306 号住居跡出土遺物一覽 (2)	154	第 80 表	ピット一覽 (1)	274
第 54 表	308 号住居跡出土遺物一覽	157		ピット一覽 (2)	275
第 55 表	309 号住居跡出土遺物一覽	162		ピット一覽 (3)	276
第 56 表	311 号住居跡出土遺物一覽 (1)	169		ピット一覽 (4)	277
	311 号住居跡出土遺物一覽 (2)	170		ピット一覽 (5)	278
第 57 表	312 号住居跡出土遺物一覽	173		ピット一覽 (6)	279
第 58 表	313 号住居跡出土遺物一覽 (1)	180		ピット一覽 (7)	280
	313 号住居跡出土遺物一覽 (2)	181		ピット一覽 (8)	281
第 59 表	314 号住居跡出土遺物一覽	186		ピット一覽 (9)	282
第 60 表	315 号住居跡出土遺物一覽 (1)	195	第 81 表	縄文時代遺構外出土遺物一覽 (1)	289
	315 号住居跡出土遺物一覽 (2)	196		縄文時代遺構外出土遺物一覽 (2)	290
	315 号住居跡出土遺物一覽 (3)	197		縄文時代遺構外出土遺物一覽 (3)	291
	315 号住居跡出土遺物一覽 (4)	198		縄文時代遺構外出土遺物一覽 (4)	292
第 61 表	316 号住居跡出土遺物一覽	199		縄文時代遺構外出土遺物一覽 (5)	293

縄文時代遺構外出土遺物一覧(6)	294	第 87 表 城山遺跡出土礫群の出土層準別集計表	306
縄文時代遺構外出土遺物一覧(7)	295	第 88 表 縄文時代住居跡出土貝類一覧	308
縄文時代遺構外出土遺物一覧(8)	298	第 89 表 縄文時代住居跡出土陸産貝類一覧	308
縄文時代遺構外出土遺物一覧(9)	299	第 90 表 測定試料および処理	325
第 82 表 弥生時代中期～古墳時代前期遺構外出土遺物一覧	301	第 91 表 放射性炭素年代測定および暦年校正の結果	326
第 83 表 古墳時代遺構外出土遺物一覧	302	第 92 表 遺構別の樹種同定結果	328
第 84 表 中世以降遺構外出土遺物一覧	303	第 93 表 樹種同定結果一覧(1)	332
第 85 表 城山遺跡出土石器集中地点の出土層準別器種組成	305	第 93 表 樹種同定結果一覧(2)	333
第 86 表 城山遺跡出土石器集中地点の出土層準別石質組成	306	第 94 表 分析の各種条件	337
		第 95 表 試料のX線強度	338
		第 96 表 試料の元素濃度	339
		第 97 表 推定された判別群	340

図版目次

図版 1

1. TP 1 北壁(南から) 2. TP 1 西壁(東から)
3. TP 2 北壁(南から) 4. TP 2 東壁(西から)
5. TP 3 北壁(南から) 6. TP 3 西壁(東から)
7. TP 4 北壁(南から) 8. TP 4 西壁(東から)

図版 2

1. TP 5 北壁(南から) 2. TP 5 西壁(東から)
3. TP 6 北壁(南から) 4. TP 6 東壁(西から)
5. TP 7 北壁(南から) 6. TP 7 西壁(東から)
7. TP 8 北壁西側(南から) 8. TP 8 北壁東側(南から)

図版 3

1. TP 8 西壁北側(東から)
2. TP 8 西壁中の南壁(北から)
3. TP 8 西壁南側(東から) 4. TP 8 東壁(西から)
5. TP 9 北壁(南から) 6. TP 9 西壁(東から)
7. TP 10 北壁(南から) 8. TP 10 西壁(東から)

図版 4

1. TP 11 北壁(南から) 2. TP 11 東壁(西から)
3. TP 12 北壁(南から) 4. TP 12 西壁(東から)
5. TP 2 遺物出土状態(北から)
6. TP 2 遺物出土状態(西から)
7. TP 7 遺物出土状態(東から)
8. TP 7 遺物出土状態(北東から)

図版 5

1. TP 8 9号石器集中地点・10号礫群(南から)
2. TP 8 9号石器集中地点・10号礫群(南西から)
3. TP 8 10号礫群(南から)
4. TP 8 10号礫群北側(東から)
5. TP 8 10号礫群東側(東から)

図版 6

1. TP 8 10号礫群南側(南から)
2. TP 8 10号石器集中地点(南から)
3. TP 8 10号石器集中地点(東から)
4. TP 8 11号石器集中地点・11号礫群(南東から)
5. TP 8 11号石器集中地点・11号礫群(東から)

図版 7

1. 4号住居跡(西から) 2. 4号住居跡 掘方(西から)
3. 4号住居跡 竪方(北から)
4. 4号住居跡跡跡燃焼面 5. 5号住居跡(南から)
6. 5号住居跡掘方(南から)
7. 5号住居跡遺物出土状態(西から)
8. 5号住居跡遺物出土状態(南から)

図版 8

1. 6号住居跡(南から)
2. 6号住居跡遺物出土状態(南から)
3. 6号住居跡遺物出土状態(北から)

4. 6号住居跡遺物出土状態（東から）
5. 6号住居跡跡（南から）
6. 6号住居跡焼土（南から）
7. 7号住居跡（南から） 8. 7号住居跡跡（南から）

図版 9

1. 7号住居跡貝・遺物出土状態（南から）
2. 7号住居跡遺物出土状態（南東から）
3. 7号住居跡貝出土状態（南東から）
4. 7号住居跡貝層断面（東から）
5. 8号住居跡（東から）
6. 8号住居跡貝・遺物出土状態（東から）
7. 8号住居跡貝・遺物出土状態（南から）
8. 8号住居跡貝出土状態（東から）

図版 10

1. 8号住居跡貝出土状態（西から）
2. 8号住居跡貝出土状態（西から）
3. 9号住居跡（南東から）
4. 9号住居跡掘方（南東から）
5. 9号住居跡跡（南東から）
6. 9号住居跡遺物出土状態（南東から）
7. 9号住居跡遺物出土状態（南東から）
8. 9号住居跡遺物出土状態（南西から）

図版 11

1. 9号住居跡遺物出土状態（東から）
2. 9号住居跡遺物出土状態（南西から）
3. 9号住居跡 P1 貝出土状態（南東から）
4. 9号住居跡 P2 貝出土状態（南東から）
5. 10号住居跡（西から）
6. 10号住居跡跡（南東から）
7. 11・13号住居跡（西から）
8. 14号住居跡（西から）

図版 12

1. 12号住居跡（西から）
2. 12号住居跡貝出土状態（西から）
3. 12号住居跡遺物出土状態（北から）
4. 12号住居跡遺物出土状態（南から）
5. 6号集石礫出土状態（南から）
6. 6号集石（南から）
7. 7号集石礫出土状態（南西から）

8. 7号集石（南西から）

図版 13

1. 18号炉穴（南から） 2. 19号炉穴（北から）
3. 20号炉穴（南東から） 4. 21号炉穴（北東から）
5. 22号炉穴（北西から） 6. 1086号土坑（南から）
7. 1095号土坑（南から）
8. 1095号土坑遺物出土状態（南から）

図版 14

1. 1096号土坑・1097号土坑（西から）
2. 1103号土坑（東から） 3. 1104号土坑（南から）
4. 1105号土坑（南から） 5. 1107号土坑（北から）
6. 1114号土坑（南から） 7. 1116号土坑（南西から）
8. 1117号土坑（西から）

図版 15

1. 1121号土坑（南から） 2. 1125号土坑（北東から）
3. 1127号土坑（北から） 4. 1128号土坑（東から）
5. 1129号土坑（東から）
6. 1130号土坑・187号ピット（東から）
7. 1131号土坑（北西から）
8. 189号ピット遺物出土状態（南から）

図版 16

1. 8号住居跡（南から） 2. 8号住居跡掘方（南から）
3. 8号住居跡炭化物・遺物出土状態（南から）
4. 8号住居跡炭化物出土状態（北東から）
5. 9号住居跡（南東から） 6. 9号住居跡掘方（南東から）
7. 9号住居跡遺物出土状態（南から）
8. 9号住居跡炭化物出土状態（南東から）

図版 17

1. 10号住居跡（南西から）
2. 10号住居跡掘方（南西から）
3. 10号住居跡跡（南西から）
4. 10号住居跡焼土検出状況（南西から）
5. 10号住居跡貯蔵穴（東から）
6. 10号住居跡遺物出土状態（東から）
7. 10号住居跡遺物出土状態（北西から）
8. 10号住居跡遺物出土状態（北西から）

図版 18

1. 10号住居跡遺物出土状態（南東から）
2. 10号住居跡遺物出土状態（南東から）

3. 10号住居跡遺物出土状態（北西から）
4. 10号住居跡遺物出土状態（北西から）
5. 10号住居跡遺物出土状態（南東から）
6. 10号住居跡遺物出土状態（西から）
7. 10号住居跡遺物出土状態（北から）
8. 10号住居跡遺物出土状態（南から）

図版 19

1. 10号住居跡遺物出土状態（西から）
2. 10号住居跡遺物出土状態（東から）
3. 10号住居跡遺物出土状態（南から）
4. 10号住居跡遺物出土状態（南西から）
5. 10号住居跡炭化物出土状態（南から）
6. 10号住居跡遺物出土状態（北から）
7. 10号住居跡遺物出土状態（北から）
8. 10号住居跡遺物出土状態（東から）

図版 20

1. 11号住居跡（南から）
2. 11号住居跡掘方（南から）
3. 11号住居跡遺物出土状態（南から）
4. 11号住居跡遺物出土状態（東から）
5. 1号方形周溝溝（南から）

図版 21

1. 301号住居跡（南から）
2. 301号住居跡掘方（南から）
3. 301号住居跡遺物出土状態（南から）
4. 301号住居跡遺物出土状態（南から）
5. 301号住居跡カマド（南から）
6. 301号住居跡カマド掘方（南から）
7. 302号住居跡（北西から）
8. 302号住居跡掘方（北西から）

図版 22

1. 302号住居跡遺物出土状態（北西から）
2. 302号住居跡遺物出土状態（東から）
3. 303号住居跡（南西から）
4. 303号住居跡掘方（南西から）
5. 303号住居跡遺物出土状態（南東から）
6. 303号住居跡遺物出土状態（南から）
7. 303号住居跡カマド（南東から）
8. 303号住居跡カマド掘方（南東から）

図版 23

1. 304号住居跡（東から）
2. 304号住居跡焼土・炭化物・遺物出土状態（東から）
3. 304号住居跡焼土・炭化物出土状態（西から）
4. 304号住居跡炭化物出土状態（北から）
5. 304号住居跡炭化物出土状態（東から）
6. 304号住居跡カマド遺物出土状態（南から）
7. 304号住居跡カマド（南から）
8. 304号住居跡カマド掘方（南から）

図版 24

1. 305号住居跡（東から）
2. 305号住居跡掘方（東から）
3. 305号住居跡ローム検出状況（東から）
4. 305号住居跡遺物出土状態（北東から）
5. 305号住居跡カマド（南から）
6. 305号住居跡カマド掘方（南から）
7. 306号住居跡（南から）
8. 306号住居跡掘方（南から）

図版 25

1. 306号住居跡遺物出土状態（南から）
2. 306号住居跡遺物出土状態（南西から）
3. 306号住居跡貯蔵穴遺物出土状態（南から）
4. 306号住居跡カマド遺物出土状態（南から）
5. 306号住居跡カマド（南から）
6. 306号住居跡カマド掘方（南から）
7. 308号住居跡（南から）
8. 308号住居跡掘方（南から）

図版 26

1. 308号住居跡遺物出土状態（南から）
2. 308号住居跡遺物出土状態（東から）
3. 308号住居跡カマド（南から）
4. 308号住居跡カマド掘方（南から）
5. 309号住居跡（南東から）
6. 309号住居跡掘方（南東から）
7. 309号住居跡貯蔵穴遺物出土状態（南から）
8. 309号住居跡遺物出土状態（南から）

図版 27

1. 309号住居跡カマド（南西から）
2. 309号住居跡カマド掘方（南西から）

3. 311 号住居跡 (南から)
4. 311 号住居跡掘方 (南から)
5. 311 号住居跡遺物出土状態 (南から)
6. 311 号住居跡遺物出土状態 (東から)
7. 311 号住居跡遺物出土状態 (西から)
8. 311 号住居跡貯蔵穴遺物出土状態 (南から)

図版 28

1. 311 号住居跡カマド (南から)
2. 311 号住居跡カマド掘方 (南から)
3. 311 号住居跡カマド遺物出土状態 (南から)
4. 311 号住居跡生粘土断面 (南西から)
5. 312 号住居跡 (西から)
6. 312 号住居跡掘方 (西から)
7. 312 号住居跡遺物出土状態 (西から)
8. 312 号住居跡遺物出土状態 (南西から)

図版 29

1. 312 号住居跡貯蔵穴遺物出土状態 (西から)
2. 312 号住居跡カマド遺物出土状態 (南西から)
3. 312 号住居跡カマド (西から)
4. 312 号住居跡カマド掘方 (西から)
5. 313 号住居跡 (南から)
6. 313 号住居跡掘方 (南から)
7. 313 号住居跡遺物出土状態 (南から)
8. 311 号住居跡遺物出土状態 (南東から)

図版 30

1. 313 号住居跡カマド (南から)
2. 313 号住居跡カマド掘方 (南から)
3. 314 号住居跡 (南から)
4. 314 号住居跡掘方 (南から)
5. 314 号住居跡遺物出土状態 (南から)
6. 314 号住居跡遺物出土状態 (南から)
7. 314 号住居跡遺物出土状態 (西から)
8. 314 号住居跡カマド遺物出土状態 (南西から)

図版 31

1. 314 号住居跡カマド (南から)
2. 314 号住居跡カマド掘方 (南から)
3. 315 号住居跡 (南から)
4. 315 号住居跡遺物出土状態 (南から)
5. 315 号住居跡遺物出土状態 (西から)

図版 32

1. 315 号住居跡遺物出土状態 (南から)
2. 315 号住居跡遺物出土状態 (東から)
3. 315 号住居跡貯蔵穴遺物出土状態 (南から)
4. 315 号住居跡貯蔵穴遺物出土状態 (南から)
5. 315 号住居跡カマド (南から)
6. 315 号住居跡カマド掘方 (南から)
7. 315 号住居跡カマド遺物出土状態 (南から)
8. 315 号住居跡生粘土断面 (東から)

図版 33

1. 316 号住居跡 (南から)
2. 316 号住居跡掘方 (南から)
3. 316 号住居跡遺物出土状態 (東から)
4. 316 号住居跡遺物出土状態 (北から)
5. 317 号住居跡 (南から)
6. 317 号住居跡掘方 (南から)
7. 317 号住居跡遺物出土状態 (北から)
8. 317 号住居跡伊跡 A・伊跡 B (南から)

図版 34

1. 317 号住居跡カマド A (南から)
2. 317 号住居跡カマド A 掘方 (南から)
3. 317 号住居跡カマド B (西から)
4. 317 号住居跡カマド B 掘方 (西から)
5. 318 号住居跡 (北から)
6. 318 号住居跡掘方 (北東から)
7. 318 号住居跡遺物出土状態 (北東から)
8. 318 号住居跡遺物出土状態 (東から)

図版 35

1. 319 号住居跡 (南東から)
2. 319 号住居跡掘方 (南東から)
3. 319 号住居跡遺物出土状態 (南東から)
4. 319 号住居跡遺物出土状態 (北東から)
5. 319 号住居跡生粘土・遺物出土状態 (北東から)
6. 319 号住居跡遺物出土状態 (東から)
7. 319 号住居跡カマド (南東から)
8. 319 号住居跡カマド掘方 (南東から)

図版 36

1. 320 号住居跡 (南から)
2. 320 号住居跡粘土・山砂・遺物出土状態 (南から)

3. 320号住居跡粘土・遺物出土状態(南から)
4. 320号住居跡生粘土断面(南西から)
5. 321号住居跡(南から)
6. 321号住居跡貯蔵穴遺物出土状態(南から)
7. 321号住居跡カマド(南から)
8. 321号住居跡カマド掘方(南から)

図版 37

1. 300号住居跡(南から)
2. 300号住居跡掘方(南から)
3. 300号住居跡遺物出土状態(南から)
4. 300号住居跡遺物出土状態(西から)
5. 307号住居跡(南から)
6. 307号住居跡掘方(南から)
7. 307号住居跡遺物出土状態(南から)
8. 307号住居跡遺物出土状態(東から)

図版 38

1. 307号住居跡硬化ローム検出状況(南から)
2. 307号住居跡P1断面(南から)
3. 307号住居跡カマド(南から)
4. 307号住居跡カマド掘方(南から)
5. 310号住居跡(南から)
6. 310号住居跡カマド遺物出土状態(北から)
7. 310号住居跡カマド(西から)
8. 310号住居跡カマド掘方(西から)

図版 39

1. 68号溝跡C・Dグリッド(東から)
2. 68号溝跡Eグリッド(東から)
3. 68号溝跡Fグリッド(東から)
4. 68号溝跡H～Kグリッド(西から)
5. 69号溝跡D・Eグリッド(東から)
6. 69号溝跡F～Kグリッド(西から)
7. 3号道路状遺構B～Fグリッド(東から)
8. 3号道路状遺構G～Kグリッド(西から)

図版 40

1. 1090号土坑硬化面検出状況(南から)
2. 1090号土坑(南から)
3. 1092号土坑(南から)
4. 1109～1113号土坑・145号ピット(南から)
5. 1077号土坑(南から)
6. 1078号土坑(西から)
7. 1084号土坑(南から)
8. 1089号土坑(南から)

図版 41

1. 1098号土坑(南から)
2. 1075・1079・1080・1081号土坑(南から)
3. 1076号土坑(東から)
4. 1083号土坑(北から)
5. 1085号土坑(南から)
6. 1087号土坑(南から)
7. 1088号土坑(西から)
8. 1091号土坑(南から)

図版 42

1. 1093号土坑(南から)
2. 1118号土坑(南から)
3. 1120号土坑(東から)
4. 1124号土坑(東から)
5. 1126号土坑(西から)
6. 1074号土坑(南東から)
7. 1122号土坑(東から)
8. 1082号土坑(北から)

図版 43

1. 1094号土坑(北から)
2. 1099号土坑(南から)
3. 1100号土坑焼土検出状況(東から)
4. 1100号土坑(東から)
5. 1101号土坑焼土検出状況(南から)
6. 1101号土坑(南から)
7. 1102号土坑(南から)
8. 1106号土坑・141号ピット(南から)

図版 44

1. 1108号土坑(南から)
2. 1115号土坑(南西から)
3. 1123号土坑(東から)
4. 1073号土坑検出状況(南から)
5. 1073号土坑骨・焼土・炭化物出土状態(南から)
6. 1073号土坑骨・焼土・炭化物出土状態(南から)
7. 1073号土坑骨・焼土・炭化物出土状態(南から)
8. 1073号土坑焼土・炭化物出土状態(南から)

図版 45

1. 1073号土坑焼土検出状況(南から)
2. 1073号土坑(南から)
3. 1119号土坑検出状況(南から)
4. 1119号土坑骨・焼土・炭化物出土状態(南から)
5. 1119号土坑骨・炭化物出土状態(南から)
6. 1119号土坑(南から)
7. 縄文時代遺構外遺物(168)出土状態(北東から)
8. 弥生時代中期～古墳時代前期
遺構外遺物(5)出土状態(東から)

図版 46

- 9号石器集中地点出土遺物1

図版 47

9号石器集中地点出土遺物 2

図版 48

9号石器集中地点出土遺物 3

図版 49

1. 9号石器集中地点出土遺物 4

2. 10号石器集中地点出土遺物 1

図版 50

10号石器集中地点出土遺物 2

図版 51

1. 10号石器集中地点出土遺物 3

2. 11号石器集中地点出土遺物 1

図版 52

11号石器集中地点出土遺物 2

図版 53

1. 旧石器時代遺構外出土遺物

2. 4号住居跡出土遺物

3. 5号住居跡出土遺物

図版 54

1. 6号住居跡出土遺物 2. 7号住居跡出土遺物

図版 55

1. 8号住居跡出土遺物 2. 9号住居跡出土遺物 1

図版 56

9号住居跡出土遺物 2

図版 57

1. 10号住居跡出土遺物

2. 11・13・14号住居跡出土遺物

図版 58

1. 12号住居跡出土遺物 2. 6号集石出土遺物

3. 炉穴出土遺物

図版 59

1. 1095号土坑出土遺物 2. 1096号土坑出土遺物

3. 1097号土坑出土遺物 4. 1121号土坑出土遺物

5. 1125号土坑出土遺物 6. 1127号土坑出土遺物

7. 1131号土坑出土遺物 8. 189号ピット出土遺物

図版 60

1. 8号住居跡出土遺物 2. 9号住居跡出土遺物

3. 10号住居跡出土遺物 1

図版 61

10号住居跡出土遺物 2

図版 62

10号住居跡出土遺物 3

図版 63

10号住居跡出土遺物 4

図版 64

1. 11号住居跡出土遺物 2. 301号住居跡出土遺物

図版 65

303号住居跡出土遺物

図版 66

304号住居跡出土遺物 1

図版 67

304号住居跡出土遺物 2

図版 68

1. 305号住居跡出土遺物 2. 306号住居跡出土遺物 1

図版 69

306号住居跡出土遺物 2

図版 70

306号住居跡出土遺物 3

図版 71

1. 308号住居跡出土遺物 2. 309号住居跡出土遺物

図版 72

311号住居跡出土遺物 1

図版 73

311号住居跡出土遺物 2

図版 74

311号住居跡出土遺物 3

図版 75

1. 312号住居跡出土遺物 2. 313号住居跡出土遺物 1

図版 76

313号住居跡出土遺物 2

図版 77

313号住居跡出土遺物 3

図版 78

314号住居跡出土遺物 1

図版 79

1. 314号住居跡出土遺物 2

2. 315号住居跡出土遺物 1

図版 80

315 号住居跡出土遺物 2

図版 81

315 号住居跡出土遺物 3

図版 82

315 号住居跡出土遺物 4

図版 83

1. 316 号住居跡出土遺物 2. 317 号住居跡出土遺物

2. 318 号住居跡出土遺物

図版 84

319 号住居跡出土遺物

図版 85

1. 320 号住居跡出土遺物 2. 321 号住居跡出土遺物 1

図版 86

321 号住居跡出土遺物 2

図版 87

321 号住居跡出土遺物 3

図版 88

321 号住居跡出土遺物 4

図版 89

321 号住居跡出土遺物 5

図版 90

321 号住居跡出土遺物 6

図版 91

321 号住居跡出土遺物 7

図版 92

321 号住居跡出土遺物 8

図版 93

1. 300 号住居跡出土遺物 2. 307 号住居跡出土遺物

3. 310 号住居跡出土遺物

図版 94

1. 68 号溝跡出土遺物 2. 69 号溝跡出土遺物

3. 中世以降の土坑出土遺物

図版 95

縄文時代遺構外出土遺物 1

図版 96

縄文時代遺構外出土遺物 2

図版 97

縄文時代遺構外出土遺物 3

図版 98

縄文時代遺構外出土遺物 4

図版 99

縄文時代遺構外出土遺物 5

図版 100

縄文時代遺構外出土遺物 6

図版 101

1. 弥生時代中期～古墳時代前期遺構外出土遺物

2. 古墳時代後期遺構外出土遺物

図版 102

1. 中世以降遺構外出土遺物

2. 城山遺跡第 96 地点出土貝類

図版 103

城山遺跡第 96 地点出土貝類・魚歯・魚骨

図版 104

城山遺跡第 96 地点出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真 1

図版 105

城山遺跡第 96 地点出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真 2

図版 106

城山遺跡第 96 地点出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真 3

第1章 遺跡の立地と環境

第1節 市域の地形と遺跡

(1) 地理的環境と遺跡分布

志木市は、埼玉県の南西部に位置し、市域はおおよそ南北4.71km、東西4.73kmの広がりを持ち、面積は9.05km²(註1)、人口約7万5千人の自然と文化の調和する都市である。

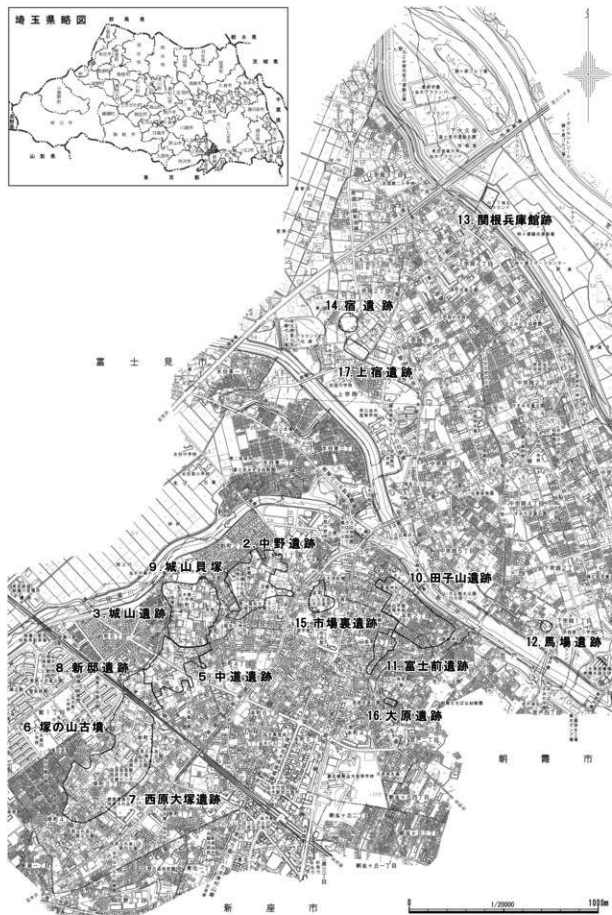
地理的景観を眺めて見ると、市域東部の宗岡地区は、荒川(旧入間川)の形成した沖積低地が広がり、市域西部の本町・柏町・幸町地区は、古多摩川によって形成された武蔵野台地の上にある。また、市内には東部に荒川、中央に古くは舟運で利用された新河岸川、そして西部から中央に新河岸川と合流する柳瀬川の3本の川が流れている。

こうした自然環境の中で、市内遺跡の大部分は、柳瀬川・新河岸川右岸流域の台地縁辺部に帯状に分布している。遺跡は柳瀬川上流から順に、西原大塚遺跡(7)、新邸遺跡(8)、中道遺跡(5)、城山遺跡(3)、中野遺跡(2)、市場裏遺跡(15)、田子山遺跡(10)、富士前遺跡(11)、大原遺跡(16)と名付けられている。また、荒川・新河岸川が形成した沖積低地でも、馬場遺跡(12)、宿遺跡(14)、関根兵庫館跡(13)が認められる。最新では、平成30年12月、新たに新河岸川左岸流域で上宿遺跡(17)

No	遺跡名	遺跡の規模	地目	遺跡の種類	遺跡の時代	主な遺構	主な遺物
2	中野	67.620 m ²	畑・宅地	集落跡	旧石器、縄(早～晩)、弥(後)、古(前～後)、平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、井戸跡、溝跡等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器等
3	城山	82.100 m ²	畑・宅地	城跡跡・集落跡	旧石器、縄(草創～晩)、弥(後)、古(前～後)、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、土坑墓、地下室、井戸跡、溝跡、柏城跡関連、跡造関連等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、土師質土器、古銭、跡造関連遺物等
5	中道	54.420 m ²	畑・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、縄(早～晩)、弥(後)、古(前～後)、平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、土坑墓、地下式坑、溝跡、道路状遺構等	石器、縄文土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭、人骨等
6	塚の山古墳	800 m ²	林	古墳?	古墳?	古墳?	なし
7	西原大塚	164.960 m ²	畑・宅地	集落跡・墓跡	旧石器、縄(前～晩)、弥(後)、古(前～後)、奈・平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、井戸跡、溝跡等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭等
8	新邸	20.080 m ²	畑・宅地	貝塚・集落跡・墓跡	縄(早～中)、古(前～後)、中・近世、近代	貝塚、住居跡、土坑、方形周溝墓、井戸跡、溝跡、段切状遺構、ピット群等	石器、貝、縄文・弥生土器、土師器、陶磁器、古銭等
9	城山貝塚	900 m ²	林	貝塚	縄(前)	斜面貝塚	石器、縄文土器、貝
10	田子山	74.030 m ²	畑・宅地	集落跡・墓跡	縄(草創～晩)、弥(後)、古(後)、奈・平、中・近世、近代	住居跡、土坑、方形・円形周溝墓、ローマ採掘遺構、溝跡等	縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、炭化種子等
11	富士前	14.830 m ²	宅地	集落跡	縄文、弥(後)～古(前)、平安、近世以降	住居跡、土坑?、溝跡?	弥生土器、土師器
12	馬場	2.800 m ²	畑	集落跡	古(前)	住居跡?	土師器
13	関根兵庫館跡	4.900 m ²	グラウンド	館跡	中世	不明	なし
14	宿	7.700 m ²	水田	館跡	中世	溝跡、井桁状構造物	木・石製品
15	市場裏	13.800 m ²	宅地	集落跡・墓跡	弥(後)～古(前)、中世以降	住居跡、方形周溝墓、土坑	弥生土器、土師器、土師質土器
16	大原	1.700 m ²	宅地	不明	近世以降?	溝跡	なし
17	上宿	8.600 m ²	水田・宅地	集落跡	平安、中・近世	住居跡、溝跡	土師器、須恵器
合計		519.240 m ²					

令和2年12月28日現在

第1表 志木市埋蔵文化財包蔵地一覧



第1図 市域の地形と遺跡分布 (1/20,000)

令和2年12月28日現在

が発見され、自然堤防上に位置する遺跡の存在も明らかにされつつある。なお、現在市内の遺跡総数は、前述した13遺跡に塚の山古墳(6)、城山貝塚(9)を加えた15遺跡である(第1図・第1表)。

(2) 歴史的環境

次に市内の遺跡を時代順に概観してみることにする。

1. 旧石器時代

旧石器時代の遺跡は、柳瀬川右岸の中野・城山・中道・西原大塚遺跡で確認されている。

中道遺跡では、昭和62(1987)年の富士見・大原線(現ユリノキ通り)の工事に伴う発掘調査により、立川ローム層のⅣ層上部・Ⅵ層・Ⅶ層で文化層が確認されており、礫群、石器集中地点が検出されている。これにより、黒曜石製のスクレイパーやナイフ形石器、安山岩や凝灰岩の石核や剥片などが発見されている。

西原大塚遺跡では、西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査により、石器集中地点が検出されている。石器集中地点は、平成6(1994)年度には2か所、平成7年(1995)度には1か所が検出され、ナイフ形石器・剥片などが発見されている。最新では、令和元(2019)年に第224地点で立川ローム層の第Ⅳ層下部～第Ⅴ層上部・第Ⅶ層から石器集中地点と礫群が検出されている。

平成11～14(1999～2002)年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第49地点では、立川ローム層の第Ⅳ層下部から、黒曜石・頁岩の石核・剥片が約60点出土している。平成27(2016)年に発掘調査された中野遺跡第91㊸地点からは、礫群1基が検出された。

また、城山遺跡では、平成13(2001)年に発掘調査が実施された第42地点から、立川ローム層の第Ⅳ層上部と第Ⅶ層の2か所で石器集中地点が検出されている。平成20・21年に発掘調査が実施された第62地点(道路・駐車場部分)でも1か所の石器集中地点が検出され、ナイフ形石器・剥片が出土している。平成23(2011)年に発掘調査が実施された第71地点では、立川ローム層の第Ⅳ層下部～第Ⅴ層上部で石器集中地点2か所、礫群9基が検出された。令和元(2019)年には第96地点で立川ローム層の第Ⅳ層下部～第Ⅴ層上部・第Ⅶ層で石器集中地点と礫群が検出されている。

2. 縄文時代

縄文時代では、西原大塚遺跡を中心に中期後葉の遺跡が集中し、城山貝塚の周辺の城山遺跡からは、前期末葉(諸磯式期)の住居跡や土器がやや多く検出される傾向にある。

ここでは、時代の推移に従って説明することにする。まず、草創期では、平成4(1992)年に発掘調査が実施された城山遺跡第16地点から爪形文系土器1点、平成6(1994)年に発掘調査が実施された城山第21地点から多縄文系土器3点、第22地点から爪形文系土器1点、平成10(1998)年に発掘調査が実施された田子山遺跡第51地点から有茎尖頭器1点が出土している。

早期では、遺構の検出例はまだ少ないが、住居跡として、平成18(2006)年に発掘調査が実施された中道遺跡第65地点で検出された早期末葉(条痕文系)の10号住居跡1軒が最古のものと言える。土器としては、田子山遺跡で撚糸文・沈線文・条痕文系土器が出土しているが、御嶽神社を中心とする東側でやや多く出土する傾向がある。最新資料では、平成23(2011)年に発掘調査が実施された田子山遺跡第121地点のローム上層の遺物包含層から撚糸文系土器・石器がまとめて出土している。また、城山・中野・田子山遺跡からは、条痕文系土器が炬穴に伴い出土している。

前期では、西原大塚遺跡・新邸遺跡で住居跡（黒浜式期）、城山遺跡では住居跡（諸磯式期）が検出されている。そのうち、新邸遺跡・城山遺跡のものは貝層をもつ住居跡である。平成2年度に市指定文化財に認定された城山貝塚も縄文海進期にあたるこの頃の時代に形成された斜面貝塚と考えられる。

中期になると遺跡が最も増加する。特に、中期中葉から後葉の勝坂式～加曾利E式期にはその傾向が強くなり、中野・城山・中道・西原大塚・田子山遺跡で住居跡を中心に土坑が検出されている。特に西原大塚遺跡では、現時点で180軒以上の住居跡が環状に配置していることが判明しつつある。中期末葉からは遺跡が減少し、現在のところ西原大塚遺跡から敷石をもつ住居跡1軒が確認されているが、平成27（2016）年に発掘調査された中道遺跡第76地点からは、加曾利EⅣ式の両耳壺を出土する住居跡1軒が検出された。

後期では、西原大塚遺跡から堀之内式期の住居跡1軒と加曾利B式期の住居跡1軒、遺物集中地点1か所、平成25（2013）年度に発掘調査が実施された中野遺跡第85地点からは、称名寺式期の市内初の柄鏡形住居（敷石住居）1軒が検出されている。また、その他の遺構としては、平成6（1994）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点で、土坑1基が検出され、称名寺式期の土器が出土している。最新資料として、平成26（2015）年に発掘調査された西原大塚遺跡第204地点や平成27・28（2016・2017）年に発掘調査された中野遺跡第91地点から、包含層出土遺物として、縄文時代後期（称名寺式～堀之内式期）の遺物が比較的まとまって出土している。

晩期では、中野・田子山遺跡から安行ⅢC式・千網式の土器片が少量発見されるにとどまり、以降市内では弥生時代後期まで空白の時代となる。

3. 弥生時代～古墳時代前期

弥生時代では、前期の遺跡は検出されていないが、中期については、令和元（2019）年に発掘調査された城山遺跡第96地点で、市内初となる宮ノ台式期の住居跡1軒、方形周溝墓1基が検出された。住居跡からは、壺、甕、高坏、挟入柱状片刃石斧、扁平片刃石斧、石包丁が良好な状態で出土している。後期から古墳時代前期と考えられる遺跡は数多く検出されている。中でも、平成27（2016）年に発掘調査された中野遺跡第91地点からは、弥生時代後期前葉に比定される久ヶ原式土器を出土する住居跡が発見されている。平成6（1994）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点の21号住居跡は後期中葉に比定される可能性があり、その住居跡からは、多数の土器をはじめ、大量の炭化種子（イネ・アワ・ダイズなど）、炭化材が出土し、当時の食糧事情を考える上で重要である。富士前遺跡では、『志木市史』にも掲載されているが、不時の発見に伴い、籠目痕をもつ壺形土器をはじめとした多くの土器が発見されている。

西原大塚遺跡では後期末葉から古墳時代前期にかけての住居跡が約600軒確認されており、市内最大の集落跡であることが判明している。特に、122号住居跡からは全国的にも稀な「イヌ」を象ったと思われる動物形土製品が出土している。平成24（2012）年に発掘調査が実施された第179地点からは、遺存状態は良好ではないが、市内初の銅剣が出土している。

昭和62（1987）年以降、西原大塚・田子山・市場裏遺跡の3遺跡において、方形周溝墓が検出されてきたが、最新では、平成15（2003）年に発掘調査が実施された新邸遺跡第8地点と平成18（2006）年に実施された中道遺跡第65地点でも、それぞれ1基が確認されている。これにより当時の墓域が、集落と単位的なまとまりをもって存在することが明らかになってきたと言えるであろう。

市内で最も多く方形周溝墓が検出されている西原大塚遺跡では、10号方形周溝墓の溝底から一括出土した中に畿内系の庄内式の長脚高坏が出土していることが注目される。また、平成11(1999)年に発掘調査が実施された西原大塚遺跡第45地点では、一辺20mを超える市内最大規模の17号方形周溝墓が発見され、この方形周溝墓の溝からは、珍しい鳥形土製品をはじめ、畿内系の有段口縁壺、吉ヶ谷式系の壺、在地系の壺などと大きく畿内・比企地域・在地の3要素の特徴を示す壺が出土している。なお、鳥形土製品1と壺形土器4点の計5点は、考古資料として市指定文化財に指定されている。こうした地域に関わる被葬者の人物像が浮き彫りにされたことで、当地域の弥生時代後期から古墳時代前期の歴史を紐解く手がかりになったことは重要である。

4. 古墳時代中・後期

古墳時代でも前期末葉から中期になると、遺跡が減少する傾向にある。その中で、西原大塚遺跡に隣接する新邸遺跡で検出されている第2地点の1号住居跡と平成15(2003)年に発掘調査が実施された第8地点の2～8号住居跡は、古墳時代前期でも比較的新しい段階に比定される可能性がある。このことから、新邸遺跡で検出された住居跡は、隣接する西原大塚遺跡から継続して広がった集落跡ではないかと推測される。

中期の遺跡では、中道・城山・中野遺跡から住居跡が発見されている。その中でも、平成7(1995)年に発掘調査が実施された中道遺跡第37地点19号住居跡は、5世紀中葉に比定され、カマドをもつ住居跡としては市内最古のものである。

5世紀末葉になると、遺跡が増加傾向にあり、特に6世紀後半から7世紀後半にかけては、縄文中期を越えるほどの爆発的な増加をみる。こうした集落跡は現在、中道・城山・中野遺跡に比較的古い5世紀代の住居跡が確認されていることから、柏町地区を中心に存在した集落が、6世紀後半以降、周辺地域に拡散するという動きを読み取ることができる。

なお、新邸遺跡では第8地点で初めて古墳時代後期(7世紀中葉)の住居跡が1軒検出されている。この住居跡は、3×3.5mの小型の長方形を呈するもので、焼失住居であり、床面上からは土器・炭化材の他ベンガラ塊が出土している。

現在、5世紀後半から7世紀後半にかけての時期に比定できる住居跡の軒数は、最も多い城山遺跡で約230軒、次いで中野遺跡で約55軒、中道遺跡と田子山遺跡で16軒ずつ、新邸遺跡で1軒を数える。

また住居跡以外では、平成5(1993)年に発掘調査が実施された田子山遺跡第24地点から、6世紀後半以降のものと考えられる4.1×4.7mの不整形円で2か所にブリッジをもつ小型の円形周溝墓が1基確認されている。さらに、平成14(2002)年に発掘調査された田子山遺跡第81地点を契機に御嶽神社を取り囲むように外周で推定約33mの巨大な溝跡の存在が明らかになり、現時点では古墳の周溝ではないかと考えられ、今後この一帯での古墳の発見が期待されている。

5. 奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺跡は、古墳時代後期以降に拡散した集落内で確認される傾向にあり、現在のところ、中野・城山・中道・西原大塚・田子山遺跡で検出されている。中でも城山・田子山遺跡はこの時代を代表とする遺跡として挙げることができる。城山遺跡では、平成8(1996)年に発掘調査が実施された第35地点の128号住居跡から、印面に「富」1文字が書かれた完形品の銅印が出土しているが、

これは県内でも稀少な例として貴重な資料であろう。この住居跡からはその他、須恵器環や猿投産の緑釉陶器の小破片1点、布目瓦の小破片2点などが出土している。平成20・21(2008・2009)年の城山遺跡第62地点の調査では、平安時代の241号住居跡から皇朝十二銭の一つである富壽神寶ふじゆじんほうが2枚とその近くからは鉄鎌1点と土錘1点が出土しており、祭祀行為が行われたと考えられる貴重な例として、県内でも重要な発見につながっている。

田子山遺跡では、平成5(1993)年に発掘調査が実施された第24地点からは、住居跡の他、掘立柱建築遺構・溝跡そして100基を越える土坑群が検出されている。平成6(1994)年に発掘調査が実施された第31地点の44号住居跡からは、腰帯の一部である銅製の丸鞆が出土している。さらにカマド右横の床面上からは、東金子窯跡群(入間市)の製品と南比企窯跡群(鳩山町)の製品という生産地の異なる須恵器環が共伴して出土したことにより、土器編年の基本資料として貴重であると言える。

なお、以上のうち、城山遺跡128号住居跡出土の銅印ほか9点の遺物と城山遺跡第241号住居跡出土の富壽神寶ほか2点の遺物は、考古資料として、平成25年3月1日付けで、市指定文化財に指定されている。

6. 中・近世

中・近世の遺跡は、「柏の城」を有する城山遺跡と千手堂関連である新邸・中道遺跡、そして関根兵庫館跡・宿遺跡が代表される遺跡と言える。城山遺跡では、数次にわたる発掘調査により、『館村日記』(註2)にある「柏之城落城後の屋敷割の図」に相当する堀跡などが多数発見されている。近年では、『廻国雑記』(註3)に登場する「大石信濃守館」が「柏の城」に相当し、「大塚十五坊」についても市内の「大塚」に由来があるという説が有力と言えるであろう(神山 1988・2002)。

また、平成7(1995)年に発掘調査が実施された第29地点の127号土坑からは、馬の骨が検出されている。この土坑からは、板碑と土師質土器の他、炭化種子(イネ・オオムギ・コムギなど)も出土しており、イネの塊状のものは「おにぎり」あるいは「ちまき」のようなものであるという分析結果が報告されている。

さらに、平成8(1996)年度に発掘調査が実施された第35地点から、鑄造関連の遺構が検出されている。130号土坑については鑄造遺構、134号土坑については溶解炉に該当し、遺物としては、大量の鉄滓(スラッグ)、鑄型、三叉状土製品、砥石などが出土している。最新資料では、平成27・28(2015・2016)年に発掘調査された第89地点の調査により、第35地点の鑄造関連の捨て場が明らかになった。この調査により、鍋本体の大型鑄型、鍋の耳部分の小型鑄型、三叉状・四叉状土製品・トリベ・砥石などの道具類や鉄滓(スラッグ)などの大量の遺物が斜面に流れ込むように出土した。

平成13(2001)年度の第42地点からは、多くの土坑・地下室・井戸跡が検出される中、234号土坑から、鉄鍋の完形品が出土したことは特筆すべきである。この鉄鍋は、土坑の坑底面に伏せてある状況で出土しており、「鍋被り葬」と呼ばれる風習が志木市でも実在していた可能性が高い。

戦国期の資料としては、平成6(1994)年度に発掘調査が実施された第21地点から、当市では初めて、鎧よろいの札すだである鉄製品1点と鉄鎌1点が出土している。出土した遺構は、19世紀前半の86号土坑であるため混入品となるが、「柏の城」に関連する資料として大変重要な資料に加わったと言える。

平成11～14(1999～2002)年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第49地点からは、段切状遺構の坑底面から頭を北に向け横臥屈葬された人骨を出土した67号土坑、その他、ピット列・土

坑・井戸跡・溝跡などが検出された。その後、平成 27（2015）年度に第 49 地点の北側に隣接する第 95 地点の調査が実施され、段切状遺構の坑底面より、新たな土坑 45 基・井戸跡 2 基・溝跡 1 本・ピット 231 本などが検出された。特に、土坑のうち、市内で初めて「T 字形」の火葬土坑 5 基が検出されたことは特筆すべきである。こうした墓域的な様相が僅かながら判明しつつある中、この一帯が『館村旧記』に記載がある「村中の墓場」関連に相当する遺構ではないかとの見方がある。

中道遺跡では、昭和 62（1987）年の第 2 地点から人骨を伴う地下式坑、掘立柱建築遺構が検出され、平成 7（1995）年の中道遺跡第 37 地点からは、人骨と古銭 5 枚を出土した土坑墓 1 基と 13 世紀に比定される青磁盤 1 点を出土した道路状遺構 1 条が検出されている。

新邸遺跡では、昭和 60（1985）年の第 1 地点から段切状遺構の平場から多数の土坑・地下式坑が検出され、平成 15（2003）年の新邸遺跡第 8 地点からは、人骨と六文銭を伴う火葬墓 2 基が検出されている。おそらく、この新邸遺跡から中道遺跡一帯は、『館村旧記』に記載がある「大塚千手堂」であり、古くは天台宗の「七堂大伽藍」を誇る「松林山観音寺大受院」^{しょうりんざんくわんおんじだいじゆういん} 関連遺構と考えられる。その後、平成 25（2013）年には、第 74 地点の発掘調査が実施され、段切状遺構の平場から多数のピットや溝跡などが検出され、上記を裏付ける追加資料となった。

7. 近代以降

近代以降の遺跡では、平成 5（1993）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第 31 地点から、敷島神社境内に存在する富士塚の築造（明治 2～5 年）に関連するローム探掘遺構が検出されている。この遺構の坑底面からは、鋤・鎌などの無数の工具痕が観察され、探掘作業がかなり組織的な単位で行われていたこともわかり、地域研究の重要な資料と言える。

平成 15（2003）年の新邸遺跡第 8 地点からは、野火止用水跡が検出され、市内初の発掘調査例となった。用水路の基盤面からは水付きの銹着面が確認され、底面からは大量の陶磁器が出土した。

第 2 節 遺跡の概要

城山遺跡は、志木市柏町 3 丁目を中心に広がる遺跡で、東武東上線志木駅の北西約 1.2km、柳瀬川駅の東約 0.8km に位置している。本遺跡は、柳瀬川右岸の台地上に立地しており、標高は約 12 m、低地との比高差は約 5 m である。

遺跡内には住宅や小学校、神社・墓地などが所在しており、閑静な住宅地と言える。近年は、2,000 m²を超えるような大規模な土木工事はないものの、個人住宅や分譲住宅などの小・中規模の土木工事が増加している。平成 22・23 年に分譲住宅建設に伴う第 62 地点、平成 23 年度に共同住宅建設に伴う第 72 地点や分譲住宅建設に伴う第 71 地点が実施されている。近年では、個人住宅建設を中心に僅かに残る緑地や畑地にまで各種開発の波が押し寄せている状況で、本地点の調査により、畑地はほぼ見当たらない状態となったと言える。

本遺跡は、これまでに 100 地点の調査（令和 2 年 12 月 31 日現在）が実施され、旧石器時代、縄文時代草創～晩期、弥生時代後期、古墳時代前・中・後期、奈良・平安時代、中・近世に至る複合遺跡であることが判明している。下記に、これまで検出した遺物・遺構の概要を時代ごとに示す。

旧石器時代では、第42地点で石器集中地点1か所、第63地点で石器集中地点1か所、第71地点で石器集中地点2か所、礫群9か所を検出している。

縄文時代では、草創期の遺物として第16・22地点から爪形文系土器2点、第21地点から多縄文系土器3点が出土している。前期では、市史編さん事業に伴い発掘調査を実施したA地点で諸磯式期の住居跡1軒、第46地点から前期末葉の住居跡1軒、第59地点から諸磯式期の住居跡1軒が検出されている。また、遺跡内には、当該期の斜面貝塚として知られる市指定文化財「城山貝塚」が所在する。中期では、第4地点から加曾利EⅡ式期の住居跡1軒を検出している。

弥生時代では、第71地点で後期の住居跡2軒、第76地点で後期の住居跡2軒が検出されている。

古墳時代では、遺跡全体から中・後期の住居跡200軒以上が検出されており、大集落が形成されていたことが判明している。特に、第1地点では53軒、第42地点では16軒、第58・60地点では52軒と、当該期の住居跡が濃密に分布している状況が看取できる。

奈良時代では、住居跡の検出はないものの、第42地点1号ピットから偏向唐草文の軒平瓦1点が出土している。

平安時代では、9世紀前半から10世紀にかけての住居跡約30件が検出されている。特に、第35地点128号住居跡出土の印面に「富」と記された銅印と、第62地点241号住居跡出土の富壽神寶2点・鉄鐘1点・土錘1点は、それぞれ市指定文化財となっている。

中・近世では、「柏の城」関連の大堀を含めた溝跡・井戸跡・土坑が多数検出されている。特に、第1地点で検出された上幅12.2m・深さ4.7mを測る1号溝跡、第71地点の59号溝跡などは、市指定文化財「館村旧記」に記された絵図と合わせ、城の縄張りを解明するための基盤となる遺構である。また、第35地点からは鑄造遺構や溶解炉、鉄滓（スラッグ）、鋳型など鋳物師に関連する資料が出土している。

【註】

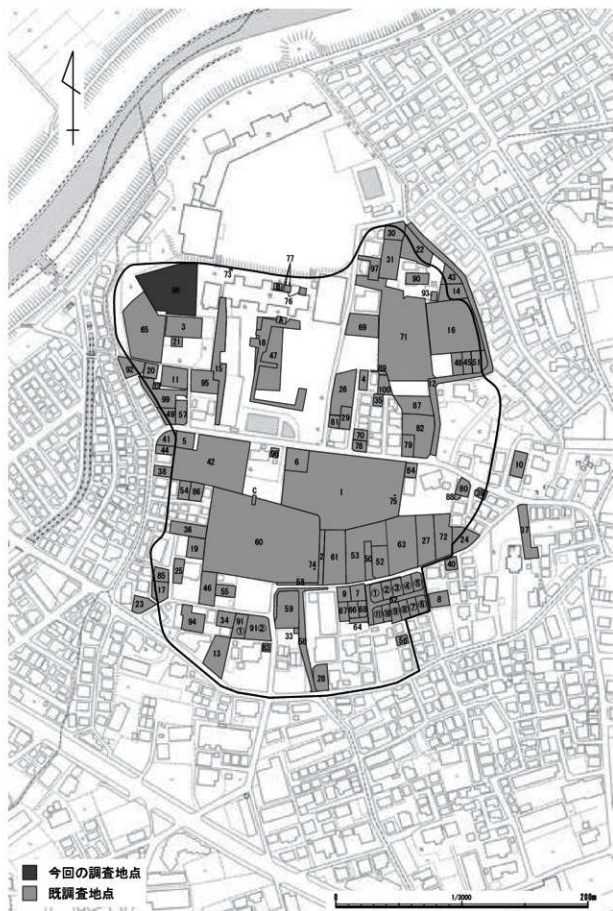
註1 平成26年度「全国都道府県市区町村別面積調」により、9.06㎢から9.05㎢に変更された。

註2 『館村旧記』は、館村（現在の志木市柏町・幸町・館）の名主宮原伸右衛門仲恒が、享保12～14（1727～1729）年にかけて執筆したものである。

註3 『廻回雑記』は、左大臣近衛房嗣の子で、京都聖護院門跡をつとめた道興准后が、文明18年（1486）6月から10ヶ月間、北陸路から関東各地をめぐる、駿河甲斐にも足をのぼし、奥州松島までの旅を紀行文にまとめたものである。

【引用文献】

- 神山健吉 1988 「廻回雑記」に現れる 大石信濃守の館と十五坊の所在についての一考察『郷土志木』第7号
2002 「道興をめぐる二つの誤説を糾す」『郷土志木』第31号



第2図 城山遺跡の調査地点（1／3,000）

調査地点	面積 (㎡)	確認調査日	発掘調査期間	調査内容	遺 跡 の 概 要	報告書№
A地点	90.00	—	昭和49年7月29日 ～9月4日	学術調査	(縄文前期)住居跡1軒(弥生前期)住居跡1軒(中世)溝跡1本	1984『志木市史 遺跡・古代編』
C地点	30.00	—	昭和55年7月20日 ～8月21日	学術調査	(中世)柏城大堀跡	1984『志木市史 遺跡・古代編』
B地点	50.00	—	昭和57年3月25日 ～3月31日	学術調査	(古墳後期)住居跡2軒(中世)溝跡1本	1984『志木市史 遺跡・古代編』
第1・2地点	4,964.39	—	昭和60年4月8日 ～11月26日	共同住宅建設	(古墳前期)住居跡1軒(古墳後期)住居跡53軒(奈良-平安)住居跡6軒(中・近世)土坑31基・溝跡5本・井戸跡9基・ピット	№5
第3地点	300.00	—	昭和61年7月16日 ～9月27日	学術調査	(古墳前期)住居跡1軒(古墳後期)住居跡3軒(中・近世)土坑16基・溝跡2本	№7
第4地点	98.28	—	昭和62年6月19日 ～7月1日	個人住宅建設	(縄文中期)埋葬1基(弥生前期)住居跡1軒(平安)土坑2基(中世)土坑1基(不明)土坑1基	№8
第5地点	125.00	昭和63年6月10日	—	共同住宅建設	検出されなかった	№9
第6地点	166.08	—	昭和62年12月12日 ～27日	共同住宅建設	(古墳後期)住居跡2軒・土坑1基(中・近世)土坑7基	№10
第7地点	130.00	平成元年11月17日	平成元年11月20日 ～12月2日	宅地造成	(古墳後期)住居跡1軒(平安)住居跡1軒	№11
第8地点	132.13	平成元年11月23日	—	共同住宅建設	検出されなかった	№11
第9地点	115.71	平成元年12月4日	平成元年12月5日 ～28日	宅地造成	(古墳後期)住居跡6軒(中・近世)土坑5基	№11
第10地点	330.49	平成2年3月16日	—	共同住宅建設	検出されなかった	№11
第11地点	192.00	平成2年4月6日	平成2年4月7日 ～20日	個人住宅建設	(縄文早期)炉穴2基(縄文前期)土坑1基(縄文中期)住居跡1軒・土坑2基(古墳前期)住居跡1軒(古墳後期)住居跡2軒(平安)住居跡1軒(中・近世)土坑3基・井戸跡1基	№12
第12地点	1,074.00	平成2年4月19日 ～24日	平成2年4月25日 ～5月22日	道路改良工事	(中・近世)土坑2基・溝跡4基・井戸跡1基	№17
第13地点	400.44	平成2年5月7日	平成2年5月8日 ～17日	共同住宅建設	(古墳後期)住居跡1軒	№17
第14地点	181.90	平成4年5月1日	—	個人住宅建設	検出されなかった	№15
第15地点	560.00	—	平成4年7月21日 ～8月26日	道路工事	(古墳後期)住居跡6軒(中・近世)溝跡2本・土坑1基	№27
第16地点	1,556.00	—	平成4年10月2日 ～12月12日	共同住宅建設	(縄文)遺物(弥生)集石1基(古墳後期)住居跡1軒(中・近世)土坑1基・井戸跡2基・溝跡2本	№27
第17地点	130.56	平成5年3月22日	—	個人住宅建設	検出されなかった	№15
第18地点	115.45	平成5年6月3日	平成5年6月3日 ～7月29日	高水流出抑制工事	(縄文)土坑1基(弥生前期)住居跡1軒(古墳後期)住居跡8軒(中・近世)土坑6基・溝跡6本	№44
第19地点	361.93	平成5年10月28日	平成5年11月1日 ～24日	共同住宅建設	(古墳後期)住居跡5軒(不明)土坑1基	№44
第20地点	100.38	平成5年12月24日	平成6年1月13日 ～17日	個人住宅建設	(古墳後期)住居跡1軒(不明)土坑2基	№15
第21地点	48.00	—	平成6年2月18日 ～2月24日	樹木土壌改良	(縄文早期)炉穴1基(古墳後期)住居跡2軒(近世)土坑3基	№44
第22地点	498.13	平成6年3月2日	平成6年3月9日 ～31日	共同住宅建設	(縄文早期)炉穴1基(古墳後期)住居跡1軒	№44
第23地点	157.94	平成6年5月31日	—	個人住宅建設	検出されなかった	№16
第24地点	277.68	平成6年7月6日	—	個人住宅建設	検出されなかった	№16
第25地点	127.38	平成6年7月15日	平成6年7月21日 ～8月1日	個人住宅建設	(古墳中期)住居跡1軒(古墳後期)住居跡1軒(近世)土坑1基・溝跡1本(不明)土坑1基	№16
第26地点	410.00	平成6年8月18日	平成6年8月22日 ～10月21日	共同住宅建設	(縄文)土坑1基(古墳後期)住居跡7軒(平安)住居跡4軒・土坑1基(中・近世)土坑6基・溝跡4本(不明)土坑1基	№59
第27地点	371.52	平成7年1月30日	平成7年2月27日 ～4月10日	共同住宅建設	(古墳後期)住居跡2軒(中・近世)土坑15基・溝跡2本・井戸跡1基	№67
第28地点	233.30	平成6年12月13日	平成7年1月10日 ～2月21日	事務所建設	(縄文)土坑1基(古墳後期)住居跡5軒(不明)土坑1基	№67
第29地点	146.41	平成7年4月5日	平成7年4月11日 ～5月2日	個人住宅建設	(縄文)土坑1基(古墳後期)住居跡2軒(平安)住居跡1軒(中・近世)土坑11基・溝跡1本・ピット跡	№18
第30地点	200.85	平成7年4月24日	—	分譲住宅建設	検出されなかった	№18
第31地点	164.27	平成7年6月6日	—	個人住宅建設	検出されなかった	№18
第32地点	59.62	平成7年11月14日	平成7年11月15日 ～17日	倉庫建設	(中世)ピット1本(不明)土坑1基	№18
第33地点	30.00	平成8年6月12日	—	防火水煙取除	検出されなかった	№20
第34地点	162.00	平成8年7月12日	平成8年7月15日 ～8月3日	個人住宅建設	(古墳後期)住居跡3基(平安)土坑1基	№20
第35地点	84.40	平成8年11月15日	平成8年11月18日 ～12月25日	個人住宅建設	(弥生前期)住居跡1軒(古墳後期)住居跡1軒(平安)住居跡2軒(中・近世)竊盗土坑1基・竊盗炉1基・土坑13基・井戸跡1基・ピット	№20
第36地点	361.18	平成10年4月23日	—	野鳥増進施設	部土保存適用	№21
第37地点	430.00	平成11年11月5日	—	野鳥増進施設	検出されなかった	№24
第38地点	120.38	平成12年7月25日	—	分譲住宅建設	検出されなかった(現地踏査)	№26

第2表 城山遺跡調査一覧(1)

調査地点	面積 (㎡)	確認調査日	発見調査期間	調査原因	遺 構 の 概 要	報告書№
第39地点	94.97	平成12年8月21日	—	個人住宅建設	盛土保存遺構	№26
第40地点	76.32	平成12年12月7日	—	個人住宅建設	検出されなかった	№26
第41地点	140.33	平成12年12月12日	—	個人住宅建設	検出されなかった(現地調査) (旧石器)石礫集中地点2か所(縄文)土坑2基・伊7 (古墳後期)住居跡16軒(平安)住居跡5軒・土坑13 基(中世以降)土坑151基・溝跡4本・井戸跡8基・ピツ ト基	№29
第42地点	2,106.89	平成12年12月18日	平成13年2月23日 ～6月29日	共同住宅建設	検出されなかった	№33
第43地点	117.00	平成13年5月29日	—	分譲住宅建設	検出されなかった	№28
第44地点	132.30	平成13年6月20日	—	分譲住宅建設	検出されなかった(現地調査)	№28
第45地点	100.00	平成15年1月31日	—	個人住宅建設	検出されなかった	№30
第46地点	348.29	平成15年2月18日	平成15年2月28日 ～4月30日	個人住宅建設	(縄文前期)住居跡1軒(古墳中・後期)住居跡5軒(平安) 住居跡1軒、溝跡1本(中世以降)土坑23基・地下室1基・ 井戸跡4基・道路状遺構1本	№38
第47地点	1,200.00	平成15年2月21日	—	仮設校舎建設	検出されなかった(現地調査)	№30
第48地点	100.00	平成15年3月14日	—	個人住宅建設	検出されなかった(現地調査)	№30
第49地点	232.23	平成15年8月26日	平成17年1月11日 ～2月3日	個人住宅建設	(縄文)土坑1基(古墳後期)住居跡2軒(中世以降)土坑 5基・地下室1基・井戸跡1基	№41
第50地点	199.54	平成15年9月5日	—	道路新設工事	工事立会い	№38
第51地点	200.19	平成15年9月16日	—	個人住宅建設	検出されなかった(現地調査)	№38
第52地点	300.42	平成15年10月14日	—	分譲住宅建設	盛土保存遺構	№38
第53地点	771.53	平成15年11月12日	—	宅地造成	盛土保存遺構	№38
第54地点	122.70	平成16年8月11日	—	個人住宅建設	盛土保存遺構	№38
第55地点	115.10	平成16年10月8日	平成16年10月12日 ～12月1日	個人住宅建設	(縄文)土坑2基(古墳後期)住居跡3軒(平安)溝跡1本 (近世)土坑2基	№38
第56地点	80.01	平成17年4月11日	—	個人住宅建設	検出されなかった	№41
第57地点	165.30	平成15年8月26日	平成17年8月29日 ～9月24日	個人住宅建設	(縄文)土坑3基(古墳後期)住居跡2軒(中世以降)土坑 6基・土坑基・地下室1基	№41
第58地点	880.77	平成18年4月18日 ～21日	平成18年6月29日 ～8月28日	道路新設工事	(縄文)土坑3基・伊71基(古墳後期)住居跡20軒(奈良・ 平安)竪立柱礎遺構2棟、溝跡1本(中世以降)土坑72 基・溝跡4本・道路状遺構1基	№43
第59地点	495.94	平成18年4月6日	平成18年4月10日 ～6月22日	個人住宅及び 倉庫建設	(縄文前期)住居跡1軒(古墳後期)住居跡4軒(平安)住 居跡2軒・竪立柱礎遺構2棟(近世)土坑1基	№49
第60地点	5,322.66	平成18年12月20日 ～22日	平成19年2月15日 ～6月12日	福祉施設建設	(縄文)土坑1基、伊73基、竪石3基(古墳後期)住居 跡32軒(奈良・平安)住居跡10軒(中世以降)土坑141基・ 溝跡8本・井戸跡5基	№43
第61地点	710.96	平成19年7月18・19 日	平成19年8月27日 ～10月9日	分譲住宅建設	(縄文)土坑4基(古墳後期)住居跡2軒(平安)住居跡 2軒(中世以降)土坑28基・地下室1基・井戸跡1基・溝 跡2本	№42
第62-1 地点	516.49	平成20年10月29・ 30日	平成20年11月17 日 ～12月26日	分譲住宅建設	(旧石器)石礫ブロック1か所(縄文)土坑3基(古墳中 ・後期)住居跡17軒・土坑1基(平安)住居跡3軒・土坑 2基(中世以降)土坑51基・地下室1基・溝跡2本	№52
第62-2 地点	1,076.95	平成20年12月18・ 19日	平成21年2月2日 ～6月17日	—	—	—
第62①地点	120.80	—	平成22年7月2日 ～7月22日	個人住宅建設	(古墳後期)住居跡1軒・(中世以降)土坑5基	№62
第62②地点	100.20	—	—	分譲住宅建設	盛土保存遺構	№62
第62③地点	100.24	—	平成21年11月4日 ～11月16日	個人住宅建設	(縄文)伊72基(古墳後期)住居跡2軒・(中世以降)土 坑3基	№62
第62④地点	100.23	—	—	分譲住宅建設	盛土保存遺構	№62
第62⑤地点	91.75	—	—	分譲住宅建設	盛土保存遺構	№62
第62⑥地点	112.03	—	平成21年9月3日 ～9月10日	個人住宅建設	(中世以降)土坑3基・溝跡3本	№62
第62⑦地点	116.72	—	平成21年11月9日 ～11月16日	個人住宅建設	(古墳後期)住居跡1軒・(中世以降)土坑2基・溝跡1本	№62
第62⑧地点	119.88	—	平成22年11月17 日 ～11月29日	個人住宅建設	(古墳後期)住居跡1軒・円形溝遺構1基(中世以降)土 坑4基	№62
第62⑨地点	131.20	—	平成22年8月23日 ～8月30日	個人住宅建設	(古墳中・後期)住居跡1軒	№62
第62⑩地点	92.48	—	平成22年6月17日 ～7月23日	個人住宅建設	(古墳後期)住居跡4軒(中世以降)土坑1基	№62
第62⑪地点	91.12	—	平成22年1月22日 ～2月5日	個人住宅建設	(古墳後期)住居跡2軒(中世以降)土坑3基	№62
第63地点	974.89	平成22年1月26・27 日	平成22年3月8日 ～5月7日	共同住宅建設	(旧石器)石礫集中地点3か所(縄文)土坑1基(古墳後 期)住居跡14軒・土坑10基(平安)ピット34本(中世以降) 土坑97基・井戸跡3基・溝跡2本	№50
第64地点	387.11	平成22年1月28日	平成22年2月22日 ～3月30日	分譲住宅建設	(古墳中・後期)住居跡6軒(中世以降)土坑4基	№57
第65地点	1,725.32	—	—	市営墓地内道 路舗装及び給 排水設備工事	検出されなかった	№55

第2表 城山遺跡調査一覧(2)

第1章 遺跡の立地と環境

調査地点	面積(m ²)	確認調査日	発掘調査期間	調査内容	遺 跡 の 概 要	報告書№
第66地点	301.09	—	—	分譲住宅建設	盛土保存適用	№ 62
第67地点	104.06	—	—	分譲住宅建設	盛土保存適用	№ 62
第68地点	101.51	—	—	分譲住宅建設	盛土保存適用	№ 62
第69地点	405.00	平成22年12月6日	—	分譲住宅建設	盛土保存適用	№ 62
第70地点	101.16	平成22年12月6日	—	個人住宅建設	盛土保存適用	№ 62
第71地点	2,858.75	平成23年3月2日 ～9日	平成23年8月8日 ～12月22日	分譲住宅建設	(旧石橋) 榊野2か所(弥生後期～古墳前期)住居跡2軒(古墳)住居跡2基(奈良・平安)住居跡3軒(中世以降)土坑11基・地下室6基・井戸跡5基・溝跡6本・ビート部	№ 58
第71①地点	156.30	—	—	共同住宅建設	盛土保存適用	未
第72地点	487.38	平成23年3月16・17日	平成23年6月6日 ～7月15日	共同住宅建設	(縄文)土坑4基(古墳後期)住居跡2軒(平安)住居跡2基(中世以降)土坑28基・地下室1基・井戸跡1基・溝跡2本	№ 53
第73地点	4.50	—	—	除染作業	工事立会	№ 62
第74地点	0.60	—	—	除染作業	工事立会	№ 62
第75地点	0.70	—	—	除染作業	工事立会	№ 62
第76地点	55.00	—	—	防災用トイレ設置工事	(縄文)土坑1基・伊六3基(弥生後期～古墳前期)住居跡2軒(古墳後期)住居跡2軒(奈良・平安)竪立柱建築遺構1棟(中世以降)竪立柱建築遺構1棟・土坑6基など	№ 56
第77地点	9.60	—	—	配水管の試験掘り及び切戻し	工事立会/掘出されなかった	未
第78地点	103.28	平成24年6月7日	—	個人住宅建設	盛土保存適用	未
第79地点	165.42	平成25年4月23日	平成25年5月16日 ～7月19日	個人住宅建設	(縄文)伊六1基・稲穴1基(弥生後期～古墳前期)住居跡2軒(古墳後期)住居跡2軒(平安)住居跡2軒・竪立柱建築遺構1棟(中世以降)土坑11基・井戸跡2基など	未
第80地点	94.60	平成25年6月18日	平成26年4月7日 ～5月20日	個人住宅建設	(古墳後期)住居跡1軒(中世以降)土坑7基・井戸跡1基・溝跡1本	未
第81地点	80.97	平成25年6月17日	—	個人住宅建設	盛土保存適用	未
第82地点	685.66	平成25年11月28・29日	平成26年1月27日 ～3月25日(※25年度) 平成26年4月1日 ～5月16日(※26年度)	分譲住宅建設	(縄文)土坑7基(古墳後期)住居跡1軒(平安)住居跡2軒・竪立柱建築遺構1棟(中世以降)土坑75基・地下室1基・井戸跡7基・溝跡1本・竪立柱建築遺構1棟	№ 64
第83地点	89.48	平成26年2月7日	—	個人住宅建設	盛土保存適用	未
第84地点	100.00	平成26年2月25日	—	駐車場建設	盛土保存適用	未
第85地点	142.35	平成26年2月7日	—	個人住宅建設	盛土保存適用	未
第86地点	121.71	平成27年4月10日	—	分譲住宅建設	盛土保存適用	未
第87地点	389.83	平成27年8月21日	平成27年10月1日 ～10月16日	共同住宅建設	(縄文)伊六2基(近世以降)土坑1基	№ 72
第88地点	25.00	平成27年10月19日	—	コンクリート打設	盛土保存適用	未
第89地点	19.80	—	平成28年3月10日 ～6月16日	個人住宅外構部	(平安)住居跡1軒(中世)溝跡1本(近世)跡没関連遺物集中	未
第90地点	123.38	平成27年3月8日	—	個人住宅建設	盛土保存適用	未
第91地点	566.00	平成28年4月27・28日	—	宅地造成	盛土保存適用	未
第91①地点	198.00	—	平成28年9月26日 ～11月11日	分譲住宅建設	(縄文)伊六2基(古墳後期)住居跡4軒(中世以降)土坑14基	№ 73
第91②地点	358.00	—	—	共同住宅建設	盛土保存適用	未
第92地点	294.08	—	—	共同住宅建設	工事立会	未
第93地点	37.26	平成28年8月29日	—	車庫物入れ建設	盛土保存適用	未
第94地点	327.00	平成29年6月1日	—	共同住宅建設	盛土保存適用	未
第95地点	260.13	平成29年9月29日	—	分譲住宅建設	盛土保存適用	未
第96地点	1,737.74	平成30年7月17 ～20・23日	令和元年5月20日 ～10月31日	市営墓地拡張	(旧石橋)石橋集約地点3か所・榊野2か所(縄文)住居跡11軒・集石2基・伊六5基・土坑18基(弥生中期～古墳前期)住居跡4軒・方形周溝1基・(古墳後期)住居跡19軒(平安)住居跡3軒・竪立柱建築遺構1基(中世以降)溝跡2本・遊路跡遺構1本・土坑41基	本報告書
第97地点	132.90	令和元年11月12日	—	駐車場建設	盛土保存適用	未
第98地点	40.00	令和元年11月26日	—	個人住宅建設	盛土保存適用	未
第99地点	416.12	令和2年2月12日 ～14日	令和2年8月24日 ～11月14日	分譲住宅建設	(縄文)土坑4基(弥生)住居跡1基(古墳後期)3軒(中世以降)37基	未
第100地点	416.12	令和2年10月28日	—	個人住宅建設	盛土保存適用	未

第2表 城山遺跡調査一覧(3)

№	報告書名 (所在遺跡地点名)	発行年	シリーズ名	発行者	編著者
1	西原・大塚遺跡発掘調査報告書	1975	志木市の文化財第4集	志木市教育委員会	井上興夫・高合静男 谷村 勉・宮野和明
2	西原大塚遺跡第3地点 中野遺跡第2地点 発掘調査報告書	1985	志木市遺跡調査会調査報告第1集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・尾形剛敏
3	新保遺跡発掘調査報告書	1986	志木市遺跡調査会調査報告第2集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・尾形剛敏
4	新保遺跡第2地点 西原大塚遺跡第4地点 発掘調査報告書	1987	志木市遺跡調査会調査報告第3集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・尾形剛敏
5	城山遺跡発掘調査報告書	1988	志木市遺跡調査会調査報告第4集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・尾形剛敏 神山健吉
6	中道遺跡発掘調査報告書 (中道遺跡第1地点)	1988	志木市遺跡調査会調査報告第5集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・尾形剛敏
7	城山遺跡長帯段地点発掘調査報告書 (城山遺跡第3地点)	1987	志木市の文化財第11集	志木市教育委員会 志木市遺跡調査会 志木ロータリークラブ	佐々木保俊
8	志木市遺跡群I (城山遺跡第4地点 中野遺跡第6地点 中道遺跡第6地点 西原大塚遺跡第6地点)	1989	志木市の文化財第13集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形剛敏
9	志木市遺跡群II (西原大塚遺跡第8地点 田子山遺跡第1地点 西原大塚遺跡第9地点 西原大塚遺跡第10地点 中野遺跡第9地点) 西原大塚遺跡第7地点 新保遺跡第3地点 中野遺跡第7地点 中野遺跡第8地点 城山遺跡第6地点 発掘調査報告書	1990	志木市の文化財第14集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形剛敏
10	志木市遺跡群III (西原大塚遺跡第11地点 城山遺跡第7・9地点)	1991	志木市の文化財第15集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形剛敏
11	志木市遺跡群IV (城山遺跡第11地点 中野遺跡第12地点 田子山遺跡第6・7地点)	1992	志木市の文化財第17集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形剛敏
12	中道遺跡第12地点 中道遺跡第13地点 田子山遺跡第4地点 田子山遺跡第5地点 発掘調査報告書	1992	志木市の文化財第18集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形剛敏
13	志木市遺跡群V (市場後遺跡第3地点 中野遺跡第18地点)	1993	志木市の文化財第20集	志木市教育委員会	尾形剛敏
14	志木市遺跡群VI (中野遺跡第31地点 田子山遺跡第29地点 城山遺跡第20地点)	1995	志木市の文化財第21集	志木市教育委員会	尾形剛敏
15	志木市遺跡群VII (西原大塚遺跡第32地点 中道遺跡第33地点 城山遺跡第25地点 田子山遺跡第32地点 田子山遺跡第37地点)	1996	志木市の文化財第23集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形剛敏・ 深井直子
16	城山遺跡第12地点 城山遺跡第13地点 西原大塚遺跡第14地点 中野遺跡第11地点 中野遺跡第16地点 市場後遺跡第1地点 田子山遺跡第10地点 中道遺跡第21地点 田子山遺跡第13地点 西原大塚遺跡第21地点 市場後遺跡第2地点 中道遺跡第26地点 発掘調査報告書	1996	志木市の文化財第24集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形剛敏
17	志木市遺跡群VIII (城山遺跡第29地点 城山遺跡第32地点 田子山遺跡第39地点 田子山遺跡第41地点 田子山遺跡第42地点 中道遺跡第36地点 中道遺跡第37地点 西原大塚遺跡第34地点 中野遺跡第41地点)	1997	志木市の文化財第25集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形剛敏
18	西原大塚の遺跡 西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査概観	1998	-	志木市遺跡調査会 西原特定土地区画整理組合	佐々木保俊
19	志木市遺跡群9 (中野遺跡第43地点 富士前遺跡第15地点 田子山遺跡第47地点 田子山遺跡第48地点 田子山遺跡第49地点 中道遺跡第41地点 城山遺跡第34地点 城山遺跡第35地点 西原大塚遺跡第36地点)	1999	志木市の文化財第27集	志木市教育委員会	尾形剛敏・深井直子
20	志木市遺跡群10 (西原大塚遺跡第37地点 西原大塚遺跡第39地点 中道遺跡第44地点)	2000	志木市の文化財第28集	志木市教育委員会	尾形剛敏・深井直子
21	埋蔵文化財調査報告書1	2000	志木市の文化財第29集	志木市教育委員会	尾形剛敏・深井直子
22	西原大塚遺跡第45地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2000	志木市遺跡調査会調査報告第6集	志木市遺跡調査会 小松フォークリフト㈱	佐々木保俊・内野美津江 岩川幸佳・上田 寛
23	志木市遺跡群11 (中野遺跡第50地点 西原大塚遺跡第43地点)	2001	志木市の文化財第30集	志木市教育委員会	尾形剛敏・佐々木保俊・ 内野美津江
24	埋蔵文化財調査報告書2	2001	志木市の文化財第31集	志木市教育委員会	尾形剛敏・深井直子
25	志木市遺跡群12 (田子山遺跡第69地点 西原大塚遺跡第47地点)	2002	志木市の文化財第32集	志木市教育委員会	尾形剛敏・佐々木保俊・ 深井直子

第3表 志木市の発掘調査報告書一覧(1)

第1章 遺跡の立地と環境

No.	報告書名 (詳細遺跡地点名)	発行年	シリーズ名	発行者	編者
27	埋蔵文化財調査報告書 3	2002	志木市の文化財第 34 集	志木市教育委員会	尾形明敏・佐々木保俊・ 深井恵子・佐々木 義
28	志木市遺跡群 13 (田子山遺跡第 78 地点 西原大塚遺跡第 54 地点)	2003	志木市の文化財第 35 集	志木市教育委員会	尾形明敏・深井恵子
29	中野遺跡第 49 地点—東京電力志木変電所の埋蔵文化財発掘調査報告書—	2004	志木市遺跡調査会調査報告第 7 集	志木市遺跡調査会	尾形明敏・深井恵子・ 青木 修
30	志木市遺跡群 14 (田子山遺跡第 81 地点 西原大塚遺跡第 65 地点)	2004	志木市の文化財第 36 集	志木市教育委員会	尾形明敏・深井恵子・ 青木 修
31	西原大塚遺跡第 111 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2005	志木市遺跡調査会調査報告第 8 集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・内野美津江 宮川幸佳
32	西原大塚遺跡第 110 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2005	志木市遺跡調査会調査報告第 9 集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・内野美津江 宮川幸佳
33	城山遺跡群 42 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2005	志木市遺跡調査会調査報告第 10 集	志木市遺跡調査会	尾形明敏・深井恵子 青木 修
34	志木市遺跡群 15 (西原大塚遺跡第 67 地点)	2006	志木市の文化財第 37 集	志木市教育委員会	尾形明敏・深井恵子
35	新部遺跡群 6 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2007	志木市遺跡調査会調査報告第 11 集	志木市遺跡調査会	尾形明敏・深井恵子 青木 修
36	中道遺跡群 65 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2007	志木市遺跡調査会調査報告第 12 集	志木市遺跡調査会	尾形明敏・藤沢啓吾 青柳美晴
37	西原大塚遺跡 1—甲 西原特定土地区域整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	2009	志木市遺跡調査会調査報告第 13 集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・内野美津江 宮川幸佳
38	志木市遺跡群 16 (城山遺跡第 46 地点 城山遺跡第 55 地点)	2008	志木市の文化財第 38 集	志木市教育委員会	尾形明敏・深井恵子 青木 修
39	西原大塚遺跡第 138 地点 西原大塚遺跡第 154 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2008	志木市遺跡調査会調査報告第 14 集	志木市遺跡調査会	尾形明敏・深井恵子 青木 修
40	西原大塚遺跡第 120 地点 西原大塚遺跡第 131 地点 田子山遺跡第 97 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2008	志木市遺跡調査会調査報告第 15 集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・内野美津江 宮川幸佳
41	志木市遺跡群 17 (城山遺跡第 49 地点 城山遺跡第 57 地点 西原大塚遺跡第 113 地点 西原大塚遺跡第 124 地点)	2008	志木市の文化財第 39 集	志木市教育委員会	尾形明敏・深井恵子 青木 修
42	城山遺跡群 61 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2008	志木市遺跡調査会調査報告第 16 集	志木市遺跡調査会	尾形明敏・深井恵子 青木 修
43	城山遺跡群 58・60 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2008	志木市遺跡調査会調査報告第 17 集	志木市遺跡調査会	尾形明敏・藤沢啓吾 鈴木 雄・中村義博
44	埋蔵文化財調査報告書 4	2009	志木市の文化財第 40 集	志木市教育委員会	尾形明敏・深井恵子 青木 修
45	志木市遺跡群 18 (田子山遺跡第 93 地点 田子山遺跡第 93 地点 西原大塚遺跡第 137 地点 西原大塚遺跡第 137 地点)	2009	志木市の文化財第 41 集	志木市教育委員会	尾形明敏・深井恵子 青木 修
46	西原大塚遺跡第 108 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2009	志木市の文化財第 42 集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形明敏 飯上直嗣・青池紀子他
47	中野遺跡群 71 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2010	志木市の文化財第 43 集	志木市教育委員会	佐々木保俊・内野美津江
48	市場倉遺跡群 13 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2011	志木市の文化財第 44 集	志木市教育委員会	徳留彰紀・尾形明敏 青木 修
49	志木市遺跡群 19 (城山遺跡群 59 地点)	2011	志木市の文化財第 45 集	志木市教育委員会	尾形明敏・徳留彰紀 深井恵子・青木 修
50	城山遺跡群 63 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2011	志木市の文化財第 46 集	志木市教育委員会	尾形明敏・徳留彰紀 飯上直嗣・青池紀子他
51	西原大塚遺跡群 169 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2012	志木市の文化財第 47 集	志木市教育委員会	徳留彰紀・尾形明敏
52	城山遺跡群 62 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2012	志木市の文化財第 48 集	志木市教育委員会	尾形明敏・徳留彰紀 深井恵子・青木 修
53	城山遺跡群 72 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2012	志木市の文化財第 49 集	志木市教育委員会	尾形明敏・徳留彰紀 村上孝尚・青池紀子他
54	田子山遺跡群 121 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2012	志木市の文化財第 50 集	志木市教育委員会	徳留彰紀・尾形明敏 藤沢啓吾
55	志木市遺跡群 20 (田子山遺跡群 107 地点 新部遺跡群 10 地点 西原大塚遺跡群 159 地点)	2013	志木市の文化財第 51 集	志木市教育委員会	尾形明敏・徳留彰紀 深井恵子・青木 修
56	城山遺跡群 76 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2013	志木市の文化財第 52 集	志木市教育委員会	尾形明敏・大久保 聡 山崎直隆
57	城山遺跡群 64 地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2013	志木市の文化財第 53 集	志木市教育委員会	尾形明敏・深井恵子 青木 修

第3表 志木市の発掘調査報告書一覧(2)

№	報告書名 (所在遺跡地点名)	刊行年	シリーズ名	発行者	編著者
58	城山遺跡第71地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2013	志木市の文化財第54集	志木市教育委員会	尾形伸敏・大久保 聡 中山浩也・二熊寿幸・福村太郎・加藤夏雄
59	西原大塚遺跡第174①地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2013	志木市の文化財第55集	志木市教育委員会	尾形伸敏・徳留彰紀 藤原晋吾・松木誠子
60	西原大塚遺跡第179地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2014	志木市の文化財第56集	志木市教育委員会	尾形伸敏・大久保 聡 二熊寿幸・本山直子
61	中野遺跡第78地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2014	志木市の文化財第57集	志木市教育委員会	大久保 聡・尾形伸敏 青木 修
62	志木市遺跡第21 (城山遺跡第62①～③地点 西原大塚遺跡第165地点 西原大塚遺跡第166地点 西原大塚遺跡第171地点)	2014	志木市の文化財第58集	志木市教育委員会	尾形伸敏・大久保 聡
63	埋蔵文化財調査報告書5 (城山遺跡第26地点)	2014	志木市の文化財第59集	志木市教育委員会	尾形伸敏・徳留彰紀 深井恵子・青木 修
64	城山遺跡第82地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2014	志木市の文化財第60集	志木市教育委員会	尾形伸敏・大久保 聡 宮下孝雄
65	田子山遺跡第131地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2015	志木市の文化財第61集	志木市教育委員会	尾形伸敏・徳留彰紀 宮下孝雄
66	富士前遺跡第23地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2015	志木市の文化財第62集	志木市教育委員会	尾形伸敏・徳留彰紀 清水理史・川田馨秋 野田 健
67	埋蔵文化財調査報告書6 (城山遺跡第27・28地点 中道遺跡第56地点)	2015	志木市の文化財第63集	志木市教育委員会	尾形伸敏・深井恵子 青木 修
68	志木市遺跡第22 (西原大塚遺跡第172①～④地点)	2015	志木市の文化財第64集	志木市教育委員会	徳留彰紀・尾形伸敏 深井恵子
69	田子山遺跡第132③地点 埋蔵文化財発掘調査報告書		志木市の文化財第65集	志木市教育委員会	尾形伸敏・徳留彰紀 深井恵子
70	埋蔵文化財調査報告書7 (中道遺跡第38・39地点)	2016	志木市の文化財第66集	志木市教育委員会	尾形伸敏・深井恵子 青木 修
71	中野遺跡第91①地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2017	志木市の文化財第67集	志木市教育委員会	尾形伸敏・徳留彰紀 北岡清史・田中浩江 岩崎昌彦
72	市場前遺跡第23地点 城山遺跡第87地点 西原大塚遺跡第207地点 中野遺跡第95地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2017	志木市の文化財第68集	志木市教育委員会	徳留彰紀・尾形伸敏・青木 修
73	中道遺跡第76地点 城山遺跡第91①地点 西原大塚遺跡第211地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2018	志木市の文化財第69集	志木市教育委員会	尾形伸敏・大久保 聡 深井恵子・青木 修
74	志木市遺跡第23 (西原大塚遺跡第180地点 西原大塚遺跡第182地点 西原大塚遺跡第183地点 西原大塚遺跡第184地点) 埋蔵文化財調査報告書8 (田子山遺跡第51地点 中野遺跡第55地点 中野遺跡第57地点)	2018	志木市の文化財第70集	志木市教育委員会	大久保 聡・尾形伸敏 深井恵子
75	西原大塚遺跡第213地点 中野遺跡第102地点 中野遺跡第104地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2019	志木市の文化財第72集	志木市教育委員会	尾形伸敏・大久保 聡 深井恵子・青木 修
77	中道遺跡第87地点 埋蔵文化財発掘調査報告書		志木市の文化財第73集	志木市教育委員会	尾形伸敏・大久保 聡 林 邦雄
78	西原大塚遺跡第224地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2020	志木市の文化財第74集	志木市教育委員会	尾形伸敏・大久保 聡 成形一成・田中忠孝
79	西原大塚遺跡第220地点 西原大塚遺跡第222地点 西原大塚遺跡第227地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2020	志木市の文化財第75集	志木市教育委員会	大久保 聡・尾形伸敏
80	西原大塚遺跡第216地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2020	志木市の文化財第76集	志木市教育委員会	尾形伸敏・大久保 聡 青木 修
81	田子山遺跡第160地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2020	志木市の文化財第77集	志木市教育委員会	尾形伸敏・大久保 聡 石川安司・小林陽子 清水理史
82	城山遺跡第96地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2021	志木市の文化財第78集	志木市教育委員会	尾形伸敏・徳留彰紀 大久保聡・道竹陽一郎・ 飯下貴博・宅間清公
83	西原大塚遺跡第228地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2021	志木市の文化財第79集	志木市教育委員会	尾形伸敏・徳留彰紀 大久保聡・小森晴生 宅間清公
84	西原大塚遺跡第231地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2021	志木市の文化財第80集	志木市教育委員会	大久保聡・尾形伸敏
85	志木市遺跡第24 (市場前遺跡第21地点 西原大塚遺跡第199地点 城山遺跡第79地点)	2021	志木市の文化財第81集	志木市教育委員会	大久保聡・尾形伸敏 徳留彰紀

第3表 志木市の発掘調査報告書一覧(3)

第2章 発掘調査の概要

第1節 調査に至る経緯

平成30年6月、志木市から志木市教育委員会（以下、教育委員会）へ市営墓地拡張工事計画地内における埋蔵文化財の有無及び取り扱いについての照会があった。

これに対し、教育委員会は、当該地が周知の埋蔵文化財包蔵地である城山遺跡（コード 11228 - 09 - 003）に該当するため、大旨下記のとおり回答した。

1. 埋蔵文化財確認調査（以下、確認調査）を実施して、その結果に基づき、当該地の埋蔵文化財の有無及び取り扱いについて回答する。
2. 上記1の調査の結果、埋蔵文化財が確認された場合、埋蔵文化財の保存措置を調ずること。また、やむを得ず埋蔵文化財に影響を与える工事を実施する場合は、記録保存のための発掘調査を実施する必要があること。

平成30年7月5日、教育委員会は、土木工事主体者である環境推進課より確認調査依頼書を受理し、城山遺跡第96地点として、7月17～20日・23日に確認調査を実施した。確認調査は、第3図に示すように調査区南北方向に10本（1～2・5～12 Tr、東西方向に2本のトレンチ（3・4 Tr）を設定し、バックホーで表土を剥ぎ、同時に遺構確認作業を行った。その結果、縄文時代の住居跡5軒・集石1基・土坑6基、弥生時代後期～古墳時代前期の住居跡1軒、古墳時代後期～平安時代の住居跡23軒、中世以降の土坑7基・溝跡3本・柱穴11本を確認した。教育委員会は、この結果をただちに志木市に報告し、保存措置について協議を行った。

その結果、今回の土木工事計画は市営墓地拡張工事であり、墓地は「埼玉県埋蔵文化財発掘調査等取り扱い基準」に規定する「恒久的な構造物の設置」に相当することから、城山遺跡第96地点埋蔵文化財保存事業（以下、「保存事業」）として記録保存（発掘調査）を実施することに決定した。また、保存事業の実施にあたっては、民間調査組織の支援を受けることとなった。

平成31年3月19日に志木市から教育委員会へ保存事業に係る予算の執行委任がなされたことを受け、4月23日に指名競争入札を実施した結果、支援業務を委託する民間調査組織が㈱東京航業研究所（代表取締役 中本直土）に決定し、5月13日に委託契約を締結した。

教育委員会は、4月26日付けで埋蔵文化財発掘の通知及び発掘調査通知を埼玉県教育委員会に提出した。以上により、教育委員会を調査主体に、5月27日から発掘調査を実施した。

第2節 調査の方法と経過

発掘調査は、令和元年5月27日から11月2日まで実施した。重機の進入路や残土置場などの関係から、調査範囲を3区画に分割した(第4図)。2区と3区の調査期間は一部重複する。ここでは、発掘調査の大まかな経過を説明することにし、各遺構の精査経過については、第4表の発掘調査工程表に示した。

5月27日～31日：

重機・機材等を搬入、調査区を設定し、1区東側から表土掘削を開始した。遺構確認を行い、試掘調査で確認された住居跡の他、焼土と骨片の分布(1073D)や硬化面を伴う溝(3道)などを検出した。

6月3日～7月24日

検出状況の記録の後、1区北側の遺構から着手し、南側へと調査を進めていった。

7月25日：1区の空中写真撮影をドローンを用いて実施した。

7月26日～8月2日：

残りの調査と並行して、基本土層の確認および旧石器時代の調査のためのテストピット(TP1～6)を設定し、精査した。

8月5日・6日：

1区の埋戻作業を行った。

8月7日～14日：

2区の表土掘削を行った。

8月15日～9月2日：

1区からの続く68M・3道、住居跡を切る69Mから精査を開始した。また、貝の分布が観察された7Jは貝の検出に時間を要することが予想されたため、早々に着手した。

9月3日：2区(69M・318H周辺)の空中写真撮影をドローンを用いて実施した。

9月4日～13日：

遺構精査と並行して、空中写真を撮影した範囲にTP7・8を設定し、精査を行った。TP8を6日と9日に拡張した。10Yと315Hは、遺物の出土状況が良好だったので、現地説明会まで出土状況を維持した。

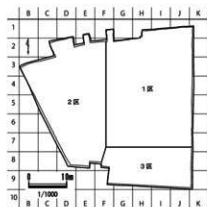
9月14日：現地説明会を実施。

9月17日～30日：

現地説明会が終了したので、10Y、315Hの遺物の取り上げを行った。2区は、調査が終了した区画から埋戻しを行う方針に変更した。25日に2区(7・8J周辺)の空中写真撮影を実施した。25日と27日にTP8を拡張した。30日に2区(6J周辺)の空中写真撮影と3区東側の表土掘削を行った。

10月1日～31日：

1日に3区東側の表土掘削が終了し、3区の遺構精査に着手した。7日に2区(304H周辺)空中写真撮影を実施した。8日にTP8の拡張、3区西側の表土掘削を行った。24日に3区の



第4図 調査区画図(1/1,000)

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
表土掘削	5.27			8.7		9.30	10.8
4J			7.25				
5J			7.30				
6J					9.20		
7J				8.21			
8J					9.5		
9J						9.20	
10J							10.16
11・13・14J							10.17
12J							10.18
8Y		6.11					
9Y							10.9
10Y				29		10.3	
11Y					11	10.2	
300H		6.18					
301H		6.11	19				
302H		6.11					
303H			7.2				
304H					9.4		
305H						9.11	
306H		6.27					
307H							10.3
308H	6.7						
309H			7.8				
310H				8.21			
311H			7.8				
312H	6.5						
313H		6.17					
314H		6.17					
315H				8.21	9.17		
316H	6.5						
317H					9.11		
318H						10.3	0.28
319H						10.8	
320H				8.22			
321H					9.19		10.28
6S			7.19				
7S						10.2	
18FP				8.2			
19FP						9.24	
21FP							10.21
22FP							10.23
1方					8.20		
68M	6.4			8.20			
69M	6.3		7.3		9.4	10.1	7
3道			7.3	8.20			
1073D	6.4						
1074D	6.5						
1075D	6.6						
1076D	6.11	20					
1077D	6.13	20					
1078D	6.17						
1079D	6.18						

第4表 発掘調査工程表(1)

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
1080D		18					
1081D		6.20					
1082D		7.1					
1083D		7.2					
1084D		7.2					
1085D		7.3					
1086D		7.3					
1087D		7.4					
1088D		7.9					
1089D		7.9					
1090D		7.10	17				
1091D		7.10	17	22			
1092D			7.22				
1093D			7.20				
1094D			8.2				
1095D			8.5				
1096D			8.5				
1097D			8.5				
1098D				8.20			
1099D				8.20			
1100D				9.2			
1101D				9.2			
1102D					9.12		
1103D					9.17		
1104D					9.20	10.27	
1105D					9.20		
1106D					9.20		
1107D						10.28	
1108D					10.3		
1109D					10.3		
1110D					10.3		
1111D					10.3		
1112D					10.3		
1113D					10.3		
1114D						10.30	
1115D						10.7	
1116D						10.9	
1117D						10.9	
1118D						10.9	
1119D						10.9	
1120D						10.10	
1121D						10.15	
1122D						10.15	
1123D						10.18	
1124D						10.18	
1125D						10.21	
1126D						10.21	
1127D						10.23	
1128D						10.23	
1129D						10.23	
1130D						10.24	
1131D						10.24	

第4表 発掘調査工程表(2)

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
TP1			7.30				
TP2			7.30				
TP3			7.31				
TP4			7.29				
TP5			7.30				
TP6			7.31				
TP7					9.4		
TP8					9.4	10.7	
TP9						10.15	29
TP10						10.16	23
TP11						10.24	
TP12						10.24	
埋戻作業			8.5			10.4	11.2

第4表 発掘調査工程表(3)

空中写真撮影を実施した。24日に3区のテストピット(TP11・12)に着手し、29日に掘削・記録を終え、3区の調査を終了した。31日に2区(11・12J周辺)の空中写真撮影を実施し、2区の調査を終了した。

11月1日～2日:

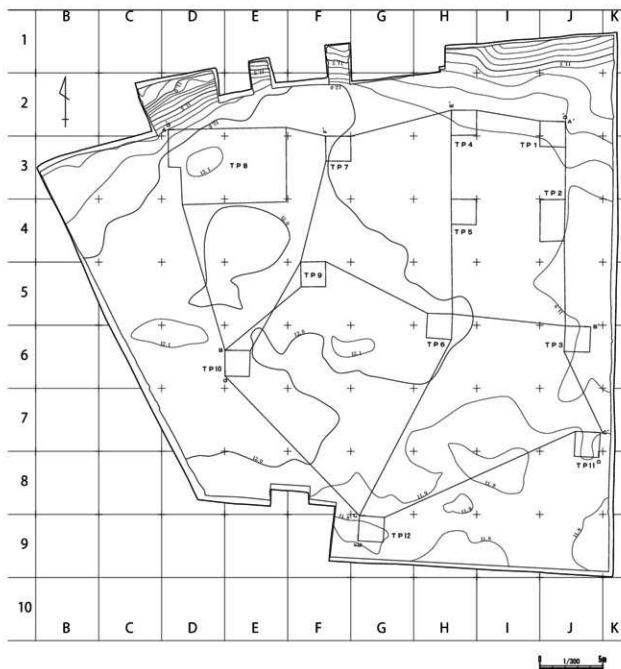
2日に埋戻し作業が終了し、重機・機材・仮設ハウス等を搬出した。

フォトグラメトリについて

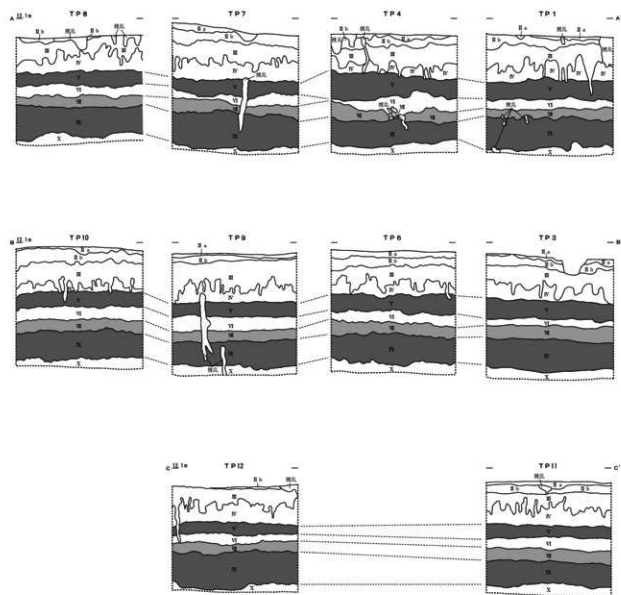
ここで、本調査で行った測量手法について説明する。遺構断面図は、メジャーで計測し、方眼紙に作図する伝統的な手法、遺構平面図はデジタル写真測量、基準点や遺物の出土点の計測、遺構平面図の補足測量にはトータルステーションを使用した。カマド平面図、遺物出土状況微細図、テストピットの断面図は、デジタル写真から作成したオルソ(正射投影)画像をベースにし、デジタルトレースした。オルソ画像は、フォトグラメトリ(対象を複数方向から撮影した写真から3Dモデルを作成する技術)により3Dモデルを生成し、任意の方向(平面図なら天頂方向から、断面図なら面に正対する方向)に投影することにより作成する。ディテールは3Dモデルに貼り付けられたテクスチャによって、写真画質で表現される。凹凸や色調の変化の乏しいもの(硬化範囲など)は、釘描きやスプレーなどでマーキングしておく、トレース段階で拾いやすい。また、3Dモデルを生成するので、任意の位置の断面(エレベーション)を起こしたり、高さを計測したりすることもできる。本調査では、遺構だけでなく、一部の遺物の図化においても、フォトグラメトリを用いた手法を活用している。なお、今回、3Dモデル生成の際に使用したアプリケーションは、Agisoft PhotoScan Professional Version1.2.6である。

第3節 基本層序

基本層序の確認のため、旧石器時代の調査を兼ねたテストピットを12か所設定した(第5図)。テストピットは2×2mを基本とし、立川ローム第Ⅹ層が確認できるまで掘削した。遺構確認面は概ねⅡa層中である。Ⅱa層は縄文時代の堆積層の下部にあたる。Ⅱb層は青柳スコリアを含む。Ⅲ層からⅩ層は立川ローム第Ⅲ層から第Ⅹ層に相当する。第Ⅷ層は確認されなかった。第5図の等高線は表土を剥いだ遺構確認面のものである。北側の落ち込みは、現代の造成により削られたもので、旧地形を表すものではない。確認面はほぼ平坦である。ロームの堆積状況も、細かな傾斜はみられるが、全体としては、平坦な印象を受ける。



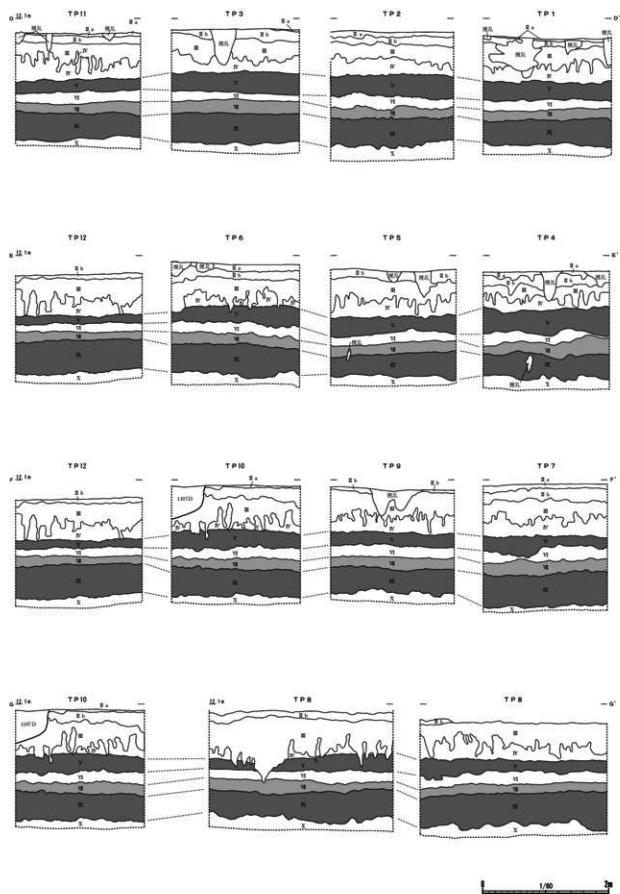
第5図 基本土層の位置 (1/300)



基本土層

- S 層 灰黄褐色土 (10784/2) 細りや中強い、粘性や中強い、黑色スコリア (4.0~2mm) を中量含む。
 M 層 濃い黄褐色土 (10785/2) 細りや中強い、粘性や中強い、黑色スコリア (4.0.5~1mm) を微量、赤色スコリア (4.0.5~1mm) を微量、青緑スコリアを含む。
 V 層 明黄褐色土 (10786/0) 細りや中強い、粘性や中強い、黑色スコリア (4.0.5~1mm) を微量、赤色スコリア (4.1~2mm) を微量含む、ソフトローム層。
 VI 層 明黄褐色土 (10786/0) 細り非常に強い、粘性や中強い、黑色スコリア (4.2~4mm) を多量、赤色スコリア (4.1~2mm) を中量含む。
 VII 層 暗黄褐色土 (10785/0) 細り非常に強い、粘性や中強い、黑色スコリア (4.2~4mm) を中量、赤色スコリア (4.1~2mm) を中量含む。
 VIII 層 明黄褐色土 (10786/0) 細り非常に強い、粘性や中強い、黑色スコリア (4.1~2mm) を微量、赤色スコリア (4.1~2mm) を少量含む。
 IX 層 濃い黄褐色土 (10785/0) 細り非常に強い、粘性や中強い、黑色スコリア (4.1~2mm) を少量、赤色スコリア (4.1~2mm) を少量含む。
 X 層 暗黄褐色土 (10784/2) 細り非常に強い、粘性や中強い、黑色スコリア (4.1~2mm) を中量、赤色スコリア (4.1~2mm) を少量含む。
 XI 層 明黄褐色土 (10786/0) 細り非常に強い、粘性や中強い、黑色スコリア (4.0.5~1mm) を中量、赤色スコリア (4.0.5~1mm) を中量含む。

第6図 基本層序1 (1/60)



第7図 基本層序2 (1/60)

第3章 検出された遺構と遺物

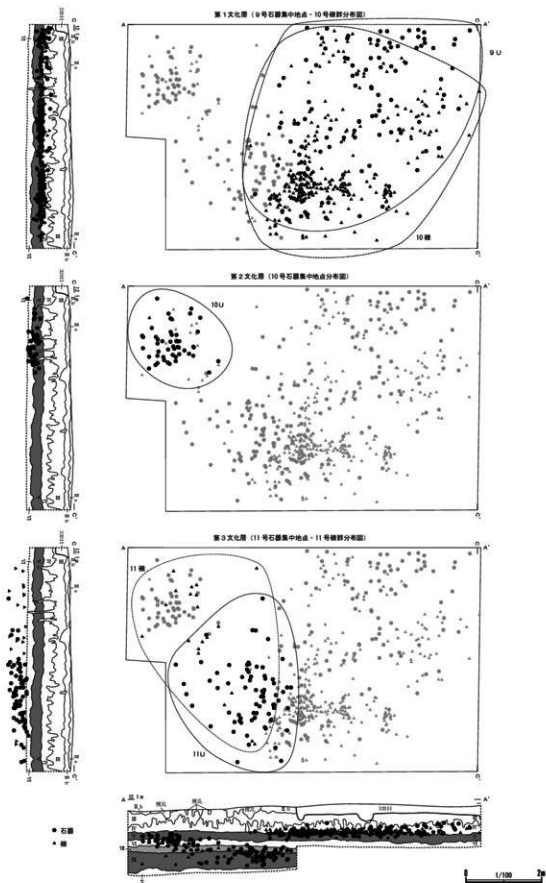
第1節 旧石器時代

(1) 概要

旧石器時代の調査は、調査区内に12か所のテストピット(TP1～12)を設定し、精査を行った結果、石器248点、礫323点の計571点の遺物を確認した。TP2で2点、TP7で1点、TP11(損乱)で1点の石器が出土した以外は、全てTP8から出土した(第9図)。



第9図 TP配置図(1/300)



第10図 第1～3文化層概略図 (1/100)

TP8では、石器集中地点3か所（9～11号石器集中地点）、礫群2か所（10・11号礫群）を検出した。焼土や炭化物は確認されていない。

遺構を層位的にみると、9号石器集中地点・10号礫群が立川ルーム第IV層下部～V層上部、10号石器集中地点が立川ルーム第V～VII層上部、11号石器集中地点・11号礫群が立川ルーム層第VII層下部～IX層から検出されている。このことから、今回の調査では、3枚の文化層を設定した（第10図）。

第1文化層は、立川ルーム第IV層下部～V層上部を出土層準とする。9号石器集中地点と10号礫群を検出した。石器121点、礫301点が出土し、石器の内訳はナイフ形石器7点、挟入石器2点、二次加工ある剥片1点、微細剥離痕ある剥片1点、石核4点、剥片84点、砕片22点である。石質別では、黒曜石89点、安山岩22点、チャート6点、頁岩3点、碧玉1点である。

第2文化層は、立川ルーム第V～VII層上部を出土層準とする。10号石器集中地点を検出した。石器50点、礫12点が出土し、石器の内訳は二次加工ある剥片1点、石核2点、剥片38点、砕片9点である。石質別では、チャート45点、頁岩5点である。

第3文化層は、立川ルーム第VII層下部～IX層を出土層準とする。11号石器集中地点と11号礫群を検出した。石器72点、礫10点が出土し、石器の内訳はナイフ形石器1点、楔形石器1点、剥片58点、砕片12点である。石質別では、チャート68点、黒曜石2点、頁岩2点である。

（2）石器集中地点

9号石器集中地点

遺 構（第11・12図）

位 置（D・E-2・3）グリッド。

平面分布 南北5.11m以上、東西5.69m以上の範囲に石器が分布する。南西方向の分布限界は概ね押さえられていると思われるが、北東方向の分布は調査区外に及ぶと考えられる。南西と北東に分布の集中が分かれるようにも見えるが、境界は明確でない。10号礫群と平面分布が重複する。

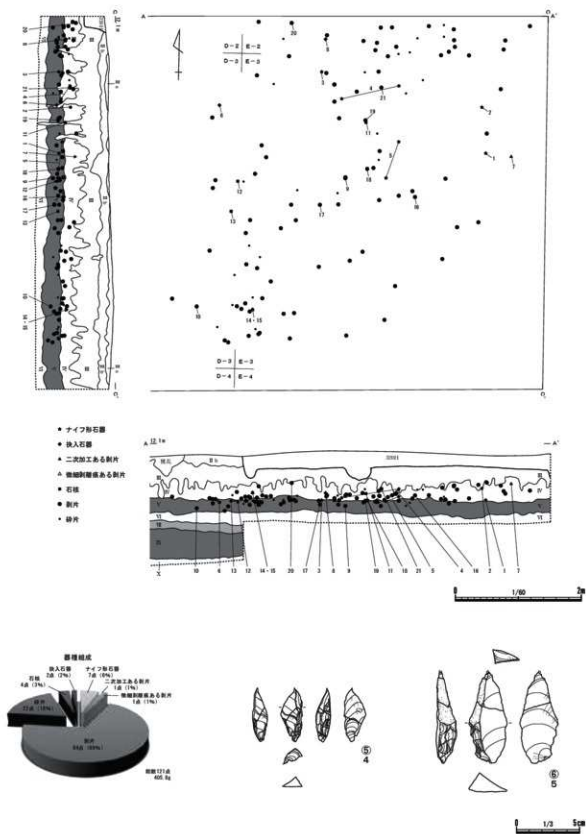
出土層位 立川ルーム第IV層下部から第V層上部に集中した分布傾向がある。立川ルーム第III層下部から第VI層上面まで分布の広がりが認められる。10号礫群と垂直分布が重複する。

出土石器 石器の総点数は121点である。内訳は、ナイフ形石器7点（接合後5点）、挟入石器2点、二次加工ある剥片1点、微細剥離痕ある剥片1点、石核4点、剥片84点、砕片22点である。石質別では、黒曜石89点、安山岩22点、チャート6点、頁岩3点、碧玉1点である。

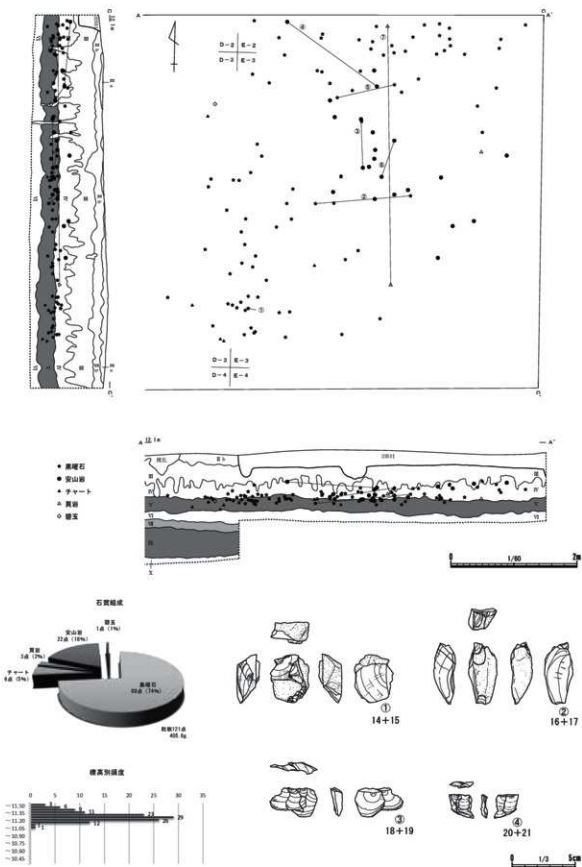
遺 物（第13～17図、図版46～48、図版49-1、第5表）

1は、黒色頁岩製のナイフ形石器である。先端部左側縁と基部右側縁を整形する。先端部は新規欠損である。2は、黒曜石製の切出形のナイフ形石器である。基部を欠損する。3は、黒曜石製の切出形のナイフ形石器である。基部を折損する。先端部に衝撃剥離が認められる。4は、黒曜石製の切出形のナイフ形石器である。5は、安山岩製のナイフ形石器である。6は、碧玉製の挟入石器である。左側縁に刃部を作り出している。7は、黒曜石製の挟入石器である。8は、安山岩製の二次加工ある剥片である。9は、チャート製の石刃状の剥片である。10は、チャート製の幅広の縦長剥片である。裏面右側縁は新規欠損である。11～13は、黒曜石製の石核である。いずれも礫面を残し、原石は小型で、不定形な剥片剥離を示している。

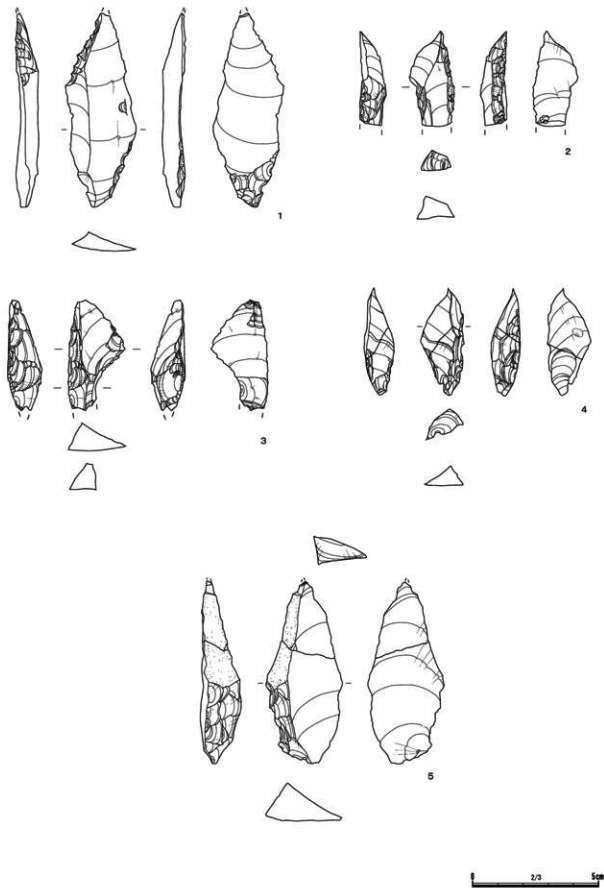
①（14+15）・②（16+17）は、黒曜石製の石核に不定形剥片が接合する。③（18+19）・④（20



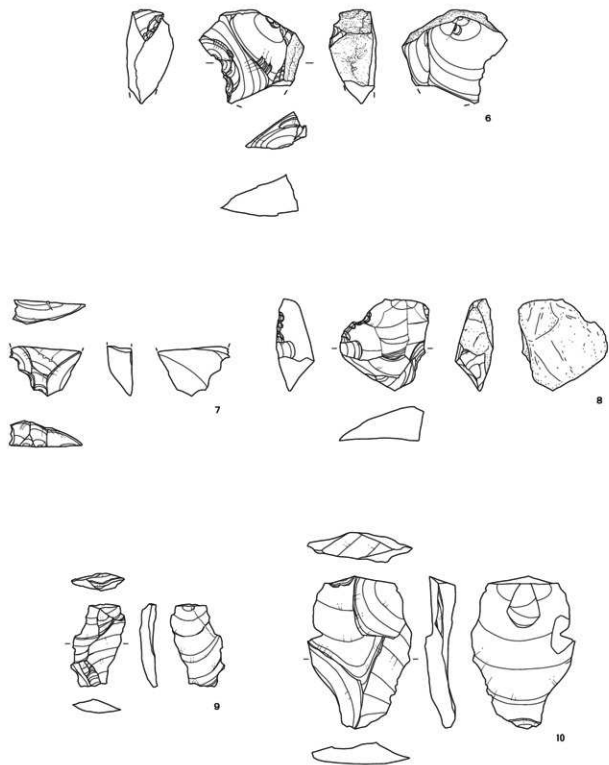
第11図 9号石器集中地点 器種別分布図 (1/60・1/3)・組成グラフ



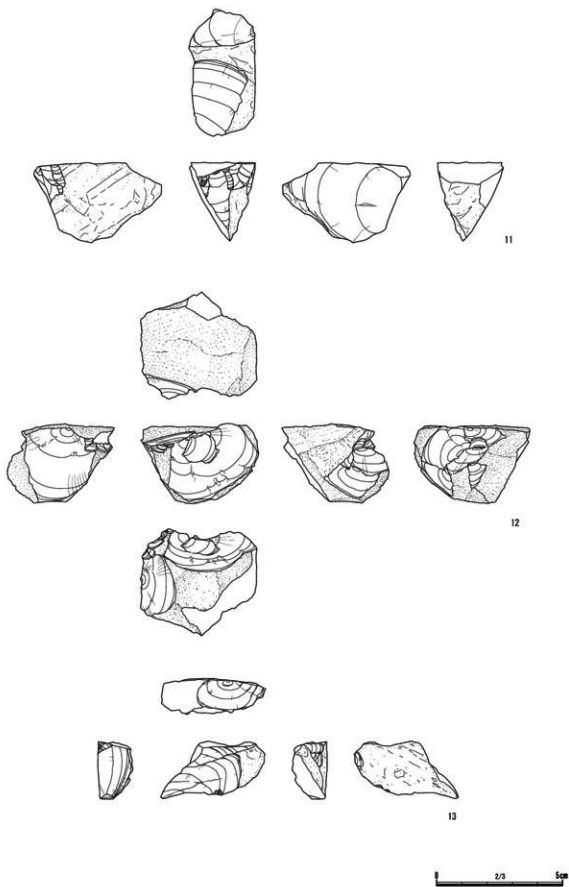
第12図 9号石器集中地点 石質別分布図 (1/60・1/3)・組成グラフ



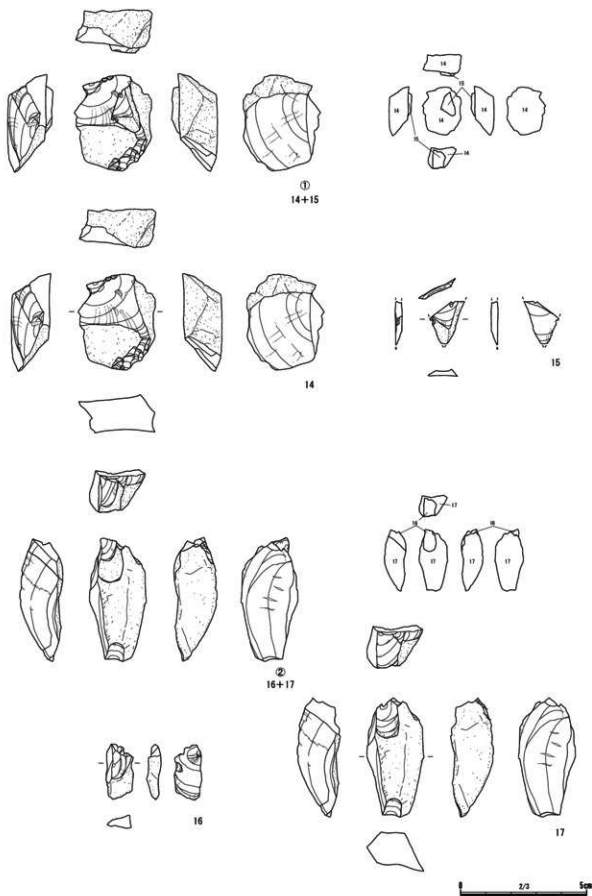
第13图 9号石器集中地点出土石器1(2/3)



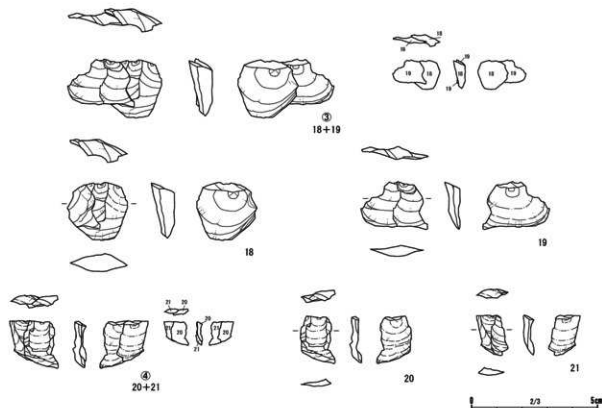
第14図 9号石器集中地点出土石器2(2/3)



第15图 9号石器集中地点出土石器3(2/3)



第16図 9号石器集中地点出土石器4(2/3)



第17図 9号石器集中地点出土石器5(2/3)

+21)は、石核は残されていないものの、おそらく盤状石核からの不定形剥片の連続剥離と思われる。いずれも安山岩製である。⑦(図版49-1-⑦)は、頁岩製の剥片である。

10号石器集中地点

遺構(第18図)

【位置】(D-2・3)グリッド。

【平面分布】南北1.98m、東西2.04mの範囲に石器が分布する。概ね分布の中心は押さえられたと考えられる。

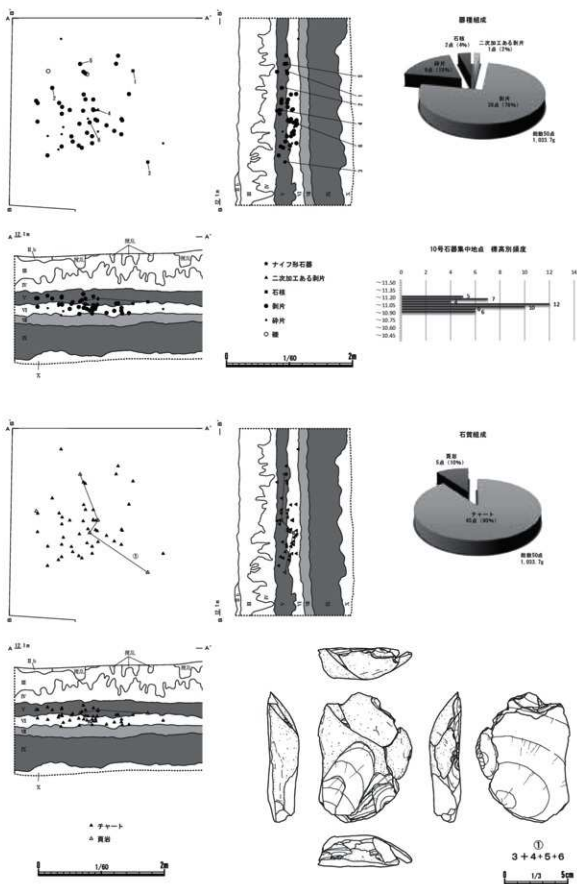
【出土層位】立川ローム第V層下部から第VI層上部に集中した分布傾向がある。立川ローム第V層上部から第VII層上面まで分布の広がりが認められる。

【出土石器】石器の総点数は50点である。内訳は、二次加工ある剥片1点、石核2点、剥片38点、破片9点である。石質別では、チャート45点、頁岩5点である。なお、礫2点が出土したが、礫群としては認識できなかった。

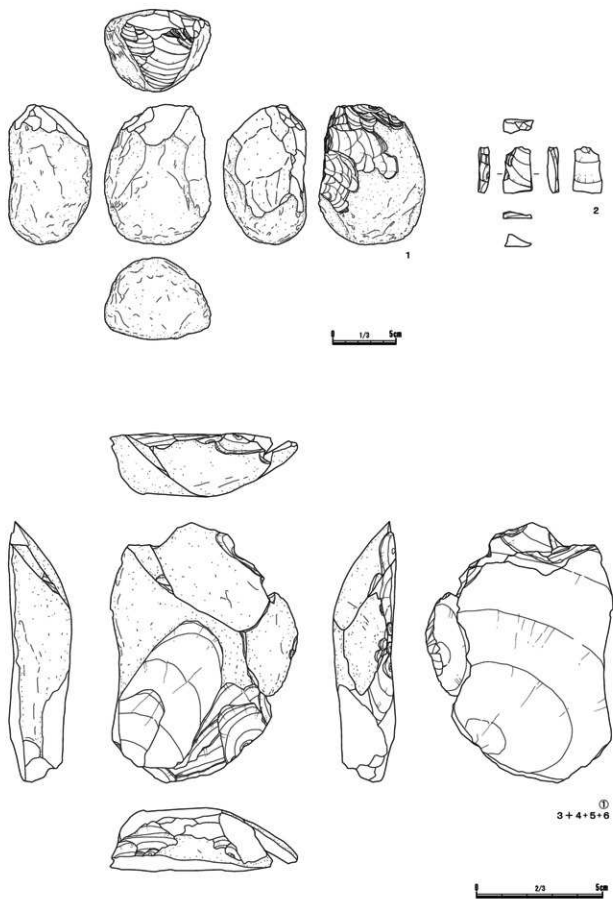
遺物(第19・20図、図版49-2、図版50、図版51-1、第6表)

1は、チャート製の石核とした。いわゆる二重パティナが認められる。剥片剥離の打撃意図も不明確である。同一個体と思われる剥片・破片は出土していない。2は、チャート製の剥片で、打面再生剥片と思われる。

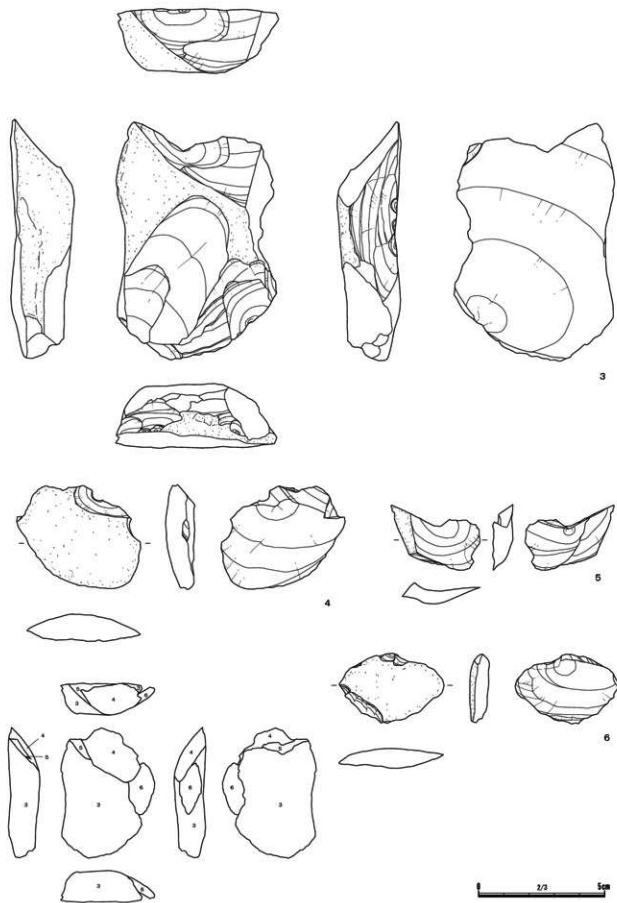
①(3+4+5+6)は、盤状石核からの求心的な横長剥片の連続剥離が行われている。頁岩製である。石核は表裏上下面の打撃・剥離痕から両極剥離による分割と思われる。4・5を剥離したあと、打面を表面左に移し、6及び3の石核に痕跡が残される数枚の剥片を剥離している。



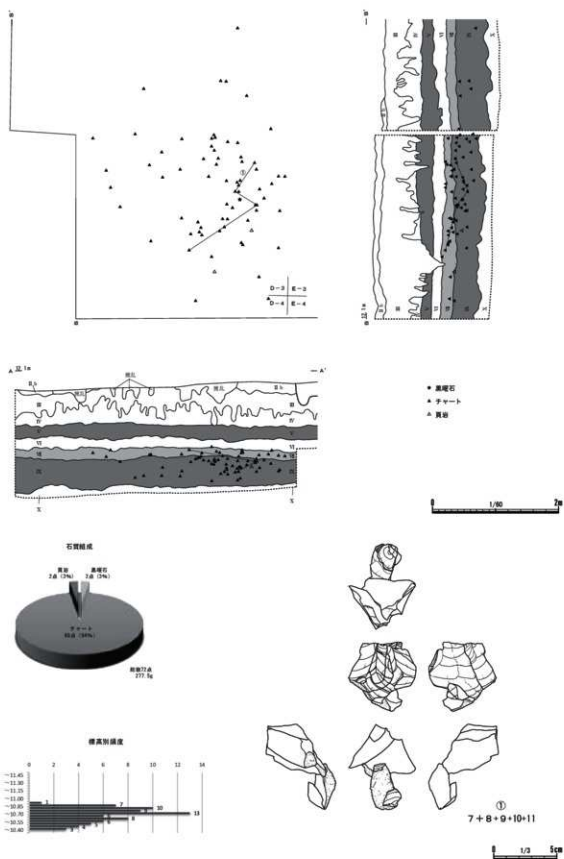
第18図 10号石器集中地点 器種別・石質分布図 (1/60・1/3)・組成グラフ



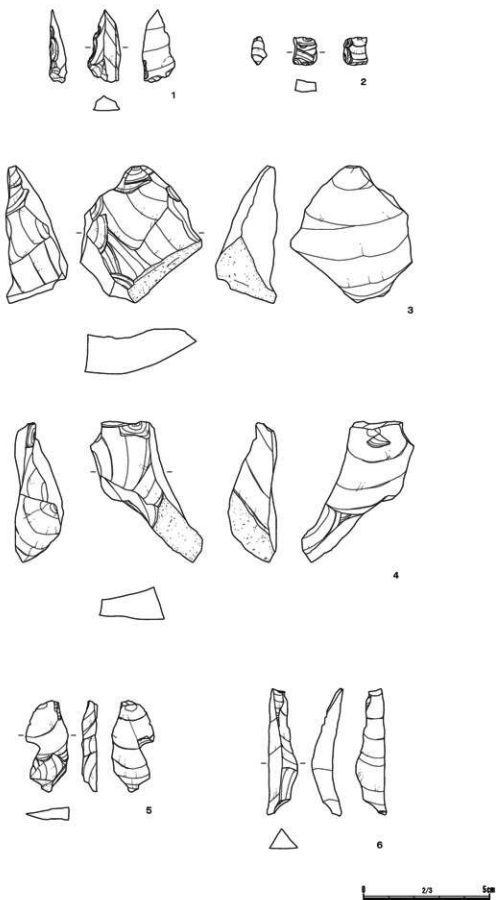
第19图 10号石器集中地点出土石器1 (1/3·2/3)



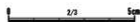
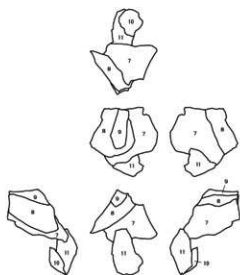
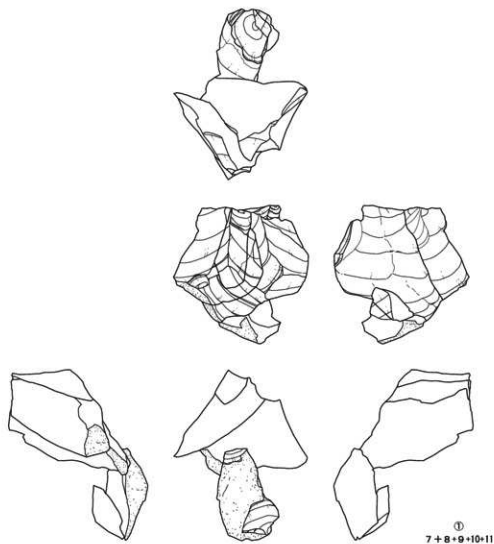
第20図 10号石器集中地点出土石器2(2/3)



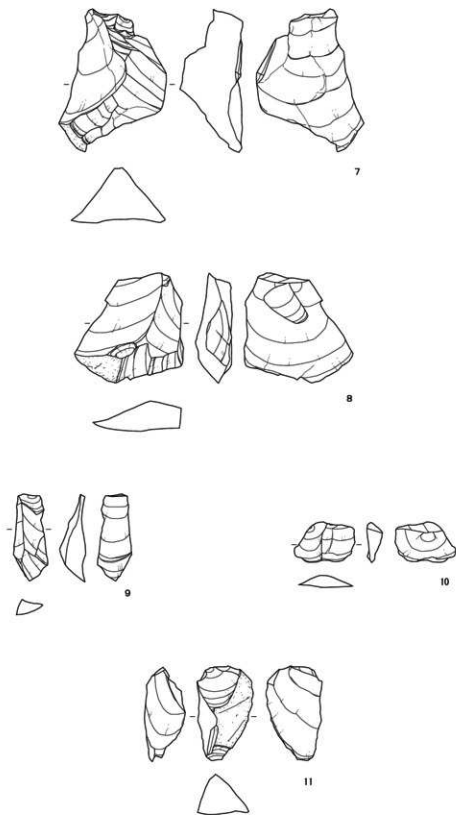
第22図 11号石器集中地点 石質別分布図(1/60・1/3)・組成グラフ



第23图 11号石器集中地点出土石器1(2/3)



第24図 11号石器集中地点出土石器2(2/3)



第25图 11号石器集中地点出土石器3(2/3)

(3) 礫群

10号礫群

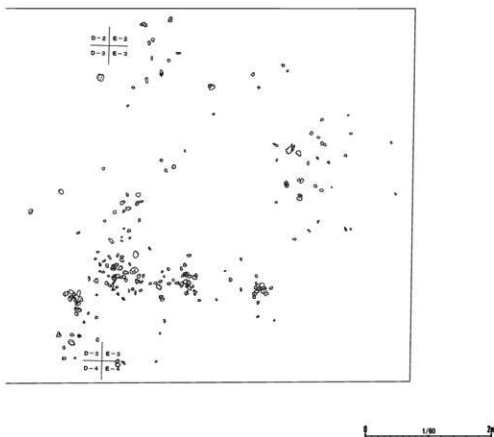
遺 構 (第26・27図、第8・9表)

[位 置] (E-2、D・E-3) グリッド。

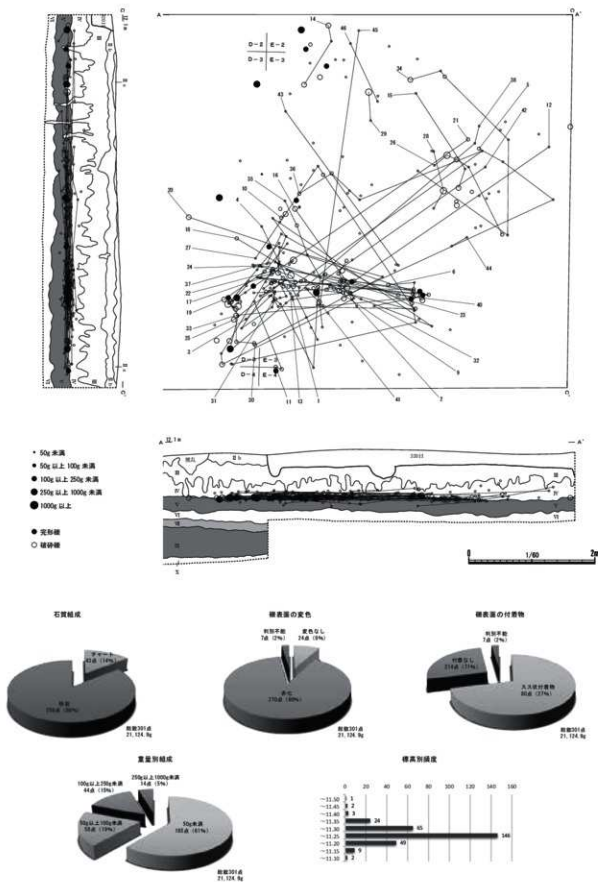
[平面分布] 南北5.55m、東西5.67mの範囲に礫が分布する。分布の中心は押さえられたが、北側の調査区外に分布が延びている可能性は考えられる。分布の中心が南・北・東に分かれるようにも見えるが、境界は明確でない。9号石器集中地点と平面分布が重複する。

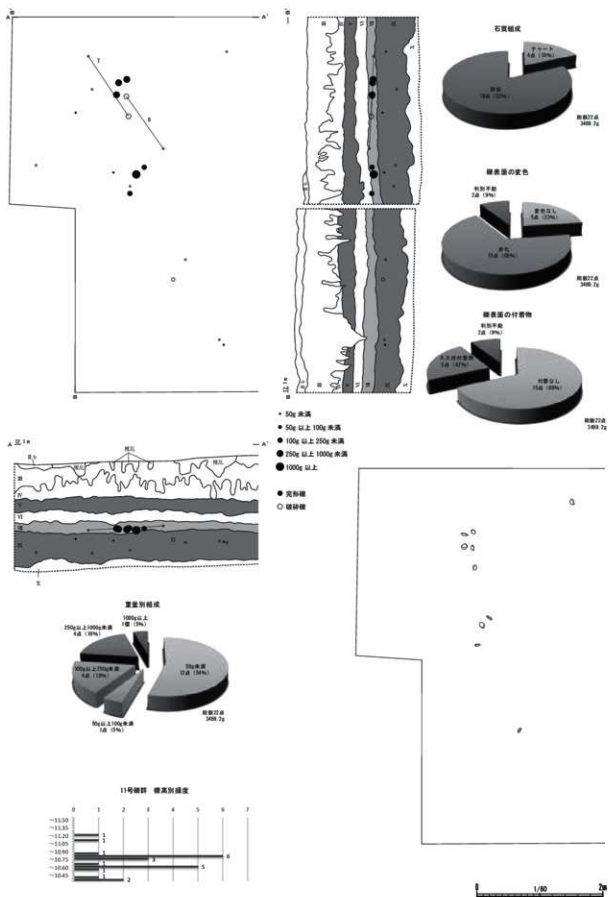
[出土層位] 立川ローム第IV層下部と第V層上面の境界に強く集中した分布傾向がある。この傾向は、重量別の垂直分布で特に顕著に確認できる。立川ローム第III層下部から第V層下部まで分布の広がりが認められる。9号石器集中地点と垂直分布が重複する。

[礫 構 成] 礫の総点数は301点である。完形礫は18点で、それ以外は破砕礫である。石質は砂岩258点、チャート43点である。重量別の組成では50g未満が184点、50～100g未満が58点、100g～250g未満が44点、250g～1000g未満が14点である。礫表面・破断面の状態は、表面が赤化するもの270点、表面に付着物が認められるもの80点、破断面が赤化するもの250点、破断面に付着物が認められるもの54点である。接合資料は44例である。



第26図 10号礫群 出土状況微細図(1/60)





第28図 11号群群 重量別分布図・出土状況微細図(1/60)・組成グラフ

11号礫群

遺構 (第28図、第10・11表)

位置 (D-2・3) グリッド。

平面分布 南北2.19m、東西1.83mの範囲に礫が分布する。10・11号石器集中地点と平面分布が重複する。

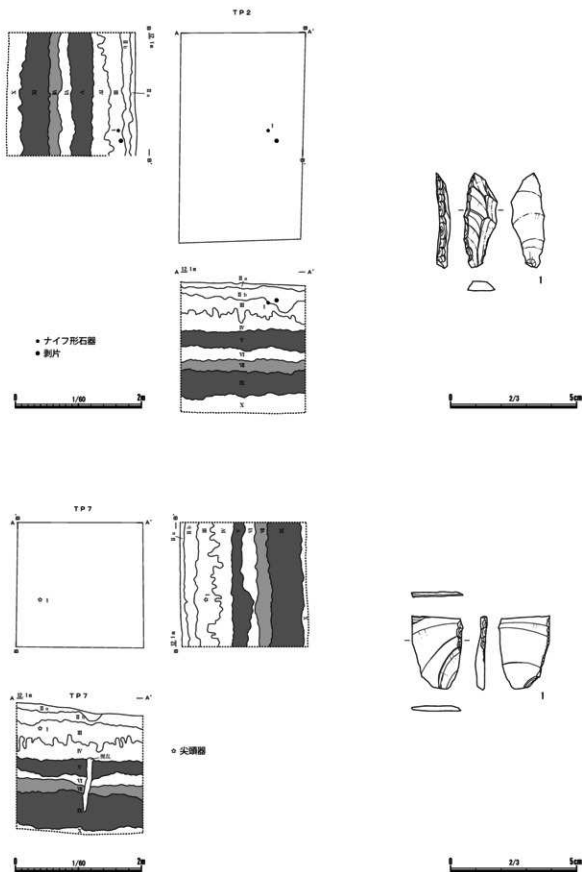
出土層位 立川ローム第VII層に集中した分布傾向がある。この傾向は、重量別の垂直分布でも顕著である。立川ローム第VII層上部から第IX層下部まで分布の広がりが認められる。11号石器集中地点と垂直分布が重複する。

礫構成 礫の総点数は22点である。完形礫は8点で、それ以外は破砕礫である。石質は砂岩18点、チャート4点である。重量別の組成では50g未満が11点、50～100g未満が1点、100g～250g未満が4点、250g～1000g未満が4点、1000g以上が1点である。礫表面・破断面の状態は、表面が赤化するもの14点、表面に付着物が認められるもの4点、破断面が赤化するもの7点、破断面に付着物が認められるものは認められなかった。接合資料は2例である。

(4) 遺構外出土石器 (第29図、図版53-1、第12表)

TP8以外のテストピットから出土した旧石器は、TP2で2点、TP7で1点、TP11(攪乱)で1点の計4点である。内訳は、TP2が安山岩製のナイフ形石器1点と凝灰岩製の剥片1点、TP7が頁岩製の尖頭器1点、TP11が黒曜石製の剥片1点である。

TP2-1は、安山岩製の側縁加工のナイフ形石器である。TP7-1は、頁岩製の周縁加工の尖頭器と思われる。



第29図 遺構外出土石器 (2/3・1/60)

図版番号	遺物番号	石質	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	接合	打面	礫面	実態	備考	
図版 49-1-⑦	59	頁岩	剥片	33.5	17.6	5.7	4.80	⑦			写真	59+176 / 節理剥れ	
	70	黒曜石	剥片	20.3	19.8	4.3	1.10		単	無	×		
	71	黒曜石	砕片	4.0	5.4	1.6	0.04		欠	無	×		
第17図20	72	安山岩	剥片	1.9	1.4	0.5	0.60	④			○	72+89	
	73	黒曜石	剥片	12.0	3.5	2.1	0.09		点	有	×		
	74	黒曜石	砕片	6.7	4.3	3.8	0.10		欠	無	×		
	75	チャート	剥片	24.6	15.9	5.2	1.40		欠	無	×	縦割れ	
	77	黒曜石	剥片	12.9	6.7	3.9	0.20		欠	有	×		
第14図7	78	黒曜石	挟入石器	3.6	3.5	1.5	13.60					○	
	81	黒曜石	剥片	8.8	10.7	2.4	0.17		礫	有	×		
	83	安山岩	剥片	13.5	12.2	2.5	0.30		単	無	×		
	84	安山岩	剥片	9.7	10.6	1.8	0.20		単	無	×		
	86	黒曜石	剥片	11.8	10.3	4.8	0.40		欠	無	×	縦割れ	
	87	黒曜石	砕片	8.4	6.3	1.9	0.08		線	無	×		
	88	安山岩	剥片	10.4	7.3	1.8	0.14		単	無	×		
第17図21	89	安山岩	剥片	1.6	1.2	0.4	0.50	④				○	72+89
	90	黒曜石	剥片	7.8	13.5	5.5	0.35		点	無	×	末端部欠	
	91	黒曜石	剥片	17.4	12.7	3.4	0.40		欠	無	×	調整剥片	
	92	黒曜石	砕片	5.3	4.9	1.5	0.07		欠	無	×		
	93	黒曜石	砕片	7.0	5.9	3.0	0.13		欠	有	×		
	94	黒曜石	砕片	4.7	7.1	0.7	0.01		欠	無	×		
	95	黒曜石	剥片	13.1	20.1	5.0	1.00		欠	無	×		
	96	黒曜石	砕片	6.1	7.6	1.7	0.05		複	無	×		
	97	黒曜石	剥片	9.3	15.2	2.3	0.24		単	有	×		
	98	黒曜石	剥片	15.5	13.8	2.7	0.30		欠	無	×	縦割れ	
	99	黒曜石	剥片	11.9	19.7	3.7	0.50		欠	有	×		
	100	黒曜石	剥片	10.7	10.9	2.7	0.20		欠	無	×		
	101	黒曜石	剥片	11.2	13.7	3.8	0.40		単	無	×		
	102	黒曜石	剥片	13.4	14.0	2.8	0.40		礫	有	×		
	103	黒曜石	剥片	14.4	17.0	5.2	1.10		単	無	×		
第13図1	104	頁岩	ナイフ形石器	7.7	2.8	0.9	13.40					○	黒色頁岩
第14図8	105	安山岩	二次加工ある剥片	2.0	2.8	1.0	4.20					○	
	107	安山岩	剥片	13.4	10.3	2.3	0.19		単	無	×		
	109	安山岩	剥片	16.1	10.8	5.3	0.40		単	無	×		
	110	安山岩	剥片	13.0	17.0	3.2	0.50		単	無	×		
	111	安山岩	剥片	11.5	8.3	3.7	0.24		単	無	×		
第16図16	112	黒曜石	剥片	2.2	1.1	0.6	1.10	②				○	112+460
第13図5	113	安山岩	ナイフ形石器	3.1	2.1	1.0	4.00	⑥				○	113+118
	114	安山岩	砕片	7.9	9.6	1.5	0.08		単	無	×		
	115	安山岩	剥片	21.3	17.9	4.1	0.80		単	無	×		
	116	安山岩	剥片	24.2	30.5	8.4	4.50		単	無	×		
第17図18	117	安山岩	剥片	2.3	2.4	0.9	3.60	③	単			○	117+195
第13図5	118	安山岩	ナイフ形石器	4.9	3.0	1.6	19.20	⑥				○	113+118
	119	安山岩	剥片	19.2	22.2	6.4	1.70		単	無	×		
	120	安山岩	剥片	18.2	15.2	2.3	0.40		単	無	×		
	121	黒曜石	剥片	29.1	33.5	4.6	2.60		単	有	×		
	122	安山岩	砕片	9.1	8.0	2.4	0.15		単	無	×		
	127	黒曜石	砕片	8.7	4.0	1.3	0.04		欠	無	×		
	128	黒曜石	剥片	12.9	7.5	2.5	0.17		複	無	×		
	129	黒曜石	剥片	14.4	14.6	1.3	0.20		欠	無	×		
	130	黒曜石	剥片	11.2	4.6	1.4	0.05		欠	無	×		
	131	黒曜石	剥片	6.9	14.6	1.6	0.25		欠	有	×	縦割れ	
	135	黒曜石	剥片	14.4	9.4	5.9	0.60		欠	無	×		
	136	黒曜石	剥片	10.1	5.7	2.1	0.08		欠	無	×		
	137	黒曜石	砕片	8.8	4.4	2.3	0.08		欠	無	×		
	138	黒曜石	剥片	11.6	8.8	1.8	0.09		欠	無	×		
	139	黒曜石	剥片	6.3	14.9	3.8	0.35		欠	有	×		
	140	黒曜石	剥片	27.3	30.3	13.3	8.70		礫	有	×		
	143	黒曜石	剥片	13.8	18.4	2.4	0.35		欠	無	×		
	144	黒曜石	剥片	12.1	10.1	1.3	0.11		線	無	×		
第16図15	146-1	黒曜石	微細剥離痕ある剥片	1.7	1.3	0.3	0.40	①	欠	有	○	146-1+146-2	

第5表 9号石器集中地点出土石器(1)

第3章 検出された遺構と遺物

検出番号	遺物番号	石質	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	接合	打面	破面	実測	備考
第16図14	146-2	黒曜石	石核	3.8	3.0	1.5	18.70	①	-		○	146-1+146-2
	147	黒曜石	剥片	12.3	15.3	3.5	0.34		欠	無	×	
	148	黒曜石	剥片	13.1	20.3	3.6	0.50		欠	無	×	未端部欠
	149	黒曜石	剥片	18.0	9.4	2.5	0.35		欠	無	×	
	150	黒曜石	剥片	9.8	8.3	1.5	0.08		線	無	×	
	151	黒曜石	剥片	6.6	12.4	2.4	0.12		線	無	×	未端部欠
	153	黒曜石	剥片	15.3	9.9	9.9	0.80		欠	無	×	未端部欠
	156	黒曜石	剥片	8.8	17.0	5.5	0.80		欠	無	×	
	157	チャート	剥片	37.7	21.5	11.4	5.80		壊	有	×	
	158	黒曜石	剥片	11.4	12.0	2.2	0.22		壊	有	×	
	159	黒曜石	剥片	11.9	14.1	3.2	0.38		欠	無	×	
第13図2	160	黒曜石	剥片	31.4	28.6	14.8	11.20		単	無	×	
第13図2	162	黒曜石	ナイフ形石器	3.8	1.8	1.0	5.30		欠	無	○	切出形
	163	黒曜石	ナイフ形石器	2.6	1.8	0.9	2.30	⑤	欠	無	○	163+165
第15図11	164	黒曜石	石核	3.2	5.1	2.6	34.60		-		○	
第13図4	165	黒曜石	ナイフ形石器	2.8	1.7	1.1	3.20	⑤			○	163+165
	166	黒曜石	剥片	39.6	31.6	20.0	19.60		壊	有	×	未端部欠
第14図6	167	碧玉	抉入石器	3.7	4.1	1.9	24.10				○	
	168	黒曜石	剥片	30.2	49.8	24.0	41.70		欠	無	×	原石破砕
第15図12	169	黒曜石	石核	3.2	4.7	4.3	49.70		-	有	○	
第15図13	170	黒曜石	石核	2.3	4.1	1.5	10.10				○	
	171	黒曜石	剥片	6.4	6.0	1.8	0.04		線	無	×	未端部欠
	176	頁岩	剥片	29.8	15.0	6.2	3.20	⑦			×	写真 59+176 / 節理割れ
図版49-1-⑩	190	黒曜石	剥片	6.5	6.0	0.8	0.03		線	無	×	
	193	黒曜石	ナイフ形石器	4.4	2.3	1.4	8.10		欠	無	○	切出形 / 衝撃剥離
	194-1	黒曜石	剥片	5.9	11.7	2.2	0.13		壊	有	×	未端部欠
第17図19	194-2	黒曜石	剥片	9.9	5.4	3.0	0.17		線	有	×	
	195	安山岩	剥片	1.9	2.6	0.6	1.70	③	単	無	○	117+195
	196	安山岩	剥片	7.5	4.1	2.3	0.05		欠	無	×	縦割れ
	197	安山岩	剥片	15.5	16.0	3.8	0.80		単	無	×	
	199	黒曜石	剥片	4.9	6.4	0.6	0.03		欠	無	×	
	200	黒曜石	剥片	35.7	27.1	13.1	9.90		欠	無	×	
	201	黒曜石	剥片	15.0	18.7	5.0	1.00		単	無	×	
	203	黒曜石	剥片	14.3	7.2	2.6	0.26		単	無	×	
	206	黒曜石	剥片	20.3	15.7	4.2	0.70		欠	無	×	
	207	黒曜石	剥片	8.4	7.0	1.6	0.08		単	無	×	
	208	黒曜石	剥片	13.1	14.8	2.9	0.40		壊	有	×	
	209	黒曜石	剥片	10.4	7.9	1.8	0.10		線	無	×	
	422	黒曜石	剥片	6.1	5.0	1.6	0.05		単	無	×	縦割れ
	426	黒曜石	剥片	5.9	8.0	5.2	0.21		欠	有	×	
	440	黒曜石	剥片	24.0	28.5	7.2	3.40		欠	無	×	
	446	黒曜石	剥片	11.8	26.3	3.7	0.70		単	無	×	
	448	黒曜石	剥片	10.0	13.4	2.7	0.17		欠	無	×	
449	黒曜石	剥片	7.6	10.8	5.4	0.33		線	有	×		
450	黒曜石	剥片	7.6	7.0	1.4	0.09		線	有	×		
451	黒曜石	剥片	5.8	8.7	2.2	0.09		欠	無	×	未端部欠	
453	黒曜石	剥片	14.9	6.2	5.7	0.39		欠	有	×	縦割れ	
454	黒曜石	剥片	11.1	6.2	3.5	0.27		欠	有	×		
459	黒曜石	剥片	19.6	9.6	4.8	0.60		欠	無	×	縦割れ	
第17図17	460	黒曜石	剥片	4.7	2.3	1.7	16.00	②	欠	無	○	112+460 / 原石破砕
	463	黒曜石	剥片	12.3	6.6	3.8	0.23		欠	無	×	
第14図9	464	チャート	剥片	32.5	21.0	7.0	3.40		壊	有	○	
	465	黒曜石	剥片	14.0	10.4	3.0	0.41		欠	無	×	
	466	黒曜石	剥片	5.3	8.1	1.6	0.08		複	無	×	縦割れ
第14図10	467	チャート	剥片	59.5	41.2	10.8	21.90		単	無	○	
	469	黒曜石	剥片	14.3	18.3	2.8	0.45		線	無	×	
	471	黒曜石	剥片	9.5	15.2	3.0	0.22		単	無	×	
	472	チャート	剥片	25.3	12.0	4.9	1.00		単	無	×	
	473	チャート	剥片	23.6	14.2	5.2	1.70		欠	無	×	
	474	黒曜石	剥片	5.3	7.1	2.7	0.09		欠	有	×	

第5表 9号石器集中地点出土石器(2)

群団番号	遺物番号	石質	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	接合	打面	礫面	実測	備考
第19図1	1	チャート	石核	113.3	84.4	64.0	799.80				○	
第20図3	2	頁岩	石核	9.4	6.3	2.5	178.30	①			○	2+3+12+52
第20図4	3	頁岩	二次加工ある剥片	4.9	4.1	1.2	25.00	①			○	2+3+12+52
	4	チャート	剥片	9.1	4.4	2.4	0.10		欠	無	×	
	5	チャート	剥片	12.9	13.5	1.5	0.30		欠	無	×	
	6	チャート	剥片	24.4	14.2	5.4	1.90		単	無	×	
	7	チャート	剥片	10.2	7.7	1.1	0.07		欠	無	×	
	8	チャート	剥片	12.7	10.3	1.5	0.20		欠	無	×	
	9	チャート	剥片	15.1	14.9	1.7	0.30		線	無	×	
	10	チャート	剥片	7.1	11.0	2.0	0.12		線	無	×	
	11	チャート	剥片	8.9	8.7	2.1	0.10		欠	無	×	
第20図5	12	頁岩	剥片	2.6	3.5	0.8	4.30	①			○	2+3+12+52
	13	チャート	剥片	11.4	4.6	1.5	0.07		単	無	×	
	15	チャート	剥片	9.0	14.0	1.8	0.20		単	無	×	
	16	チャート	剥片	13.5	24.6	8.1	2.20		欠	無	×	
	17	チャート	剥片	12.3	10.0	1.4	0.10		欠	無	×	
	18	チャート	剥片	13.8	11.3	1.3	0.20		点	無	×	
	19	チャート	剥片	22.7	14.2	3.0	0.90		欠	無	×	
	20	チャート	剥片	11.9	7.6	1.8	0.10		複	無	×	
	21	チャート	剥片	7.9	6.6	3.0	0.17		欠	有	×	
	22	チャート	剥片	12.2	11.2	2.3	0.30		複	無	×	下半部欠
	23	チャート	剥片	5.2	9.9	2.3	0.10		単	無	×	
	24	チャート	剥片	5.6	8.1	2.0	0.04		欠	無	×	
	25	チャート	剥片	12.9	8.0	2.5	0.20		複	無	×	末端部欠/破剥れ
	26	チャート	剥片	15.6	12.6	1.8	0.30		複	無	×	末端部欠
	27	チャート	剥片	6.9	8.3	1.6	0.08		単	無	×	
第19図2	29	チャート	剥片	17.8	11.8	4.5	1.00		複	無	○	調整剥片
	30	頁岩	剥片	31.6	13.1	3.9	1.60		単	無	×	
	31	チャート	剥片	12.9	9.5	2.6	0.20		欠	無	×	末端部欠
	32	チャート	剥片	13.8	20.1	3.2	0.80		欠	無	×	
	33	チャート	剥片	10.8	6.2	4.3	0.21		欠	無	×	
	34	チャート	剥片	12.2	13.7	3.2	0.40		欠	無	×	
	35	チャート	剥片	8.3	12.4	2.2	0.21		欠	無	×	
	36	チャート	剥片	5.1	7.5	1.3	0.03		線	無	×	
	37	チャート	剥片	9.5	7.2	2.0	0.06		線	無	×	
	38	チャート	剥片	5.4	8.5	1.4	0.07		欠	無	×	
	39	チャート	剥片	9.8	5.4	2.6	0.10		欠	有	×	
	40	チャート	剥片	23.0	10.1	5.1	1.00		欠	無	×	
	41	チャート	剥片	4.6	5.9	1.9	0.05		線	無	×	
	42	チャート	剥片	11.5	4.6	1.4	0.07		単	無	×	破剥れ
	43	チャート	剥片	7.7	9.6	1.7	0.08		欠	無	×	
	44	チャート	剥片	11.3	7.1	0.8	0.08		欠	無	×	
	45	チャート	剥片	23.8	12.9	4.7	1.20		欠	無	×	
	46	チャート	剥片	22.0	10.1	3.2	0.40		単	無	×	
	47	チャート	剥片	18.4	11.6	3.0	0.40		線	無	×	
	48	チャート	剥片	9.2	6.9	1.7	0.12		複	無	×	
	49	チャート	剥片	12.5	9.6	1.2	0.14		欠	無	×	
	50	チャート	剥片	3.9	5.4	0.6	0.05		欠	無	×	
	51	チャート	剥片	10.3	7.6	3.0	0.22		礫	有	×	
第20図6	52	頁岩	剥片	2.8	4.2	0.8	9.80	①			○	2+3+12+52

第6表 10号石器集中地点出土石器

群団番号	遺物番号	石質	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	接合	打面	礫面	実測	備考
第23図1	476	チャート	ナイフ形石器	2.9	1.3	0.7	2.10				○	
	477	チャート	剥片	21.3	19.3	2.9	1.60		複	無	×	
	478	チャート	剥片	31.4	29.2	6.8	4.60		単	有	×	
	479	チャート	剥片	59.2	32.9	15.6	21.40		欠	無	×	
第23図3	480	チャート	剥片	53.5	50.1	23.0	43.00		単	有	○	
	481	チャート	剥片	16.0	8.6	7.3	0.62		欠	有	×	
第25図7	482	チャート	剥片	5.6	4.3	2.5	33.40	①			○	482+503+520+522+558
	483	チャート	剥片	26.1	18.4	3.7	1.50		欠	無	×	
第23図4	484	チャート	剥片	55.8	48.3	18.9	26.20		単	有	○	
	485	チャート	剥片	20.1	11.5	5.3	0.90		欠	無	×	
	486	チャート	剥片	10.4	11.2	4.1	0.31		欠	無	×	

第7表 11号石器集中地点出土石器(1)

第3章 検出された遺構と遺物

発掘番号	遺物番号	石質	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	接合	打面	礫面	実測	備考
	487	チャート	剥片	6.9	21.8	6.0	0.40		単	無	×	
	488	チャート	剥片	23.9	27.8	3.8	2.70		欠	無	×	調整剥片/縦割れ
	489	チャート	剥片	18.8	6.4	2.5	0.20		欠	無	×	
	490	チャート	剥片	30.8	24.9	15.2	8.60		欠	有	×	
	491	チャート	剥片	15.3	10.6	1.9	0.24		欠	無	×	
	492	チャート	剥片	20.6	18.6	5.1	2.00		欠	有	×	
	493	チャート	剥片	29.8	24.1	11.3	5.20		単	無	×	調整剥片
	494	チャート	剥片	32.4	12.4	4.3	1.20		欠	無	×	
	495	チャート	砕片	7.0	6.7	2.6	0.10		複	無	×	
第23図5	497	チャート	剥片	36.1	16.8	5.7	3.40		単	無	○	
	498	チャート	砕片	9.4	6.4	1.3	0.06		点	無	×	
	499	チャート	剥片	12.9	13.8	4.6	0.48		欠	無	×	
	501	チャート	砕片	7.3	5.8	1.7	0.08		欠	無	×	
	502	チャート	剥片	11.7	12.4	4.1	0.43		礫	有	×	
第25図8	503	チャート	剥片	4.3	4.3	1.5	24.20	①			○	482+503+520+522+558
第23図2	504	チャート	楔形石器	1.1	0.9	0.6	0.83				○	
	505	チャート	砕片	4.5	3.1	3.4	0.08		欠	有	×	
	506	チャート	剥片	20.5	14.1	3.7	0.70		単	無	×	
	507	チャート	砕片	3.7	9.5	1.6	0.06		欠	無	×	
	508	頁岩	剥片	40.0	48.9	9.2	17.90		単	無	×	黒色頁岩
	511	チャート	剥片	12.2	15.3	5.3	1.00		単	無	×	下半部欠
	512	チャート	剥片	14.2	9.6	2.7	0.31		欠	無	×	
	513	チャート	剥片	13.2	10.4	1.7	0.24		単	無	×	
第23図6	514	チャート	剥片	49.5	11.5	8.1	3.40		欠	無	○	
	515	チャート	剥片	16.0	27.7	7.3	2.20		欠	無	×	
	516	チャート	剥片	12.7	6.8	2.7	0.28		欠	無	×	縦割れ
	517	頁岩	剥片	55.9	24.8	10.6	12.70		欠	無	×	石刃
	518	チャート	砕片	9.1	5.9	2.8	0.15		礫	無	×	
	519	チャート	剥片	10.3	5.0	3.6	0.17		礫	有	×	
第25図11	520	チャート	剥片	3.7	2.2	1.6	11.10	①			○	482+503+520+522+558
	521	チャート	砕片	7.3	6.3	1.2	0.04		礫	無	×	
第25図9	522	チャート	剥片	3.5	1.4	1.0	2.60	①			○	482+503+520+522+558
	523	チャート	剥片	7.2	11.7	2.8	0.14		単	無	×	
	524	チャート	砕片	8.0	9.2	1.7	0.08		礫	無	×	
	525	チャート	剥片	33.8	23.2	2.7	2.10		欠	無	×	
	526	チャート	砕片	6.6	9.3	2.7	0.12		礫	有	×	
	527	チャート	剥片	11.6	6.2	1.8	0.10		単	無	×	
	528	チャート	剥片	26.7	11.2	3.5	0.90		欠	無	×	
	529	チャート	剥片	11.0	15.8	3.7	0.37		礫	無	×	
	530	チャート	剥片	14.2	17.5	5.1	1.20		欠	有	×	縦割れ
	532	チャート	剥片	20.3	39.9	17.3	14.40		欠	有	×	
	533	チャート	剥片	14.1	7.0	3.9	0.44		欠	有	×	
	535	チャート	剥片	15.9	17.7	6.2	1.00		単	無	×	
	544	チャート	剥片	33.9	16.0	5.7	2.40		欠	無	×	
	549	チャート	剥片	23.8	14.2	7.3	1.30		欠	無	×	
	551	チャート	剥片	21.3	12.0	2.5	0.70		欠	無	×	
	552	チャート	剥片	10.8	3.3	2.7	0.09		点	無	×	縦割れ
	553	チャート	剥片	18.9	20.6	3.1	0.80		複	無	×	
	554	チャート	剥片	21.2	11.6	7.2	0.90		礫	有	×	
	555	チャート	剥片	25.2	17.4	2.8	1.30		礫	無	×	
	556	チャート	砕片	6.9	6.4	1.6	0.06		欠	無	×	
	557	チャート	剥片	12.8	8.4	2.2	0.18		欠	無	×	
第25図10	558	チャート	剥片	1.6	2.4	0.6	1.80	①			○	482+503+520+522+558
	559	チャート	剥片	18.3	22.8	4.5	1.80		単	無	×	
	560	チャート	剥片	10.3	10.0	5.0	0.41		礫	有	×	
	561	チャート	剥片	25.7	11.9	5.4	0.90		欠	無	×	縦割れ
	562	チャート	剥片	8.7	10.0	3.5	0.20		欠	無	×	
	563	チャート	剥片	17.5	25.7	7.8	3.30		欠	無	×	
	564	チャート	剥片	21.1	17.9	7.1	1.70		欠	有	×	
	531-1	黒曜石	砕片	6.8	2.4	2.0	0.04		欠	無	×	
	531-2	黒曜石	砕片	3.4	4.3	1.7	0.06		単	無	×	

第7表 11号石器集中地点出土石器(2)

遺物 番号	種類	石質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	完成度	赤化	付着物	破断面 赤化	破断面 付着物	接合	備考
55	10 礫	砂岩	15.4	27.0	15.1	11.30	D	○	×	○	×		
56	10 礫	砂岩	24.9	28.8	32.3	27.90	D	○	×	○	×	27	
57	10 礫	砂岩	18.8	14.3	9.6	2.60	E	○	×	○	×		
58	10 礫	砂岩	17.9	14.0	22.7	6.20	D	○	×	○	×		
60	10 礫	砂岩	20.2	12.5	8.2	2.10	E	×	×	×	×		
61	10 礫	砂岩	10.4	17.4	22.9	6.70	D	○	×	○	×	22	
62	10 礫	砂岩	15.6	13.0	12.5	1.90	E	○	×	○	×		
63	10 礫	砂岩	15.7	14.1	7.6	2.10	E	○	×	○	×		
64	10 礫	砂岩	18.9	34.4	19.0	25.60	D	○	×	○	×	25	
65	10 礫	砂岩	38.8	12.7	5.7	2.40	E	○	×	○	×		
66	10 礫	砂岩	15.4	5.3	11.4	1.00	E	○	×	○	×		
67	10 礫	チャート	20.9	15.0	12.1	4.70	D	○	×	○	×		
68	10 礫	砂岩	15.0	7.0	7.6	0.50	E	○	×	○	×		
69	10 礫	砂岩	7.2	8.7	6.4	0.42	E	○	×	○	×		
76	10 礫	砂岩	48.7	18.8	9.0	7.10	D	○	×	○	○	45	
79	10 礫	砂岩	43.4	23.0	11.0	6.80	D	○	×	○	×	46	
80	10 礫	砂岩	46.4	20.2	16.1	15.50	D	○	○	○	×		
82	10 礫	砂岩	23.3	16.4	3.7	1.10	E	○	○	○	×		
85	10 礫	砂岩	19.0	14.3	2.6	0.50	E	○	×	○	×	46	
106	10 礫	チャート	21.8	20.5	10.8	4.20	E	○	×	○	×		
108	10 礫	砂岩	18.7	3.8	6.8	0.40	E	○	×	×	×		
123	10 礫	砂岩	23.6	7.5	10.4	2.20	E	○	×	○	×		
124	10 礫	チャート	16.4	15.5	10.5	2.20	E	○	×	○	×		
125	10 礫	砂岩	20.7	14.5	12.0	3.40	C	×	×	×	×		
126	10 礫	砂岩	6.9	12.5	16.1	1.30	E	×	×	×	×		
132	10 礫	砂岩	20.9	24.2	5.8	3.30	E	×	×	×	×		
133	10 礫	砂岩	55.4	39.7	28.2	50.30	D	○	×	○	×	36	
134	10 礫	砂岩	-	-	-	16.70	E	×	×	×	×		小片計測不能
141	10 礫	チャート	18.5	11.8	10.1	2.00	E	○	×	○	×		
142	10 礫	チャート	25.9	21.2	15.4	9.00	D	○	×	○	×		
145	10 礫	砂岩	19.2	16.3	6.0	2.60	C	×	×	×	×		
152	10 礫	砂岩	29.6	14.9	4.6	2.30	E	○	○	○	×		
154	10 礫	チャート	30.6	19.9	15.6	11.70	D	○	×	○	×		
155	10 礫	チャート	23.6	14.5	12.0	2.50	E	○	×	○	×		
161	10 礫	砂岩	2.4	14.6	9.9	0.40	E	○	×	×	×		
172	10 礫	砂岩	32.7	36.5	15.7	22.60	D	○	×	○	×	38	
173	10 礫	砂岩	29.7	41.4	24.0	33.00	D	○	○	○	○	35	
174	10 礫	チャート	24.9	26.6	12.8	6.10	D	×	×	×	×		
175	10 礫	砂岩	10.8	21.8	24.9	5.40	E	○	×	○	×		
178	10 礫	チャート	25.7	19.9	8.5	5.60	D	○	×	○	×		
179	10 礫	チャート	30.0	22.8	12.5	7.30	D	○	×	○	×		
180	10 礫	砂岩	44.1	20.2	18.0	15.60	D	○	×	○	×	36	
181	10 礫	砂岩	31.1	9.6	9.6	2.30	D	○	×	○	○		
182	10 礫	砂岩	27.5	20.3	10.7	6.50	D	○	×	○	×	24	
183	10 礫	砂岩	31.4	29.7	17.4	12.60	D	○	×	○	×	40	
184	10 礫	砂岩	35.4	26.0	8.6	8.50	D	○	×	×	×		
185	10 礫	砂岩	17.9	16.3	6.8	1.70	E	×	×	×	×		
186	10 礫	チャート	29.2	30.5	13.5	8.30	D	○	×	○	×		
187	10 礫	砂岩	33.3	23.4	17.3	16.30	D	○	×	○	×		
188	10 礫	チャート	35.3	31.1	19.1	19.00	D	○	×	○	×	3	
189	10 礫	砂岩	33.8	16.2	10.8	3.90	E	○	○	○	×	25	
191	10 礫	砂岩	25.4	19.0	18.7	6.40	E	○	×	×	○	35	
192	10 礫	砂岩	28.5	25.0	8.3	4.70	D	○	×	○	×	37	
198	10 礫	砂岩	28.0	8.8	4.1	1.10	E	○	×	○	×		
202	10 礫	砂岩	14.6	6.3	2.4	0.24	E	○	×	×	×		
204	10 礫	砂岩	16.4	6.8	5.0	0.56	E	○	×	○	×		
205	10 礫	砂岩	35.5	29.1	13.4	14.80	D	×	×	×	×		
210	10 礫	砂岩	86.1	35.8	40.6	153.30	C	○	○	○	×	14	
211	10 礫	砂岩	110.8	67.5	38.3	326.00	A	×	×	-	-		
212	10 礫	砂岩	61.3	51.1	22.7	66.20	D	○	×	○	×		
213	10 礫	砂岩	67.7	48.3	27.3	100.10	A	○	×	-	-		
214	10 礫	砂岩	-	-	-	22.70	E	×	×	×	×		小片計測不能
215	10 礫	砂岩	65.0	29.4	17.8	23.20	D	○	×	○	○		
216	10 礫	砂岩	59.4	47.0	33.2	110.40	A	×	×	-	-		
217	10 礫	砂岩	83.4	50.9	31.8	144.30	C	×	×	×	×		
218	10 礫	砂岩	88.8	41.3	25.0	108.80	C	○	○	○	×	14	
219	10 礫	砂岩	60.4	32.4	18.3	34.30	D	×	×	×	×		

第8表 10号礫群出土礫属性表(1)

第3章 検出された遺構と遺物

遺物番号	礫部	石質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	完成度	赤化	付着物	破断面 赤化	破断面 付着物	接合	備考
220	10 礫	砂岩	108.6	102.7	57.1	935.00	A	×	×	-	-		
221	10 礫	砂岩	39.2	35.6	16.8	37.20	D	○	×	○	×	×	43
222	10 礫	砂岩	51.0	35.9	26.9	47.30	D	○	×	○	×	×	27
223	10 礫	砂岩	59.4	29.7	39.5	89.60	C	○	○	○	×		
224	10 礫	砂岩	66.7	53.9	24.8	94.50	D	○	×	○	×	×	36
225	10 礫	砂岩	33.6	34.6	14.6	18.70	D	○	×	○	×		
226	10 礫	砂岩	31.9	21.2	30.2	14.00	D	○	×	○	×	×	29
227	10 礫	砂岩	98.3	96.9	50.6	416.90	C	○	○	○	○	○	29
228	10 礫	砂岩	52.6	44.8	22.5	47.80	D	○	×	○	○	○	15
229	10 礫	砂岩	49.3	47.0	37.7	110.70	D	○	×	○	×	×	34
230	10 礫	砂岩	34.0	41.7	20.4	42.30	D	○	×	○	×	×	34
231	10 礫	砂岩	39.5	45.8	32.9	71.70	D	○	○	○	○	○	34
232	10 礫	チャート	23.9	24.8	8.9	6.00	D	○	×	○	×		
233	10 礫	砂岩	52.4	20.3	30.6	31.70	D	○	×	○	×	×	38
234	10 礫	砂岩	67.0	47.9	25.7	74.40	D	○	○	○	×	×	21
235	10 礫	砂岩	51.1	29.1	11.8	24.90	D	○	×	○	×	×	38
236	10 礫	チャート	63.4	46.0	27.3	66.00	D	○	×	○	×	×	5
237	10 礫	砂岩	35.7	26.1	35.5	37.50	D	○	○	○	×	×	36
238	10 礫	砂岩	31.6	27.7	34.2	26.70	D	○	○	○	○	○	34
239	10 礫	砂岩	36.8	23.1	18.5	22.30	D	○	×	○	×	×	12
240	10 礫	チャート	44.3	33.4	19.4	30.10	E	○	×	○	×	×	5
241	10 礫	砂岩	35.3	38.9	26.6	44.90	D	○	×	○	×	×	42
242	10 礫	砂岩	45.5	28.3	19.9	13.30	D	×	×	×	×	×	
243	10 礫	砂岩	60.9	40.4	23.8	46.60	D	○	○	○	×	×	15
244	10 礫	砂岩	97.5	71.6	30.9	179.00	D	○	×	○	×	×	26
245	10 礫	砂岩	173.3	103.6	60.2	857.00	C	○	×	○	×	×	26
246	10 礫	砂岩	41.3	24.0	15.5	29.30	D	○	×	○	×	×	28
247	10 礫	砂岩	25.6	57.6	29.9	13.90	D	○	×	○	×	×	26
248	10 礫	砂岩	86.5	67.2	43.3	280.40	C	○	○	○	○	○	28
249	10 礫	砂岩	52.8	42.6	22.7	28.90	D	○	○	○	×	×	28
250	10 礫	砂岩	81.2	66.5	23.8	138.80	C	○	○	○	×	×	15
251	10 礫	砂岩	66.3	37.4	27.0	56.20	D	○	○	○	×	×	
252	10 礫	砂岩	82.4	74.3	28.4	153.50	C	○	○	○	×	×	
253	10 礫	砂岩	50.2	39.4	30.1	56.60	D	○	×	○	×	×	
254	10 礫	砂岩	62.8	46.9	17.4	45.80	D	×	×	×	×	×	
255	10 礫	砂岩	34.9	26.5	14.6	10.60	D	○	○	○	○	○	
256	10 礫	チャート	41.9	21.4	16.0	17.00	D	○	×	○	×	×	5
257	10 礫	砂岩	26.6	24.6	17.5	14.30	D	○	×	○	×	×	34
258	10 礫	砂岩	70.3	38.8	24.6	50.50	D	○	×	○	×	×	26
259	10 礫	砂岩	43.9	23.6	13.2	12.10	D	○	○	○	×	×	
260	10 礫	砂岩	56.1	23.8	12.2	15.20	D	○	×	×	×	×	44
261	10 礫	砂岩	56.3	35.6	10.8	17.60	D	○	×	×	×	×	44
262	10 礫	砂岩	60.0	25.6	24.3	158.60	C	○	○	○	×	×	20
263	10 礫	砂岩	81.7	68.4	45.9	359.20	A	×	×	-	-		
264	10 礫	砂岩	39.9	29.7	34.8	48.20	A	○	○	×	×		
265	10 礫	砂岩	59.8	29.3	29.9	51.30	D	○	×	○	×	×	18
266	10 礫	チャート	36.6	25.6	23.1	29.60	D	○	○	○	○	○	4
267	10 礫	砂岩	52.7	42.5	17.0	44.80	D	○	×	○	×	×	22
268	10 礫	砂岩	50.2	57.9	31.2	84.60	D	○	×	○	×	×	10
269	10 礫	砂岩	-	-	-	71.60	E	×	×	×	×	×	小片計測不能
270	10 礫	砂岩	71.4	57.1	33.9	158.60	C	○	○	○	×	×	10
271	10 礫	砂岩	35.4	28.3	18.2	29.30	D	○	×	○	×	×	35
272	10 礫	砂岩	76.7	57.0	43.6	219.30	A	○	○	-	-		
273	10 礫	砂岩	-	-	-	38.00	E	×	×	×	×	×	小片計測不能
274	10 礫	砂岩	76.1	52.5	36.1	160.60	C	○	○	○	×	×	16
275	10 礫	砂岩	52.9	36.1	26.6	52.40	D	○	○	○	○	○	35
276	10 礫	砂岩	50.5	50.9	8.8	26.50	D	○	×	○	×	×	22
277	10 礫	砂岩	35.2	36.7	17.8	21.70	D	○	×	○	×	×	37
278	10 礫	砂岩	40.9	44.5	25.5	36.10	D	○	×	○	×	×	36
279	10 礫	砂岩	55.7	33.0	21.0	37.20	D	○	×	○	×	×	21
280	10 礫	砂岩	39.2	17.5	5.9	4.00	D	○	×	○	×	×	30
281	10 礫	砂岩	98.5	41.4	30.0	176.70	A	○	○	-	-		
282	10 礫	砂岩	41.2	23.8	15.3	14.70	D	○	×	○	×	×	27
283	10 礫	砂岩	77.5	28.6	14.4	27.40	D	○	×	○	×	×	37
284	10 礫	砂岩	53.2	20.6	18.3	37.00	D	○	×	○	×	×	22
285	10 礫	チャート	54.9	33.7	27.5	47.00	D	○	○	○	○	○	2
286	10 礫	砂岩	104.5	74.9	36.1	331.20	B	○	○	○	×	×	

第8表 10号礫群出土礫属性表(2)

遺物 番号	礫形	石質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	完成度	赤化	付着物	破断面 赤化	破断面 付着物	接合	備考
287	10 礫	砂岩	48.8	32.7	28.5	42.10	D	○	○	○	○	○	35
288	10 礫	砂岩	29.2	32.8	31.7	38.40	D	○	×	○	○	○	37
289	10 礫	砂岩	57.8	23.0	19.6	21.20	D	○	×	○	×	37	
290	10 礫	砂岩	51.9	59.2	19.7	61.20	D	○	×	○	×	22	
291	10 礫	砂岩	47.6	37.7	30.1	48.60	D	○	×	○	×		
292	10 礫	砂岩	67.5	52.9	28.2	63.50	D	○	○	○	○	○	19
293	10 礫	砂岩	56.1	47.1	14.2	45.70	D	○	×	○	×	22	
294	10 礫	砂岩	48.6	24.4	13.5	18.30	D	○	×	○	×	33	
295	10 礫	砂岩	35.4	25.4	17.1	18.10	D	○	×	○	×	22	
296	10 礫	砂岩	50.2	29.3	31.2	45.70	D	○	×	○	×	17	
297	10 礫	砂岩	79.7	47.1	35.7	167.60	D	○	×	○	×	30	
298	10 礫	砂岩	31.0	30.2	15.7	17.30	D	○	×	○	×		
299	10 礫	砂岩	66.1	42.7	27.0	84.70	D	○	×	○	×	31	
300	10 礫	砂岩	73.9	34.0	24.3	57.30	D	○	×	○	×	31	
301	10 礫	砂岩	45.5	38.8	22.1	38.20	D	○	×	○	×	31	
302	10 礫	砂岩	49.6	37.8	23.1	37.00	D	○	×	○	○	31	
303	10 礫	砂岩	61.3	46.6	25.3	104.10	C	○	×	○	×	13	
304	10 礫	砂岩	96.3	49.2	20.1	93.60	C	○	○	○	○	30	
305	10 礫	砂岩	120.5	88.6	58.6	814.40	B	○	○	○	○	○	24
306	10 礫	砂岩	58.8	46.0	21.4	49.90	D	○	×	○	×	31	
307	10 礫	砂岩	43.1	45.9	25.7	58.00	D	○	×	○	×	35	
308	10 礫	砂岩	28.8	21.6	14.9	9.30	D	○	○	○	○		
309	10 礫	砂岩	50.5	48.0	27.6	41.30	D	○	○	○	×	25	
310	10 礫	砂岩	52.9	40.4	16.3	27.00	D	○	×	○	×	31	
311	10 礫	砂岩	51.5	41.2	32.7	73.00	D	○	×	○	×	13	
312	10 礫	砂岩	73.4	17.6	59.2	78.60	D	○	×	○	×	16	
313	10 礫	砂岩	74.2	71.0	40.4	172.20	D	○	○	○	○	36	
314	10 礫	砂岩	62.3	51.4	28.2	96.60	D	○	○	○	○	24	
315	10 礫	砂岩	54.2	36.1	30.0	63.30	D	○	○	○	○	32	
316	10 礫	砂岩	62.7	39.0	22.7	49.40	D	○	○	○	×	30	
317	10 礫	砂岩	38.6	28.1	10.2	8.90	D	○	×	○	×	37	
318	10 礫	砂岩	29.4	19.9	11.4	7.40	D	○	×	○	×	37	
319	10 礫	砂岩	51.2	52.5	31.8	78.90	D	○	○	○	○	35	
320	10 礫	砂岩	57.4	29.8	29.0	39.20	D	○	×	×	×	35	
321	10 礫	砂岩	56.2	18.6	13.4	14.20	D	○	×	○	×	31	
322	10 礫	砂岩	44.7	42.1	15.7	30.40	D	○	×	○	×	13	
323	10 礫	チャート	34.0	31.6	24.2	28.00	D	○	×	○	×	1	
324	10 礫	チャート	17.8	22.6	14.0	5.30	D	○	×	○	×	1	
325	10 礫	砂岩	63.1	38.5	22.0	37.30	D	○	×	○	×	30	
326	10 礫	砂岩	46.4	31.0	14.8	17.00	D	○	×	○	×		
327	10 礫	砂岩	36.2	20.1	12.4	14.20	D	○	×	○	×	38	
328	10 礫	砂岩	72.9	69.3	49.2	225.80	A	○	○	-	-		
329	10 礫	砂岩	46.6	36.2	15.7	25.10	D	○	×	○	×	11	
330	10 礫	砂岩	88.4	66.6	43.1	232.90	C	○	○	○	○	○	19
331	10 礫	砂岩	52.2	30.0	20.9	47.20	D	○	×	○	○	38	
332	10 礫	砂岩	91.2	55.2	36.1	225.40	A	○	○	-	-		
333	10 礫	砂岩	96.8	51.9	48.0	301.70	A	○	○	-	-		
334	10 礫	砂岩	54.9	41.5	22.3	53.00	D	○	○	○	○	38	
335	10 礫	砂岩	77.3	73.2	48.9	280.90	C	○	○	○	○	31	
336	10 礫	砂岩	15.6	50.6	48.9	38.50	D	○	○	○	×	28	
337	10 礫	砂岩	24.8	51.3	31.5	256.60	B	○	○	×	×		
338	10 礫	砂岩	76.0	69.0	52.7	225.50	C	○	○	○	×		
339	10 礫	砂岩	112.4	59.1	26.6	215.50	C	○	○	○	○	○	33
340	10 礫	砂岩	48.4	61.2	31.3	124.40	C	○	○	○	○	○	25
341	10 礫	チャート	41.1	31.3	28.9	30.20	D	○	×	○	×	3	
342	10 礫	チャート	42.6	35.6	34.8	75.90	D	○	×	○	×		
343	10 礫	砂岩	49.4	29.4	21.3	22.50	D	○	×	○	×	35	
344	10 礫	砂岩	80.6	59.7	41.6	208.70	C	○	×	○	×		
345	10 礫	砂岩	56.0	41.8	35.4	110.30	D	○	○	○	○	○	27
346	10 礫	砂岩	49.7	40.0	34.3	51.10	D	×	×	×	×	39	
347	10 礫	砂岩	113.9	77.6	58.7	507.00	A	○	○	-	-		
348	10 礫	砂岩	29.7	50.8	22.3	47.40	D	○	○	○	×	27	
349	10 礫	砂岩	50.7	55.0	30.6	122.20	D	○	×	○	○	27	
350	10 礫	チャート	32.7	21.5	16.1	13.50	D	○	×	○	×	6	
351	10 礫	砂岩	69.2	34.9	22.3	58.30	D	○	○	×	×	30	
352	10 礫	砂岩	71.7	46.5	23.3	67.90	D	○	×	○	×	11	
353	10 礫	砂岩	71.7	55.6	39.5	224.30	A	○	×	-	-		

第8表 10号礫群出土礫属性表(3)

第3章 検出された遺構と遺物

遺物 番号	礫部	石質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	完成度	赤化	付着物	破断面 赤化	破断面 付着物	接合	備考
354	10 礫	砂岩	79.0	38.5	23.3	68.50	C	○	×	○	×	11	
355	10 礫	チャート	33.5	27.3	12.3	10.10	D	○	×	○	×	4	
356	10 礫	砂岩	65.8	20.9	22.4	42.10	D	○	○	○	○	18	
357	10 礫	チャート	44.9	38.1	31.7	46.30	D	×	×	○	×	1	
358	10 礫	砂岩	55.4	28.7	33.3	58.60	D	○	×	○	×		
359	10 礫	砂岩	68.5	25.2	25.5	57.10	D	○	○	○	○	18	
360	10 礫	チャート	90.7	63.0	48.5	429.80	A	○	×	-	-		
361	10 礫	砂岩	56.5	50.7	44.2	109.70	D	○	×	○	×	41	
362	10 礫	砂岩	65.8	33.9	17.8	35.20	D	○	○	○	×	45	
363	10 礫	砂岩	42.0	30.7	20.6	30.20	D	○	×	○	×	35	
364	10 礫	砂岩	60.3	35.2	33.0	86.90	D	○	○	○	×	40	
365	10 礫	砂岩	23.1	30.5	22.9	13.70	D	○	×	○	×	42	
366	10 礫	砂岩	60.4	39.9	25.0	77.00	D	○	○	○	○	9	
367	10 礫	砂岩	27.1	55.1	38.0	65.50	D	○	×	○	○	9	
368	10 礫	砂岩	42.2	66.4	35.1	84.20	D	○	×	○	×	23	
369	10 礫	砂岩	65.6	30.4	32.9	76.10	D	○	○	○	○	12	
370	10 礫	砂岩	40.9	63.7	38.5	151.20	D	○	○	○	○		
371	10 礫	砂岩	61.1	26.3	28.2	54.40	D	○	×	○	○	12	
373	10 礫	砂岩	43.6	30.0	27.6	50.90	D	○	×	○	×	23	
374	10 礫	チャート	47.5	41.2	12.7	28.40	D	○	×	○	○		
375	10 礫	砂岩	65.2	47.7	33.3	81.50	D	○	×	○	×	16	
376	10 礫	砂岩	57.0	32.8	39.6	72.00	D	○	×	○	×	12	
377	10 礫	チャート	74.5	68.0	36.8	235.40	A	○	○	-	-		
378	10 礫	チャート	72.0	56.4	42.2	226.50	B	○	○	○	○	2	
379	10 礫	チャート	72.7	56.7	44.0	252.60	B	○	×	○	×		
380	10 礫	砂岩	77.1	66.6	55.7	235.40	C	○	○	○	○	12	
381	10 礫	チャート	49.7	33.7	22.8	54.60	D	○	×	○	×	01	
382	10 礫	チャート	83.4	43.3	44.4	130.00	D	○	×	○	×	05	
383	10 礫	チャート	40.7	44.4	27.1	43.80	D	○	×	○	×	05	
384	10 礫	チャート	51.4	47.8	39.2	125.80	B	○	×	○	×		
385	10 礫	砂岩	27.2	23.1	12.2	7.30	D	○	×	○	×	27	
386	10 礫	砂岩	47.8	42.6	20.8	39.30	D	○	×	○	×	27	
387	10 礫	砂岩	49.0	28.1	15.5	19.30	D	○	○	○	×	27	
388	10 礫	チャート	40.5	27.9	23.8	27.90	D	○	×	○	×	2	
389	10 礫	砂岩	37.6	29.2	17.8	18.90	D	○	×	○	○	32	
390	10 礫	砂岩	39.5	32.6	16.1	26.10	D	○	×	○	×	43	
391	10 礫	砂岩	42.5	14.4	5.9	3.10	E	○	×	×	×	30	
392	10 礫	チャート	60.1	42.3	29.2	97.40	D	○	×	○	×	06	
393	10 礫	砂岩	56.1	39.0	18.0	65.80	D	○	×	○	○	40	
394	10 礫	チャート	20.1	43.0	37.1	40.00	D	○	×	○	×	6	
395	10 礫	砂岩	45.1	44.1	30.0	64.10	D	×	×	×	×	23	
396	10 礫	砂岩	84.5	65.5	25.8	184.70	A	○	×	-	-		
397	10 礫	砂岩	44.7	58.3	26.6	85.00	D	○	×	○	×	17	
398	10 礫	砂岩	56.0	60.9	29.8	131.40	D	○	×	○	×	17	
399	10 礫	砂岩	69.0	40.6	27.1	65.70	D	○	○	○	○	33	
400	10 礫	砂岩	75.6	61.3	43.4	224.00	A	○	×	-	-		
401	10 礫	チャート	71.4	53.2	35.2	92.00	D	×	×	×	×	6	
402	10 礫	砂岩	63.4	35.6	25.1	71.20	D	○	○	○	○	37	
403	10 礫	砂岩	100.2	49.3	29.2	192.50	A	○	○	-	-		
404	10 礫	砂岩	90.3	64.7	24.3	195.40	B	○	×	○	×		
405	10 礫	砂岩	73.8	63.7	40.5	220.70	C	○	○	○	-		
406	10 礫	砂岩	65.1	40.1	27.3	64.30	D	○	○	○	○	32	
407	10 礫	チャート	48.3	35.9	18.4	33.40	D	○	×	○	×	06	
408	10 礫	砂岩	42.0	26.0	20.6	18.50	D	○	×	○	×	22	
409	10 礫	砂岩	17.3	32.6	25.0	14.90	D	○	×	○	×	35	
410	10 礫	砂岩	57.8	40.5	20.6	47.50	D	○	×	○	×	22	
411	10 礫	砂岩	49.4	68.3	33.1	111.10	D	○	○	○	○	22	
412	10 礫	砂岩	80.0	31.9	27.6	67.40	D	○	×	○	×	22	
413	10 礫	砂岩	77.0	70.4	37.2	155.60	D	○	○	○	○		
414	10 礫	砂岩	63.4	34.0	15.5	31.50	D	○	×	×	×	20	
415	10 礫	砂岩	47.4	33.2	16.5	22.10	D	○	×	○	×	36	
416	10 礫	砂岩	45.6	51.0	25.7	78.30	D	○	○	○	×	27	
417	10 礫	砂岩	75.3	42.4	20.9	62.10	D	○	×	○	×	31	
418	10 礫	砂岩	71.8	46.8	29.9	75.00	D	-	-	○	○	31	
419	10 礫	砂岩	20.2	17.1	9.8	2.40	E	○	×	○	×	38	
420	10 礫	チャート	34.8	25.3	16.0	13.10	D	○	×	○	×	6	
421	10 礫	砂岩	75.9	32.0	24.6	87.30	D	○	×	○	×	39	

第8表 10号礫群出土礫属性表(4)

器物番号	礫形	石質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	完形度	赤化	付着物	破断面 赤化	破断面 付着物	接合 点数	備考
423	10 礫	砂岩	44.7	36.0	24.2	40.80	D	○	×	○	×	38	
424	10 礫	砂岩	43.4	25.5	10.0	11.10	D	○	×	○	×	31	
425	10 礫	砂岩	8.6	25.1	10.9	2.10	E	○	×	○	×	23	
427	10 礫	砂岩	19.4	10.6	5.1	0.70	E	-	-	×	×		
428	10 礫	砂岩	29.4	18.2	10.1	4.50	E	○	○	○	○		
429	10 礫	砂岩	8.4	5.3	1.7	0.08	E	-	-	×	×		
430	10 礫	砂岩	27.0	11.6	3.7	1.20	E	○	×	○	×		
431	10 礫	砂岩	28.1	14.4	9.1	4.80	E	○	×	○	×	41	
432	10 礫	砂岩	28.7	15.9	6.9	3.70	E	○	×	○	×		
433	10 礫	チャート	62.4	33.3	35.4	79.50	D	○	×	○	×	05	
434	10 礫	砂岩	74.2	49.0	26.5	96.30	C	○	×	○	×	20	
435	10 礫	チャート	18.5	10.1	9.8	2.10	E	○	×	○	×		
436	10 礫	砂岩	16.7	14.4	17.8	4.50	E	○	×	○	×		
437	10 礫	砂岩	29.0	18.3	12.8	5.70	E	○	×	○	×	26	
438	10 礫	砂岩	7.8	5.2	2.3	0.09	E	○	×	○	×		
439	10 礫	砂岩	26.3	21.3	14.0	7.00	D	○	×	○	×		
441	10 礫	砂岩	11.5	9.0	2.8	1.40	E	-	-	○	×		
442	10 礫	砂岩	46.6	20.5	17.9	14.00	D	-	-	○	○	31	
443	10 礫	砂岩	20.4	17.5	6.5	2.30	E	-	-	○	×		
444	10 礫	砂岩	8.3	27.5	17.2	3.80	E	○	×	○	×		
447	10 礫	砂岩	11.5	9.1	2.9	0.23	E	-	-	○	×		
452	10 礫	砂岩	14.8	38.3	18.8	10.00	D	○	×	○	○	37	
455	10 礫	砂岩	17.7	14.7	17.9	5.00	E	○	×	○	×		
456	10 礫	砂岩	21.1	14.4	9.5	1.60	E	○	×	○	×		
457	10 礫	砂岩	52.5	13.8	14.7	15.90	D	○	×	○	×	22	
458	10 礫	チャート	15.7	16.0	8.4	1.40	E	○	×	○	×		
462	10 礫	砂岩	10.9	9.4	11.3	1.40	E	○	×	○	×		
468	10 礫	砂岩	23.3	16.5	6.4	2.60	E	○	×	○	×	14	
470	10 礫	砂岩	37.1	29.8	13.5	16.00	D	○	×	○	×		
565	10 礫	砂岩	19.4	42.5	24.3	20.10	D	○	×	○	×	34	
566	10 礫	砂岩	69.0	46.6	39.6	130.50	B	○	○	○	×		
372-1	10 礫	砂岩	57.1	45.5	30.9	110.00	C	○	○	○	×	23	
372-2	10 礫	砂岩	63.2	25.8	20.6	1.40	D	○	○	○	×	12	

完形度: A (完形)、B (9割以上)、C (5割以上)、D (5割以下)、E (小破片) / 赤化・付着物: ○ (あり)、× (なし)

第8表 10号礫群出土礫属性表(5)

接合番号	礫形	石質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	完形度	赤化	付着物	破断面 赤化	破断面 付着物	接合 点数	備考
1	10 礫	チャート	64.2	51.7	34.5	134.0	A	○	×	-	-	4	323+324+357+381
2	10 礫	チャート	89.7	65.7	41.0	301.0	B	○	○	○	○	3	285+378+388
3	10 礫	チャート	43.4	40.1	26.2	49.0	C	○	×	○	×	2	188+341
4	10 礫	チャート	36.2	36.3	26.9	39.3	D	○	○	○	○	2	266+355
5	10 礫	チャート	111.4	70.8	63.5	365.0	C	○	×	○	×	6	236+240+256+382+383+433
6	10 礫	チャート	102.0	65.0	60.3	288.0	C	○	×	○	×	6	350+392+394+401+407+420
9	10 礫	砂岩	59.1	50.8	38.3	142.0	A	○	×	○	×	2	366+367
10	10 礫	砂岩	106.8	60.1	34.4	243.0	A	○	○	○	○	2	268+270
11	10 礫	砂岩	94.6	54.5	25.4	162.0	B	○	×	○	×	3	329+352+354
12	10 礫	砂岩	77.0	74.6	59.8	459.0	B	○	○	○	○	5	239+369+371+376+380
13	10 礫	砂岩	101.0	45.3	34.1	207.0	B	○	×	○	×	3	303+311+322
14	10 礫	砂岩	88.7	59.2	37.8	264.0	B	○	○	○	×	3	210+218+468
15	10 礫	砂岩	120.7	65.9	24.2	233.0	B	○	○	○	○	3	228+243+250
16	10 礫	砂岩	95.5	65.2	45.2	320.0	B	○	×	○	×	3	274+312+375
17	10 礫	砂岩	109.7	58.4	31.0	262.0	B	○	×	○	×	3	296+397+398
18	10 礫	砂岩	74.4	44.1	42.2	188.0	B	○	○	○	○	4	265+356+359+372-2
19	10 礫	砂岩	87.5	74.8	45.9	296.0	B	○	○	○	○	2	292+330
20	10 礫	砂岩	115.3	55.4	40.8	286.0	B	○	×	○	×	3	262+414+434
21	10 礫	砂岩	92.3	64.9	56.1	392.0	B	○	○	○	×	3	234+279+365
22	10 礫	砂岩	119.2	88.4	32.6	449.0	B	○	×	○	×	10	276+284+290+293+295+408+410+411+412+457
23	10 礫	砂岩	110.6	64.5	37.2	271.0	B	○	○	○	×	4	368+372+373+395
24	10 礫	砂岩	126.7	93.5	56.9	908.0	B	○	○	○	○	3	182+305+314
25	10 礫	砂岩	78.1	50.0	43.8	197.0	C	○	○	○	○	5	64+189+309+340+425
26	10 礫	砂岩	173.3	111.9	60.7	1,119.0	C	○	○	○	○	5	244+245+247+258+437
27	10 礫	砂岩	123.6	57.6	163.1	563.7	C	○	○	○	○	12	56+61+222+267+282+345+348+349+385+386+387+416
28	10 礫	砂岩	100.1	66.0	44.3	322.0	C	○	×	○	×	3	246+248+249
29	10 礫	砂岩	97.2	101.6	45.4	427.0	C	○	○	○	○	2	226+227

第9表 10号礫群接合礫属性表(1)

第3章 検出された遺構と遺物

接合番号	礫部	石質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	完形度	赤化	付着物	破断面赤化	破断面付着物	接合点数	備考	
30	10	礫	砂岩	118.8	66.7	53.4	414.0	C	○	○	○	×	7点	280+297+304+316+325+351+391
31	10	礫	砂岩	132.3	72.5	39.3	472.0	C	○	×	○	×	11点	299+300+301+302+306+310+321+417+418+424+442
32	10	礫	砂岩	72.2	53.5	39.0	146.0	C	○	○	○	○	3点	315+389+406
33	10	礫	砂岩	111.2	62.1	38.9	299.0	C	○	○	○	○	3点	294+339+399
34	10	礫	砂岩	86.4	53.6	45.1	286.0	C	○	○	○	○	6点	229+230+231+238+257+565
35	10	礫	砂岩	90.0	90.0	45.3	407.0	C	○	○	○	○	11点	173+191+271+275+287+307+319+320+343+363+409
36	10	礫	砂岩	132.0	75.4	45.7	434.0	C	○	○	○	○	8点	133+180+192+224+237+278+313+415
37	10	礫	砂岩	100.4	59.6	35.7	206.0	C	○	○	○	○	8点	277+283+288+289+317+318+402+452
38	10	礫	砂岩	100.9	74.5	63.7	429.0	C	○	○	○	○	9点	172+233+235+327+331+334+336+419+423
39	10	礫	砂岩	115.0	38.4	27.8	138.0	C	○	×	○	×	2点	346+421
40	10	礫	砂岩	61.8	37.9	50.8	165.0	C	○	○	○	○	3点	183+364+393
41	10	礫	砂岩	54.4	49.4	40.6	114.0	C	○	×	○	×	2点	361+431
42	10	礫	砂岩	41.0	34.4	38.9	58.4	D	○	○	○	×	2点	241+365
43	10	礫	砂岩	69.4	35.6	15.9	63.2	D	○	×	○	×	2点	221+390
44	10	礫	砂岩	53.0	49.3	14.2	32.7	D	○	×	○	×	2点	260+261
45	10	礫	砂岩	65.3	37.1	18.7	42.0	D	○	○	○	○	2点	76+362
46	10	礫	砂岩	43.2	27.0	11.7	7.6	D	○	×	○	×	2点	79+85

完形度：A（完形）、B（9割以上）、C（5割以上）、D（5割以下）、E（小破片）／赤化・付着物：○（あり）、×（なし）

第9表 10号礫群接合礫属性表（2）

遺物番号	礫部	石質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	完形度	赤化	付着物	破断面赤化	破断面付着物	接合	備考
14	11	礫	砂岩	12.3	3.2	2.0	0.09	E	-	-	×	×	
28	11	礫	砂岩	85.1	59.2	43.2	287.80	B	○	×	○	×	
53	11	礫	砂岩	25.9	21.3	8.9	4.50	E	×	×	×	×	7
54	11	礫	砂岩	55.1	37.9	19.4	40.00	D	○	×	○	×	8
475	11	礫	砂岩	51.2	32.2	28.6	37.40	D	○	×	○	×	
496	11	礫	砂岩	9.5	6.9	4.6	0.23	E	×	×	×	×	
500	11	礫	砂岩	81.2	42.1	28.7	91.50	C	×	×	×	×	
509	11	礫	砂岩	7.8	3.3	0.6	0.02	E	-	-	×	×	
510	11	礫	チャート	8.0	5.0	4.4	0.25	A	○	×	-	-	
536	11	礫	砂岩	17.7	15.2	4.2	1.00	E	×	×	×	×	
537	11	礫	砂岩	34.3	23.4	20.5	17.00	A	○	×	-	-	
538	11	礫	砂岩	117.6	48.0	43.3	266.40	A	○	×	-	-	
539	11	礫	チャート	80.5	61.5	42.7	261.60	A	○	×	-	-	
540	11	礫	砂岩	107.4	89.7	39.0	428.10	A	○	×	-	-	
541	11	礫	砂岩	84.5	57.1	32.7	179.60	B	○	○	○	×	8
542	11	礫	砂岩	72.3	61.9	34.8	222.60	B	○	○	○	×	7
543	11	礫	チャート	36.9	19.3	14.4	13.00	A	×	×	-	-	
545	11	礫	砂岩	114.5	56.8	22.5	204.10	A	○	○	-	-	
546	11	礫	砂岩	144.0	89.8	77.3	1,250.80	A	○	○	-	-	
547	11	礫	チャート	21.9	8.4	5.9	1.30	E	○	×	○	×	
548	11	礫	砂岩	99.8	60.1	35.5	180.20	A	○	○	-	-	
550	11	礫	砂岩	20.8	13.0	4.6	1.70	E	○	×	○	×	

完形度：A（完形）、B（9割以上）、C（5割以上）、D（5割以下）、E（小破片）／赤化・付着物：○（あり）、×（なし）

第10表 11号礫群出土礫属性表

接合番号	礫部	石質	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	完形度	赤化	付着物	破断面赤化	破断面付着物	接合点数	備考	
7	11	礫	砂岩	71.9	62.1	34.7	226.0	A	○	○	○	×	2点	53+542
8	11	礫	砂岩	87.6	56.7	35.6	219.0	A	○	○	○	○	2点	54+541

完形度：A（完形）、B（9割以上）、C（5割以上）、D（5割以下）、E（小破片）／赤化・付着物：○（あり）、×（なし）

第11表 11号礫群接合礫属性表

採回番号	出土位置	遺物番号	石質	高種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	接合	打面	礫面	実測	備考
1	TP2	1	頁岩	ナイフ形石磨	3.7	1.3	0.6	2.60					○
	TP2	2	凝灰岩	剥片	55.1	27.4	10.0	22.20					×
1	TP7	1	頁岩	尖頭器	2.9	2.0	0.5	2.50					○

第12表 遺構外出土石器

第2節 縄文時代

(1) 概要

縄文時代の遺構は住居跡 11 軒、土坑 2 基、炉穴 5 基、土坑 18 基、ピット 7 基を検出した。住居跡の時期の内訳は、前期が 5 J、7 J、8 J、9 J、12 J の 5 軒、中期が 4 J、6 J、10 J の 3 軒、詳細な時期を決めかねるが、前期から中期と思われる 11 J・13 J・14 J の 3 軒である。7 J からは、総重量 29,758.0g ものマガキ・ヤマトシジミを主体とする貝類が出土した。縄文時代の遺構から、まとまった貝類の出土は、城山遺跡では初の事例となる。8 J、9 J、12 J から少量ながら貝類が出土しており、前期の住居跡 5 軒中 4 軒から貝類が出土することとなった。



第30図 縄文時代遺構全体図（1/300）

(2) 住居跡

4号住居跡

遺 構 (第31・32図)

[位 置] (1-2) グリッド。

[検出状況] 北側を68 M、1078 Dに切られる。

[構 造] 平面形：楕円形と思われる。規模：長軸3.06m以上/短軸2.75m以上/深さ19cm。壁：やや斜めに立ち上がる。主軸方位：N-3°-W。壁溝：検出されなかった。床面：平坦で全体的に軟弱である。貼床は1~3cmの厚さで施されていた。炉：石埋燵燗炉。平面形は円形と思われる。長軸77cm/短軸59cm/深さ23cm。中央部に炉体土器(1)を伴い、その周囲が被熱により赤化していた。周縁部に礫が配置されていた。柱穴：主柱穴はP1・3の2本と思われる。深さ16~68cm。覆土は黒褐色土・暗褐色土・黄褐色土・褐色土を基調とする。入口施設：検出されなかった。

[覆 土] 4層に分層できた。

[遺 物] 縄文土器の深鉢、石皿、石鏝が出土した。炉に炉体土器(1)を伴う。

[時 期] 縄文時代中期後葉(加曾利E式期)。

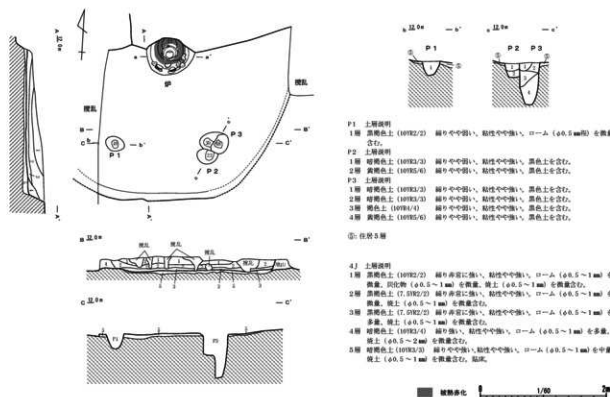
遺 物 (第33図、図版53-2、第13表)

[土 器] (第33図1~6、図版53-2-1~6、第13表)

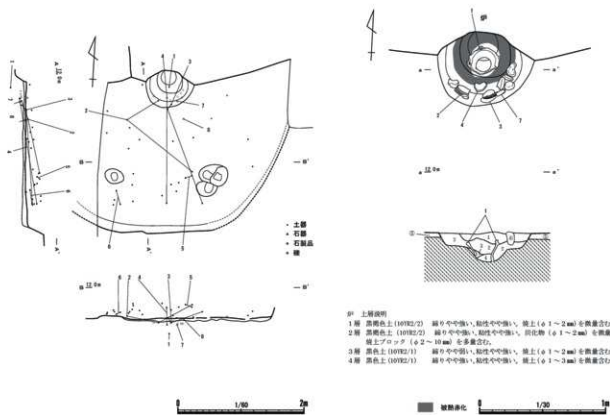
1は加曾利E2式の深鉢、2は曾利式の深鉢口縁部、3~5は連弧文土器の深鉢胴部、6は加曾利E式の浅鉢胴部である。

[石 器] (第33図7・8、図版53-2-7・8、第13表)

7は石皿、8は石鏝である。



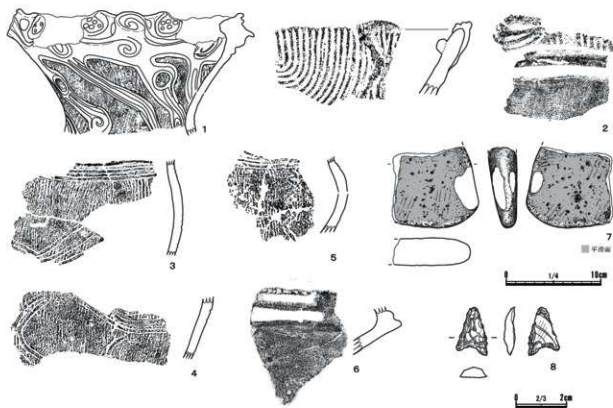
第31図 4号住居跡 (1/60)



90 上層説明

- 1層 黒褐色土 (107K2/2) 層9个中強い、粘性中強い、焼土(φ1~2mm)を散見含む。
- 2層 黒褐色土 (107K2/2) 層9个中強い、粘性中強い、同化物(φ1~2mm)を散見、焼土ブロッコ(φ2~10mm)を多量含む。
- 3層 黒土 (107K2/1) 層9个中強い、粘性中強い、焼土(φ1~2mm)を散見含む。
- 4層 黒土 (107K2/1) 層9个中強い、粘性中強い、焼土(φ1~3mm)を散見含む。

第32図 4号住居跡遺物出土状態・炉跡 (1/60・1/30)



第33図 4号住居跡出土遺物 (2/3・1/4)

探検番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法 量 (cm)	色 調	胎 土	特 徴	備 考
第33図1 図版53-2-1	深鉢	伊中央(伊 体土器)	口縁～ 頸部 40%	高 口 [13.2] 24.0	明褐色	砂粒やや多量/白色 粒子・黒色粒子・ 石英中量/角閃石 少量	口縁部4単位の突起。突起内部に渦巻き状 の沈線/各突起の両脇に沈線/円形区画、円 形刺突充填/器糸文/沈線による渦巻き文・ 円形文	加曾利E2 式
第33図2 図版53-2-2	深鉢	伊内、中央 南部の覆土 中(床上5・ 23cm)	口縁部 片	厚 1.3	に ぶ い 橙 色	砂粒多量/白色粒 子・黒色粒子・石 英中量	突起/半截竹首による重弧文	曾利式
第33図3 図版53-2-3	深鉢	伊内、南壁つ 付近の覆土 中(床上12 cm)	胴部片	厚 1.0	明赤褐色	砂粒多量/白色粒 子・黒色粒子中量	器糸文(L)/沈線により弧を描く	連弧文式
第33図4 図版53-2-4	深鉢	伊内、南壁 付近の覆土 中(床上19 cm)	胴部片	厚 0.9	明赤褐色	砂粒多量/白色粒 子・黒色粒子中量	器糸文(L)/沈線により弧を描く	連弧文式
第33図5 図版53-2-5	深鉢	P3西側の 覆土中(床 上19・23cm)	胴部片	厚 1.0	赤褐色	砂粒多量/白色粒 子・石英・角閃石 中量	集線状工具で地文を施す/胴部に3条の横 位沈線。胴部に2条の縦位沈線を波状に施 す	連弧文式
第33図6 図版53-2-6	浅鉢	南壁付近の 覆土中(床 上8・11cm)	胴部片	厚 1.2	に ぶ い 橙 色～ 子 褐 色	砂粒多量/白色粒 子・黒色粒子・赤 色粒子・石英・角 閃石中量	胴部に2条の沈線を平行に施す	加曾利E式

探検番号 図版番号	器 種	出土位置	遺存度	石 材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特 徴	備 考
第33図7 図版53-2-7	石皿	炉内	上部か ら左側 欠損	閃緑岩	191.3	185.6	30.2	348.7	形状は扁平で平面が大きく広が っている/一部に摩痕がみとめ られる	
第33図8 図版53-2-8	石鏡	伊南側の 床面上	完形	黒曜石	18.9	12.2	4.2	0.8	円基無蓋で部の長さが違う/表は 急角度の調整が行われている/先 端部は丸みをおびる	

第13表 4号住居跡出土遺物一覧

5号住居跡

遺 構 (第34図)

[位 置] (1-3・4)グリッド。

[検出状況] 1095 Dを切り、122 Pに切られる。

[構 造] 平面形: 円形。規模: 長軸 2.68m / 短軸 2.43m / 深さ 28cm。壁: 緩やかにやや斜めに立ち上がる。主軸方位: 一。壁溝: 検出されなかった。床面: 平坦で住居中央南側が硬化していた。貼床は3～12cmの厚さで施されていた。炉: 検出されなかった。柱穴: 貼床下からP1とP2を検出した。深さ32・29cm。覆土はローム粒を含む極暗褐色土を基調とする。入口施設: 検出されなかった。

[覆 土] 8層に分層できた。

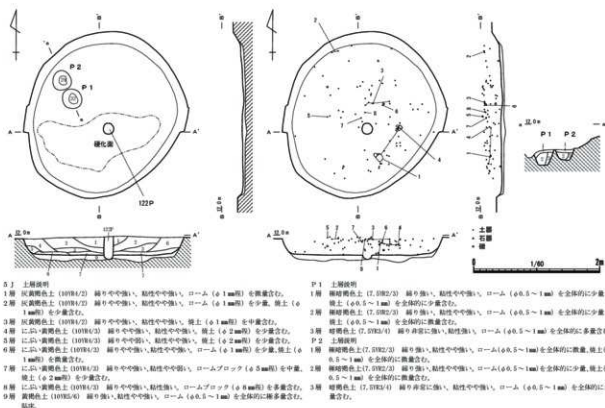
[遺 物] 縄文土器の深鉢が出土した。

[時 期] 縄文時代前期後葉(諸磯b式期)。

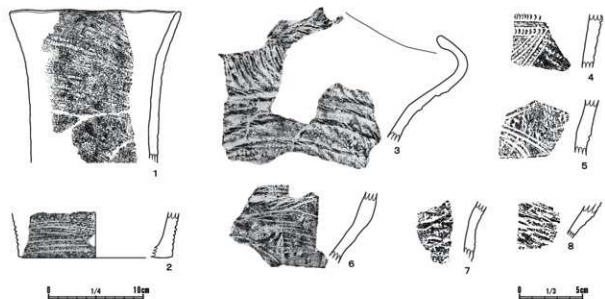
遺 物 (第35図、図版53-3、第14表)

[土 器] (第35図1～8、図版53-3-1～8、第14表)

1は諸磯b式の深鉢、2は諸磯b式の深鉢底部、3は諸磯b式の深鉢口縁部、4～8は諸磯b式の深鉢胴部である。



第34図 5号住居跡・遺物出土状態 (1/60)



第35図 5号住居跡出土遺物 (1/3・1/4)

探検番号 図版番号	構別 器種	出土位置	遺存度	法 量 (cm)	色 調	胎 土	特 徴	備 考
第 35 図 1 図版 53-3-1	深鉢	南東側の覆土中(床上16～20cm)	口縁～胴部 20%	高 口 18.2	明赤褐色	砂粒やや多量/白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・長石中量/小礫少量	縄文(直前段多条、R(L4)、4条のLの内1本だけ細い)	諸磯b式
第 35 図 2 図版 53-3-2	深鉢	北西層付近の覆土中(床上27cm)	胴～底部 5%	高 底 14.7 (16.4)	褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英中量	平行沈線	諸磯b式
第 35 図 3 図版 53-3-3	深鉢	中央北側の覆土中(床上26～27cm)	口～胴部片	厚 0.8	褐色	砂粒多量/白色粒子・長石中量/小礫少量	波状口縁/口縁部に連続する沈線/口縁部に浮線文(縦に細なキザミ)/胴部浮線文(キザミ)	諸磯b式
第 35 図 4 図版 53-3-4	深鉢	東側の覆土中(床上19cm)	胴部片	厚 0.9	黒褐色～にぶい黄褐色	砂粒やや多量/白色粒子・黒色粒子・石英・雲母中量	2条の爪形文/斜位平行沈線	諸磯b式
第 35 図 5 図版 53-3-5	深鉢	西側の覆土中(床上29cm)	胴部片	厚 1.1	にぶい黄褐色～にぶい褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・石英・角閃石中量	断糸文(L)/平行沈線による斜位直線文・弧線文	諸磯b式
第 35 図 6 図版 53-3-6	深鉢	中央北西側の覆土中(床上24cm)	胴部片	厚 1.2	にぶい褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英中量	集合沈線	諸磯b式
第 35 図 7 図版 53-3-7	深鉢	中央の覆土中(床上23cm)	胴部片	厚 0.8	にぶい褐色	砂粒・白色粒子・角閃石・小礫中量	上部に縄文(RL)、2条の浮線文(キザミ)	諸磯b式
第 35 図 8 図版 53-3-8	深鉢	中央の覆土中(床上25cm)	胴部片	厚 0.8	にぶい褐色	砂粒・白色粒子・角閃石・小礫中量	浮線文(キザミ)	諸磯b式

第 14 表 5号住居跡出土遺物一覧

6号住居跡

遺 構 (第 36 図)

[位 置] (F・G-6・7) グリッド。

[検出状況] 1方、138・139・142・143 Pに切られる。190～195 Pと重複するが先後関係は不明である。

[構 造] 平面形:楕円形。規模:長軸5.12m/短軸4.82m/深さ30cm。壁:ほぼ垂直に立ち上がる。

主軸方位:N-7°-E。壁溝:検出されなかった。床面:平坦で住居中央付近が部分的に硬化していた。

炉:中央やや北寄りに位置する。1方やピットに壊され、僅かに被熱による赤化が確認された。平面形は楕円形。長軸40cm/短軸33cm。柱穴:P1からP8の8本を検出した。深さ24～77cm。覆土はローム粒を含む黒褐色土・暗褐色土・極暗褐色土を基調とする。入口施設:検出されなかった。

[覆 土] 6層に分層できた。全体的に焼土を微量含む、暗褐～黒褐色土を基調とする。

[遺 物] 縄文土器の深鉢、打製石斧、磨製石斧、石皿、石鍾、块状耳飾が出土した。12の块状耳飾は1方の精査時に溝底から出土したものである。本遺構に帰属するものと考えられるため、ここで報告する。

[時 期] 縄文時代中期後葉(加曾利EⅡ式後半)。

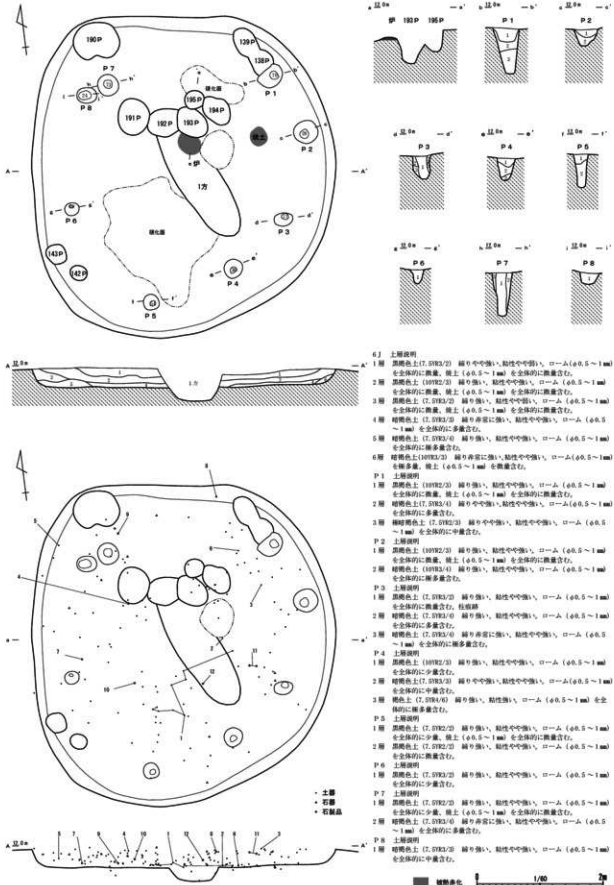
遺 物 (第 37 図、図版 54-1、第 15 表)

[土 器] (第 37 図 1～6、図版 54-1-1～6、第 15 表)

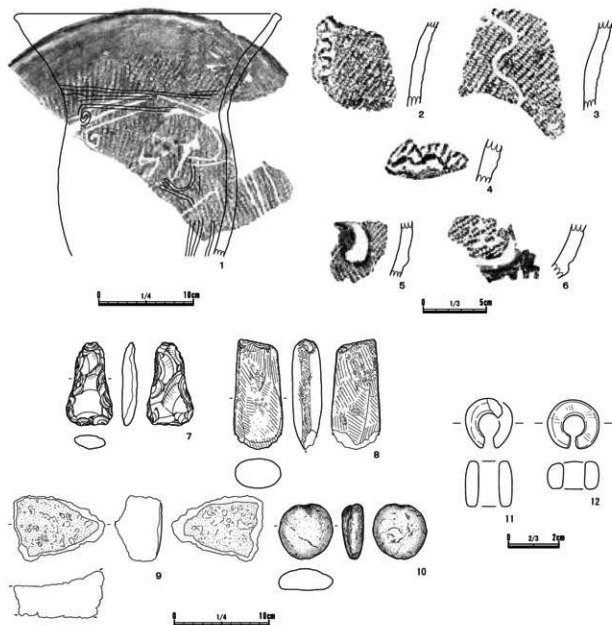
1は曾利式の深鉢、2～4は曾利式の深鉢胴部、5・6は加曾利EⅢ式の深鉢口縁部である。

[石 器] (第 37 図 7～12、図版 54-1-7～12、第 15 表)

7は打製石斧、8は磨製石斧、9は石皿、10は石鍾、11・12は块状耳飾である。



第36図 6号住居跡・遺物出土状態(1/60)



第37図 6号住居跡出土遺物(2/3・1/3・1/4)

神図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第37図1 図版54-1-1	深鉢	中央南側の 床面上・覆 土中(床上 3~7cm)	口縁~ 胴部 30%	高さ [25.7] 口径 (28.2)	にぶい黄 褐色~灰 黄褐色	砂粒・黒色粒子・ 赤色粒子・長石中 量	胴~胴中部に縦溝文(R L) / 胴下部に斜 横文(R L) / 胴部に2~3条の横位沈線。 一部渦巻文 / 胴部に3条の縦位沈線。左 端沈線は左側に屈曲する	曾利式
第37図2 図版54-1-2	深鉢	中央東側の 覆土中(床 上3cm)	胴部片	厚 1.0	にぶい黄 褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・石英・ 角閃石中量	縦溝文(R L) / 縦位隆帯(左右交互に半 ザミを無し蛇行状を呈す)	曾利式
第37図3 図版54-1-3	深鉢	中央東側の 覆土中(床 上29cm)	胴部片	厚 1.2	褐色~黄 褐色	砂粒多量 / 白色粒 子・黒色粒子・長 石中量	縦溝文(R L) / 縦位に蛇行する沈線	曾利式
第37図4 図版54-1-4	深鉢	中央北西側 の覆土中(床 上26cm)	胴部片	厚 1.2	褐色	砂粒やや多量 / 白 色粒子・赤色粒子・ 石英・角閃石中量	地文は半藁竹管による縦位条線 / 横位に蛇 行隆帯を貼付	曾利式

第15表 6号住居跡出土遺物一覧(1)

神岡番号 図版番号	種別 図種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第37図5 図版54-1-5	深鉢	北西壁付近の覆土中(床上14cm)	口縁部片、口脣部欠損	厚 0.9	にぶい黄褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子中量	右側に腐藏土(R.L)、左側に縄文(R.L)／隆帯を指でなぞり沈線を描す	加曾利EⅡ式
第37図6 図版54-1-6	深鉢	北東側の覆土中(床上3cm)	口縁部片、口脣部欠損	厚 1.2	黒褐色～にぶい褐色	砂粒多量／白色粒子・赤色粒子・石英中量	沈線区画、縄文(L.R)／胴部に向かって2本の縦沈線	加曾利EⅡ式

神岡番号 図版番号	図種	出土位置	遺存度	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴	備考
第37図7 図版54-1-7	打製石斧	西側の覆土中(床上6cm)	完形	ホルンフェルス	87.6	48.7	15.9	74.1	撥形／刃部から両側縁部にかけて連続する調整がみられる	
第37図8 図版54-1-8	磨製石斧	北壁付近の覆土中(床上25cm)	刃部欠損	緑色岩	[116.0]	[51.5]	31.1	313.4	定角式磨製石斧／基部部は欠損したのち剥離→敲打により再調整か／全体に敲打痕が残り、刃部にかけて丁寧に研磨している	
第37図9 図版54-1-9	石皿	北東側の覆土中(床上6cm)	部分	安山岩	[96.8]	[70.8]	[49.7]	344.2	表は凹状を呈し、裏面はかなり平端／全体的に風化著しい	
第37図10 図版54-1-10	石鏝?	中央南西側の覆土中(床上13cm)	完形	砂岩	58.1	56.8	22.6	106.2	上端部に自然のくぼみがあり、下部に切れ込み状のくぼみがある／上端部は非常に平滑になっており、石鏝と考えた	
第37図11 図版54-1-11	玦状耳飾	中央東側の覆土中(床上21cm)	50%	滑石	径(18.5)	孔径(8.4)	17.9	5.4	指貫形でやや馬蹄状になっており、切れ目部にかけて幅が細くなっている／断面は隅丸長方形で肉厚／光沢あり	
第37図12 図版54-1-12	玦状耳飾	1方調査時に出土(ほぼ床面レベル)	完形	滑石	径(20.5)	孔径(8.7)	10.9	6.6	指貫形／断面は隅丸長方形で肉厚／表面は光沢あり、丁寧に研磨されている	

第15表 6号住居跡出土遺物一覧(2)

7号住居跡

遺構(第38図)

[位置] (F・G-4) グリッド。

[検出状況] 313 H、131・132 Pに切られる。

[構造] 平面形: 楕円形。規模: 長軸 4.20m / 短軸 3.25m / 深さ 13cm。壁: やや斜めに立ち上がる。

主軸方位: N-2°-W。壁溝: 検出されなかった。床面: 平坦で部分的に硬化していた。炉: 地床炉。

住居中央北側に位置する。平面形は楕円。長軸 51cm / 短軸 45cm / 深さ 5cm。中央部に被熱による赤化

が確認できた。覆土は焼土粒を含む暗褐色土を基調とする。貯蔵穴: 南西に位置する P 2 が貯蔵穴の可

能性がある。平面形は楕円形。長軸 92cm / 短軸 83cm / 深さ 32cm。覆土はローム粒を含む黒褐色土・

黄褐色土を基調とする。柱穴: P 1 を検出した。深さ 12cm。覆土はローム粒を含む黄褐色土を基調と

する。入口施設: 検出されなかった。

[覆土] 10層に分層できた。マガキ・ヤマトシジミを主体とする混土貝層が確認された。

[貝層] マガキを主体とする層、ヤマトシジミを主体とする層が、互層となっている状況が観察され

た。重なるの多い所で、上からヤマトシジミ(a3)→マガキ(a4)→ヤマトシジミ(a5)→マ

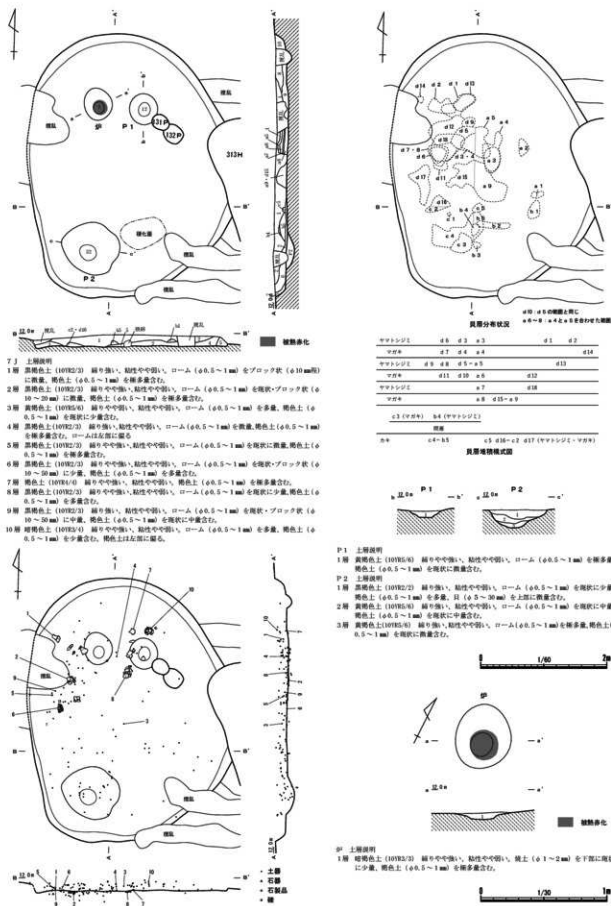
ガキ(a6)→ヤマトシジミ(a7)→マガキ(a8)という状況が確認できた。確認された貝類の種

類と重量は、マガキ(23,287.8g)、ヤマトシジミ(6,400.5g)、ハマグリ(9.3g)、ウネナシトマヤガ

イ(53.0g)、オオタニシ(3.6g)、チリメンカワニナ(0.8g)、マツカサガイ(3.0g)である(詳細は第

17～19表を参照)。また、陸産貝類のヒメベッコウマイマイ(97個)、ヒメコハクガイ(23個)、オ

カチョウジガイ(63個)、マルシタラカイ(7個)が確認された(第20表)。貝類以外には、魚歯(5



第38図 7号住居跡・遺物出土状態・炉跡 (1/60・1/30)

点、タイカ)、魚骨(椎骨1点、顎骨か5片)、陸棲動物の骨(2片)が出土している。

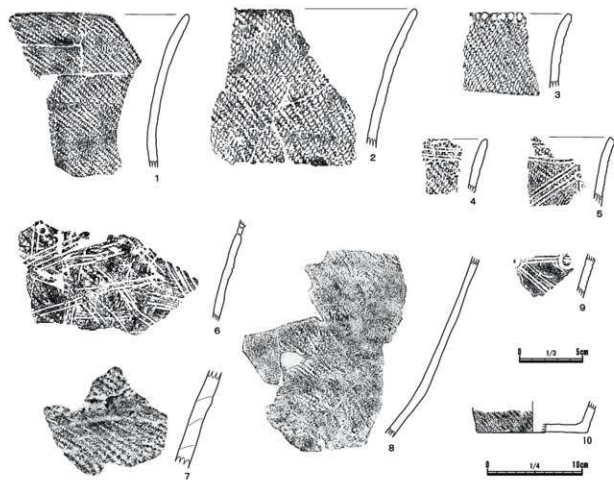
[遺物] 縄文土器の深鉢が出土した。北西の一群は、貝層除去後に出土したものが多く。

[時期] 縄文時代前期後葉(諸磯a式)。

[遺物](第39図、図版54-2、第16表)

[土器](第39図1~10、図版54-2-1~10、第16表)

1~5は諸磯a式の深鉢口縁部、6は諸磯a式の深鉢胴部、7は黒浜式の深鉢胴部、8・9は諸磯a式の深鉢胴部、10は諸磯式の深鉢底部である。



第39図 7号住居跡出土遺物(1/3・1/4)

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第39図1 図版54-2-1	深鉢	北東壁付近 の覆土中(床 上9cm)	口縁~ 胴部片	厚 0.8	赤褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子・石英・角閃石 中量	縄文(R.L)	諸磯a式
第39図2 図版54-2-2	深鉢	西側の床面 上	口縁~ 胴部片	厚 0.7	灰褐色	砂粒・白色粒子や や多量/石英・角 閃石・小礫中量	縄文(R.L)	諸磯a式
第39図3 図版54-2-3	深鉢	中央の覆土 中(床上11 cm)	口縁部 片	厚 0.7	にぶい黄 褐色	砂粒・白色粒子中 量/小礫少量	縄文(R.L)/口縁部に押痕	諸磯a式

第16表 7号住居跡出土遺物一覧(1)

第3章 検出された遺構と遺物

探検番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第39図4 図版54-2.4	深鉢	中央北側の覆土中(床上4cm)	口縁部片	厚 0.7	明褐色	砂粒やや多量/白色粒子・炭石・角閃石・小礫中量	縄文(RL)/平行沈線/円形刺突	諸磯a式
第39図5 図版54-2.5	深鉢	西側の覆土中(床上10cm)	口縁部片	厚 0.8	相灰色～黒褐色	砂粒やや多量/白色粒子・赤色粒子・長石・角閃石・小礫中量	縄文(RL)/平行沈線/円形刺突	諸磯a式
第39図6 図版54-2.6	深鉢	西側の床面上	口縁～胴部片、口唇部欠損	厚 0.7	褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・小礫中量	平行沈線により鎌倉米字文を描く/焼成後、上部に5mmの穿孔	諸磯a式
第39図7 図版54-2.7	深鉢	北側の覆土中(床上5cm)	胴部片	厚 1.0	明褐色～灰黄褐色	砂粒・白色粒子中量/小礫少量	縄文(RL)	黒浜式 縄土器
第39図8 図版54-2.8	深鉢	中央北側の覆土中(床面上)	胴部片	厚 0.6	褐色	砂粒やや多量/白色粒子・赤色粒子・石英・長石中量	縄文(RL)	諸磯a式
第39図9 図版54-2.9	深鉢	西側の覆土中(床上6cm)	胴部片	厚 0.6	赤褐色	砂粒・白色粒子・白色針状物質中量	平行沈線、米字文か?→円形刺突	諸磯a式
第39図10 図版54-2.10	深鉢	北東側の覆土中(床上19cm)	底部5%	高さ13.3 底径11.8	明赤褐色	砂粒やや多量/白色粒子・石英中量	縄文(RL)	諸磯式

第16表 7号住居跡出土遺物一覧(2)

採取番号	採取時の主体目録	採取体積(cc)	採取重量(g)	マガキ(g)	ヤマトシジミ(g)	ハマグリ(g)	ウネナシトマガイ(g)	オオタニシ(g)	チリメンカワニシ(g)	マツカサガイ(g)	インガイ(g)	合計(g)
a1	マガキ	600	310	91.2	1.1							92.3
a2	マガキ・ヤマトシジミ	2,000	1,240	295.6	67.3		0.2					363.1
a3	ヤマトシジミ	2,300	1,538	282.5	474.2		2.2					758.9
a4	マガキ	2,200	1,290	638.5	47.0		0.1					685.6
a5	ヤマトシジミ	1,200	820	55.8	219.8							275.6
a6	マガキ	2,100	1,256	672.6	43.7		0.5					716.8
a7	ヤマトシジミ	600	364	67.6	46.1		0.2					113.9
a8	マガキ	10,800	6,412	2,534.8	69.4		2.2					2,606.4
a9	マガキ	10,500	6,263	2,219	65.9		2.2					290
a10	マガキ	400	233	48.2								48.2
b1	マガキ	800	424	116.0	0.8		0.1					116.9
b2	マガキ	500	314	89.2	9.3		0.7					99.2
b3	マガキ	100	90	7.8								7.8
b4	ヤマトシジミ	100	105	9.5	22.3							31.8
b5	マガキ	1,300	937	233.7	16.4		0.1					250.2
c1	マガキ・ヤマトシジミ	10	15	6.4								6.4
c2	マガキ	200	154	26.4								26.4
c3	マガキ	1,900	1,314	1.7	1.1		2.5					5.3
c4	マガキ	17,100	10,889	1,932.0	262.2		5					2,199.2
c5	マガキ	700	484	111.8	8.6		0.3					120.7
d1	ヤマトシジミ	3,500	2,209	117.2	1,182.9							1,300.1
d2	ヤマトシジミ	1,700	1,143	61.1	194.3		0.4					255.8
d3	ヤマトシジミ	600	361	26.4	112.7							139.1
d4	マガキ	1,800	837	428.8	82.8							511.6
d5	ヤマトシジミ	2,000	1,285	197.3	476.4							673.7
d6	ヤマトシジミ	200	180	12.9	68.5							81.4
d7	マガキ	700	419	225.1	26.1		0.1					251.3
d8	ヤマトシジミ	2,800	1,815	196.0	836.4		1.3					1,033.7
d9	ヤマトシジミ	400	263	9.6	7.6							17.2

第17表 7号住居跡出土貝類計量表(1)

採取番号	採取時の 主体貝種	採取体積 (cc)	採取重量 (g)	マガキ (g)	ヤマトシジミ (g)	ハマグリ (g)	ウネナン トマガヤギ (g)	オオ タニシ (g)	チリメン カワニナ (g)	マツカサ ガイ (g)	インガイ (g)	合計 (g)
d10	マガキ	16,900	10,125	4,132.1	277.5	18	8.7					4,420.1
d11	マガキ	15,200	9,112	4,315.6	528.1		11.5	2.8	0.8			4,858.8
d12	マガキ	9,900	6,037	219.4	122.4		1.1					342.9
d13	マガキ→ ヤマトシジミ →マガキ	9,300	5,907	1,725.2	39.4		3.5			3.0		1,771.1
d14	マガキ	800	547	128.7	13.6		0.4					142.7
d15	マガキ	15,500	7,278	3,347.3	82.9		5.2					3,435.4
d16	マガキ	1,800	4,896	169.5	11.6		0.2					181.3
d17	マガキ・ ヤマトシジミ	2,600	1,704	94.7	18.2		0.5					113.4
d18	ヤマトシジミ	8,500	5,456	437.7	963.9	7.5	3.8	0.8				1,413.7
合計		149,610	94,026	23,287.8	6,400.5	9.3	53.0	3.6	0.8	3.0		29,758.0

第17表 7号住居跡出土貝類計量表(2)

採取 番号	マガキ								ヤマトシジミ							
	左殻				右殻				左殻				右殻			
	重量(g)	数値	重量(g)	数値	重量(g)	数値	重量(g)	数値	重量(g)	数値	重量(g)	数値	重量(g)	数値		
a1	45.2	8	1.3	2	44.7	91.2	10					1.1	1.1			
a2	81.7	20	77.8	15	136.1	295.6	35	16.1	17	28.9	28	22.3	67.3	45		
a3	44.2	18	68.5	10	169.8	282.5	28	188.4	157	132.9	106	152.9	474.2	263		
a4	243.2	21	73.9	6	321.4	638.5	27	18.1	19	21.2	26	7.7	47.0	45		
a5	1.8	13	1.8	6	34.2	55.8	19	84.1	23	7.4	73	65.3	219.8	96		
a6	287.0	31	138.1	18	247.5	672.6	49	14.7	17	22.7	24	6.3	43.7	41		
a7	4.0	2			63.6	67.6	2	26.3	22	6.7	44	13.1	46.1	66		
a8	1,157.3	138	337.1	46	14.4	2,534.8	184	2.1	23	37.5	45	11.8	69.4	68		
a9	486.7	90	42.8	49	1,132.4	221.9	139	26.1	24	19.0	19	2.8	65.9	43		
a10	22.4	8	8.9	3	16.9	48.2	11									
b1	28.2	12	38.6	7	49.2	116.0	19			0.5	2	0.3	0.8	2		
b2	45.6	13	3.0	2	4.6	89.2	15	4.4	4	0.5	1	4.4	9.3	5		
b3	5.0	2			2.8	7.8	2									
b4		10		5	9.5	9.5	15	9.3		7.5		5.5	22.3			
b5	83.4	22	5.8	12	99.5	233.7	34	5.5	7	3.6	5	7.3	16.4	12		
c1					6.4	6.4										
c2	1.0				16.4	26.4										
c3	11.1	4	68.9	8	2.7	1.7	12	3.2	6	2.3	4	4.6	1.1	10		
c4	461.0	128	431.5	118	139.5	1,932.0	246	92.8	90	81.2	72	88.2	262.2	162		
c5	1.7	13	27.8	4	73.3	111.8	17	3.1	5	2.1	3	3.4	8.6	8		
d1	35.7	11	3.3	1	78.2	117.2	12	388.2	252	533.0	329	261.7	1,182.9	581		
d2	9.3	6	3.4	1	48.4	61.1	7	59.7	50	63.4	49	71.2	194.3	99		
d3	2.5	1	8.4	2	15.5	26.4	3	34.6	38	36.5	29	41.6	112.7	67		
d4	255.4	26	93.4	9	8.0	428.8	35	29.1	28	39.1	34	14.6	82.8	62		
d5	44.1	11	23.6	17	129.6	197.3	28	161.4	169	245.8	250	69.2	476.4	419		
d6	2.4	1	5.3	2	5.2	12.9	3	19.7	17	2.4	19	28.4	68.5	36		
d7	64.1	7	12.4	12	58.6	225.1	19	3.3	4	12.6	14	1.2	26.1	18		
d8	43.7	11	4.4	7	111.9	196.0	18	385.2	329	324.6	285	126.6	836.4	614		
d9			1.6	1	8.0	9.6	1	5.0	5			2.6	7.6	5		
d10	1,477.7	306	942.4	190	1,712.0	4,132.1	496	13.7	154	86.8	104	6.0	277.5	258		
d11	1,112.9	264	1,257.9	308	1,944.8	4,315.6	572	223.1	229	216.3	215	88.7	528.1	444		
d12	451.4	86	63.4	99	118.6	219.4	185	51.5	60	4.0	51	3.9	122.4	111		
d13	577.2	100	417.0	52	731.0	1,725.2	152	126.3	91	195.5	143	68.6	39.4	234		
d14	4.6	10	31.1	13	93.0	128.7	23	6.5	10	4.2	9	2.9	13.6	19		
d15	89.9	180	128.2	145	1,428.2	3,347.3	325	36.6	45	22.8	34	23.5	82.9	79		
d16	3.1	10	35.6	6	13.8	169.5	16	2.3	3	4.9	3	4.9	11.6	6		
d17	11.8	11	47.0	24	35.9	94.7	35	21.2	24	2.7	26	66.3	18.2	50		
d18	94.4	26	43.9	10	299.4	437.7	36	423.7	435	444.3	460	95.9	963.9	895		
合計	7,290.7	1,620	4,448.1	1,210	9,425.0	23,287.8	2,830	2,485.3	2,357	2,612.4	2,506	1,374.8	6,400.5	4,863		

第18表 7号住居跡出土マガキ・ヤマトシジミ計量表

採取 番号	マガキ								ヤマトシジミ							
	左殻				右殻				左殻				右殻			
	n	殻長	殻高	重量	n	殻長	殻高	重量	n	殻長	殻高	重量	n	殻長	殻高	重量
a2	3	40.0	58.0	9.5	4	36.5	55.3	8.2	6	20.9	22.8	1.2	12	24.7	23.8	1.3
a3					2	50.0	78.0	18.2	45	19.4	21.0	1.1	11	21.3	20.6	1.5
a4	8	44.6	69.5	13.0	3	46.3	72.3	16.8	2	51.4	16.5	0.4	10	19.9	20.2	0.7
a5									8	21.4	21.6	1.0	8	24.1	23.5	1.5
a6	2	45.0	66.5	11.8	5	44.8	72.6	13.6	3	20.3	20.0	1.0	4	23.8	22.8	1.3
a7									11	19.1	23.0	1.2	4	23.5	22.8	1.4
a8	28	52.4	82.4	23.6	4	31.5	55.0	7.5	4	21.9	22.0	1.1	4	25.0	24.5	1.3
a9	5	43.0	85.4	20.8	6	51.2	85.0	27.3	7	21.9	23.7	1.1	5	22.4	22.2	1.1
b1					2	47.0	86.5	12.6					1	16.0	18.0	0.4
b2	3	39.0	64.0	8.2	2	20.0	33.5	1.8	2	18.8	24.5	1.3	1	17.0	16.0	0.4
b4									9	23.8	21.3	0.9	3	25.0	23.7	1.4
b5	2	45.0	85.5	15.1	3	37.3	56.7	6.5								
c3					1	62.0	122.0	50.0								
c4					12	39.3	58.4	8.4								
c5									1	44.0	20.0	0.5	1	21.0	22.0	0.5
d1	1	35.0	52.0	9.0					69	13.3	22.7	1.8	32	27.4	26.9	2.3
d2									11	20.6	20.0	1.0				
d3									3	23.3	19.7	0.8	5	22.4	22.2	1.5
d4	3	52.7	99.7	28.1	2	43.5	71.5	18.2	7	21.1	19.0	0.9	6	20.5	20.3	1.2
d5	3	32.0	53.7	7.4	2	30.0	36.0	1.4	31	14.9	20.4	1.4	63	21.0	20.8	1.1
d6									4	21.9	21.0	0.9	3	21.0	20.7	1.1
d7	3	57.3	32.0	6.2									1	25.0	22.0	1.5
d8					2	37.5	52.5	9.3	42	16.2	23.8	1.5	26	23.3	22.9	1.3
d9					1	30.0	22.0	1.6								
d10	28	47.1	70.1	13.9	25	44.3	70.4	14.9	39	25.8	19.7	0.8	26	21.8	21.4	0.9
d11	16	46.4	82.9	20.3	19	70.6	40.8	13.7	61	20.9	21.2	1.1	63	22.9	22.2	1.1
d12					27	41.8	67.1	14.1	12	34.4	18.8	0.6				
d13	9	50.3	83.9	19.4	21	45.9	66.0	11.9	49	16.1	22.3	1.4	61	23.5	22.9	1.5
d14									6	25.0	18.2	0.7	6	16.2	16.3	0.5
d15	9	43.4	64.8	10.4	16	72.0	38.6	17.7	1	28.8	22.0	0.8	7	22.4	21.6	0.9
d16	1	35.0	56.0	4.5	1	50.0	65.0	16.4	2	60.0	17.5	0.3				
d17	1	53.0	26.0	2.5	2	30.0	19.0	0.7	13	23.4	20.1	0.9	5	21.4	19.4	0.9
d18					2	36.0	58.0	8.2	95	19.5	23.0	1.2	103	24.1	22.7	1.2
全体	124	47.3	74.0	16.7	164	48.5	60.0	13.5	543	18.3	21.7	1.2	471	23.1	22.4	1.3

(n: 計測個体数/殻長・殻高: 平均値、単位mm/重量: 平均値、単位g)

第19表 7号住居跡出土マガキ・ヤマトシジミ計測表

採取 番号	ヒメベッコウ マイマイ	ヒメベッコウ マイマイ (幼貝)	ヒメコハク ガイ	ヒメコハク ガイ(幼貝)	オカチョウジ ガイ	オカチョウジ ガイ(幼貝)	マルシトラ カイ	合 計
a4	2		2					4
a5	1				2			3
a8	5				1	1		7
a9	5							5
c4	2	10	4	1		10		27
c5								1
d1	2	1				1		4
d4		1						1
d5	3	3	1		4			11
d8	1			1	3	1		6
d9				2				2
d10	2	3	6		1			12
d11	26	4	1		9	17	1	58
d12	5	1			1	2	1	10
d13	2			2				4
d15	12	2		1	2	2	4	23
d18		4	2		3	2	1	12
合計	68	29	16	7	26	37	7	190

第20表 7号住居跡出土陸産貝類数量表

8号住居跡

遺 構 (第40図)

[位 置] (D・E-3・4) グリッド。

[検出状況] 19FPを切り、137Pに切られる。

[構 造] 平面形：楕円形。規模：長軸2.97m／短軸2.37m／深さ27cm。壁：やや斜めに立ち上がる。主軸方位：N-58°-W。壁溝：検出されなかった。床面：平坦で全体的に軟弱である。炉：検出されなかった。柱穴：検出されなかった。入口施設：検出されなかった。

[覆 土] 2層に分層できた。マガキを主体とする混土貝層を検出した。

[貝 層] 貝層は大きく3つの範囲(貝①～③)で検出された。確認された貝類の種類と重量は、マガキ(677.0g)、ヤマトシジミ(26.6g)、ハマグリ(11.2g)、ウネナシトマガイ(1.6g)である(詳細は第39～41表を参照)。また、陸産貝類のヒメベッコウマイマイ(7個)、ヒメコハクガイ(4個)、オカショウジガイ(2個)、マルシタラカイ(1個)、ヒダリマキゴマガイ(19個)が確認された(第25表)。貝類以外の動物遺存体は確認されなかった。

[遺 物] 縄文土器の深鉢、石皿が出土した。主要な遺物は、床面からは大分高い位置からの出土で、貝層の出土レベルも同じくらいである。分布範囲も重複するので、同時期に廃棄された可能性が考えられる。

[時 期] 縄文時代前期後葉(諸磯a式)。

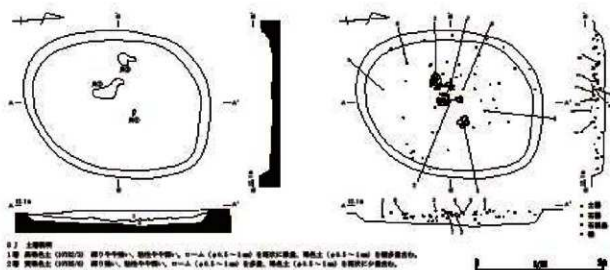
遺 物 (第41図、図版55-1、第21表)

[土 器] (第41図1～7、図版55-1-1～7、第21表)

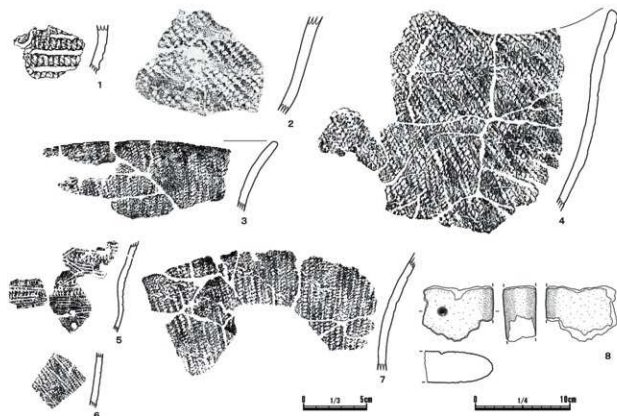
1・2は黒浜式の深鉢胴部、3・4は諸磯a式の深鉢口縁部、5は諸磯a式の小型の深鉢胴部、6・7は諸磯a式の深鉢胴部である。

[石 製 品] (第41図8、図版55-1-8、第21表)

8は石皿である。



第40図 8号住居跡・遺物出土状態(1/60)



第41図 8号住居跡出土遺物(1/3・1/4)

碑図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考		
第41図1 図版55-1-1	深鉢	南側の覆土中(床上11cm)	胴部片	厚 0.7	にぶい黄褐色	砂粒やや多量/白色粒子・赤色粒子中量	直前段多条R Lを軸線にL・Lを付加する付加条襷文	黒式式 織土器		
第41図2 図版55-1-2	深鉢	中央の覆土中(床上11・21cm)	胴部片	厚 0.8	明褐色	砂粒・白色粒子中量/小礫少量	襷文(R L)	黒式式 織土器		
第41図3 図版55-1-3	深鉢	中央西側の覆土中(床上20cm)	口縁部片	厚 0.7	赤褐色	砂粒・白色粒子やや多量/長石・角閃石少量	斜襷文(R L)	諸磯a式		
第41図4 図版55-1-4	深鉢	中央東側の覆土中(床上17cm)	口縁部片	厚 0.8	赤褐色	砂粒やや多量/白色粒子・長石・石英・小礫中量	襷文(直前段多条, R [L 31]) / 3条のLの内1本だけ細い/下部に粘部/波状口縁	諸磯a式		
第41図5 図版55-1-5	小型深鉢	中央北側の覆土中(床上23cm)	胴部片	厚 0.6	にぶい赤褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子中量	平行沈線/上部に2条の爪形文、中央部に爪形文、円形刺突	諸磯a式		
第41図6 図版55-1-6	深鉢	中央西側の覆土中(床上15cm)	胴部片	厚 0.5	褐色	砂粒やや多量/白色粒子・赤色粒子中量/角閃石少量	襷文(R L) → 斜位平行沈線	諸磯a式		
第41図7 図版55-1-7	深鉢	中央西側の覆土中(床上17 ~ 18cm)	胴部片	厚 0.7	赤褐色	砂粒やや多量・白色粒子。黒色粒子・長石・小礫中量	斜襷文(R L) / 粘部	諸磯a式		
碑図番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴	備考
第41図8 図版55-1-8	石皿	南西側の覆土中(床上8cm)	部分	安山岩	[75.1]	[58.4]	[33.2]	215.7	全体に大きく欠損/平端な石で表面に凹部がみられる/平滑面は見られない	

第21表 8号住居跡出土遺物一覧

採取番号	採取体積(cc)	採取重量(g)	マガキ(g)	ヤマトシジミ(g)	ハマグリ(g)	ウネナシトマヤガイ(g)	オオタニシ(g)	チリメンカワニナ(g)	マツカサガイ(g)	イシガイ(g)	合計
貝①	100	36.0	2.5								2.5
貝②	4,700	2,619.0	566.8	14.4		1.0					582.2
貝③	1,200	691.0	107.7	12.2	11.2	0.6					131.7
合計	6,000	3,346.0	677.0	26.6	11.2	1.6					716.4

第22表 8号住居跡出土貝類計量表

採取番号	マガキ						ヤマトシジミ									
	左殻		右殻		不明		小計		左殻		右殻		不明		小計	
	重量(g)	数量	重量(g)	数量	重量(g)	数量	重量(g)	数量	重量(g)	数量	重量(g)	数量	重量(g)	数量	重量(g)	数量
貝①	0.2	2					2.3	2.5	2							
貝②	146.0	33	166.6	29	254.2	566.8	62	4.2	6	6.0	7	4.2	14.4	13		
貝③	17.2	7	27.3	6	63.2	107.7	13	7.3	10	2.2	5	2.7	12.2	15		
合計	163.4	42	193.9	35	319.7	677.0	77	11.5	16	8.2	12	6.9	26.6	28		

第23表 8号住居跡出土マガキ・ヤマトシジミ計量表

採取番号	マガキ								ヤマトシジミ							
	左殻				右殻				左殻				右殻			
	n	殻長	殻高	重量	n	殻長	殻高	重量	n	殻長	殻高	重量	n	殻長	殻高	重量
貝①	6	39.7	70.0	9.5	4	43.0	72.8	13.9	2	21.4	22.5	1.1	1	25.0	25.0	1.2
貝②	1	45.0	65.0	8.7					3	24.2	20.7	0.9				
全体	7	40.4	69.3	9.4	4	43.0	72.8	13.9	5	23.0	21.4	0.9	1	25.0	25.0	1.2

(n:計測個体数/殻長・殻高:平均値、単位mm/重量:平均値、単位g)

第24表 8号住居跡出土マガキ・ヤマトシジミ計測表

採取番号	ヒメベッコウマイマイ	ヒメベッコウマイマイ(幼貝)	ヒメコハクガイ	ヒメコハクガイ(幼貝)	オカチョウジガイ	オカチョウジガイ(幼貝)	マルシタラカイ	ヒダリマキゴマガイ	合計
貝①	3	1	3	1		2	1	16	27
貝②	3							3	6
全体	6	1	3	1		2	1	19	33

第25表 8号住居跡出土陸産貝類数量表

9号住居跡

遺構 (第42・43図)

[位置] (E・F-6・7) グリッド。

[検出状況] 3道、315 H、7 S に切られる。

[構造] 平面形: 隅丸長方形。規模: 長軸 5.01m / 短軸 4.75m / 深さ 26cm。壁: ほぼ垂直に立ち上がる。

主軸方位: N-42°-E。壁溝: 検出されなかった。床面: 平坦で全体的に軟弱である。貼床は 1~7 cm の厚さで施されていた。炉: 地床炉。中央北東側に位置する。平面形は楕円形。長軸 49cm / 短軸 37 cm / 深さ 3cm。中央部に被熱による赤化が確認できた。柱穴: P 1 から P 3 の 3 本が主柱穴と思われる。深さ 64~88cm。覆土はローム粒・炭化物を含む黒褐色土・暗褐色土を基調とする。P 1・2 において貝層を確認した。入口施設: 検出されなかった。

[覆土] 4層に分層できた。

[遺物] 縄文土器の深鉢、土器片鉢、打製石斧、磨製石斧、砥石、軽石が出土した。

[貝層] 出土状況から、柱の抜き取りなどの後の窪地に貝を廃棄したものと考えらる。確認された貝の種類と重量は、マガキ (2,426.6g)、ヤマトシジミ (1,398.8g)、ウネナシトマヤガイ (2.4g)、オオタニシ (17.7g)、チリメンカワニナ (21.1g) である (詳細は第 27~29 表参照)。また、陸産貝類のヒメベッコウマイマイ (1 個)、ニッポンマイマイ (1 個) が確認された。貝類以外の動物遺存体は確認されなかった。

[時期] 縄文時代前期後葉（諸磯a～b式期）。

[遺物]（第44・45図、図版55-2、図版56、第26表）

[土器]（第44・45図1～29、図版55-2-1～8、図版56-9～29、第26表）

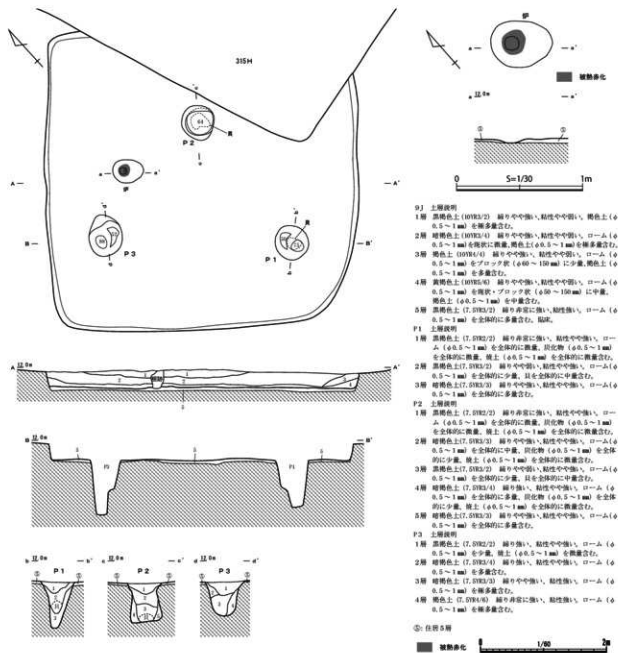
1～6・12～14は諸磯a式の深鉢口縁部、15～23諸磯a式の深鉢胴部、7・8は諸磯a式の深鉢底部、9は黒浜式の深鉢口縁部、10・11は黒浜式の深鉢胴部、24・25は諸磯b式の深鉢口縁部、26～28は諸磯b式の深鉢胴部、29は浮島式の深鉢底部付近である。

[土製品]（第45図30・31、図版56-30・31、第26表）

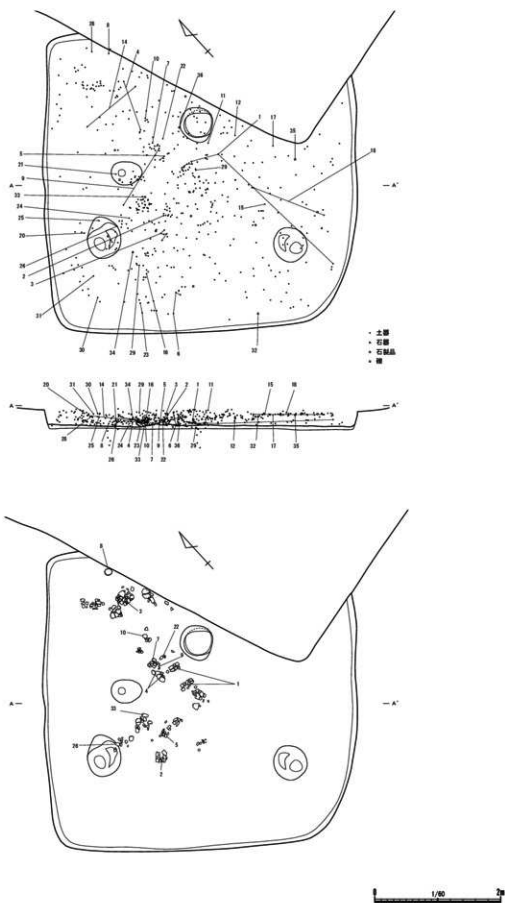
30は諸磯b式、31は諸磯式の土器を用いた土器片鏝である。

[石器]（第45図32～36、図版56-32～36、第26表）

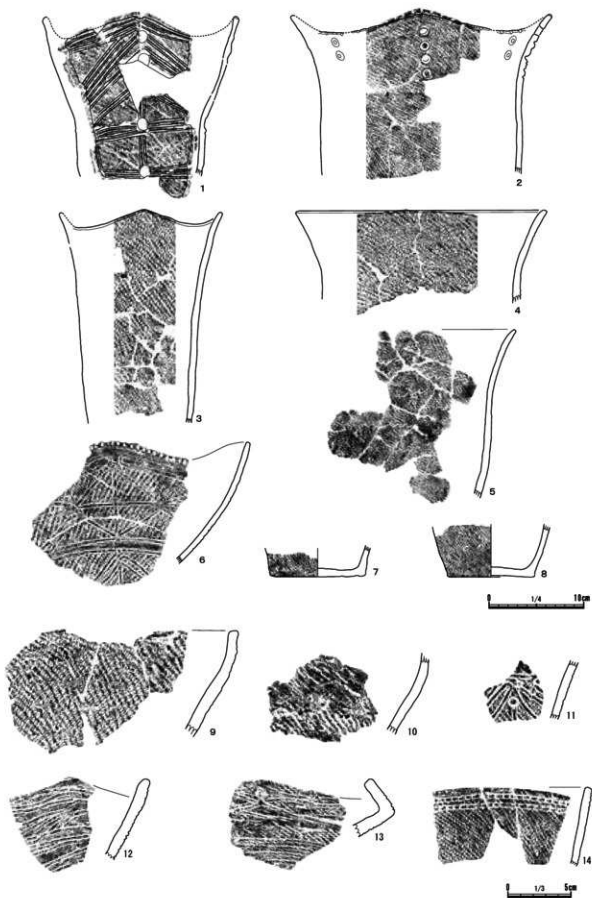
32は打製石斧、33・34は磨製石斧、35は砥石、36は軽石である。



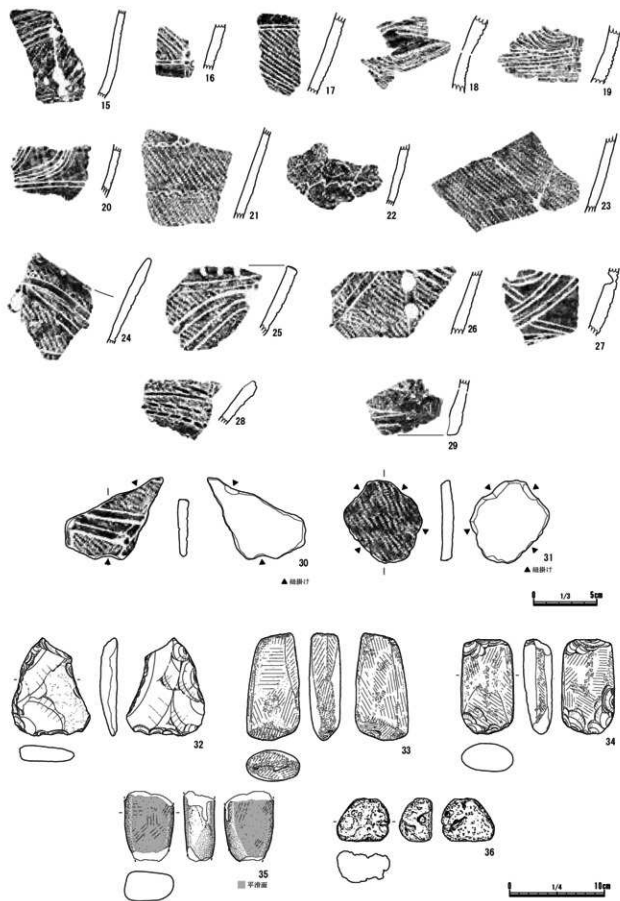
第42図 9号住居跡・炉跡 (1/60・1/30)



第43図 9号住居跡遺物出土状態(1/60)



第44図 9号住居跡出土遺物1 (1/3・1/4)



第45图 9号住居跡出土遺物2 (1/3・1/4)

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第44図1 図版55-2-1	深鉢	ほぼ中央の 床面上・覆 土中(床上 4～10cm)、 南コーナー 付近の覆土 中(床上7 cm)	口縁～ 胴部 10%	高口 [19.8] (26.6)	明赤褐色	砂粒やや多量/白 色粒子・黒色粒子 中量	縄文(RL)/平行沈線米字か?・交差に 指による円形刺突	諸磯a式
第44図2 図版55-2-2	深鉢	中央西側の 床面上・覆 土中(床上 5～7cm)	口縁～ 胴部 20%	高口 [16.7] (27.6)	明赤褐色	砂粒・白色粒子中 量	4単位の波状口縁/波状の山部分の下に円 形穿孔1個と円形刺突が3個縦に並ぶ/波 状の各部分下に円形刺突	諸磯a式
第44図3 図版55-2-3	深鉢	北側の覆土 中(床上3 ～5cm)	口縁～ 胴部 80%	高口 [21.9] 17.2	にぶい赤 褐色	砂粒多量/白色粒 子中量	4単位の波状口縁/縄文(RL)	諸磯a式
第44図4 図版55-2-4	深鉢	中央北側の 床面上・覆 土中(床上 3・4cm)	口縁～ 胴部 20%	高口 [16.7] (27.6)	にぶい橙 色	砂粒やや多量/白 色粒子・赤色粒子・ 角閃石・長石・小 礫少量	縄文(RL)	諸磯a式
第44図5 図版55-2-5	深鉢	中央西側の 覆土中(床 上5cm)	口縁片	厚 0.7	暗赤褐色 ～にぶい 赤褐色	砂粒・白色粒子中 量	縄文(RL)/3か所に結節	諸磯a式
第44図6 図版55-2-6	深鉢	南西寄り付 近の床面上・ 覆土中(床 上17cm)	口縁～ 胴部片	厚 0.6	明褐色	砂粒・白色粒子・ 長石・角閃石中量	縄文(RL)/平行沈線による米字文/交 差に円形刺突/口縁部キザミ	諸磯a式
第44図7 図版55-2-7	深鉢	中央北側の 床面上	胴～ 底部 10%	高さ [3.1] 10	にぶい赤 褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子中量	縄文(RL)/下部に結節あり	諸磯a式
第44図8 図版55-2-8	深鉢	北コーナー 付近の床 面上	胴～ 底部 10%	高さ [5.2] 9.1	褐色	砂粒やや多量/白 色粒子・黒色粒子・ 角閃石中量	縄文(RL)	諸磯a式
第44図9 図版56-9	深鉢	中央西側の 床面上、西 側の覆土中 (床上10cm)	口縁～ 胴部片	厚 1.0	赤褐色～ 黒褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・石英・ 小礫中量	縄文(RL)	黒浜式 縄土器
第44図10 図版56-10	深鉢	北側の覆土 中(床上3 cm)	胴部片	厚 0.7	橙色～に ぶい褐色	砂粒・白色粒子・ 石英中量	縄文(無節R)	黒浜式 縄土器
第44図11 図版56-11	深鉢	中央東側の 覆土中(床 上22cm)	胴部片	厚 0.6	明赤褐色	砂粒・白色粒子・ 長石中量/角閃石 少量	縄文(RL)/平行沈線、米字文か?/円 形刺突	黒浜式 縄土器
第44図12 図版56-12	深鉢	中央東側の 覆土中(床 上9cm)	口縁部 片	厚 0.8	にぶい褐 色	砂粒・白色粒子中 量	集合沈線/波状口縁	諸磯a式
第44図13 図版56-13	浅鉢?	南側の覆土 中	口縁部 片	厚 1.0	にぶい黄 褐色	砂粒多量/白色粒 子・黒色粒子・長石・ 石英中量	口縁上に平行沈線/口縁下部、上部縄文 (RL)、下部集合沈線/波状口縁	諸磯a式
第44図14 図版56-14	深鉢	北側の覆土 中(床上6・ 14cm)	口縁～ 胴部片	厚 0.6	褐色	砂粒やや多量/白 色粒子・石英中量	口縁部に2条の有節平行線/縄文(RL)	諸磯a式
第45図15 図版56-15	深鉢	中央南側の 覆土中(床 上16cm)	胴部片	厚 0.6	褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・石英中 量	縄文(LR)/平行沈線、米字文か?/三 か所に指による円形刺突	諸磯a式
第45図16 図版56-16	深鉢	西側の覆土 中(床上11 cm)	胴部片	厚 0.7	にぶい黄 褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子・角閃石中量	縄文(RL)/平行沈線/交差に円形刺突	諸磯a式
第45図17 図版56-17	深鉢	中央東側の 覆土中(床 上14cm)	胴部片	厚 0.8	にぶい黄 褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・角閃石 中量	縄文(RL)/上部と下部に平行沈線	諸磯a式
第45図18 図版56-18	深鉢	南東側の覆 土中(床上 15・16cm)	胴部片	厚 0.9	にぶい黄 褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子中量	平行沈線	諸磯a式

第26表 9号住居跡出土遺物一覧(1)

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考		
第45図19 図版56-19	深鉢	甕土中	胴部片	厚 1.0	にぶい褐色	砂粒・白色粒子・小礫中量	平行沈線	諾磯a式		
第45図20 図版56-20	深鉢	北西壁付近の甕土中(床上17cm)	胴部片	厚 0.6	灰黄褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・石英中量	平行沈線	諾磯a式		
第45図21 図版56-21	深鉢	伊範囲内の甕土中(床上8cm)	胴部片	厚 0.7	にぶい黄褐色~第	砂粒ややや多量/白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・角閃石中量	縄文(R.L)/2か所に結節	諾磯a式		
第45図22 図版56-22	深鉢	中央北側の甕土中(床上3cm)	胴部片	厚 0.7	褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・長石・石英・角閃石中量	縄文(R.L)/1か所に結節	諾磯a式		
第45図23 図版56-23	深鉢	南西壁付近の甕土中(床上2・3cm)	胴部片	厚 0.8	にぶい褐色~にぶい褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・石英中量	縄文(R.L)/下部に結節	諾磯a式		
第45図24 図版56-24	深鉢	中央西側の甕土中(床上4cm)	口縁部片	厚 0.8	褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・角閃石中量	縄文(R.L)/平行沈線/指による円形刺突/波状口縁	諾磯b式		
第45図25 図版56-25	深鉢	P3範囲内の甕土中(床上11cm)	口縁部片	厚 0.8	にぶい褐色	砂粒ややや多量/白色粒子・黒色粒子・角閃石・小礫中量	縄文(R.L)/平行沈線/口縁部にキザミ	諾磯b式		
第45図26 図版56-26	深鉢	P3範囲内の甕土中(床上4cm)	胴部片	厚 0.8	明赤褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・角閃石中量	縄文(R.L)/平行沈線/指による円形刺突	諾磯b式		
第45図27 図版56-27	深鉢	甕土中	胴部片	厚 1.0	暗褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・石英中量	平行沈線/内面に焼成後穿孔	諾磯b式		
第45図28 図版56-28	深鉢	北コーナー付近の甕土中(床上13cm)	胴部片	厚 0.7	にぶい赤褐色	砂粒・白色粒子中量	縄文(R.L)/4か所に浮線文(キザミ)	諾磯b式		
第45図29 図版56-29	深鉢	中央の床面上	胴部片	厚 0.9	にぶい褐色	砂粒ややや多量/白色粒子・黒色粒子・石英・角閃石中量	横位沈線?	浮島式		
発掘番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	備考	
第45図30 図版56-30	土器片鏝	西コーナー付近の甕土中(床上17cm)	—	7.8	6.5	0.8	32.8	土器片を使用した鏝/直角3角形を呈する/2か所に組掛けがみられる	諾磯b式	
第45図31 図版56-31	土器片鏝	西コーナー付近の甕土中(床上16cm)	—	6.5	6.2	1.0	40.2	土器片を使用した鏝/ひし形を呈する/4か所に組掛けがみられる	諾磯式	
発掘番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴	備考
第45図32 図版56-32	打製石斧	南コーナー付近の甕土中(床上12cm)	完形	ホルンフェルス	103.1	82.4	18.3	157.3	撥面/全体に辺縁部の調整のみで成形している	
第45図33 図版56-33	磨製石斧	中央西側の甕土中(床上3cm)	基部部欠損	緑色岩	112.9	55.9	33.2	373.7	定角式磨製石斧/基部・刃部が欠損したのち、刃部は両面から剥離→敲打→研磨され、急角度であるが刃部を取り戻そうとしている/基部部は欠損後敲打でそのままの形状で研磨している	
第45図34 図版56-34	磨製石斧	西側の甕土中(床上9cm)	基部・刃部欠損	緑色岩	100.1	55.9	30.4	298.3	幅広い定角式磨製石斧/基部・刃部欠損後、基部部は剥離と敲打を行う/刃部も同様に研磨には至っていない	
第45図35 図版56-35	砥石	東側の甕土中(床上15cm)	上・下部欠損	砂岩	[74.1]	[51.9]	[32.7]	187.7	粗い砥石で自然石の平らな面を使用/幅は狭いが他部分より平滑になっている/風化が進んでいる	
第45図36 図版56-36	軽石	中央北側の床面上	完形	軽石	55.7	45.4	34.7	23.9	加工痕等なし	

第26表 9号住居跡出土遺物一覧(2)

採取 番号	採取体積 (cc)	採取重量 (g)	マガキ (g)	ヤマト シジミ (g)	マンジミ (g)	ハマグリ (g)	ウネナシ トマガイ (g)	オオ タニシ (g)	チリメン カワニナ (g)	インガイ (g)	合 計
P 1	7,400	4,268	2,115.6	1,106.2			2.2	0.0			3,224.0
P 2	3,000	1,580	311.0	292.6			0.2	17.7	21.1	4.5	647.1
合計	10,400	5,848	2,426.6	1,398.8			2.4	17.7	21.1	4.5	3,871.1

第27表 9号住居跡出土貝類計量表

採取 番号	マガキ								ヤマトシジミ							
	左殻		右殻		不明		小計		左殻		右殻		不明		小計	
	重量 (g)	数量	重量 (g)	数量	重量 (g)	数量	重量 (g)	数量	重量 (g)	数量	重量 (g)	数量	重量 (g)	数量	重量 (g)	数量
P 1	949.8	48	642.6	81	523.2	2,115.6	129	540.6	218	487.6	206	78.0	1,106.2	424		
P 2	116.8	6	100.8	4	93.4	311.0	10	117.2	31	115.8	39	59.6	292.6	70		
合計	1,066.6	54	743.4	85	616.6	2,426.6	139	657.8	249	603.4	245	137.6	1,398.8	494		

第28表 9号住居跡出土マガキ・ヤマトシジミ計量表

採取 番号	マガキ								ヤマトシジミ							
	左殻		右殻		不明		小計		左殻		右殻		不明		小計	
	n	殻長	殻高	重量	n	殻長	殻高	重量	n	殻長	殻高	重量	n	殻長	殻高	重量
P 1	13	45.2	86.5	16.0	18	42.6	71.3	11.7	105	15.9	25.2	1.6	130	24.8	24.1	1.5
P 2	3	43.3	74.3	11.4	2	51.0	81.5	21.7	21	10.0	26.0	2.6	24	25.2	23.9	1.5
全体	16	44.8	84.2	15.1	20	43.4	72.3	12.7	126	14.4	25.4	1.8	154	24.8	24.0	1.5

(n:計測個体数/殻長・殻高:平均値, 単位:cm/重量:平均値, 単位:g)

第29表 9号住居跡出土マガキ・ヤマトシジミ計測表

10号住居跡

遺 構 (第46・47図)

[位 置] (D-6・7) グリッド。

[検出状況] 305 H、12 T、1115 Dに切られる。

[構 造] 平面形: 隅丸方形と思われる。規模: 長軸 5.70m / 短軸 3.25m / 深さ 36cm。壁: ほぼ垂直に立ち上がる。主軸方位: N-8°-W。壁溝: 検出した範囲で全周する。上幅 20 ~ 33cm / 下幅 7 ~ 11cm / 深さ 4 ~ 10cm。床面: 平坦で部分的に硬化していた。炉: 中央北側と思われる場所に位置する。315 Hに削られ、被熱した範囲が残存していた。平面形は楕円形。長軸 131cm / 短軸 69cm。中央部に被熱による赤化が確認できた。柱穴: P 1 から P 3 は主柱穴と思われる。深さ 55 ~ 67cm。覆土はローム粒を含む黒褐色土・暗褐色土・褐色土を基調とする。入口施設: 検出されなかった。

[覆 土] 4層に分層できた。

[遺 物] 縄文土器の深鉢、磨石が出土した。

[時 期] 縄文時代中期後葉 (加曾利 E II 式期)。

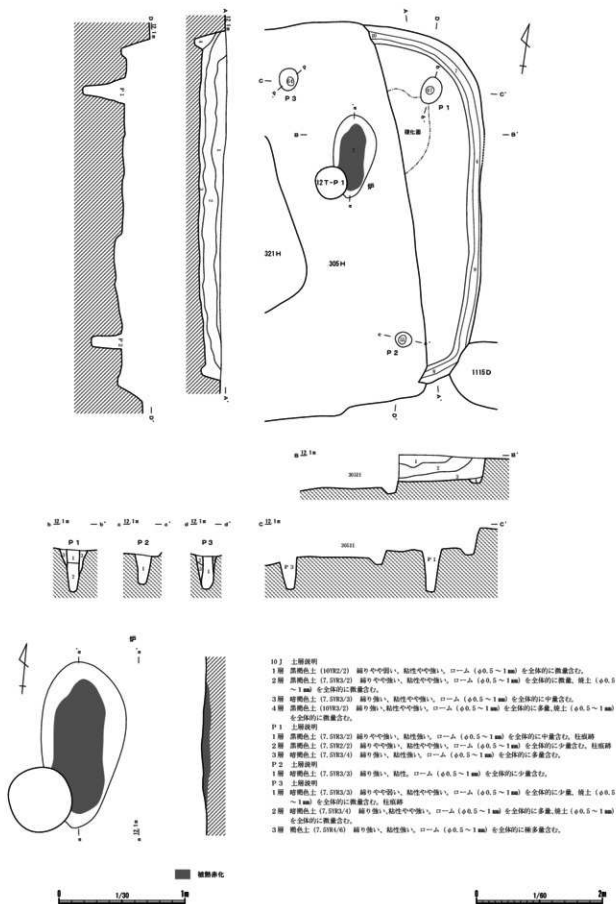
遺 物 (第48図、図版 57-1、第30表)

[土 器] (第48図 1~5、図版 57-1-1~5、第30表)

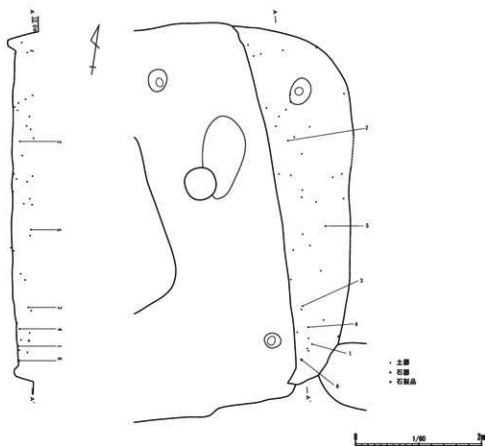
1は曾利式の深鉢口縁部、2は加曾利 E II 式の深鉢口縁部、3~5は加曾利 E II 式の深鉢胴部である。

[石 器] (第48図 6、図版 57-1-6、第30表)

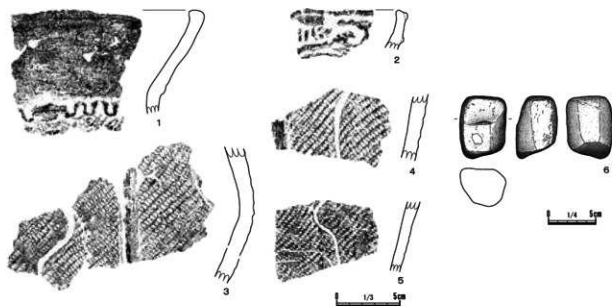
6は磨石である。



第46图 10号住居跡・炉跡 (1/60・1/30)



第47図 10号住居跡遺物出土状態(1/60)



第48図 10号住居跡出土遺物(1/3・1/4)

探検番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存 成	法 量 (cm)	色 調	胎 土	特 徴	備 考		
第 48 図 1 図版 57-1-1	深鉢	南東コー ナー付近の 床面上	口縁部 片	厚 1.0	灰褐色～ 褐色	砂粒多量/白色粒 子・赤色粒子・石英・ 長石中量/角閃石 少量	縄文(LR)/隆帯(上下交互にキズミ)	管付式		
第 48 図 2 図版 57-1-2	深鉢	北東側の覆 土中(床上 10cm)	口縁部 片	厚 0.8	明赤褐色 ～灰黄褐 色	砂粒多量/白色粒 子・黒色粒子・赤 色粒子中量	口唇部に沈線/口縁上部と下部に隆帯/口 縁部に縦位沈線・横S字	加曾利E Ⅱ式		
第 48 図 3 図版 57-1-3	深鉢	南東コー ナー付近の 覆土中(床 上21cm)	胴部片	厚 1.2	褐色～暗 褐色	砂粒やや多量/白 色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・長石中 量	縦縄文(RL)/縦位隆帯	加曾利E Ⅱ式		
第 48 図 4 図版 57-1-4	深鉢	南東コー ナー付近の 覆土中(床 上4cm)	胴部片	厚 1.1	褐色～に ぶい黄褐 色	砂粒やや多量/白 色粒子・赤色粒子・ 石英・長石中量	縦縄文(RL)/縦位隆帯/縦位沈線	加曾利E Ⅱ式		
第 48 図 5 図版 57-1-5	深鉢	東壁中央付 近の覆土中 (床上33cm)	胴部片	厚 0.8	にぶい黄 褐色	砂粒やや多量/白 色粒子・黒色粒子 中量	縦縄文(RL)/蛇行する沈線	加曾利E Ⅱ式		
探検番号 図版番号	器種	出土位置	遺存 成	石 材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特 徴	備 考
第 48 図 6 図版 57-1-6	磨石	南東コー ナー付近の 床面上	完形	ホルン フェルス	65.9	48.9	43.6	209.6	柱状の石器で、下面は平滑になっている	

第 30 表 10号住居跡出土遺物一覧

11・13・14号住居跡

遺 構 (第 49・50 図)

[位 置] (B-3) グリッド。

[検出状況] 1098 D、310・318 Hに切られる。1114 Dと重複するが先後関係は不明である。

北側の調査区境で検出したため、住居の半分以上が調査区外である。3軒の住居の重複と思われる。

11 Jが13 Jを切り、13 Jが14 Jを切る。

まず、各住居跡に限定できる事項を述べる。

11号住居跡

[構 造] 平面形：隅丸方形と思われる。規模：長軸 3.49m/短軸 0.24m/深さ 41cm。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。主軸方位：N-35°-E。壁溝：検出されなかった。床面：平坦で住居中央寄りの範囲が硬化していた。

[覆 土] 4層に分層できた。

13号住居跡

[構 造] 平面形：隅丸方形と思われる。規模：長軸 5.12m/短軸 3.37m/深さ 24cm。壁：緩やかに立ち上がる。主軸方位：N-44°-E。壁溝：検出されなかった。床面：平坦で全体的に軟弱である。

[覆 土] 4層に分層できた。

14号住居跡

[構 造] 平面形：隅丸方形と思われる。規模：長軸 4.46m/短軸 2.12m/深さ 1cm。壁：不明。主軸方位：N-22°-W。壁溝：検出した範囲で全周する。上幅 17～26cm/下幅 6～10cm/深さ 6～22cm。床面：13 Jに削られ残存していない。

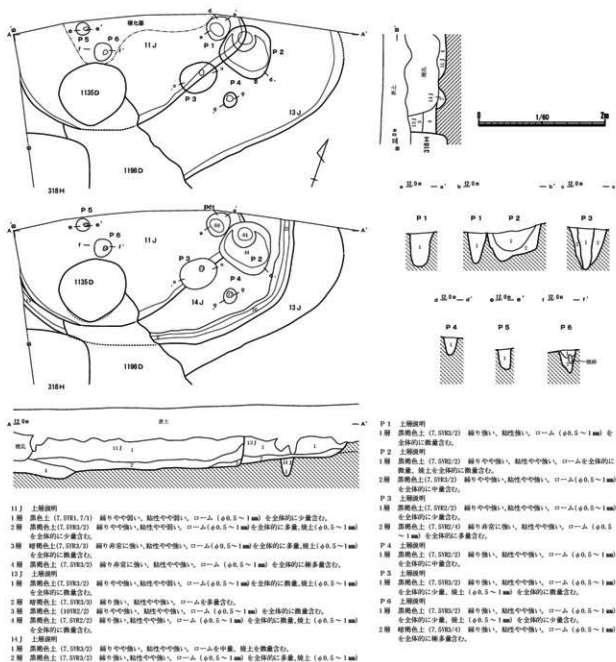
[覆 土] 2層に分層できた。

次に、各住居跡への帰属が困難な事項を述べる。

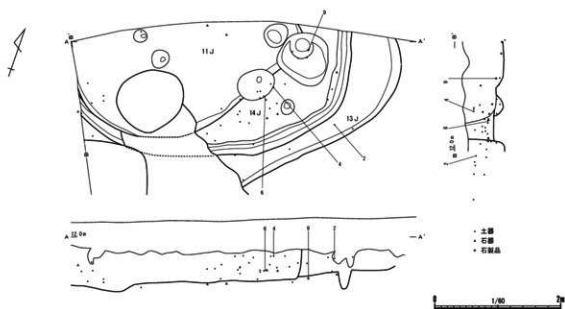
[構造] 炉: 検出されなかった。柱穴: P 1 から P 6 の 6 本を検出した。深さ 27 ~ 73cm。覆土はローム粒を含む黒褐色土を基調とする。P 2・3・4 が 11 J の外部に位置することから、11 J には帰属しないと考えられる以外は、どの住居に帰属するかの判断はできなかった。入口施設: 検出されなかった。

[遺物] 縄文土器の深鉢、石皿・凹石が出土した。出土遺物を明確に遺構と結びつけることができなかった。遺物は大きく、縄文時代前期後半、中期初頭、中期後半の時期のものが出土している。

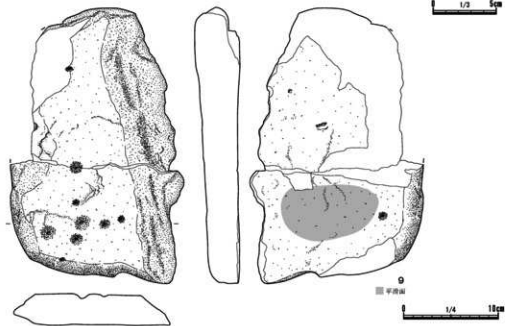
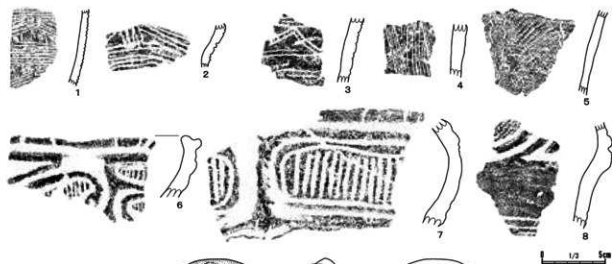
[時期] 新旧関係と出土遺物の時期の分布を機械的に当てはめると、11 J が縄文時代中期後半、13 J が前期後半から中期初頭、14 J が前期後半となるが、断定は難しいため、3 軒の住居跡とも縄文時代前期後半から中期後半としておく。



第 49 図 11・13・14 号住居跡 (1/60)



第50図 11・13・14号住居跡遺物出土状態 (1/60)



第51図 11・13・14号住居跡出土遺物 (1/3・1/4)

第3章 検出された遺構と遺物

神宮番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考		
第51図1 図版57-2-1	深鉢	覆土中	胴部片	厚 0.6	にぶい黄褐色	砂粒やや多量/白色粒子・長石中量	平行沈線、米字文か?	諸磯a式		
第51図2 図版57-2-2	深鉢	13 J 南東壁付近(床上20cm)	胴部片	厚 0.7	赤褐色～にぶい黄褐色	砂粒・白色粒子やや多量/赤色粒子・小礫中量	平行沈線	諸磯a式		
第51図3 図版57-2-3	深鉢	覆土中	胴部片	厚 1.0	にぶい黄褐色～にぶい褐色	砂粒・白色粒子やや多量/赤色粒子・小礫中量	平行沈線、米字文か?	諸磯a式		
第51図4 図版57-2-4	深鉢	P3際、13・14 J 範囲内の覆土中(13 J 床上36cm)	胴部片	厚 1.1	褐色～にぶい褐色	砂粒・白色粒子やや多量/赤色粒子・小礫中量	平行沈線	諸磯b式以降		
第51図5 図版57-2-5	深鉢	覆土中	胴部片	厚 0.7	にぶい赤褐色～にぶい黄褐色	砂粒やや多量/白色粒子・赤色粒子・長石中量	縦縄文(RL)/3か所結節	五領ヶ台式		
第51図6 図版57-2-6	深鉢	P3際、13・14 J 範囲内の覆土中(13 J 床上24・25cm)	口縁部片	厚 1.1	灰黄褐色	砂粒やや多量/白色粒子・赤色粒子・角閃石中量	口唇沈線/口縁部沈線区画、沈線充填	加曾利E I式		
第51図7 図版57-2-7	深鉢	覆土中	口縁部片	厚 1.2	明黄褐色～にぶい黄褐色	砂粒多量/白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・長石・角閃石・シャモット中量	沈線区画、縦位沈線充填	加曾利E I～II式		
第51図8 図版57-2-8	深鉢	覆土中	胴部片	厚 1.2	灰黄褐色～黒褐色	砂粒多量/白色粒子・赤色粒子・石英中量	沈線区画、縄文(RL)充填	加曾利E I～II式		
神宮番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴	備考
第51図9 図版57-2-9	石皿・凹石	P2範囲内の覆土中(13 J)のほぼ前面レベル	80%	緑泥片岩	[290.7]	[183.2]	47.8	2677.4	表面とも平端面に凹あり、裏面下部には平端面を有する。	

第31表 11・13・14号住居跡出土遺物一覧

遺物(第51図、図版57-2、第31表)

[土器](第51図1～8、図版57-2-1～8、第31表)

1～3は諸磯a式の深鉢胴部、4は諸磯b式以降の深鉢胴部、5は五領ヶ台式の深鉢胴部、6は加曾利E I式の深鉢口縁部、7は加曾利E I～II式の深鉢口縁部付近、8は加曾利E I～II式の深鉢胴部である。

[石器](第51図9、図版57-2-9、第31表)

9は石皿・凹石である。

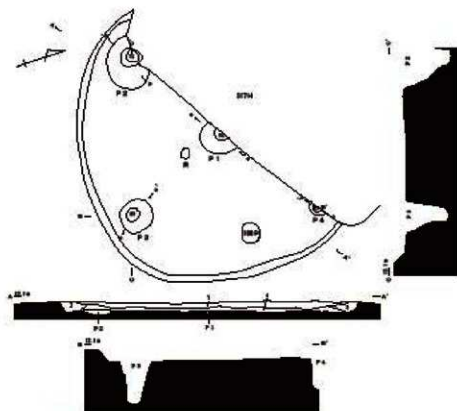
12号住居跡

遺構(第52・53図)

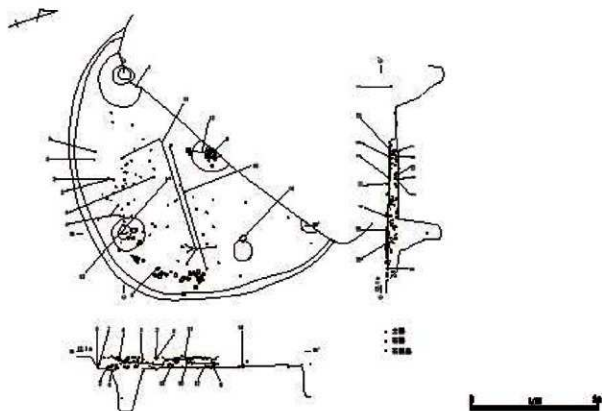
[位置](C・D-4)グリッド。

[検出状況] 317 H、188 Pに切られる。

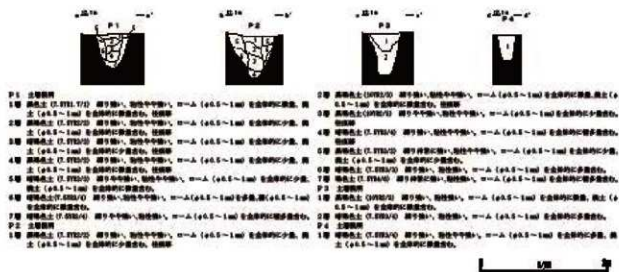
[構造] 平面形: 隅丸方形と思われる。規模: 長軸4.29m/短軸4.24m/深さ17cm。壁: やや斜めに立ち上がる。主軸方位: N-72°-W。壁溝: 検出されなかった。床面: 平坦で全体的に軟弱である。炉: 検出されなかった。柱穴: P1からP4は支柱穴と思われる。深さ27～72cm。覆土はローム粒・



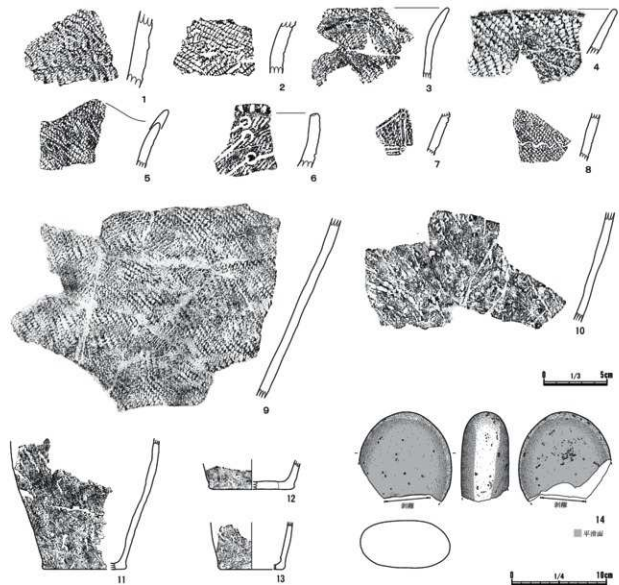
12 号住居跡
 1層 縄文後土 (F. 0002/2) 掘り中平盤、掘り中平盤、 $m=Δ$ (約0.5~1m) 存在時の柱少遺存物。
 2層 縄文後土 (F. 0002/2) 掘り中平盤、掘り中平盤、 $m=Δ$ (約0.5~1m) 存在時の柱遺存物。
 3層 縄文後土 (F. 0002/2) 掘り中平盤、掘り中平盤、 $m=Δ$ (約0.5~1m) 存在時遺存物。
 4層 縄文後土 (F. 0002/2) 掘り中平盤、掘り中平盤、 $m=Δ$ (約0.5~1m) 存在時の柱遺存物。



第52図 12号住居跡・遺物出土状態 (1/60)



第53图 12号住居跡(1/60)



第54图 12号住居跡出土遺物(1/3・1/4)

焼土粒を含む黒色土・黒褐色土・暗褐色土を基調とする。入口施設：検出されなかった。

[覆土] 4層に分層できた。中央南側で貝層を検出した。

[貝層] 確認された貝類の種類と重量はマガキ(62.2g)である。

[遺物] 縄文土器の深鉢、磨石が出土した。

[時期] 縄文時代前期後葉(諸磯a式)。

[遺物] (第54図、図版58-1、第32表)

[土器] (第54図1~13、図版58-1-1~13、第32表)

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考		
第54図1 図版58-1-1	深鉢	P2範囲内の 覆土中(床 上12cm)	胴部片	厚 1.2	にぶい黄 褐色~に ぶい黄緑 色	砂粒・白色粒子中 量	縄文(O段多条RL)/ループ文	黒浜式 縄文土器		
第54図2 図版58-1-2	深鉢	南壁中央付 近の覆土中 (床上3cm)	胴部片	厚 1.1	明黄褐色 ~にぶい 黄褐色	砂粒・白色粒子中 量	縄文(L)と縦縄文(LR)を用いた菱形 文	黒浜式 縄文土器		
第54図3 図版58-1-3	深鉢	中央南側の 覆土中(床 上16cm)	口縁部 片	厚 1.1	明赤褐色	砂粒やや多量/白 色粒子・赤色粒子・ 石英中量	縄文(RL)	諸磯a式		
第54図4 図版58-1-4	深鉢	南壁中央付 近の覆土中 (床上13~ 20cm)	口縁部 片	厚 0.6	明黄褐色	砂粒やや多量/白 色粒子・石英・角 閃石中量	縄文(RL)	諸磯a式		
第54図5 図版58-1-5	深鉢	南壁中央付 近の覆土中 (床上5cm)	口縁部 片	厚 0.7	にぶい赤 褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子。石英中 量	波状口縁/縄文(直前段多条、R(L4)) /4条のLの内1本だけ無い	諸磯a式		
第54図6 図版58-1-6	深鉢	南壁中央付 近の覆土中 (床面上)	口縁部 片	厚 0.9	にぶい橙 色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・角閃石 中量	波状口縁/口縁部キザミ/縄文(LR?) /上部弓形刺突+沈線/下部沈線	諸磯a式		
第54図7 図版58-1-7	深鉢	南壁中央付 近の覆土中 (床上3cm)	口縁部 片	厚 0.7	にぶい褐色	砂粒やや多量/白 色粒子中量	縄文(RL)/平行沈線/交差に円形刺突	諸磯a式		
第54図8 図版58-1-8	深鉢	南東コー ナー付近の 覆土中(床 上16cm)	胴部片	厚 0.7	黒褐色~ 褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子中量	縄文(RL)/2か所に結節	諸磯a式		
第54図9 図版58-1-9	深鉢	P1範囲内の 覆土中(床 上2~7cm)	胴部片	厚 0.7	にぶい褐色	砂粒・白色粒子・ 石英・長石・角閃 石中量	縄文(RL)	諸磯式		
第54図10 図版58-1-10	深鉢	中央南西側・ 東壁付近の 覆土中(床 上15~18 cm)	胴部片	厚 0.6	明赤褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子中量/角閃石・ 雲母少量	付加条縄文(R+L)	諸磯式		
第54図11 図版58-1-11	深鉢	中央南側・ 東側の覆土 中(床上7 ~20cm)	胴部 5%	高さ (13.7) (8.8)	明褐色	砂粒やや多量/白 色粒子・黒色粒子・ 角閃石中量	付加条縄文(R+Lか?)	諸磯式		
第54図12 図版58-1-12	深鉢	P1範囲お よび周辺、 床上9cm	胴~底 部5%	高さ (13.1) (9.0)	赤褐色	砂粒多量/白色粒 子・黒色粒子中量 /長石・白色針状 物質少量	無文	諸磯式		
第54図13 図版58-1-13	深鉢	中央南側の 覆土中(床 上7cm)	胴~底 部5%	高さ (15.0) (7.0)	褐色	砂粒多量/白色粒 子・石英中量	無文	諸磯式		
検出番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴	備考
第54図14 図版58-1-14	磨石	東側のほぼ 床面上	下部 欠損	頁岩	[97.6]	[95.0]	[49.9]	723.8	緻密な石質で、非常に平滑な面を表裏 面に持つ/下部を大きく欠損する/ 欠損後連続する細い割線が連続し ている	

第32表 12号住居跡出土遺物一覧

1・2は黒浜式の深鉢胴部、3～6は諸磯a式の深鉢口縁部、7・8は諸磯a式の深鉢胴部、9・10は諸磯式の深鉢胴部、11～13は諸磯式の深鉢底部である。

[石器] (第54図14、図版58-1-14、第32表)

14は磨石である。

(3) 集石

6号集石

[遺構] (第55図、第34表)

[位置] (1・J-2) グリッド。

[構造] 単独。平面楕円形、断面皿形。規模:1.28m × 1.03m。深さ:17cm。長軸方位:N-9°-W。

覆土: 単層。炭化物を含む暗褐色土である。

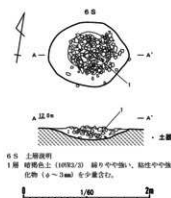
[遺物] 縄文土器の深鉢が出土した。

[時期] 縄文時代前期。

[遺物] (第55図、図版58-2、第33表)

[石器] (第55図1、図版58-2-1、第33表)

1は諸磯b式の深鉢である。



第55図 6号集石・出土遺物
(1/60・1/3)



第56図 7号集石 (1/60)

押図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第55図1 図版58-2-1	深鉢	底上18cm	胴部片	厚	0.5	明赤褐色 砂粒・白色粒子・ 赤色粒子中量	縄文(R.L)/押線文(爪形文)	諸磯b式

第33表 6号集石出土遺物一覧

遺構	総点数	総重量 (g)	平均重量 (g)	完形数	焼成数	タール・煤 付着数	砂岩	チャート	ホルン フェルス	備考
6 S	638	47,128.2	73.9	40 6.3%	526 82.4%	8 1.3%	577 90.4%	40 6.3%	21 3.3%	
7 S	83	12,218.3	147.2	20 24.1%	61 73.5%	2 2.4%	79 95.2%	3 3.6%	1 1.2%	

第34表 集石出土礫観察表

7号集石

遺構 (第56図、第34表)

位置 (F-6) グリッド。

構造 9 J を切る。9 J のベルトで検出したため、両端を欠く。平面楕円形と思われ、断面浅いU字形。規模：0.54m以上×0.52m以上。深さ：17cm。長軸方位：N-76°-W。覆土：単層。ローム粒を含む黒褐色土である。

遺物 遺物は出土しなかった。

時期 縄文時代前期後葉以降。

(4) 炉穴

18号炉穴

遺構 (第57図)

位置 (H-6・7) グリッド。

構造 1096 D を切る。平面楕円形、断面は不整な皿形。底面中央が被熱により赤化する。規模：1.17m×0.83m。深さ：19cm。長軸方位：N-44°-W。覆土：2層に分層。焼土粒を含む極暗褐色土を基調とする。

遺物 出土しなかった。

時期 縄文時代早期か。

19号炉穴

遺構 (第57図)

位置 (E-4) グリッド。

構造 8 J、140 P に切られる。平面不整形、断面皿形。遺構中央の底面が被熱により赤化する。規模：2.48m×2.04m。深さ：42cm。長軸方位：N-64°-W。覆土：7層に分層。ローム粒、焼土粒を含む黒褐色土を基調とする。

遺物 縄文土器の深鉢が出土した。

時期 縄文時代前期。

遺物 (第58図、図版58-3、第35表)

土器 (第58図1~3、図版58-3-1~3、第35表)

1は縄文時代早期の深鉢胴部、2は黒浜式の深鉢胴部、3は諸磯a式の深鉢胴部である。

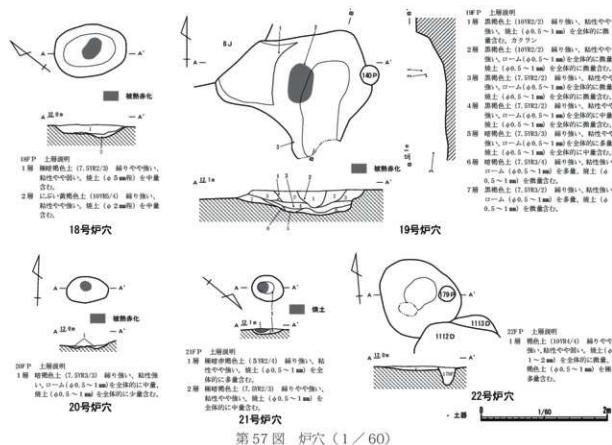
20号炉穴

遺構 (第57図)

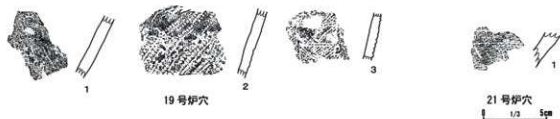
位置 (E-5) グリッド。

構造 10 Y に切られる。平面楕円形、断面緩いW字形。中央部が赤化する。被熱した部分が硬化し残ったのか、周囲より一段高くなっている。規模：0.67m×0.42m。深さ：8cm。長軸方位：N-88°-W。覆土：単層。ローム粒、焼土粒を含む暗褐色土である。

遺物 出土しなかった。



第57図 炉穴 (1/60)



第58図 炉穴出土遺物 (1/3)

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考	
第58図1 図版58-3-1	深鉢	底上21cm	胴部片	厚	0.9	赤褐色・ 暗赤褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・石英中量	無文	早期 織紋土器
第58図2 図版58-3-2	深鉢	底上40cm	胴部片	厚	0.8	にぶい褐色・ 褐色～橙色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・石英中量	縄文(LR)	黒須式 織紋土器
第58図3 図版58-3-3	深鉢	底上33cm	胴部片	厚	0.7	褐色～黒 褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・石英・ 長石中量	縄文(LR?) / 平行洗線・米字文か?	諸磯B式

第35表 19号炉穴出土遺物一覧

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考	
第58図1 図版58-3-1	深鉢	底上5cm	胴部片	厚	1.0	褐色	砂粒多量 / 白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒子・ 石英・長石中量 / 角閃石少量	傾位推定調整	前期後半

第36表 21号炉穴出土遺物一覧

[時 期] 縄文時代早期か。

21号炉穴

遺 構 (第57図)

[位 置] (C-4・5) グリッド。

[構 造] 単独。平面楕円形、断面皿形。規模:0.51m × 0.41m。深さ:9cm。長軸方位:N-19°-W。

覆土:2層に分層。焼土を主体とする極暗赤褐色土と焼土粒を含む極暗褐色土が堆積する。

[遺 物] 縄文土器の深鉢が出土した。

[時 期] 縄文時代前期後半。

遺 物 (第58図、図版58-3、第36表)

[土 器] (第58図1、図版58-3-1、第36表)

1は縄文時代前期後半の深鉢胴部である。

22号炉穴

遺 構 (第57図)

[位 置] (H・1-7・8) グリッド。

[構 造] 1112・1113 D、179 Pに切られる。1103 Dと重複するが、先後関係は不明。平面楕円形、断面皿形。底面中央が被熱し硬化するが、赤化には至らず。規模:1.33m × 1.19m。深さ:8cm。長軸方位:N-38°-W。覆土:単層。焼土粒を含む褐色土である。

[遺 物] 出土しなかった。

[時 期] 縄文時代早期か。

(5) 土坑

1086号土坑

遺 構 (第59図)

[位 置] (J-2) グリッド。

[構 造] 301 Hに切られる。平面楕円形、断面浅いU字形。規模:1.04m × 0.89m。深さ:21cm。長軸方位:N-75°-E。覆土:3層に分層。ローム粒を含む黒褐色土を基調とする。

[遺 物] 縄文土器が出土した。

[時 期] 縄文時代。

1095号土坑

遺 構 (第59図)

[位 置] (I-3・4) グリッド。

[構 造] 5 Jに切られる。平面楕円形、断面U字形。規模:1.43m × 1.22m。深さ:44cm。長軸方位:N-12°-E。覆土:5層に分層。ローム粒、焼土粒を含む黒褐色土を基調とする。

[遺 物] 縄文土器の深鉢、磨製石斧、石皿が出土した。

[時 期] 縄文時代前期後葉(諸磯式期)。

遺物(第61図、図版59-1、第37表)

土器(第61図1~3、図版59-1-1~3、第37表)

1は諸磯a式の深鉢胴部、2は諸磯b式の深鉢胴部、3は諸磯式の深鉢胴部である。

石製品(第61図4・5、図版59-1-4・5、第37表)

4は磨製石斧、5は石皿である。

1096号土坑

遺構(第59図)

位置(H-6・7)グリッド。

構造1方、18 F P、1097 Dに切られる。不整楕円形、断面概ね箱形。規模:1.38m以上×1.19m。深さ:33cm。長軸方位:N-21°-E。覆土:7層に分層。焼土粒を含む黒褐色土を基調とする。

遺物縄文土器の深鉢が出土した。

時期縄文時代早期~前期。

遺物(第62図、図版59-2、第38表)

土器(第62図1~3、図版59-2-1~3、第38表)

1・2は縄文時代早期の深鉢胴部、3は諸磯式の深鉢胴部である。

1097号土坑

遺構(第59図)

位置(H-7)グリッド。

構造1096 Dを切る。平面楕円形、断面箱形。規模:0.72m×0.63m。深さ:50cm。長軸方位:N-69°-W。覆土:3層に分層。ローム粒、焼土粒を含む暗褐色土を基調とする。

遺物縄文土器の深鉢が出土した。

時期縄文時代中期後半。

遺物(第63図、図版59-3、第39表)

土器(第63図1、図版59-3-1、第39表)

1は縄文時代中期後半の深鉢胴部である。

1103号土坑

遺構(第59図)

位置(H-7・8)グリッド。

構造22 F Pと重複するが、先後関係は不明。平面楕円形、断面皿形。規模:1.39m×1.08m。深さ:19cm。長軸方位:N-2°-W。覆土:2層に分層。ローム粒、褐色土粒を含む暗褐色土を基調とする。

遺物出土しなかった。

時期縄文時代。

1104号土坑

遺構(第59図)

〔位置〕(H-8)グリッド。

〔構造〕69 Mに切られる。平面楕円形、断面皿形。規模:1.09m × 0.85m以上。深さ:17cm。長軸方位: N-5°-W。覆土:単層。ローム粒を含む暗褐色である。

〔遺物〕縄文土器が出土した。

〔時期〕縄文時代。

1105号土坑

〔遺構〕(第59図)

〔位置〕(D-4)グリッド。

〔構造〕単独。平面円形、断面逆台形。規模:1.15m × 1.11m。深さ:21cm。長軸方位: N-35°-E。覆土:単層。ローム粒、焼土粒を含む黒褐色土を基調とする。

〔遺物〕縄文土器が出土した。

〔時期〕縄文時代。

1107号土坑

〔遺構〕(第59図)

〔位置〕(D・E-6)グリッド。

〔構造〕単独。平面不整楕円形、断面概ね箱形。規模:1.29m × 1.11m。深さ:49cm。長軸方位: N-87°-W。覆土:5層に分層。ローム粒を含む黒褐色土を基調とする。

〔遺物〕出土しなかった。

〔時期〕縄文時代。

1114号土坑

〔遺構〕(第59図)

〔位置〕(B-3)グリッド。

〔構造〕1098 Dに切られる。11 Jと重複するが先後関係は不明。平面楕円形、断面箱形。規模:1.07m × 0.95m。深さ:74cm。長軸方位: N-44°-W。覆土:2層に分層。ローム粒を含む暗褐色土を基調とする。

〔遺物〕縄文土器が出土した。

〔時期〕縄文時代。

1116号土坑

〔遺構〕(第60図)

〔位置〕(E-5)グリッド。

〔構造〕10 Yに切られる。平面楕円形。断面皿形。規模:1.59m × 1.12m。深さ:15cm。長軸方位: N-67°-E。覆土:2層に分層。ローム粒を含む黒褐色土を基調とする。

〔遺物〕出土しなかった。

〔時期〕縄文時代。

1117号土坑

遺構(第60図)

[位置] (J-9) グリッド。

[構造] 151・152 Pに切られる。平面円形、断面皿形。規模:1.37m × 1.33m。深さ:23cm。長軸方位: N-49°-E。覆土: 2層に分層。ローム粒を含む黒褐色土を基調とする。

[遺物] 縄文土器が出土した。

[時期] 縄文時代。

1121号土坑

遺構(第60図)

[位置] (H-9) グリッド。

[構造] 単独。平面楕円形、断面概ねV字形。規模:1.43m × 1.15m。深さ:59cm。長軸方位: N-76°-W。覆土: 6層に分層。ローム粒を含む暗褐色土を基調とする。

[遺物] 縄文土器の深鉢が出土した。

[時期] 縄文時代前期。

遺物(第64図、図版59-4、第40表)

[土器] (第64図1・2、図版59-4-1・2、第40表)

1は縄文時代早期前半の深鉢胴部、2は縄文時代前期の深鉢胴部である。

1125号土坑

遺構(第60図)

[位置] (D-4) グリッド。

[構造] 単独。平面楕円形、断面概ね箱形。規模:1.68m × 1.6m。深さ:38cm。長軸方位: N-70°-W。覆土: 4層に分層。ローム粒、焼土粒を含む黒褐色土を基調とする。

[遺物] 縄文土器の深鉢、敲石、石鏃が出土した。

[時期] 縄文時代中期後葉(加曾利E式期)。

遺物(第65図、図版95-5、第41表)

[土器] (第65図1~4、図版59-5-1~4、第41表)

1は黒浜式の深鉢胴部、2は曾利1b式の深鉢胴部、3は縄文時代中期の深鉢口縁部、4は諸磯式の深鉢底部である。

[石製品] (第65図5・6、図版59-5-5・6、第41表)

5は敲石、6は石鏃である。

1127号土坑

遺構(第60図)

[位置] (F-8) グリッド。

[構造] 69 Mに切られる。平面楕円形、断面浅いU字形。規模:2.03m以上 × 1.76m以上。深さ:30cm。長軸方位: N-51°-W。覆土: 3層に分層。ローム粒、焼土粒を含む黒褐色土を基調とする。

[遺物] 縄文土器の深鉢が出土した。

[時期] 縄文時代中期後葉（加曾利E式期）。

[遺物] (第66図、図版59-6、第42表)

[土器] (第66図1~2、図版59-6-1~2、第42表)

1は加曾利E1式の深鉢口縁部、2は加曾利E式の深鉢胴部である。

1128号土坑

[遺構] (第60図)

[位置] (I-7) グリッド。

[構造] 単独。平面楕円形、断面皿形。規模：1.04m × 1.01m。深さ：19cm。長軸方位：N-79°-E。

覆土：2層に分層。ローム粒を含む褐色土を基調とする。

[遺物] 縄文土器が出土した。

[時期] 縄文時代。

1129号土坑

[遺構] (第60図)

[位置] (H-7) グリッド。

[構造] 単独。平面円形、断面皿形。規模：1.04m × 1.01m。深さ：13cm。長軸方位：N-67°-E。

覆土：2層に分層。ローム粒を含む暗褐色土を基調とする。

[遺物] 縄文土器が出土した。

[時期] 縄文時代。

1130号土坑

[遺構] (第60図)

[位置] (H-8) グリッド。

[構造] 187Pに切られる。平面楕円形、断面概ね逆台形。規模：1.30m × 0.65m。深さ：21cm。

長軸方位：N-14°-W。覆土：単層。ローム粒を含む褐色土を基調とする。

[遺物] 縄文土器が出土した。

[時期] 縄文時代。

1131号土坑

[遺構] (第60図)

[位置] (G-8) グリッド。

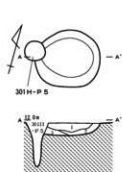
[構造] 単独。平面不整楕円形、断面不整形。坑底が円形に一段下がる。規模：1.17m × 0.58m。

深さ：52cm。長軸方位：N-44°-E。覆土：3層に分層。褐色土粒を含む暗褐色土を基調とする。

[遺物] 縄文土器が出土した。

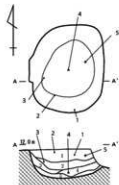
[時期] 縄文時代前期後葉。

[遺物] (第67図、図版59-7、第43表)



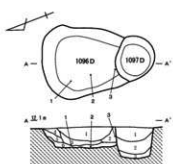
- 1066D 土層説明**
- 1層 黒褐色土 (T.09K2/2) 細り中~強い、粘性中~強い、ローム (φ0.5~1mm) を全体の1/3程度含む。横土 (φ0.5~1mm) を全体の1/3程度含む。底面---
 - 2層 黒褐色土 (T.09K2/2) 細り中~強い、粘性中~強い、ローム (φ0.5~5mm) を全体の1/3程度含む。横土 (φ0.5~5mm) を全体の1/3程度含む。底面---
 - 3層 暗褐色土 (T.09K3/4) 細り中~強い、粘性中~強い、ローム (φ0.5~1mm) を全体の1/3程度含む。横土 (φ0.5~1mm) を全体の1/3程度含む。底面---

1066号土坑



- 1095D 土層説明**
- 1層 黒褐色土 (T.09K2/2) 細り中~強い、粘性中~強い、ローム (φ0.5~1mm) を全体の1/3程度含む。横土 (φ0.5~1mm) を全体の1/3程度含む。底面---
 - 2層 暗褐色土 (T.09K3/2) 細り中~強い、粘性中~強い、ローム (φ0.5~5mm) を全体の1/3程度含む。横土 (φ0.5~5mm) を全体の1/3程度含む。底面---
 - 3層 暗褐色土 (T.09K3/4) 細り中~強い、粘性中~強い、ローム (φ0.5~1mm) を全体の1/3程度含む。横土 (φ0.5~1mm) を全体の1/3程度含む。底面---
 - 4層 暗褐色土 (T.09K3/2) 細り強い、粘性中~強い、ローム (φ0.5~5mm) を全体の1/3程度含む。底面---
 - 5層 暗褐色土 (T.09K3/4) 細り強い、粘性中~強い、ローム (φ0.5~1mm) を全体の1/3程度含む。横土 (φ0.5~1mm) を全体の1/3程度含む。底面---

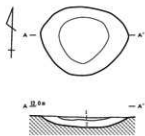
1095号土坑



- 1066D 土層説明**
- 1層 黒褐色土 (T.09K2/2) 細り強い、粘性中~強い、横土 (φ1~2mm) を70%程度 (φ10~20mm) に篩過。褐色土 (φ0.5~1mm) を種多量含む。底面---
 - 2層 暗褐色土 (T.09K3/4) 細り強い、粘性中~強い、横土 (φ0.5~1mm) を種多量含む。底面---
 - 3層 黒褐色土 (T.09K2/2) 細り強い、粘性中~強い、ローム (φ0.5~1mm) を90%程度に篩過。褐色土 (φ0.5~1mm) を種多量含む。底面---
 - 4層 暗褐色土 (T.09K3/4) 細り強い、粘性中~強い、横土 (φ1~2mm) を種多量含む。褐色土 (φ0.5~1mm) を種多量含む。底面---
 - 5層 褐色土 (T.09K4/1) 細り強い、粘性中~強い、ローム (φ0.5~1mm) を90%程度に篩過。褐色土 (φ0.5~1mm) を種多量含む。底面---

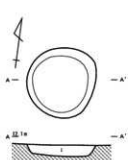
- 1097D 土層説明**
- 1層 黒褐色土 (T.09K2/4) 細り強い、粘性中~強い、横土 (φ2~4mm) を90%程度に篩過。褐色土 (φ0.5~1mm) を種多量含む。底面---
 - 2層 暗褐色土 (T.09K3/4) 細り強い、粘性中~強い、ローム (φ0.5~1mm) を70%程度 (φ10~30mm) に篩過。褐色土 (φ0.5~1mm) を種多量含む。底面---
 - 3層 暗褐色土 (T.09K3/4) 細り中~強い、粘性中~強い、ローム (φ0.5~1mm) を90%程度に篩過。褐色土 (φ0.5~1mm) を種多量含む。底面---

1096・1097号土坑



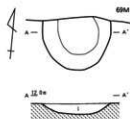
- 1103D 土層説明**
- 1層 黒褐色土 (T.09K2/2) 細り強い、粘性中~強い、褐色土 (φ0.5~1mm) を種多量含む。底面---
 - 2層 暗褐色土 (T.09K3/4) 細り強い、粘性中~強い、ローム (φ0.5~1mm) を90%程度に篩過。褐色土 (φ0.5~1mm) を中量含む。底面---

1103号土坑



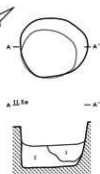
- 1105D 土層説明**
- 1層 黒褐色土 (T.09K2/2) 細り強い、粘性中~強い、ローム (φ0.5~1mm) を全体の1/3程度含む。横土 (φ0.5~1mm) を全体の1/3程度含む。底面---

1105号土坑



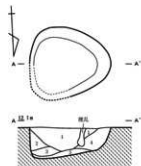
- 1104D 土層説明**
- 1層 暗褐色土 (T.09K3/2) 細り強い、粘性中~強い、ローム (φ0.5~1mm) を種多量含む。底面---

1104号土坑



- 1114D 土層説明**
- 1層 黒褐色土 (T.09K2/2) 細り強い、粘性中~強い、ローム (φ0.5~10mm) を全体の1/3程度含む。横土 (φ0.5~1mm) を全体の1/3程度含む。底面---
 - 2層 暗褐色土 (T.09K3/2) 細り非常に強い、粘性中~強い、ローム (φ0.5~10mm) を全体の1/3程度含む。底面---

1114号土坑



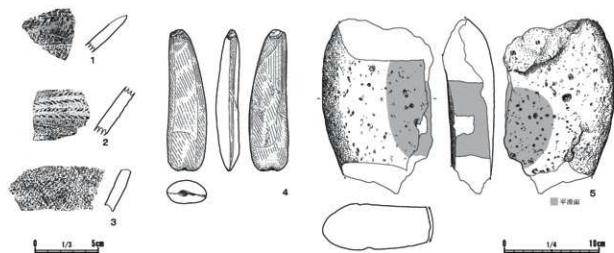
- 1107D 土層説明**
- 1層 黒褐色土 (T.09K2/2) 細り強い、粘性中~強い、ローム (φ0.5~1mm) を全体の1/3程度含む。底面---
 - 2層 暗褐色土 (T.09K3/2) 細り強い、粘性中~強い、ローム (φ0.5~1mm) を全体の1/3程度含む。底面---
 - 3層 暗褐色土 (T.09K3/2) 細り中~強い、粘性中~強い、ローム (φ0.5~1mm) を全体の1/3程度含む。横土 (φ0.5~1mm) を全体の1/3程度含む。底面---
 - 4層 暗褐色土 (T.09K3/4) 細り中~強い、粘性中~強い、ローム (φ0.5~1mm) を全体の1/3程度含む。横土 (φ0.5~1mm) を全体の1/3程度含む。底面---
 - 5層 褐色土 (T.09K4/1) 細り強い、粘性強い、ローム (φ0.5~1mm) を全体の1/3程度含む。底面---

1107号土坑



第59図 縄文時代土坑1 (1/60)

第3章 検出された遺構と遺物



第61図 1095号土坑出土遺物(1/3・1/4)

標図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第61図1 図版59-1-1	深鉢	底上39cm	胴部片	厚 0.8	褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子中量	2条の連続爪形文	諸磯a式
第61図2 図版59-1-2	深鉢	底上43cm	口縁部 片	厚 1.0	褐色～黒 褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子・石英中量	浮線文(矢羽状のキザミ)	諸磯b式
第61図3 図版59-1-3	深鉢	底上28cm	胴部片	厚 0.9	にぶい褐 色～褐色	砂粒やや多量/白 色粒子中量	縄文(R.L)	諸磯式

標図番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴	備考
第61図4 図版59-1-4	磨製 石斧	底上11cm	基部部 欠損	緑色岩	149.0	41.7	24.7	243.8	基部部は使用により破損/刀部も非難 痕が研磨により消えかかっている/全 体に研磨が施されている	
第61図5 図版59-1-5	石皿	底上38cm	部分	緑色岩	1185.0	1117.0	54.6	1488.4	上下右側を大きく欠損/右側縁部の割 れ口は使用により平滑になっている/ 再利用か?表裏とも中央部に平滑面を 持つ	

第37表 1095号土坑出土遺物一覧



第62図 1096号土坑出土遺物(1/3)

標図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第62図1 図版59-2-1	深鉢	底上4cm	胴部片	厚 1.5	にぶい褐 色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・石英・ 角閃石中量	底部付近。無文。	早期 縄文土器
第62図2 図版59-2-2	深鉢	底上1cm	胴部片	厚 0.8	にぶい褐 色	砂粒・白色粒子中 量	目般条痕/内面に割離あり	早期 縄文土器
第62図3 図版59-2-3	深鉢	底上18cm	胴部片	厚 0.7	にぶい褐 色	砂粒多量/白色粒 子・赤色粒子・石英・ 角閃石中量	横位平行波線	諸磯式

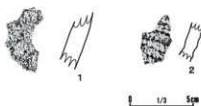
第38表 1096号土坑出土遺物一覧



第63図 1097号土坑出土遺物(1/3)

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第63図1 図版59-3-1	深鉢	覆土中	胴部片	厚 1.5	赤褐色	砂粒やや多量/白色粒子中量/石英少量	斜位平行沈線	中期後半

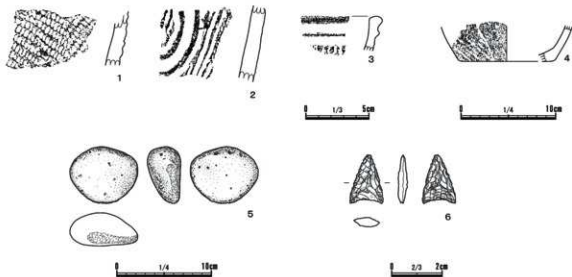
第39表 1097号土坑出土遺物一覽



第64図 1121号土坑出土遺物(1/3)

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第64図1 図版59-4-1	深鉢	覆土中	胴部片	厚 1.4	褐色~黒褐色	砂粒やや多量/白色粒子・赤色粒子中量/角閃石少量	無文	早期前半 縄土器
第64図2 図版59-4-2	深鉢	覆土中	胴部片	厚 0.9	褐色	砂粒多量/白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・炭石中量/礫少量	縄文(R.L)	前期

第40表 1121号土坑出土遺物一覽



第65図 1125号土坑出土遺物(2/3・1/3・1/4)

第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第65図1 図版59-5-1	深鉢	底上20cm	胴部片	厚 1.1	灰黄褐色 ~にぶい 褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子中量/石英 少量	縄文(R.L)	黒紙式 縄織土器
第65図2 図版59-5-2	深鉢	底上23cm	胴部片	厚 1.2	褐色~黒 褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・石英・ 角閃石中量	2条の隆帯, 縄文2類?/墨糸文(L)	曾利I b 式
第65図3 図版59-5-3	深鉢	覆土中	口縁部 片	厚 0.7	褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子中量	隆帯	中期
第65図4 図版59-5-4	深鉢	底上19・ 23cm	胴~底 部	厚 0.8	にぶい黄 褐色	砂粒多量/白色粒 子・石英・長石・ 角閃石中量	縄文(R.L)	諾磯式

検出番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴	備考
第65図5 図版59-5-5	巖石	底上21cm	完形	砂岩	71.9	60.0	35.1	168.8	上部は幅が広く厚みがあるが、下部は 幅が狭く薄くなっている/下端部より 右側面にかけて帯状に敲打痕がみられ る	
第65図6 図版59-5-6	石礫	底上30cm	完形	チャ ート	19.2	12.9	3.6	0.8	凹基無茶/先端部ややまるくなる	

第41表 1125号土坑出土遺物一覧



第66図 1127号土坑出土遺物(1/3)

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第66図1 図版59-6-1	深鉢	底上21・ 22cm	口縁部 片	厚 0.8	にぶい黄 褐色	砂粒多量/白色粒 子・赤色粒子・石英・ 角閃石中量	縦縄文(R.L)/隆帯区画	加曾利E I式
第66図2 図版59-6-2	深鉢	底上23cm	胴部片	厚 1.0	褐色	砂粒多量/白色粒 子・黒色粒子・赤 色粒子中量	縦縄文(R.L)/縦位蛇行する沈線/縦位 隆帯	加曾利E I式

第42表 1127号土坑出土遺物一覧



第67図 1131号土坑出土遺物(1/3)

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第67図1 図版59-7-1	深鉢	覆土中	胴部片	厚 0.8	にぶい赤 褐色	砂粒多量/白色粒 子・長石中量	縄文(R.L)	諾磯式

第43表 1131号土坑出土遺物一覧

〔土 器〕(第67図1、図版59-7-1、第43表)

1は諸磯式の深鉢胴部である。

(6) ピット

縄文時代のピットは、出土遺物が乏しく、時期の判定は主に覆土によったものである。加曾利E式の深鉢が出土した189号ピットは、この項で報告し、他のピットは第80表に諸属性を、平面図を第197～202図に掲載した。

189号ピット

〔遺 構〕(第68図)

〔位 置〕(D-4)グリッド。

〔構 造〕単独。平面円形、断面皿形。規模:53cm×52cm。深さ:12cm。長軸方位:N-16°-W。覆土:単層。ローム粒を含む黒褐色土を基調とする。

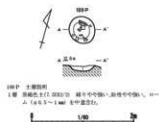
〔遺 物〕縄文土器の深鉢が出土した。

〔時 期〕縄文時代中期後葉(加曾利E I式)。

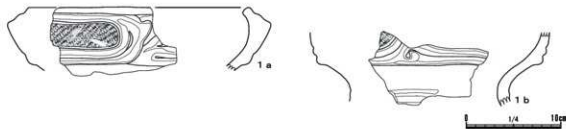
〔遺 物〕(第69図、図版59-8、第44表)

〔土 器〕(第69図1、図版59-8-1、第44表)

1a・bは加曾利E I式の深鉢で、同一個体と考えられる。



第68図 189号ピット(1/60)



第69図 189号ピット出土遺物(1/4)

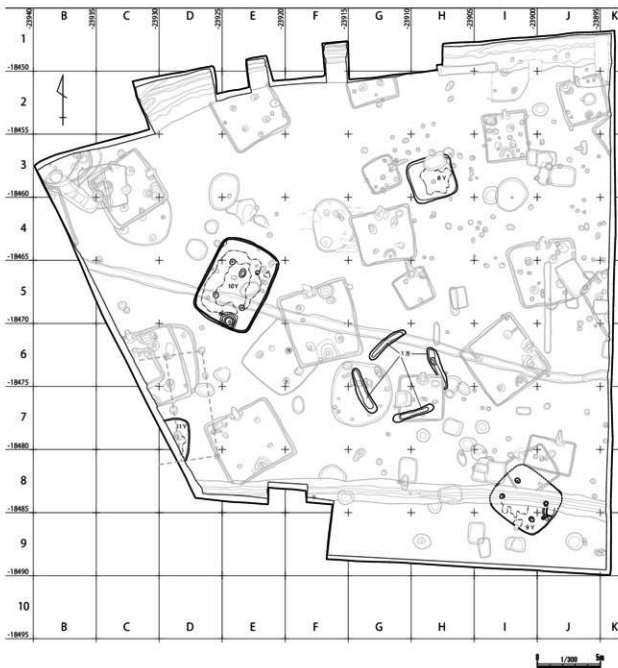
図版番号 図版番号	種別 器種	出土位置	埋存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第69図1 図版59-8-1	深鉢	底上7~10 cm	口縁~ 頸部 15%	高 口 [10.3] (23.5)	にぶい黄 褐色	砕粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子・石英中量/角 閃石・雲母少量	隆帯と比較による区画、縄文(LR)充填	加曾利E I式

第44表 189号ピット出土遺物一覧

第3節 弥生時代中期～古墳時代前期

(1) 概要

弥生時代中期～古墳時代前期の遺構は、住居跡4軒(8～11 Y)と方形周溝墓1基(1方)を検出した。遺構の時期の内訳は、10 Yが弥生時代中期後葉、11 Yが弥生時代後期末葉～古墳時代前期初頭、8 Y、9 Yが古墳時代前期初頭、1方は詳細時期不明である。弥生時代中期の住居跡は、市内初の事例、方形周溝墓も城山遺跡では初出である。10 Yからは、多量の焼土や炭化材が検出されており、焼失住居と推測される。遺物が豊富で、多数の壺・甕・高坏に伴い、挟入柱状片刃石斧、扁平片刃石斧、石包丁など石器・石製品がセットで出土した。また、用途不明の異形土製品が出土している。



第70図 弥生時代中期～古墳時代前期遺構全体図(1/300)

(2) 住居跡

8号住居跡

[遺 構] (第71・72図)

[位 置] (H-3・4) グリッド。

[検出状況] 1074・1076 D、33・77 Pに切られる。

[構 造] 平面形: 隅丸方形。規模: 長軸 3.64m / 短軸 3.41m / 深さ 26cm。壁: やや斜めに立ち上がる。主軸方位: N-17°-W。壁溝: 検出されなかった。床面: 平坦で住居中央部が硬化していた。貼床は2~14cmの厚さで施されていた。炉: 検出されなかった。貯蔵穴: 検出されなかった。柱穴: 検出されなかった。入口施設: 検出されなかった。

[覆 土] 8層に分層できた。

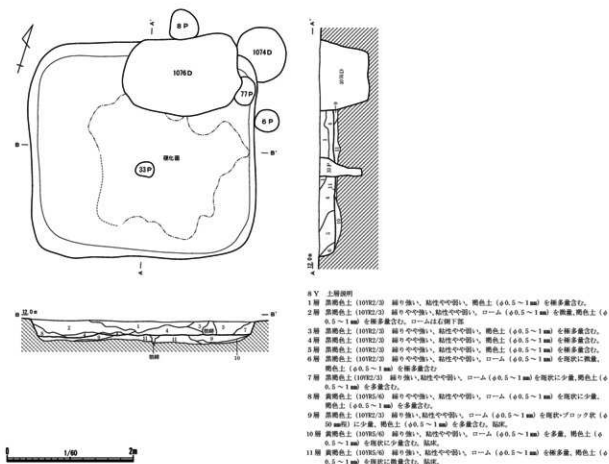
[遺 物] 竈・台付糞・高環・埴・環が出土した。南コーナー付近にて、炭化材を検出した。

[時 期] 古墳時代前期初頭。

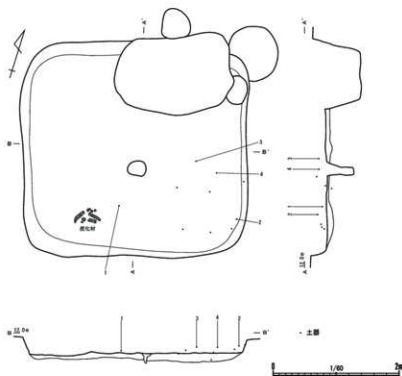
[遺 物] (第73図、図版60-1、第45表)

[土 器] (第73図1~4、図版60-1-1~4、第45表)

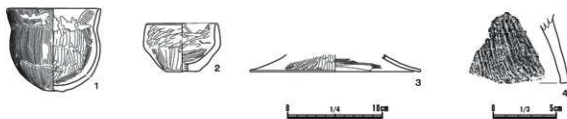
1は埴、2は環、3は高環、4は台付糞である。



第71図 8号住居跡 (1/60)



第72図 8号住居跡遺物出土状態 (1/60)



第73図 8号住居跡出土遺物 (1/3・1/4)

探検番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴
第73図1 図版60-1-1	埴	中央南側の 覆土中 (床 上6cm)	口縁～ 底部 40%	高口 8.8 底口 10.0 底 2.1	明赤褐色	砂粒・白色粒子中 量	内外面剥離あり/内面:口縁部ハケナデ・ヘラナデ、胴部～底部ミガキ/外面:口縁～胴部ハケナデ、底部ナデ
第73図2 図版60-1-2	坏	南東コー ナーの覆土 中 (床上14 cm)	口縁～ 底部 40%	高口 5.0 底口 (7.7) 底 (3.6)	にぶい、橙 色	砂粒・石英中量	内面剥離あり/口縁部は内植する/内面:ミガキ/外面:ミガキ
第73図3 図版60-1-3	高坏	中央西部の 覆土中 (床 上12cm)	脚部	高 [1.8] 底 18.2	にぶい、黄 褐色	砂粒・シャモット 中量	脚部大きく広がり低い/内面:ハケナデ・ヘラナデ/外面:ミガキ
第73図4 図版60-1-4	台付壺	東壁中央付 近の覆土中 (床上12cm)	台部片	厚 0.7	にぶい、橙 色	砂粒・白色粒子・ シャモット中量	内面:ヘラナデ/外面:台部ハケナデ、底部ナデ

第45表 8号住居跡出土遺物一覧

9号住居跡

遺構 (第74・75図)

[位置] (I・J-8・9) グリッド。

[検出状況] 319 H、69 M、161 Pに切られ、住居の北側はほとんど残っていない。

[構造] 平面形：隅丸長方形と思われる。規模：長軸 5.14m / 短軸 4.42m / 深さ 13cm。壁：やや斜めに立ち上がる。主軸方位：N-52°-W。壁溝：検出されなかった。床面：住居中央部に近い範囲に硬化が認められる。貼床は 3～27cm の厚さで施されていた。炉：検出されなかった。貯蔵穴：入口施設の北東側に位置する。平面形は隅丸長方形。長軸 71cm / 短軸 62cm / 深さ 23cm。南西側に幅 29cm ほど / 高さ 1～4cm ほどの凸堤が巡っていた。覆土はローム粒を含む暗褐色土・褐色土を基調とする。柱穴：主柱穴は P1 から P4 の 4 本と思われる。深さ 70～111cm。覆土はローム粒を含む黒褐色土・暗褐色土・褐色土・黄褐色土を基調とする。入口施設：P5 は入口梯子穴と思われる。深さ 17cm。覆土はローム粒を含む黒褐色土を基調とする。

[覆土] 5層に分層できた。

[遺物] 壺・台付甕・高環が出土した。南側の範囲から炭化材を検出した。炭化材は採取し、樹種同定を実施した（詳細は【付編】自然科学分析を参照）。

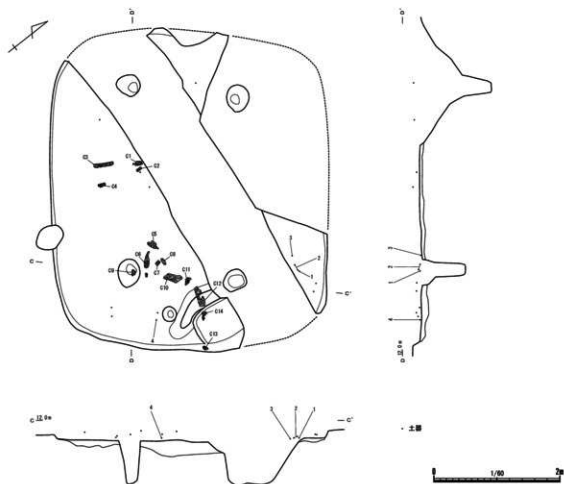
[時期] 古墳時代前期初頭。

[所見] 炭化材の検出状況から、焼失住居の可能性が考えられる。

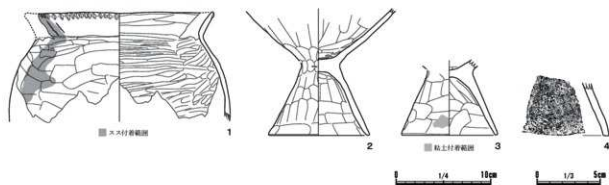
遺物 (第76図、図版60-2、第46表)

土器 (第76図1～4、図版60-2-1～4、第46表)

1～4は壺・台付甕である。



第75図 9号住居跡遺物出土状態 (1/60)



第76図 9号住居跡出土遺物(1/3・1/4)

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴
第76図1 図版60-2-1	甕	東コーナー 付近のはば 床面上	口縁～ 胴部 10%	高口 [11.5] (20.1)	にぶい黄 褐色	砂粒・シャモット 中量	口唇部キザミ/口縁～胴部スス付着/口縁部縦にツギ メが残る/内面:口縁部ヘラナデ、胴部ミガキ/外面: 口縁部噴ナデ、胴部ヘラナデ
第76図2 図版60-2-2	台付甕	東コーナー 付近のはば 床面上・覆 土中(床上 4cm)	底部～ 台部 30%	高底 [13.4] 10.7	にぶい黄 褐色	砂粒・シャモット 中量/石英少量	胎付け部にツギメが残る/内面:ヘラナデ、見込部ミガ キ/外面:ヘラナデ、脚台端部ナデ
第76図3 図版60-2-3	台付甕	東コーナー 付近の床面 上	台部	高底 [7.9] 10.1	にぶい黄 褐色	砂粒・シャモット 中量	脚台部粘土付着/内面:ヘラナデ/外面:ヘラナデ、脚 台端部ナデ
第76図4 図版60-2-4	台付甕	椀子穴の西 側覆土中(床 上2cm)	台部片	厚 0.6	橙色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・石英・ シャモット中量	内面:横ヘラナデ/外面:ナデ

第46表 9号住居跡出土遺物一覧

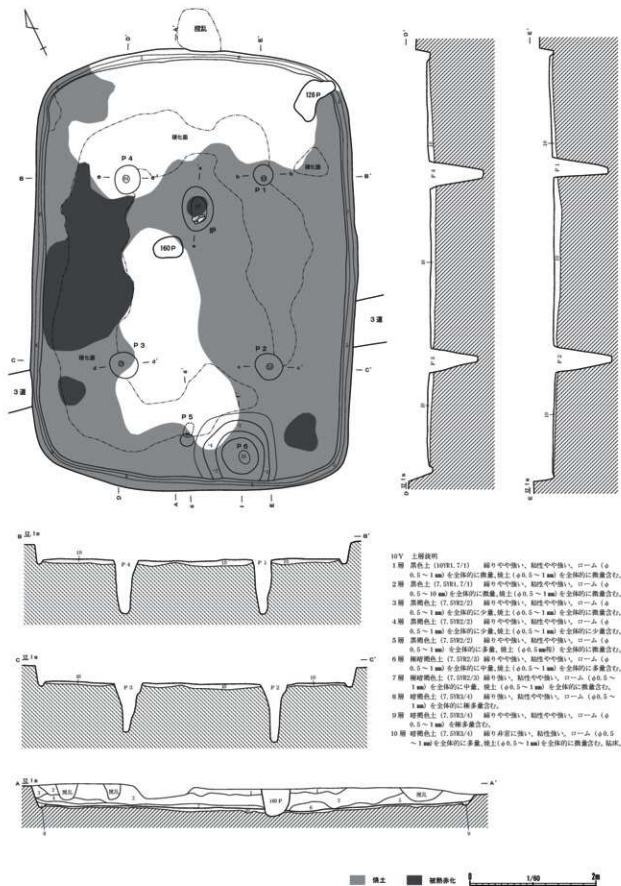
10号住居跡

遺構(第77～80図)

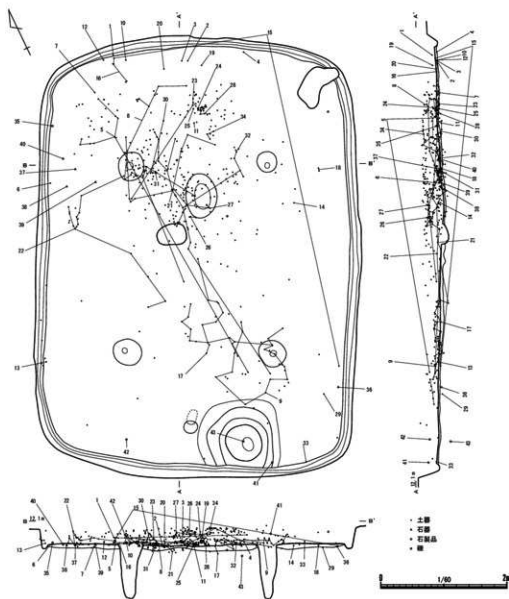
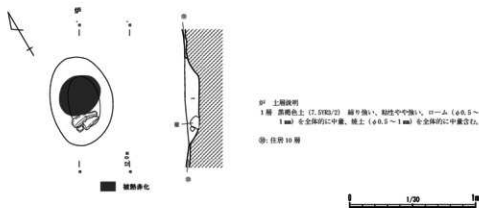
[位置] (D・E-4～6) グリッド。

[検出状況] 20 F P、1116 Dを切り、3道、128・159・160・162～164・166～171 Pに切られる。

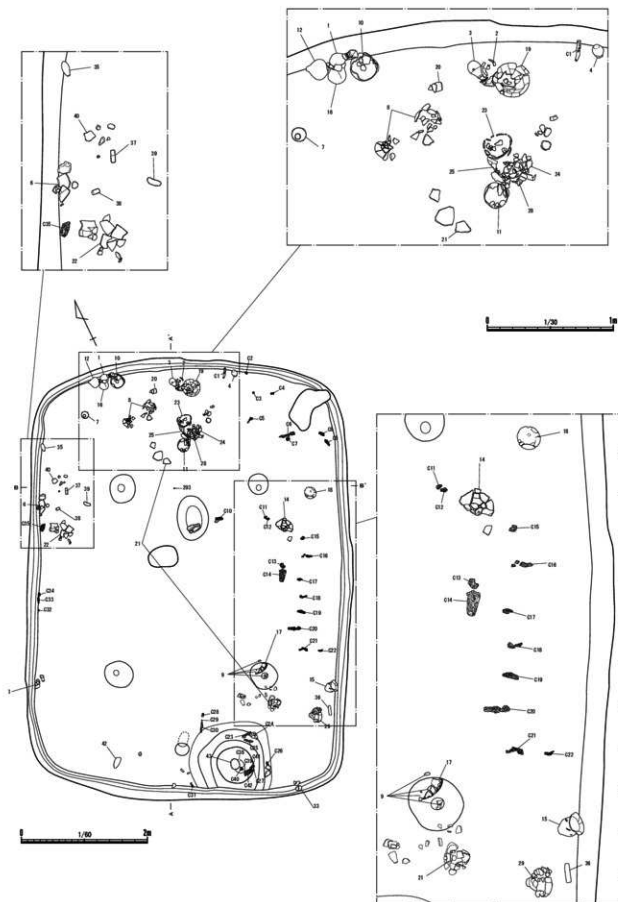
[構造] 平面形: 隅丸長方形ないしは俵形。規模: 長軸 7.01m / 短軸 5.21m / 深さ 36cm。壁: やや斜めに立ち上がる。主軸方位: N-26°-E。壁溝: 全周する。上幅 13～24cm / 下幅 3～8cm / 深さ 4～9cm。床面: ごく緩く中心に向かって下がる。周縁部と住居中央部を除いた、「O」ないしは「C」字状に硬化していた。貼床は 2～12cmの厚さで施されていた。被熱による赤化が観察された。北西壁付近が顕著で、赤化は貼床下の地山にまで及んでいた。炉: 中軸線上やや北よりに位置する。平面形は楕円形。南側に細長い礫(長さ 15cm / 幅 10cm / 厚さ 7cm) が置かれていた。長軸 70cm / 短軸 50cm / 深さ 12cm。中央部には 被熱による赤化が確認できた。貯蔵穴: 入口施設の南東に位置する。平面形は楕円形。長軸 59cm / 短軸 55cm / 深さ 33cm。周囲には幅 8～47cm / 高さ 1～4cmほどの凸堤が巡っていた。覆土はローム粒・焼土粒・炭化物を含む黒褐色土・褐色土を基調とする。柱穴: 主柱穴は P 1 から P 4 の 4 本と思われる。深さ 78～92cm。覆土はローム粒を含む黒褐色土・暗褐色土を基調とする。



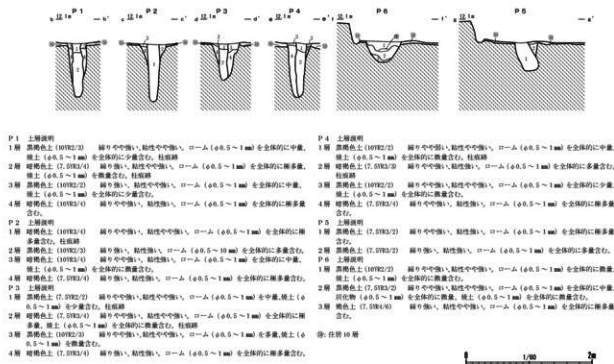
第77図 10号住居跡 (1/60)



第78图 10号住居跡・遺物出土状態1 (1/60・1/30)



第79図 10号住居跡遺物出土状態2 (1/60・1/30)



第80図 10号住居跡 (1/60)

入口施設：P5は入口梯子穴と思われる。深さ40cm。覆土はローム粒を含む黒褐色土を基調とする。

〔覆土〕9層に分層できた。多量の焼土の堆積が確認された。焼土は、北西壁・南西壁・南東壁の3方向から住居中央部へ向けて堆積し、北東壁付近と南側の中央部は堆積が薄い。厚さは5~10cmで、ほぼ床面に接する。主要な遺物はこの焼土に含まれる、ないしは、覆われる。

〔遺物〕壺・広口壺・高環・台付鉢・甕・台付甕、異形土製品、挟入柱状片刃石斧、扁平片刃石斧、石包丁、砥石、石皿、凹石、編石が出土した。炉から北コーナーにかけてが最も遺物が豊富な範囲で、次いで南コーナー付近に多い。南東壁に沿って炭化材が検出された。繊維方向が壁に直交するものは垂木と考えられる。平行するものもいくつかみられる。炭化材は採取し、樹種同定と放射性炭素年代測定を実施した(詳細は〔付編〕自然科学分析を参照)。

〔時期〕弥生時代時代中期後葉(宮ノ台式Ⅳ~Ⅴ期前半)

〔所見〕多量の焼土や炭化材が検出されたことから、焼失住居と考えられる。

〔遺物〕(第81~84図、図版60-3、図版61~63、第47表)

〔土器〕(第81~83図1~34、図版60-3-1~7、図版61~62-8~34、第47表)

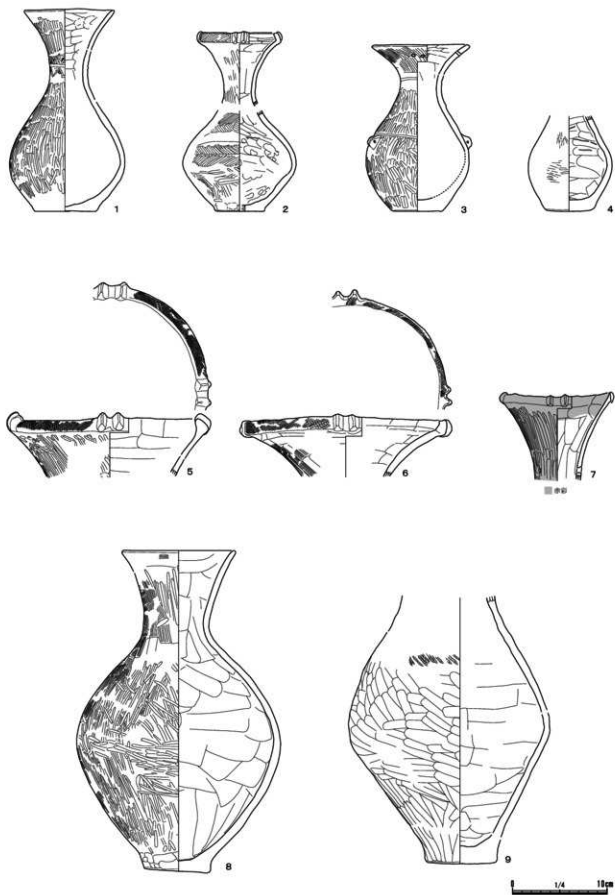
1~14・30~33は壺、15・16は広口壺、17~20は高環、21は台付鉢、22~29・34は甕・台付甕である。

〔土製品〕(第83図35、図版62-35、第47表)

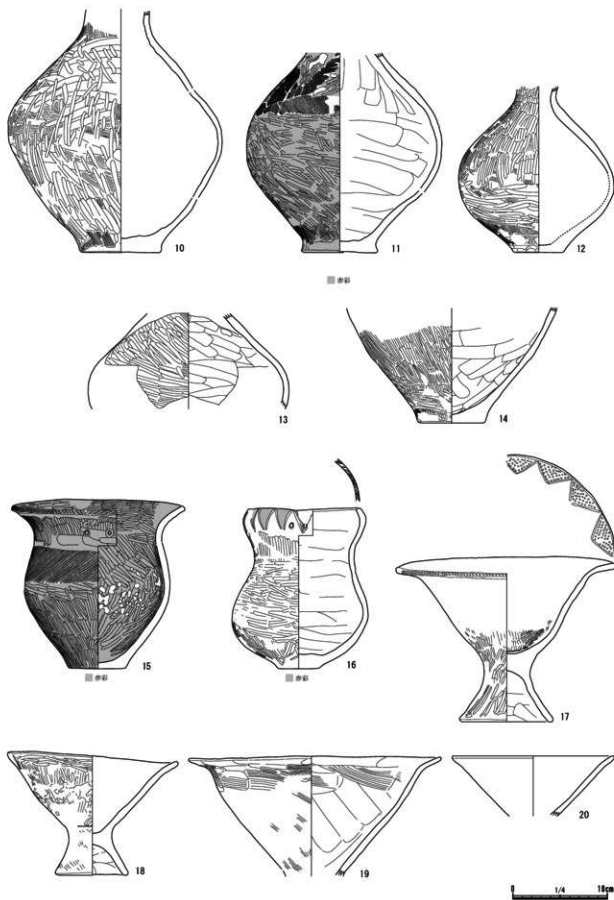
35は異形土製品である。

〔石製品〕(第84図36~44、図版63-36~44、第47表)

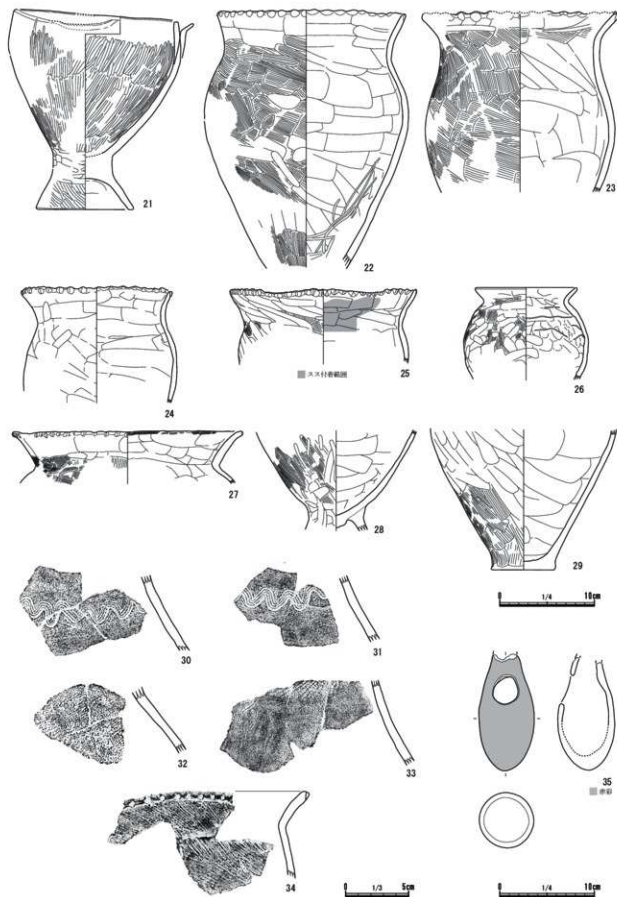
36・37は挟入柱状片刃石斧、38は扁平片刃石斧、39は石包丁、40は砥石、41は石皿・砥石、42・43は石皿・凹石、44は編石である。



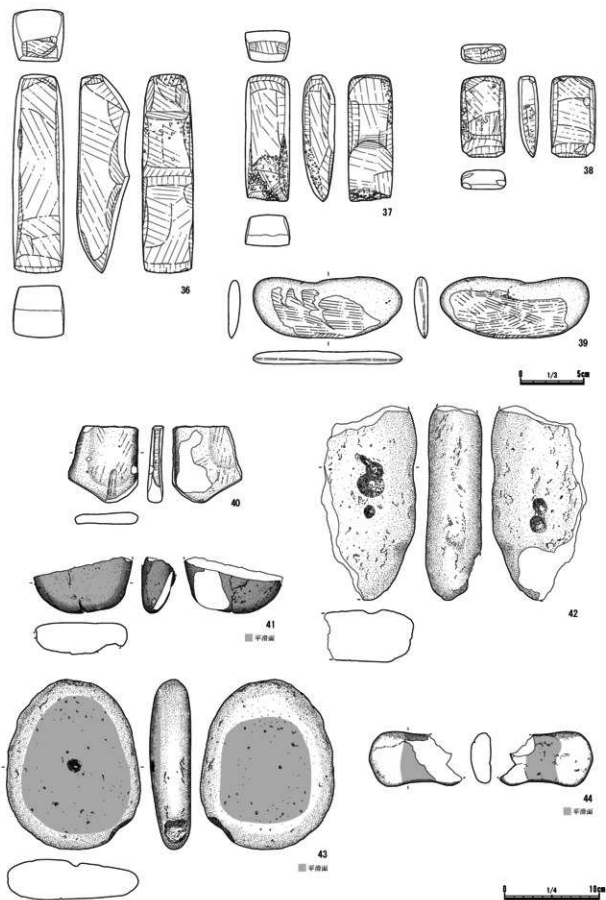
第81图 10号住居跡出土遺物1 (1/4)



第82图 10号住居跡出土遺物2 (1/3・1/4)



第83図 10号住居跡出土遺物3 (1/3・1/4)



第84図 10号住居跡出土遺物4 (1/3・1/4)

第3章 検出された遺構と遺物

探検番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴
第81図1 図版60-3-1	甕	北壁西側付 近の覆土中 (床上13cm)	口縁～ 底部 90%	高口 21.4 9.5 6.4	褐色	砂粒やや多量に含 む	小型/頸部縄文(LR)→沈凝・刺突文が2段に施され る/最大径を胴下部に持つ/内面:口縁部ヘラナデ/ 指押え/外面:口縁部・胴部ミガキ
第81図2 図版60-3-2	甕	北壁中央付 近の床面上	口縁～ 底部 90%	高口 19.0 8.1 5.2	褐色～褐 灰色	砂粒・白色粒子中 量	小型/内面沈凝により刺突あり/口縁部縄文無施L、突 刺部貼付け2個・4単位/頸部羽状縄文(L+R)/胴部羽 状縄文(R+L)/内面:ナデ/外面:頸部ナデ→ミガキ、 胴下部ミガキ・指押え、底部未調整
第81図3 図版60-3-3	甕	北壁中央付 近の床面上	口縁～ 底部 90%	高口 17.6 10.4 5.2	灰黄褐色	砂粒・白色粒子中 量	小型/口縁部穿孔2個・4単位/頸部沈凝/胴部突起貼 付け2個・4単位・中央部に穿孔/口縁部大きく外積/ 底部やや肉厚/内面:口縁部ヘラナデ/外面:口縁部 ハケナデ、頸部ナデ、胴部凝ミガキ、底部未調整
第81図4 図版60-3-4	甕	北壁東側付 近の床面上	肩～ 底部 50%	高底 10.0 5.2	褐色	砂粒・石英・小礫 中量	小型/外面ほぼ刺突/底部に木葉痕あり/最大径を胴 部中位にもつ/内面:ヘラナデ/外面:ミガキ/外面 ほぼ刺突
第81図5 図版60-3-5	甕	北東コー ナー付近の 覆土中(床 上7～17 cm)	口縁～ 頸部 20%	高口 16.8 18.8	明褐色	砂粒やや多量/長 石中量	口唇部縄文(RL)/口縁部突起貼付け2個・4単位/内面: ヘラナデ/外面:ミガキ
第81図6 図版60-3-6	甕	西壁北側の 床面上	口縁～ 頸部 15%	高口 16.6 (21.6)	褐色	砂粒多量	口唇部と口縁部にそれぞれ縄文(RL)/口縁部突起貼 付け2個4単位/口縁部は大きく外積する/内面:ヘ ラナデ/外面:ハケナデ・ヘラナデ
第81図7 図版60-3-7	甕	北東コー ナーの床面上	口縁～ 頸部 50%	高口 19.3 11.2	赤褐色～ 褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子中量/石 英・角閃石少量	内面口縁部・外面赤彩/口縁部突起貼付け2個4単位 /頸部焼成後穿孔3か所/内面:ヘラナデ/外面:口 縁部ナデ、頸部ナデ→ミガキ
第81図8 図版61-8	甕	伊北東側の 床面上・覆 土中(床上 3～25cm)	口縁～ 底部 80%	高口 34.0 12.0 7.1	にぶい黄 褐色	砂粒・赤色粒子中 量/石英・角閃石 少量	最大径を胴部中位にもつ/内面:ヘラナデ/外面:口 縁部・胴部ハケナデ→ミガキ、胴下部ナデ、底部未調整
第81図9 図版61-9	甕	貯蔵穴北側の 床面上・覆 土中(床上 3～16 cm)	肩～ 底部 80%	高底 28.4 7.3	にぶい橙 色	砂粒やや多量	肩部縄文無施R/最大径を胴部中位にもつ/内面:ヘ ラナデ/外面:ハケナデ、底部未調整
第82図10 図版61-10	甕	北壁西側付 近の覆土中 (床上5cm)	頸～ 底部 80%	高底 25.9 9.9	にぶい黄 褐色	砂粒・赤色粒子中 量	内面刺突あり、底部はやや肉厚/最大径を胴部中位に もつ/内面:ナデ/外面:ハケナデ→ミガキ、底部 ナデ
第82図11 図版61-11	甕	伊北側の床 面上	肩～ 底部 80%	高底 21.2 7.9	赤褐色～ にぶい赤 褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子中量	肩部縄文(RL)/肩部縄文施文部以外赤彩/最大径を 胴部中位にもつ/外面上部に刺突あり/内面:ヘラ ナデ/外面:胴部ミガキ、胴下部ハケ、底部ケズリ
第82図12 図版61-12	甕	北壁西側付 近の覆土中 (床上5cm)	頸～ 底部 80%	高底 17.5 5.1	明黄褐色	砂粒中量/石英少 量	最大径を胴やや下半にもつ/内面:頸部ナデ/外面: ハケナデ→(ナデ)→ミガキ、胴下部指押え、底部未 調整
第82図13 図版61-13	甕	東壁南側付 近の覆土中 (床上2cm)	肩部 5%	高 10.1	にぶい黄 褐色～黒 褐色	砂粒・白色粒子中 量	内面:ヘラナデ/外面:ハケナデ→ミガキ
第82図14 図版61-14	甕	伊東側の床 面上	肩～ 底部 15%	高底 12.1 (7.1)	浅黄色	砂粒やや多量/石 英・角閃石少量	底部に木葉痕あり/内面:ヘラナデ/外面:ハケナデ →ミガキ
第82図15 図版61-15	広口甕	北壁西側付 近・西壁南 側付近の床 面上・覆土 中(5～8cm)	口縁～ 底部 90%	高口 17.9 18.2 6.0	にぶい赤 褐色～橙	砂粒中量	口唇部縄文(LR)/肩部縄文(LR)2段結語?/内外 面縄文施文部以外赤彩/頸部穿孔2個・2単位/外面 刺突あり/内面:口縁部横ミガキ、胴部ミガキ/内面: 口縁部凝ミガキ、胴下部ミガキ、底部ヘラケズリ

第47表 10号住居跡出土遺物一覧(1)

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法 量 (cm)	色 調	胎 土	特 徴
第 82 図 16 図版 61-16	広口甕	北壁西側付 近の覆土中 (床上 5cm)	口縁～ 底部 90%	高 口 16.9 底 口 11.8 底 4.4	明赤褐色 ～にぶい 黄褐色	砂粒やや多量	見込部剥離/口縁部襷文(LR)/口縁部刺歯文・区画 土層のみ赤粒/口縁部穿孔 2 個・2 単位/口縁部は内溝 しれい/内面:ヘラナデ/外面:胴部ミガキ、底部ヘ ラケズリ
第 82 図 17 図版 62-17	高杯	伊南側の床 面上・覆土 中 (3～10 cm)	ほぼ完 形	高 口 17.5 底 口 23.2 底 10.6	にぶい橙 色	砂粒中量/角閃石 少量	口縁部襷文無筋 R/内面口縁部穴縁により刺歯文施文 し外側に内形刺突充填/口縁部は平行に近く開く/内 面:環部ナデ→ミガキ、台座ヘラナデ/外面:ハケナ デ→ミガキ、脚台端部未調整
第 82 図 18 図版 62-18	高杯	西壁北側付 近の床面上	完形	高 口 13.1 底 口 18.1 底 17.7	灰黄褐色	砂粒多量/白色粒 子中量/角閃石少 量	外面剥離あり/内面:環部ハケナデ・ミガキ、台座ヘ ラナデ/外面:ハケナデ→ミガキ
第 82 図 19 図版 62-19	高杯	北壁中央付 近の覆土中 (床上 4cm)	口縁～ 底部 50%	高 口 [12.7] 底 口 26.8	褐色	砂粒多量/石英中 量	口縁部は外反する/内面:ハケナデ・ヘラナデ/外面: ハケナデ・ヘラナデ/口縁部は外反する
第 82 図 20 図版 62-20	高杯	北壁中央付 近の床面上	口縁 部 10%	高 口 [6.4] (17.2)	褐色	砂粒多量/白色粒 子・石英中量	内面外面:風化により器面調整詳細不明
第 83 図 21 図版 62-21	台付鉢	伊西側の床 面上・覆土 中 (床上 3 ～ 28cm)	口縁～ 台部 60%	高 口 21.2 底 口 17.3 底 10.3	にぶい黄 褐色	砂粒やや多量	片口/口縁部は内積する/貼付け部が内厚/最大径を 胴上部にもつ/内面:口縁部横ナデ、胴部ミガキ、台 座ヘラナデ/外面:口縁部横ナデ、胴部ミガキ、貼 り付け部ナデ、脚台部ミガキ、脚台端部ヘラケズリ
第 83 図 22 図版 62-22	甕	西側中央付 近の覆土中 (床上 3～23 cm)	口縁～ 胴部 40%	高 口 [27.4] 底 口 19.9	にぶい黄 褐色	砂粒やや多量	口縁部押捺/口縁部はやや外積する/最大径を胴上部 にもつ/内面:口縁～胴部ヘラナデ、胴下部ヘラナデ →ミガキ/外面:ハケナデ・ヘラナデ
第 83 図 23 図版 62-23	甕	伊北側の床 面上・覆土 中 (床上 12 cm)	口縁～ 胴部 40%	高 口 [19.0] (20.8)	にぶい黄 褐色	砂粒中量	口縁部押捺/内面:口縁部ヘラナデ・ハケナデ、胴部 ヘラナデ/外面:ヘラナデ、頸部～胴部ヘラナデ
第 83 図 24 図版 62-24	甕	伊北側の覆 土中 (床上 11～12cm)	口縁～ 胴部 50%	高 口 [12.3] 底 口 16.0	褐色	砂粒中量	口縁部押捺、口縁部はゆるやかに外積する/内面:ヘ ラナデ/外面:ヘラナデ
第 83 図 25 図版 62-25	甕	伊北側の覆 土中 (床上 2cm)	口縁～ 頸部 10%	高 口 [7.9] (19.8)	明褐色～ にぶい褐 色	砂粒・白色粒子・ 長石中量	口縁部押捺/内面口縁部にスス付着/内面:ヘラナデ /外面:ハケナデヘラナデ
第 83 図 26 図版 62-26	甕	伊南側の覆 土中 (床上 15～21cm)	口縁～ 体部 10%	高 口 [9.7] (10.9)	にぶい褐 色	砂粒・石英中量	小型/ツギメが目立つ/内面:ヘラナデ・指押え/外面: ハケナデ→ヘラナデ
第 83 図 27 図版 62-27	甕	伊範囲内・ 伊西側の覆 土中 (床上 11～21cm)	口縁～ 頸部 10%	高 口 [5.5] (24.5)	にぶい黄 褐色	砂粒・石英・シヤ モット中量	口縁部キザミ/内面:口縁上部ハケナデ、以下ヘラナ デ/外面:口縁部ハケナデヘラナデ、胴部ハケナデ
第 83 図 28 図版 62-28	台付甕	伊北側の床 面上・覆土 中 (3～12 cm)	胴～ 台部 15%	高 口 [10.1]	にぶい橙 色	砂粒中量	内面:ヘラナデ/外面:ハケナデ→ヘラナデ
第 83 図 29 図版 62-29	甕	南東コー ナーの床 面上	胴～ 底部 50%	高 底 [14.9] 底 6.5	明赤褐色	砂粒・白色粒子中 量	内面:ヘラナデ/外面:ヘラナデ・ハケナデ、底部未 調整
第 83 図 30 図版 62-30	甕	伊西側の床 面上・覆土 中 (床上 4 cm)	胴部片 厚	0.6	褐色	砂粒多量/白色粒 子・黒色粒子・石 英長石中量	外面にクシガキ波襷文/内面:ヘラナデ/外面:ヘラ ナデ

第 47 表 10 号住居跡出土遺物一覧 (2)

第3章 検出された遺構と遺物

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴		
第83図31 図版62-31	甕	伊西側の床面上	胴部片 厚	0.6	褐灰色	砂粒多量/白色粒子・黒色粒子・石英・長石・白色針状物質中量/小礫少量	外面にクシガキ波縄文/内面外面：ヘラナデ		
第83図32 図版62-32	甕	伊東側の覆土中(床上2~5cm)	胴部片 厚	0.7	にぶい褐色~にぶい黄褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子中量	外面縄文(LR) /内面：ミガキ/外面：ハケナデ		
第83図33 図版62-33	甕	南東コーナーの覆土中(床上3cm)	頸部片 厚	0.6	にぶい黄褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・石英中量	外面上部縄文(RL) /内面：ヘラナデ/外面：ミガキ		
第83図34 図版62-34	甕	伊北側の覆土中(床上26~28cm)	口縁~胴部片 厚	0.5	にぶい褐色	砂粒・石英・シヤモット中量	内外面口縁部赤彩/口唇キザミ/外面口縁と胴部にスス附着/内面：口縁部ハケナデ、胴部ヘラナデ/外面：ハケナデ		
発掘番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	
第83図35 図版62-35	異形土製品	北コーナー付付近の覆土中(床上3cm)	上端部欠損	[12.3]	5.9	5.9	146.5	面垂れ形を呈す/内外面ナデ、外面赤彩/上半部に3mm程の孔	
発掘番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	石 材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴
第84図36 図版63-36	挟入柱状片刃石斧	南東コーナーの床面上	完形	細粒緑色凝灰岩	157.4	40.5	42.1	490.0	全体に非常にいいに研磨されている/一部に製作時の敲打痕がのこる
第84図37 図版63-37	挟入柱状片刃石斧	西壁北側付近の床面上	完形	細粒緑色凝灰岩	100.4	34.8	25.5	183.7	刃部が滅ったか、欠損したか、刃部に新しい調整が入り、敲打や研磨が行われる/明確ではないが、挟入の痕跡があり、使用により不明確になっている模様/全体に非常に丁寧に研磨されている
第84図38 図版63-38	扁平片刃石斧	西壁北側付近の床面上	完形	黄質玄武岩	64.1	35.5	15.7	71.3	刃部直刃の磨製石斧で表裏基部は丁寧に研磨、特に刃部は非常に丁寧に研磨/側縁部は研磨しているものの敲打痕を残す
第84図39 図版63-39	石包丁	西壁北側付近の床面上	完形	粘板岩	117.6	48.2	10.7	100.1	扁平な自然礫を用い、表裏とも中央から下端部にかけて研磨している/特に下端部は急角度な研磨で刃部を成形している
第84図40 図版63-40	砥石	西壁北側付近の床面上	部分	砂岩	[80.5]	[73.0]	[15.8]	92.4	全体に薄い砥石で中央部が凹状にやや凹んでいる/また溝状凹んでいる部分があり、左右縁辺部は横方向磨道がみられ、厚みが薄くなっている
第84図41 図版63-41	石皿・砥石	貯蔵穴東側の覆土中(床上19cm)	部分	砂岩	[103.5]	[58.9]	[34.7]	224.4	上部を大きく欠損/表面は平端かつ平滑で一部磨道が確認できる/全体は被熱により赤化し剥離/上部の欠損も被熱により失われているよう
第84図42 図版63-42	石皿・凹石	南壁西側付近の覆土中(床上17cm)	部分	安山岩	[204.6]	[100.7]	[58.9]	1590.9	大きく欠損しているものの、表裏面に平端面を持つ自然礫/表裏面は平端で中央部に凹みを複数有する
第84図43 図版63-43	石皿・凹石	貯蔵穴(底上16cm)	完形	閃緑岩	179.5	141.6	42.9	1685.4	扁平な自然礫を使用し、表裏面中央部に平滑面、表中央部に凹みを有する
第84図44 図版63-44	扁石	南西側の覆土中	右半分が欠損	砂岩	[98.1]	57.7	[20.5]	148.5	分銅形の自然礫で右半分が欠損/中央部がくびれており、くびれとくびれの間は全体に滑らかになっている

第47表 10号住居跡出土遺物一覧(3)

11号住居跡

遺構 (第85図)

[位置] (D-7・8) グリッド。

[検出状況] 西側の調査区域で検出したため、住居の西側の2/3程度が調査区外である。12 Tに切られる。

[構造] 平面形：隅丸方形と思われる。規模：長軸1.74m / 短軸1.03m / 深さ8cm。壁：やや斜めに立ち上がる。主軸方位：N。壁溝：検出されなかった。床面：平坦で住居中央部に近い範囲が硬化していた。貼床は1～4cmの厚さで施されていた。炉：検出されなかった。貯蔵穴：検出されなかった。柱穴：検出されなかった。入口施設：検出されなかった。

[覆土] 2層に分層できた。

[遺物] 壺・台付甕、砥石・蔽石が出土した。遺物は東壁沿いに分布する傾向にある。炭化材も南側の東壁沿いで検出された。

[時期] 弥生時代後期末葉～古墳時代前期初頭。

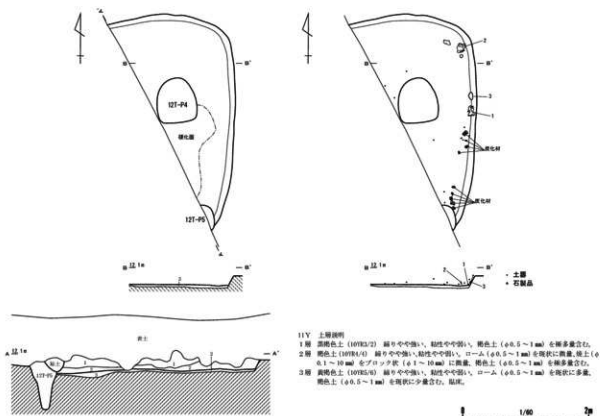
遺物 (第86図、図版64-1、第48表)

[土器] (第86図1・2、図版64-1-1・2、第48表)

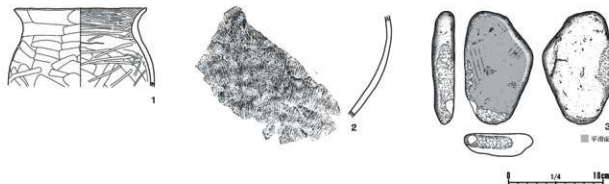
1・2は台付甕である。

[石器] (第86図3、図版64-1-3、第48表)

3は砥石・蔽石である。



第85図 11号住居跡・遺物出土状態 (1/60)



第86図 11号住居跡出土遺物(1/4)

探図番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴		
第86図1 図版64-1-1	甕	東壁中央の 床面上・覆 土中(床上 3・15cm)	口縁～ 胴部 20%	高口 18.3 14.1	赤褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子中量	頸部にやや厚みあり/内面:口縁部ハケナデ→粗いミガキ、胴部ヘラナデ→粗いミガキ/外面:ハケナデ→ヘラナデ/頸部にやや厚みあり		
第86図2 図版64-1-2	台付甕	北東コー ナーの覆土 中(床上4 cm)	胴部片	厚 0.6	明赤褐色 ～灰黄褐 色	砂粒やや多量/白 色粒子・赤色粒子・ シャモット中量	内面外面:ハケナデ		
探図番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴
第86図3 図版64-1-3	砥石・ 敲石	東壁中央付 近の覆土中 (床上5cm)	完形	砂岩	120.7	72.0	23.7	301.7	扁平な自然産の表を砥石として使用後、敲石として再利用している/裏面は風化が著しい/敲打痕は下端部から左無縁部に広く確認できる

第48表 11号住居跡出土遺物一覧

(3) 方形周溝墓

1号方形周溝墓

遺構(第87図)

[位置] (G・H-6・7) グリッド。

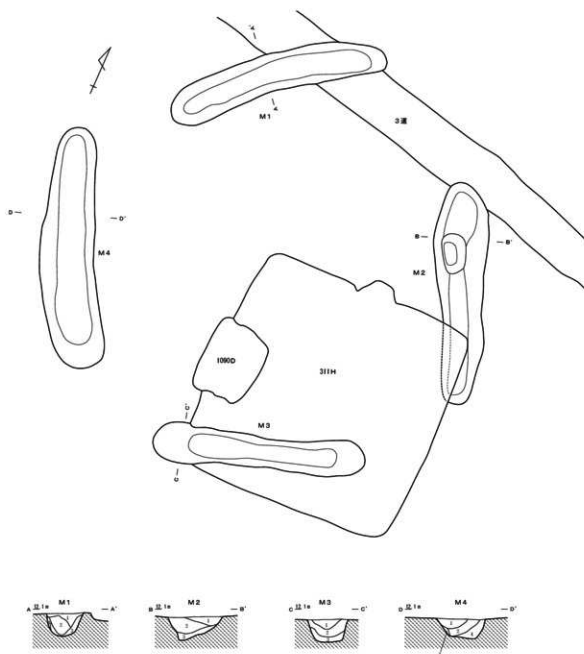
[検出状況] 6J・1096Dを切り、311H、3道に切られる。

[構造] 平面形: 4隅が切れた方形。規模: 長軸7.12m/短軸6.91m。壁: やや斜めに立ち上がる。主軸方位: N-24°-W。溝: <M1>長さ350cm/幅58cm/深さ38cm。覆土はローム粒を含む暗褐色土・黒褐色土を基調とする。<M2>長さ352cm/幅87cm/深さ37cm。覆土はローム粒を含む黒褐色土・にぶい黄褐色土を基調とする。<M3>長さ337cm/幅65cm/深さ36cm。覆土はローム粒を含む黒褐色土・にぶい黄褐色土を基調とする。<M4>長さ381cm/幅76cm/深さ35cm。覆土はローム粒を含む黒褐色土・褐色土を基調とする。主体部: 検出されなかった。

[覆土] 各溝は3～4層に分層できた。

[遺物] 本遺構に伴うものは、出土しなかった。

[時期] 弥生時代中期か。



M1 上層説明

- 1層 黒褐色土 (10193/0) 細り強い、粘性やや強い、ローム ($\phi 0.5 \sim 1 \text{mm}$) をブロック状 ($\phi 50 \text{mm}$) に散見、褐色土 ($\phi 0.5 \sim 1 \text{mm}$) を稀多量含む。
- 2層 黒褐色土 (10192/2) 細りやや強い、粘性やや強い、ローム ($\phi 0.5 \sim 1 \text{mm}$) を塊状に散見、褐色土 ($\phi 0.5 \sim 1 \text{mm}$) を塊状に稀多量含む。
- 3層 黒褐色土 (10192/3) 細り強い、粘性やや強い、ローム ($\phi 0.5 \sim 1 \text{mm}$) を塊状・ブロック状 ($\phi 50 \text{mm}$) に少量、褐色土 ($\phi 0.5 \sim 1 \text{mm}$) を塊状に多量含む。
- 4層 黒褐色土 (10192/4) 細りやや強い、粘性やや強い、ローム ($\phi 0.5 \sim 1 \text{mm}$) を塊状に少量、褐色土 ($\phi 0.5 \sim 1 \text{mm}$) を塊状に多量含む。

M2 上層説明

- 1層 黒褐色土 (10193/1) 細りやや強い、粘性やや強い、ローム ($\phi 1 \text{mm}$) を少量、赤色スコリア ($\phi 1 \text{mm}$) を少量含む。
- 2層 黒褐色土 (10193/1) 細りやや強い、粘性やや強い、ローム ($\phi 2 \text{mm}$) を少量含む。
- 3層 に広い黄褐色土 (10195/0) 細りやや強い、粘性やや強い、ローム主体、暗褐色土を少し状に多量含む。

M3 上層説明

- 1層 黒褐色土 (10193/3) 細りやや強い、粘性やや強い、ローム ($\phi 1 \text{mm}$) を少量、赤色スコリア ($\phi 1 \text{mm}$) を少量含む。
- 2層 黒褐色土 (10193/3) 細りやや強い、粘性やや強い、ローム ($\phi 2 \text{mm}$) を少量含む。
- 3層 に広い黄褐色土 (10195/0) 細りやや強い、粘性やや強い、ローム主体、暗褐色土を少し状に多量含む。

M4 上層説明

- 1層 黒褐色土 (10192/2) 細りやや強い、粘性やや強い、ローム ($\phi 0.5 \sim 1 \text{mm}$) をブロック状 ($\phi 50 \text{mm}$) に散見、褐色土 ($\phi 0.5 \sim 1 \text{mm}$) を稀多量含む。
- 2層 黒褐色土 (10192/2) 細り強い、粘性やや強い、ローム ($\phi 0.5 \sim 1 \text{mm}$) をブロック状 ($\phi 50 \text{mm}$) に散見、褐色土 ($\phi 0.5 \sim 1 \text{mm}$) を稀多量含む。
- 3層 褐色土 (10194/0) 細りやや強い、粘性やや強い、ローム ($\phi 0.5 \sim 1 \text{mm}$) を塊状に少量、褐色土 ($\phi 0.5 \sim 1 \text{mm}$) を塊状に少量含む。
- 4層 黒褐色土 (10192/3) 細りやや強い、粘性やや強い、褐色土 ($\phi 0.5 \sim 1 \text{mm}$) を稀多量含む。

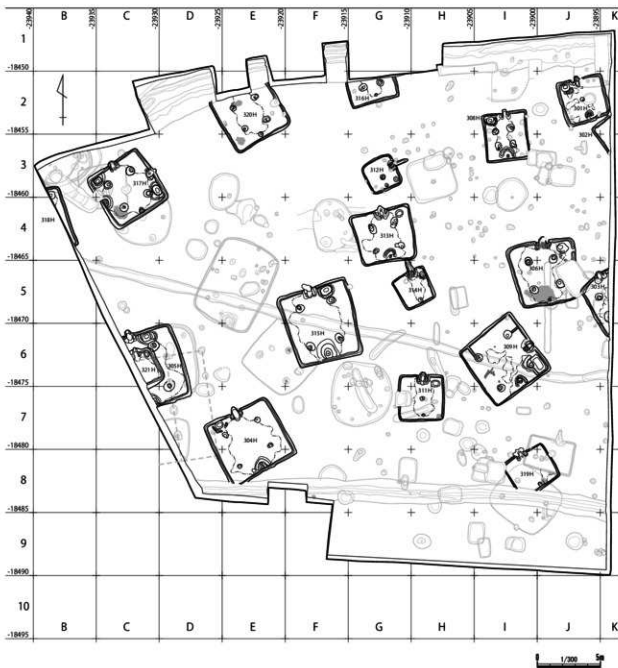


第 87 図 1号方形周溝墓 (1/60)

第4節 古墳時代後期

(1) 概要

古墳時代後期の遺構は、住居跡 19 軒を検出した。住居跡の帰属時期は、302 H が出土遺物が少ないため詳細時期不明、309 H が 7 世紀前葉、304・312・316・320 H が 7 世紀中葉～末葉、321 H が 7 世紀後葉、その他は全て 7 世紀中葉である。遺物が豊富なものが多く、特に 321 H は小型の住居跡ながら、本報告に掲載した土器は、105 点に及ぶ。304 H からは、多量の焼土と炭化材が検出され、焼失住居と考えられる。また、カマドの両袖の先端に長甕が伏せられた状態で出土し、カマドの袖ないしは焚口の両脇に長甕が使われたことが想定される。



第 88 図 古墳時代後期遺構全体図 (1 / 300)

(2) 住居跡

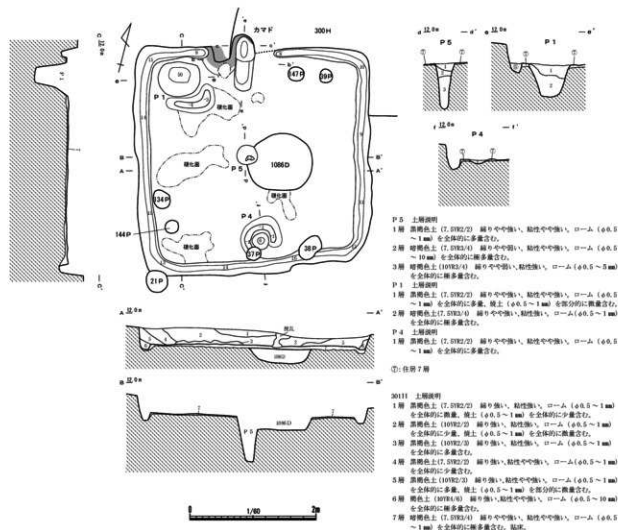
301号住居跡

遺構(第89・90図)

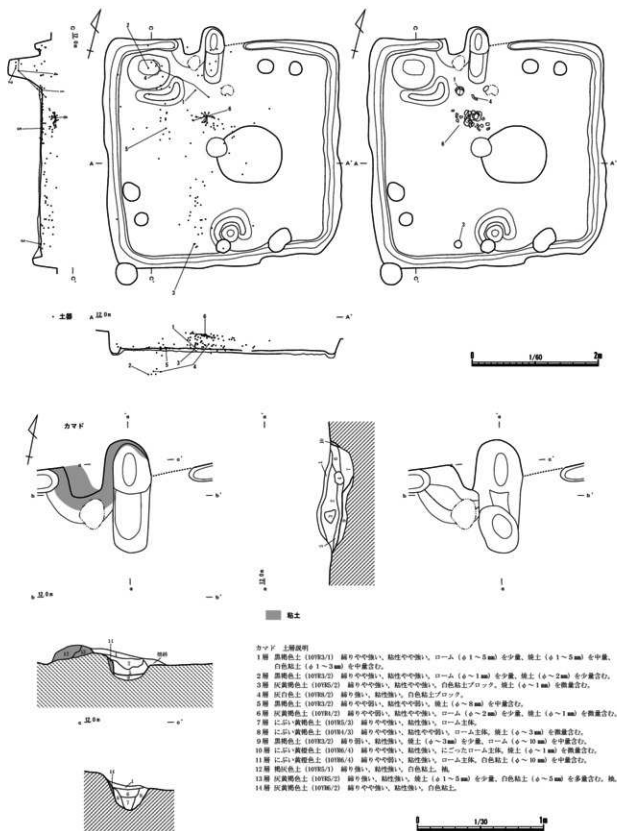
[位置] (J・K-2) グリッド。

[検出状況] 1086 Dを切り、300 H、16・21・37～39・134・144・147 Pに切られる。

[構造] 平面形：方形。規模：長軸3.81m/短軸3.64m/深さ27cm。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。主軸方位：N-14°-W。壁溝：カマドを除き全周する。上幅16～28cm/下幅7～13cm/深さ6～16cm。床面：住居西側部分が、部分的に硬化していた。貼床は2～7cmの厚さで施されていた。カマド：北壁のほぼ中央に位置する。東側が300Hにより破壊されている。主軸方位はN-11°-W。長さ89cm/幅84cm/壁への掘り込み21cm。袖部はロームを馬蹄形状に掘り残し、その上に粘土を被覆して構築されたと考えられる。貯蔵穴：北西コーナーに位置する(P1)。平面形は丸みを帯びた長方形。長軸66cm/短軸55cm/深さ50cm。周囲には幅18～31cm/高さ4cmほどの凸堤がL字状に検出された。覆土はローム粒を含む黒褐色・暗褐色土が堆積する。柱穴：住居中央のP5は主柱穴の可能性がある。深さ73cm。覆土はローム粒を含む暗褐色土を基調とする。入口施設：P4は入口梯子穴と考えられる。覆土はローム粒を含む黒褐色土を基調とする。深さ6cm。北側には幅17～28cm/高さ1cmほどの凸



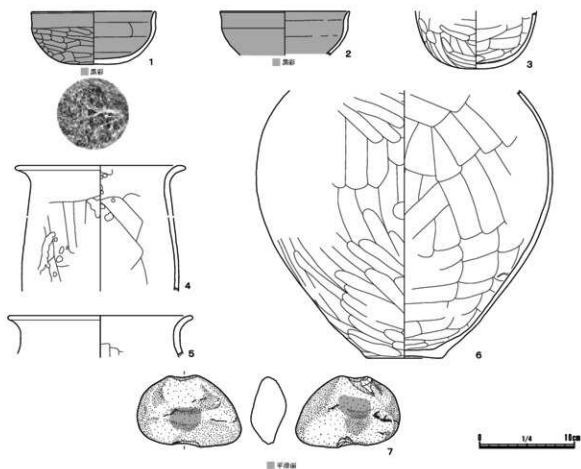
第89図 301号住居跡 (1/60)



カマド 土層説明

- 1層 黒褐色土 (10193/1) 細りやや強い、粘性やや強い、ローム (φ1~5mm) を少量、焼土 (φ1~5mm) を中量、白色粘土 (φ1~3mm) を中量含む。
- 2層 黒褐色土 (10193/2) 細りやや強い、粘性やや強い、ローム (φ~1mm) を少量、焼土 (φ~2mm) を少量含む。
- 3層 灰黄褐色土 (10195/2) 細りやや強い、粘性強い、白色粘土ブロック、焼土 (φ~1mm) を微量含む。
- 4層 灰白色土 (10195/3) 細り強い、粘性強い、白色粘土ブロック。
- 5層 黒褐色土 (10193/2) 細りやや弱い、粘性やや弱い、焼土 (φ~8mm) を中量含む。
- 6層 灰黄褐色土 (10195/2) 細りやや弱い、粘性やや弱い、ローム (φ~2mm) を少量、焼土 (φ~1mm) を微量含む。
- 7層 濃い黄褐色土 (10195/3) 細りやや強い、粘性強い、ローム主体。
- 8層 濃い黄褐色土 (10194/3) 細りやや強い、粘性やや弱い、ローム主体、焼土 (φ~3mm) を微量含む。
- 9層 黒褐色土 (10193/2) 細り強い、粘性強い、焼土 (φ~3mm) を少量、ローム (φ~10mm) を中量含む。
- 10層 濃い黄褐色土 (10196/3) 細りやや強い、粘性強い、に2~3のローム主体、焼土 (φ~1mm) を微量含む。
- 11層 濃い黄褐色土 (10196/3) 細りやや弱い、粘性強い、ローム主体、白色粘土 (φ~10mm) を中量含む。
- 12層 褐色土 (10195/1) 細り強い、粘性強い、白色粘土、焼。
- 13層 灰黄褐色土 (10195/2) 細り強い、粘性強い、焼土 (φ1~5mm) を少量、白色粘土 (φ~5mm) を多量含む、焼。
- 14層 灰黄褐色土 (10196/2) 細りやや強い、粘性強い、白色粘土。

第90図 301号住居跡遺物出土状態・カマド (1/60・1/30)



第91図 301号住居跡出土遺物(1/4)

神宮番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考		
第91図1 図版64-2-1	土師器 杯	カマド前面 の床面上	口縁~ 底部 80%	高口 5.6 (13.3)	にぶい黄 褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・石英・ 角閃石・雲母中量	黒黒/口縁部は直立する/平底/底部木 葉痕/内面:横ナデ/外面:口縁部横ナデ、 体~底部ヘラケズリ	黒色系有稜杯/ 在地系土師器		
第91図2 図版64-2-2	土師器 杯	貯蔵穴の覆 土中(底上 12cm)	口縁部 15%	高口 4.6 (13.8)	にぶい黄 褐色	砂粒多量・白色粒 子・黒色粒子・赤 色粒子・石英・角 閃石中量	黒黒/口縁部は直立する/被熱割離が著 しい/内面:横ナデ/外面:口縁部横ナデ、 体部被熱割離の為不明	黒色系有稜杯/ 在地系土師器		
第91図3 図版64-2-3	土師器 杯	樽子穴西側 の床面上	体~ 底部 20%	高 6.0	黄褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・角閃石 中量	丸底/内面:ヘラナデ/外面:ヘラケズ リ	小型の壺や甕の 可能性あり/在 地系土師器		
第91図4 図版64-2-4	土師器 甕	貯蔵穴の覆 土中(底上 16cm)、カ マド前面の 覆土中(床 上8cm)	口縁~ 胴部 15%	高口 13.3 (18.1) 底 5.0	明赤褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・石英中 量	口縁部は外反する/最大径を口縁部に持 つ/内外面割離が目立つ/内面:口縁部 横ナデ、胴部ヘラナデ/外面:口縁部横 ナデ、胴部ヘラケズリ	此甕/在地系土 師器		
第91図5 図版64-2-5	土師器 甕	中央西側の 床面上	口縁部 5%	高口 4.4 (19.6)	にぶい黄 褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・石英中 量	口縁部は外反する/内面:口縁部横ナデ、 胴部横ヘラナデ/外面:口縁部横ナデ、 胴部ヘラケズリ	長甕/在地系土 師器		
第91図6 図版64-2-6	土師器 甕	中央北側の 覆土中(床 上18~25 cm)	胴~ 底部 20%	高底 28.2 (7.9)	にぶい黄 褐色~橙 色	砂粒やや多量/白 色粒子・黒色粒子 角閃石中量	底部木葉痕、一部ケズリ/大型/最大径 を胴部中位に持つ/内面:ヘラナデ/外 面:ヘラケズリ	丸甕/在地系土 師器		
神宮番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴	備考
第91図7 図版64-2-7	扁石	北西側の覆 土中	完形	砂岩	110.3	75.7	37.2	368.5	やや扁平な自然礫の上部、下部の一部を 打ち削り凹部をつくる/その後使用によ り面は滑らかとなる/自然礫中央部の凸 部も部分的に平滑になっている	

第49表 301号住居跡出土遺物一覧

堤が、丸みを帯びた「コ」字状に巡っていた。

[覆 土] 6層に分層できた。

[遺 物] 土師器環・甕、編石が出土した。

[時 期] 古墳時代後期（7世紀中葉）。

遺 物 (第91図、図版64-2、第49表)

[土 器] (第91図1~6、図版64-2-1~6、第49表)

1~6は全て土師器で、1~3は環、4~6は甕である。

[石製品] (第91図7、図版64-2-7、第49表)

7は、打ち欠いて紐掛けを作っていることから、編石と推測される。

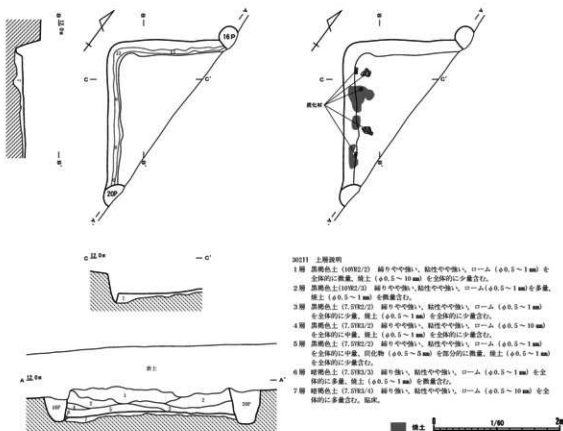
302号住居跡

遺 構 (第92図)

[位 置] (J・K-2・3) グリッド。

[検出状況] 東側の調査区境で検出したため、住居の東側2/3程が調査区外である。16・20Pに切られる。

[構 造] 平面形：方形と考えられる。規模：長軸2.38m以上/短軸1.84m以上/深さ34cm。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。主軸方位：N-37°-W。壁溝：検出範囲において全周する。上幅12~23cm/下幅3~8cm/深さ6~13cm。床面：全体的に軟弱である。貼床は3~9cmの厚さで施されていた。



第92図 302号住居跡・遺物出土状態 (1/60)

カマド：検出されなかった。貯蔵穴：検出されなかった。柱穴：検出されなかった。入口施設：検出されなかった。

〔覆 土〕 6層に分層できた。西壁沿いに焼土と炭化材の分布が確認された。

〔遺 物〕 土器器片が出土した。小片のため図示できるものはない。

〔所 見〕 焼土・炭化材の分布から、焼失住居の可能性が考えられる。

〔時 期〕 古墳時代後期。

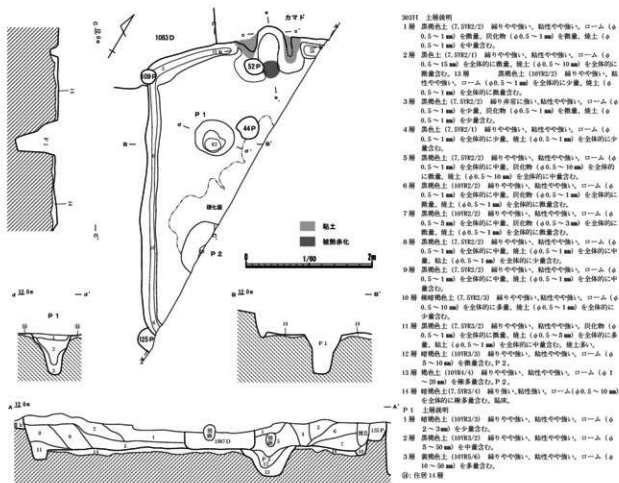
303号住居跡

〔遺 構〕 (第93・94図)

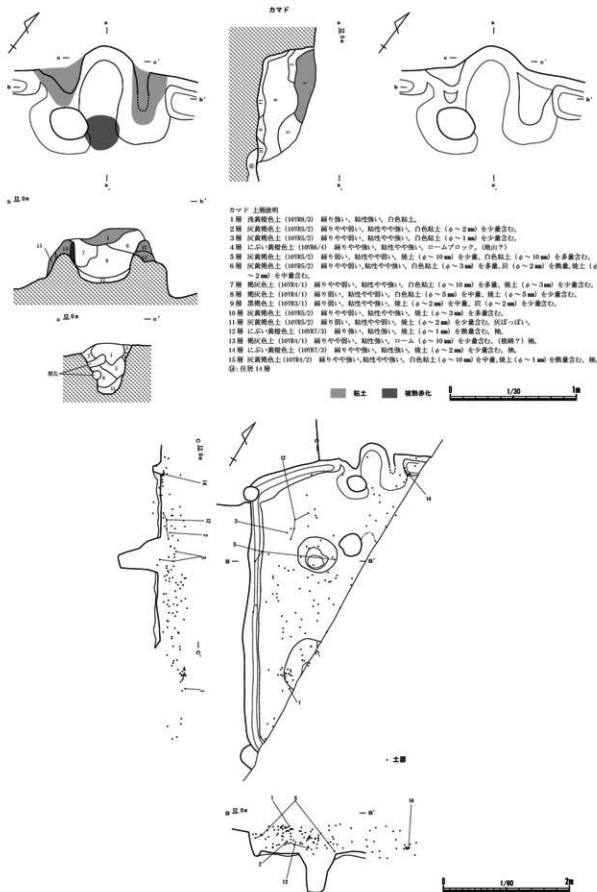
〔位 置〕 (J・K-5・6) グリッド。

〔検出状況〕 東側の調査区域で検出したため、住居の東側2/3程が調査区外である。1083D、1087D、44・52・109・110・125 Pに切られる。

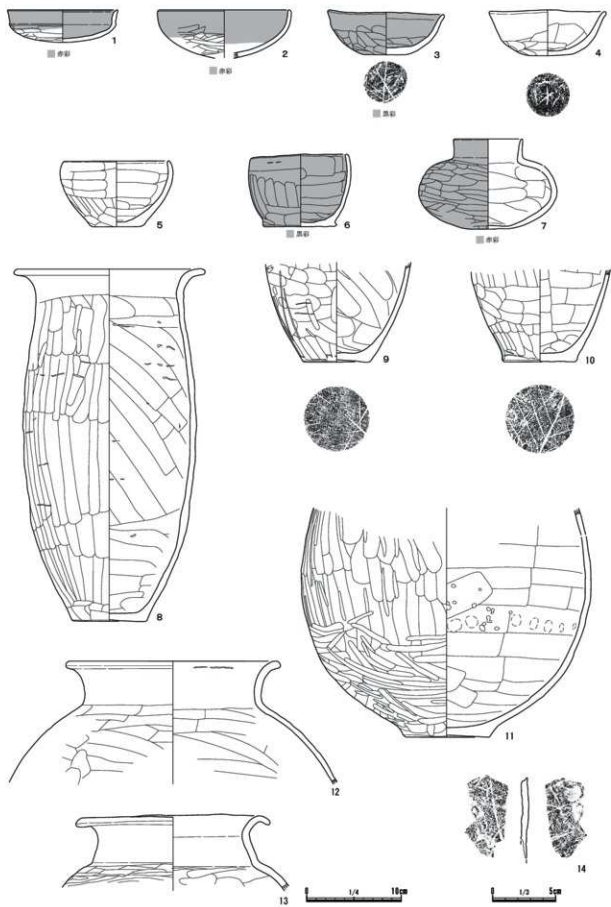
〔構 造〕 平面形：方形と考えられる。規模：長軸4.72m以上/短軸3.01m以上/深さ32cm。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。主軸方位：N-31°-W。壁溝：カマドを除き全周する。上幅8~18cm/下幅3~8cm/深さ5~11cm。床面：住居中央部分が硬化していた。貼床は4~10cmの厚さで施されていた。カマド：北壁のほぼ中央と思われる場所に位置する。主軸方位はN-37°-W。長さ87cm/幅



第93図 303号住居跡 (1/60)



第94図 303号住居跡カマド・遺物出土状態 (1/30・1/60)



第95図 303号住居跡出土遺物（1/4・1/3）

探検番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考	
第80図1 図版65-1	土師器 環	P2南側の 覆土中(床 上48cm)	口縁～ 底部 20%	高口 3.9 (11.6)	暗赤褐色 ～褐色	砂粒・白色粒子中 量	内面～外面口縁部赤彩/口縁内面化粧/口 縁部は強く外反する/内面:横ナデ/外面: 口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	いわゆる比 企型外/内 間系土師器	
第80図2 図版65-2	土師器 環	北西コー ナー付近の 覆土中(床 上24cm)	口縁～ 底部 20%	高口 [5.0] (14.2)	赤褐色～ にぶい橙 色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子・長石中量	内面～外面口縁部赤彩/丸底/口縁部は直 立する/内面:横ナデ/外面:口縁部横ナ デ、底部ヘラケズリ	非人間系/ 非在地系/ 古相	
第80図3 図版65-3	土師器 環	覆土中	口縁～ 底部 70%	高口 4.8 12.3 底 4.6	褐色	砂粒多量/白色粒 子・黒色粒子・石英 角閃石中量	黒彩/平底/底部黒葉画/口縁部は外積す る/内面:口縁部横ナデ、体部ヘラナデ/ 外面:口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	黒色系有縁 環/在地系 土師器	
第80図4 図版65-4	土師器 環	覆土中	口縁～ 底部 80%	高口 4.8 12.4 底 4.1	褐色	砂粒やや多量/白 色粒子・角閃石・ 雲母中量/小礫少 量	平底/底部黒葉画/口縁部は外積する/内 面:口縁部横ナデ、体部ヘラナデ/外面: 口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	無彩系有縁 環/在地系 土師器	
第80図5 図版65-5	土師器 環	西雙北御付 近・P1東 側の覆土 中(床上 29～33cm)	口縁～ 底部 80%	高口 7.0 (11.2) 底 5.2	にぶい橙 色	砂粒多量/角閃石 中量	平底/口縁部は内湾する/内面:口縁部横 ナデ、体部ヘラナデ/外面:ヘラケズリ	粗雑品/在 地系土師器	
第80図6 図版65-6	土師器 環	覆土中	口縁～ 底部 70%	高口 7.8 10.3 底 7.4	褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・角閃石 雲母中量	黒彩/平底/口縁部は直立する/底部と体 部の境目がはっきりとしている/外面ツギ メが残る/内面:ヘラナデ/外面:口縁部 横ナデ、体部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	粗雑品/在 地系土師器	
第80図7 図版65-7	土師器 壺	覆土中	口縁～ 底部 70%	高口 9.5 6.4	明赤褐色	砂やや多量/白色 粒子・黒色粒子・ 石英・長石中量	外面赤彩か/口縁部は強く外積する/内 面:口縁部横ナデ、体部ヘラナデ/外面: 口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	非人間系・ 非在地系/ 古相	
第80図8 図版65-8	土師器 壺	覆土中	口縁～ 胴部 20%	高口 37.2 20.2 底 7.8	褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・雲母中 量	口縁部は大きく外反する/最大径を口縁部 に持つ/内外面ともにツギメが目立つ/内 面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面: 口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ、底部ヘラ ケズリ	長渡/在地 系土師器	
第80図9 図版65-9	土師器 壺	覆土中	胴～ 底部 30%	高底 [10.4] 7.2	にぶい橙 色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・雲母中 量/小礫少量	底部黒葉画/一部にツギメが残る/内面: ヘラナデ/外面:胴部ヘラケズリ→一部ナ デ・指押え	長渡/在地 系土師器	
第80図10 図版65-10	土師器 壺	覆土中	胴～ 底部 15%	高底 [10.0] 7.4	にぶい橙 色	砂粒やや多量/白 色粒子・赤色粒子 石英・金雲母中量	底部黒葉画/一部にツギメが残る/内面: ヘラナデ/外面:ヘラケズリ	長渡/在地 系土師器	
第80図11 図版65-11	土師器 壺	覆土中	胴～ 底部 40%	高底 [24.2] 8.9	褐色	砂粒・黒色粒子・ 石英中量/小礫少 量	内面被熱により剥離/大型/内面:ヘラナ デ、胴部中央指押え/外面:胴部ヘラケズ リ、底部ヘラケズリ	丸壺/在地 系土師器	
第80図12 図版65-12	土師器 壺	北西コー ナー付近の 覆土中(床 上13～21 cm)	口縁～ 胴部 10%	高口 [13.1] (22.9)	褐色	砂粒やや多量/白 色粒子・赤色粒子 雲母中量	口縁部外反する/内面:口縁部横ナデ、胴 部ヘラナデ/外面:口縁部横ナデ、胴部 ヘラケズリ	丸壺/在地 系土師器	
第80図13 図版65-13	土師器 壺	覆土中	口縁～ 胴部 15%	高口 [8.0] 20.6	褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・雲母中 量	口縁部大きく外反し、下に垂れる/内面: 口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面:口縁 部横ナデ、胴ヘラケズリ→ミガキ	丸壺/在地 系土師器	
探検番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	備考
第95図14 図版65-14	焼土塊	カマド東脇 の覆土中 (床上7cm)	—	6.4	3.1	0.4	8.9	布目や葉脈、繊維の圧痕がみられる	

第50表 303号住居跡出土遺物一覧

110cm/壁への掘り込み19cm。袖部はロームを馬蹄形状に掘り残し、その上に粘土を被覆して構築されたと考えられる。燃焼部に被熱による赤化が確認できた。貯蔵穴:検出されなかった。柱穴:P1・P2が主柱穴と考えられる。深さ35～62cm。覆土はローム粒・ロームブロックを含む黒褐色土を基調とする。入口施設:検出されなかった。

[覆土] 11層に分層できた。

[遺物] 土師器環・高環・壺・甕、焼土塊が出土した。

〔時期〕古墳時代後期（7世紀中葉）。

〔遺物〕(第95図、図版65、第50表)

〔土器〕(第95図1～13、図版65-1～13、第50表)

1～13は全て土師器で、1～6は坏、7は壺、8～13は甕である。

〔土製品〕(第95図14、図版65-14、第50表)

14は焼土塊である。布目などの圧痕が観察される。

304号住居跡

〔遺構〕(第96～98図)

〔位置〕(D・E・F-7・8)グリッド。

〔検出状況〕12 T、69 Mに切られる。

〔構造〕平面形：方形。規模：長軸5.90m／短軸5.56m／深さ39cm。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。主軸方位：N-25°-W。壁溝：カマドを除き全周する。上幅15～28cm／下幅4～11cm／深さ7～19cm。床面：入口施設からカマド前面にかけて硬化していた。カマド：北壁のほぼ中央に位置する。主軸方位はN-26°-W。長さ117cm／幅108cm／壁への掘り込み37cm。袖部はロームを馬蹄形状に掘り残し、その上に粘土を被覆して構築されたと考えられる。燃焼部、袖部に被熱による赤化が確認された。長甕(10・15)を袖部補強材として構築されていた。貯蔵穴：北西コーナーに位置する(P6)。平面形は楕円形。長軸65cm／短軸55cm／深さ45cm。周囲には幅12～31cm／高さ1cmほどの凸堤が、断続して巡っていた。覆土はローム粒を含む黒褐色土を基調とする。柱穴：主柱穴はP1からP4の4本と考えられる。深さ30～87cm。覆土はローム粒を含む暗褐色土や黄褐色土を基調とする。入口施設：P5は入口梯子穴と考えられる。覆土はローム粒を含む黒褐色土を基調とする。深さ23cm。北側には幅37～45cm／高さ1～3cmほどの凸堤が、「U」字状に巡っていた。

〔覆土〕14層に分層できた。多量の焼土の堆積が確認された。焼土は、住居跡中央付近から放射状に分布する。厚さは10cm程で、床面に接する。主要な遺物や炭化材などはこの焼土に含まれる、ないしは、覆われる。

〔遺物〕須恵器壺、土師器坏・鉢・甕・甗、ミニチュア土器、土製の紡錘車、砥石が出土した。

〔時期〕古墳時代後期（7世紀中葉～末葉）。

〔所見〕多量の炭化材や焼土が検出されたことから、焼失住居と考えられる。検出した炭化材はサンプリングし、樹種同定を実施した。詳細は〔付編〕自然科学分析を参照。

〔遺物〕(第99・100図、図版66・67、第51表)

〔土器〕(第99・100図1～20、図版66・67-1～20、第51表)

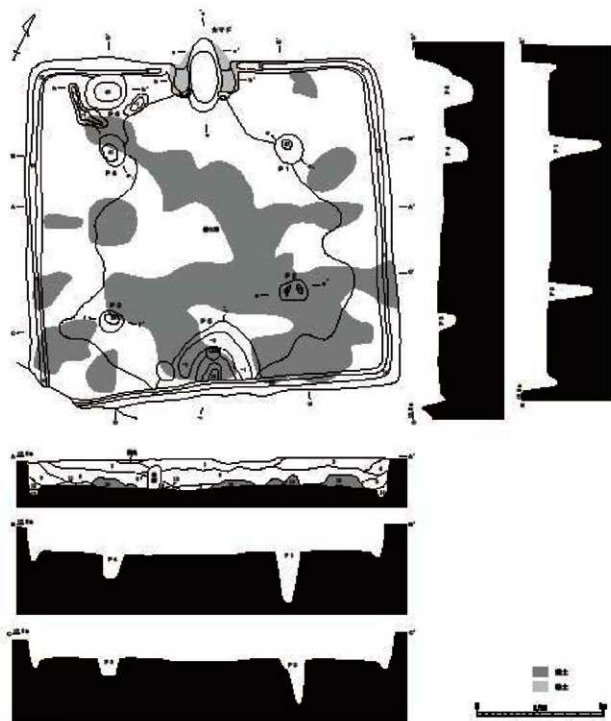
1は須恵器壺、2～20は土師器で、2～5は坏、6～8は鉢、9～18は甕、19は甗、20はミニチュア土器である。

〔土製品〕(第100図21、図版67-21、第51表)

21は土製の紡錘車である。

〔石製品〕(第100図22、図版67-22、第51表)

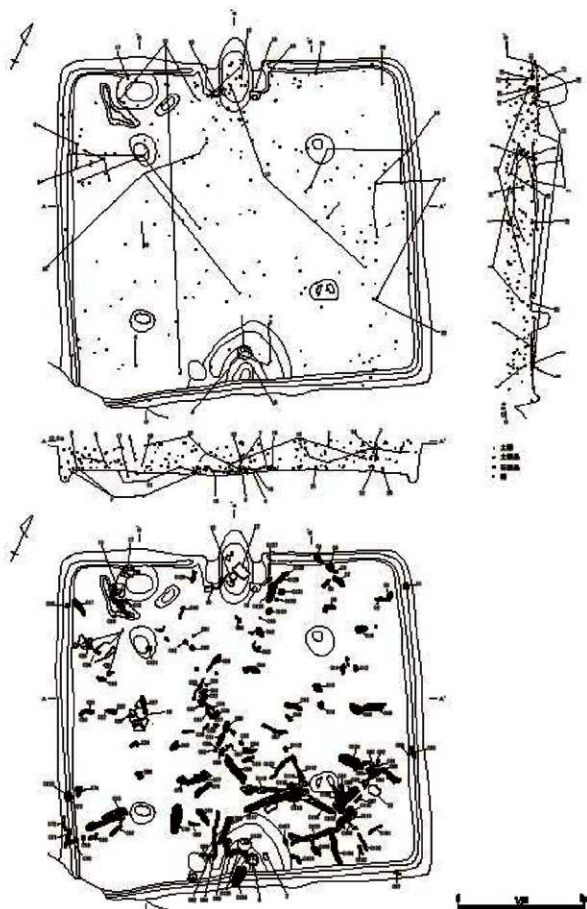
22は砥石である。



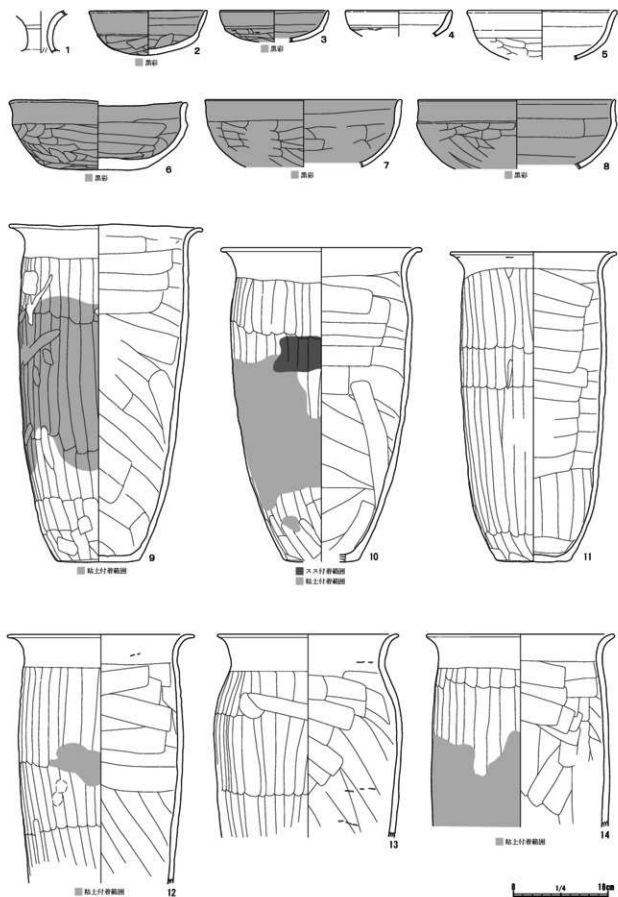
304号 土器説明

- | | |
|---|---|
| <p>1層 黒褐色土 (1775/10) 縄子中年代、弥生中年代、$M=A$ (46.5~1m) 全周にフロッグ状 (40~50mm) の少数、褐色土 (46.5~1m) 全周に少量分布。</p> <p>2層 黒褐色土 (1775/10) 縄子中年代、弥生中年代、$M=A$ (46.5~1m) 全周に少量、褐色土 (46.5~1m) 全周に少量分布。</p> <p>3層 黒褐色土 (1775/10) 縄子中年代、弥生中年代、$M=A$ (46.5~1m) 全周に少量、褐色土 (46.5~1m) 全周に少量分布。</p> <p>4層 黒褐色土 (1775/10) 縄子中年代、弥生中年代、$M=A$ (46.5~1m) 全周に少量、褐色土 (46.5~1m) 全周に少量分布。</p> <p>5層 黒褐色土 (1775/10) 縄子中年代、弥生中年代、$M=A$ (46.5~1m) 全周に少量、褐色土 (46.5~1m) 全周に少量分布。</p> <p>6層 黒褐色土 (1775/10) 縄子中年代、弥生中年代、$M=A$ (46.5~1m) 全周に少量、褐色土 (46.5~1m) 全周に少量分布。</p> <p>7層 黒褐色土 (1775/10) 縄子中年代、弥生中年代、$M=A$ (46.5~1m) 全周に少量、褐色土 (46.5~1m) 全周に少量分布。</p> | <p>8層 黒褐色土 (1775/10) 縄子中年代、弥生中年代、$M=A$ (46.5~1m) 全周に少量、褐色土 (46.5~1m) 全周に少量分布。</p> <p>9層 黒褐色土 (1775/10) 縄子中年代、弥生中年代、$M=A$ (46.5~1m) 全周に少量、褐色土 (46.5~1m) 全周に少量分布。</p> <p>10層 褐色土 (1775/10) 縄子中年代、弥生中年代、$M=A$ (46.5~1m) 全周に少量、褐色土 (46.5~1m) 全周に少量分布。</p> <p>11層 黒褐色土 (1775/10) 縄子中年代、弥生中年代、$M=A$ (46.5~1m) 全周に少量、褐色土 (46.5~1m) 全周に少量分布。</p> <p>12層 黒褐色土 (1775/10) 縄子中年代、弥生中年代、$M=A$ (46.5~1m) 全周に少量、褐色土 (46.5~1m) 全周に少量分布。</p> <p>13層 黒褐色土 (1775/10) 縄子中年代、弥生中年代、$M=A$ (46.5~1m) 全周に少量、褐色土 (46.5~1m) 全周に少量分布。</p> <p>14層 褐色土 (1775/10) 縄子中年代、弥生中年代、$M=A$ (46.5~1m) 全周に少量、褐色土 (46.5~1m) 全周に少量分布。</p> |
|---|---|

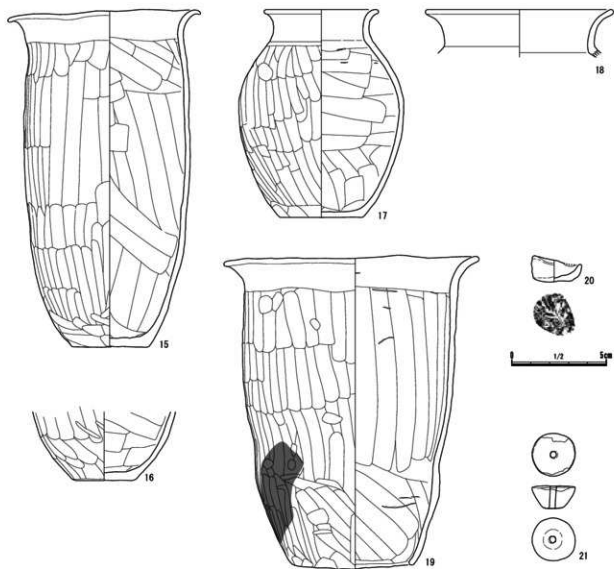
第96図 304号住居跡 (1/60)



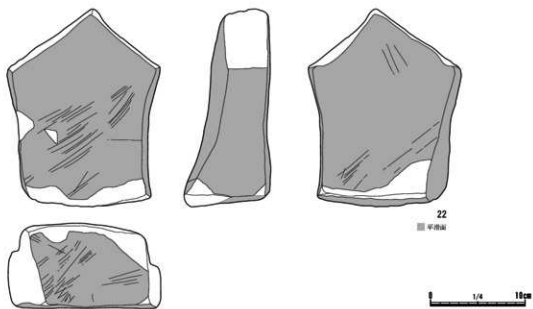
第97图 304号住居跡遺物出土状態(1/60)



第99図 304号住居跡出土遺物1(1/4)



■ 木片付帯線画



第100図 304号住居跡出土遺物2 (1/2・1/4)

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存枚	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第99図1 図版66-1	須恵器 壺	東部の覆土中(床上42cm)	頸部	高 14.4	灰黄色	砂粒・黒色粒子・雲母・小礫中量	頸上部に横位沈積/内面:回転ナデ、下部未調整/外面:回転ナデ	産地不明
第99図2 図版66-2	土師器 杯	P5周辺の床面上	口縁~ 底部	高 4.7 口 12.5	褐色	砂粒やや多量/白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・角閃石・雲母中量	黒彩/口縁部外積する/内面:口縁部横ナデ、見込部ヘラナデ/外面:口縁部横ナデ、底部ヘラナデ	黒色系有段環/在地系土師器
第99図3 図版66-3	土師器 杯	東塚中央付近の覆土中(床上25~45cm)	口縁~ 底部	高 3.3 口 (11.6)	にぶい褐色	砂粒・白色粒子やや多量/黒色粒子・赤色粒子・雲母中量/長石少量	黒彩/口縁部外積する/内面:横ナデ/外面:口縁部横ナデ、底部ヘラナデ	黒色系有段環/在地系土師器
第99図4 図版66-4	土師器 杯	南西コーナー付近の覆土中(床上20cm)	口縁部	高 2.8 口 (11.3)	褐色	砂粒・白色粒子・雲母中量	スス付着/内面:横ナデ/外面:口縁部横ナデ、体部ヘラナデ	無彩系有段環/在地系土師器
第99図5 図版66-5	土師器 杯	P5(床面レベル)とその周辺の床面上	口縁~ 底部	高 5.2 口 (15.9)	褐色	砂粒・黒色粒子・雲母中量/角閃石少量	内面:口縁部横ナデ、見込部ヘラナデ/外面:口縁部横ナデ、体部ヘラナデ	無彩系有段環/在地系土師器
第99図6 図版66-6	土師器 鉢	P5周辺の床面上	口縁~ 底部	高 10.8 口 19.0 底 7.3	褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・角閃石中量	黒彩/口縁部外積する/内面:口縁部横ナデ、体部ヘラナデ/外面:口縁部横ナデ、体~底部ヘラナデ	浅鉢タイプ/在地系土師器
第99図7 図版66-7	土師器 鉢	P3(ぼぼ底)、西壁北側付近の覆土中(床上6~8cm)、中央西側の床面上	口縁~ 体部	高 7.2 口 (20.8)	にぶい褐色	砂粒・赤色粒子・雲母中量	黒彩/内面:口縁部横ナデ、見込部ヘラナデ/外面:口縁部横ナデ、体部ヘラナデ	浅鉢タイプ/在地系土師器
第99図8 図版66-8	土師器 鉢	西壁北側付近の覆土中(床上3~8cm)	口縁~ 底部	高 7.3 口 (20.9)	にぶい黄褐色	砂粒・赤色粒子・雲母中量/小礫少量	黒彩/内面:口縁部横ナデ、体部ナデ/外面:口縁部横ナデ、体部ヘラナデ	浅鉢タイプ/在地系土師器
第99図9 図版66-9	土師器 甕	西壁北側付近の覆土中(床上8~24cm)	口縁~ 底部	高 30.7 口 20.4 底 8.6	にぶい褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲母中量	口縁部は大きく外反する/最大径を口縁部に持つ/外面粘土付着/内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ、底部ヘラナデ	長襖/在地系土師器
第99図10 図版66-10	土師器 甕	カマド西袖前部、カマド内	口縁~ 底部	高 33.3 口 21.1 底 7.7	にぶい褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・角閃石・雲母・小礫中量	口縁部はゆるやかに外反する/最大径を口縁部に持つ/外面スス・粘土付着/内面:口縁部横ナデ、体部ヘラナデ/外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ	長襖/在地系土師器
第99図11 図版66-11	土師器 甕	貯蔵穴内(床上30~48cm)、貯蔵穴とカマドの間の覆土中(床上3~7cm)、P5西側の床面上	口縁~ 底部	高 32.9 口 (17.5) 底 8.0	褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲母中量/角閃石少量	口縁部は外反する/最大径を口縁部に持つ/内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ、底部ヘラナデ	長襖/在地系土師器
第99図12 図版66-12	土師器 甕	カマド内(火床上30cm)	口縁~ 胴部	高 26.3 口 (19.5)	褐色	砂粒やや多量・白色粒子・黒色粒子・金雲母中量	口縁部は大きく外反する/最大径を口縁部に持つ/外面粘土付着/内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ、一部指押え	長襖/在地系土師器
第99図13 図版66-13	土師器 甕	カマド内(火床上30cm)、東部の覆土中(床上22cm)	口縁~ 胴部	高 21.4 口 (19.2)	褐色	砂粒やや多量/白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・長石・雲母中量	口縁部は弱く外反する/最大径を胴上部に持つ/外面ツギメが残る/内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ	長襖/在地系土師器
第99図14 図版66-14	土師器 甕	東部の覆土中(床上16~39cm)	口縁部	高 20.4 口 (19.9)	褐色	砂粒・白色粒子・雲母中量	口縁部は大きく外反する/最大径を口縁部に持つ/内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ	長襖/在地系土師器
第100図15 図版67-15	土師器 甕	カマド東袖前部	口縁~ 底部	高 35.6 口 20.4 底 8.2	にぶい褐色	砂粒・黒色粒子やや多量/白色粒子・金雲母中量	口縁部は大きく外反する/最大径を口縁部に持つ/内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ、底部ヘラナデ	長襖/在地系土師器
第100図16 図版67-16	土師器 甕	カマド東側の覆土中(床上9~11cm)	胴~ 底部	高 7.3 口 (6.5)	にぶい褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・雲母中量	内面:胴部ヘラナデ、底部摩滅の痕不明/外面:胴部ヘラナデ	長襖/在地系土師器

第51表 304号住居跡出土遺物一覽(1)

探出番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考		
第100図17 図版67-17	土師器 甕	P6(底上 39cm)	口縁上 底部 50%	高さ 21.9 (12.2) (8.8)	にぶい橙 色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子・金雲母中量	口縁部は外反する／最大径を胴中に持つ ／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外 面：口縁部横bナデ、胴部ヘラケズリ、底 部ヘラケズリ	丸甕／在地 系土師器		
第100図18 図版67-18	土師器 甕	中央北西側 の覆土中(床 上18～42 cm)、中央南 側の床面上	口縁部 10%	高さ [5.1] (20)	褐色	砂粒やや多量／白 色粒子・雲母中量	口縁部は外傾する／内面：横ナデ／外面： 口縁部横ナデ頸部ヘラケズリ?	丸甕／在地 系土師器		
第100図19 図版67-19	土師器 甕	西側の覆土 中(床10 cm)	ほぼ完 形	高さ 33.2 26.9 12.6	褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子・石英・雲母中 量	口縁部は外反する／外面スス付着／内面ツ ギメが残る／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘ ラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケ ズリ	筒抜け式/ 在地系土師 器		
第100図20 図版67-20	ミニ チュア 土器	北東コー ナーの覆土 中(床7 cm)	口縁上 底部 90%	高さ 1.3 2.2 1.9	褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子中量／小 礫少量	底部木葉痕／口縁大きく傾く／指つまミ	在地系土師 器		
探出番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴	備考	
第100図21 図版67-21	土製品 紡錘車	北東東側付 近の覆土中 (床7cm)	完形	4.5	4.6	2.3	40.6	中央部穿孔、均整のとれた山形、外面滑らか にナデ、一部スス付着		
探出番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	石 材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴	備考
第100図22 図版67-22	磁石	南東コー ナー附近の 覆土中(床 上9cm)	破片	砂岩	208.7	160.8	91.7	3091.0	全体に非常によく磨面が形成され、ほ ぼ全面が使われている／表裏とも中央 部が狭くくぼむ	

第51表 304号住居跡出土遺物一覧(2)

305号住居跡

遺 構 (第101～103図)

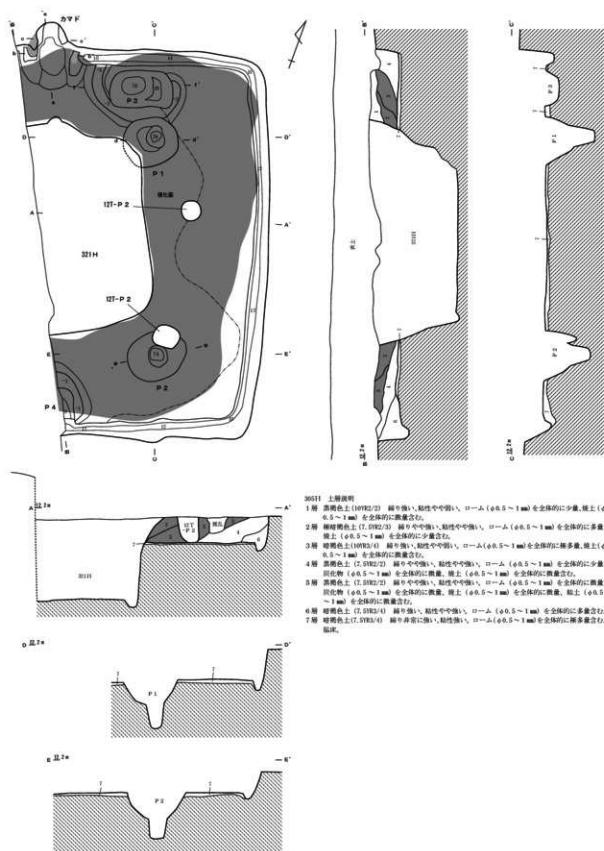
[位 置] (C・D-6・7) グリッド。

[検出状況] 西側の調査区境で検出したため、住居の西側の半分程度が調査区外である。10 Jを切り、321 H、12 Tに切られる。住居の中央部分は321 Hにより破壊されている。

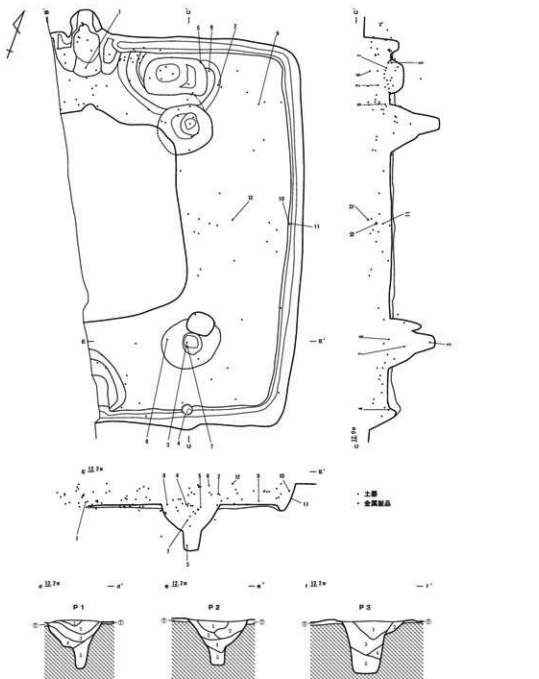
[構 造] 平面形：方形。規模：長軸6.31m／短軸4.01m／深さ42cm。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。主軸方位：N-20°-W。壁溝：カマドを除き全周する。上幅16～28cm／下幅4～13cm／深さ9～14cm。床面：住居中央よりの部分が硬化していた。貼床は2～17cmの厚さで施されていた。カマド：北壁のほぼ中央と思われる場所に位置する。主軸方位はN-18°-W。長さ106cm／幅108cm／壁への掘り込み36cm。袖部はロームを馬蹄形状に掘り残し、その上に粘土を被覆して構築されたと考えられる。貯蔵穴：カマドの東側に位置する(P6)。平面形は隅丸長方形。長軸98cm／短軸60cm／深さ76cm。東側に、幅30cm／深さ20cmほどの段を有する。周囲には幅19～35cm／高さ3cmほどの凸堤が巡っていた。覆土はローム粒を含む暗褐色土・黒褐色土を基調とする。柱穴：P1、P2は主柱穴と考えられる。深さ74～78cm。覆土はローム粒・焼土粒を含む暗褐色土・黒褐色土を基調とする。入口施設：半分未満の検出であるが、P4は入口梯子穴と考えられる。覆土はローム粒・焼土粒を含む黒色土を基調とする。深さ9cm。北側には幅35cmほど／高さ1cmほどの凸堤が、「U」字状に巡るものと思われる。

[覆 土] 6層に分層できた。ローム粒を含む暗褐色土を基調とするが、2・3層は特にローム粒を多量に含む。

[遺 物] 須恵器甕、土師器坏・鉢・甕、ミニチュア土器、鉄鏝、不明鉄製品、鉄滓が出土した。



第101図 305号住居跡(1/60)



P 1 上層説明

- 1層 濃褐色土 (10YR2/2) 細り中～強い、粘性中～強い、ローム (φ0.5～1mm) 全体の比较多量、
地上 (φ0.5～1mm) 全体の比较多量含む。
- 2層 濃褐色土 (10YR2/2) 細り中～強い、粘性中～強い、ローム (φ0.5～1mm) 全体の比较少量、
地上 (φ0.5～1mm) 全体の比较多量含む。
- 3層 濃褐色土 (7.5YR2/2) 細り中～強い、粘性中～強い、ローム (φ0.5～1mm) 全体の比较多量、
地上 (φ0.5～1mm) 全体の比较多量含む。
- 4層 暗褐色土 (7.5YR3/4) 細り中～強い、粘性中～強い、ローム (φ0.5～1mm) 全体の比较多量含む、
地上 (φ0.5～1mm) 全体の比较多量含む。
- 5層 暗褐色土 (7.5YR3/4) 細り中～強い、粘性中～強い、ローム (φ0.5～1mm) 全体の比较多量含む、
地上 (φ0.5～1mm) 全体の比较多量含む。

P 2 上層説明

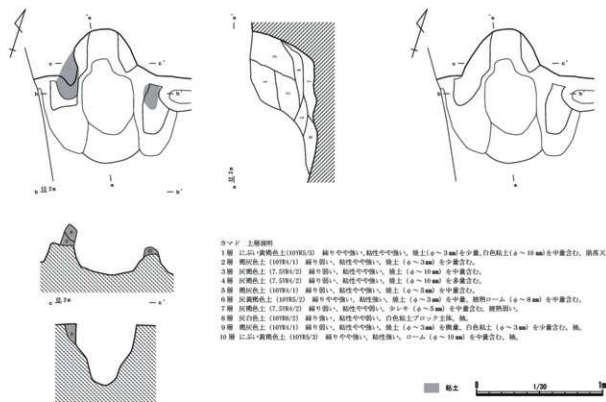
- 1層 赤土 (5YR1.7/1) 細り中～強い、粘性中～強い、ローム (φ0.5～1mm) 全体の比较少量、
地上 (φ0.5～1mm) 全体の比较少量含む。
- 2層 濃褐色土 (5YR2/2) 細り中～強い、粘性中～強い、ローム (φ0.5～1mm) 全体の比较少量、
灰化層 (φ0.5～5mm) 全体の比较多量、地上 (φ0.5～1mm) 全体の比较多量含む。
- 3層 濃褐色土 (7.5YR2/2) 細り中～強い、粘性中～強い、ローム (φ0.5～1mm) 全体の比较多量、
地上 (φ0.5～1mm) 全体の比较多量含む。
- 4層 暗褐色土 (7.5YR3/4) 細り中～強い、粘性中～強い、ローム (φ0.5～1mm) 全体の比较多量、
地上 (φ0.5～1mm) 全体の比较多量含む。
- 5層 暗褐色土 (7.5YR3/4) 細り中～強い、粘性中～強い、ローム (φ0.5～1mm) 全体の比较多量含む、
地上 (φ0.5～1mm) 全体の比较多量含む。

P 3 上層説明

- 1層 暗褐色土 (7.5YR2/2) 細り中～強い、粘性中～強い、ローム (φ0.5～1mm) 全体の比较少量、
灰化層 (φ0.5～1mm) 全体の比较多量、地上 (φ0.5～1mm) 全体の比较少量、粘土 (φ0.5～1mm) 全体の比较多量含む。
- 2層 濃褐色土 (10YR3/2) 細り強い、粘性中～強い、ローム (φ0.5～1mm) 全体の比较多量含む、
濃褐色土 (7.5YR2/2) 細り中～強い、粘性中～強い、ローム (φ0.5～1mm) 全体の比较多量、
地上 (φ0.5～1mm) 全体の比较多量含む。
- 3層 暗褐色土 (7.5YR2/2) 細り中～強い、粘性中～強い、ローム (φ0.5～1mm) 全体の比较多量、
地上 (φ0.5～1mm) 全体の比较多量含む。
- 4層 暗褐色土 (7.5YR3/4) 細り中～強い、粘性中～強い、ローム (φ0.5～1mm) 全体の比较多量含む、
地上 (φ0.5～1mm) 全体の比较多量含む。
- 5層 暗褐色土 (10YR3/2) 細り中～強い、粘性中～強い、ローム (φ0.5～1mm) 全体の比较多量含む、
地上 (φ0.5～1mm) 全体の比较多量含む。

①: 住跡7層

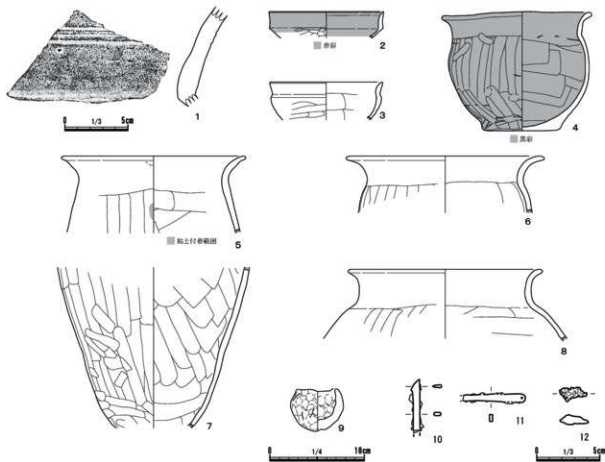
第102図 305号住居跡・遺物出土状態 (1/60)



カマド 土層説明

- 1層 北向き黄褐色土(107R5/2) 粘りやや強い、粘性やや強い、壤土(φ=3mm)を少量、白色粘土(φ=10mm)を中量含む、南高北低。
- 2層 褐色土(107R6/1) 粘り弱い、粘性やや強い、壤土(φ=3mm)を少量含む。
- 3層 灰褐色土(7, 107R6/2) 粘り弱い、粘性やや強い、壤土(φ=10mm)を中量含む。
- 4層 灰褐色土(7, 107R6/2) 粘り弱い、粘性やや強い、壤土(φ=10mm)を中量含む。
- 5層 褐色土(107R6/1) 粘り弱い、粘性やや強い、壤土(φ=3mm)を中量含む。
- 6層 灰褐色土(107R5/2) 粘りやや強い、粘性強い、壤土(φ=3mm)を中量、焼物ローム(φ=8mm)を中量含む。
- 7層 灰褐色土(7, 107R6/2) 粘り弱い、粘性やや強い、少シキ(φ=5mm)を中量含む、焼物弱い。
- 8層 灰褐色土(107R6/2) 粘り強い、粘性やや強い、白色粘土(φ=10mm)を少量、焼物弱い。
- 9層 褐色土(107R6/1) 粘り弱い、粘性やや強い、壤土(φ=3mm)を少量、白色粘土(φ=3mm)を少量含む、焼物弱い。
- 10層 北向き黄褐色土(107R5/2) 粘りやや強い、粘性強い、ローム(φ=10mm)を中量含む、焼物弱い。

第103図 305号住居跡カマド(1/30)



第104図 305号住居跡出土遺物(1/3・1/4)

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第104図1 図版68-1-1	須恵器 甕	カマド内(火 床18cm)	頸部片	厚 1.4	褐色色	砂粒多量/白色粒 子中量	2条横線比輪/内唇/内面:横ナデ/外面: 横ナデ	産地不明
第104図2 図版68-1-2	土師器 環	貯蔵穴東側 の覆土中(床 上23cm)	口縁~ 底部 10%	高口 [2.8] (12.1)	暗赤褐色 ~に赤い 赤褐色	砂粒中量/小礫少 量	内面~外面口縁部赤彩/口唇内部に比線無 し(強いウ)/内面:横ナデ/外面:口縁 部横ナデ、底部ヘラナデ	いわゆる比 命型環/入 間系土師器
第104図3 図版68-1-3	土師器 環	P2内(底 上8cm)	口縁~ 体部 10%	高口 [14.0] (12)	に赤い 褐色	砂粒・白色粒子・ 角閃石中量	口縁部は外反気味に外縁する/内面:口縁 部横ナデ、体部ヘラナデ/外面:口縁部横 ナデ、胴部ヘラナデ、一部指押え、底 部ヘラナデ	無彩系有段 環/在地系 土師器
第104図4 図版68-1-4	土師器 鉢	南側の規厚 層	口縁~ 底部 60%	高口 12.5 15.9 底 8.1	明赤褐色 ~明黄褐 色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・角閃石 中量	黒彩/口縁部は外反する/最大径を口縁部 に持つ/内外面ツギメが目立つ/内面:口 縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面:口縁部 横ナデ、胴部ヘラナデ、一部指押え、底 部ヘラナデ	在地系土師 器
第104図5 図版68-1-5	土師器 甕	貯蔵穴の肩 (床面レベル)	口縁~ 胴部 5%	高口 [8.2] (19.6)	褐色	砂粒多量/白色粒 子・角閃石・雲母 中量	口縁部は外反する/外面粘土付着/内面: 口縁部横ナデ、一部指押えが残る、胴部ヘ ラナデ/外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナ デ	長巻/在地 系土師器
第104図6 図版68-1-6	土師器 甕	貯蔵穴東側 の覆土中(床 上36cm)	口縁~ 胴部 5%	高口 [6.0] (21.0)	褐色	砂粒やや多量/白 色粒子・黒色粒子 ・赤色粒子・長石・ 角閃石中量	口縁部は大きく外反する/最大径を口縁部 に持つと思われる/内面:口縁部横ナデ、 胴部ヘラナデ/外面:口縁部横ナデ、胴部 ヘラナデ	長巻/在地 系土師器
第104図7 図版68-1-7	土師器 甕	P2内(底 上48cm)	胴部 40%	高 [17.0]	明赤褐色	砂粒・白色粒子・ 長石中量	外面スス付着/内面:ヘラナデ/外面:ヘ ラナデ	長巻/在地 系土師器
第104図8 図版68-1-8	土師器 甕	P2東面コ ーナ付近の 覆土中(床 上11cm)	口縁~ 胴部 5%	高口 [7.6] (20.6)	褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子中量/角 閃石少量	口縁部コノ字で外反する/内面:口縁部横 ナデ、胴部ヘラナデ/外面:口縁部横ナデ、 胴部ヘラナデ	丸巻/在地 系土師器
第104図9 図版68-1-9	ミニ チュア 土器	北東コー ーナ付近の 覆土中(床 上11cm)	ほぼ 完形	高口 [4.5] (4.4)	褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・雲母中 量/角閃石少量	縦横にツギメが残る/指押え	在地系土師 器

発掘番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	備考
第104図10 図版68-1-10	鉄製品 鉄鏃	東壁溝範 間の覆土 中(床上 25cm)	鏃身部 ~ 筒底部	鉄	[4.0]	0.7	0.2	1.5	鏃身部は片端刃で開を有す/鏃 身部長 0.9cm/幅 0.7cm/厚 0.2 cm/筒被部長 [3.1cm/幅 0.5cm /厚 0.2cm]	長頸 刃片 刃式
第104図11 図版68-1-11	鉄製品 不明品	東壁溝範 間の覆土 中(床上 13cm)	片端 欠損	鉄	[4.9]	0.7	0.2	2	断面長方形/残る端部は丸みを もち、径 0.1cm 程度の穿孔を 有す	
第104図12 図版68-1-12	鉄滓	東壁付近 の覆土中 (床上 37 cm)	—	不明	1.1	2.2	0.8	0.3	焼熱により発泡	

第52表 305号住居跡出土遺物一覧

[時期] 古墳時代後期(7世紀中葉)。

[所見] 2・3層は、ロームを主体とする堆積であり、321Hの掘削土の可能性が考えられる。

[遺物] (第104図、図版68-1、第52表)

[土器] (第104図1~9、図版68-1-1~9、第52表)

1は須恵器甕、2~9は土師器で、2・3は環、4は鉢、5~8は甕、9はミニチュア土器である。

[鉄製品] (第104図10~12、図版68-1-10~12、第52表)

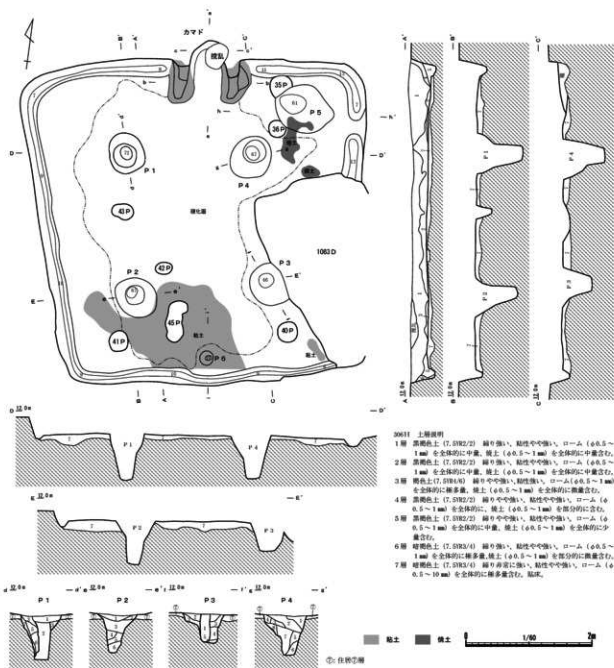
10は鉄鏃、11は不明鉄製品、12は鉄滓である。

306号住居跡

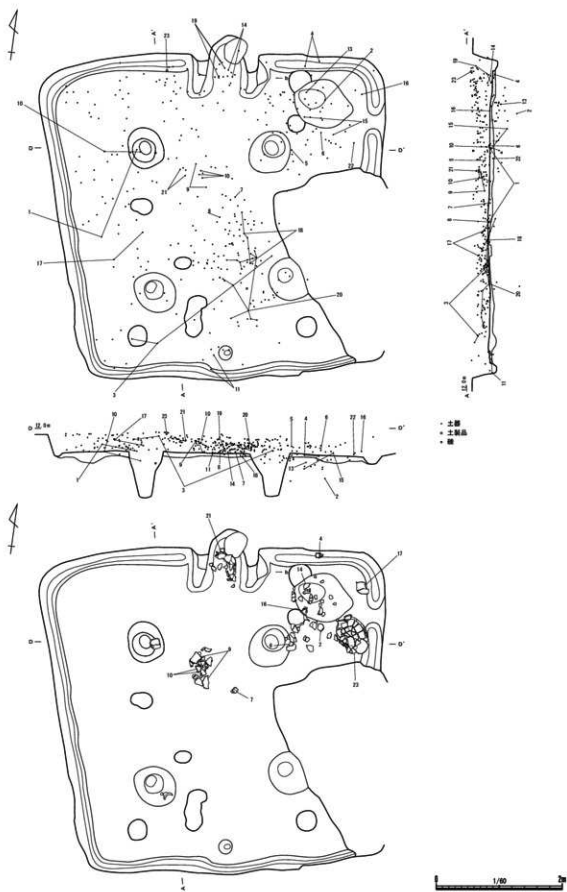
[遺構] (第105~107図)

[位置] (1・J-4・5) グリッド。

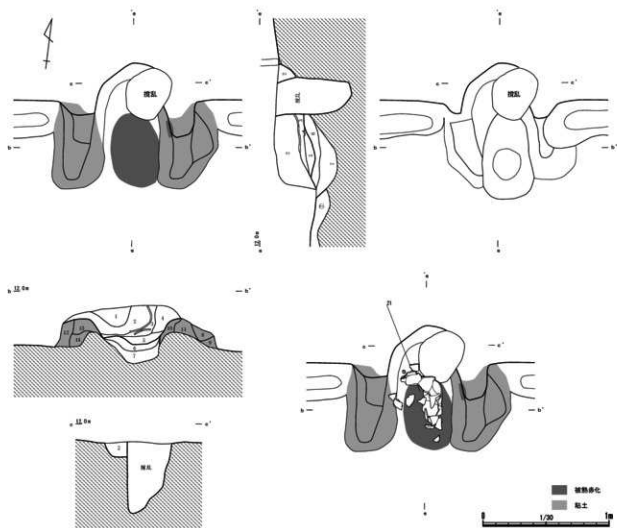
[検出状況] 1077・1083・1085・1094 D、35・36・40~43・45・99 Pに切られる。



第105図 306号住居跡 (1/60)



第106図 306号住居跡遺物出土状態(1/60)

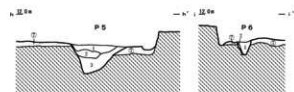


カマド 上層説明

- 1層 褐色土(10194/1) 細りや中強い、粘性や中強い、焼土(φ~3mm)を少量、白色粘土(φ~2mm)を少量含む、地。
- 2層 灰黄褐色土(10194/2) 細り強い、粘性や中強い、焼土(φ~3mm)を少量、白色粘土(φ~3mm)を少量含む、地。
- 3層 灰黄褐色土(10194/2) 細り強い、粘性や中強い、焼土(φ~1mm)を少量、白色粘土(φ~2mm)を少量含む、地。
- 4層 におい黄褐色土(10195/3) 細り強い、粘性強い、白色粘土ブロック、焼土(φ~5mm)を少量含む、地。
- 5層 灰褐色土(10195/2) 細り強い、粘性や中強い、焼土(φ~5mm)を少量、白色粘土(φ~3mm)を少量含む、地。
- 6層 におい赤褐色土(2, 5195/3) 細り強い、粘性や中強い、焼土(φ~10mm)を多量含む、地。
- 7層 褐色土(10194/1) 細り強い、粘性強い、焼土(φ~1mm)を少量含む、地。
- 8層 におい黄褐色土(10196/3) 細り強い、粘性や中強い、白色粘土ブロック、焼土(φ~2mm)を少量含む、地。

- 9層 灰黄褐色土(10194/2) 細り強い、粘性強い、白色粘土(φ~1mm)を少量含む、地。
- 10層 灰黄褐色土(10196/2) 細りや中強い、粘性強い、焼土(φ~5mm)を少量含む、地。
- 11層 におい黄褐色土(10197/2) 細り強い、粘性強い、白色粘土、赤スロ(φ~1mm)を少量含む、地。
- 12層 黄褐色土(10195/1) 細り強い、粘性や中強い、焼土(φ~1mm)を少量、白色粘土(φ~2mm)を少量含む、地。
- 13層 褐色土(10194/1) 細り強い、粘性や中強い、焼土(φ~3mm)を少量、白色粘土(φ~5mm)を少量含む、地。
- 14層 におい黄褐色土(10197/2) 細りや中強い、粘性強い、白色粘土ブロック、焼土(φ~3mm)を少量含む、埋納部(しほ形)を少量含む、地。

⑦: 住居7層



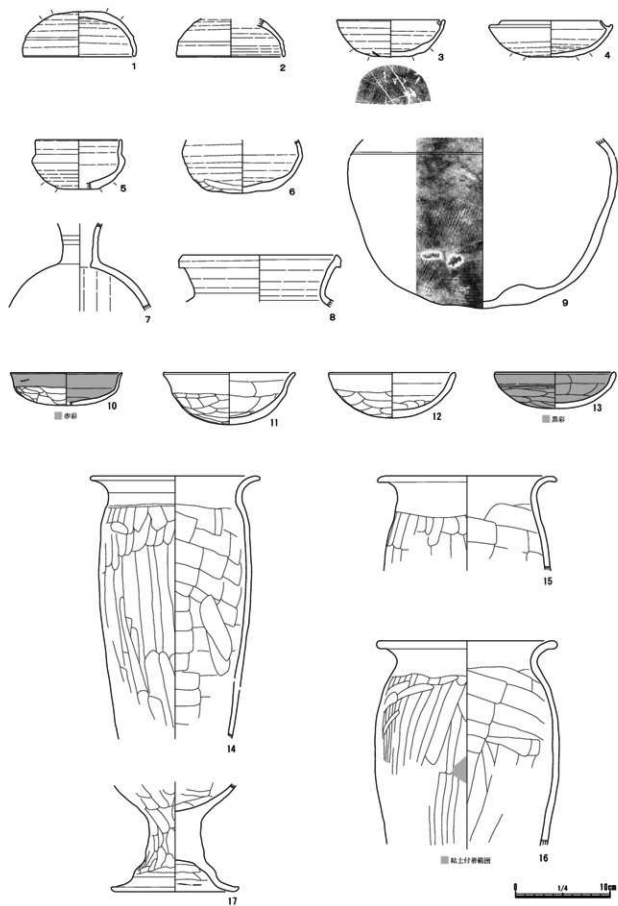
P5 上層説明

- 1層 褐色土(7, 5193/3) 細りや中強い、粘性や中強い、ローム(φ1~5mm)を少量、焼土(φ10~50mm)を少量、粘土(φ1~5mm)を少量含む、地。
- 2層 灰褐色土(7, 5193/2) 細りや中強い、粘性や中強い、ローム(φ1~2mm)を少量、焼土(φ1~2mm)を少量、粘土(φ1~5mm)を少量含む、地。
- 3層 褐色土(7, 5194/3) 細りや中強い、粘性や中強い、ローム(φ5~10mm)を少量、焼土(φ1~5mm)を少量含む、地。

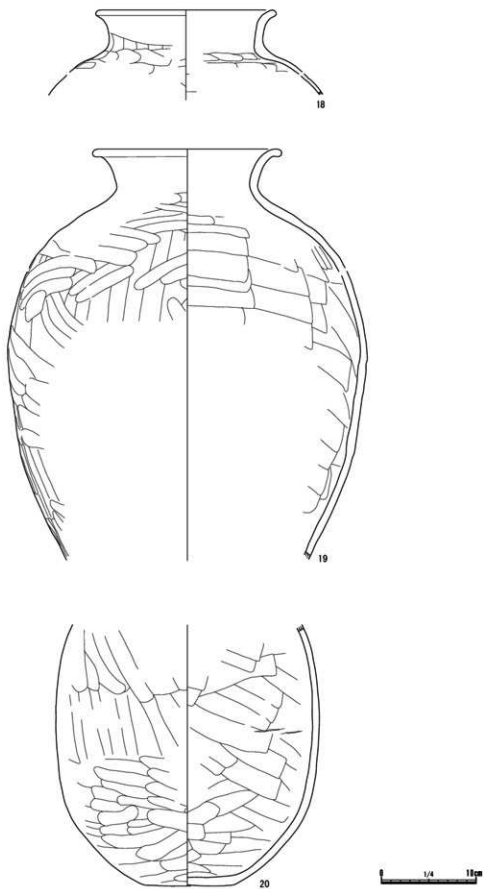
P4 上層説明

- 1層 赤褐色土(10192/3) 細り強い、粘性や中強い、ローム(φ0.5~3mm)を全体の1/3量、粘土(φ0.5~1mm)を部分的に少量含む、地。
- 2層 赤褐色土(10192/3) 細り非常に強い、粘性や中強い、ローム(φ0.5~10mm)を全体の1/3量含む、地。

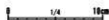
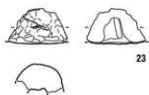
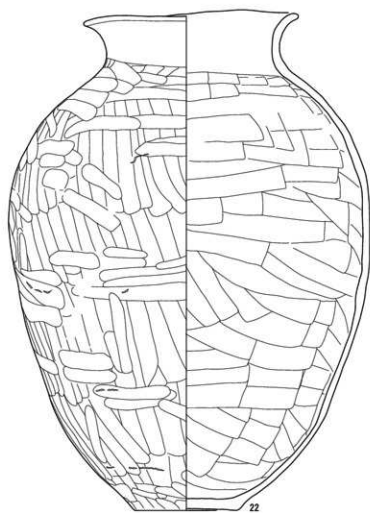
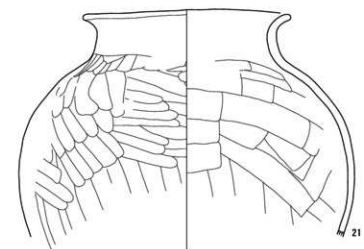
第107図 306号住居跡カマド(1/30・1/60)



第108図 306号住居跡出土遺物1 (1/4)



第109図 306号住居跡出土遺物2(1/4)



第110図 306号住居跡出土遺物3 (1/4)

図版番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第108図1 図版68-2-1	須恵器 坏蓋	P1範圍内 (床面レベル)、西壁中 央付近の覆土中(床 上13cm)	頸部～ 底部 50%	高口 4.8 11.8	灰白色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子中量	口縁部わずかに内湾する/天井部と口縁部 の間に稜を設ける/内面:回転ナデ/外面: 回転ナデ、天井部同心円形の回転ヘラケズリ	湖西京跡産
第108図2 図版68-2-2	須恵器 坏蓋	貯蔵穴内(底 上33cm)	口縁～ 底部 20%	高口 14.0 (11.4)	灰色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子中量/石 英少量	口縁わずかに外湾する/天井部と口縁部 の間に稜を設ける/内面:回転ナデ/外面: 回転ナデ、天井部回転ヘラケズリ	湖西京跡産
第108図3 図版68-2-3	須恵器 坏身	南西コー ナー付近、 中央東側の 覆土中(床 上3～26 cm)	口縁～ 底部 20%	高受 [3.9] (11.4)	灰色	砂粒・白色粒子中 量	かえり欠損/底部に「キ」字状の線刻/内 面:回転ナデ/外面:回転ナデ、底部同心 円形の回転ヘラケズリ	湖西京跡産
第108図4 図版68-2-4	須恵器 坏身	カマド東側 の壁厚内(底 上15・165 cm)	口縁～ 底部 30%	高口 3.8 (10.7) 受 (13.0)	灰色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子中量	かえりあり/内面:回転ナデ/外面:回転 ナデ、底部同心円形の回転ヘラケズリ	湖西京跡産
第108図5 図版68-2-5	須恵器 短頸鉢	P4東側の 覆土中(床 上9cm)	口縁～ 底部 30%	高口 [5.2] (9.2) 底 (4.0)	灰黄色	砂粒・白色粒子・ 小礫中量	内面:回転ナデ/外面:回転ナデ、体下部 回転ヘラケズリ、底部回転ヘラケズリ	湖西京跡産
第108図6 図版68-2-6	須恵器 短頸鉢	貯蔵穴南側の 床面上	体～ 底部 60%	高 [5.7]	灰黄褐色	砂粒・白色粒子・ 小礫中量	内面:回転ナデ/外面:回転ナデ、体下部 回転ヘラケズリ、底部手持ちヘラケズリ	湖西京跡産
第108図7 図版68-2-7	須恵器 フラスコ形 長頸瓶	中央の床面 上	頸～ 頸部 20%	高 [9.3]	にぶい黄 褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子中量	内面頸部と外面に自然釉付着/頸部2条 沈線/回転ナデ	湖西京跡産
第108図8 図版68-2-8	須恵器 短頸壺	中央の床面 上	口縁～ 頸部 5%	高口 [5.5] (17.2)	にぶい、橙 色～灰黄 褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・白色針 状物質中量	口縁部は外反する/回転ナデ	湖西京跡産
第108図9 図版68-2-9	須恵器 甕	中央北側の 床面上・覆 土中(床上 10～19cm)	胴～ 底部 30%	高 [18.0]	灰黄色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子中量	内面見込部と胴部に自然釉付着/頸部1 条沈線/内面:ナデ/外面:平行タタキ	湖西京跡産
第108図10 図版68-2-10	土師器 坏	P1内(底 上59cm)、 北西側の床 面上	口縁～ 底部 30%	高口 [3.4] (11.8)	明赤褐色 ～橙色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子中量/石英・小 礫少量	内面～外面口縁部赤彩/口唇内面沈線/種 は弱い/内面:横ナデ/外面:口縁部横ナ デ、底部ヘラケズリ	いわゆる比 色型坏/入 間系土師器
第108図11 図版68-2-11	土師器 坏	梯子穴西側 の床面上	口縁～ 底部 80%	高口 5.5 (14.0)	橙色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・金雲母 中量/小礫少量	口縁部は外反する/内面:口縁部横ナデ、 体部ヘラナデ/外面:口縁部横ナデ、体～ 底部ヘラケズリ	無彩系有稜 坏/在地系 土師器
第108図12 図版68-2-12	土師器 坏	覆土中	口縁～ 底部 50%	高口 4.8 (13.5)	橙色	砂粒・角閃石中量	口縁部は外湾する/内面:口縁部横ナデ、 体部ヘラナデ/外面:口縁部横ナデ、体～ 底部ヘラケズリ	無彩系有稜 坏/在地系 土師器
第108図13 図版68-2-13	土師器 坏	貯蔵穴内(底 上59cm)	口縁～ 底部 40%	高口 3.3 (12.8)	にぶい、橙 色	砂粒やや多量/赤 色粒子・雲母中量 /角閃石少量	黒彩/内面:横ナデ/外面:口縁部横ナデ、 体～底部ヘラケズリ	黒色系有段 坏/在地系 土師器
第108図14 図版69-14	土師器 甕	カマド内(火 床10・15cm)	胴部 20%	高口 27.8 (19.0)	橙色	砂粒・白色粒子・ 雲母中量	口縁部は大きく外反する/最大径を口縁部 に持つ/内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナ デ/外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長渡/在地 系土師器
第108図15 図版69-15	土師器 甕	貯蔵穴内(底 上49cm)、 貯蔵穴南側 の床面上	口縁～ 胴部 15%	高口 [10.0] (19.0)	橙色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・石英・ 角閃石中量	口縁部は大きく外反し、少し下がる/内面: 口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面:口縁 部ヘラナデ、胴部ヘラケズリ	長渡/在地 系土師器
第108図16 図版69-16	土師器 甕	北東コー ナーの床面 上	口縁～ 胴部 20%	高口 [21.7] (19.1)	橙色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子中量/石 英・角閃石少量	口縁部はくさくさで外反する/最大径は胴上 部に持つ/口唇部が厚、外面粘土付着/ 内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面: 口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長渡/在地 系土師器
第108図17 図版69-17	土師器 甕	西側の覆土 中(床上11 ・20cm)	底～ 台部 10%	高底 [11.4] (13.5)	橙色	砂粒やや多量/白 色粒子・石英・角 閃石中量/小礫少 量	内面:東部ヘラナデ、台部ヘラナデ/外面 ヘラケズリ	台付甕/在 地系土師器
第109図18 図版69-18	土師器 甕	中央東側の 覆土中(床 上3～10 cm)・船床	口縁～ 胴部 15%	高口 [9.0] (19.0)	橙色	砂粒多量/白色粒 子・赤色粒子・石 英・角閃石中量	口縁部はくさくさで外反する/内面:口縁部 横ナデ、胴部ヘラナデ/外面:口縁部横 ナデ、胴部ヘラケズリ	丸壺/在地 系土師器

第53表 306号住居跡出土遺物一覧(1)

棟号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第109図19 図版69-19	土師器 甕	カマド内(火 床上10～ 34cm)	口縁～ 胴部 30%	高口 [43.4] (20.0)	にぶい黄 褐色	砂粒・白色粒子・ 雲母中量	口縁部は外反する/最大径を胴上部に持つ /内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外 面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	丸甕/在地 系土師器
第109図20 図版69-20	土師器 甕	中央南側の 覆土中(床 上3～15 cm)	胴- 底部 30%	高さ [27.1] (9.7)	にぶい橙 色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・雲母中 量	内面ツギメが残る/内面:ヘラナデ/外面: 胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	丸甕/在地 系土師器
第110図21 図版70-21	土師器 甕	中央北東側の 覆土中(床 上13～19 cm)	口縁～ 胴部 30%	高口 25.4 (22.0)	褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・角閃石 中量	口縁部はこの字で外反する/最大径を胴上 部に持つ/大型/内面:口縁部横ナデ、胴 部ヘラナデ/外面:口縁部横ナデ、胴部ヘ ラケズリ	丸甕/在地 系土師器
第110図22 図版70-22	土師器 甕	東壁北側付 近の床面上	ほぼ完 形	高口 53.2 22.8 11.1	褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・雲母・ 小礫中量/石英少 量	完形/大型/口縁部は外反する/内面:口 縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面:口縁部 横ナデ、胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	丸甕/在地 系土師器

棟号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	備考
第110図23 図版70-23	土製品 支脚	カマド西側の 覆土中(床 上29cm)	上部欠損	[3.7]	[6.2]	[3.5]	55.7	内部中空/中空部分ナデ/外面指押え/横位 にツギメが残る	

第53表 306号住居跡出土遺物一覧(2)

[構 造] 平面形: 方形。規模: 長軸5.49m/短軸5.19m/深さ25cm。壁: やや斜めに立ち上がる。主軸方位: N-8°-W。壁溝: 東壁で一部途切れるが、そこ以外は、カマドを除き全周する。上幅25～31cm/下幅4～15cm/深さ6～12cm。床面: 入口施設からカマド前面にかけて硬化していた。貼床は2～18cmの厚さで施されていた。カマド: 北壁のほぼ中央に位置する。主軸方位はN-7°-W。長さ99cm/幅132cm/壁への掘り込み29cm。袖部はロームを馬蹄形状に掘り残し、その上に粘土を被覆して構築されたと考えられる。燃焼部に被熱による赤化が確認できた。貯蔵穴: 北東コーナーに位置する(P5)。平面形は楕円形。長軸98cm/短軸77cm/深さ61cm。覆土はローム粒・焼土粒・粘土粒を含む暗褐色土・灰褐色土・褐色土を基調とする。柱穴: 主柱穴はP1からP4の4本と考えられる。深さ46～72cm。覆土はローム粒・焼土粒を含む暗褐色土・黒褐色土を基調とする。掘方の形状が漏斗状にカットされている様子や覆土の堆積状況から、柱の抜き取りが行われた可能性が考えられる。入口施設: P6は入口梯子穴と考えられる。覆土はローム粒を含む黒褐色土を基調とする。深さ27cm。

[覆 土] 6層に分層できた。P2からP6付近の床面に薄い生粘土の分布が、貯蔵穴の南側に焼土の分布が確認された。

[遺 物] 須恵器環蓋・坏身・短頸鉢・フラスコ形長頸瓶・短頸壺・甕、土師器坏・甕、土製の支脚が出土した。貯蔵穴周辺に集中して分布し、大型の丸甕(22)が貯蔵穴南西の東壁よりの位置から出土している。

[時 期] 古墳時代後期(7世紀中葉)。

[遺 物] (第108～110図、図版68-2、図版69・70、第53表)

[土 器] (第108～110図1～22、図版68-2-1～13、図版69・70-14～22、第53表)

1～9は須恵器で、1・2は環蓋、3・4は坏身、5・6は短頸鉢、7はフラスコ形長頸瓶、8は短頸壺、9は甕、10～22は土師器で、10～13は坏、14～22は甕である。

[土 製品] (第110図23、図版70-23、第53表)

23は支脚である。

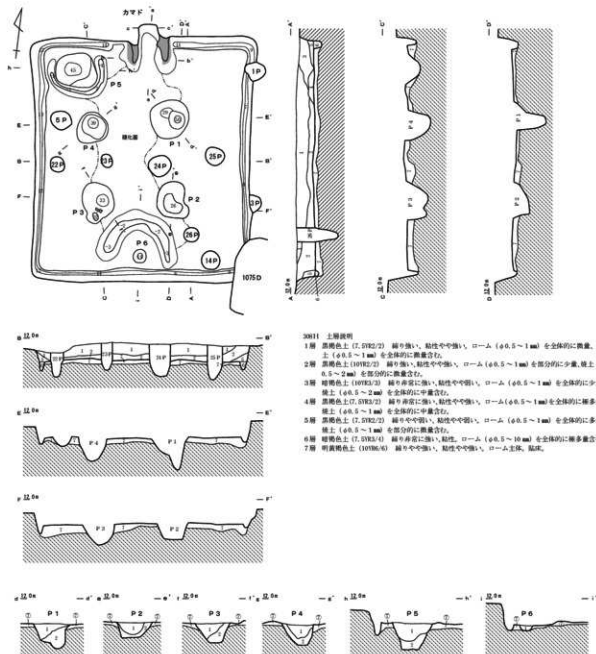
308号住居跡

遺構 (第111・112図)

[位置] (1-2・3) グリッド。

[検出状況] 1075 D、1・3・5・11・14・22～26に切られる。

[構造] 平面形：方形。規模：長軸389cm/短軸361cm/深さ22cm。壁：やや斜めに立ち上がる。



P1 上層説明

1層 赤褐色土 (10192/3) 細りや中強い、粘性や中強い、ローム (φ0.5~1mm) を全体の1/3程度含む。壁土 (φ0.5~1mm) を全体の1/2程度含む。

2層 暗褐色土 (7.0193/4) 細りや中強い、粘性土中強い、ローム (φ0.5~1mm) を全体の1/3程度含む。

P2 上層説明

1層 赤褐色土 (7.0192/2) 細りや中強い、粘性や中強い、ローム (φ0.5~1mm) を全体の1/2程度含む。壁土 (φ0.5~1mm) を全体の1/3程度含む。

2層 暗褐色土 (7.0191/6) 細りや中強い、粘性や中強い、ローム (φ0.5~1mm) を全体の1/3程度含む。

P3 上層説明

1層 赤褐色土 (10192/2) 細りや中強い、粘性や中強い、ローム (φ0.5~1mm) を全体の1/3程度含む。

2層 暗褐色土 (7.0193/4) 細りや中強い、粘性や中強い、ローム (φ0.5~1mm) を全体の1/3程度含む。

P4 上層説明

1層 赤褐色土 (10192/2) 細り強い、粘性や中強い、ローム (φ0.5~1mm) を全体の1/3程度含む。

2層 暗褐色土 (7.0191/6) 細りや中強い、粘性や中強い、ローム (φ0.5~1mm) を全体の1/3程度含む。

P5 上層説明

1層 赤褐色土 (7.0192/2) 細り強い、粘性や中強い、ローム (φ0.5~1mm) を全体の1/2程度含む。

2層 暗褐色土 (7.0191/6) 細りや中強い、粘性や中強い、ローム (φ0.5~1mm) を全体の1/2程度含む。

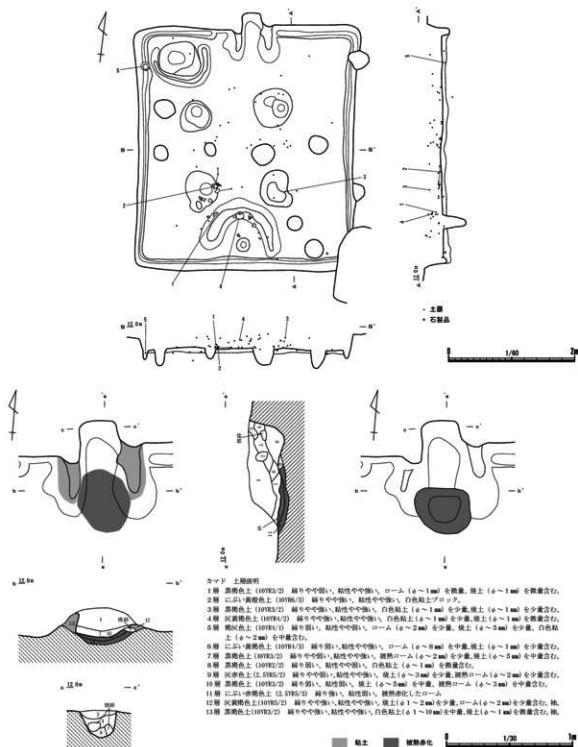
P6 上層説明

1層 暗褐色土 (7.0193/3) 細り非常に強い、粘性や中強い、ローム (φ0.5~1mm) を全体の1/3程度含む。

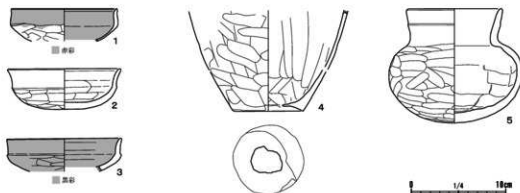
2層 暗褐色土 (7.0193/4) 細りや中強い、粘性や中強い、ローム (φ0.5~1mm) を全体の1/3程度含む。

第111図 308号住居跡 (1/60)

主軸方位: N-7°-W。壁溝: カマドを除き全周する。上幅 11~25cm/下幅 2~8cm/深さ 3~14cm。床面: 入口施設からカマド前面にかけて硬化していた。貼床は 4~15cmの厚さで施されていた。カマド: 北壁のほぼ中央に位置する。主軸方位は N-5°-W。長さ 89cm/幅 90cm/壁への掘り込み 17cm。袖部はロームを馬蹄形に掘り残し、その上に粘土を被覆して構築されたと考えられる。燃焼部に被熱による赤化が確認できた。貯蔵穴: 北西コーナーに位置する (P5)。平面形は隅丸長方形。長軸 67cm



第 112 図 308 号住居跡遺物出土状態・カマド (1/60・1/30)



第113図 308号住居跡出土遺物(1/4)

図版番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第113図1 図版71-1-1	土師器 環	梯子穴北西 側の覆土中 (床上11cm)	口縁～ 底部 30%	高さ 3.4 開口 (11.2)	褐色～赤 褐色	砂粒やや多量/白 色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・小礫中 量	口唇内面沈線あり/内面～外面口縁部赤彩 /内面:横ナデ/外面:口縁部横ナデ、体 部ヘラケズリ	いわゆる比企 型環/人間系 土師器
第113図2 図版71-1-2	土師器 環	中央南西側 の覆土中(床 上5～7cm)	口縁～ 底部 80%	高さ 4.3 開口 (12.0)	黄褐色	砂粒やや多量/白 色粒子・赤色粒子・ 角閃石・金雲母中 量	内面:横ナデ/外面:口縁部横ナデ、体 底部ヘラケズリ	無彩系有稜環 /在地系土師 器
第113図3 図版71-1-3	土師器 環	P2範囲内 の覆土中(床 上21cm)	口縁～ 底部 10%	高さ 3.5 開口 (12.2)	にふい、橙 色～褐色	砂粒やや多量/白 色粒子・角閃石中 量	黒彩/内面:横ナデ/外面:口縁部横ナデ、 体～底部ヘラケズリ	黒色系有段環 /在地系土師 器
第113図4 図版71-1-4	土師器 甗	梯子穴北側 の覆土中(床 上17・18cm)	口縁～ 底部 15%	高さ 11.0 底径 7.3	褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・石英・ 角閃石・雲母中量	地成後穿孔/長狭底部を打ち欠いて穿孔 し、甗に転用したと思われる/内面:ヘラ ナデ/外面:ヘラケズリ	在地系土師器
第113図5 図版71-1-5	土師器 甗	西壁北側壁 厚内(底上 7cm)	口縁～ 底部 80%	高さ 12.1 開口 10.2	にふい、黄 褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・石英・ 角閃石・小礫中量	口縁部は外傾し、弱い段を持つ/内面:口 縁部横ナデ、体部ヘラナデ/外面:口縁部 横ナデ、体～底部ヘラケズリ	在地系土師器

第54表 308号住居跡出土遺物一覧

短軸 55cm/深さ 45cm。周囲には幅 10～19cm/高さ 1～4cmの凸堤が巡っていた。覆土はローム粒を含む黒褐色土・褐色土を基調とする。柱穴：主柱穴は P1 から P4 の 4 本と考えられる。深さ 37～50cm。覆土はローム粒・焼土粒を含む黒褐色土・暗褐色土を基調とする。入口施設：P6 は入口梯子穴と考えられる。覆土はローム粒を含む暗褐色土を基調とする。深さ 14cm。北側には幅 26～36cm/高さ 2～3cmの凸堤が、「U」字状に巡っていた。

〔覆土〕6層に分層できた。

〔遺物〕土師器環・甗・甗が出土した。

〔時期〕古墳時代後期(7世紀中葉)。

〔遺物〕(第113図、図版71-1、第54表)

〔土器〕(第113図1～5、図版71-1-1～5、第54表)

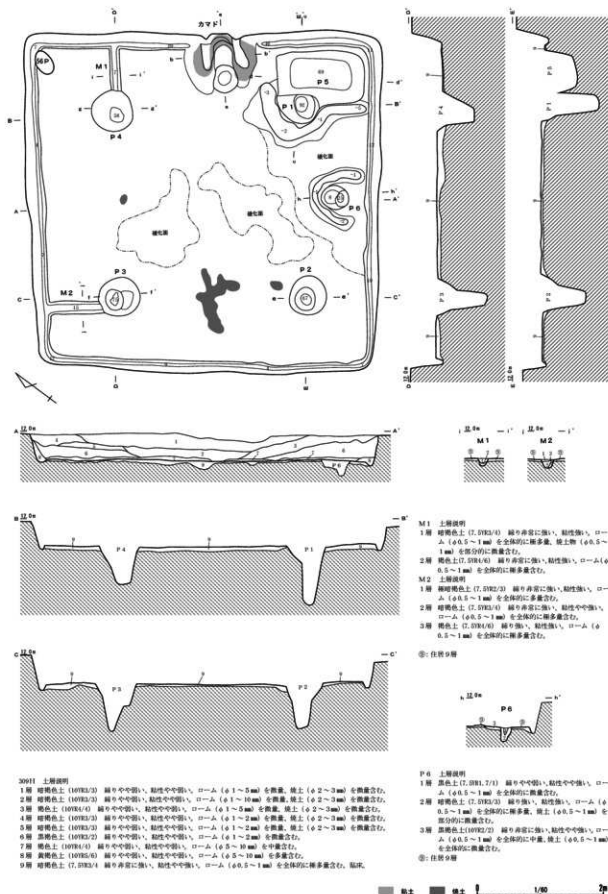
1～5は全て土師器で、1～3は環、4は甗を転用した甗、5は甗である。

309号住居跡

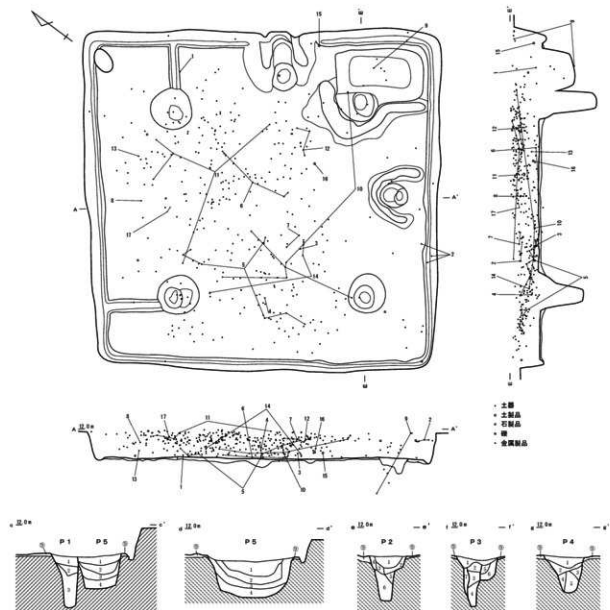
〔遺構〕(第114～116図)

〔位置〕(I-5、H・I・J-6、I-7)グリッド。

〔検出状況〕3道、56・124Pに切られる。



第114図 309号住居跡 (1/60)



P1 土層説明

1層 赤褐色土 (10792/2) 細り中強い、粘性中強い、ロ-ム (φ0.5~1mm) 全体の以少量、焼土 (φ0.5~1mm) 全体の以少量含む。

2層 赤褐色土 (7.5793/2) 細り強い、粘性中強い、ロ-ム (φ0.5~1mm) 全体の以少量、焼土 (φ0.5~1mm) 全体の以少量含む。

3層 赤褐色土 (7.5793/4) 細り中強い、粘性強い、ロ-ム (φ0.5~1mm) 全体の以少量含む。

P2 土層説明

1層 赤褐色土 (7.5793/7) 細り中強い、粘性中強い、ロ-ム (φ0.5~1mm) 全体の以少量含む。

2層 赤褐色土 (7.5793/3) 細り強い、粘性強い、ロ-ム (φ0.5~1mm) 全体の以少量含む。

3層 赤褐色土 (10792/2) 細り中強い、粘性中強い、ロ-ム (φ0.5~1mm) 全体の以少量含む。

4層 赤褐色土 (10792/3) 細り中強い、粘性中強い、ロ-ム (φ0.5~1mm) 全体の以少量含む。

5層 赤褐色土 (7.5793/1) 細り強い、粘性強い、ロ-ム (φ0.5~1mm) 全体の以少量含む。

6層 赤褐色土 (7.5793/4) 細り中強い、粘性中強い、ロ-ム (φ0.5~1mm) 全体の以少量含む。

P3 土層説明

1層 赤褐色土 (7.5793/7) 細り強い、粘性中強い、ロ-ム (φ0.5~1mm) 全体の以少量含む。

2層 赤褐色土 (10792/2) 細り強い、粘性中強い、ロ-ム (φ0.5~1mm) 全体の以少量含む。

3層 赤褐色土 (7.5793/4) 細り中強い、粘性強い、ロ-ム (φ0.5~1mm) 全体の以少量含む。

4層 赤褐色土 (7.5793/3) 細り中強い、粘性中強い、ロ-ム (φ0.5~1mm) 全体の以少量含む。

5層 赤褐色土 (7.5793/1) 細り中強い、粘性中強い、ロ-ム (φ0.5~1mm) 全体の以少量含む。

6層 赤褐色土 (7.5793/4) 細り中強い、粘性中強い、ロ-ム (φ0.5~1mm) 全体の以少量含む。

7層 赤褐色土 (7.5793/3) 細り中強い、粘性中強い、ロ-ム (φ0.5~1mm) 全体の以少量含む。

P4 土層説明

1層 赤褐色土 (7.5793/7) 細り強い、粘性中強い、ロ-ム (φ0.5~1mm) 全体の以少量含む。

2層 赤褐色土 (7.5793/2) 細り強い、粘性中強い、ロ-ム (φ0.5~1mm) 全体の以少量含む。

3層 赤褐色土 (7.5793/4) 細り強い、粘性中強い、ロ-ム (φ0.5~1mm) 全体の以少量含む。

4層 赤褐色土 (7.5793/1) 細り中強い、粘性中強い、ロ-ム (φ0.5~1mm) 全体の以少量含む。

5層 赤褐色土 (7.5793/3) 細り中強い、粘性中強い、ロ-ム (φ0.5~1mm) 全体の以少量含む。

P5 土層説明

1層 赤褐色土 (10792/2) 細り中強い、粘性中強い、ロ-ム (φ0.5~1mm) 全体の以少量含む。

2層 赤褐色土 (7.5793/7) 細り中強い、粘性中強い、ロ-ム (φ0.5~1mm) 全体の以少量含む。

3層 赤褐色土 (7.5793/3) 細り中強い、粘性強い、ロ-ム (φ0.5~1mm) 全体の以少量含む。

4層 赤褐色土 (7.5793/2) 細り中強い、粘性中強い、ロ-ム (φ0.5~1mm) 全体の以少量含む。

5層 赤褐色土 (7.5793/4) 細り中強い、粘性中強い、ロ-ム (φ0.5~1mm) 全体の以少量含む。

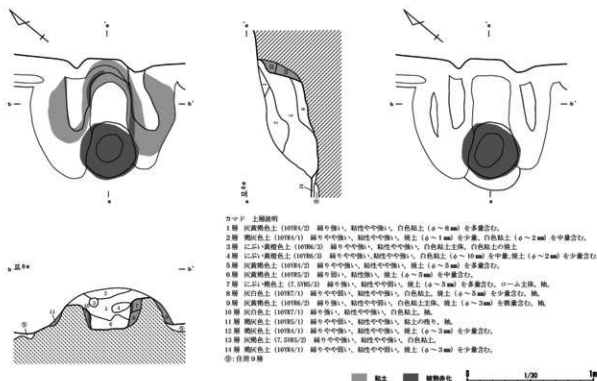
6層 赤褐色土 (7.5793/1) 細り中強い、粘性中強い、ロ-ム (φ0.5~1mm) 全体の以少量含む。

7層 赤褐色土 (7.5793/3) 細り中強い、粘性中強い、ロ-ム (φ0.5~1mm) 全体の以少量含む。

8層 赤褐色土 (7.5793/2) 細り中強い、粘性中強い、ロ-ム (φ0.5~1mm) 全体の以少量含む。

9層 赤褐色土 (7.5793/4) 細り中強い、粘性中強い、ロ-ム (φ0.5~1mm) 全体の以少量含む。

第115図 309号住居跡・遺物出土状態 (1/60)



第116図 309号住居跡カマド (1/30)

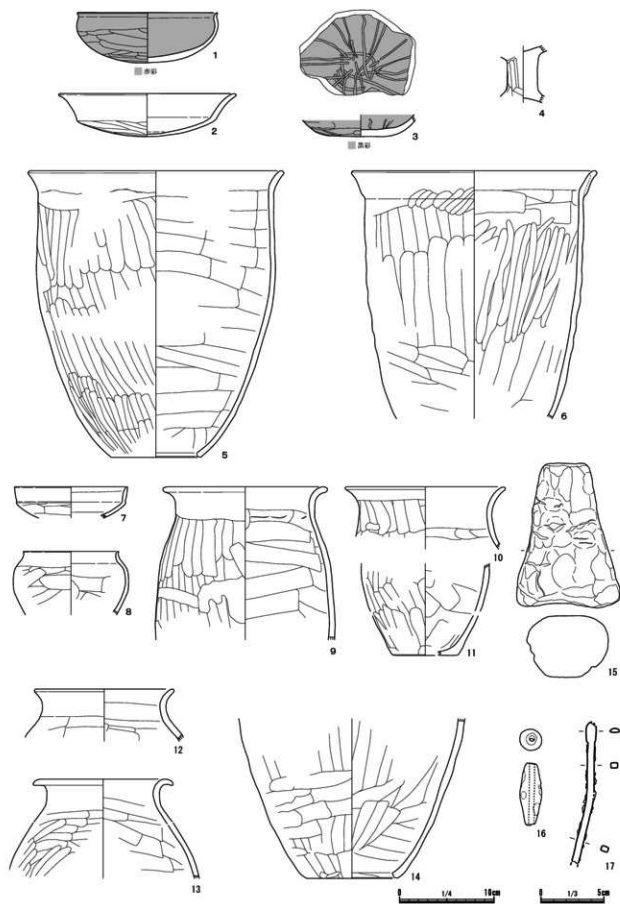
〔構造〕平面形：方形。規模：長軸5.69m／短軸4.57m／深さ40cm。壁：やや斜めに立ち上がる。主軸方位：N-53°-W。壁溝：カマドを除き全周する。上幅10～30cm／下幅4～11cm／深さ4～16cm。床面：住居の中央部分と入口施設から貯蔵穴にかけての範囲が硬化していた。貼床は1～14cmの厚さで施されていた。カマド：北東壁の中央やや南東よりに位置する。主軸方位はN-50°-E。長さ95cm／幅115cm／壁への掘り込み0cm。袖部はロームを馬蹄形状に掘り残し、その上に粘土を被覆して構築されたと考えられる。燃烧部、袖部に被熱による赤化が確認できた。貯蔵穴：東コーナーに位置する(P5)。平面形は長方形。長軸138cm／短軸86cm／深さ69cm。周囲には幅24～58cm／高さ1～5cmの凸堤がP1(主柱穴)を迂回して巡っていた。覆土はローム粒を含む黒色土・黒褐色土・暗褐色土を基調とする。柱穴：主柱穴はP1からP4の4本と考えられる。深さ58～92cm。覆土はローム粒を含む黒褐色土・暗褐色土を基調とする。入口施設：P6は入口梯子穴と考えられる。覆土はローム粒・焼土粒を含む黒色土・暗褐色土・黒褐色土を基調とする。深さ25cm。北東側には幅17～24cm／高さ1～2cmほどの凸堤が、「コ」字状に巡っていた。間仕切り溝：M1、M2は間仕切り溝と考えられる。M1はP4から北東壁の壁溝にかけて、M2はP3から北西壁の側溝にかけて、壁に直交して掘り込まれる。幅16～21cm／深さ7～15cm。

〔覆土〕8層に分層できた。P2とP3の間の範囲などで、焼土の分布が確認された。

〔遺物〕土師器環・高環・甕・甗、土製の支脚と土錘、鉄鍬が出土した。土器は大きく2時期のものがみられる。1つは6世紀後葉(1～6)、もう1つは7世紀前葉(7～14)である。新しい土器群が、遺構の時期を示すものと考えられる。

〔時期〕古墳時代後期(7世紀前葉)。

〔遺物〕(第117図、図版71-2、第55表)



第117图 309号住居跡出土遺物(1/3・1/4)

第3章 検出された遺構と遺物

発掘番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考		
第117図1 図版71-2-1	土師器 環	北東壁北側の 覆土中(床 上7cm)	口縁～ 底部 80%	高口 5.3 14.8	赤色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子・石英・長石・ 小礫中量	内外面赤彩/内面:口縁部横ナデ、体部ナ デ/外面:口縁部横ナデ、体～底部ヘラケズリ	いわゆる比 企型環/入 関係土師器		
第117図2 図版71-2-2	土師器 環	南東壁中央 西寄りの覆 土中(床上 29～32cm)	口縁～ 底部 90%	高口 4.6 13.8	褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子・石英・角閃石 中量	口縁部は大きく外反する/内面:横ナデ/ 外面:横ナデ、底部ヘラケズリ	小針型環		
第117図3 図版71-2-3	土師器 環	中央南側の 覆土中(床 上10cm)	底部 20%	高 [2.3]	にぶい、黄 褐色	砂粒やや多量/白 色粒子・石英中量	黒彩/内面:ナデ/外面:ヘラケズリ一 部ミガキ/内面に円形・放射状の暗文	北関東系か		
第117図4 図版71-2-4	土師器 高杯	南西側の覆 土中(床上 15cm)	脚柱部	高 [6.0]	にぶい、黄 褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子中量/角 閃石少量	内面:ナデ/外面:ヘラケズリ	在地系土師 器		
第117図5 図版71-2-5	土師器 甌	南西側の覆 土中(床上 3～30cm)	口縁～ 底部 20%	高口 [27.0] 20% 9.6	にぶい、褐 色	砂粒・石英・長石 中量・雲母少量	内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面: 口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	筒拔け式/ 在地系土師 器		
第117図6 図版71-2-6	土師器 甌	中央の覆土 中(床上3 ～12cm)	口縁～ 胴部 20%	高口 [26.0]	灰黄褐色	砂粒多量/赤色粒 子・石英・角閃石 中量	複合口縁/内面:口縁部横ナデ、胴部ヘ ラナデ・ミガキ/外面:口縁部横ナデ、胴部 ヘラケズリ	在地系土師 器		
第117図7 図版71-2-7	土師器 環	中央南側の 覆土中(床 上32・34cm)	口縁～ 底部 8%	高口 [13.1] (12.0)	褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子・石英・長石中 量	口縁部は直立する/内面:横ナデ/外面: 口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	無彩系有段 環/在地系 土師器		
第117図8 図版71-2-8	土師器 環	北西側の覆 土中(床上 27cm)	口縁～ 体部 8%	高口 [6.7] (10.0)	褐色	砂粒やや多量・白 色粒子・赤色粒子 ・雲母中量/角閃石 少量	深身の塊タイプ/内面:口縁部横ナデ、体 部ヘラナデ/外面:口縁部横ナデ、体部 ヘラケズリ	無彩系有段 環/在地系 土師器		
第117図9 図版71-2-9	土師器 甌	P5(底上 8cm)、東コー ナーの覆土 中(床上42 cm)	口縁～ 胴部 15%	高口 [16.3] (16.9)	褐色～黒 褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・石英・ 角閃石中量	口縁部は大きく外反する/最大径を胴部に 持つ/外面大きく剥離する/内面:口縁部 横ナデ、胴部ヘラナデ/外面:口縁部横ナ デ、胴部ヘラケズリ	長袋/在地 系土師器		
第117図10 図版71-2-10	土師器 甌	中央南西側・ P5範囲内 の覆土中(床 上10～38 cm)	口縁～ 頸部 15%	高口 [6.6] 17.0	にぶい、橙 褐色	砂粒やや多量/白 色粒子・赤色粒 子・金盞母中量/ 石英・角閃石少量	口縁部は外反する/内面:口縁部横ナデ、 胴部ヘラナデ/外面:口縁部横ナデ、頸部 ヘラケズリ	丸壺/在地 系土師器		
第117図11 図版71-2-11	土師器 甌	北西側・中 央東側の覆 土中(床上 33～43cm)	胴～ 底部 8%	高底 [9.8] (7.0)	黒褐色	砂粒・黒色粒子・ 赤色粒子中量	内面:ヘラナデ/外面:胴部ヘラケズリ、 底部ヘラケズリ	長袋/在地 系土師器		
第117図12 図版71-2-12	土師器 甌	中央東側の 覆土中(床 上28～35 cm)	口縁部 8%	高口 [5.5] (14.8)	褐色	砂粒多量/白色粒 子・黒色粒子・赤 色粒子・石英中量	内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面: 口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	丸壺/在地 系土師器		
第117図13 図版71-2-13	土師器 甌	北西壁中央 付近の覆土 中(床上14 cm)	口縁～ 胴部 8%	高口 [10.5] (14.8)	にぶい、黄 褐色	砂粒・黒色粒子中 量	内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面: 口縁部横ナデ、胴上部ヘラナデ、胴部ヘ ラケズリ	丸壺/在地 系土師器		
第117図14 図版71-2-14	土師器 甌	中央南側の 覆土中(床 上5～18 cm)	胴～ 底部 10%	高底 [17.0] 9.7	灰黄褐色	砂粒多量/赤色粒 子・石英・角閃石 中量	内面:胴中央ヘラケズリ、胴下部ヘラナ デ/外面:ヘラケズリ	筒拔け式/ 在地系土師 器		
発掘番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	備考	
第117図15 図版71-2-15	土製品 支脚	カマド東脇 の覆土中(床 上10cm)		15.3	11.0	6.8	738.0	外面指ナデ/横位にツギメが覗る		
第117図16 図版71-2-16	土製品 土鏡	中央西側の 覆土中(床 上12cm)	完形	2.6	1.0	1.0	11.9	中央部穿孔/外面ナデ・指押え/中央部がふ くらをもつ		
発掘番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	備考
第117図17 図版71-2-17	鉄製品 鉄鏡	北東側の覆 土中(床上 34・35cm)	鏡身部～ 貫徹部	鉄	[11.1]	0.8	0.4	8.5	鏡身部は楕円形を呈し、断面は片丸造、 開を有す/鏡身部長11.6cm/幅0.8cm /厚0.3cm/貫徹部長19.5cm/幅0.5cm /厚0.4cm	長頸片 丸造楕 円式

第55表 309号住居跡出土遺物一覧

〔土 器〕(第117図1~14、図版71-2-1~14、第55表)

1~14は全て土師器で、1~3・7・8は坏、4は高坏、5・6・14は瓶、9~13は甕である。

〔土製品〕(第117図15・16、図版71-2-15・16、第55表)

15は支脚、16は土錘である。

〔鉄製品〕(第117図17、図版71-2-17、第55表)

17は鉄鏃である。

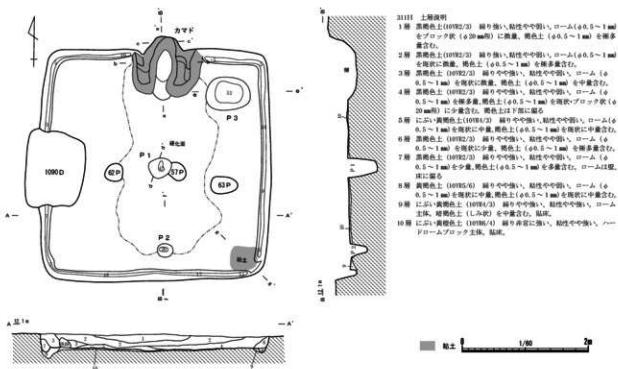
311号住居跡

遺 構 (第118~120図)

〔位 置〕(G・H-6・7)グリッド。

〔検出状況〕1方を切り、1090 D、57・62・63 Pに切られる。

〔構 造〕平面形：方形。規模：長軸3.69m/短軸3.68m/深さ25cm。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。主軸方位：N-1°-W。壁溝：南東コーナーで途切れるが、その他はカマドを除き全周する。上幅12~22cm/下幅2~6cm/深さ3~15cm。床面：入口施設からカマド前面にかけて硬化していた。貼床は1~6cmの厚さで施されていた。カマド：北壁のほぼ中央に位置する。主軸方位はN-2°-W。長さ101cm/幅112cm/壁への掘り込み21cm。袖部はロームを馬蹄形状に掘り残し、その上に粘土を被覆して構築されたと考えられる。燃烧部、袖部に被熱による赤化が確認できた。貯蔵穴：P3は貯蔵穴と考えられる。北西コーナーに位置する。平面形は丸みをおびた長方形。長軸71cm/短軸53cm/深さ52cm。覆土はローム粒を含む黒褐色土・褐色土を基調とする。柱穴：主柱穴は住居中央に位置するP1のみと考えられる。深さ47cm。覆土はローム粒・粘土粒を含む暗褐色土・灰白色土・黒褐色土・褐

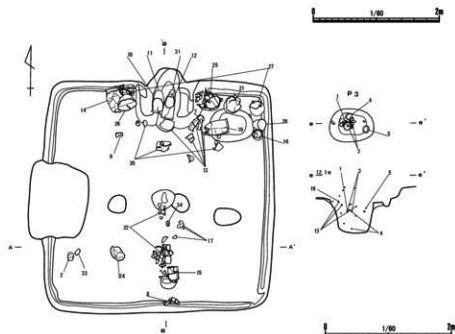
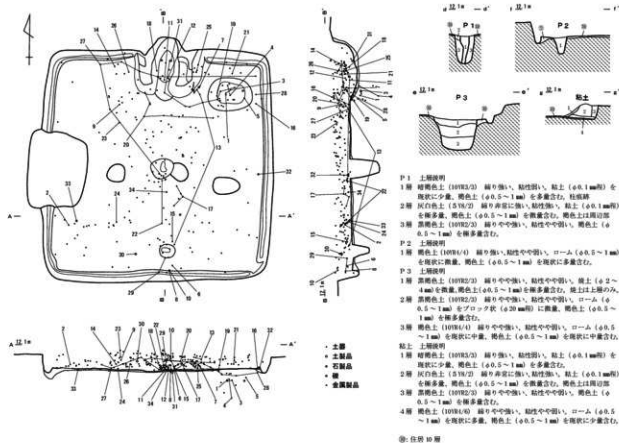


第118図 311号住居跡(1/60)

色土を基調とする。入口施設：P2は入口梯子穴と考えられる。覆土はローム粒を含む褐色土を基調とする。深さ26cm。

[覆土] 8層に分層できた。南東コーナーにおいて、生粘土塊が検出された。

[遺物] 土師器杯・鉢・鉢・甌、ミニチュア土器、土製の支脚、砥石、軽石、鉄滓が出土した。カマド・



第119図 311号住居跡・遺物出土状態 (1/60)

貯蔵穴の内部とその周辺から、まとめて出土した。カマドでは、長襖（西側：19、東側：13）が横に並んでいる状況で出土し、また東側の長襖（13）の下からは土製の支脚（31）が立った状態で出土した。

〔時期〕古墳時代後期（7世紀中葉）。

〔所見〕遺物の出土状況から、カマドは、襖を横に2つ並べた構造が推測される。

〔遺物〕(第121～123図、図版72～74、第56表)

〔土器〕(第121～123図1～29、図版72～74-1～29、第56表)

1～28は全て土師器で、1～9は坏、10・11は鉢、12～26は襖、27は甌、28は襖を転用した甌、29はミニチュア土器である。

〔土製品〕(第123図30・31、図版74-30・31、第56表)

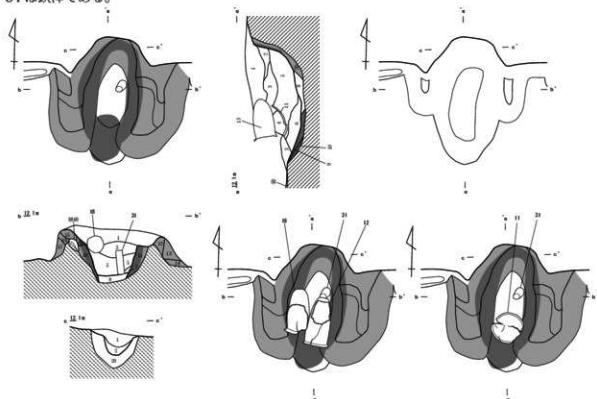
30・31はいずれも支脚である。

〔石製品〕(第123図32・33、図版74-32・33、第56表)

32は砥石、33は軽石である。

〔鉄製品〕(第123図34、図版74-34、第56表)

34は鉄滓である。



カマド 上層断面

- 1層 灰黄色土 (10784/2) 締りやや強い、粘性やや強い、焼土 (φ～5mm) を中量、白色粘土 (φ～5mm) を少量含む。
- 2層 灰黄色土 (10784/2) 締りやや強い、粘性やや強い、焼土 (φ～5mm) を中量、白色粘土 (φ～5mm) を少量含む。
- 3層 灰黄色土 (10784/3) 締りやや強い、粘性やや強い、焼土 (φ～5mm) を中量含む。
- 4層 灰黄色土 (10784/2) 締りやや強い、粘性強い、白色粘土、下層焼土存在。 落天灰。
- 5層 灰黄色土 (10784/2) 締り強い、粘性やや強い、焼土 (φ～5mm) を少量含む。
- 6層 三彩・黄褐色土 (10785/2) 締り強い、粘性強い、焼土 (φ～15mm) を極多量、下層焼土・ローム (φ～5mm) を多量に含む。
- 7層 三彩・黄褐色土 (10785/2) 締りやや強い、粘性強い、焼土 (φ～2mm) を少量含む、灰泥。
- 8層 三彩・黄褐色土 (10785/2) 締り強い、粘性やや強い、白色粘土 (φ～5mm) を少量含む。
- 9層 黄褐色土 (10783/1) 締りやや強い、粘性やや強い、焼土 (φ～3mm) を少量、ローム (φ～2mm) を少量、炭 (φ～2mm) を含む。

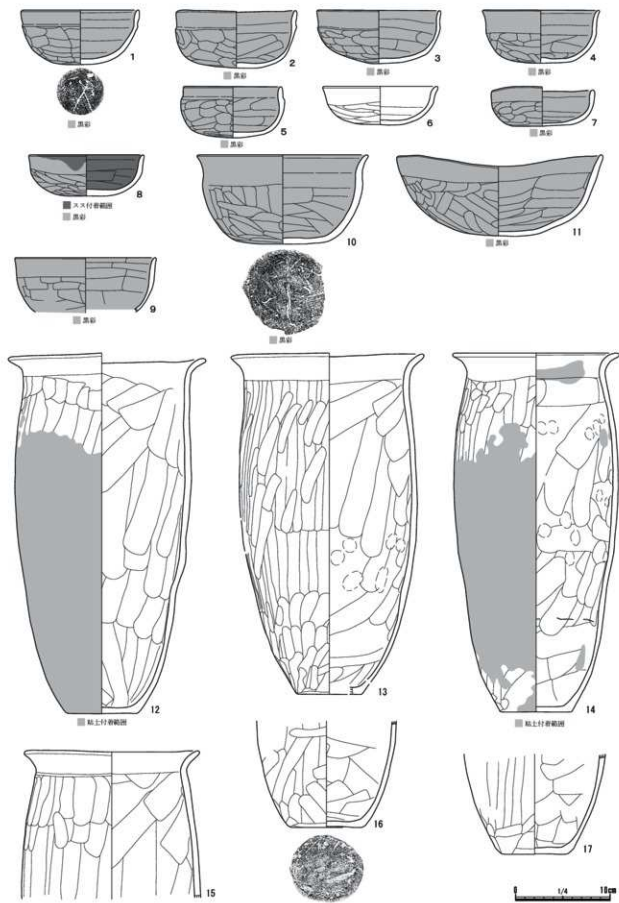
- 10層 黄褐色土 (10783/1) 締りやや強い、粘性やや強い、ローム (φ～10mm 石灰質) を少量含む。
- 11層 褐色土 (2, 1036/6) 締り強い、粘性強い、焼土が焼物存在。
- 12層 灰白色土 (10787/1) 締り強い、粘性やや強い、白色粘土がブロック主体。
- 13層 褐色土 (10784/1) 締り強い、粘性やや強い、白色粘土 (φ～3mm) を少量含む。
- 14層 三彩・黄褐色土 (10785/2) 締り強い、粘性やや強い、白色粘土 (φ～10mm) を少量含む。
- 15層 褐色土 (10784/1) 締り強い、粘性やや強い、白色粘土 (φ～3mm) を少量含む。
- 16層 灰黄色土 (10784/2) 締りやや強い、粘性やや強い、白色粘土 (φ～2mm) を少量、焼土 (φ～1mm) を少量含む。
- 17層 灰白色土 (10788/2) 締り強い、粘性やや強い、白色粘土、焼土 (φ～2mm) を少量含む。
- 18層 灰黄色土 (10785/2) 締り強い、粘性やや強い、白色粘土 (φ～10mm) を少量含む。
- 19層 褐色土 (2, 1036/6) 締り強い、粘性やや強い、焼土が焼物存在。
- 20層 褐色土 (2, 1036/6) 締り強い、粘性やや強い、焼土が焼物存在。

※: 自然10倍

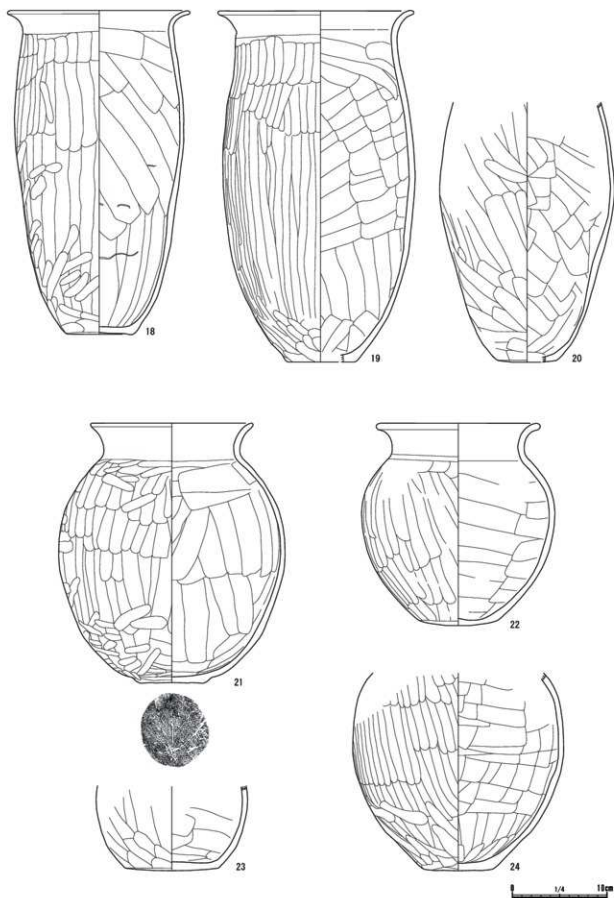


第120図 311号住居跡カマド (1/30)

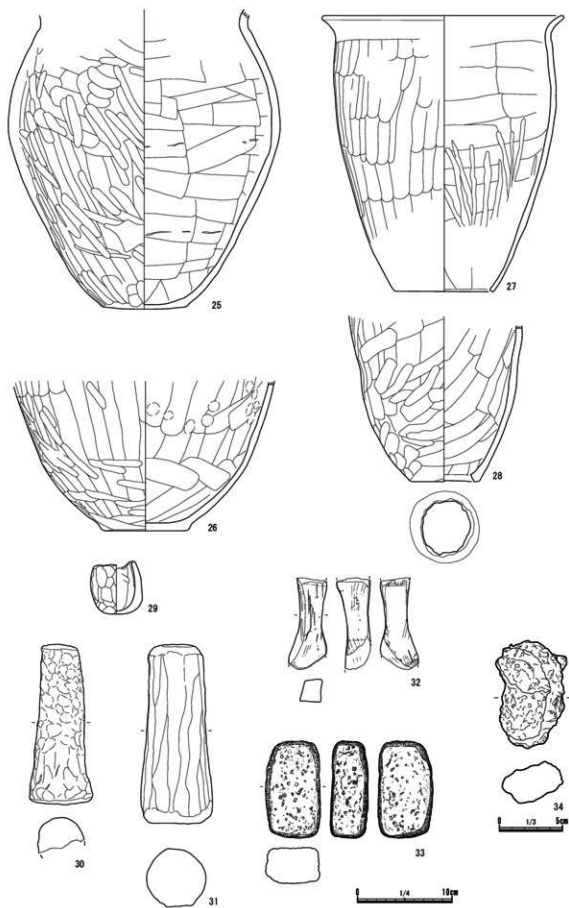
第3章 検出された遺構と遺物



第121図 311号住居跡出土遺物1 (1/4)



第122図 311号住居跡出土遺物2(1/4)



第123図 311号住居跡出土遺物3 (1/3・1/4)

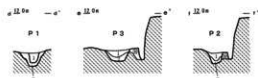
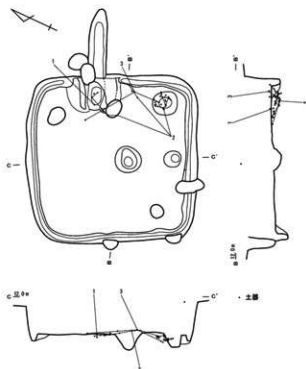
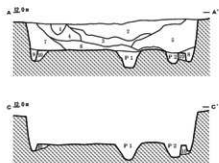
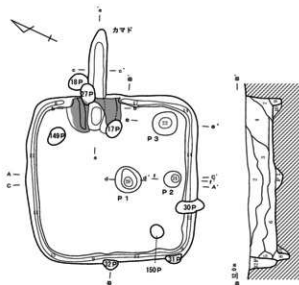
図版番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第121図1 図版72-1	土師器 環	貯蔵穴内(底上37cm)	ほぼ完形	高口 5.7 12.6	褐色	砂粒や少量/白色粒子・赤色粒子・石英・角閃石中量	黒彩/底部木炭灰/内面:横ナデ/外面:口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	黒色系有段環/在地系土師器
第121図2 図版72-2	土師器 環	南西コーナー付近の覆土中(床土6cm)	ほぼ完形	高口 6.0 12.8	褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・角閃石・小礫中量	黒彩/口片状/内面:口縁部横ナデ、見込部ヘラケズリ/外面:口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	黒色系有段環/在地系土師器
第121図3 図版72-3	土師器 環	貯蔵穴内(底上35・36cm)	口縁~底部90%	高口 5.7 13.1	褐色	砂粒や少量/白色粒子・黒色粒子・石英・角閃石・小礫中量	黒彩/内面:横ナデ/外面:口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	黒色系有段環/在地系土師器
第121図4 図版72-4	土師器 環	貯蔵穴内(底上8・38cm)	口縁~底部90%	高口 5.6 12.4	にぶい褐色	砂粒・黒色粒子・赤色粒子・石英・小礫中量	黒彩/内面:口縁部横ナデ、見込部指押え/外面:口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	黒色系有段環/在地系土師器
第121図5 図版72-5	土師器 環	貯蔵穴内(底上41cm)	完形	高口 5.3 10.5	褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・石英・長石中量/雲母少量	黒彩/口縁部は内湾する/内面:横ナデ/外面:口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	黒色系有段環/在地系土師器
第121図6 図版72-6	土師器 環	榑子穴と南壁の間の覆土中(床土9cm)	口縁~底部70%	高口 4.1 12.2	褐色	砂粒・石英・金雲母・小礫少量	平底/内面:口縁部横ナデ、見込部ナデ/外面:口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	無彩系有段環/在地系土師器
第121図7 図版72-7	土師器 環	カマド東袖脇の覆土中(床土3cm)	口縁~底部90%	高口 4.2 10.8	褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子中量/石英・角閃石少量	黒彩/平底/内面:横ナデ/外面:口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	黒色系有段環/在地系土師器
第121図8 図版72-8	土師器 環	榑子穴と南壁の間の覆土中(床土10cm)	口縁~底部50%	高口 (12.2)	明赤褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・角閃石中量/雲母少量	黒彩/内面・外面:口縁部スス付着/内面:横ナデ/外面:口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	黒色系有段環/在地系土師器
第121図9 図版72-9	土師器 環	カマド西側の覆土中(床土15cm)	口縁~底部15%	高口 (15.0)	にぶい黄褐色	砂粒・黒色粒子・長石中量	黒彩/深身/内面:口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ/外面:口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	黒色系有段環/在地系土師器
第121図10 図版72-10	土師器 鉢	榑子穴と南壁の間の覆土中(床土20cm)	口縁~底部40%	高口 (18.2)	にぶい褐色	砂粒や少量/白色粒子・赤色粒子・石英・角閃石中量	底部木炭灰/内面:横ナデ/外面:口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	在地系土師器
第121図11 図版72-11	土師器 鉢	カマド内(床土15cm)	口縁~底部90%	高口 8.5 21.9	にぶい褐色	砂粒・白色粒子中量/雲母少量	内面:口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ/外面:口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	浅鉢タイプ/在地系土師器
第121図12 図版72-12	土師器 甕	カマド内(床土22cm)	口縁~底部80%	高口 38.1 21.1 7.6	褐色	砂粒・白色粒子・石英・角閃石・雲母中量/小礫少量	最大径を口縁部につけ/底部木炭灰/外面粘土付着/内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ/外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕/在地系土師器
第121図13 図版72-13	土師器 甕	カマド内(床土28・39cm)、貯蔵穴内(底上44~50cm)、カマドと貯蔵穴の間の榑子穴北側の覆土中(床土6~19cm)	口縁~底部90%	高口 35.9 20.4 (6.9)	褐色~黒褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子中量/石英少量	最大径を口縁部につけ/内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ/外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕/在地系土師器
第121図14 図版72-14	土師器 甕	カマド西側の覆土中(床土9cm)	口縁~底部70%	高口 37.6 17.6 7.8	褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・石英・角閃石・雲母中量	内外面粘土付着/胴下部ツギメが目立つ/内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ/外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕/在地系土師器
第121図15 図版72-15	土師器 甕	榑子穴北側の覆土中(床土7cm)	口縁~底部40%	高口 (15.5) 18.8	褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子中量/石英少量	内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ/外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕/在地系土師器
第121図16 図版72-16	土師器 甕	貯蔵穴と東壁の間の覆土中	胴~底部20%	高口 (11.3) (7.8)	褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・赤色粒子・長石中量	内面:ヘラケズリ/外面:胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	長甕/在地系土師器
第121図17 図版72-17	土師器 甕	中央南側の覆土中(床土2~10cm)	胴~底部15%	高口 (10.6) (7.2)	にぶい褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・長石中量	内面:ヘラケズリ/外面:胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	長甕/在地系土師器

第56表 311号住居跡出土遺物一覽(1)

第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考		
第122図18 図版73-18	土師器 甕	カマド内(穴 床上24cm)	口縁～ 底部 70%	高口 (19.0) 底 7.0	橙色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・石英・ 角閃石中量	最大径を口縁部に持つ／内面：口縁部横ナ デ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、 胴部ヘラナデ、底部ヘラナデ、 胴部ヘラナデ、底部ヘラナデ	長巻／在地 系土師器		
第122図19 図版73-19	土師器 甕	貯蔵穴内(底 52cm、ほぼ 床面レベル)	口縁～ 底部 80%	高口 (20.8) 底 7.2	にぶい黄 褐色～に ぶい黄褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・石英・ 角閃石中量	内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面： 口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ	長巻／在地 系土師器		
第122図20 図版73-20	土師器 甕	カマド南側 の覆土中(床 上11～19 cm)	口縁～ 底部 40%	高底 (27.5) 底 (6.5)	橙色	砂粒・黒色粒子・ 赤色粒子中量／小 礫少量	内面：ヘラナデ／外面：胴部ヘラナデ、底 部ヘラナデ	長巻／在地 系土師器		
第122図21 図版73-21	土師器 甕	貯蔵穴と北 壁の間の覆 土中(床土 9cm)	口縁～ 底部 60%	高口 (17.3) 底 (6.8)	橙色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・金雲母 英・小礫少量	底部木葉痕／ゆがみが大きい／内面：口縁 部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面：口縁部横 ナデ、胴部ヘラナデ	丸巻／在地 系土師器		
第122図22 図版73-22	土師器 甕	中央南側の 覆土中(床 上4～7cm)	口縁～ 底部 50%	高口 (17.4) 底 8.0	明黄褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・金雲母 中量	小型／頸部隆縁状／内面：口縁部横ナデ、 胴部ヘラナデ／外面：口縁部横ナデ、胴部 ヘラナデ、底部ヘラナデ	丸巻／在地 系土師器		
第122図23 図版73-23	土師器 甕	カマド南西 側の覆土中 (床上21cm)	体～ 底部 30%	高底 (18.9) 底 (9.9)	褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・雲母中 量／小礫少量	内面：ヘラナデ／外面：胴部ヘラナデ、 底部ヘラナデ	丸巻／在地 系土師器		
第122図24 図版73-24	土師器 甕	中央南側の 覆土中(床 上2cm)	口縁～ 底部 15%	高底 (20.9) 底 6.8	明赤褐色	砂粒やや多量／白 色粒子・石英中量 ／角閃石少量	内面：ヘラナデ／外面：胴部ヘラナデ、 底部ヘラナデ	丸巻／在地 系土師器		
第123図25 図版74-25	土師器 甕	カマド東脇 の覆土中(床 上3～21 cm)	胴～ 底部 50%	高底 (31.8) 底 8.7	にぶい褐色	砂粒やや多量／赤 色粒子・長石・雲 母中量／角閃石少 量	外面一部剝離、内面ツギメあり／内面：胴 部ヘラナデ／外面：頸部横ナデ、胴部ヘラ ナデ、底部ヘラナデ	丸巻／在地 系土師器		
第123図26 図版74-26	土師器 甕	カマド西脇 の覆土中(床 上9cm)	胴～ 底部 50%	高底 (19.2) 底 8.9	にぶい褐色 ～にぶい 黄褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子中量／長石少量	内面：ヘラナデー一部指押え／外面：胴部 ヘラナデ、底部ヘラナデ	丸巻／在地 系土師器		
第123図27 図版74-27	土師器 甕	カマド西側 (床上3～9 cm)を主に、 カマド、P 1、北東コー ナーと広域 に分布	口縁～ 底部 70%	高口 (29.2) 底 25.4 1.4	にぶい褐色	砂粒・小礫中量、 雲母少量	内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデー部 ミカギ／外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラ ナデ、底端部ヘラナデ	筒掛り式/ 在地系土師 器		
第123図28 図版74-28	土師器 甕転用 甕	貯蔵穴と東 壁の間の床 面上	胴～ 底部 50%	高底 (17.5) 底 7.3	褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・長石・ 雲母／角閃石少量	長巻底部の打ち欠いて、穿孔し、胴に転用 ／内面：ヘラナデ／外面：胴部ヘラナデ、 底部ヘラナデ	在地系土師 器		
第123図29 図版74-29	ミニ チュア 土器	掃穴と南 壁の間の覆 土中(床上 10cm)	口縁～ 底部 70%	高口 5.6 4.2	褐色～濁 灰色	砂粒やや多量／白 色粒子・赤色粒子 中量／雲母少量	口縁部緩やかにすぼむ／内面：ナデ／外面： ヘラナデ	在地系土師 器		
検出番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	備考	
第123図30 図版74-30	土製品 支脚	P2西側の 覆土中(床 上13cm)	縦に半分 のみ残存 する	17.0	6.7	4.1	387.7	外面指ナデ・指押え／斜面にツギメが残る		
第123図31 図版74-31	土製品 支脚	カマド内の 底面上(原 位置を保つ と思われる)	完形	19.0	7.6	17.0	760.6	外面ヘラナデ		
検出番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴	備考
第123図32 図版74-32	砥石	東壁中央付 近の覆土中 (床上4cm)	完形	変質流 紋岩	196.9	140.0	135.3	120.6	使用により中央部がややゆる／欠損部 にも継条痕等みられ使用がうかがえる	
第123図33 図版74-33	軽石	南西コー ナー付近の 床面上	完形	軽石	102.8	58.1	39.9	70.2	ほぼ直方体に近い軽石で用途不明	
検出番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	備考
第123図34 図版74-34	鉄滓	中央南側の 覆土中(床 上3cm)	—	鉄	8.6	5.2	3.7	15.3		

第56表 311号住居跡出土遺物一覧(2)



- P1 土層説明
 1層 赤褐色土 (10YR2/3) 粘り強い、粘性中強い、ローム (φ0.5~1mm) を塊状に散見、褐色土 (φ0.5~1mm) を多量含む、包み跡。
 2層 赤褐色土 (10YR5/4) 粘り強い、粘性中強い、ローム (φ0.5~1mm) を多量含む、褐色土 (φ0.5~1mm) を塊状に散見含む。
 P2 土層説明
 1層 赤褐色土 (10YR2/3) 粘り強い、粘性中強い、ローム (φ0.5~1mm) を塊状に少量含む、褐色土 (φ0.5~1mm) を多量含む。
 2層 赤褐色土 (10YR5/4) 粘り強い、粘性中強い、ローム (φ0.5~1mm) を多量含む、褐色土 (φ0.5~1mm) を塊状・ブロック状 (φ40mm) に少量含む。
 P3 土層説明
 1層 赤褐色土 (10YR2/3) 粘り中強い、粘性中強い、ローム (φ0.5~1mm) を塊状に散見、褐色土 (φ0.5~1mm) を多量含む。
 2層 黄褐色土 (10YR5/6) 粘り中強い、粘性中強い、ローム (φ0.5~1mm) を多量含む、褐色土 (φ0.5~1mm) を塊状に少量含む。

注: 住居10層

- 312II 土層説明
 1層 赤褐色土 (10YR2/3) 粘り中強い、粘性中強い、褐色土 (φ0.5~1mm) を多量含む。
 2層 赤褐色土 (10YR2/3) 粘り強い、粘性中強い、褐色土 (φ0.5~1mm) を多量含む。
 3層 赤褐色土 (10YR2/3) 粘り中強い、粘性中強い、褐色土 (φ0.5~1mm) を多量含む。
 4層 赤褐色土 (10YR2/3) 粘り中強い、粘性中強い、ローム (φ0.5~1mm) を塊状に散見、褐色土 (φ0.5~1mm) を多量含む。
 5層 赤褐色土 (10YR2/3) 粘り中強い、粘性中強い、褐色土 (φ0.5~1mm) を多量含む。
 6層 赤褐色土 (10YR2/3) 粘り強い、粘性中強い、ローム (φ0.5~1mm) を塊状・ブロック状 (φ10~30mm) に少量含む、褐色土 (φ0.5~1mm) を多量含む。
 7層 赤褐色土 (10YR2/3) 粘り中強い、粘性中強い、ローム (φ0.5~1mm) を塊状・ブロック状 (φ20~30mm) に少量含む、褐色土 (φ0.5~1mm) を多量含む。
 8層 赤褐色土 (10YR2/3) 粘り中強い、粘性中強い、ローム (φ0.5~1mm) を塊状に少量含む、褐色土 (φ0.5~1mm) を多量含む。
 9層 黄褐色土 (10YR5/6) 粘り中強い、粘性中強い、ローム (φ0.5~1mm) を多量含む。
 10層 黄褐色土 (10YR5/6) 粘り中強い、粘性中強い、ローム (φ0.5~1mm) を多量含む、包み跡。

第124図 312号住居跡・遺物出土状態 (1/60)

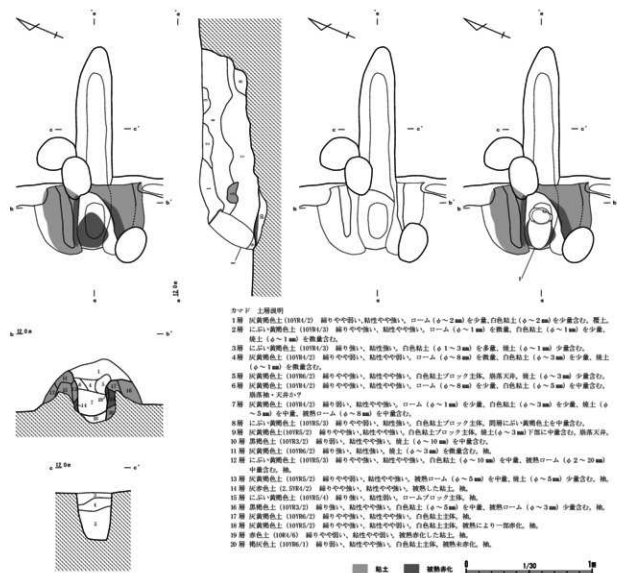
312号住居跡

遺構(第124・125図)

[位置] (G-3) グリッド。

[検出状況] 17・18・27・30～32・149・150 Pに切られる。

[構造] 平面形：方形。規模：長軸2.73m/短軸2.69m/深さ44cm。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。主軸方位：N-65°-E。壁溝：カマドを除き全周する。上幅14～23cm/下幅3～7cm/深さ8～17cm。床面：全体的に軟弱で、硬化は認められなかった。貼床は壁溝沿いに限定され、2～16cmの厚さで施されていた。カマド：東壁の中央北よりに位置する。主軸方位はN-67°-E。長さ165cm/幅88cm/壁への掘り込み102cm。袖部はローンを馬蹄形状に掘り残し、その上に粘土を被覆して構築されたと考えられる。燃焼部、袖部に被熱による赤化が確認できた。貯蔵穴：南東コーナーに位置する(P3)。平面形は楕円形ないしは丸みをおびた長方形。長軸39cm/短軸38cm/深さ22cm。覆土はローン粒を含む黒褐色土・黄褐色土を基調とする。柱穴：主柱穴は住居中央のP1と考えられる。柱痕跡が確認さ



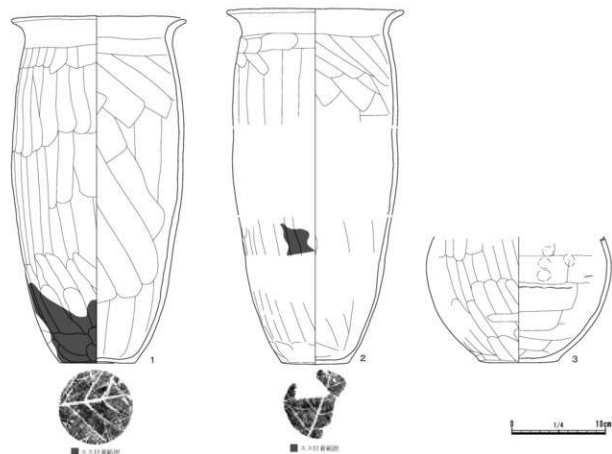
第125図 312号住居跡カマド(1/30)

れた。深さ 29cm。覆土はローム粒を含む黒褐色土・黄褐色土を基調とする。入口施設：P 2 は入口梯子穴と考えられる。覆土はローム粒を含む黒褐色土・黄褐色土を基調とする。深さ 24cm。

[覆土] 9層に分層できた。

[遺物] 土師器甕が出土した。カマドから完形に近い長甕(1)が、貯蔵穴上から長甕(2)が、カマドと貯蔵穴の間の位置から丸甕(3)が出土した。カマドの長甕(1)は、掛け口に掛けられた状態に近いものと思われる。

[時期] 古墳時代後期(7世紀中葉～末葉)。



第 126 図 312 号住居跡出土遺物(1/4)

図版番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存率	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第 126 図 1 図版 75-1-1	土師器 甕	カマド内(火 床 上 5cm)	口縁～ 底部 95%	高口 37.1 (18.7) 底 8.0	にぶい黄 褐色	砂粒多量/白色粒 子・赤色粒子・石英 角閃石中量	底部木葉痕/外面胴下部スス付着/内面： 口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面：口縁 部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕/在地 系土師器
第 126 図 2 図版 75-1-2	土師器 甕	貯蔵穴内(底 上 8～16 cm)、貯蔵穴 とカマドの 間の床面上、 一部カマド 内	口縁～ 底部 60%	高口 37.9 18.9 底 7.1	にぶい橙 色	砂粒多量/黒色粒 子・赤色粒子・石 英中量	最大径を口縁部に持つ/外面スス付着/底 部木葉痕/内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラ ナデ/外面：口縁部横ナデ、胴部ヘラケズ リ	長甕/在地 系土師器
第 126 図 3 図版 75-1-3	土師器 甕	カマドと貯 蔵穴の間の 床面上、一 部カマド・ 貯蔵穴内	胴～ 底部 30%	高底 [13.5] 8.6	にぶい橙 色	砂粒やや多量/白 色粒子・雲母・小 礫中量	内面焼熱によると思われるアバタ状の割 れ/内面：ヘラナデ・一部指押丸/外面：胴 部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	丸甕/在地 系土師器

第 57 表 312 号住居跡出土遺物一覧

遺物 (第126図、図版75-1、第57表)

[土器] (第126図1~3、図版75-1-1~3、第57表)

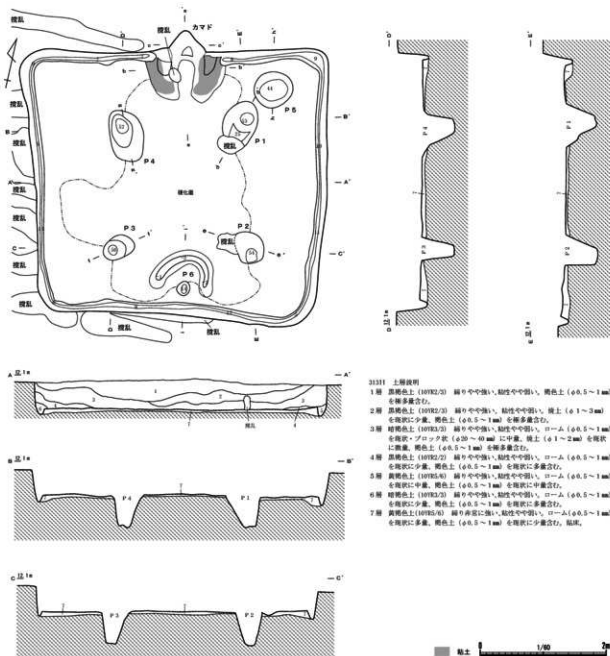
1~3は全て土師器の甕である。

313号住居跡

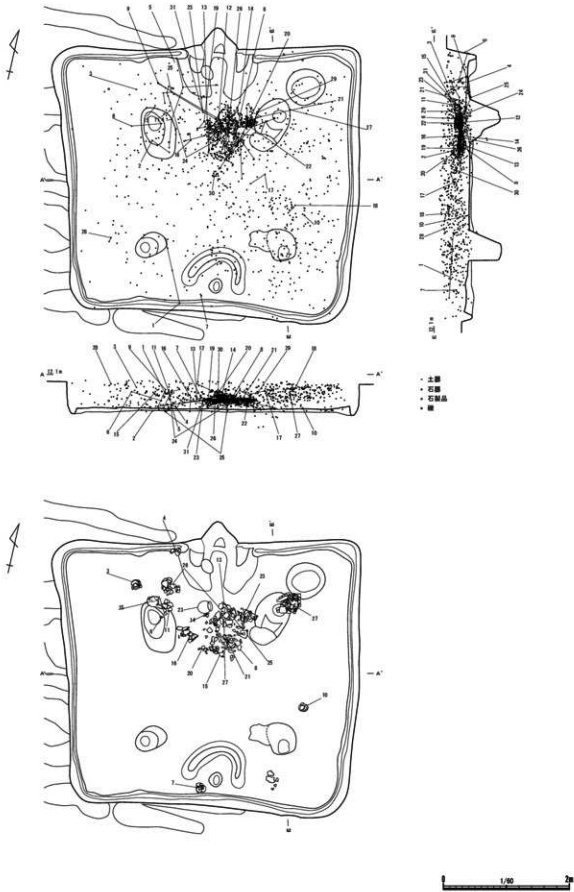
遺構 (第127~129図)

[位置] (G・H-4) グリッド。

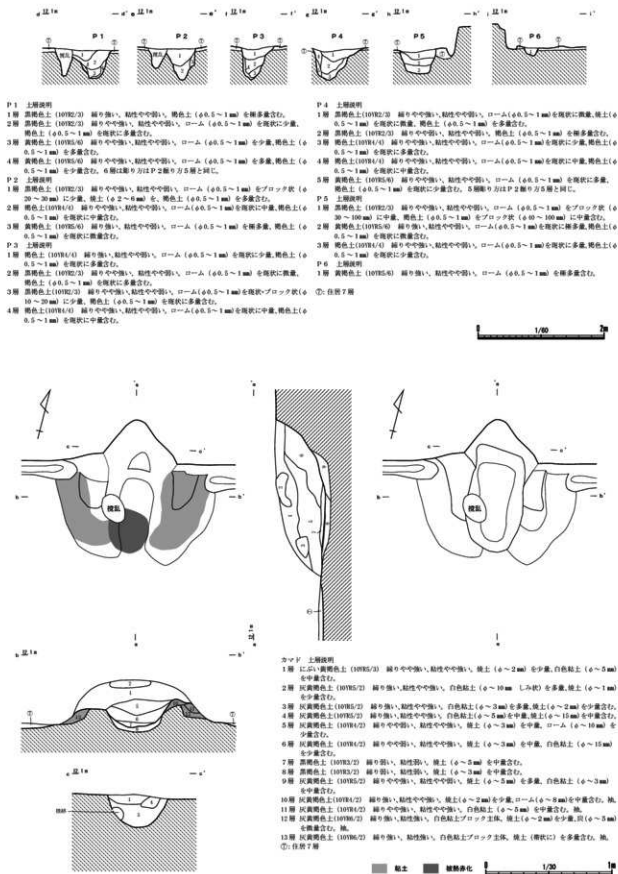
[検出状況] 7 Jを切り、314 Hに切られる。



第127図 313号住居跡 (1/60)



第128図 313号住居跡遺物出土状態(1/60)



第129図 313号住居跡・カマド (1/60・1/30)

〔構造〕平面形：長方形。規模：長軸 4.93m / 短軸 1.13m / 深さ 41cm。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。主軸方位：N-13°-W。壁溝：カマドを除き全周する。上幅 9～27cm / 下幅 2～7cm / 深さ 5～18cm。床面：入口施設からカマド前面にかけて硬化していた。貼床は 3～15cm の厚さで施されていた。カマド：北壁のほぼ中央に位置する。主軸方位は N-14°-W。長さ 115cm / 幅 127cm / 壁への掘り込み 34cm。袖部はロームを馬蹄形状に掘り残し、その上に粘土を被覆して構築されたと考えられる。燃焼部に被熱による赤化が確認できた。貯蔵穴：北東コーナーに位置する（P5）。平面形は楕円形。長軸 62cm / 短軸 58cm / 深さ 44cm。覆土はローム粒を含む黒褐色土・黄褐色土を基調とする。柱穴：主柱穴は P1 から P4 の 4 本と考えられる。深さ 52～56cm。覆土はローム粒を含む黒褐色土・黄褐色土を基調とする。掘方が漏斗状にカットされている様子や覆土の堆積状況から、柱の抜き取りが行われた可能性が考えられる。入口施設：P6 は入口梯子穴と考えられる。覆土はローム粒を含む黄褐色土を基調とする。深さ 14cm。北側には幅 22～27cm / 高さ 1～2cm ほどの凸堤が、「U」字状に巡っていた。

〔覆土〕6層に分層できた。

〔遺物〕土師器環・鉢・甕・甔、土製の支脚、土錘、土玉が出土した。カマドの南側から住居中央北側にかけて密集し、かつ、破片が非常に細かい状況であった。

〔時期〕古墳時代後期（7世紀中葉前段階）。

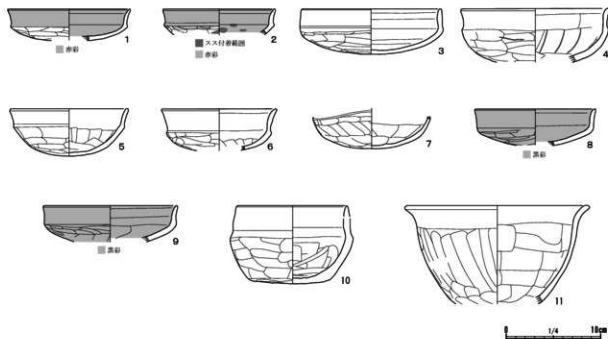
〔遺物〕（第130～132図、図版75-2、図版76・77、第58表）

〔土器〕（第130～132図1～29、図版75-2-1～11、図版76・77-12～29、第58表）

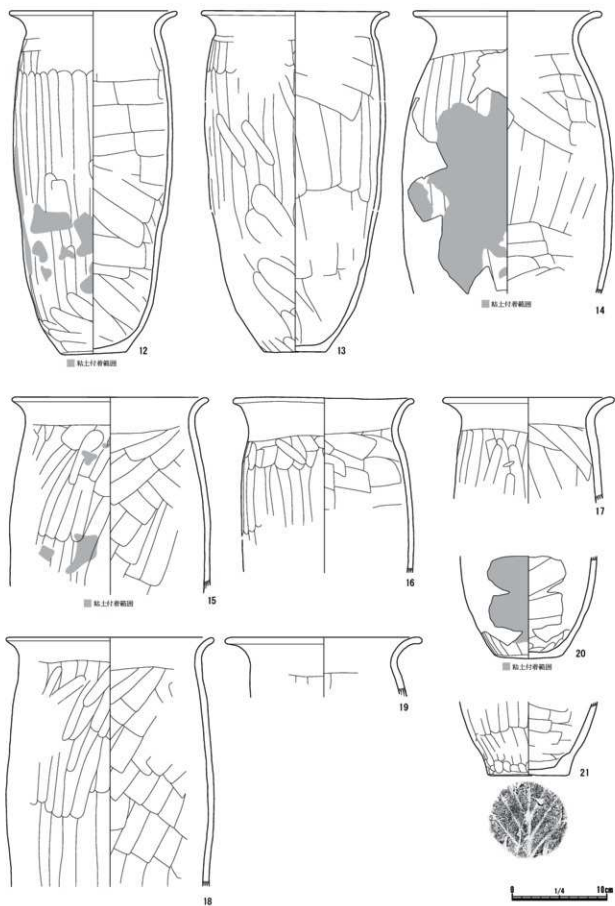
1～29は全て土師器で、1～10は環、11は鉢、12～26は甕、27～29は甔である。

〔土製品〕（第132図30～32、図版77-30～32、第58表）

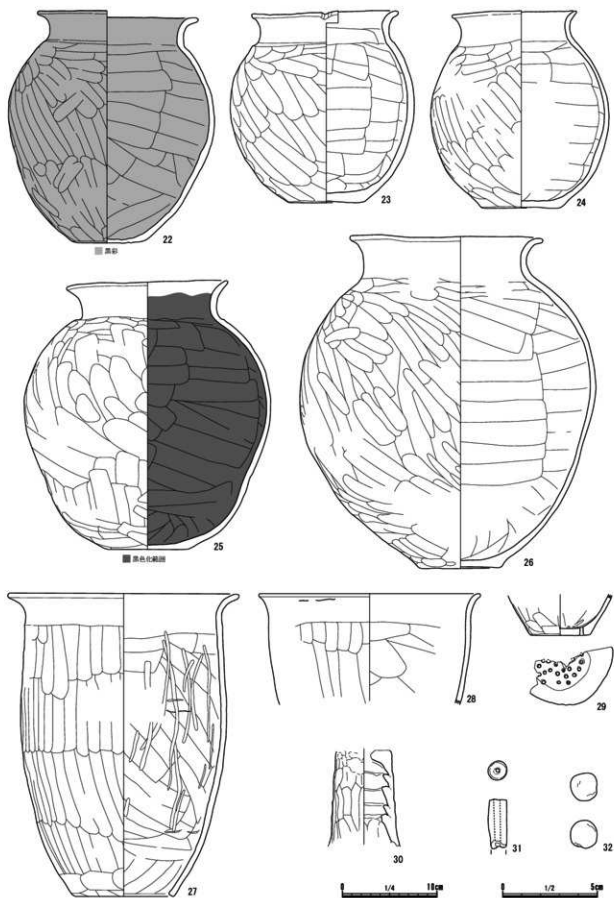
30は支脚、31は土錘、32は土玉である。



第130図 313号住居跡出土遺物1（1/4）



第131図 313号住居跡出土遺物2 (1/4)



第132図 313号住居跡出土遺物3 (1/2・1/4)

第3章 検出された遺構と遺物

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第130図1 図版75-2-1	土師器 環	椀子穴西側の 覆土中(床土 上24・31cm)	口縁～ 底部 40%	高口 13.3 (13.0)	赤褐色～ 明赤褐色	砂粒やや多量/白 色粒子・石英・長 石・小礫少量	内面～外面:口縁部赤彩/口唇内面沈線/内 面:横ナデ/外面:口縁部横ナデ、底部ヘ ラケズリ	いわゆる比 企型環/人 間系土師器
第130図2 図版75-2-2	土師器 環	P4範囲内 の床面レベ ル	口縁部 10%	高口 12.7 (12.0)	暗赤褐色 ～明赤褐 色	砂粒・白色粒子・ 小礫少量	内面～外面:口縁部赤彩/内外面スス付/口 唇内面沈線/内面:横ナデ/外面:口縁 部横ナデ、底部ヘラケズリ	いわゆる比 企型環/人 間系土師器
第130図3 図版75-2-3	土師器 環	カマド西側 の覆土中(床 上34cm)	口縁～ 底部 30%	高口 4.8 14.9	にぶい黄 褐色	砂粒やや多量/赤 色粒子中量/角閃 石少量	内面:横ナデ/外面:口縁部横ナデ、底部 ヘラケズリ→一部押入	無彩系有段 環/在地系 土師器
第130図4 図版75-2-4	土師器 環	カマド西側 の覆土中(床 上1～17 cm)	口縁～ 底部 20%	高口 15.7 (15.8)	褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・石英中 量/角閃石少量	内面のヘラナデ顯著/内面:口縁部横ナデ、 体部ヘラナデ/外面:口縁部横ナデ、体部 ヘラケズリ	無彩系有段 環/在地系 土師器
第130図5 図版75-2-5	土師器 環	カマド西側 の覆土中(床 上6cm)	口縁～ 底部 30%	高口 5.0 (12.5)	褐色	砂粒やや多量/石 英中量	内面:口縁部横ナデ、体部ヘラナデ/外面: 口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	無彩系有段 環/在地系 土師器
第130図6 図版75-2-6	土師器 環	北西側の覆土 中(床上13 ・27cm)	口縁～ 底部 20%	高口 14.4 (12.1)	褐色	砂粒やや多量/白 色粒子・赤色粒子 ・石英中量/角閃石 少量	内面:口縁部横ナデ、体部ヘラナデ/外面: 口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	無彩系有段 環/在地系 土師器
第130図7 図版75-2-7	土師器 環	椀子穴西側の 覆土中(床土 上20cm)	体～ 底部 70%	高 4.3	にぶい橙 色	砂粒やや多量/白 色粒子・赤色粒子 ・石英・雲母中量	口唇部欠損/内面:口縁部横ナデ、体部ヘ ラナデ/外面:口縁部横ナデ、体部ヘラ ケズリ	無彩系有段 環/在地系 土師器
第130図8 図版75-2-8	土師器 環	中央北側の 覆土中(床土 上10～16 cm)	口縁～ 底部 40%	高口 14.1 (12.8)	褐色～灰 褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子中量/角 閃石少量	黒彩/内面:横ナデ/外面:口縁部横ナデ、 底部ヘラケズリ	黒色系有段 環/在地系 土師器
第130図9 図版75-2-9	土師器 環	カマド西側 の覆土中(床 上3～31 cm)	口縁～ 底部 20%	高口 3.8 (14.3)	にぶい橙 色～灰褐 色	砂粒やや多量/白 色粒子・石英中量 /雲母少量	黒彩/内面:横ナデ/外面:口縁部横ナデ、 底部ヘラケズリ	黒色系有段 環/在地系 土師器
第130図10 図版75-2-10	土師器 環	東側の床面 上	口縁～ 底部 90%	高口 8.2 (11.9) 8.3	にぶい橙 色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子・石英・角閃石 中量	深身/内面:口縁部横ナデ、体部ヘラナデ/ 外面:口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ、 底部ヘラケズリ	無彩系有段 環/在地系 土師器
第130図11 図版75-2-11	土師器 鉢	カマド南西側 の覆土中(床 上21cm)	口縁～ 体部 30%	高口 10.5 (19.5)	褐色	砂粒・白色粒子・ 石英・雲母中量/ 角閃石少量	内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面: 口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	在地系土師 器
第131図12 図版76-12	土師器 壺	カマド南側 から勇往北 側の覆土中 (床上13～ 40cm)	口縁～ 底部 60%	高口 36.4 17.8 6.7	にぶい橙 色～明赤 褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・角閃石 ・雲母中量	最大径を口縁部に持つ/外面粘土付着/内 面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面: 口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長身/在地 系土師器
第131図13 図版76-13	土師器 壺	中央北側の 覆土中(床土 上4～17 cm)	口縁～ 底部 50%	高口 36.1 20.1 6.6	にぶい黄 褐色	砂粒・赤色粒子・ 石英中量	最大径を口縁部に持つ/内面:口縁部横ナ デ、胴部ヘラナデ/外面:口縁部横ナデ、胴 部ヘラケズリ	長身/在地 系土師器
第131図14 図版76-14	土師器 壺	カマド南側 から中央北 側の覆土中 (床上10～ 30cm)	口縁～ 胴部 30%	高口 29.9 (20)	褐色～灰 褐色	砂粒やや多量/石 英中量	最大径を胴上部に持つ/外面粘土付着/内 面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面: 口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長身/在地 系土師器
第131図15 図版76-15	土師器 壺	カマド南西側 の覆土中(床 上25cm)	口縁～ 胴部 15%	高口 20.9 (20.2)	にぶい黄 褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・石英中 量/角閃石・雲母 少量	最大径を胴上部に持つ/外面粘土付着/内 面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面: 口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長身/在地 系土師器
第131図16 図版76-16	土師器 壺	中央北側の 床面上・覆 土中(床上 20cm)	口縁～ 胴部 30%	高口 18.5 19.3	褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・角閃石 中量	最大径を口縁部に持つと思われる/内面: 口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面:口縁 部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長身/在地 系土師器
第131図17 図版76-17	土師器 壺	中央東側の 覆土中(床土 上23～29 cm)	口縁～ 胴部 15%	高口 11.2 (18.2)	黄褐色	砂粒やや多量/白 色粒子・角閃石・ 雲母中量	最大径を口縁部に持つと思われる/内面/ 内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面: 口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長身/在地 系土師器
第131図18 図版76-18	土師器 壺	東側の覆土 中(床上32 ～33cm)	口縁～ 胴部 15%	高口 26.4 (22)	褐色	砂粒やや多量/白 色粒子・赤色粒子 ・雲母中量	内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面: 口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長身/在地 系土師器

第58表 313号住居跡出土遺物一覧(1)

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考	
第131図19 図版76-19	土師器 甕	中央北側の 甕土中(床 上11~17 cm)	口縁~ 底部 10%	高口 [6.3] 20.9	褐色	砂粒・白色粒子・ 石英・角閃石・雲 母中量	最大径を口縁部に持つと思われる/内面: 口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面: 口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ	長甕/在地 系土師器	
第131図20 図版76-20	土師器 甕	中央北側の 甕土中(床 上11~28 cm)	胴~ 底部 10%	高さ (10.8) (7.3)	にぶい・橙 色~褐色	砂粒・白色粒子・ 金雲母中量	外面粘土付着/内面:ヘラナデ/外面: 胴部ヘラナデ	長甕/在地 系土師器	
第131図21 図版76-21	土師器 甕	カマド南側 から中央北 側の甕土中 (床上2~ 16cm)	胴~ 底部 10%	高さ (7.8) (8.4)	褐色	砂粒やや多量/白 色粒子・石英中量 /雲母・小礫少量	底部木葉痕/内面:ヘラナデ/外面: 胴部ヘラナデ	長甕/在地 系土師器	
第132図22 図版77-22	土師器 甕	カマド南側 から中央北 側の甕土中 (床上4~ 17cm)、一 部カマド西 側	口縁~ 底部 70%	高口 24.7 17.2 7.1	にぶい・赤 褐色	砂粒・赤色粒子・ 小礫中量	黒彩/内面: 口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ /外面: 口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ、 底部ヘラナデ	丸甕/在地 系土師器	
第132図23 図版77-23	土師器 甕	カマド南側 の甕土中(床 上12cm)	高口 完形	高口 20.5 15.6 8.0	にぶい・黄 褐色	砂粒・赤色粒子・ 石英中量	片口状?/内面: 口縁部横ナデ、胴部ヘラ ナデ/外面: 口縁部よこなで、胴部ヘラナ デ、底部ヘラナデ	丸甕/在地 系土師器	
第132図24 図版77-24	土師器 甕	カマド南側・ 西側の甕土 中(床上12 ~28cm)	口縁~ 底部 80%	高口 21.1 13.2 8.3	にぶい・橙 色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・石英中 量/角閃石少量	内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面: 口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ、 底部ヘラナデ	丸甕/在地 系土師器	
第132図25 図版77-25	土師器 甕	カマド南側・ 西側の甕土 中(床上2 ~28cm)	口縁~ 底部 60%	高口 28.5 (17) (8.4)	にぶい・黄 褐色~黒	砂粒やや多量/赤 色粒子中量/角閃 石少量	内面二次的(と思われる)黒色化/内面: 口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面: 口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ、 底部ヘラナデ	丸甕/在地 系土師器	
第132図26 図版77-26	土師器 甕	中央北側の 甕土中(床 上4~22 cm)	口縁~ 底部 60%	高口 35.4 20.4 8.5	褐色	砂粒・白色粒子中 量/角閃石少量	大型/内面: 口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ /外面: 口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ、 底部ヘラナデ	丸甕/在地 系土師器	
第132図27 図版77-27	土師器 甕	貯蔵穴南側 の甕土中(床 上21cm)	口縁~ 底部 40%	高口 32.1 (24.5) (10.5)	にぶい・橙 色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・中量・ 雲母少量	内面ツギメが目立つ/内面: 口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ /外面: 口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ、 底部ヘラナデ	筒抜け式/ 在地系土師 器	
第132図28 図版77-28	土師器 甕	南西側の甕 土中(床上 37~40cm)	口縁~ 底部 10%	高口 (11.8) (23.5)	褐色	砂粒・赤色粒子・ 石英中量/角閃石 少量	口縁部ツギメあり/内面: 口縁部横ナデ、 胴部ヘラナデ/外面: 口縁部横ナデ、胴部 ヘラナデ	在地系土師 器	
第132図29 図版77-29	土師器 甕	カマド南東 側の甕土中 (床上27cm)	胴~底 部5%	高さ (4.3) (6.2)	褐色	砂粒・白色粒子・ 石英中量/角閃石 少量	孔径2~3mm/内面: ヘラナデ/外面: 胴部ヘラナデ、底部ヘラナデ	多孔式/ 在地系土師 器	
発掘番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	備考
第132図30 図版77-30	土製品 支脚	ほぼ中央の 甕土中(床 上20~25 cm)	両端部 欠損	[10.9]	[6.7]	[6.4]	203.7	内面:輪痕み痕跡が残る。下部ナデ/外面: ヘラナデ	
第132図31 図版77-31	土製品 土鏝	24の中から 出土	片端部 欠損	[0.7]	0.3	0.3	2.7	中央部穿孔	
第132図32 図版77-32	土製品 土玉	南西側甕土 下層	完形	1.5	1.4	1.4	2.6	穿孔なし/指ナデ・指押え	

第58表 313号住居跡出土遺物一覧(2)

314号住居跡

遺構(第133・134図)

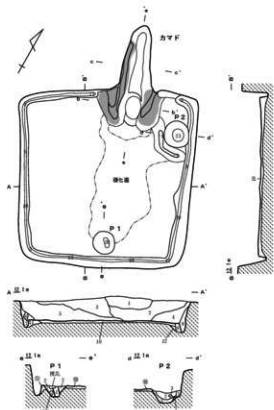
[位置] (G・H-5) グリッド。

[検出状況] 313Hを切り、19Pに切られる。

[構造] 平面形: 方形。規模: 長軸2.87m/短軸2.85m/深さ30cm。壁: ほぼ垂直に立ち上がる。

主軸方位: N-30°-W。壁溝: カマドを除き全周する。上幅10~25cm/下幅2~5cm/深さ5~16cm。

床面：入口からカマドにかけて、住居中央部分が硬化していた。貼床は3～11cmの厚さで施されていた。
 カマド：北壁の中央東よりに位置する。主軸方位はN-22°-W。長さ167cm/幅108cm/壁への掘り込み98cm。袖部はロームを馬蹄形状に掘り残し、その上に粘土を被覆して構築されたと考えられる。燃焼部、袖部に被熱による赤化が確認できた。貯蔵穴：北東コーナーに位置する（P2）。平面形は円形。長軸39cm/短軸42cm/深さ23cm。南側には幅20～22cm/高さ1～2cmほどの凸堤が巡っている。



314号 土層説明

- 1層 黄褐色土 (10192/3) 細り強い、粘性やや弱い、礫土 (φ1～2mm) を塊状・ブロッケ状 (φ40mm程) に少量、褐色土 (φ0.5～1mm) を極少量含む。
- 2層 黄褐色土 (10192/2) 細り強い、粘性やや弱い、ローム (φ0.5～1mm) をブロッケ状 (φ40mm程) に少量、褐色土 (φ0.5～1mm) を極少量含む。
- 3層 褐色土 (10193/4) 細り強い、粘性やや弱い、ローム (φ0.5～1mm) を塊状に少量、褐色土 (φ0.5～1mm) を極少量含む。
- 4層 褐色土 (10193/3) 細り強い、粘性やや弱い、ローム (φ0.5～1mm) を塊状に少量、褐色土 (φ0.5～1mm) を極少量含む。
- 5層 黄褐色土 (10192/3) 細りやや強い、粘性やや弱い、ローム (φ0.5～1mm) を塊状・ブロッケ状 (φ30mm程) に少量、褐色土 (φ0.5～1mm) を極少量含む。
- 6層 黄褐色土 (10192/3) 細りやや強い、粘性やや弱い、ローム (φ0.5～1mm) を塊状に少量、褐色土 (φ0.5～1mm) を極少量含む。
- 7層 黄褐色土 (10195/6) 細りやや強い、粘性やや弱い、ローム (φ0.5～1mm) を少量、褐色土 (φ0.5～1mm) を塊状に少量含む。
- 8層 黄褐色土 (10192/2) 細り強い、粘性やや弱い、ローム (φ0.5～1mm) を塊状に少量、褐色土 (φ0.5～1mm) を少量含む。
- 9層 黄褐色土 (10195/6) 細り強い、粘性やや弱い、ローム (φ0.5～1mm) を極少量含む、灰床。
- 10層 黄褐色土 (10195/6) 細り非常に強い、粘性やや弱い、ローム (φ0.5～1mm) を極少量含む、褐色土 (φ0.5～1mm) を塊状に少量含む、灰床。
- 11層 黄褐色土 (10195/6) 細りやや強い、粘性やや弱い、ローム (φ0.5～1mm) を極少量含む、灰床。
- 12層 黄褐色土 (10195/6) 細りやや強い、粘性やや弱い、ローム (φ0.5～1mm) を極少量含む、褐色土 (φ0.5～1mm) を塊状に少量含む、灰床。

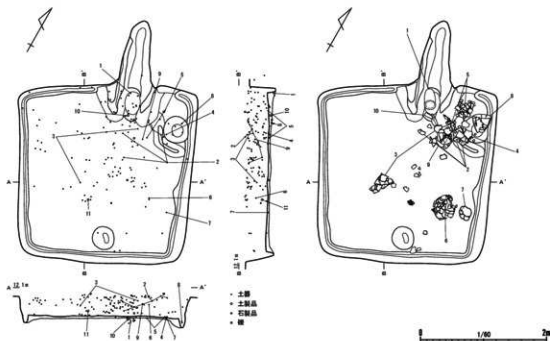
P1 土層説明

- 1層 暗褐色土 (10193/3) 細り強い、粘性やや弱い、ローム (φ0.5～1mm) を塊状に少量、褐色土 (φ0.5～1mm) を極少量含む、柱痕跡
- 2層 黄褐色土 (10195/6) 細り強い、粘性やや弱い、ローム (φ0.5～1mm) を少量、褐色土 (φ0.5～1mm) を塊状に少量含む。

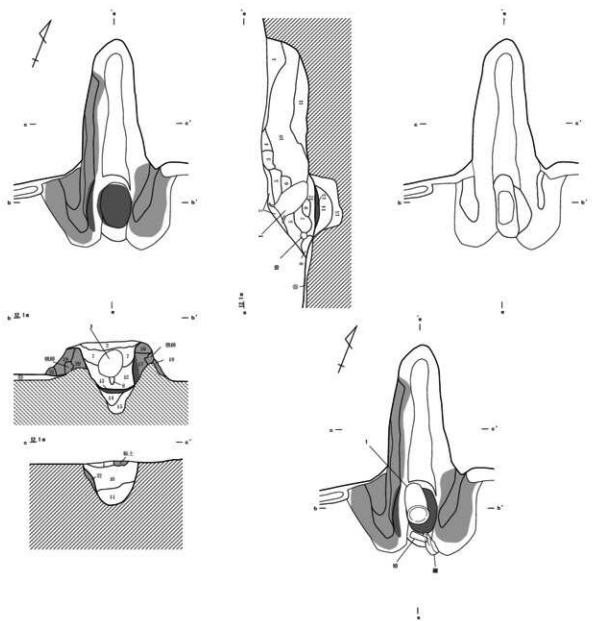
P2 土層説明

- 1層 暗褐色土 (10193/3) 細りやや強い、粘性やや弱い、ローム (φ0.5～1mm) を塊状に少量、褐色土 (φ0.5～1mm) を塊状に少量含む。
- 2層 暗褐色土 (10193/2) 細りやや強い、粘性やや弱い、ローム (φ0.5～1mm) を塊状に少量、礫土 (φ2～3mm) をブロッケ状 (φ30mm程) に少量、褐色土 (φ0.5～1mm) を少量含む。
- 3層 褐色土 (10193/4) 細りやや強い、粘性やや弱い、ローム (φ0.5～1mm) を少量、褐色土 (φ0.5～1mm) を塊状に少量含む。
- 4層 黄褐色土 (10192/2) 細りやや強い、粘性やや弱い、ローム (φ0.5～1mm) を少量、褐色土 (φ0.5～1mm) を塊状に少量含む。
- 5層 黄褐色土 (10195/6) 細りやや強い、粘性やや弱い、ローム (φ0.5～1mm) を塊状に少量、褐色土 (φ0.5～1mm) を塊状に少量含む。

※①：住居10・11層



第133図 314号住居跡・遺物出土状態 (1/60)



カマド 土層説明

- 1層 赤褐色土 (T.003/2) 細りや中強い、粘性や中強い、ローム ($\phi=1\text{mm}$) を多数、焼土 ($\phi=8\text{mm}$) を中量含む。
- 2層 赤褐色土 (003/2) 細りや中強い、粘性や中強い、焼土 ($\phi=3\text{mm}$) を少量、白色粘土 ($\phi=2\text{mm}$) を少量含む。
- 3層 土いり黄褐色土 (0036/3) 細り強い、粘性強い、白色粘土ブロック。
- 4層 灰黄褐色土 (0034/2) 細りや中強い、粘性や中強い、焼土 ($\phi=1\text{mm}$) を微量含む。
- 5層 灰黄褐色土 (0034/2) 細りや中強い、粘性や中強い、白色粘土 ($\phi=2\text{mm}$) を中量、焼土 ($\phi=3\text{mm}$) を少量含む。
- 6層 灰黄褐色土 (0035/2) 細り強い、粘性強い、白色粘土 ($\phi=2\sim 3\text{mm}$) を多数、焼土 ($\phi=8\text{mm}$) を中量含む。
- 7層 明赤褐色土 (T.0035/4) 細りや中強い、粘性強い、赤化粘土。
- 8層 土いり黄褐色土 (0036/3) 細り強い、粘性や中強い、ロームブロック土層。
- 9層 灰白色土 (0036/1) 細り強い、粘性強い、白色粘土ブロック。
- 10層 灰黄褐色土 (0035/2) 細りや中強い、粘性や中強い、ローム (土みり) を多数、焼土 ($\phi=15\text{mm}$) を少量、白色粘土 ($\phi=3\text{mm}$) を少量含む。
- 11層 灰黄褐色土 (0034/2) 細りや中強い、粘性や中強い、焼物ローム ($\phi=5\text{mm}$) を中量、焼土 ($\phi=10\text{mm}$) を少量含む。
- 12層 灰褐色土 (T.0034/2) 細りや中強い、粘性や中強い、焼土 ($\phi=5\text{mm}$) を多数、白色粘土 ($\phi=1\text{mm}$) を微量含む。
- 13層 焼灰土 (0038/1) 細り強い、粘性や中強い、焼土・焼物ローム ($\phi=10\text{mm}$) を多数含む。
- 14層 焼灰土 (0038/1) 細りや中強い、粘性や中強い、焼土・焼物ローム ($\phi=8\text{mm}$) を少量含む。
- 15層 土いり黄褐色土 (0036/3) 細りや中強い、粘性や中強い、ローム土層。
- 16層 灰黄褐色土 (0034/2) 細り強い、粘性や中強い、白色粘土 ($\phi=3\text{mm}$) を中量、焼土 ($\phi=2\text{mm}$) を少量含む。焼。
- 17層 灰黄褐色土 (0034/2) 細りや中強い、粘性や中強い、焼土 ($\phi=3\text{mm}$) を中量含む。焼。
- 18層 灰黄褐色土 (0035/2) 細り強い、粘性強い、白色粘土土層。焼。
- 19層 焼灰土 (0038/1) 細り強い、粘性や中強い、ローム ($\phi=3\text{mm}$) を少量含む。焼。
- 20層 焼灰土 (0035/1) 細りや中強い、粘性や中強い、白色粘土 ($\phi=8\text{mm}$) を多数、焼土 ($\phi=3\text{mm}$) を少量含む。焼。
- 21層 土いり黄褐色土 (0036/3) 細りや中強い、粘性強い、ロームブロック土層。焼。
- 22層 土いり黄褐色土 (0035/2) 細りや中強い、粘性や中強い、ローム ($\phi=1\text{mm}$) を微量、焼土 ($\phi=1\text{mm}$) を微量含む。

①: 住居11層

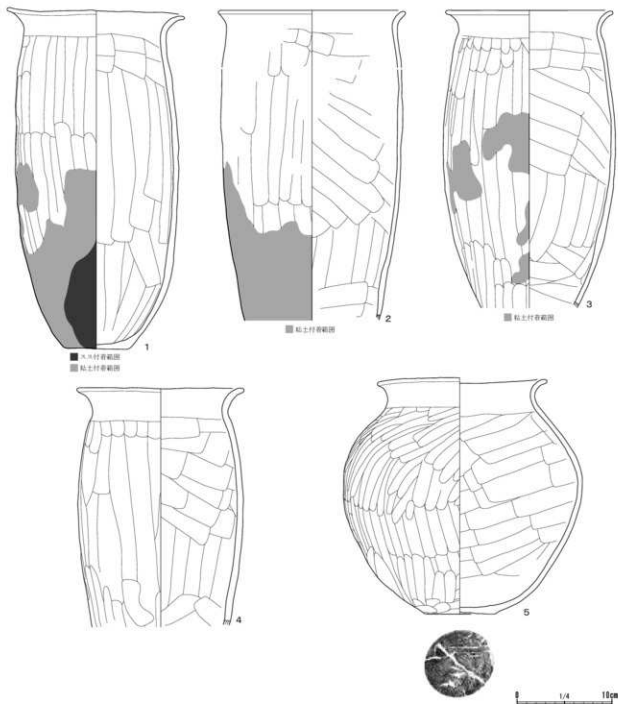
 粘土
 焼物土
 1/20

第134図 314号住居跡カマド (1/30)

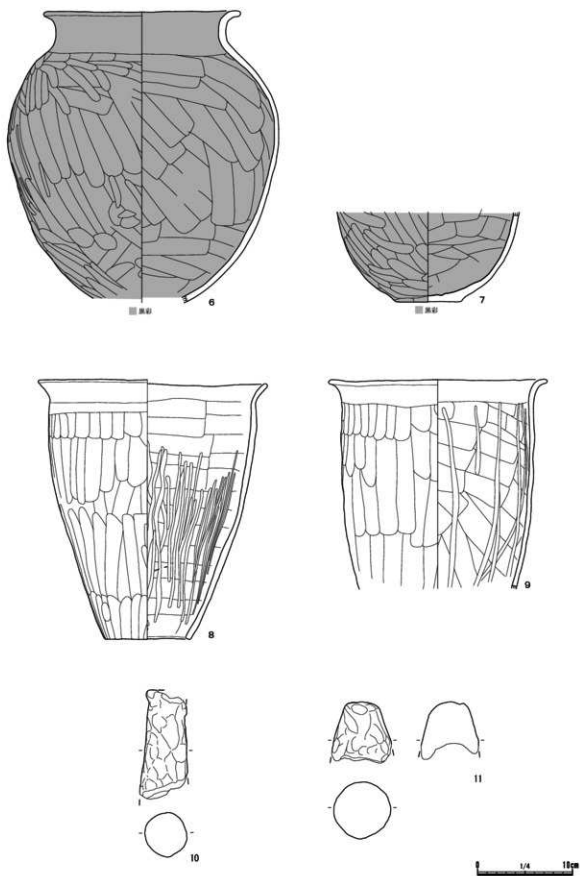
た。覆土はローム粒を含む暗褐色土・褐色土・黄褐色土・黒褐色土を基調とする。柱穴：検出されなかった。入口施設：P1は入口梯子穴と考えられる。覆土はローム粒を含む暗褐色土・黄褐色土を基調とする。深さ20cm。

〔覆土〕8層に分層できた。

〔遺物〕土師器甕・甔、土製の支脚が出土した。カマドからはぼ完形の長甕(1)が出土し、やや倒れこんでいるが、掛け口にかけられた状態に近いものと思われる。長甕から焚口よりの位置から土製の支脚(10)が出土している。また、土製支脚に隣接して、細長い礫が出土しており、これも支脚の可能性もある。貯蔵穴の周辺に遺物の集中がみられる。



第135図 314号住居跡出土遺物1 (1/4)



第136图 314号住居跡出土遺物2 (1/4)

探検番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考	
第135図1 図版78-1	土師器 甕	カマド内(火 床上6cm)	完形	高さ 35.8 口径 18.7 底 7.0	褐色	砂粒・白色粒子・ 小礫中量	最大径を口縁部に持つ/外面スス・粘土付 着/内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/ 外面:口縁部横ナデ、胴・底部ヘラケズリ	長甕/在 地系土師 器	
第135図2 図版78-2	土師器 甕	カマド・貯 蔵穴南側の 覆土中(床 上9~33 cm)	口縁~ 胴部 60%	高さ [32.6] 口径 (19.8)	にぶい褐 色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・石英中 量	最大径を口縁部に持つ/外面粘土付着/ 内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面: 口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕/在 地系土師 器	
第135図3 図版78-3	土師器 甕	中央南側・ カマド南側 の覆土中(床 上18~26 cm)	口縁~ 胴部 70%	高さ [31.8] 口径 17.8	黄褐色	砂粒・白色粒子中 量/角閃石・雲母 少量	最大径を胴部中位に持つ/外面粘土付着/ 内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面: 口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	/在地系 土師器長 甕	
第135図4 図版78-4	土師器 甕	貯蔵穴にか かる(ほぼ 床面レベル)	口縁~ 胴部 30%	高さ [27.1] 口径 (17.7)	にぶい黄 褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子中量	内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面: 口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕/在 地系土師 器	
第135図5 図版78-5	土師器 甕	カマドと貯 蔵穴の間の 床面上	口縁~ 底部 90%	高さ 24.7 口径 17.9 底 7.3	褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・石英中 量	底部木葉痕、一部ケズリ/内面:口縁部横 ナデ、胴部ヘラナデ/外面:口縁部横ナデ、 胴部ヘラケズリ、底部一部ケズリ	丸甕/在 地系土師 器	
第136図6 図版78-6	土師器 甕	中央東側の 覆土中(床 上19cm)	口縁~ 胴部 90%	高さ [30.8] 口径 20.8	褐色	砂粒・白色粒子中 量/石英・角閃石・ 雲母少量	黒彩/大型/内面:口縁部横ナデ、胴部ヘ ラナデ/外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケ ズリ→一部ミガキ	丸甕/在 地系土師 器	
第136図7 図版78-7	土師器 甕	東壁南側付 近の床面上	胴~ 底部 10%	高さ 19.4 底 (6.8)	褐色~明 赤褐色	砂粒・白色粒子・ 小礫中量/石英少 量	黒彩/内面一部剥離/内面:ヘラナデ/外 面:胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	丸甕/在 地系土師 器	
第136図8 図版79-1-8	土師器 甕	貯蔵穴範囲 にかかる(床 下9cm)	口縁~ 底部 80%	高さ 27.3 口径 24.2 底 8.9	黄褐色	砂粒・白色粒子・ 石英中量	内面ツギメが残る/内面:口縁部横ナデ、 胴部ヘラナデ→ミガキ/外面:口縁部横ナ デ、胴部ヘラケズリ、底端部ヘラケズリ	筒抜け式 /在地系 土師器	
第136図9 図版79-1-9	土師器 甕	カマド南東 側の覆土中 (床上21cm)	口縁~ 胴部 25%	高さ [22.0] 口径 (23.0)	褐色~褐 灰色	砂粒多量/白色粒 子・赤色粒子・石 英中量	内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ→ミガ キ/外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	在地系土 師器	
探検番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	備考
第136図10 図版78-10	土製品 支脚	カマド内(火 床上5cm)	上部・下 部欠損	[11.5]	[5.1]	[4.1]	227.8	外面指ナデ・指押え	
第136図11 図版78-11	土製品 支脚	中央南側の 覆土中(床 上7cm)	下部欠損	[6.4]	[6.3]	[6.2]	189.0	上端部のみ残存/外面指ナデ指押え/粘土 のツギメで制罐する	

第59表 314号住居跡出土遺物一覧

[時期] 古墳時代後期(7世紀中葉後段階)。

[遺物] (第135・136図、図版78、図版79-1、第59表)

[土器] (第135・136図1~9、図版78-1~6、図版79-1-8・9、第59表)

1~9は全て土師器で、1~7は甕、8・9は甎である。

[土製品] (第136図10・11、図版78-10・11、第59表)

10・11はいずれも支脚である。

315号住居跡

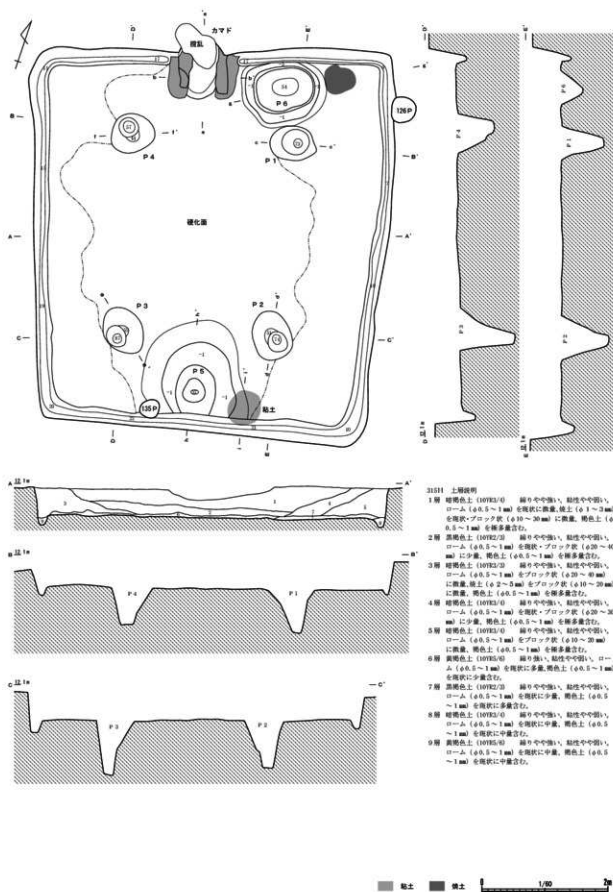
[遺構] (第137~140図)

[位置] (F・G-5・6) グリッド。

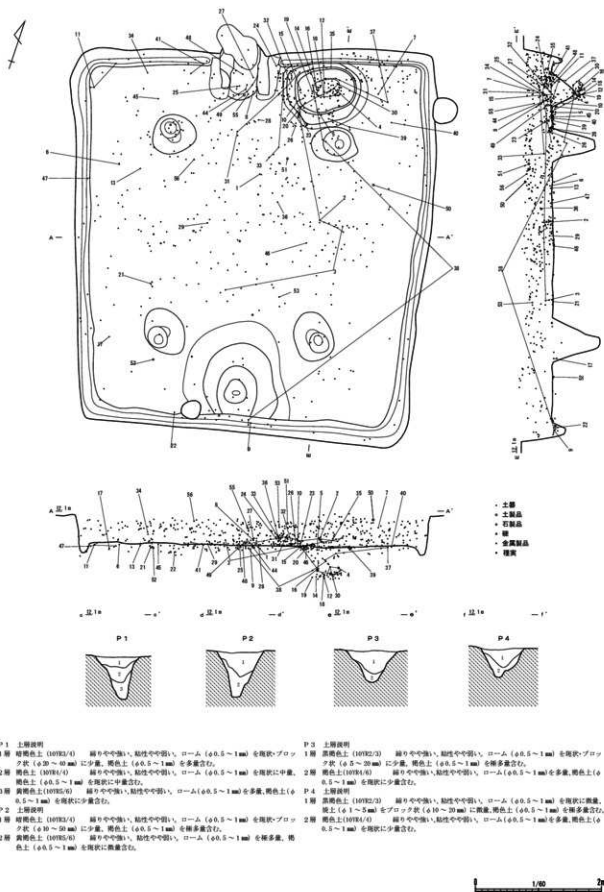
[検出状況] 9 Jを切り、3道、126・135・165 Pに切られる。

[構造] 平面形:長方形。規模:長軸6.36m/短軸5.81m/深さ49cm。壁:ほぼ垂直に立ち上がる。

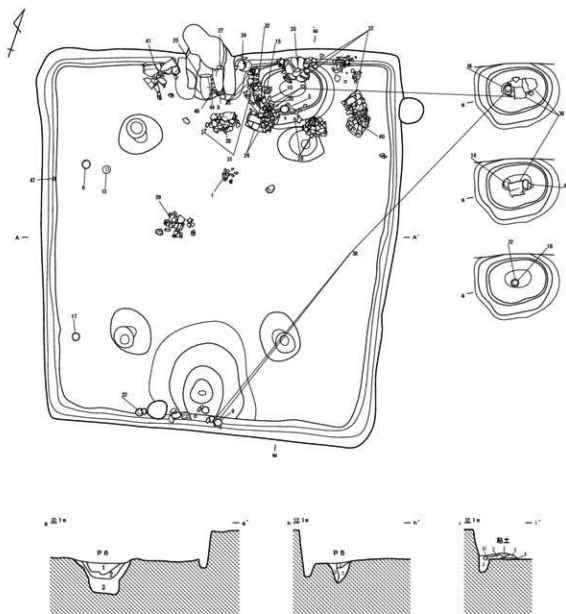
主軸方位: N-19°-W。壁溝:カマドを除き全周する。上幅17~27cm/下幅3~18cm/深さ7~



第137図 315号住居跡 (1/60)

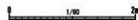


第138図 315号住居跡・遺物出土状態1 (1/60)

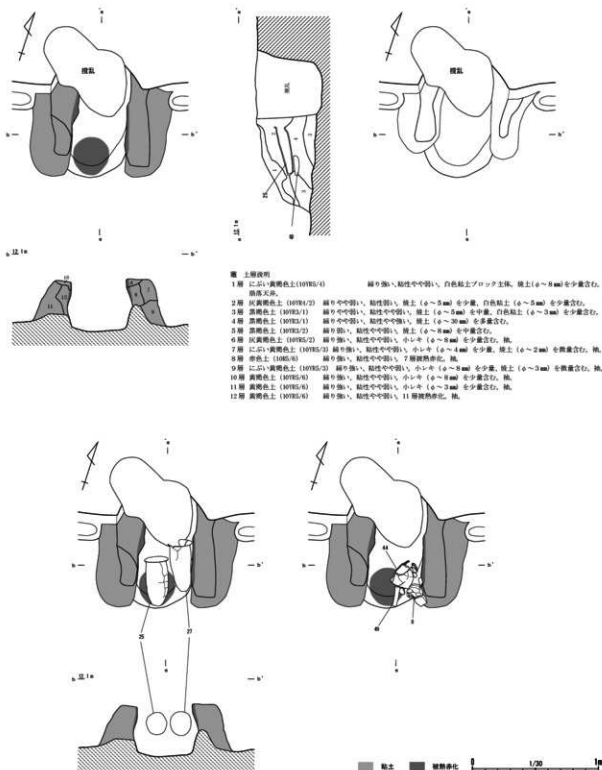


- P 5 上層説明**
- 1層 黄褐色土 (107K3/3) 細り強い、粘性や中強い、ローム (φ0.5~1mm) を塊状に散在、褐色土 (φ0.5~1mm) を種多量含む。
 - 2層 黄褐色土 (107K5/5) 細り強い、粘性や中強い、ローム (φ0.5~1mm) を種多量、褐色土 (φ0.5~1mm) を塊状に散在含む。
 - 3層 黄褐色土 (107K2/3) 細りや中強い、粘性や中強い、ローム (φ0.5~1mm) を塊状に散在、褐色土 (φ0.5~1mm) を種多量含む。
- P 6 上層説明**
- 1層 黄褐色土 (107K2/3) 細りや中強い、粘性や中強い、ローム (φ0.5~1mm) を塊状に散在、灰土 (φ1~2mm) をブロック状 (φ10mm程度) に散在、褐色土 (φ0.5~1mm) を種多量含む。
 - 2層 褐色土 (107K4/5) 細りや中強い、粘性や中強い、ローム (φ0.5~1mm) を塊状に散在、灰土 (φ1~2mm) を塊状に散在、褐色土 (φ0.5~1mm) を種多量含む。
 - 3層 褐色土 (107K4/5) 細りや中強い、粘性や中強い、ローム (φ0.5~1mm) を塊状に少量、褐色土 (φ0.5~1mm) を多量含む。

- 粘土 上層説明**
- 1層 黄褐色土 (107K4/5) 細り強い、粘性や中強い、ローム (φ0.5~1mm) をブロック状に散在、粘土 (φ0.1mm程度) を少量、褐色土 (φ0.5~1mm) を種多量含む、粘土は下部に露出
 - 2層 灰白色土 (12.55K/2) 細り強い、粘性強い、ローム (φ0.5~1mm) をブロック状 (φ10~30mm) に散在、粘土 (φ0.1mm程度) を多量、褐色土 (φ0.5~1mm) を塊状に中量含む。
 - 3層 褐色土 (107K4/5) 細りや中強い、粘性や中強い、ローム (φ0.5~1mm) を中量、粘土 (φ0.1mm程度) をブロック状 (φ10~30mm) に散在、褐色土 (φ0.5~1mm) を多量含む。
 - 4層 黄褐色土 (107K5/5) 細りや中強い、粘性や中強い、ローム (φ0.5~1mm) を種多量、褐色土 (φ0.5~1mm) を塊状に散在含む。



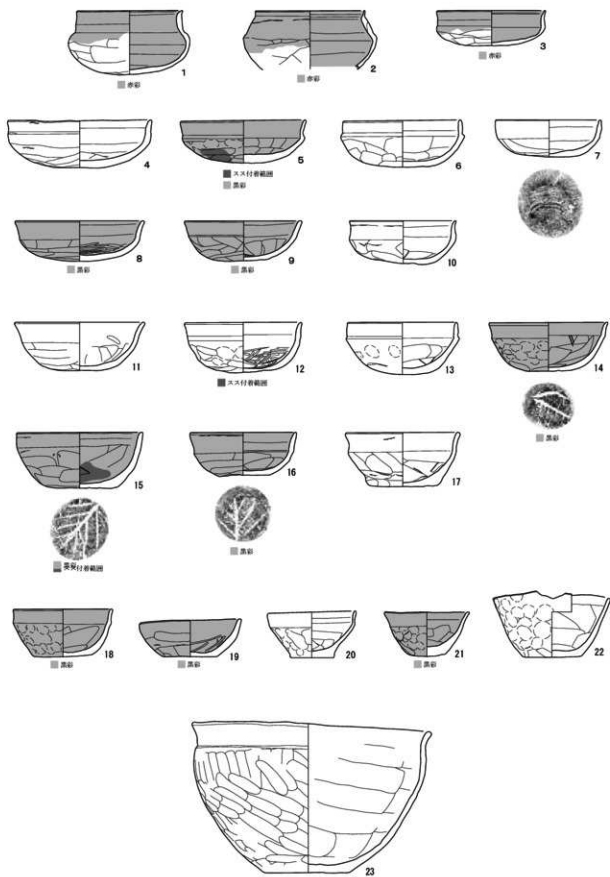
第139図 315号住居跡・遺物出土状態2 (1/60)



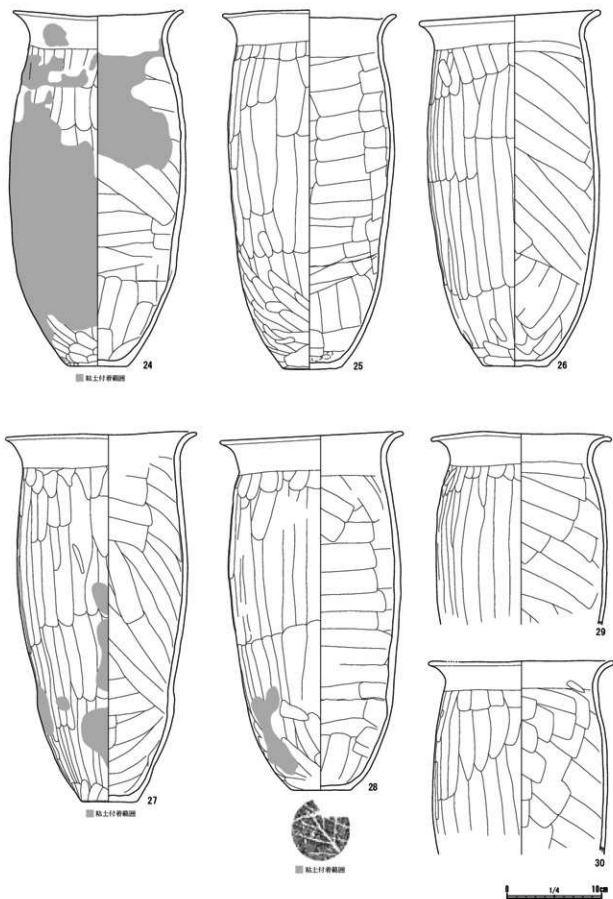
■ 土層説明

- 1層 二色い黄褐色土(107R5/4) 細り強い、粘性や中強い、白色粘土ブロック主体、焼土(φ~8mm)を少量含む、焼物跡。
- 2層 灰黄褐色土(107R4/2) 細りや中強い、粘性弱い、焼土(φ~5mm)を少量、白色粘土(φ~5mm)を少量含む。
- 3層 濃褐色土(107R3/1) 細りや中強い、粘性や中強い、焼土(φ~5mm)を中量、白色粘土(φ~3mm)を少量含む。
- 4層 濃褐色土(107R3/1) 細りや中強い、粘性や中強い、焼土(φ~30mm)を多量含む。
- 5層 濃褐色土(107R2/2) 細り強い、粘性や中強い、焼土(φ~8mm)を中量含む。
- 6層 灰黄褐色土(107R5/2) 細り強い、粘性や中強い、小レキ(φ~8mm)を少量含む、焼。
- 7層 二色い黄褐色土(107R5/3) 細り強い、粘性や中強い、小レキ(φ~4mm)を少量、焼土(φ~2mm)を微量含む、焼。
- 8層 赤土(106L/6)
- 9層 二色い黄褐色土(107R5/2) 細り強い、粘性や中強い、小レキ(φ~8mm)を少量、焼土(φ~5mm)を微量含む、焼。
- 10層 黄褐色土(107R5/3) 細り強い、粘性や中強い、小レキ(φ~8mm)を少量含む、焼。
- 11層 黄褐色土(107R5/3) 細り強い、粘性や中強い、小レキ(φ~3mm)を少量含む、焼。
- 12層 黄褐色土(107R5/3) 細り強い、粘性や中強い、11層焼物跡北、焼。

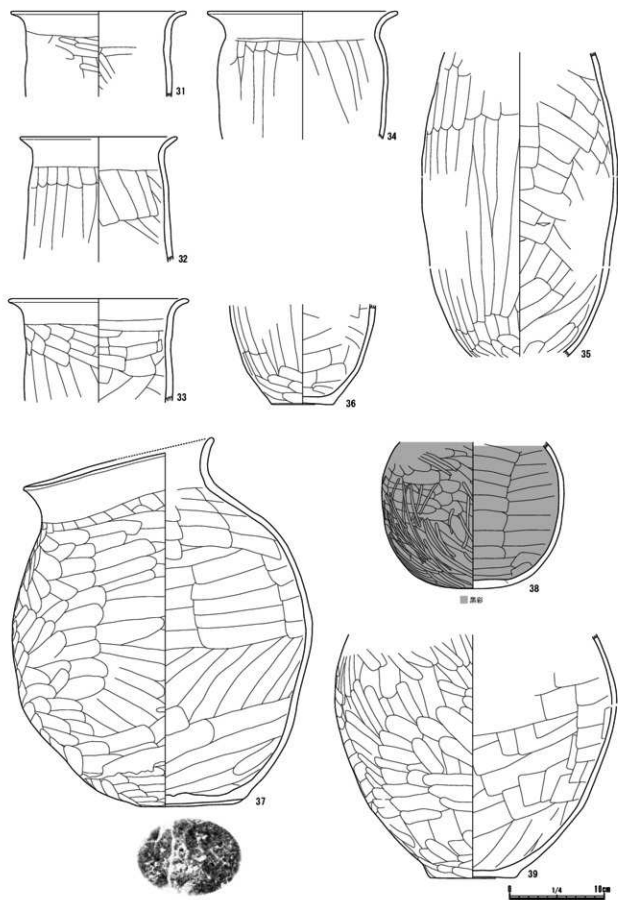
第140図 315号住居跡カマド (1/30)



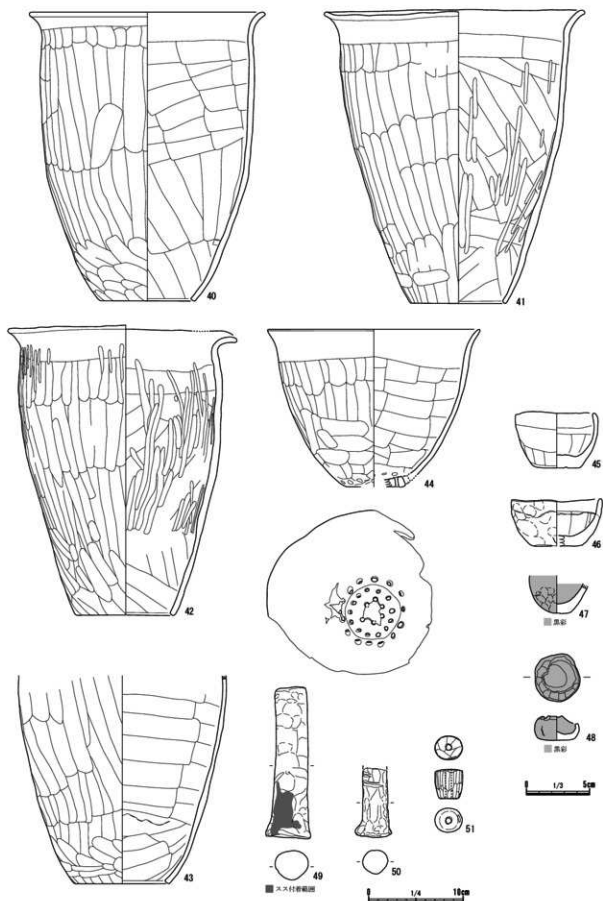
第141图 315号住居跡出土遺物1 (1/3・1/4)



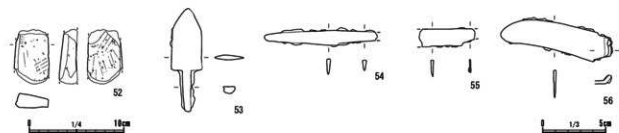
第142図 315号住居跡出土遺物2 (1/4)



第143图 315号住居跡出土遺物3 (1/4)



第144図 315号住居跡出土遺物4 (1/4)



第145図 315号住居跡出土遺物5 (1/3・1/4)

標記番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第141図1 図版79-2-1	土師器 環	中央北側の 床面上	口縁～ 底部 70%	高口 6.2 底口 11.2	赤～明赤 褐色	砂粒やや多量/白 色粒子・黒色粒子 小礫中量	内面～外面口縁部赤彩/口唇内面沈線状/ 内面:口縁部横ナデ、見込部ナデ/外面: 口縁部横ナデ、体～底部ヘラケズリ	人間系土師 器
第141図2 図版79-2-2	土師器 環	中央東側・ 貯蔵穴南西の 覆土中(床 上11～20 cm)	口縁～ 底部 30%	高口 6.2 (11.6)	明赤褐色 ～赤褐色	砂粒やや多量/白 色粒子・黒色粒子 赤色粒子中量	内面～外面口縁部赤彩/口唇内面沈線状/ 内面:横ナデ/外面:口縁部横ナデ、体部 ヘラケズリ	人間系土師 器
第141図3 図版79-2-3	土師器 環	中央南・東 側の覆土中 (床上13・ 16cm)	口縁～ 底部 80%	高口 3.7 底口 11.5	赤～にぶ い褐色	砂粒やや多量/白 色粒子・黒色粒子 赤色粒子・小礫中 量	内面～外面口縁部赤彩/口唇内面沈線状/ 内面:横ナデ/外面:口縁部横ナデ、底部 ヘラケズリ	いわゆる比 企型環/人 間系土師器
第141図4 図版79-2-4	土師器 環	貯蔵穴内(底 上9～27 cm)	口縁～ 底部 50%	高口 15.0 底口 15.3	褐色	砂粒やや多量/白 色粒子・黒色粒子 中量	肉厚/有段口縁/内面:口縁部横ナデ、見 込部ヘラケズリ/外面:口縁部横ナデ、体部 ヘラケズリ	無彩系有段 環/在地系 土師器
第141図5 図版79-2-5	土師器 環	貯蔵穴範囲 (床下3cm)	完形	高口 4.4 底口 13.4	にぶい赤 褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子中量/角閃石・ 雲母少量	黒彩/外面スス付着/器面風化/内面:風 化により不明/外面:口縁部風化により不 明、体部指押え、底部ヘラケズリ	黒色系有段 環/在地系 土師器
第141図6 図版79-2-6	土師器 環	西側の床面 上	ほぼ完 形	高口 4.9 底口 12.6	褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・角閃石 少量/石英・雲母 少量	平底/内面:口縁部横ナデ、見込部ヘラケ ズリ/外面:口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ →粗いナデ、底部ヘラケズリ	無彩系有段 環/在地系 土師器
第141図7 図版79-2-7	土師器 環	貯蔵穴東側の 覆土中(床 上3.3cm)	ほぼ完 形	高口 3.9 底口 11.2	褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・石英中 量	底部静止糸切(?) 後未調整/内面:横ナ デ/外面:口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	無彩系有段 環/在地系 土師器
第141図8 図版79-2-8	土師器 環	カマド内(床 上14cm)	口縁～ 底部 40%	高口 4.3 底口 13.7	にぶい褐 色	砂粒・白色粒子中 量/雲母少量	黒彩/内面:口縁部横ナデ、見込部ミガキ /外面:口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	黒色系有段 環/在地系 土師器
第141図9 図版79-2-9	土師器 環	貯蔵穴南の 壁厚内(底 上18cm)	完形	高口 4.2 底口 12.5	褐色	砂粒・白色粒子中 量/石英少量	黒彩/内面:口縁部横ナデ、見込部ヘラケ ズリ/外面:口縁部横ナデ、体～底部ヘラケ ズリ→粗いナデ	黒色系有段 環/在地系 土師器
第141図10 図版79-2-10	土師器 環	貯蔵穴内(床 下2cm)、南 西凸出部	口縁～ 底部 60%	高口 14.5 底口 11.3	褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子・角閃石中量/ 雲母少量	外面ツギメが目立つ/内面:口縁部横ナデ、 見込部ヘラケズリ/外面:口縁部横ナデ、体 ～底部ヘラケズリ→粗いナデ	無彩系有段 環/在地系 土師器
第141図11 図版79-2-11	土師器 環	北西コーナ ーの床面上 ・床面レベ ル	口縁～ 底部 30%	高口 5.1 底口 13.8	褐色	砂粒やや多量/黒 色粒子・赤色粒子 中量	平底さみ/内面:口縁部横ナデ、見込部 ヘラケズリ/外面:口縁部横ナデ、体部ヘラケ ズリ	無彩系有段 環/在地系 土師器
第141図12 図版79-2-12	土師器 環	貯蔵穴内(底 上3cm)	口縁～ 底部 70%	高口 5.2 底口 12.6	明赤褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子中量/雲 母少量	黒彩/内面スス付着/内面:口縁部横ナデ、 体部ナデ→粗いミガキ/外面:口縁部横ナ デ、体部指押え、底部ヘラケズリ	黒色系有段 環/在地系 土師器
第141図13 図版79-2-13	土師器 環	西側の床面 上	高口 11.6 底口 4.2	高口 5.5 底口 4.2	褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子・角閃石・雲母 中量	平底さみ/内面:口縁部横ナデ、見込部 ヘラケズリ/外面:口縁部横ナデ、体～底部 劣化で不明、一部指押え	無彩系有段 環/在地系 土師器
第141図14 図版79-2-14	土師器 環	貯蔵穴内(底 上5cm)	高口 12.6 底口 4.9	高口 5.1 底口 12.6 底口 4.9	にぶい、橙 色～褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・角閃石 中量/雲母少量	黒彩/平底/底部木炭痕/内面:口縁部横 ナデ、体～見込部ヘラケズリ/外面:口縁部 横ナデ、体部指押え	黒色系有段 環/在地系 土師器
第141図15 図版79-2-15	土師器 環	貯蔵穴内(床 面レベル)	口縁～ 底部 70%	高口 5.9 底口 13.4 底口 7.0	明褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子・角閃石・雲母 中量/石英少量	黒彩/内面スス付着/平底/底部木炭痕/ 内面:口縁部横ナデ、体～見込部ヘラケ ズリ/外面:口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	黒色系有段 環/在地系 土師器

第60表 315号住居跡出土遺物一覽(1)

第3章 検出された遺構と遺物

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第141図16 図版79-2-16	土師器 環	貯蔵穴内(底上17cm)	完形	高口底 4.5 11.3 5.2	褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子中量/金雲母少量	黒彩/平底/底部木葉状/内面;口縁横ナデ、見込部ヘラナデ/外面;口縁部横ナデ、体上部ナデ、体下部ヘラケズリ	黒色系有稜環/在地系土師器
第141図17 図版79-2-17	土師器 環	南西コーナー付近の床面上	口縁~底部 80%	高口底 5.7 12.2 6.8	褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・角閃石・雲母中量	平底/内面;口縁部横ナデ、体~見込部ヘラナデ/外面;口縁部横ナデ、体~底部の化で不明	粗雑品/在地系土師器
第141図18 図版79-2-18	土師器 環	貯蔵穴内(底上5cm)	完形	高口底 5.0 10.5 6.2	褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・石英・角閃石・雲母中量	黒彩/平底/内面;口縁部横ナデ、体~見込部ヘラナデ/外面;口縁部横ナデ、体部指押え	粗雑品/在地系土師器
第141図19 図版79-2-19	土師器 環	貯蔵穴内(底上4cm)	完形	高口底 4.5 10.8 3.8	褐色~に ぶい褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・石英・角閃石中量	黒彩/平底/内面;口縁部横ナデ、体~見込部幅広のミガキ/外面;口縁部横ナデ、体部ナデ・ケズリ	粗雑品/在地系土師器
第141図20 図版79-2-20	土師器 環	貯蔵穴にかかると(床下2cm)	口縁~底部 90%	高口底 4.9 9.4 4.7	褐色	砂粒・白色粒子やや多量	小型/平底/内面;口縁部横ナデ、見込部ヘラナデ/外面;口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ→指押え	粗雑品/在地系土師器
第141図21 図版79-2-21	土師器 環	西側の床面上	口縁~底部 40%	高口底 4.6 (9.0) (3.8)	褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・石英・雲母中量	黒彩/平底/小型/内面;口縁部横ナデ、体~見込部ヘラナデ/外面;口縁部横ナデ、体部指押え、体下部ヘラケズリ	粗雑品/在地系土師器
第141図22 図版79-2-22	土師器 環	南壁溝西側(底上18cm)	口縁~底部 70%	高口底 7.0 12.5 6.2	褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・雲母中量	狭輪用転加へ一部を打ち欠き片口状になっている/内面;口縁部横ナデ、体~見込部ヘラナデ/外面;口唇部研ぎ、胴部ケズリ→指押え	在地系土師器
第141図23 図版79-2-23	土師器 鉢	貯蔵穴内(底上16cm)、凸礎上	体~底部 80%	高口底 15.9 25.4 8.8	褐色	砂粒やや多量/白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・角閃石中量	内面;口縁部横ナデ、体~見込部ヘラナデ/外面;口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	在地系土師器
第142図24 図版80-24	土師器 甕	カマド東袖の外側床面上	口縁~底部 90%	高口底 37.6 (18.1) 6.1	明赤褐色 ~灰黄褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・角閃石・雲母中量	最大径を胴中部にもつ/内外面粘土付着/内面;口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面;口縁部横ナデ、胴・底部ヘラケズリ	長巻/在地系土師器
第142図25 図版80-25	土師器 甕	カマド内(火床)上12cm)	ほぼ完形	高口底 38.0 18.4 6.3	褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・石英・長石・雲母中量/小量少量	最大径を口縁部にもつ/内面;口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ、見込部指押え/外面;口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	長巻/在地系土師器
第142図26 図版80-26	土師器 甕	貯蔵穴南西側の床面上	口縁~底部 90%	高口底 37.6 19.2 6.7	褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・石英・角閃石・小量中量	内面;口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面;口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ、底部薄減角閃石・小量中量	長巻/在地系土師器
第142図27 図版80-27	土師器 甕	カマド内(火床)上16cm)	口縁~底部 90%	高口底 39.1 20.3 5.7	褐色	砂粒・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・石英・雲母中量	最大径を口縁部にもつ/外面粘土付着/内面;口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面;口縁部横ナデ、胴・底部ヘラケズリ	長巻/在地系土師器
第142図28 図版80-28	土師器 甕	カマド南側の甕土中(床)上4cm)	口縁~底部 80%	高口底 37.9 (19.4) 6.2	にぶい褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・石英・金雲母中量	最大径を口縁部にもつ/外面粘土付着/底部木葉状/最大径を口縁部にもつ/内面;口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面;口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長巻/在地系土師器
第142図29 図版80-29	土師器 甕	中央西側の床面上	口縁~胴部 60%	高口底 19.3 20.2	にぶい褐色	砂粒・赤色粒子・石英・雲母中量	最大径を口縁部にもつ/内面;口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面;口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長巻/在地系土師器
第142図30 図版80-30	土師器 甕	貯蔵穴内(底上8~21cm)	口縁~胴部 60%	高口底 [20.5] 19.7	褐色	砂粒やや多量/白色粒子・赤色粒子・石英・長石・角閃石中量	最大径を口縁部にもつ/内面;口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面;口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長巻/在地系土師器
第143図31 図版81-31	土師器 甕	カマド南側の床面上、カマドと貯蔵穴の間の甕土中(床)上12~19cm)	口縁~胴部 10%	高口底 [9.0] (18.5)	褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・長石中量/角閃石少量	最大径を口縁部にもつ/内面;口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面;口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長巻/在地系土師器
第143図32 図版81-32	土師器 甕	カマドと貯蔵穴の間の甕土中(床)上6cm)	口縁~胴部 10%	高口底 [13.2] (16.6)	褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子中量	内面;口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面;口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長巻/在地系土師器
第143図33 図版81-33	土師器 甕	カマド南側・カマドと貯蔵穴の間の甕土中(床)上16~28cm)	口縁~胴部 10%	高口底 [11.0] (19.1)	褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・長石中量/小量少量	最大径を口縁部にもつ/内面;口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面;口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長巻/在地系土師器

第60表 315号住居跡出土遺物一覽(2)

図版番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考	
第143図34 図版81-34	土師器 甕	北東コーナー付近の覆土中(床土26cm)	口縁～胴部 10%	高口 [13.6] (20.1)	にぶい褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子中量	最大径を口縁部に持つ/内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長巻/在地系土師器	
第143図35 図版81-35	土師器 甕	貯蔵穴と北壁の間の覆土中(床土10cm)	胴部 40%	高 [32.2]	褐色	砂粒中量/雲母少量	内面:ヘラナデ/外面:ヘラケズリ	長巻/在地系土師器	
第143図36 図版81-36	土師器 甕	中央の覆土中(床土22cm)	胴～底部 15%	高底 [10.6] (6.5)	褐色～黄褐色	砂粒・白色粒子中量/長石少量	内面:ヘラナデ/外面:胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	長巻/在地系土師器	
第143図37 図版81-37	土師器 甕	貯蔵穴内(底土32・42cm)、貯蔵穴東側の床面上	口縁～底部 90%	高口底 39 20.7 11.6	褐色	砂粒やや多量/白色粒子・赤色粒子・角閃石・雲母中量	大きく歪み傾く/大型/内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ、底部厚成の為不明、一部木炭痕	丸巻/在地系土師器	
第143図38 図版81-38	土師器 甕	貯蔵穴内(底土15cm)、P1内(底土47・52cm)、樺子穴南の壁溝上(ほぼ床面レベル)	体～底部 70%	高 [15.5]	明褐色	砂粒・黒色粒子・石英中量/小礫少量	黒彩/内面:ヘラナデ/外面:ヘラケズリ→ミガキ	丸巻/在地系土師器	
第143図39 図版81-39	土師器 甕	貯蔵穴南側の凸堤上	胴～底部 50%	高底 [25.7] 9.1	褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英中量/角閃石・小礫少量	内面:ヘラナデ/外面:胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	丸巻/在地系土師器	
第144図40 図版82-40	土師器 甕	貯蔵穴東側の床面上	口縁～底部 70%	高口底 30.5 (25.0) 10.1	褐色	砂粒やや多量・白色粒子・赤色粒子・角閃石・雲母中量	内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ、底部部ヘラケズリ	筒抜け式/在地系土師器	
第144図41 図版82-41	土師器 甕	カマド西側のほぼ床面上	口縁～底部 70%	高口底 31.1 27.5 10.1	明黄褐色	砂粒・白色粒子・石英・角閃石中量	内面:口縁部横ナデ、小津部ヘラナデ→ミガキ/外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ、底部部ヘラケズリ	筒抜け式/在地系土師器	
第144図42 図版82-42	土師器 甕	カマド内(火床土16cm)	口縁～底部 90%	高口底 30.9 24.3 10.3	にぶい褐色	砂粒・赤色粒子・石英・雲母中量	口縁一部注ぎ口のようにゆがむ/内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ→ミガキ/外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ→頸部のみミガキ	筒抜け式/在地系土師器	
第144図43 図版82-43	土師器 甕	(床土31cm)	胴～底部 50%	高底 [22.0] 10.1	褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・石英・角閃石中量	内面:ヘラナデ/外面:胴部ヘラケズリ、底部部ヘラケズリ	筒抜け式/在地系土師器	
第144図44 図版82-44	土師器 甕	(床土9～15cm)	口縁～底部 50%	高口底 16.6 (22.4) 6.0	にぶい褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・石英・角閃石・雲母中量	焼成後外面から内面に向かい5～6mm穿孔を施す多孔胎/底部木炭痕?/内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ、底部部厚成穿孔	多孔式/在地系土師器	
第144図45 図版82-2-45	ミニチュア土器	北西の覆土中(床土7cm)	完形	高口底 4.5 6.3 3.8	黄褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・角閃石・雲母中量	平底/小型/内面:ナデ/外面:体下部ラケズリ	粗輪品/在地系土師器	
第144図46 図版82-2-46	ミニチュア土器	中央東側の床面上	口縁～底部 40%	高口底 3.5 (7.4) 4.0	褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・雲母中量/角閃石少量	平底/小型/内面:体へ見込部ヘラナデ/外面:体部指押え	粗輪品/在地系土師器	
第144図47 図版82-2-47	ミニチュア土器	西側壁溝(床土4cm)	口唇部欠損	高底 [3.0] 1.6	にぶい黄褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・石英・長石・角閃石中量	黒彩/内面:ナデ/外面:外面指押え	在地系土師器	
第144図48 図版82-2-48	ミニチュア土器	カマド内(火床土7cm)	ほぼ完形	高口底 1.9 3.3 2.5	にぶい褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・雲母中量/角閃石少量	黒彩/ナデ、口縁部指つまミ	在地系土師器	
図版番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	備考
第144図49 図版82-49	土製品 支那	カマド内(火床土14cm)	完形	16.0	4.7	4.1	240.7	外面指ナデ、指押え/下部にスス・粘土付着/中央部に工具痕が残る	
第144図50 図版82-50	土製品 支那	東側の覆土中(床土45cm)	上部欠損	[7.4]	0.4	[2.7]	63.1	一部斜縁/外面指ナデ、指押え/横に工具痕がこのこる	

第60表 315号住居跡出土遺物一覽(3)

検出番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特 徴	備 考	
第 144 図 51 図版 82-51	土製品 紡錘車	中央北側の 覆土中 (床 上 40cm)	完形	2.5	2.9	3.1	271.0	中央部穿孔/外面ヘラナデ・ヘラケズリ/上 端部・下端部ヘラケズリ		
検出番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	石 材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特 徴	備 考
第 145 図 52 図版 82-52	砥石	南西側の床 面上	完形	変質流 紋岩	[57.6]	[36.8]	[19.2]	50.0	やや風化しており、わずかに線条痕が 見られる	
検出番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	材 質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特 徴	備 考
第 145 図 53 図版 82-53	鉄製品 鉄鏃	中央南側の 覆土中 (床 上 32cm)	完形	鉄	8.2	2.3	0.4	11.4	鏃身部は五角形を呈し、断面は両丸、 刃を有す/鏃身部長 4.9cm/幅 2.3cm/ 厚 0.4cm/茎部長 2.3cm/幅 0.7cm/ 厚 0.4cm	短頸両 丸造五 角形式
第 145 図 54 図版 82-54	鉄製品 刀子	覆土中	茎端部 欠損	鉄	[9.0]	1.2	0.3	8.1	刃部断面は平刀、刃を有す/茎部断 面は台形/刀身部長 5.9cm/幅 1.2cm/ 厚 0.3cm/茎部 [3.1]cm/幅 1.0cm/ 厚 0.3cm	
第 145 図 55 図版 82-55	鉄製品 刀子	カマド内(火 床 上 33cm)	両端 欠損	鉄	[4.4]	1.3	0.2	3.4	刃部断面は片切刃状を呈す/刃を有 す/刀身部長 [3.4]cm/幅 1.3cm/厚 0.2 cm/茎部 [1.0]cm/幅 1.1cm/厚 0.1cm	
第 145 図 56 図版 82-56	鉄製品 鎌	中央北西側 の覆土中 (床 上 36cm)	完形	鉄	8.8	2.2	0.2	18.6	刃部断面は平刀/柄部は端部を折り曲げ、柄 のストッパーとなす/刃部長 7.3cm/幅 2.2cm/厚 0.2cm/柄部長 1.4cm/幅 1.5 cm/厚 0.3cm	

第 60 表 315 号住居跡出土遺物一覧 (4)

22cm。床面：住居中央部分が硬化していた。カマド：北壁のほぼ中央に位置する。主軸方位は N-18°-W。長さ 89cm/幅 114cm/壁への掘り込み 14cm。袖部はロームを馬蹄形状に掘り残し、その上に粘土を被覆して構築されたと考えられる。燃焼部、袖部に被熱による赤化が確認できた。貯蔵穴：P6 は貯蔵穴と考えられる。カマドの東側に位置する。平面形は丸みを帯びた長方形。長軸 90cm/短軸 67cm/深さ 54cm。周囲には幅 10～28cm/高さ 1～3cm ほどの凸堤が巡っていた。覆土はローム粒を含む褐色色土を基調とする。柱穴：主柱穴は P1 から P4 の 4 本と考えられる。深さ 57～87cm。覆土はローム粒を含む暗褐色土を基調とする。掘方が漏斗状にカットされている様子や覆土の堆積状況から、柱の抜き取りが行われた可能性が考えられる。入口施設：P5 は入口梯子穴と考えられる。覆土はローム粒を含む暗褐色土・黄褐色土を基調とする。深さ 37cm。幅 18～93cm/高さ 1cm ほどの凸堤が、「O」字状に巡っていた。

[覆 土] 9 層に分層できた。P5 の東側において生粘土塊、P6 の東側において焼土を検出した。

[遺 物] 土師器環・鉢・壺・瓶、ミニチュア土器、土製の支脚と紡錘車、砥石、鉄鏃、刀子、鎌、種実(モモ)が出土した。カマドからは、長囊が 2 つ横に並んだ状態(西側：29、東側：31)で、貯蔵穴からは環(4・12・14・16・18)や長囊(34)が、数段重なった状態で、また、カマドと貯蔵穴の周辺からも、多くの個体がまとまって出土した。

[時 期] 古墳時代後期(7 世紀中葉)。

[遺 物] (第 141～145 図、図版 79-2、図版 80～82、第 60 表)

[土 器] (第 141～144 図 1～48、図版 79-2-1～23、図版 80～82-24～48、第 60 表)

1～39 は土師器で、1～21 は環、22 は囊を転用したと思われる環、23 は鉢、24～39 は壺、40～44 は瓶、45～48 はミニチュア土器である。

[土 製品] (第 144 図 49～51、図版 82-49～51、第 60 表)

49・50は支脚、51は紡錘車である。

[石製品] (第145図52、図版82-52、第60表)

52は砥石である。

[鉄製品] (第145図53～56、図版82-53～56、第60表)

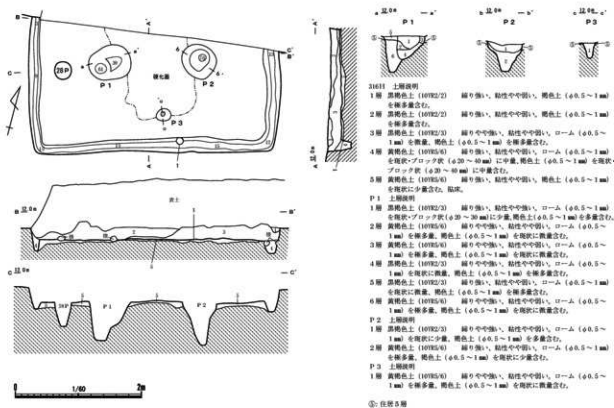
53は鉄鏃、54・55は刀子、56は鎌である。

316号住居跡

遺 構 (第146図)

[位 置] (G-2) グリッド。

[検出状況] 北側の調査区域で検出したため、住居の北側半分程が調査区外であるが、北側を68Mに切られるため、北側はほとんど残っていないと思われる。10・28Pに切られる。



第146図 316号住居跡・遺物出土状態 (1/60)



第147図 316号住居跡出土遺物 (1/4)

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第147図1 図版83-1-1	土師器 杯	椀子穴南の 壁溝にかかる (ほぼ床 面レベル)	完形	高口 [3.4] [11.3]	褐色	砂粒・白色粒予・ 黒色粒予・石英・ 角閃石・雲母中量	黒彩/内面:横ナデ/外面: 底部ヘラケズリ	黒色系有段 杯/在地系 土師器

第61表 316号住居跡出土遺物一覧

[構造] 平面形：方形と思われる。規模：長軸4.02m／短軸2.19m以上／深さ18cm。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。主軸方位：N-15°-W。壁溝：検出した範囲において、全周する。上幅15～22cm／下幅5～10cm／深さ3～15cm。床面：入口施設から北側に向かって帯状に硬化していた。貼床は2～12cmの厚さで施されていた。カマド：検出されなかった。貯蔵穴：検出されなかった。柱穴：P1とP2は主柱穴と考えられる。深さ61～70cm。覆土はローム粒を含む黒褐色土・黄褐色土を基調とする。入口施設：P3は入口梯子穴と考えられる。深さ27cm。覆土はローム粒を含む黄褐色土を基調とする。

[覆土] 4層に分層できた。

[遺物] 土師器環が出土した。

[時期] 古墳時代後期（7世紀中葉～末葉）。

遺物 (第147図、図版83-1、第61表)

[土器] (第147図1、図版83-1-1、第61表)

1は土師器環である。

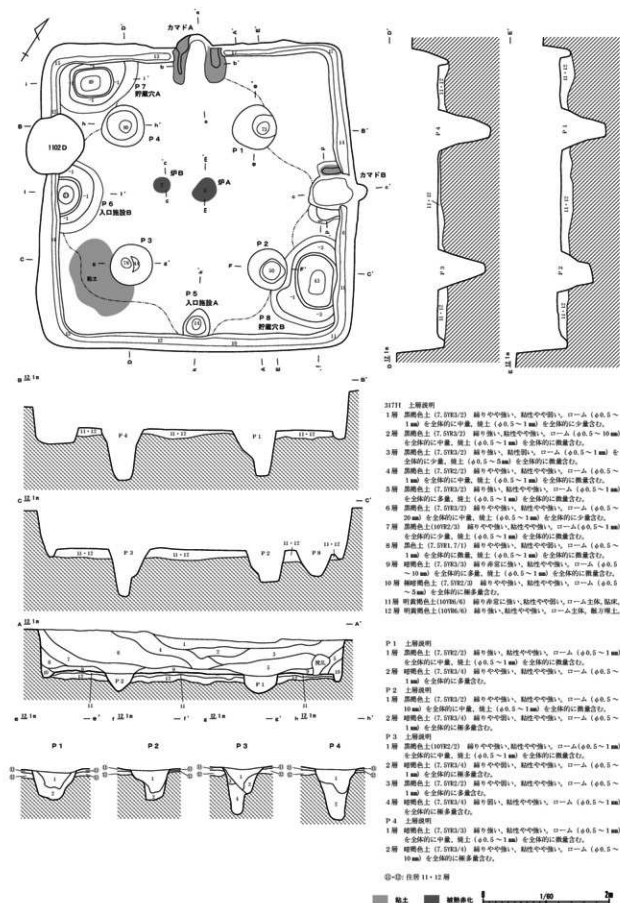
317号住居跡

遺構 (第148～150図)

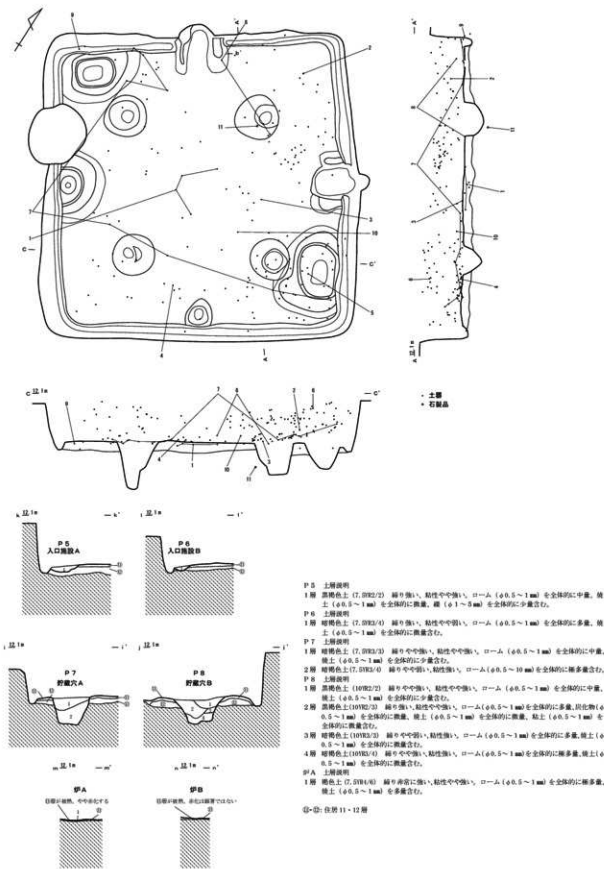
[位置] (C・D-3・4) グリッド。

[検出状況] 12 J を切り、310 H、1100・1102 D、133 P に切られる。

[構造] 平面形：方形。規模：長軸5.11m／短軸4.97m／深さ70cm。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。主軸方位：N-33°-W。壁溝：カマドを除き全周する。上幅20～40cm／下幅5～17cm／深さ6～17cm。床面：四隅を除いた範囲が硬化していた。貼床は3～19cmの厚さで施されていた。カマド：2基のカマドを検出した。＜カマドA＞北壁のほぼ中央に位置する。主軸方位はN-35°-W。長さ84cm／幅85cm／壁への掘り込み19cm。袖部は床面上に粘土を積み上げて構築されたと考えられる。燃焼部に被熱による赤化が確認できた。＜カマドB＞東壁のほぼ中央に位置する。主軸方位はN-55°-E。長さ96cm／幅99cm／壁への掘り込み16cm。袖部はロームを馬蹄形状に掘り残し、その上に粘土を被覆して構築されたと考えられる。燃焼部に被熱による赤化が確認できた。貯蔵穴：2基の貯蔵穴を検出した。＜貯蔵穴A＞北西コーナーに位置する（P7）。平面形は隅丸長方形。長軸58cm／短軸43cm／深さ49cm。周囲には幅8～44cm／高さ1cmほどの凸堤が巡っていた。覆土はローム粒を含む暗褐色土を基調とする。＜貯蔵穴B＞北西コーナーに位置する（P8）。平面形は丸みを帯びた長方形。長軸83cm／短軸57cm／深さ43cm。周囲には幅22～50cm／高さ1～3cmほどの凸堤が巡っていた。覆土はローム粒を含む黒褐色土・暗褐色土を基調とする。柱穴：主柱穴はP1からP4の4本と考えられる。深さ50～80cm。覆土はローム粒を含む黒褐色土・暗褐色土を基調とする。掘方が漏斗状にカットされている様子や覆土の堆積状況から、柱の抜き取りが行われた可能性が考えられる。入口施設：2基検出した。＜入口施設A＞南壁溝きわのほぼ中央に位置する（P5）。覆土はローム粒・焼土粒を含む黒褐色土を基調とする。深さ14cm。＜入口施設B＞西壁溝きわのほぼ中央に位置する（P6）。覆土はローム粒・焼土粒を含む暗褐色土を基調とする。深さ21cm。西側には幅30～38cm／高さ1cmほどの凸堤が、「U」字状に巡っていた。炉：住居の中央部において、2基の炉を検出した。2基ともに、明確な掘り込みを伴わず、わずかに窪んだ底の部分が被熱により赤化した状態であった。＜炉A＞平面形は不整楕円形。長軸41cm／短軸33cm／深さ3cm。覆土はローム粒・焼土粒を含む褐色土を基調とする。＜炉B＞平面



第 148 図 317 号住居跡 (1/60)



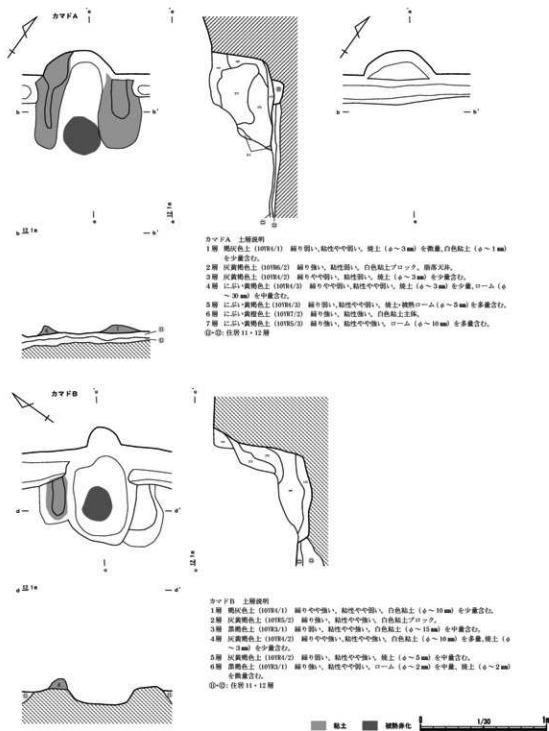
第149図 317号住居跡・遺物出土状態 (1/60)

形は楕円形。長軸 27cm/短軸 24cm/深さ 2cm。覆土なし。

[覆 土] 10層に分層できた。P3の南側で生粘土の分布を検出した。

[遺 物] 須恵器フラスコ形長頸瓶、土師器杯・甕、砥石が出土した。

[所 見] カマド、貯蔵穴、入口施設が2基ずつ検出された。カマドは、袖部をロームの掘り残しにより構築している状況から、カマドBが住居築造に伴うもので、カマドAが新しいと考えられる。また、貯蔵穴はカマドの脇に、入口施設は南側ないしカマドの対面につくられることが多いことから、旧：カマドA-貯蔵穴A-入口施設A、新：カマドB-貯蔵穴B-入口施設Bという対応関係が想定できる。



第150図 317号住居跡カマド (1/30)

〔時期〕古墳時代後期（7世紀中葉）。

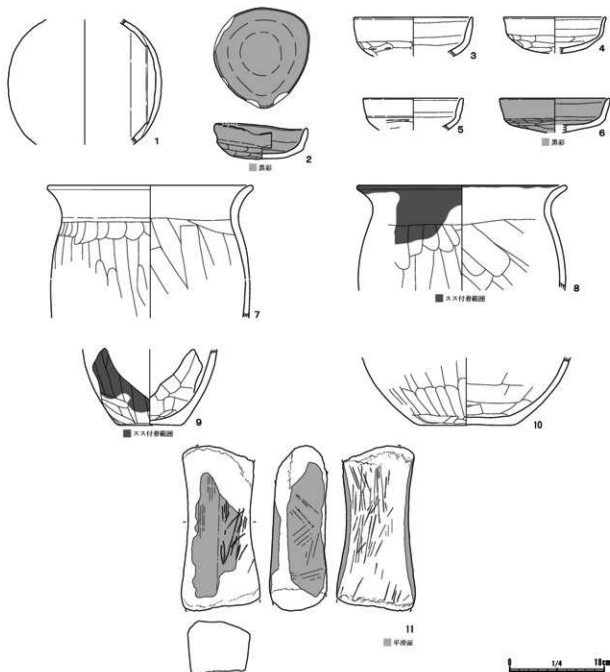
〔遺物〕（第151図、図版83-1、第62表）

〔土器〕（第151図1～10、図版83-2-1～10、第62表）

1は須恵器フラスコ形長頸瓶、2～10は土師器で、2～6は坏、7～10は甕である。2は口縁部をゆがめて、片口状を呈する。

〔石製品〕（第151図11、図版83-1-11、第62表）

11は砥石である。



第151図 317号住居跡出土遺物（1／4）

碑図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考		
第151図1 図版83-2-1	須恵削 フラス コ形 長頸瓶	中央の床面上	胴～ 底部 10%	高 [13.3] 胴径 (16.2)	にぶい赤 褐色～に ぶい黄橙 色	砂粒・白色粒子・ 小礫中量	上部自然釉/回転ナデ・ナデ	瀬西涼鉢産		
第151図2 図版83-2-2	土師器 環	北コーナ 付近の覆土 中(床上21 cm)	ほぼ完 形	高 3.8 口 9.9	橙色～灰 色	砂粒やや多量/白 色粒子・石英中量	黒彩/口縁部口口に基まる/内面:横 ナデ/外面:口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	黒色系有段 環/在地系 土師器		
第151図3 図版83-2-3	土師器 環	中央東側の 床面上	口縁～ 底部 20%	高 [4.1] 口 (12.7)	褐色	砂粒やや多量/雲 母中量	内面:横ナデ/外面:口縁部横ナデ、底部 ヘラケズリ	無彩系有段 環/在地系 土師器		
第151図4 図版83-2-4	土師器 環	梯子穴A西 側の覆土中 (床上6cm)	口縁～ 底部 40%	高 [3.8] 口 (11.0)	褐色	砂粒・石英・角閃 石中量	内面:口縁部横ナデ、見込部ヘラナデ/外 面:口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	無彩系有段 環/在地系 土師器		
第151図5 図版83-2-5	土師器 環	覆土中	口縁～ 底部 10%	高 [3.3] 口 (10.6)	褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・角閃石 中量	内面:横ナデ/外面:口縁部横ナデ、底部 ヘラケズリ	無彩系有段 環/在地系 土師器		
第151図6 図版83-2-6	土師器 環	貯蔵穴B範 囲内の覆土 中(床上56 cm)	口縁～ 底部 30%	高 [3.6] 口 (11.7)	橙色～褐 灰色	砂粒やや多量・雲 母中量	黒彩/内面:口縁部横ナデ、見込部縁面 により不明/外面:口縁部横ナデ、底部ヘラ ケズリ	黒色系有段 環/在地系 土師器		
第151図7 図版83-2-7	土師器 甕	カマドAと 貯蔵穴Aの 間・P3周 辺の床面上、 貯蔵穴B周 辺の覆土中 (床上5～ 31cm)	口縁～ 頸部 15%	高 [13.0] 口 (21.8)	にぶい黄 褐色	砂粒・雲母中量	最大径を口縁部に持つと思われる/内面: 口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面:口縁 部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長渡/在地 系土師器		
第151図8 図版83-2-8	土師器 甕	カマドA東 端上、P1 範囲内(床 面レベル)	口縁～ 胴部 5%	高 [11.2] 口 22.3	明赤褐色	砂粒多量/雲母中 量	最大径を胴部に持つ/内外面口縁部ス付 着/内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/ 外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長渡/在地 系土師器		
第151図9 図版83-2-9	土師器 甕	西コーナ の壁溝内(床 面レベル)	胴～ 底部 10%	高 8.0 底 (7.1)	褐色	砂粒やや多量/白 色粒子・黒色粒子 ・赤色粒子・雲母中 量	外面ス付着/内面ヘラナデ/外面:胴 部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	長渡/在地 系土師器		
第151図10 図版83-2-10	土師器 甕	中央東側の 覆土中(床 上12cm)	胴～ 底部 10%	高 底 [7.2] 10.1	褐色	砂粒・雲母中量	内面:ヘラナデ/外面:胴部ヘラケズリ、 底部ヘラケズリ	丸渡/在地 系土師器		
碑図番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	石 材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴	備考
第151図11 図版83-2-11	磁石	P1(底上 36cm)	完形	変質流 紋岩	[174.1]	[83.2]	[60.9]	1180.6	左右側面は摩痕を有する平滑面で凹面 状を呈する/表裏面はごつごつした面 で多くの線条痕が縦から右斜め方向で みられる/また表には浅い溝状の平滑 面がみられる	

第62表 317号住居跡出土遺物一覧

318号住居跡

遺 構 (第152図)

[位 置] (B-3・4) グリッド。

[検出状況] 西側の調査区境で検出したため、住居の大部分が調査区外である。13 Jを切り、1098 Dに切られる。

[構 造] 平面形: 方形と思われる。規模: 長軸 5.10m/短軸 1.02m以上/深さ 71cm。壁: ほぼ垂直に立ち上がる。主軸方位: N-19°-W。壁溝: 検出した範囲において、全周する。上幅 15～21cm/下幅 5～11cm/深さ 10～18cm。床面: 貯蔵穴の南側が硬化していた。貼床は 9～19cmの厚さで

施されていた。カマド：検出されなかった。貯蔵穴：北東コーナーに位置する（P1）。平面形は丸みをおびた長方形と思われる。長軸62cm/短軸52cm以上/深さ43cm。覆土はローム粒・焼土粒を含む黒褐色土を基調とする。柱穴：検出されなかった。入口施設：検出されなかった。

[覆土] 16層に分層できた。

[遺物] 土師器環・裏・甎、土製の支脚が出土した。

[時期] 古墳時代後期（7世紀中葉）。

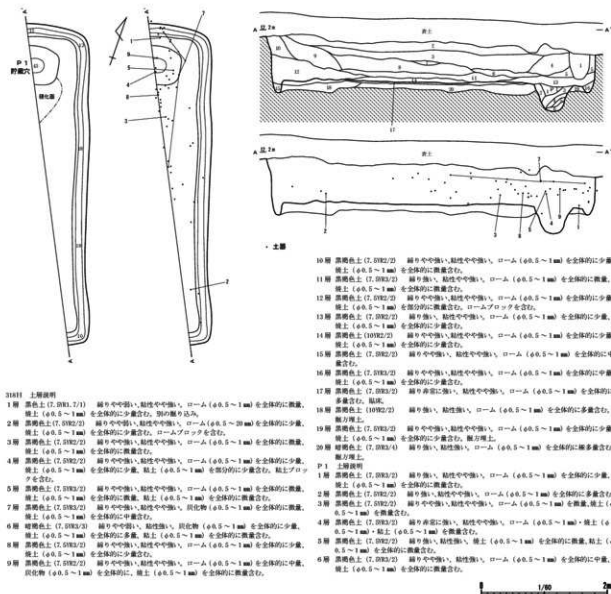
遺物 (第153図、図版83-3、第63表)

[土器] (第153図1~9、図版83-3-1~9、第63表)

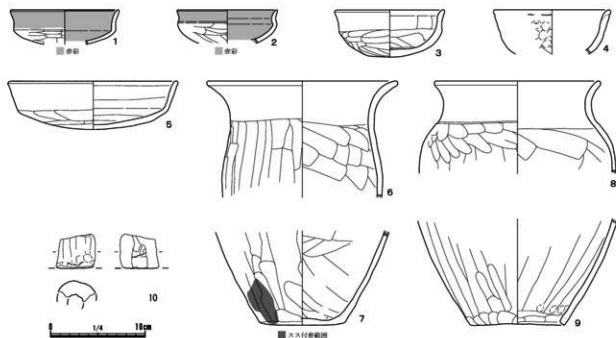
1~9は全て土師器で、1~5は坏、6~8は裏、9は甎である。

[土製品] (第153図10、図版83-3-10、第63表)

10は支脚である。



第152図 318号住居跡・遺物出土状態 (1/60)



第 153 図 318 号住居跡出土遺物 (1/4)

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考	
第 153 図 1 図版 83-3-1	土師器 環	貯蔵穴と北壁の間の覆土中(床上 2cm)	口縁~ 底部 10%	高口 [3.7] (11.5)	赤褐色~ にぶい、橙 色	砂粒やや多量/白色 粒子・赤色粒子・ 小礫中量	内面~外面口縁部赤彩/口唇内面弱く沈線 状/内面:口縁部横ナデ、見込部ヘラナデ /外面:口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	いわゆる比 企型環/入 間系土師器	
第 153 図 2 図版 83-3-2	土師器 環	南東コー ナ付近の 覆土中(床 上 13cm)	口縁~ 底部 10%	高口 [3.5] (10.7)	赤~赤褐 色	砂粒やや多量/白色 粒子・黒色粒子・ 長石・小礫少量	内面~外面口縁部赤彩/口唇内面沈線無し /内面:横ナデ/外面:口縁部横ナデ、底 部ヘラケズリ	いわゆる比 企型環/入 間系土師器	
第 153 図 3 図版 83-3-3	土師器 環	貯蔵穴南側の 覆土中(床 上 16cm)	口縁~ 底部 80%	高口 4.9 11.7	橙色	砂粒・白色粒子・ 雲母中量/長石少 量	内面:口縁部横ナデ、見込部ヘラナデ/外 面:口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	無彩系有稜 環/在地系 土師器	
第 153 図 4 図版 83-3-4	土師器 環	貯蔵穴範囲 内の覆土中 (床上 19cm)	口縁部 5%	高口 [4.7] (12.5)	明黄褐色 ~黒褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・金雲母 中量/角閃石少量	内面:割離により不明/外面:口縁上部横 ナデ、体部指押え、体下部ヘラケズリ	粗雑品/在 地系土師器	
第 153 図 5 図版 83-3-5	土師器 環	貯蔵穴範囲 内の覆土中 (床上 24cm)	完形	高口 5.1 18.0	橙色	砂粒・白色粒子・ 石英・角閃石・雲 母・小礫少量	内面:横ナデ/外面:口縁部横ナデ、底部 ヘラケズリ	無彩系有稜 環/在地系 土師器	
第 153 図 6 図版 83-3-6	土師器 甕	覆土中	口縁~ 胴部 10%	高口 [12.3] (20.2)	橙色~ にぶい黄橙 色	砂粒やや多量/白色 粒子・雲母中量 /角閃石少量	最大径を口縁部に持つ/内面:口縁部横ナ デ、胴部ヘラナデ/外面:口縁部横ナデ、 胴部ヘラケズリ	長渡/在地 系土師器	
第 153 図 7 図版 83-3-7	土師器 甕	貯蔵穴周辺 の覆土中(床 上 37~46 cm)	胴~ 底部 15%	高口 [10.0] 9.1	にぶい、橙 色	砂粒・白色粒子・ 角閃石・雲母中量 /赤色粒子・小礫 少量	外面スス付着/内面:ヘラナデ/外面:胴 部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	長渡/在地 系土師器	
第 153 図 8 図版 83-3-8	土師器 甕	貯蔵穴南側の 覆土中(床 上 20cm)	口縁~ 底部 10%	高口 [9.8] (17.6)	にぶい、橙 色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・金雲母 中量/角閃石・小 礫少量	内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外 面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	口裏/在地 系土師器	
第 153 図 9 図版 83-3-9	土師器 甕	貯蔵穴範囲 内の覆土中 (床上 28cm)	胴~底 部 5%	高口 [11.4] (10.0)	橙色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・角閃石 中量	内面:ヘラナデ、胴下部指押え/外面:胴 部ヘラケズリ、底部部ヘラケズリ	粒掛け式/ 在地系土師 器	
発掘番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	備考
第 153 図 10 図版 83-3-10	土製品 支脚	覆土中	上部欠 損、腹に 半分のみ 残存する	[3.6]	[4.1]	2.1	30.7	内部中空/外面ヘラナデ・筋ナデ・指押え/ 外面下部にツギメが残る/中空下部ヘラナデ	

第 63 表 318 号住居跡出土遺物一覽

319号住居跡

遺 構 (第154・155図)

[位 置] (1・J-7・8) グリッド。

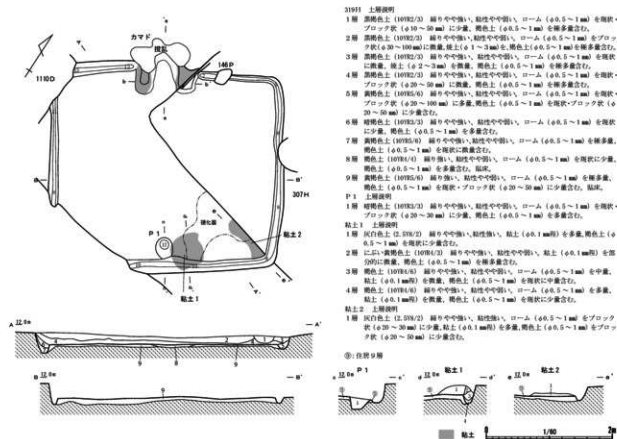
[検出状況] 9 Yを切り、307 H、69 M、1110 D、146・180 ~ 182 Pに切られる。

[構 造] 平面形: 長方形。規模: 長軸 3.76m / 短軸 3.38m / 深さ 19cm。壁: ほぼ垂直に立ち上がる。主軸方位: N-33°-W。壁溝: カマドを除き全周する。上幅 8 ~ 23cm / 下幅 2 ~ 10cm / 深さ 5 ~ 13cm。床面: 全体的に軟弱だが、P 1の南東側に部分的な硬化が観察された。貼床は 2 ~ 12cmの厚さで施されていた。カマド: 北壁のほぼ中央に位置する。煙道と袖部の一部が攪乱により消失していた。主軸方位は N-31°-W。長さ 68cm / 幅 103cm / 壁への掘り込み 16cm。袖部はロームを馬蹄形に掘り残し、その上に粘土を被覆して構築されたと考えられる。燃焼部に被熱による赤化が確認できた。貯蔵穴: 検出されなかった。柱穴: 検出されなかった。入口施設: P 1は入口梯子穴と考えられる。覆土はローム粒を含む暗褐色土を基調とする。深さ 12cm。

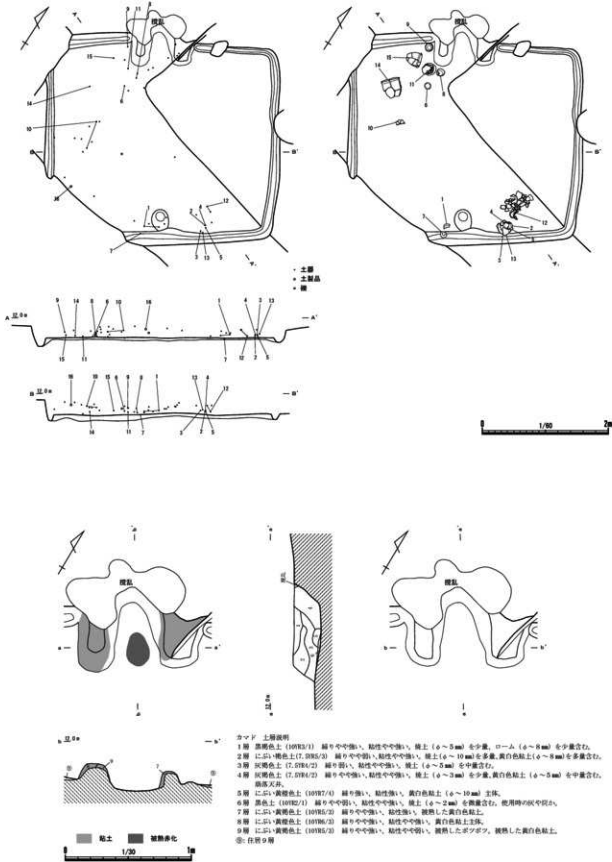
[覆 土] 7層に分層できた。P 1の東側と南東コーナーにおいて、生粘土塊を検出した。

[遺 物] 土師器環・甕・甌、土製の支脚が出土した。カマドの南西側と梯子穴の北東側に遺物の集中がみられる。

[時 期] 古墳時代後期 (7世紀中葉)。



第154図 319号住居跡 (1/60)



第155図 319号住居跡遺物出土状態・カマド(1/60・1/30)

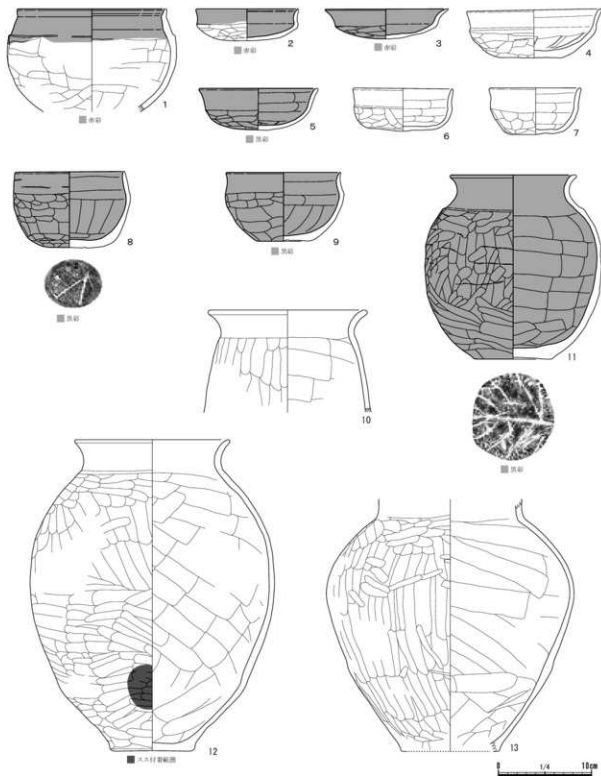
遺物 (第156・157図、図版84、第64表)

[土器] (第156・157図1～15、図版84-1～15、第64表)

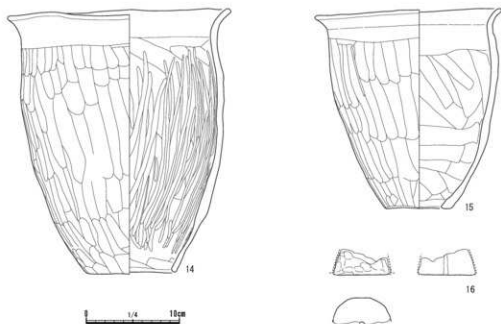
1～15は全て土師器で、1～9は坏、10～13は甕、14・15は甗である。

[土製品] (第157図16、図版84-16、第64表)

16は支脚である。



第156図 319号住居跡出土遺物1 (1/4)



第157図 319号住居跡出土遺物2(1/4)

神宮番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第156図1 図版84-1	土師器 杯	榑子穴西側の 覆土中(床 上5・6cm)	口縁～ 体部 30%	高口 11.0) (16.1)	赤褐色～ 褐色	砂粒やや多量/小 礫少量	内外面口縁部赤彩/深身の塊タイプ/内 面:口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ/外面: 口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	人間系土師 器
第156図2 図版84-2	土師器 杯	榑子穴東側の 覆土中(床 上5cm)	完形	高口 3.4 11.0	赤褐色～ 明赤褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・黒色粒 子中量	内面～外面口縁部赤彩/口唇内面沈線状/ 内面:横ナデ/外面:口縁部横ナデ、底部 ヘラケズリ	いわゆる比 企型杯/入 間系土師器
第156図3 図版84-3	土師器 杯	榑子穴東側の 覆土中(床 上5cm)	ほぼ 完形	高口 3.3 13.2	にぶい、褐色 ～赤褐色	砂粒やや多量/白 色粒子・石英・小 礫少量	全面赤彩/内面:口縁部横ナデ、見込部ヘ ラケズリ/外面:口縁部横ナデ、底部ヘラケ ズリ	人間系土師 器
第156図4 図版84-4	土師器 杯	榑子穴東側の 覆土中(床 上6cm)	ほぼ 完形	高口 5.2 14.5 底 6.7	褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・角閃石 小礫中量/雲母少 量	内面ヘラケズリ/平底/内面:口縁部横 ナデ、見込部ヘラケズリ/外面:口縁部横 ナデ、体部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	無彩系有段 杯/在地系 土師器
第156図5 図版84-5	土師器 杯	榑子穴東側の 覆土中(床 上7cm)	口縁～ 底部 70%	高口 4.5 12.9	明褐色～ にぶい、褐 色	砂粒・白色粒子・ 角閃石中量	黒彩/内面:口縁部横ナデ、見込部ヘラ ナデ/外面:口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	黒色系有種 杯/在地系 土師器
第156図6 図版84-6	土師器 杯	カマド南側の 覆土中(床 上5cm)	完形	高口 4.7 10.8	褐色	砂粒・赤色粒子・ 石英・角閃石中量	内面:横ナデ/外面:口縁部横ナデ、体 部ヘラケズリ	無彩系有段 杯/在地系 土師器
第156図7 図版84-7	土師器 杯	榑子穴南側の 壁溝にか かる(床面 レベル)	完形	高口 5.0 9.9 底 5.8	褐色	砂粒やや多量/石 英・角閃石中量	平底/内面:横ナデ/外面:口縁部横ナデ、 体部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	無彩系有種 杯/在地系 土師器
第156図8 図版84-8	土師器 杯	カマド南側の 床面上	ほぼ 完形	高口 8.2 11.8 底 6.1	褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・雲母中 量/角閃石少量	黒彩/深身の塊タイプ/平底/底部木葉痕 /内面:横ナデ/外面:口縁部横ナデ、体 部ヘラケズリ	黒色系有種 杯/在地系 土師器
第156図9 図版84-9	土師器 杯	カマド南西 側の覆土中 (床上10cm)	完形	高口 7.5 12.4 底 5.7	褐色	砂粒・白色粒子・ 石英・角閃石中量 /雲母少量	黒彩/深身の塊タイプ/平底/内面:口縁 部横ナデ、体部ヘラケズリ/外面:口 縁部横ナデ、体部ヘラケズリ、底部ヘラケ ズリ	黒色系有種 杯/在地系 土師器
第156図10 図版84-10	土師器 甕	中央南西側 の覆土中(床 上11・13cm)	口縁～ 胴部 10%	高口 11.1) (17.1)	褐色	砂粒やや多量/白 色粒子・赤色粒子 ・石英・角閃石中 量	最大径を胴部に持っ/内面:口縁部横ナデ、 胴部ヘラケズリ/外面:口縁部横ナデ、胴部 ヘラケズリ	長邊/在地 系土師器

第64表 319号住居跡出土遺物一覽(1)

発掘番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第156図11 図版84-11	土師器 壺	カマド南側の 覆土中(床 上4cm)	口縁～ 底部 80%	高口 19.9 (13.8) 底 8.3	にぶい黄 褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子中量/金 雲母少量	黒彩/小型/底部本葉色/内面:口縁部横 ナデ、胴部ヘラナデ/外面:口縁部横ナデ、 胴部ヘラケズリ	丸壺/在地 系土師器
第156図12 図版84-12	土師器 壺	梯子穴東側の 覆土中(床 上4～14 cm)	口縁～ 底部 80%	高口 33.7 (16.7) 底 9.0	褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・石英 角閃石中量	外面スス付着/内面:口縁部横ナデ、胴部 ヘラナデ/外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラ ケズリ、底部ヘラケズリ	丸壺/在地 系土師器
第156図13 図版84-13	土師器 壺	梯子穴西側の 覆土中(床 上7cm)	頸～ 底部 20%	高底 [27.2] (10.5)	褐色	砂粒やや多量/白 色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・雲母中 量	内面:頸部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面: 頸部横ナデ、胴部ヘラケズリ、底部ヘラケ ズリ	丸壺/在地 系土師器
第157図14 図版84-14	土師器 甌	カマド南西 側の覆土中 (床上4cm)	ほぼ 完形	高口 28.6 底 24 9.5	明黄褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・角閃石・ 金雲母中量	内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ・ミガ キ/外面:口縁部横ナデ・胴部ヘラケズリ、 底端部ヘラケズリ	筒抜け式/ 在地系土師 器
第157図15 図版84-15	土師器 甌	カマド西側の 覆土中(床 上6cm)	完形	高口 21.5 底 20.1 7.0	褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子中量/金 雲母・小礫少量	小型/内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ /外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ、 底端部ヘラケズリ	筒抜け式/ 在地系土師 器

発掘番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	備考
第157図16 図版84-16	土製品 支那	南西壁付近 の覆土中(床 上15cm)	下部の 半分のみ 残存	12.7	6.1	2.9	39.2	内部中空/外面指押え	

第64表 319号住居跡出土遺物一覧(2)

320号住居跡

遺 構(第158・159図)

[位 置] (D・E・F-2、E-3) グリッド。

[検出状況] 北側の調査区境で検出したため、住居の北側1/10が調査区外である。ただし68Mに切られるため、ほとんど残存ないと思われる。その他に1099D、127・129・130Pに切られる。

[構 造] 平面形:方形。規模:長軸5.12m/短軸4.77m以上/深さ26cm。壁:ほぼ垂直に立ち上がる。主軸方位:N-30°-W。壁溝:カマドを除き全周する。上幅14～30cm/下幅4～9cm/深さ7～16cm。床面:入口施設から北側に向かって帯状に硬化していた。カマド:検出されなかった。貯蔵穴:検出されなかった。柱穴:支柱穴はP1からP4の4本と考えられる。深さ58～74cm。覆土はローム粒を含む黒褐色土・暗褐色土を基調とする。入口施設:P5は入口梯子穴と考えられる。覆土はローム粒を含む黒褐色土・暗褐色土・褐色土を基調とする。深さ31cm。

[覆 土] 6層に分層できた。西壁の中央付近と南西コーナーにおいて、生粘土塊を検出した。北側で検出した粘土は、カマドに伴うものと考えられる。

[遺 物] 須恵器壺、土師器壺・甌・鉢、土製の紡錘車が出土した。

[時 期] 古墳時代後期(7世紀中葉～末葉)。

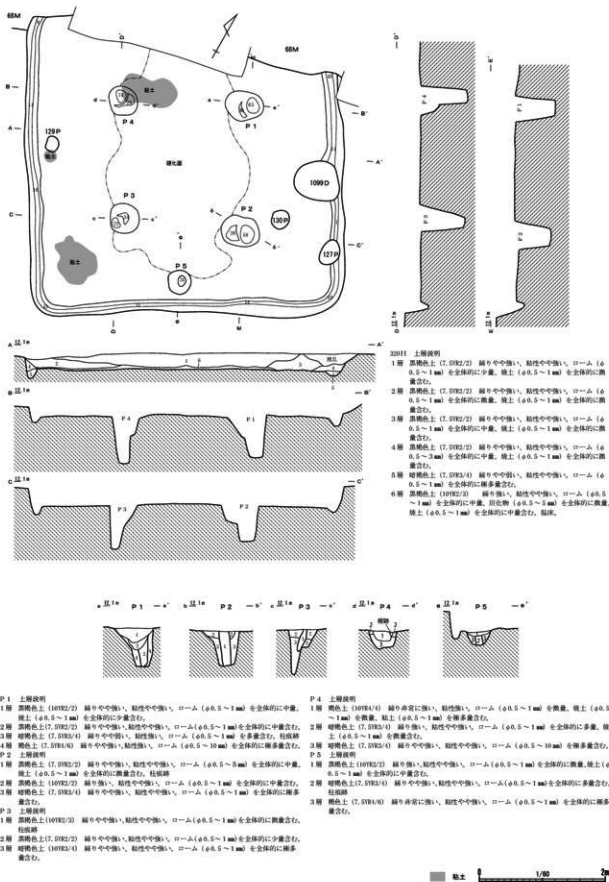
遺 物(第160図、図版85-1、第65表)

[土 器] (第160図1～6、図版85-1-1～6、第65表)

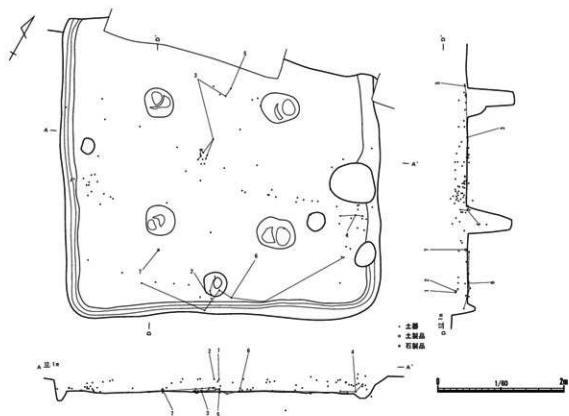
1・2は須恵器の壺、3～6は土師器で、3は壺、4・5は甌、6は鉢である。

[土 製品] (第160図7、図版85-1-7、第65表)

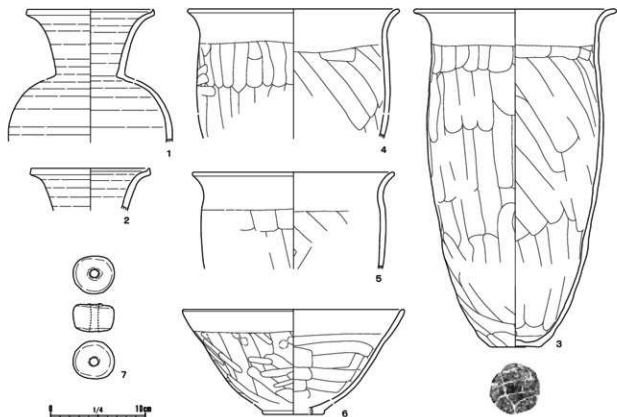
7は紡錘車である。



第 158 図 320 号住居跡 (1/60)



第159図 320号住居跡遺物出土状態 (1/60)



第160図 320号住居跡出土遺物 (1/4)

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考	
第160図1 図版85-1-1	須恵器 壺	梯子穴範囲 の覆土中(床 上15・19cm)	口縁～ 胴部 10%	高口 [14.0] 13.5	灰～にぶ い黄褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子中量	口唇内面沈線状/回転ナデ	産地不明	
第160図2 図版85-1-2	須恵器 壺	梯子穴範囲 の覆土中(床 上19cm)	口縁部 10%	高口 [4.4] (12.6)	褐灰色～ にぶい赤 褐色	砂粒・白色粒子中 量	口唇内面沈線状/回転ナデ	産地不明	
第160図3 図版85-1-3	土師器 甕	中央・北側 の床面上・ 覆土中(床 上4cm)	口縁～ 底部 50%	高口 35.8 (21.4) 5.2)	にぶい黄 褐色	砂粒・白色粒子・ 石英中量/雲母少 量	最大径を口縁部に持つ/底部木炭痕/内面: 口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面: 口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長狭/在 地系土 師器	
第160図4 図版85-1-4	土師器 甕	北東壁南側 付近の床面 上・覆土中 (床上11cm)	口縁～ 胴部 15%	高口 [13.6] (22.5)	褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・石英・ 角閃石中量	内面: 口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面: 口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	在地系土 師器	
第160図5 図版85-1-5	土師器 甕	北側の覆土 中(床上4 cm)	口縁～ 胴部 5%	高口 [10.1] (21.5)	褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・雲母中 量	内面: 口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面: 口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	在地系土 師器	
第160図6 図版85-1-6	土師器 鉢	南東壁周辺 の床面上・ 覆土中(床 上6cm)	口縁～ 体～ 30%	高口 [11.1] (23.8)	褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子中量	内面: 口縁部横ナデ、体部ヘラナデ/外面: 口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ、底部ヘラ ケズリ	在地系土 師器	
検出番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	備考
第160図7 図版85-1-7	土製品 紡錘車	南コーナ ー付近の覆土 中(床上3 cm)	完形	4.0	4.4	3.0	57.6	中央部心棒の抜き取り/外面ナデ	

第65表 320号住居跡出土遺物一覧

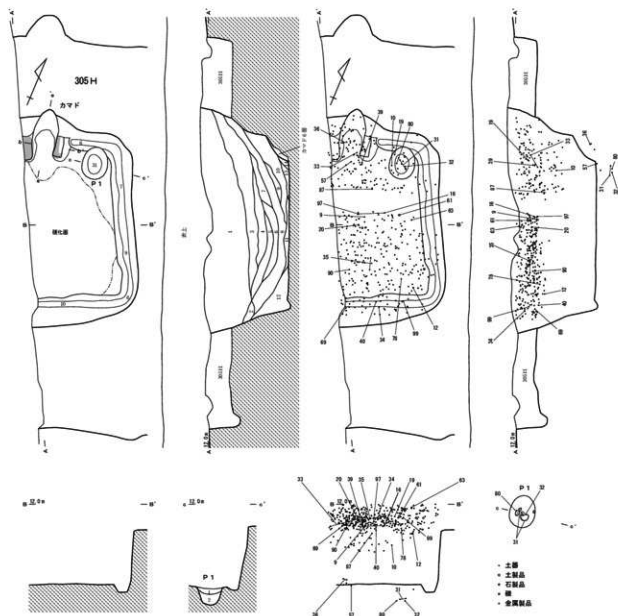
321号住居跡

遺構(第161・162図)

[位置] (C・D-6、C-7) グリッド。

[検出状況] 西側の調査区境で検出したため、住居の西側半分程度が調査区外である。305 Hを切る。精査開始当初は305 Hとして調査していたが、305 Hの床面よりも深く、また、平面形と規模から一度地下室と判断した。しかし、さらに精査を進めカマドと床面を検出するに至り、改めて305 Hを切る竪穴住居跡と認識した。地下室として調査している間は、土師器などは一括で取り上げた。

[構造] 平面形：方形と思われる。規模：長軸3.33m/短軸1.89m以上/深さ128cm。壁：やや斜めに立ち上がる。主軸方位：N-23°-W。壁溝：カマドを除き全周する。上幅25～46cm/下幅5～16cm/深さ6～10cm。床面：コーナーを除くほとんどが硬化していた。カマド：北壁のほぼ中央と思われる場所に位置する。主軸方位はN-14°-W。長さ108cm/幅80cm以上/壁への掘り込み13cm。袖部はロームを馬蹄形状に掘り残し、その上に粘土を被覆して構築されたと考えられる。袖部に被熱による赤化が確認できた。貯蔵穴：北東コーナーに位置する(P1)。平面形は楕円形。長軸50cm/短軸40cm/深さ31cm。覆土はローム粒・焼土粒を含む暗褐色土・黒褐色土を基調とする。柱穴：検出されなかった。入口施設：検出されなかった。



321H 土層説明

- 1層 黒褐色土 (10192/2) 細りや中強い、粘性や中強い、ローム(φ0.5~1mm)を全体の10~20%含む。炭化物(φ0.5~1mm)を全体の10%含む。粘土(φ0.5~1mm)を全体の10%含む。礫(φ0.5~1mm)を全体の10%含む。
- 2層 黒褐色土 (10192/2) 細りや中強い、粘性や中強い、ローム(φ0.5~1mm)を全体の10%含む。炭化物(φ0.5~1mm)を全体の10%含む。粘土(φ0.5~1mm)を全体の10%含む。
- 3層 黒褐色土 (7, 10192/2) 細りや中強い、粘性や中強い、ローム(φ0.5~10mm)を全体の10%含む。炭化物(φ0.5~1mm)を全体の10%含む。粘土(φ0.5~1mm)を全体の10%含む。
- 4層 暗褐色土 (7, 10193/2) 細りや中強い、粘性や中強い、ローム(φ0.5~5mm)を全体の10%含む。炭化物(φ0.5~1mm)を全体の10%含む。粘土(φ0.5~1mm)を全体の10%含む。礫土(φ0.5~1mm)を全体の10%含む。ロームブロック5~30
- 5層 黒褐色土 (10192/2) 細りや中強い、粘性や中強い、ローム(φ0.5~1mm)を全体の10%含む。炭化物(φ0.5~1mm)を全体の10%含む。粘土(φ0.5~1mm)を全体の10%含む。
- 6層 暗褐色土 (10193/2) 細りや中強い、粘性強い、ローム(φ0.5~1mm)を全体の10%含む。炭化物(φ0.5~1mm)を全体の10%含む。粘土(φ0.5~1mm)を全体の10%含む。礫土(φ0.5~1mm)を全体の10%含む。
- 7層 暗褐色土 (10193/2) 細り強い、粘性や中強い、ローム(φ0.5~1mm)を全体の10%含む。炭化物(φ0.5~1mm)を全体の10%含む。粘土(φ0.5~1mm)を全体の10%含む。
- 8層 黒褐色土 (10192/2) 細りや中強い、粘性や中強い、ローム(φ0.5~1mm)を全体の10%含む。炭化物(φ0.5~1mm)を全体の10%含む。粘土(φ0.5~1mm)を全体の10%含む。
- 9層 黒褐色土 (7, 10193/2) 細りや中強い、粘性や中強い、ローム(φ0.5~1mm)を全体の10%含む。炭化物(φ0.5~1mm)を全体の10%含む。粘土(φ0.5~1mm)を全体の10%含む。
- 10層 黒褐色土 (7, 10193/2) 細りや中強い、粘性強い、ローム(φ0.5~1mm)を全体の10%含む。炭化物(φ0.5~1mm)を全体の10%含む。粘土(φ0.5~1mm)を全体の10%含む。
- 11層 灰褐色土 (7, 10193/2) 細り強い、粘性強い、ローム(φ0.5~1mm)を全体の10%含む。炭化物(φ0.5~1mm)を全体の10%含む。粘土(φ0.5~1mm)を全体の10%含む。
- 12層 暗褐色土 (10193/2) 細り強い、粘性や中強い、ローム(φ0.5~1mm)を全体の10%含む。炭化物(φ0.5~1mm)を全体の10%含む。粘土(φ0.5~1mm)を全体の10%含む。
- 13層 灰褐色土 (7, 10193/2) 細りや中強い、粘性強い、粘土(φ0.5~1mm)を全体の10%含む。礫土(φ0.5~1mm)を全体の10%含む。
- 14層 褐色土 (7, 10193/2) 細りや中強い、粘性強い、粘土(φ0.5~1mm)を全体の10%含む。礫土(φ0.5~1mm)を全体の10%含む。

P1 土層説明

- 1層 暗褐色土 (7, 10193/2) 細りや中強い、粘性や中強い、ローム(φ0.5~1mm)を多量、炭化物(φ0.5~1mm)を多量、粘土(φ0.5~1mm)を多量含む。
- 2層 暗褐色土 (7, 10193/2) 細りや中強い、粘性強い、ローム(φ0.5~1mm)を全体の10%含む。粘土(φ0.5~1mm)を全体の10%含む。

■ 粘土 1/50

第161図 321号住居跡・遺物出土状態(1/60)

〔覆 土〕14層に分層できた。

〔遺 物〕須恵器長頸瓶・甕、土師器環・鉢・甕・甔、土製の支脚、砥石、刀子、鉄滓、種実（モモ）が出土した。小型の住居で、かつ、東側半分の調査であるが、遺物量が非常に多い。先述の通り、遺物の出土位置の記録が途中で欠如することとなったが、遺物の大部分は、覆土中からの出土であり、床面上からの出土はほとんどない。貯蔵穴から環（31・32・80）がまとまって出土した。

〔時 期〕古墳時代後期（7世紀後葉）。

〔遺 物〕（第163～169図、図版85-2、図版86～92、第66表）

〔土 器〕（第163～168図1～60、図版85-2-1～30、図版86～92-31～60・64～108、第66表）

1・2は須恵器で、1は甕・瓶類、2は甕、3～60は土師器で、3～34は環、35・36は鉢、37～58は甕、59・60は甔である。64～108は、写真のみ掲載する。全て土師器で、64～85は環、86～89・90～102は甕、90・103～108は甔である。

〔土製品〕（第169図61、図版91-61、第66表）

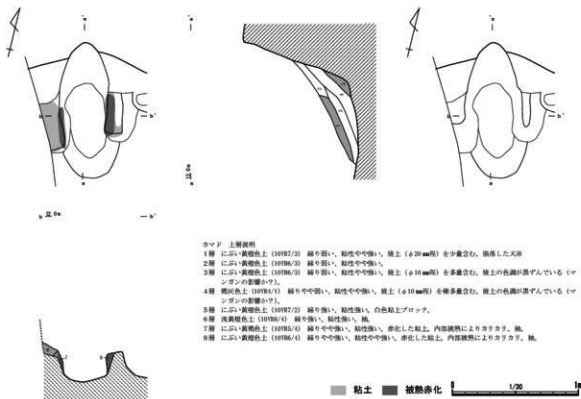
61は支脚である。

〔石製品〕（第169図62、図版91-62、第66表）

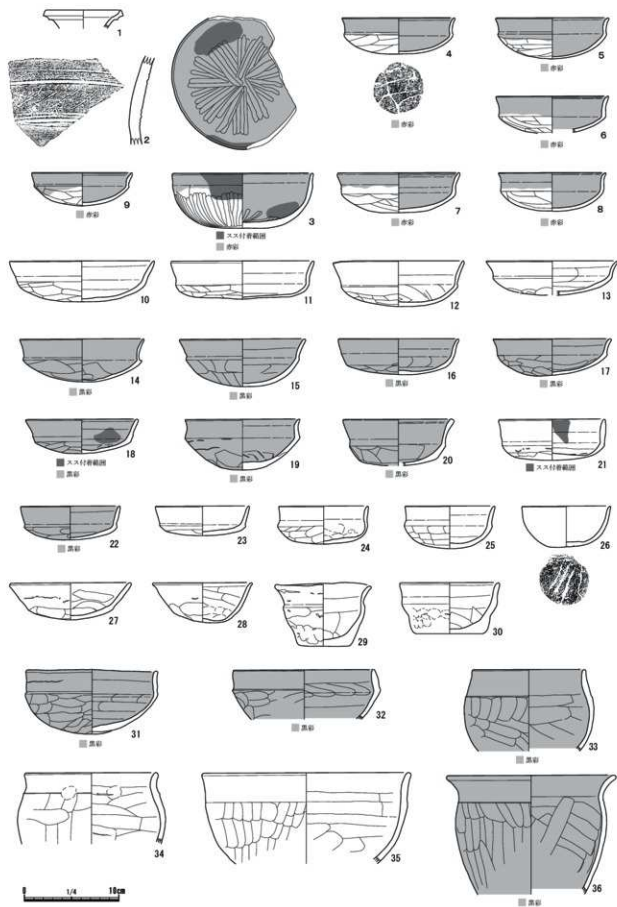
62は砥石である。

〔鉄製品〕（第169図63、図版91-63、第66表）

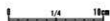
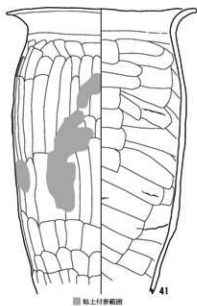
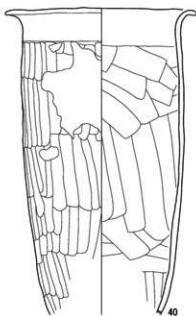
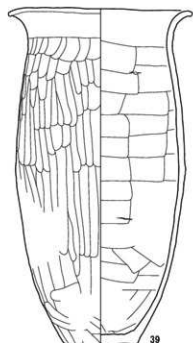
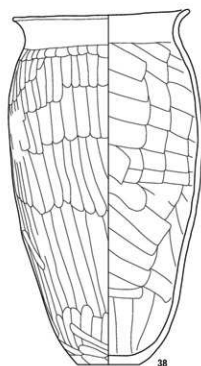
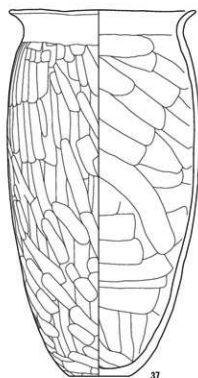
63は刀子である。



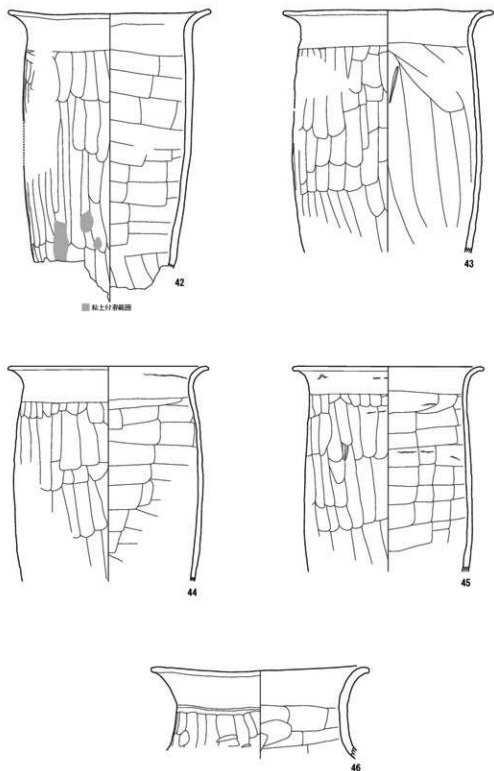
第162図 321号住居跡カマダ（1/30）



第163図 321号住居跡出土遺物1 (1/4)



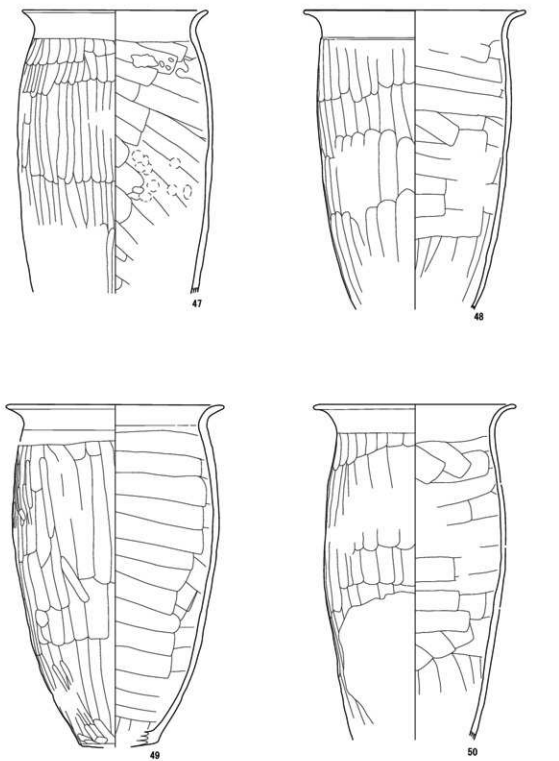
第 164 図 321 号住居跡出土遺物 2 (1/4)



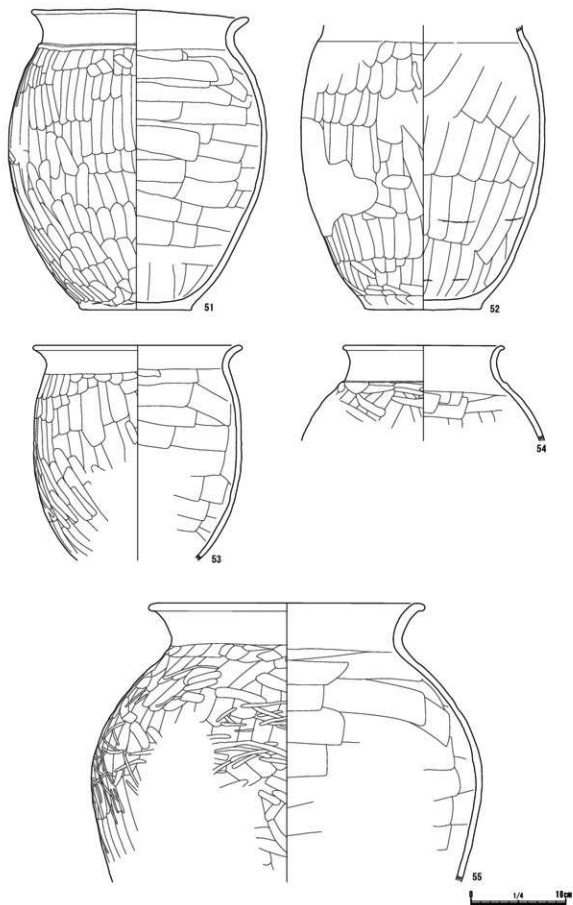
■ 粘土片着痕跡



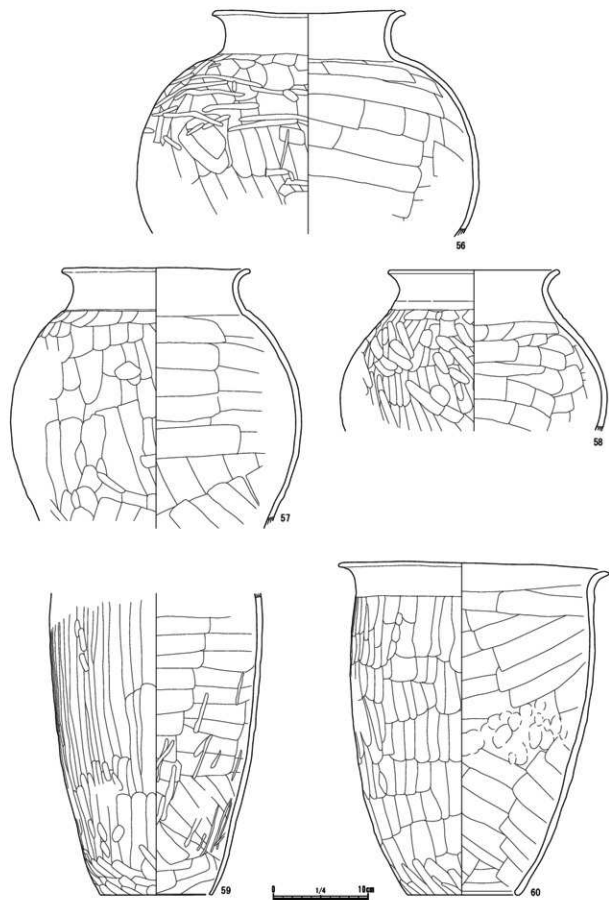
第165図 321号住居跡出土遺物3 (1/4)



第166图 321号住居跡出土遺物4(1/4)



第167図 321号住居跡出土遺物5（1/4）



第168图 321号住居跡出土遺物6(1/4)



第169図 321号住居跡出土遺物7 (1/3・1/4)

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第163図1 図版85-2-1	須志器 長頸瓶	覆土中	口縁部 5%	高口 12.0 (8.4)	褐色色	砂粒・白色粒子中量	内外面軸付着/内面:回転ナデ/外面:回転ナデ	湖西窯跡産
第163図2 図版85-2-2	須志器 甕	覆土中	胴部片	厚 1.2	灰色	砂粒多量/白色粒子中量/小礫少量	上段2条横線、下段2~3条横線、上下横線間斜位の沈線で充填/内面:横ナデ/外面:横ナデ	産地不明
第163図3 図版85-2-3	土師器 環	南側覆土中	口縁~ 底部 80%	高口 5.8 (15.0)	赤色~褐色	砂粒多量/白色粒子・赤色粒子・小礫中量/角閃石少量	内面~外面口縁部赤彩/内外面スス付着/口唇内面沈線無し/内面:口縁部横ナデ、見込部放射状のミガキ/外面:口縁部横ナデ、体上部ヘラケズリ、体部丁寧なミガキ	入間系土師器
第163図4 図版85-2-4	土師器 環	南側覆土中	口縁~ 底部 70%	高口 3.8 12.0	赤~赤褐色	砂粒多量/白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・小礫中量/角閃石少量	内面~外面口縁部赤彩/口唇内面沈線状/内面:横ナデ/外面:口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	いわゆる比企型環/入間系土師器
第163図5 図版85-2-5	土師器 環	南側覆土中	口縁~ 底部 80%	高口 4.3 12.0	赤~赤褐色	砂粒多量/白色粒子・赤色粒子・小礫中量/角閃石少量	内面~外面口縁部赤彩/口唇内面沈線状/内面:横ナデ/外面:口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	いわゆる比企型環/入間系土師器
第163図6 図版85-2-6	土師器 環	覆土中	口縁~ 底部 40%	高口 14.0 11.9	赤~赤褐色 い黄褐色	砂粒やや多量/白色粒子・黒色粒子中量	内面~外面口縁部赤彩/口唇内面沈線状/内面:横ナデ/外面:口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	いわゆる比企型環/入間系土師器
第163図7 図版85-2-7	土師器 環	覆土中	口縁~ 底部 40%	高口 4.2 13.0	赤~赤褐色 い褐色	砂粒やや多量/白色粒子・黒色粒子・石英・角閃石・小礫中量	内面~外面口縁部赤彩/口唇内面沈線状/内面:口縁部横ナデ、見込部ナデ/外面:口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	いわゆる比企型環/入間系土師器
第163図8 図版85-2-8	土師器 環	覆土中	ほぼ完形	高口 4.1 11.4	赤~赤褐色 い赤褐色	砂粒・黒色粒子多量/赤色粒子中量/角閃石少量	内面~外面口縁部赤彩/口唇内面沈線状/内面:口縁部横ナデ、見込部ヘラナデ/外面:口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	いわゆる比企型環/入間系土師器
第163図9 図版85-2-9	土師器 環	中央の覆土中(床上92cm)	口縁~ 底部 90%	高口 3.5 10.6	赤~明赤 褐色	砂粒・黒色粒子やや多量/小礫中量/白色粒子・角閃石少量	内面~外面口縁部赤彩/口唇内面沈線状/内面:口縁部横ナデ、見込部ナデ/外面:口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	いわゆる比企型環/入間系土師器
第163図10 図版85-2-10	土師器 環	貯蔵穴裏側の覆土中(床上63cm)	口縁~ 底部 70%	高口 4.3 15.4	にぶい褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・石英・角閃石中量	内面:口縁部横ナデ、見込部ナデ/外面:口縁部横ナデ、底部ケズリ	無彩系有稜環/在地系土師器
第163図11 図版85-2-11	土師器 環	南側覆土中	口縁~ 底部 70%	高口 4.0 15.2	にぶい褐色	砂粒・黒色粒子・金雲母中量	内面:口縁部横ナデ、見込部ヘラナデ/外面:口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	無彩系有稜環/在地系土師器
第163図12 図版85-2-12	土師器 環	南東コーナー付近の覆土中(床上82cm)	口縁~ 底部 80%	高口 4.8 13.9	褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子やや多量/石英・角閃石・金雲母中量	内面:口縁部横ナデ、見込部ヘラナデ/外面:口縁部横ナデ、体部ナデ、底部ヘラケズリ	無彩系有段環/在地系土師器

第166表 321号住居跡出土遺物一覧(1)

神岡番号 図版番号	構 造 種 類	出土位置	遺存度	法 量 (cm)	色 調	胎 土	特 徴	備 考
第 163 図 13 図版 85-2-13	土師器 環	南側覆土中	口縁～ 底部 50%	高 口 [3.6] 14.0	にふい・橙 色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子・金雲母中量/ 石英・角閃石少量	内面：横ナデ/外面：口縁部横ナデ、底部 ヘラケズリ	無彩系有段 環/在地系 土師器
第 163 図 14 図版 85-2-14	土師器 環	南側覆土中	ほぼ完 形	高 口 4.5 13.2	赤褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・石英・ 角閃石中量	黒彩/内面：口縁部横ナデ、見込部ヘラナ デ/外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	黒色系有段 環/在地系 土師器
第 163 図 15 図版 85-2-15	土師器 環	覆土中	口縁～ 底部 50%	高 口 5.0 13.4	褐色	砂粒・黒色粒子・ 金雲母中量/石英 ・角閃石少量	黒彩/内面：横ナデ、見込部刻離の為不明 /外面：口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	黒色系有段 環/在地系 土師器
第 163 図 16 図版 85-2-16	土師器 環	中央東側の 覆土中(床 上 94cm)	口縁～ 底部 90%	高 口 3.8 12.8	にふい・橙 色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・金雲母 中量	黒彩/内面：横ナデ/外面：口縁部横ナデ、 底部ヘラケズリ	黒色系有段 環/在地系 土師器
第 163 図 17 図版 85-2-17	土師器 環	覆土中	口縁～ 底部 70%	高 口 3.9 12.6	にふい・橙 色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・石英中 量/角閃石少量	黒彩/内面：口縁部横ナデ、見込部ヘラナ デ→一部指押え/外面：口縁部横ナデ、底 部ヘラケズリ	黒色系有段 環/在地系 土師器
第 163 図 18 図版 85-2-18	土師器 環	覆土中	口縁～ 底部 60%	高 口 3.6 12.0	褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・石英中 量	黒彩/内面ス付着/内面：口縁部横ナデ、 見込部ヘラナデ、一部指押え/外面：口縁 部横ナデ、底部ヘラケズリ	黒色系有段 環/在地系 土師器
第 163 図 19 図版 85-2-19	土師器 環	貯蔵穴6割開 の覆土中(床 上 108cm)	口縁～ 底部 50%	高 口 5.3 12.2	にふい・黄 褐色	砂粒・黒色粒子・ 赤色粒子・金雲母 中量/角閃石少量	黒彩/内面：口縁部横ナデ、見込部ヘラナ デ/外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	黒色系有段 環/在地系 土師器
第 163 図 20 図版 85-2-20	土師器 環	中央の覆土 中(床上 102・103 cm)	口縁～ 底部 70%	高 口 [4.8] 11.8	にふい・橙 色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・石英・ 角閃石・金雲母中 量	黒彩/内面：口縁部横ナデ、見込部ヘラナ デ/外面：口縁部横ナデ、体→底部ヘラケ ズリ	黒色系有段 環/在地系 土師器
第 163 図 21 図版 85-2-21	土師器 環	南側覆土中	完形	高 口 4.3 11.3	にふい・橙 色	砂粒・黒色粒子・ 金雲母中量	内面ス付着/内面：横ナデ/外面：口縁 部横ナデ、底部ヘラケズリ	無彩系有段 環/在地系 土師器
第 163 図 22 図版 85-2-22	土師器 環	南側覆土中	口縁～ 底部 90%	高 口 3.6 10.6	にふい・橙 色	砂粒・黒色粒子・ 金雲母中量/角閃 石少量	黒彩/内面：横ナデ/外面：口縁部横ナデ、 底部ヘラケズリ	黒色系有段 環/在地系 土師器
第 163 図 23 図版 85-2-23	土師器 環	南側覆土中	口縁～ 底部 90%	高 口 3.1 10.0	にふい・橙 色	砂粒・黒色粒子・ 赤色粒子・金雲母 中量/石英・角閃 石少量	内面：横ナデ/外面：口縁部横ナデ、底部 ヘラケズリ	無彩系有段 環/在地系 土師器
第 163 図 24 図版 85-2-24	土師器 環	覆土中	口縁～ 底部 90%	高 口 4.0 9.4	にふい・橙 色	砂粒・黒色粒子・ 金雲母中量/石英 少量	内面：口縁部横ナデ、見込部指押え/外面 口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	無彩系有段 環/在地系 土師器
第 163 図 25 図版 85-2-25	土師器 環	覆土中	口縁～ 底部 90%	高 口 4.5 9.6	にふい・橙 色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・中量/ 石英少量	内面：口縁部横ナデ、見込部刻離の為不明 /外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリか?	無彩系有段 環/在地系 土師器
第 163 図 26 図版 85-2-26	土師器 環	南側覆土中	口縁～ 底部 70%	高 口 4.4 9.4	にふい・黄 褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・金雲母 やや多量/角閃 石・小礫少量	底部外面3～4条線刻/内外面：器面が 荒れているため調整不明	無彩系有段 環か/在地 系土師器
第 163 図 27 図版 85-2-27	土師器 環	南側覆土中	口縁～ 底部 30%	高 口 3.9 13.0	褐色	砂粒・雲母やや多 量	内面：口縁部横ナデ、見込部ヘラナデ/外 面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	無彩系有段 環/在地系 土師器
第 163 図 28 図版 85-2-28	土師器 環	覆土中	口縁～ 底部 50%	高 口 4.2 10.6	にふい・橙 色	砂粒・雲母やや多 量/角閃石少量	内面：口縁部横ナデ、見込部指押え/外面 口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	無彩系有段 環/在地系 土師器
第 163 図 29 図版 85-2-29	土師器 環	覆土中	完形	高 口 6.7 10.2 5.5	にふい・橙 色	砂粒・雲母やや多 量/白色粒子・小 礫中量	平底/内面：口縁～体部横ナデ、見込部 ヘラナデ/外面：口縁部横ナデ、体部ヘラ ナデ、体下部指押え	粗雑品/在 地系土師器

第 66 表 321 号住居跡出土遺物一覽(2)

第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存状況	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第163図30 図版85-2-30	土師器 杯	南側覆土中	口縁～ 底部 30%	高口 5.4 (10.6) 底 7.4	褐色	砂粒やや多量・赤 色粒子中量/金雲 母・小礫少量	平底/内面:口縁部横ナデ、見込部ヘラク ズリ/外面:口縁部横ナデ、体下部指押え、 底部ヘラケズリ	粗雑品/在 地系土師器
第163図31 図版86-31	土師器 杯	貯蔵穴内(底上 9・11cm)	口縁～ 底部 30%	高口 14.0	にぶい、橙 色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子中量/角閃石・ 雲母少量	黒彩/内面:横ナデ/外面:口縁部横ナデ、 底部ヘラケズリ	黒色系有段 杯/在地系 土師器
第163図32 図版86-32	土師器 杯	貯蔵穴内(底上 7cm)	口縁～ 体部 15%	高口 [5.2] (15.0)	にぶい、橙 色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子中量/石英・角 閃石・金雲母少量	黒彩/内面:横ナデ/外面:口縁部横ナデ、 体部ヘラケズリ	黒色系有段 杯/在地系 土師器
第163図33 図版86-33	土師器 杯	カマド南側の 覆土中(床 上93・104 cm)	口縁～ 体部 15%	高口 [8.6] (12.1)	褐色	砂粒・雲母やや多 量/白色粒子・黒 色粒子・赤色粒子 ・角閃石中量/石 英少量	黒彩/深身の境タイプ/内面:口縁部横ナ デ、体部ヘラナデ/外面:口縁部横ナデ、 体部ヘラケズリ	黒色系有段 杯/在地系 土師器
第163図34 図版86-34	土師器 杯	南壁付近の 覆土中(床 上114cm)	口縁～ 体部 10%	高口 [7.5] (14.1)	褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子中量/長石・角 閃石・雲母・小礫 少量	深身の境タイプ/内面:口縁部横ナデ、体 部ヘラナデー→部指押え/外面:口縁部 横ナデ、体部ヘラケズリ→部指押え	無彩系有段 杯/在地系 土師器
第163図35 図版86-35	土師器 鉢	中央南東側の 覆土中(床 上105cm)	口縁～ 体部 15%	高口 [9.6] (22.2)	褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子中量/長 石・角閃石・金雲 母少量	内面:口縁部横ナデ、体部ヘラナデ/外面: 口縁部ナデ、体部ヘラナデ	浅鉢タイプ /在地系土 師器
第163図36 図版86-36	土師器 鉢	カマド内(火 床13・14cm)	口縁～ 体部 10%	高口 [12.6] (18.0)	にぶい、橙 色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子・石英・角閃石・ 雲母中量	黒彩/内面:口縁部横ナデ、体部ヘラナ デ/外面:口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	在地系土師 器
第164図37 図版86-37	土師器 甕	南側覆土中	ほぼ完 形	高口 38.7 底 6.4	にぶい、橙 色～黒色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子・石英・角閃石 中量/雲母少量	最大径を胴上部に持つ/内面:口縁部横ナ デ、胴部ヘラナデ/外面:口縁部横ナデ、 胴部ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	長甕/在地 系土師器
第164図38 図版86-38	土師器 甕	南側覆土中	ほぼ完 形	高口 6.4 底 18.4 37.5	褐色	砂粒やや多量/白 色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・石英・ 長石・角閃石中量	最大径を胴上部に持つ/内面:口縁部横ナ デ、胴部斜位、横位ヘラナデ胴下部縦ヘ ラナデ/外面:口縁部横ナデ、胴部縦ヘラ ナデ、底部ヘラケズリ	長甕/在地 系土師器
第164図39 図版86-39	土師器 甕	カマド南側 の覆土中(床 上98cm)	口縁～ 底部 70%	高口 [35.4] (19.5) 底 7.7	褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・石英・ 角閃石中量	最大径を口縁部に持つ/内面:口縁部横ナ デ、胴部ヘラナデ/外面:口縁部横ナデ、 胴部ヘラケズリ	長甕/在地 系土師器
第164図40 図版86-40	土師器 甕	南壁付近の 覆土中(床 上92cm)	口縁～ 胴部 30%	高口 [32.1] 19.0	褐色	砂粒やや多量/白 色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・角閃石・ 雲母中量/石英少 量	最大径を口縁部に持つ/外面割離あり/内 面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面: 口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕/在地 系土師器
第164図41 図版86-41	土師器 甕	覆土中	口縁～ 胴部 80%	高口 30.3 20.1	褐色	砂粒やや多量/白 色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・石英・ 金雲母・小礫中量	最大径を口縁部に持つ/外面粘土付着/内 面ツツメが目立つ/内面:口縁部横ナデ、 胴部ヘラナデ/外面:口縁部横ナデ、胴部 ヘラケズリ	長甕/在地 系土師器
第165図42 図版87-42	土師器 甕	覆土中	口縁～ 胴部 70%	高口 [33.2] 21.2	褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子・角閃石・雲母 中量	最大径を口縁部に持つ/外面粘土付着/や や内厚/内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナ デ/外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕/在地 系土師器
第165図43 図版87-43	土師器 甕	覆土中	口縁～ 胴部 50%	高口 [25.5] 21.8	褐色	砂粒やや多量/白 色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・角閃石・ 金雲母中量	最大径を口縁部に持つ/内面:口縁部横ナ デ、胴部ヘラナデ/外面:口縁部横ナデ、 胴部ヘラケズリ	長甕/在地 系土師器
第165図44 図版87-44	土師器 甕	覆土中	口縁～ 胴部 30%	高口 [22.8] (20.9)	褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・長石・ 角閃石・雲母中量	最大径を口縁部に持つ/内面:口縁部横ナ デ、胴部ヘラナデ/外面:口縁部横ナデ、 胴部ヘラケズリ	長甕/在地 系土師器
第165図45 図版87-45	土師器 甕	覆土中	口縁～ 胴部 20%	高口 [21.7] (20.2)	褐色	砂粒やや多量/白 色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・石英中 量/長石・角閃石・ 雲母少量	最大径を口縁部に持つ/内面:口縁部横ナ デ、胴部ヘラナデ/外面:口縁部横ナデ、 胴部ヘラケズリ	長甕/在地 系土師器

第66表 321号住居跡出土遺物一覧(3)

神岡番号 図版番号	構 造 種	出土位置	遺存度	法 量 (cm)	色 調	胎 土	特 徴	備 考
第 165 図 46 図版 87-46	土師器 甕	覆土中	口縁～ 頸部 10%	高 口 [9.6] 22.7	褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子・角閃石中量	内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面: 口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ、一部に工 具痕	丸壺/在地 系土師器
第 166 図 47 図版 88-47	土師器 甕	南側覆土中	口縁～ 胴部 20%	高 口 [29.9] (19.2)	褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子・石英中量	最大径を胴上部に持つ/内面:口縁部横ナ デ、胴部ヘラナデ/外面:口縁部横ナデ、 胴部ヘラケズリ	長甕/在地 系土師器
第 166 図 48 図版 88-48	土師器 甕	南側覆土中	口縁～ 胴部 30%	高 口 [31.6] (23.0)	褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子・石英・角閃石 中量	最大径を口縁部に持つ/内面:口縁部横ナ デ、胴部ヘラナデ/外面:口縁部横ナデ、 胴部ヘラケズリ	長甕/在地 系土師器
第 166 図 49 図版 88-49	土師器 甕	覆土中	口縁～ 底部 70%	高 口 [36.2] (2.3) 底 (8.3)	にふい黄 褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子・石英中量	最大径を口縁部に持つ/内面:口縁部横ナ デ、胴部ヘラナデ/外面:口縁部横ナデ、 胴部ヘラケズリ	長甕/在地 系土師器
第 166 図 50 図版 88-50	土師器 甕	南側覆土中	口縁～ 胴部 80%	高 口 [35.5] 21.4	褐色	砂粒やや多量/白 色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・角閃石 中量/石英少量	最大径を口縁部に持つ/外面赤線あり/内 面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面: 口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長甕/在地 系土師器
第 167 図 51 図版 89-51	土師器 甕	南側覆土中	口縁～ 底部 80%	高 口 31.7 22.9 底 11.6	褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子・石英・雲母中 量	内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面: 口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ、底部ヘラ ケズリ	丸壺/在地 系土師器
第 167 図 52 図版 89-52	土師器 甕	覆土中	胴～ 底部 30%	高 底 [30.1] 11.9	褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子・長石・角閃石・ 雲母中量	内面:頸部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面: 頸部横ナデ、胴部ヘラケズリ、底部ヘラケ ズリ	丸壺/在地 系土師器
第 167 図 53 図版 89-53	土師器 甕	覆土中	口縁～ 胴部 30%	高 口 [22.7] 21.6	にふい褐 色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子・長石・金雲母 中量/石英少量	内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面: 口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	丸壺/在地 系土師器
第 167 図 54 図版 89-54	土師器 甕	覆土中	口縁～ 頸部 15%	高 口 [10.1] 17.1	褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・角閃石・ 雲母中量	内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面: 口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	丸壺/在地 系土師器
第 167 図 55 図版 89-55	土師器 甕	覆土中	口縁～ 胴部 25%	高 口 [30.4] (29.0)	褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子・石英・角閃石・ 雲母中量	大型/内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ /外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ 粗いミガキ	丸壺/在地 系土師器
第 168 図 56 図版 90-56	土師器 甕	覆土中	口縁～ 胴部 40%	高 口 [23.9] 19.7	褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・角閃石 中量/長石・雲母 少量	大型/内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ /外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ 粗いミガキ	丸壺/在地 系土師器
第 168 図 57 図版 90-57	土師器 甕	カマド内(火 床上3cm)	口縁～ 胴部 15%	高 口 26.7 19.2	明赤褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・石英・ 角閃石・雲母中量	大型/内面:横ナデ、胴部ヘラナデ/外面: 口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	丸壺/在地 系土師器
第 168 図 58 図版 90-58	土師器 甕	覆土中	口縁～ 胴部 15%	高 口 [17.0] (18.2)	褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子・石英・雲母中 量/小礫少量	内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面: 口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	丸壺/在地 系土師器
第 168 図 59 図版 90-59	土師器 甕	南側覆土中	胴～ 底部 70%	高 底 [31.9] 11.8	にふい褐 色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子・角閃石・雲母 中量	内面:ヘラナデー一部粗いミガキ/外面: 胴部ヘラケズリ、底端部ヘラケズリ	筒抜け式/ 在地系土師 器
第 168 図 60 図版 90-60	土師器 甕	覆土中	口縁～ 底部 80%	高 口 [35.0] 28.0 底 11.7	褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子中量	大型/内面:口縁部横ナデ、胴中位指押式 ヘラナデ、胴部ヘラナデ/外面:口縁部 横ナデ、胴ヘラケズリ、底端部ヘラケズリ	筒抜け式/ 在地系土師 器
図版 91-64	土師器 坏	南側覆土中	口縁～ 底部 30%	高 口 [3.6] (11.8)	赤褐色～ 明赤褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子・長石・小礫中 量	内面～外面口縁部赤彩/口唇内面沈線無し /口縁部は外反する/内面:口縁部横ナデ、 見込部ヘラナデ/外面:口縁部横ナデ、底 部ヘラケズリ	いむゆる比 企業坏/入 間系土師器
図版 91-65	土師器 坏	覆土中	口縁～ 底部 20%	高 口 [3.3] (11.4)	赤褐色～ 明赤褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・長石中 量/小礫少量	内面～外面口縁部赤彩/口唇内面沈線無し /口縁部は外反する/内面:口縁部横ナデ、 見込部ヘラナデ/外面:口縁部横ナデ、底 部ヘラケズリ	いむゆる比 企業坏/入 間系土師器

第 66 表 321 号住居跡出土遺物一覽(4)

検出番号 図版番号	構 造 種	出土位置	遺存状況	法 量 (cm)	色 調	胎 土	特 徴	備 考
図版 91-66	土師器 環	覆土中	口縁～ 底部 10%	高 口 [3.1] (12.0)	明赤褐色 ～褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子中量/小礫少量	内面～外面口縁部赤彩/口唇内面赤、沈 積/口縁部はやや外反する/内面：口縁部横 ナデ、見込部ヘラナデ/外面：口縁部横ナ デ、底部ヘラケズリ	いわゆる比 企型環/入 間系土師器
図版 91-67	土師器 環	覆土中	口縁～ 底部 70%	高 口 4.0 12.0	褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子中量/角 閃石少量	精巧に大きく歪む/内面：口縁部横ナデ 見込部ヘラナデ/外面：口縁部横ナデ、底 部ヘラケズリ	無彩系有稜 環/在地系 土師器
図版 91-68	土師器 環	覆土中	口縁～ 底部 40%	高 口 3.6 12.1	にぶい黄 褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・石英中 量	黒彩/口縁部は外積する/内面：口縁部横 ナデ、見込部ヘラナデ/外面：口縁部横 ナデ底部ヘラケズリ	黒色系有段 環/在地系 土師器
図版 91-69	土師器 環	南壁付近の 覆土中(床 上97cm)	口縁～ 底部 20%	高 口 [4.2] (12.8)	褐色	砂粒・白色粒子中 量/角閃石少量	黒彩/口縁部は外積する/内面：横ナデ/ 外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	黒色系有段 環/在地系 土師器
図版 91-70	土師器 環	南側覆土中	口縁～ 高台部 15%	高 口 [4.2] (13.0)	褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・雲母中 量	口縁部は直立する/内面：横ナデ/外面： 口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	無彩系有稜 環/在地系 土師器
図版 91-71	土師器 環	南側覆土中	口縁部 10%	高 口 [3.6] (13.1)	褐色	砂粒・白色粒子・ 雲母中量	口縁部は直立気味に外反する/内面：横ナ デ/外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	無彩系有稜 環/在地系 土師器
図版 91-72	土師器 環	南側覆土中	口縁～ 底部 40%	高 口 [4.6] (13.0)	にぶい黄 褐色	砂粒やや多量/白 色粒子中量	黒彩/口縁部は直立する/内面：口縁部横 ナデ、見込部ヘラナデ/外面：口縁部横 ナデ、底部ヘラケズリ	黒色系有段 環/在地系 土師器
図版 91-73	土師器 環	覆土中	口縁部 10%	高 口 [4.1] (14.2)	褐色	砂粒やや多量/白 色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子中量/角 閃石少量	口縁部は外積する/内面：横ナデ/外面： 口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	無彩系有稜 環/在地系 土師器
図版 91-74	土師器 環	南側覆土中	口縁～ 底部 30%	高 口 [4.6] (13.6)	褐色	砂粒・白色粒子・ 石英中量/角閃石 少量	黒彩/口縁部は大きく外積する/内面：口 縁部横ナデ、見込部ナデ/外面：口縁部横 ナデ、底部ヘラケズリ	黒色系有段 環/在地系 土師器
図版 91-75	土師器 環	南側覆土中	口縁～ 底部 20%	高 口 [3.8] (14.0)	褐色	砂粒やや多量/白 色粒子・赤色粒子・ 角閃石中量	黒彩/口縁部は外積する/内面：横ナデ/ 外面：口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	黒色系有段 環/在地系 土師器
図版 91-76	土師器 環	覆土中	口縁～ 底部 20%	高 口 [3.9] (13.2)	褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子中量/角 閃石少量	口縁部は直立する/内面：口縁部横ナデ、 見込部横ヘラナデ/外面：口縁部横ナデ、 底部ヘラケズリ	無彩系有段 環/在地系 土師器
図版 91-77	土師器 環	覆土中	口縁～ 底部 40%	高 口 4.5 (12.2)	褐色～灰 黄褐色	砂粒多量/白色粒 子・黒色粒子・雲 母中量	黒彩/口縁部は直立気味に外積する/内 面：横ナデ/外面：口縁部横ナデ、底部 ヘラケズリ	黒色系有段 環/在地系 土師器
図版 91-78	土師器 環	南東コー ナー付近の 覆土中(床 上90cm)	口縁～ 底部 40%	高 口 3.6 (11.4)	褐色～黄 灰色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子・長石中量	口縁部は外積する/内面：口縁部横ナデ、 見込部ヘラナデ/外面：口縁部横ナデ、底 部ヘラケズリ	無彩系有稜 環/在地系 土師器
図版 91-79	土師器 環	南側覆土中	口縁～ 底部 40%	高 口 3.2 (10.4)	褐色～灰 黄褐色	砂粒・赤色粒子・ 雲母中量	口縁部は直立する/内面：横ナデ/外面： 口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	無彩系有段 環/在地系 土師器
図版 91-80	土師器 環	貯蔵穴内(底 上7cm)	口縁～ 底部 20%	高 口 [4.5] (14.2)	にぶい赤 褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子中量	黒彩/口縁部は直立する/内面：口縁部横 ナデ、見込部ナデ/外面：口縁部横ナ デ、底部ヘラケズリ	黒色系有段 環/在地系 土師器
図版 91-81	土師器 環	覆土中	口縁～ 底部 30%	高 口 [4.4] (11.8)	明赤褐色 ～黒褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子・石英・角閃石 中量	黒彩/口縁部は直立気味に内積する/内 面：口縁部横ナデ、見込部ナデ/外面：口 縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	黒色系有段 環/在地系 土師器

第 66 表 321 号住居跡出土遺物一覧(5)

神岡番号 図版番号	構 造 種	出土位置	遺存度	法 量 (cm)	色 調	胎 土	特 徴	備 考
図版 91-82	土師器 環	覆土中	口縁～ 底部 20%	高 口 [2.9] 13.6	褐色	砂粒・黒色粒子・ 雲母中量	黒彩/口縁部は外積する/内面スス付着/ 内面:横ナデ/外面:口縁部横ナデ、底部 ヘラケズリ	黒色系有稜 環/在地系 土師器
図版 91-83	土師器 環	覆土中	口縁～ 底部 20%	高 口 [2.4] (11.5)	褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子・石英中量	黒彩/口縁部は外積する/内面:横ナデ/ 外面:口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	黒色系有稜 環/在地系 土師器
図版 91-84	土師器 環	覆土中	口縁～ 底部 10%	高 口 [3.3] (14.2)	褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子・石英中量/雲 母少量	口縁部は外積する/内面:横ナデ/外面: 口縁部横ナデ、底部ヘラケズリ	無彩色系有稜 環/在地系 土師器
図版 91-85	土師器 環	覆土中	口縁～ 底部 10%	高 口 [3.2] (10.0)	褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子・石英中量	黒彩/口縁部は外積する/内面:口縁 部横ナデ、見込部ナデ/外面:口縁部横ナ デ、底部ヘラケズリ	黒色系有稜 環/在地系 土師器
図版 91-86	土師器 甕	覆土中	口縁～ 胴部 15%	高 口 [18.9] (21.9)	明赤褐色	砂粒やや多量/白 色粒子・角閃石中 量	口縁部は大きく外反する/最大径を口縁部 に持つ/内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケ ズリ/外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長巻/在地 系土師器
図版 91-87	土師器 甕	中央北東側 の覆土中(床 上 82cm)	口縁～ 胴部 15%	高 口 [10.1] 20.0	褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子中量/雲 母少量	口縁部は大きく外反する/最大径を口縁部 に持つ/内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケ ズリ/外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長巻/在地 系土師器
図版 91-88	土師器 甕	覆土中	口縁～ 胴部 15%	高 口 [13.7] 20.3	褐色	砂粒多量/白色粒 子中量	最大径を口縁部にもつ/楕円形に大きく歪 む/確實な焼き上がり/内面:口縁部横ナ デ、胴部ヘラナデ/外面:口縁部横ナデ、 胴部ヘラケズリ	長巻/在地 系土師器
図版 91-89	土師器 甕	覆土中	口縁～ 胴部 15%	高 口 [18.8] (22.8)	褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子・雲母中量	最大径を口縁部にもつ/内面:口縁部横ナ デ、胴部ヘラナデ/外面:口縁部横ナデ、 胴部縦ヘラケズリ	長巻/在地 系土師器
図版 91-90	土師器 甕	中央南側の 覆土中(床 上 100cm)	口縁～ 胴部 15%	高 口 [15.5] (23.9)	褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・雲母中 量/小礫少量	口縁部は大きく外反する/内面:口縁部横 ナデ、胴部ヘラナデ/外面:口縁部横ナ デ、胴部縦ヘラケズリ	在地系土師 器
図版 91-91	土師器 甕	覆土中	口縁～ 胴部 10%	高 口 [11.7] 21.6	にぶい 褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・石英中 量	口縁部は大きく外反する/内面:口縁部横 ナデ、胴部ヘラナデ/外面:口縁部横ナ デ、胴部縦ヘラケズリ	長巻/在地 系土師器
図版 92-92	土師器 甕	覆土中	口縁～ 胴部 10%	高 口 [11.5] (20.1)	褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・石英中 量	内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面 口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長巻/在地 系土師器
図版 92-93	土師器 甕	南側覆土中	口縁～ 胴部 10%	高 口 [9.6] (21.8)	褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・雲母中 量	口縁部は大きく外反する/最大径を口縁部 にもつ/内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナ デ/外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長巻/在地 系土師器
図版 92-94	土師器 甕	南側覆土中	口縁～ 胴部 10%	高 口 [14.9] (20.2)	褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子・雲母中量/角 閃石少量	最大径を胴部中位にもつ/外面粘土付着/ 内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面 口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長巻/在地 系土師器
図版 92-95	土師器 甕	覆土中	口縁～ 胴部 10%	高 口 [13.4] (22.2)	褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子・石英中量	口縁部は大きく外反する/最大径を口縁部 にもつ/内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナ デ/外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	長巻/在地 系土師器
図版 92-96	土師器 甕	南側覆土中	胴～ 底部 10%	高 底 [10.2] 8.3	褐色	砂粒やや多量/白 色粒子・雲母中量	内面:ヘラナデ/外面:ヘラケズリ	長巻/在地 系土師器
図版 92-97	土師器 甕	中央東側の 覆土中(床 上 93-94cm)	胴～ 底部 10%	高 底 [7.6] 5.8	褐色	砂粒・白色粒子・ 雲母中量	外面粘土付着/内面:ヘラナデ/外面:ヘ ラケズリ	長巻/在地 系土師器
図版 92-98	土師器 甕	覆土中	口縁～ 胴部 10%	高 口 [13.2] (21)	にぶい 黄褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・雲母中 量/小礫少量	口縁部は大きく外反する/内面:口縁部横 ナデ、胴部ヘラナデ/外面:口縁部横ナ デ、胴部ヘラケズリ	丸巻/在地 系土師器

第 66 表 321 号住居跡出土遺物一覽(6)

第3章 検出された遺構と遺物

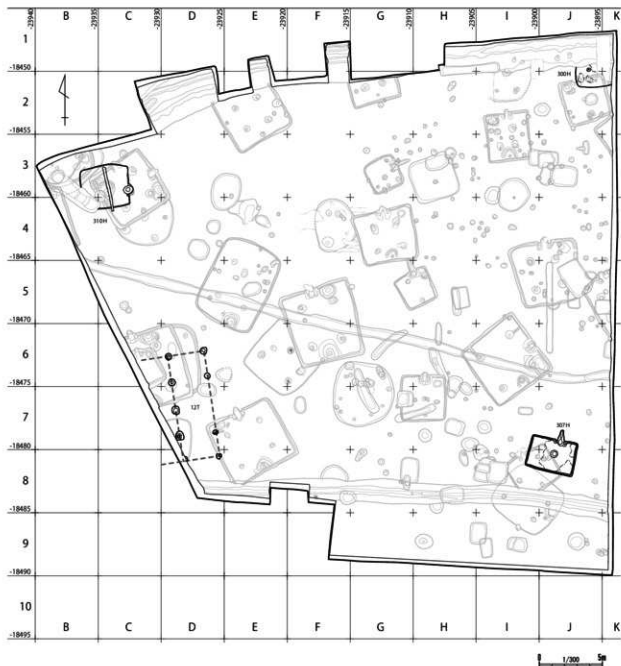
拝因番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考		
図版 92-99	土師器 甕	南東コー ナー付近の 覆土中(床 上107cm)	口縁～ 胴部 10%	高口 [13.1] (18.0)	明褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・角閃石 中量	口縁部は外反する/やや薄い/内面:口縁 部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面:口縁部横 ナデ、胴部ヘラナデ	丸甕/在地 系土師器		
図版 92-100	土師器 甕	覆土中	口縁～ 胴部 10%	高口 [8.3] (14.2)	にぶい黄 色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・長石中 量/雲母少量	口縁部は外反する/外面スス付着/内面: 口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面:口縁 部横ナデ、胴部ヘラナデ	丸甕/在地 系土師器		
図版 92-101	土師器 甕	覆土中	口縁～ 胴部 10%	高口 [7.6] (19.8)	にぶい黄 褐色	砂粒・黒色粒子・ 赤色粒子・石英中 量/小礫少量	口縁部は大きく外反する/内面:口縁部横 ナデ、胴部ヘラナデ/外面:口縁部横ナデ 、胴部ヘラナデ	丸甕/在地 系土師器		
図版 92-102	土師器 甕	覆土中	胴～ 底部 15%	高 [9.0]	にぶい黄 褐色	砂粒・白色粒子・ 石英中量/角閃石 少量	破断面にスス付着/内面:ヘラナデ/外面: ヘラナデ	丸甕/在地 系土師器		
図版 92-103	土師器 甕	覆土中	口縁～ 胴部 10%	高口 [17.5] (25.0)	にぶい黄 色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・石英・ 灰石中量	口縁部は大きく外反する/最大径を口縁部 持つ/内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ →ミガキ/外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラ ナデ	在地系土師 器		
図版 92-104	土師器 甕	覆土中	口縁～ 胴部 10%	高口 [14.6] (28.0)	褐色	雲母やや多量/砂 粒・白色粒子中量	口縁部は外反する/最大径を口縁部に持 つ/内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外 面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ	在地系土師 器		
図版 92-105	土師器 甕	覆土中	口縁～ 胴部 10%	高口 [14.7] (27.2)	黄褐色	砂粒・白色粒子・ 雲母中量/小礫少 量	口縁部は大きく外反する/最大径を口縁部 に持つ/堅い焼き上がり/内面:口縁部横 ナデ、胴部ヘラナデ→ミガキ/外面:口縁 部横ナデ、胴部ヘラナデ	在地系土師 器		
図版 92-106	土師器 甕	覆土中	口縁～ 胴部 10%	高口 [14.5] 25.4	にぶい黄 褐色	砂粒・白色粒子・ 石英中量	口縁部は大きく外反する/最大径を口縁部 に持つ/内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナ デ→ミガキ/外面:口縁部横ナデ、胴部ヘ ラナデ	在地系土師 器		
図版 92-107	土師器 甕	覆土中	口縁～ 胴部 10%	高口 [18.9] (21.6)	褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・石英・ 角閃石・雲母中量 /小礫少量	口縁部は大きく外反する/最大径を口縁部 に持つ/内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナ デ/外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ	在地系土師 器		
図版 92-108	土師器 甕	覆土中	口縁部 10%	高口 [7.9] (23) 16.4	にぶい黄 褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子・石英中量	口縁部は大きく外反する/最大径を口縁部 に持つ/内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナ デ/外面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ	在地系土師 器		
拝因番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	備考	
第169 図 61 図版 91-61	土製品 支那	東側の覆土 中(床上 108cm)	上部欠損	[5.7]	[5.0]	[2.9]	75.7	腹に半分のみ残存する/内部に心棒の抜き取り 穴が残る/外面ヘラナデ		
拝因番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴	備考
第169 図 62 図版 91-62	砥石	覆土中	完形	変質流 紋岩	[83.7]	[40.5]	[37.3]	117.6	分銅形/上下部を大きく欠損/風化に よりにかなりもろくなっている/縦方向 や横方向の擦痕や表面には縦方向の擦 痕がみられる	
拝因番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	備考
第169 図 63 図版 91-63	鉄製品 刀子	東壁付近の 覆土中(床 上120cm)	両端 欠損	鉄	[3.2]	1.1	0.3	2.3	刃部断面は平刃、刃端・棟部を有す/ 基部断面は台形/刀身部長 [1.9cm/幅 1.1cm/厚 0.3cm/基部 [1.3cm/幅 0.8 cm/厚 0.2cm	

第 66 表 321 号住居跡出土遺物一覽(7)

第5節 平安時代

(1) 概要

平安時代の遺構は、住居跡3軒（300 H、307 H、310 H）、掘立柱建築遺構1棟（12 T）を検出した。300 Hは9世紀代、307 Hは9世紀中葉、310 Hは10世紀初頭～前葉の所産と推測される。12 Tは、個別の土坑やピットとして調査していたものを、整理段階で掘立柱建築遺構と認識したものである。柱穴の掘方に差異があることから、東側の柱穴列は此に伴うものと考えられ、東面庇の側柱建物と推測される。時期は、遺物が少なく、推定は難しいが、武蔵型甕とみられる土師器の小片が出土しており、9世紀代かと思われる。



第170図 平安時代遺構全体図（1／300）

(2) 住居跡

300号住居跡

遺 構 (第171図)

[位 置] (J・K-1・2) グリッド。

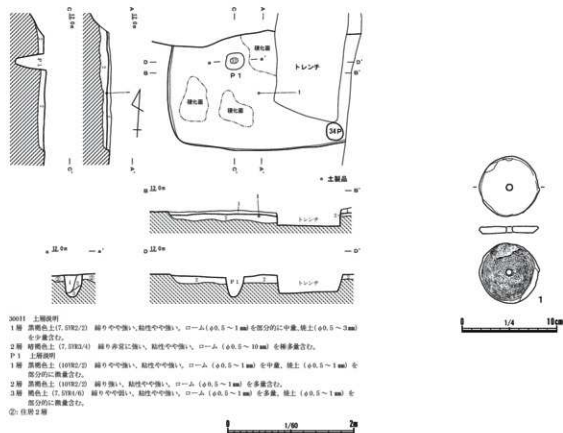
[検出状況] 301 Hを切り、68 M、34 Pに切られる。

[構 造] 平面形：長方形と思われる。規模：長軸3.07m以上/短軸1.94m以上/深さ6cm。壁：ほとんど残存していない。主軸方位：N-4°-W。壁溝：検出されなかった。床面：全体的に軟弱であるが、鳥状に硬化が確認された。貼床は6~13cmの厚さで施されていた。カマド：検出されなかった。貯蔵穴：検出されなかった。柱穴：P1が主柱穴と考えらる。深さ32cm。覆土はローム粒や焼土粒を含む黒褐色土を基調とする。入口施設：検出されなかった。

[覆 土] 1層に分層できた。

[遺 物] 須恵器環を転用した紡錘車、種実(モモ)が出土した。

[時 期] 平安時代(9世紀代か)。



第171図 300号住居跡・出土遺物(1/60・1/4)

発掘番号 図版番号	器 種	出土位置	遺存度	高さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特 徴	備 考
第171図1 図版93-1-1	須恵器 環転用 紡錘車	中央南側の 床面上	完形	6.3	6.4	0.8	34.9	須恵器環底部転用/中央部穿孔/断面上下から斜めに研磨される/胎土：砂粒・白色粒子・黒色粒子・石屑・白色針状物質中量	南比企業 跡産

第67表 300号住居跡出土遺物一覧

遺物(第171図、図版93-1、第67表)

[土製品](第171図1、図版93-1-1、第67表)

1は須恵器杯の底部を転用した紡錘車である。

307号住居跡

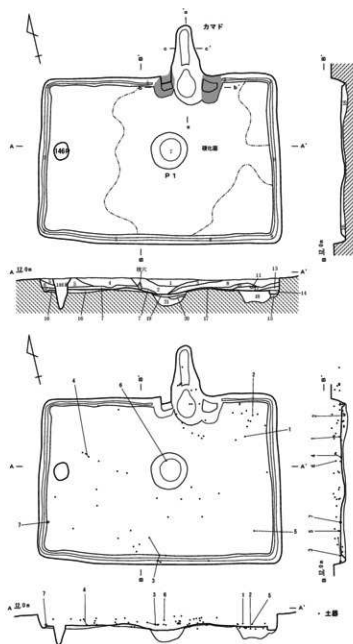
遺構(第172・173図)

[位置](1・J-7・8)グリッド。

[検出状況] 319 Hを切り、146・180・181・182 Pに切られる。

[構造] 平面形:長方形。規模:長軸3.87m/短軸2.75m/深さ17cm。壁:ほぼ垂直に立ち上がる。

主軸方位:N-13°-E。壁溝:カマドを除き全周する。上幅10~17cm/下幅1~6cm/深さ1~9



307II 土層説明

- 1層 黄褐色土 (107B2③) 細りや中強い、粘性やや弱い、ローム (φ0.5~1mm) をブロッケ状 (φ10mm程) に散見、焼土 (φ0.5~1mm) をブロッケ状 (φ20mm程) に散見、褐色土 (φ0.5~1mm) を種多量含む。
- 2層 黄褐色土 (107B2③) 細りや中強い、粘性やや弱い、ローム (φ0.5~1mm) をブロッケ状 (φ10mm程) に散見、焼土 (φ0.5~10mm) をブロッケ状 (φ10~20mm) に散見、褐色土 (φ0.5~1mm) を種多量含む。
- 3層 黄褐色土 (107B2③) 細りや中強い、粘性やや弱い、ローム (φ0.5~1mm) をブロッケ状 (φ10~20mm) に散見、褐色土 (φ0.5~1mm) を種多量含む。
- 4層 黄褐色土 (107B2③) 細りや中強い、粘性やや弱い、ローム (φ0.5~1mm) をブロッケ状 (φ10~20mm) に散見、褐色土 (φ0.5~1mm) を種多量含む。
- 5層 黄褐色土 (107B2③) 細りや中強い、粘性やや弱い、ローム (φ0.5~1mm) を塊状・ブロッケ状 (φ10~20mm) に散見、焼土 (φ0.5~1mm) を部分的に散見、褐色土 (φ0.5~1mm) を種多量含む。
- 6層 黄褐色土 (107B2③) 細りや中強い、粘性やや弱い、ローム (φ0.5~1mm) をブロッケ状 (φ20~40mm) に少量、焼土 (φ0.5~1mm) を塊状に散見、褐色土 (φ0.5~1mm) を種多量含む。
- 7層 黄褐色土 (107B2③) 細りや中強い、粘性やや弱い、ローム (φ0.5~1mm) を塊状に中量、褐色土 (φ0.5~1mm) を塊状に中量含む。
- 8層 黄褐色土 (107B2③) 細りや中強い、粘性やや弱い、ローム (φ0.5~1mm) をブロッケ状 (φ10~40mm) に少量、褐色土 (φ0.5~1mm) を種多量含む。
- 9層 黄褐色土 (107B2③) 細りや中強い、粘性やや弱い、ローム (φ0.5~1mm) を種多量、褐色土 (φ0.5~1mm) をブロッケ状 (φ10~20mm) に少量含む。
- 10層 黄褐色土 (107B5④) 細り非常に強い、粘性やや弱い、ローム (φ0.5~1mm) を多量、褐色土 (φ0.5~1mm) をブロッケ状 (φ20~40mm) に少量含む。
- 11層 黄褐色土 (107B5④) 細り非常に強い、粘性やや弱い、ローム (φ0.5~1mm) を多量、褐色土 (φ0.5~1mm) を塊状に少量含む。
- 12層 黄褐色土 (107B2③) 細りや中強い、粘性やや弱い、ローム (φ0.5~1mm) を塊状・ブロッケ状 (φ10~40mm) に少量、焼土 (φ1~2mm) を塊状に散見、褐色土 (φ0.5~1mm) を種多量含む。
- 13層 黄褐色土 (107B2③) 細りや中強い、粘性やや弱い、ローム (φ0.5~1mm) を塊状に少量、褐色土 (φ0.5~1mm) を種多量含む。
- 14層 黄褐色土 (107B2③) 細りや中強い、粘性やや弱い、ローム (φ0.5~1mm) を塊状に少量、褐色土 (φ0.5~1mm) を種多量含む。
- 15層 褐色土 (107B4⑥) 細りや中強い、粘性やや弱い、ローム (φ0.5~1mm) を塊状に中量、褐色土 (φ0.5~1mm) を塊状に中量含む。灰泥。
- 16層 黄褐色土 (107B5④) 細り非常に強い、粘性やや弱い、ローム (φ0.5~1mm) を多量、褐色土 (φ0.5~1mm) をブロッケ状 (φ20~70mm) に少量含む。灰泥。
- 17層 黄褐色土 (107B5④) 細り非常に強い、粘性やや弱い、ローム (φ0.5~1mm) を多量、褐色土 (φ0.5~1mm) を塊状に少量含む。灰泥。
- 18層 黄褐色土 (107B2③) 細りや中強い、粘性やや弱い、ローム (φ0.5~1mm) を塊状・ブロッケ状 (φ20~40mm) に少量、褐色土 (φ0.5~1mm) を塊状に少量含む。灰泥。
- 19層 黄褐色土 (107B5④) 細り非常に強い、粘性やや弱い、ローム (φ0.5~1mm) を種多量、褐色土 (φ0.5~1mm) を塊状に少量含む。灰泥。
- 20層 黄褐色土 (107B5④) 細り非常に強い、粘性やや弱い、ローム (φ0.5~1mm) を多量、褐色土 (φ0.5~1mm) を少量含む。灰泥。
- 21層 褐色土 (107B4⑥) 細りや中強い、粘性やや弱い、ローム (φ0.5~1mm) を塊状に中量、褐色土 (φ0.5~1mm) を塊状に中量含む。灰泥。

第172図 307号住居跡・遺物出土状態(1/60)

cm。床面：南壁中央付近からカマド前面にかけて硬化していた。貼床は1～10cmの厚さで施されていた。カマド：北壁のほぼ中央に位置する。主軸方位はN-12°-E。長さ124cm/幅110cm/壁への掘り込み80cm。袖部は貼床上に粘土を積み上げて構築されたと考えられる。燃焼部、袖部に被熱による赤化が確認できた。貯蔵穴：検出されなかった。柱穴：P1は上面が皿状に窪み、非常に硬く締まっている。掘立柱のように柱の根本が土中に埋没するのではなく、柱の根本が露出し、床面で支える構造ではないかと推測される。深さ7cm。入口施設：検出されなかった。

[覆土] 14層に分層できた。

[遺物] 須恵器環、土師器甕、土製の支脚が出土した。

[時期] 平安時代(9世紀中葉)。

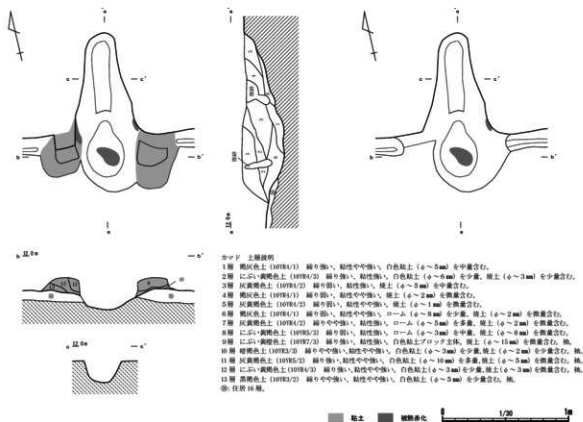
[遺物](第174図、図版93-2、第68表)

[土器](第174図1～6、図版93-2-1～6、第68表)

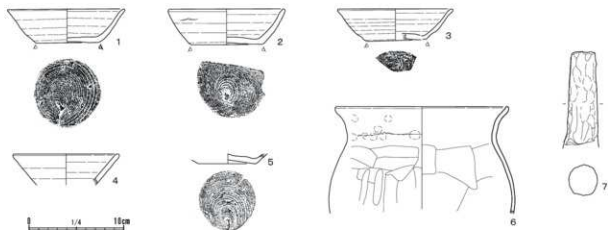
1～5は須恵器環、6は土師器甕である。

[土製品](第174図7、図版93-2-7、第68表)

7は支脚である。



第173図 307号住居跡カマド(1/30)



第174図 307号住居跡出土遺物(1/4)

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考	
第174図1 図版93-2-1	須恵器 鉢	カマド東側の 壇土中(床 上4cm)	口縁～ 底部 90%	高口 3.5 12.4 6.7	灰黄色	砂粒・小礫中量	口縁部は外積する／底部回転糸切り難し後未調整／回転ナデ	東金子窯 跡産	
第174図2 図版93-2-2	須恵器 鉢	カマド東側 の床面上	口縁～ 底部 40%	高口 3.8 (12.3) 7.5	灰黄褐色 ～オリーブ 黒	砂粒・白色針状物 質・小礫中量	口縁部は外積する／底部回転糸切り難し後未調整／回転ナデ／内面見込み平滑	東金子窯 跡産	
第174図3 図版93-2-3	須恵器 鉢	南壁中央付 近の床上レ ベル・壇土 中(床上5 cm)	口縁～ 底部 30%	高口 [3.4] 12.2 6.2	灰色	砂粒・小礫中量	体部薄し／底部回転糸切り難し後未調整／ 回転ナデ	東金子窯 跡産	
第174図4 図版93-2-4	須恵器 鉢	西側のほぼ 床面上・壇 土中(床上 10cm)	口縁部 20%	高口 [3.4] (11.4)	灰色	砂粒・白色粒子中 量	回転ナデ	東金子窯 跡産	
第174図5 図版93-2-5	須恵器 鉢	南東コー ナー付近の 壇土中(床 上6cm)	底部 20%	高底 [1.1] 6.2	明灰黄色	砂粒・白色粒子中 量／長石・小礫少 量	底部回転糸切り難し後未調整／見込中央部 が高い／内面：回転ナデ／外面：回転ナデ ／内面見込み平滑	東金子窯 跡産	
第174図6 図版93-2-6	土師器 甕	P1範囲の 壇土中(床 上13cm)	口縁～ 胴部 10%	高口 [11.4] 18.3	黒褐色～ にふい赤 褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・角閃石 中量	口縁部は外反する／最大径を胴上部に持つ ／内面：口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ／外面： 口縁部横ナデ、胴部ヘラケズリ	武蔵窯産	
検出番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	備考
第174図7 図版93-2-7	土製品 文部	南西コー ナー付近の 床面上	下部欠損	[9.8]	[3.6]	[3.2]	120.2	外面指ナデ・指押え	

第68表 307号住居跡出土遺物一覧

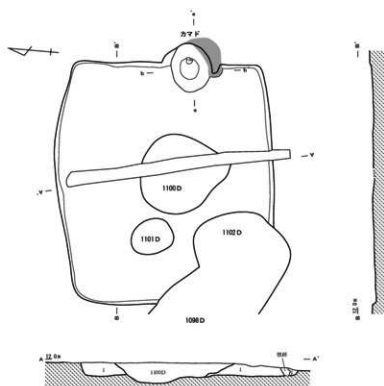
310号住居跡

遺構(第175・176図)

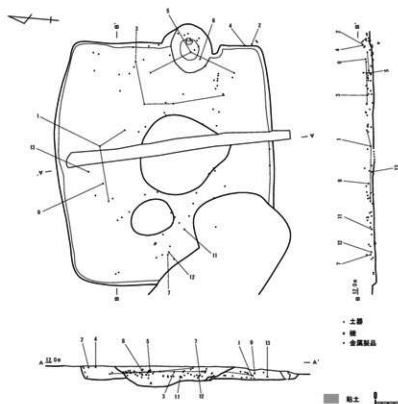
[位置] (B・C-3・4) グリッド。

[検出状況] 317 H、13・14 Jを切り、1098・1100・1101・1102 Dに切られる。

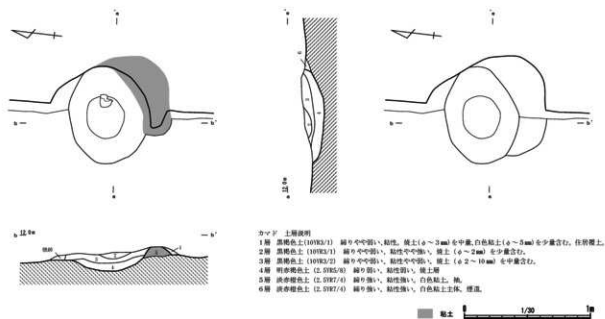
[構造] 平面形：長方形。規模：長軸 3.91m / 短軸 3.52m / 深さ 21cm。壁：ほぼ垂直に立ち上がる。主軸方位：N-85°-E。壁溝：検出されなかった。床面：全体的に軟弱である。カマド：東壁の中央南よりに位置する。主軸方位はN-83°-E。長さ 85cm / 幅 97cm / 壁への掘り込み 37cm。袖部は掘方から直接粘土を積み上げて構築されたと考えられる。火床面の中央奥よりの位置から、細長い礫が直



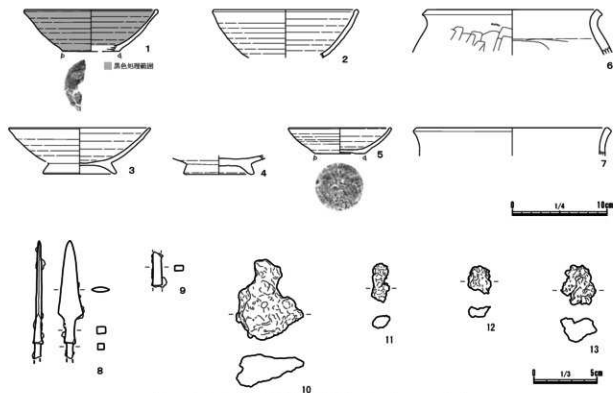
31011 土層説明
 1層 厚褐色土(砂利混じり) 粘り強い、粘性中程度、 σ - μ (ϕ 0.5~1mm)を全体の1~5割、同粒径(ϕ 0.5~1mm)を全体の1割量、 σ 上(ϕ 0.5~1mm)を全体の1割量含む。



第175図 310号住居跡・遺物出土状態(1/60)



第176図 310号住居跡カマド(1/30)



第177図 310号住居跡出土遺物(1/3・1/4)

立して出土しており、支脚として使用されたものと推測される。貯蔵穴：検出されなかった。柱穴：検出されなかった。入口施設：検出されなかった。

〔覆 土〕単層。

〔遺 物〕須恵系土師質土器(高台付杯・皿、土師器(甕、鉄鉢、鉄滓、支脚として使われた礫)が出土した。

6と10は1100Dからの出土であるが、本遺構に帰属する可能性が高いと考えられるため、ここに掲

第3章 検出された遺構と遺物

図版番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考		
第177図1 図版91-3-1	須恵系 土師質 土器 坏	北側の覆土 中(床上4 ~11cm)	口縁~ 底部 20%	高口 4.4 (14.2) 底 6.0	黒褐色~ にぶい黄 褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子中量	内外面黒色処理/底部回転糸切り離し後未 調整/回転ナデ			
第177図2 図版91-3-2	須恵系 土師質 土器 坏	南東コー ナーの覆土 中(床上17 cm)	口縁~ 体部 25%	高口 15.0 (15.6)	褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・小礫中 量/石英・角閃石 少量	回転ナデ			
第177図3 図版91-3-3	須恵系 土師質 土器 高台付 坏	中央東側の 覆土中(床 上10~12 cm)	口縁~ 高台部 40%	高口 4.9 (15.0) 底 7.7	明赤褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・石英・ 角閃石中量	底部回転糸切り離し/回転ナデ			
第177図4 図版91-3-4	須恵系 土師質 土器 高台付 坏	南東コー ナーの覆土 中(床上18 cm)	高台部	高底 12.0 (7.4)	褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子中量/小 礫少量	回転ナデ			
第177図5 図版91-3-5	須恵系 土師質 土器 皿	カマド内(火 床上14cm)、 カマド風片 の覆土中(床 上7・17cm)	口縁~ 底部 20%	高口 2.2 (10.9) 底 (5.2)	褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子・長石中量	底部回転糸切り離し後未調整/回転ナデ			
第177図6 図版91-3-6	土師器 壺	1100D(底 上15cm)	口縁~ 頸部 5%	高口 14.8 (19.0)	明赤褐色	砂粒やや多量/白 色粒子・赤色粒子 中量/角閃石少量	口唇幅広い/口縁部は短く外反する/内面: 口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外面:口縁 部横ナデ、胴部ヘラナデ			
第177図7 図版91-3-7	土師器 鉢・鉢	西側の覆土 中(床上5 cm)	口縁部 5%	高口 3.0 (20.9)	にぶい褐 色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子・石英・角閃石 中量	横ナデ			
図版番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	備考
第177図10 図版91-3-10	鉄滓	1100D(底 上20cm)	—	鉄	6.3	5.3	2.8	66.0		
第177図11 図版91-3-11	鉄滓	西側の覆土 中(床上3 cm)	—	鉄?	3.1	1.5	1.2	2.7	破熟により発泡	
第177図12 図版91-3-12	鉄滓	西側の覆土 中(床上4 cm)	—	鉄?	2.2	1.9	0.9	1.5	破熟により発泡	
第177図13 図版91-3-13	鉄滓	北側の覆土 中(床上3 cm)	—	鉄?	3.3	2.8	1.9	4.0	破熟により発泡	
第177図8 図版91-3-8	鉄製品 鉄鏃	カマド内(火 床上17cm)	基部部 欠損	鉄	19.4	2.0	0.6	13.8	鏃身部は長三角形を呈し、断面は両丸 造。斜めの間を有す/間径部/鏃身部 長6.3cm/幅1.9cm/厚0.4cm/鏃部 長1.9cm/幅0.6cm/厚0.5cm/基部 1.2cm/幅0.5cm/厚さ0.4cm	
第177図9 図版91-3-9	鉄製品 鉄鏃	北側の覆土 中(床上8 cm)	鏃部部	鉄	12.7	0.6	0.4	2.9	長細鏃の鏃部/断面長方形	

第69表 310号住居跡出土遺物一覧

載する。

[時期] 平安時代(10世紀前葉)。

[遺物](第177図、図版93-3、第69表)

[土器](第177図1~7、図版93-3-1~7、第69表)

1~5は須恵系土師質土器で、1・2は坏、3・4は高台付坏、5は皿、6は土師器の壺、7は土師器の鉢あるいは鉢である。

[鉄製品](第177図8~13、図版93-3-8~13、第69表)

8・9は鉄鏃、10~13は鉄滓である。

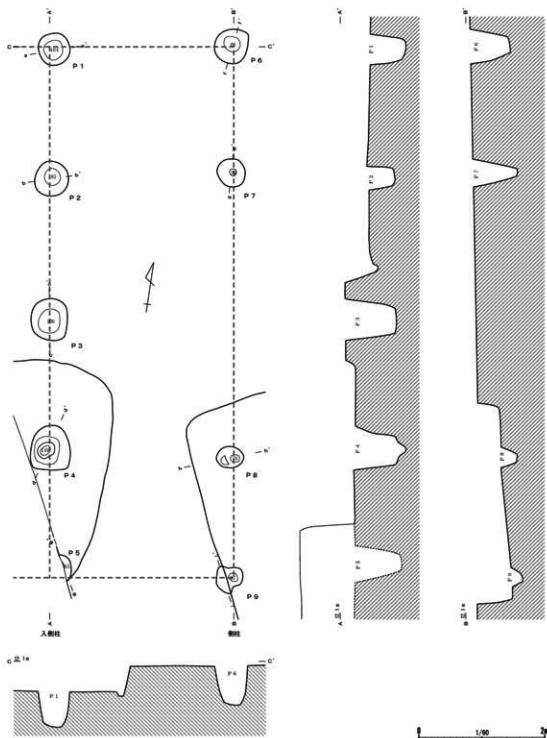
(3) 掘立柱建築遺構

12号掘立柱建築遺構

遺構 (第178・179図)

[位置] (D-6~8) グリッド。

[検出状況] 調査時点では、個別の土坑やピットとして扱っていたが、調査終盤から整理作業において、掘立柱建築遺構であるという認識にいたった。西側の調査区境で検出したため、建物の大部分が調査区



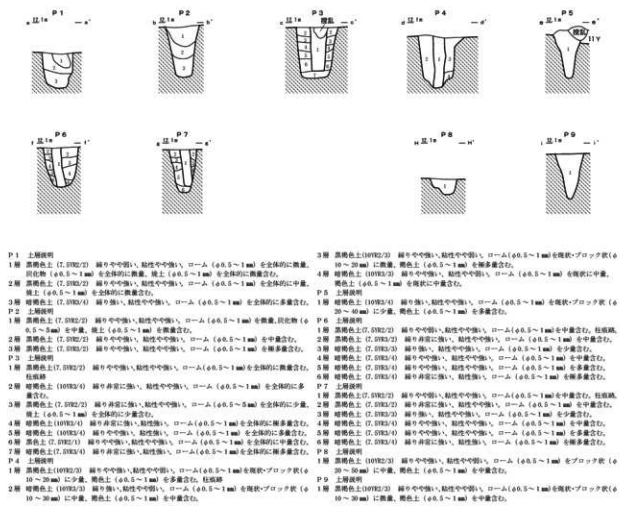
第178図 12号掘立柱建築遺構 (1/60)

外である。304 H・305 H、11 Y、10 J を切る

[構 造] 平面形式：桁行4間、南北棟、東面底の側柱建物。規模：桁行総長 8.95m / 梁行総長 3.47m 以上。主軸方位：N-9°-W。柱穴：東側の柱穴は西側のものに比べ、平面規模が小さく、掘り込みの深さも浅いことから、底に伴う柱穴と推測される。西側の柱穴を入側柱、東側の柱穴を側柱と考えた。<入側柱>平面形は円形～楕円形。規模は長軸 52～71cm / 短軸 51～66cm / 深さ 83～119cm。柱間隔は P 1-2 間 210cm / P 2-3 間 225cm / P 3-4 間 207cm / P 4-5 間 (推定) 200cm でほぼ等間。覆土は、P 3・4 では柱痕跡が確認され、埋土は黒褐色土・暗褐色土を基調とし、ローム粒の多寡により互層状を呈す。<側柱>平面形は円形～楕円形。規模は長軸 44～54cm / 短軸 35～54cm / 深さ 66～87cm。柱間隔は P 6-7 間 199cm / P 7-8 間 452cm / P 8-9 間 191cm。覆土は、P 6・7 では柱痕跡が確認され、埋土は黒褐色土・暗褐色土を基調とし、ローム粒の多寡により互層状を呈す。

[遺 物] 土師器の小片が少量出土した。その内の1点が武蔵型壺かと思われる。小片のため図示できなかった。

[時 期] 平安時代(9世紀代か)。

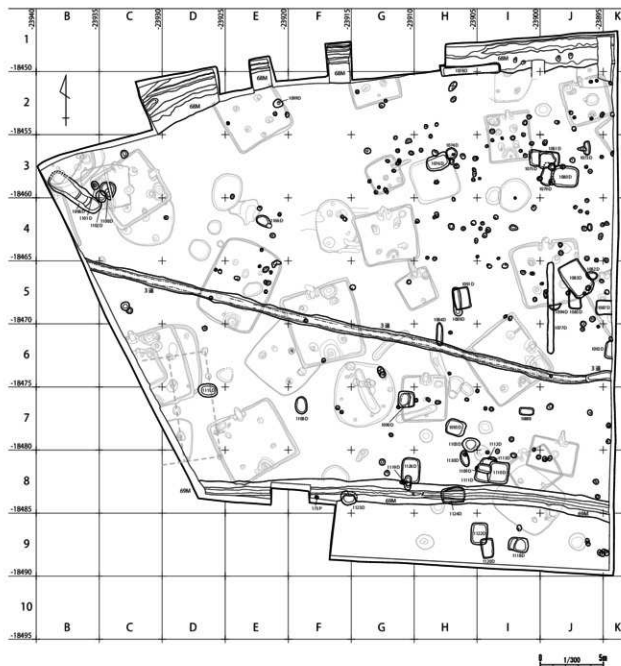


第179図 12号掘立柱建築遺構 (1/60)

第6節 中世以降

(1) 概要

中世以降の遺構は、溝跡2本、道路状遺構1本、土坑41基、ピット188基を検出した。ほとんどの遺構は、帰属時期を示す遺物が乏しく、切合関係や覆土の様相から中世以降とした。土坑の内、1073 Dと1119 Dは、T字形の平面形を呈す火葬土坑である。この2基から出土した炭化材を対象に、放射性炭素年代測定と樹種同定を実施している（詳細は〔付編〕自然科学分析を参照）。1119 Dは69 Mを切っており、1119 Dの年代測定の成果は69 Mの下限年代の推定の参考となる。



第180図 中世以降の遺構全体図（1/300）

(2) 溝跡

68号溝跡

遺 構 (第181・185図)

〔位 置〕 (C-2、D~F-1・2、H~K-1) グリッド。

〔構 造〕 北側の調査区境で検出したため、大半が調査区外である。調査範囲内、北側の立ち上がりを確認できることはない。4 J、300・316・320 Hを切り、1078 Dに切られる。平面形：東側は東西方向に直線的、西側は南西方向にやや弧状に伸びる。断面形：数段の緩い階段状で、概ね浅いV字形を呈す。規模：上幅4.15m以上/下幅0.9m以上/深さ90~173cm/検出長37.89m。走行方位：東側でN-86°-E、西側でN-74°-E。硬化面：東側の区域で硬化面が確認された。覆土：ローム粒を含む黒褐色土・暗褐色土を基調とする。

〔遺 物〕 陶磁器の小片が出土した。

〔時 期〕 近世(18世紀)。

遺 物 (第182図、図版94-1、第70表)

1は磁器碗、2は陶器で器種は不明である。

69号溝跡

遺 構 (第183・186図)

〔位 置〕 (D~J-8、J・K-9) グリッド。

〔構 造〕 304・319 H、9 Y、1127・1104 Dを切り、1119・1123・1124・1126 D、173 Pに切られる。平面形：東西方向に直線的に伸びる。断面形：緩い断掘りを有し、概ねV字形を呈す。規模：上幅1.29~1.97m/下幅0.1~0.34m/深さ79~88cm/検出長32.08m。走行方位：N-87°-W。硬化面：確認されなかった。覆土：ローム粒を含む黒褐色土を基調とする。

〔遺 物〕 陶器が散漫に分布する。

〔時 期〕 中世(13世紀)。

遺 物 (第184図、図版94-2、第71表)

1~4は陶器で、1は片口鉢、2~4は甕である。

(3) 道路状遺構

3号道路状遺構

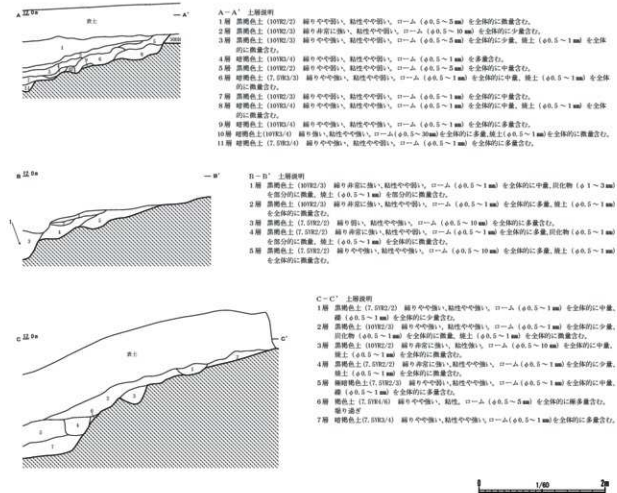
遺 構 (第187・188図)

〔位 置〕 (B~K-5~6) グリッド。

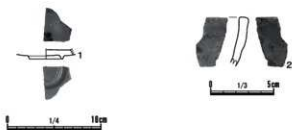
〔構 造〕 9 J、10 Y、1方、315・309 H、111・164・165 Pを切り、1084 Dに切られる。平面形：(B-5)グリッドから(J-6)グリッドにかけて直線的に伸び、(J-6)グリッドで緩く屈曲する。断面形：皿状を呈す。規模：上幅57~97cm/下幅43~66cm/深さ10~20cm/検出長42.74m。走行方位：(J-6)グリッド以西N-77°-W/以东N-58°-W。硬化面：底面を含め4~5面の硬化面が確認できた。東端の部分では硬化面は確認できなかった。覆土：ローム粒を含む黒褐色土を基調とする。硬く締った層とやや軟らかい層と互層となる。

〔遺 物〕 縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

[時期] 中世以降。



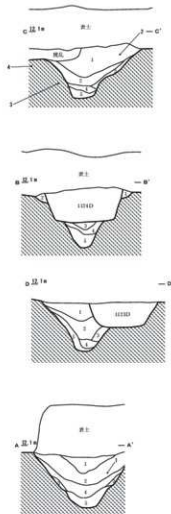
第181図 68号溝跡 (1/60)



第182図 68号溝跡出土遺物 (1/3・1/4)

神岡番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第182図1 図版94-1-1	磁器 碗	底上25cm	底部 25%	高さ 11.1 (3.5)	黄灰色	緻密	内面見込み瓦須瑠き梅文/外面高台接合部に瓦須瑠き蘭線/貼り付け高台/透明釉	肥前/18 世紀後半
第182図2 図版94-1-2	陶器 不明	D-2グ リッド	口縁部 片	厚 0.7	灰色	緻密	内面貫入/白色釉	瀬戸・美 濃系/近 世

第70表 68号溝跡出土遺物一覧



C-C' 土層説明

- 1層 黒褐色土 (10YR2/3) 細りやや強い、粘性やや弱い、ローム(φ0.5~1mm)を散在に少量、褐色土(φ0.5~1mm)を稀多量含む。
- 2層 黒褐色土(10YR2/3) 細りやや強い、粘性やや弱い、ローム(φ0.5~1mm)を散在に少量、褐色土(φ0.5~1mm)を稀多量含む。
- 3層 褐色土(10YR4/4) 細りやや強い、粘性やや弱い、ローム(φ0.5~1mm)をブロック状(φ30~50mm)に中量含む。
- 4層 黒褐色土(10YR2/3) 細りやや強い、粘性やや弱い、ローム(φ0.5~1mm)をブロック状(φ30~100mm)に少量、褐色土(φ0.5~1mm)を稀多量含む。
- 5層 黒褐色土(10YR2/3) 細りやや強い、粘性やや弱い、ローム(φ0.5~1mm)を散在に少量、褐色土(φ0.5~1mm)を稀多量含む。

B-B' 土層説明

- 1層 黒褐色土(10YR2/3) 細りやや強い、粘性やや弱い、ローム(φ0.5~1mm)を塊状に少量、暗褐色土(φ0.5~1mm)を塊状に多量含む。
- 2層 暗褐色土(10YR3/3) 細りやや強い、粘性やや弱い、ローム(φ0.5~1mm)をブロック状(φ150mm程度)に少量、褐色土(φ0.5~1mm)をブロック状(φ100mm程度)に多量含む。
- 3層 黒褐色土(10YR2/3) 細りやや強い、粘性やや弱い、ローム(φ0.5~1mm)を散在に少量、褐色土(φ0.5~1mm)を稀多量含む。
- 4層 褐色土(10YR4/4) 細りやや強い、粘性やや弱い、ローム(φ0.5~1mm)を散在に中量、褐色土(φ0.5~1mm)を散在に中量含む。
- 5層 黒褐色土(10YR2/3) 細りやや強い、粘性やや弱い、ローム(φ0.5~1mm)を塊状にブロック状(φ30~60mm)に少量、褐色土(φ0.5~1mm)をブロック状(φ30~150mm)に多量含む。

D-D' 土層説明

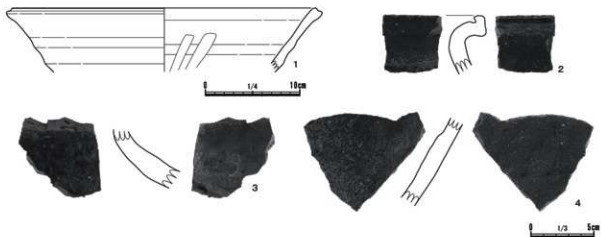
- 1層 黒褐色土(10YR2/3) 細りやや強い、粘性やや弱い、ローム(φ0.5~1mm)をブロック状(φ30~30mm)に少量、褐色土(φ0.5~1mm)を稀多量含む。
- 2層 黒褐色土(10YR2/3) 細りやや強い、粘性やや弱い、ローム(φ0.5~1mm)を塊状にブロック状(φ10~30mm)に少量、粘土(φ2~5mm)を部分的に少量、褐色土(φ0.5~1mm)を稀多量含む。
- 3層 褐色土(10YR4/4) 細りやや強い、粘性やや弱い、ローム(φ0.5~1mm)を少量、褐色土(φ0.5~1mm)を散在に少量含む。
- 4層 黒褐色土(10YR2/3) 細りやや強い、粘性やや弱い、ローム(φ0.5~1mm)を塊状にブロック状(φ10~30mm)に少量、褐色土(φ0.5~1mm)を稀多量含む。
- 5層 暗褐色土(10YR3/3) 細りやや強い、粘性やや弱い、ローム(φ0.5~1mm)を塊状にブロック状(φ10~60mm)に少量、褐色土(φ0.5~1mm)を稀多量含む。

A-A' 土層説明

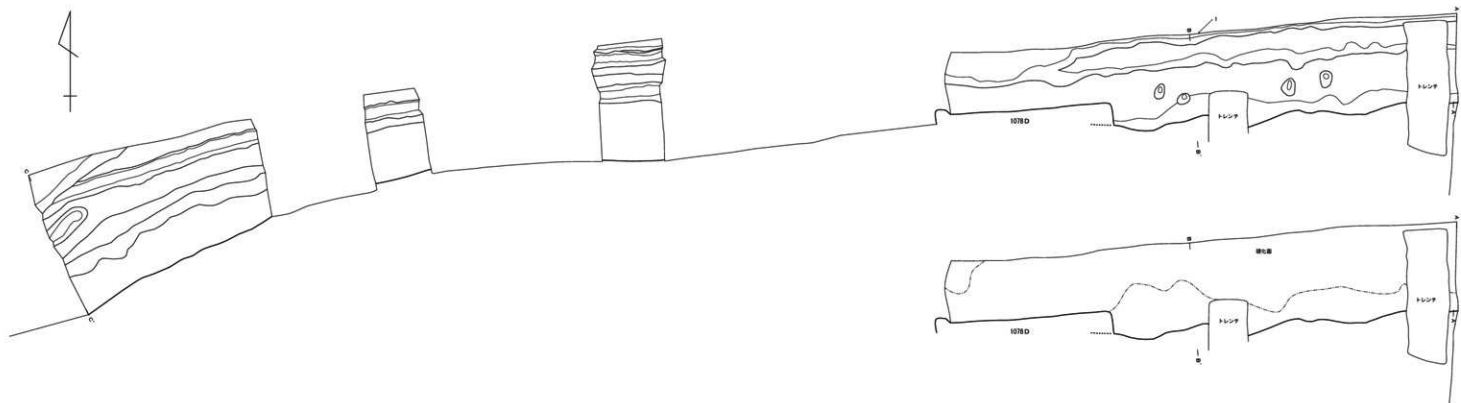
- 1層 黒褐色土(10YR2/3) 細りやや強い、粘性やや弱い、ローム(φ0.5~1mm)を散在に少量、褐色土(φ0.5~1mm)を稀多量含む。
- 2層 黒褐色土(10YR2/3) 細りやや強い、粘性やや弱い、ローム(φ0.5~1mm)を塊状に少量、褐色土(φ0.5~1mm)を散在に中量含む。
- 3層 褐色土(10YR4/4) 細りやや強い、粘性やや弱い、ローム(φ0.5~1mm)を塊状に少量、褐色土(φ0.5~1mm)を散在に中量含む。
- 4層 黒褐色土(10YR2/3) 細りやや強い、粘性やや弱い、ローム(φ0.5~1mm)を塊状にブロック状(φ10~50mm)に少量、褐色土(φ0.5~1mm)を稀多量含む。
- 5層 黒褐色土(10YR2/3) 細りやや強い、粘性やや弱い、ローム(φ0.5~1mm)を塊状に少量、褐色土(φ0.5~1mm)を塊状に多量含む。



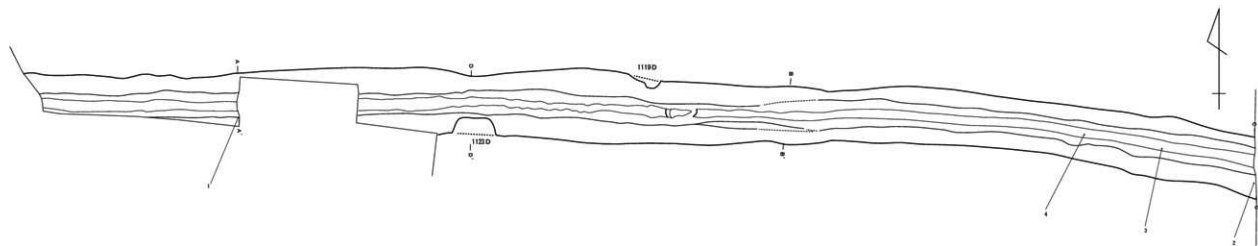
第183図 69号溝跡(1/60)



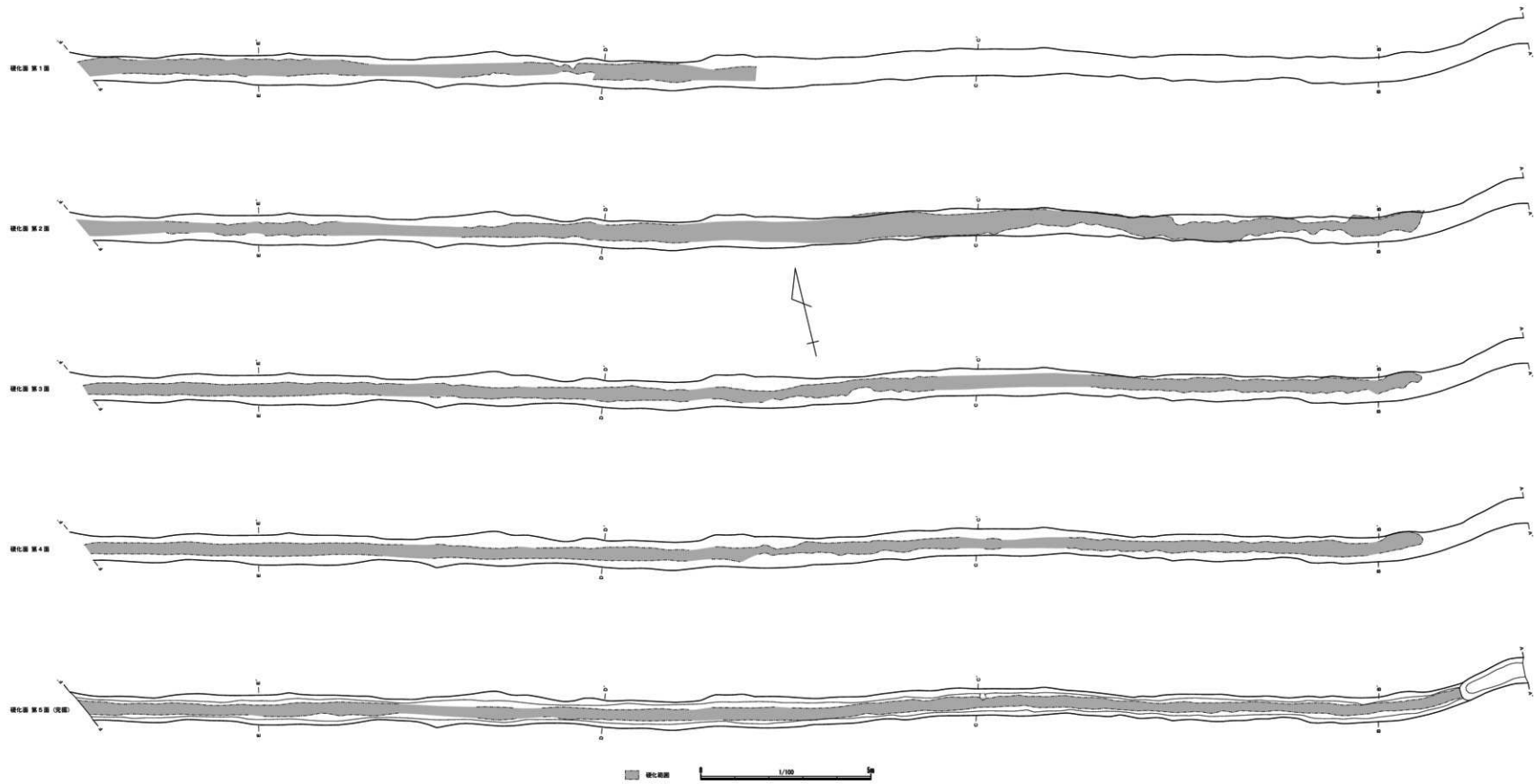
第184図 69号溝跡出土遺物(1/3・1/4)



第185図 68号溝跡 (1/100)



第186図 69号溝跡 (1/100)



第187图 3号道路状遗構 (1/100)

標本番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存分	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第184図1 図版94-2-1	陶器 片口鉢	底上55cm	口縁部 ~体部 5%	高口 [6.7 (33.4)]	にじみ、黄 褐色	緻密。砂粒少量	罐輪成形/口唇部沈線/内面下半平滑/泥 跡/無釉	山茶碗家 系/13世 紀
第184図2 図版94-2-2	陶器 甕	底上68cm	口縁部 片	厚 1.3	灰色	緻密	口縁部内面障灰が溶けて濃緑色を呈す/自 然釉	常滑/13 世紀前半
第184図3 図版94-2-3	陶器 甕	底上23cm	胴部片	厚 1.6	灰色	緻密	外面面障灰が溶けて濃緑色を呈す/自然釉	常滑/13 世紀前半
第184図4 図版94-2-4	陶器 甕	底上50cm	胴部片	厚 1.3	灰色	緻密	外面面障灰が溶けて現な緑白色を呈す/自 然釉	常滑/13 世紀前半

第71表 69号溝跡出土遺物一覧

A 12 1^a - A'B 12 1^a - B'C 12 1^a - C'D 12 1^a - D'E 12 1^a - E'F 12 1^a - F'

A-A'

2 深-A 上層部

1 層 深褐色土 (1019) 2 層 緑りや中強い、粘性や中強い、ローム (φ0.5~1mm) 全部分的に少量、焼土 (φ0.5~1mm) 全部分的に微量含む。

B-B'

3 深-B 上層部

1 層 深褐色土 (7.19) 2 層 緑り非常に強い、粘性や中強い、焼土 (φ0.5~1mm) 全体的に微量含む。

2 層 深褐色土 (1019) 2 層 緑り強い、粘性や中強い、ローム (φ0.5~1mm) 全部分的に少量、焼土 (φ0.5~1mm) 全部分的に微量含む。

3 層 深褐色土 (1019) 2 層 緑り非常に強い、粘性や中強い、焼土全体的に微量含む。

4 層 深褐色土 (7.19) 2 層 緑り非常に強い、粘性や中強い、ローム (φ0.5~1mm) 全体的に少量、焼土 (φ0.5~1mm) 全体的に少量含む。

5 層 深褐色土 (7.19) 2 層 緑り強い、粘性や中強い、ローム (φ0.5~1mm) 全部分的に少量含む。

C-C'

3 深-C 上層部

1 層 深褐色土 (1019) 2 層 緑り非常に強い、粘性や中強い、焼土 (φ0.5~1mm) 全体的に少量含む。

2 層 深褐色土 (1019) 2 層 緑り強い、粘性や中強い、焼土 (φ0.5~1mm) 全体的に少量含む。

3 層 深褐色土 (7.19) 2 層 緑り非常に強い、粘性や中強い、ローム (φ0.5~1mm) 全体的に微量含む。

4 層 深褐色土 (1019) 2 層 緑り強い、粘性や中強い、ローム (φ0.5~1mm) 全部分的に微量、焼土 (φ0.5~1mm) 全体的に微量含む。

5 層 深褐色土 (1019) 2 層 緑り非常に強い、粘性や中強い、ローム (φ0.5~1mm) 全体的に微量、焼土 (φ0.5~1mm) 全体的に微量含む。

D-D'

3 深-D 上層部

1 層 暗褐色土 (1019) 2 層 緑りや中強い、粘性や中強い、ローム (φ0.5~1mm) 全体的に微量、焼土 (φ0.5~1mm) 全体的に少量含む、ローム

以下に散布

2 層 深褐色土 (1019) 2 層 緑り強い、粘性や中強い、焼土 (φ0.5~1mm) 全体的に少量含む。

3 層 深褐色土 (1019) 2 層 緑り非常に強い、粘性や中強い、焼土 (φ1mm) 全体的に微量、焼土 (φ0.5~1mm) 全体的に少量含む。

4 層 深褐色土 (1019) 2 層 緑り非常に強い、粘性や中強い、焼土 (φ0.5~1mm) 全体的に少量含む。

5 層 深褐色土 (1019) 2 層 緑り非常に強い、粘性や中強い、ローム (φ0.5~1mm) 全体的に微量、焼土 (φ0.5~1mm) 全体的に少量含む。

6 層 深褐色土 (1019) 2 層 緑り強い、粘性や中強い、焼土 (φ0.5~1mm) 全体的に少量含む。

7 層 深褐色土 (1019) 2 層 緑り非常に強い、粘性や中強い、ローム (φ0.5~1mm) をブロック状 (φ10mm) に少量、焼土 (φ0.5~1mm) 全体的に少量含む。

E-E'

3 深-E 上層部

1 層 暗褐色土 (1019) 2 層 緑りや中強い、粘性や中強い、ローム (φ0.5~1mm) を塊状・ブロック状 (φ30mm) に少量、焼土 (φ0.5~1mm) 全体的に少量含む。

2 層 深褐色土 (1019) 2 層 緑り非常に強い、粘性や中強い、焼土 (φ0.5~1mm) 全体的に少量含む。

3 層 深褐色土 (1019) 2 層 緑り非常に強い、粘性や中強い、焼土 (φ0.5~1mm) 全体的に少量含む。

4 層 深褐色土 (1019) 2 層 緑り非常に強い、粘性や中強い、焼土 (φ0.5~1mm) 全体的に少量含む。

5 層 深褐色土 (1019) 2 層 緑り非常に強い、粘性や中強い、焼土 (φ0.5~1mm) 全体的に少量含む。

6 層 深褐色土 (1019) 2 層 緑り非常に強い、粘性や中強い、焼土 (φ0.5~1mm) 全体的に少量含む。

7 層 深褐色土 (1019) 2 層 緑り非常に強い、粘性や中強い、ローム (φ0.5~1mm) を塊状に少量、焼土 (φ0.5~1mm) 全体的に少量含む。

8 層 深褐色土 (1019) 2 層 緑り非常に強い、粘性や中強い、ローム (φ0.5~1mm) をブロック状 (φ20mm) に少量、焼土 (φ0.5~1mm) 全体的に少量含む。

F-F'

3 深-F 上層部

1 層 深褐色土 (1019) 2 層 緑り非常に強い、粘性や中強い、焼土 (φ0.5~1mm) 全体的に少量含む。

2 層 深褐色土 (1019) 2 層 緑り強い、粘性や中強い、ローム (φ0.5~1mm) 全体的に少量、焼土 (φ0.5~1mm) 全体的に少量含む。

3 層 深褐色土 (1019) 2 層 緑り非常に強い、粘性や中強い、焼土 (φ2~3mm) を塊状に微量、焼土 (φ0.5~1mm) 全体的に少量含む。

4 層 深褐色土 (1019) 2 層 緑り強い、粘性や中強い、焼土 (φ0.5~1mm) 全体的に少量含む。

5 層 深褐色土 (1019) 2 層 緑り非常に強い、粘性や中強い、焼土 (φ0.5~1mm) 全体的に少量含む。

6 層 深褐色土 (1019) 2 層 緑り強い、粘性や中強い、ローム (φ0.5~1mm) を塊状・ブロック状 (φ10~10mm) に少量、焼土 (φ0.5~1mm) 全体的に少量含む。

7 層 焼土 (1019) 0 層 緑り非常に強い、粘性や中強い、ローム (φ0.5~1mm) を塊状に少量、焼土 (φ0.5~1mm) を塊状に少量含む。

8 層 深褐色土 (1019) 2 層 緑りや中強い、粘性や中強い、ローム (φ0.5~1mm) 少量、焼土 (φ0.5~1mm) 全体的に少量含む、ローム以下に散布

第188図 3号道路状遺構 (1/60)

(4) 土坑

帰属時期の推定にあたっては、出土遺物が少ないため、覆土や切合関係、周辺の調査事例との類似性などが主な判断材料である。ここでは、形態による分類を行い、報告する。分類は、本遺跡第42地点の調査報告書(尾形・深井・青木 2005)および中野遺跡第95地点の調査報告書(徳留・尾形・青木 2017)に掲げられた基準に準拠した。

分類基準を以下に示す。

- A群 平面方形の土坑
- 1類 袋状の構造を呈する
 - 2類 袋状ではなく、単純構造を呈する
- B群 平面長方形の土坑
- 1類 溝状の土坑
 - 2類 幅狭の長方形土坑
 - 3類 幅広の長方形土坑
 - 4類 火床部を有する土坑
- C群 平面円形・楕円形の土坑
- D群 不整形の土坑
- E群 地下室・地下坑
- 1類 1 堅坑1 主体部タイプ
 - 2類 1 堅坑複数主体部タイプ
- F群 T字形の土坑

すべての分類が確認されたわけではなく、A群1類、B群1類、B群4類、D群、E群は本調査では確認されなかった。A群2類は5基、B群2類は5基、B群3類は16基、C群は13基、F群は2基検出した。該当する遺構を第72表にまとめた。

分類	形状		数量	該当土坑番号
A群1類	平面方形	断面袋状	0	
A群2類		単純構造	5	1090・1092・1110・1111・1112
B群1類	平面長方形	溝状	0	
B群2類		幅狭長方形	5	1077・1078・1084・1089・1098
B群3類		幅広長方形	16	1075・1076・1079・1080・1081・1083・1085・1087・1088・1091・1093・1118・1120・1122・1124・1126
B群4類		火床部有	0	
C群	平面円形・楕円形		13	1074・1082・1094・1099・1100・1101・1102・1106・1108・1109・1113・1115・1123
D群	不整形		0	
E群1類	地下室・地下坑	単一主体部	0	
E群2類		複数主体部	0	
F群	T字形		2	1073・1119
計			39	

第72表 土坑集計表

[遺物] 縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

[時期] 中世以降。

1110号土坑

遺構 (第189図)

[位置] (I-8) グリッド。

[構造] 319 H、1111・1112 Dを切り、1109 Dに切られる。平面方形、断面箱形、坑底は平坦、規模：1.74m × 1.67m。深さ：53cm。長軸方位：N-6°-E。覆土：6層に分層。ローム粒を含む黒褐色土を基調とする。

[遺物] 縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

[時期] 中世以降。

1111号土坑

遺構 (第189図)

[位置] (I-8) グリッド。

[構造] 1109・1110 Dに切られる。平面方形と思われ、断面概ね箱形、坑底は平坦。規模：1.27m以上 × 0.84m以上。深さ：39cm。長軸方位：N-76°-W。覆土：不明。

[遺物] 縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

[時期] 中世以降。

1112号土坑

遺構 (第189図)

[位置] (I-8) グリッド。

[構造] 22 F P、1113 Dを切り、1109・1110 Dに切られる。平面は方形と思われ、断面は概ね箱形、坑底は平坦。規模：1.31m以上 × 0.61m以上。深さ：36cm。長軸方位：N-73°-W。覆土：不明。

[遺物] 縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

[時期] 中世以降。

B群2類 幅狭長方形の土坑

1077号土坑

遺構 (第190図)

[位置] (J-5・6) グリッド。

[構造] 306 H、1094 Dを切る。平面長方形、断面逆台形、坑底は平坦。規模：7.25m × 0.53m。深さ：8cm。長軸方位：N。覆土：単層。ローム粒を含む黒褐色土である。

[遺物] 陶器が出土した。他に縄文土器、弥生土器、土師器が出土している。

[時期] 近世(17世紀以降)。

遺物 (第195図、図版94-3、第73表)

1は陶器皿、2は陶器甕である。

1078号土坑

遺構 (第190図)

[位置] (I・H-1・2) グリッド。

[構造] 4 J、68 Mを切る。平面長方形、断面箱形、坑底は平坦。規模：4.71m × 0.87m。深さ：38cm。長軸方位：N-86°-E。覆土：単層。ローム粒を含む極暗褐色土である。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 中世以降。

1084号土坑

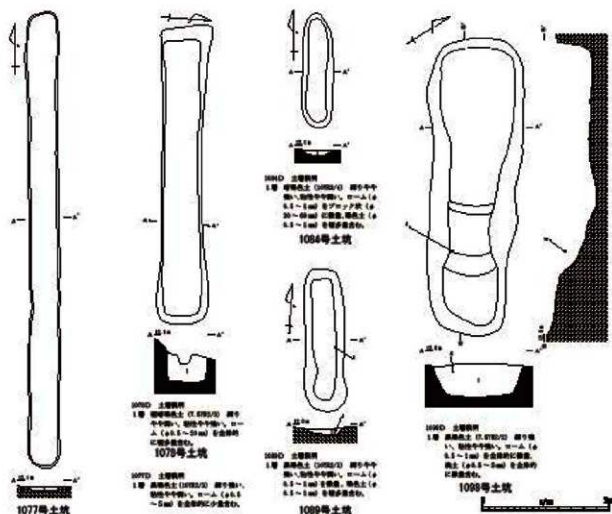
遺構 (第190図)

[位置] (H-6) グリッド。

[構造] 3道を切る。平面不整長方形、断面皿形、坑底は平坦。規模：1.82m × 0.52m。深さ：10cm。長軸方位：N。覆土：単層。ローム粒を含む暗褐色土である。

[遺物] 土師器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

[時期] 中世以降。



第190図 B群2類 幅狭長方形の土坑 (1/60)

1089号土坑

遺構 (第190図)

[位置] (H-5) グリッド。

[構造] 1091 Dを切る。平面不整長方形、断面不整皿形、坑底は平坦。規模:2.27m × 0.67m。深さ:13cm。長軸方位: N-7°-W。覆土: 単層。ローム粒を含む黒褐色土である。

[遺物] 両釘が出土した。他に縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器が出土している。

[時期] 中世以降。

遺物 (第195図、図版94-3、第74表)

1は鉄製品の両釘である。

1098号土坑

遺構 (第190図)

[位置] (B-3・4) グリッド。

[構造] 310・318 H、11・13・14 J、1102・1114 Dを切る。平面不整長方形、断面は概ね逆台形、坑底は凹凸、南東から北西へ緩い階段状に下がる。規模:4.7m × 1.56m。深さ:77cm。長軸方位: N-58°-W。覆土: 単層。ローム粒、焼土粒を含む黒褐色土である。

[遺物] 陶器、銭貨、砥石、鉄滓が出土した。他に縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器が出土している。

[時期] 近世以降。

遺物 (第195図、図版94-3、第75表)

1は砥石、2・3は鉄滓、4は銭貨である。

B群3類 幅広長方形の土坑

1075号土坑

遺構 (第191図)

[位置] (I・J-3) グリッド。

[構造] 308 H、1081 Dを切る。平面長方形と思われる、断面概ね箱形、坑底は平坦。規模:1.3m × 0.97m以上。深さ:52cm。長軸方位: N-4°-E。覆土: 8層に分層。ローム粒を含む黄褐色土を基調とする。

[遺物] 縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

[時期] 中世以降。

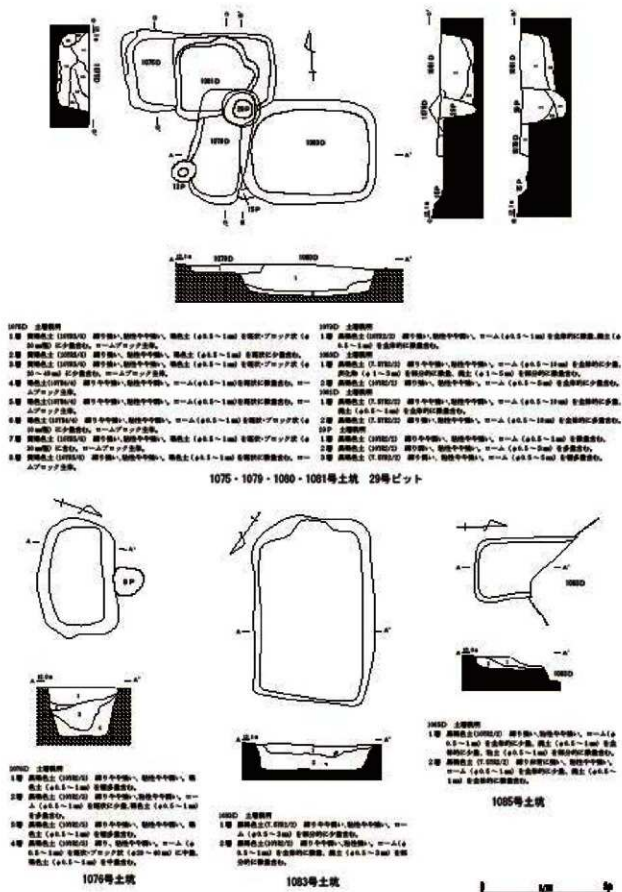
1076号土坑

遺構 (第191図)

[位置] (H-3) グリッド。

[構造] 8 Y、77 Pを切り、8 Pに切られる。1074 Dと重複するが先後関係は不明。平面不整長方形、断面概ね逆台形、坑底はやや凹凸。規模:1.9m × 1.31m。深さ:79cm。長軸方位: N-71°-E。覆土: 4層に分層。ロームを含む黒褐色土を基調とする。

[遺物] 縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。



第191図 B群3類 幅広長方形の土坑1 (1/60)

[時 期] 中世以降。

1079号土坑

遺 構 (第191図)

[位 置] (J-3) グリッド。

[構 造] 1080・1081 Dを切り、13・15・29 Pに切られる。坑底は平坦。規模：1.42m以上×0.94m。深さ：11cm。長軸方位：N-18°-E。覆土：単層。ローム粒、焼土粒を含む黒褐色土である。

[遺 物] 縄文土器、土師器、須恵器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

[時 期] 中世以降。

1080号土坑

遺 構 (第191図)

[位 置] (J-3) グリッド。

[構 造] 1079 D、12・15・29 Pに切られる。1081 Dと重複するが先後関係は不明。平面長方形、断面概ね箱形、坑底は平坦。規模：2.18m×1.69m。深さ：48cm。長軸方位：N-86°-W。覆土：2層に分層。ローム粒を含む黒褐色土を基調とする。

[遺 物] 縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

[時 期] 中世以降。

1081号土坑

遺 構 (第191図)

[位 置] (J-3) グリッド。

[構 造] 1075・1079 D・29 Pに切られる。1080 Dと重複するが先後関係は不明。平面長方形、断面概ね箱形、坑底は平坦。規模：1.6m×1.38m。深さ：62cm。長軸方位：N-88°-W。覆土：2層に分層。ローム粒を含む黒褐色土を基調とする。

[遺 物] 縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

[時 期] 中世以降。

1083号土坑

遺 構 (第191図)

[位 置] (J-5) グリッド。

[構 造] 303・306 H、1085 D、109・110 Pを切り、1082 Dに切られる。平面長方形、断面逆台形、坑底は平坦。規模：3.03m×1.94m。深さ：42cm。長軸方位：N-35°-W。覆土：2層に分層。ローム粒を含む黒褐色土を基調とする。

[遺 物] 縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

[時 期] 中世以降。

1085号土坑

遺構 (第191図)

[位置] (J-5) グリッド。

[構造] 306 Hを切り、1083 D、40 Pに切られる。平面長方形、断面概ね箱形、坑底は平坦。規模：1.67m以上×1.01m。深さ：23cm。長軸方位：N。覆土：2層に分層。ローム粒を含む黒褐色土を基調とする。

[遺物] 縄文土器、弥生土器、土師器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

[時期] 中世以降。

1087号土坑

遺構 (第192図)

[位置] (J・K-5) グリッド。

[構造] 東側の調査区境で検出したため、遺構の東側の大半が調査区外である。303 Hを切る。平面長方形、断面箱形、坑底は平坦。規模：1.29m以上×1.18m。深さ：27cm。長軸方位：N-89°-E。覆土：単層。ローム粒、炭化物、焼土粒を含む黒褐色土である。

[遺物] 縄文土器、弥生土器、土師器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

[時期] 中世以降。

1088号土坑

遺構 (第192図)

[位置] (I-7) グリッド。

[構造] 単独。平面長方形、断面は概ね逆台形、坑底は平坦。規模：1.14m×0.59m。深さ：20cm。長軸方位：N-88°-W。覆土：単層。ローム粒を含む黒褐色土である。

[遺物] 土師器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

[時期] 中世以降。

1091号土坑

遺構 (第192図)

[位置] (H-5) グリッド。

[構造] 1089 Dに切られる。平面長方形、断面箱形、坑底は平坦。規模：1.7m×1.31m。深さ：43cm。長軸方位：N-11°-W。覆土：単層。ローム粒を含む暗褐色土である。

[遺物] 縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

[時期] 中世以降。

1093号土坑

遺構 (第192図)

[位置] (H-7) グリッド。

[構造] 単独。平面不整長方形、断面皿型、坑底は凹凸。規模：1.57m×1.26m。深さ：19cm。

長軸方位：N-17°-E。覆土：単層。ローム粒を含む褐色土である。

[遺物] 弥生土器、土師器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

[時期] 中世以降。

1118号土坑

遺構 (第192図)

[位置] (I-9) グリッド。

[構造] 単独。平面不整長方形、断面浅いU字形、坑底は凹凸、西側に段差14cm、幅47cmほどの段を有す。規模：1.58m × 1.14m。深さ：35cm。長軸方位：N-8°-E。覆土：4層に分層。ローム粒を含む暗褐色土を基調とする。

[遺物] 磁器、土師質土器、鉄釘が出土した。他に縄文土器、土師器が出土している。

[時期] 近世。

遺物 (第195図、図版94-3、第78表)

1は土師質土器の焜炉、2は鉄釘である。

1120号土坑

遺構 (第192図)

[位置] (I-9) グリッド。

[構造] 1122 Dを切る。平面長方形、断面概ね逆台形、坑底はやや凹凸。規模：1.54m × 0.98m。深さ：21cm。長軸方位：N-82°-E。覆土：2層に分層。ローム粒を含む黒褐色土を基調とする。

[遺物] 弥生土器、土師器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

[時期] 近世以降。

1122号土坑

遺構 (第192図)

[位置] (H・I-9) グリッド。

[構造] 1120 Dに切られる。平面長方形、断面概ね箱形、坑底は平坦。規模：1.73m × 1.32m。深さ：38cm。長軸方位：N-2°-E。覆土：2層に分層。ローム粒を含む黒褐色土を基調とする。

[遺物] 磁器が出土した。他に縄文土器、土師器、須恵器が出土している。

[時期] 近世以降。

1124号土坑

遺構 (第192図)

[位置] (H-8) グリッド。

[構造] 69 Mを切る。平面長方形、断面逆台形、坑底は平坦。規模：1.77m以上 × 1.21m。深さ：46cm。長軸方位：N-82°-E。覆土：5層に分層。ローム粒を含む黒褐色土を基調とする。

[遺物] 縄文土器、土師器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

[時期] 中世以降。

1126号土坑

遺構 (第192図)

[位置] (G・H-8) グリッド。

[構造] 69 Mを切り、1119 Dに切られる。平面長方形、断面概ね箱形、坑底は平坦。規模：2.01m × 1.45m。深さ：31cm。長軸方位：N-4°-E。覆土：4層に分層。ローム粒を含む黒褐色土を基調とする。

[遺物] 縄文土器、土師器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

[時期] 中世以降。

C群 円形・楕円形の土坑

1074号土坑

遺構 (第193図)

[位置] (H-3) グリッド。

[構造] 8 Y、77 Pを切る。1076 Dと重複するが先後関係は不明。平面不整形、断面概ね逆台形、坑底はやや凹凸。規模：0.92m × 0.87m。深さ：22cm。長軸方位：N-2°-W。覆土：単層。ローム粒を含む暗褐色土である。

[遺物] 縄文土器、土師器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

[時期] 中世以降。

1082号土坑

遺構 (第193図)

[位置] (J-5) グリッド。

[構造] 1083 Dを切る。平面楕円形、断面皿形、坑底は凸凹。規模：0.92m × 0.62m。深さ：9cm。長軸方位：N-74°-W。覆土：3層に分層。ローム粒を含む黒褐色土を基調とする。

[遺物] 縄文土器、土師器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

[時期] 中世以降。

1094号土坑

遺構 (第193図)

[位置] (J-5) グリッド。

[構造] 306 Hを切り、1077 Dに切られる。平面楕円形と思われ、断面概ね箱形、坑底は凸凹。規模：0.93m以上 × 0.62m以上。深さ：28cm。長軸方位：N-10°-E。覆土：4層に分層。ローム粒を含む黒褐色土を基調とする。

[遺物] 土師器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

[時期] 中世以降。

1099号土坑

遺構 (第193図)

[位置] (E-2) グリッド。

[構造] 320 Hを切る。平面不整楕円形、断面U字形。規模:75cm×67cm。深さ:90cm。長軸方位: N-75°-W。覆土:単層。ローム粒を含む黒褐色土である。

[遺物] 土師器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

[時期] 中世以降。

1100号土坑

遺構 (第193図)

[位置] (C-3) グリッド。

[構造] 310・317 Hを切る。平面不整楕円形、断面不整皿形、坑底は凸凹。規模:1.47m×1.27m。深さ:32cm。長軸方位: N-77°-E。覆土:3層に分層。ローム粒、焼土粒、炭化物を含む黒褐色土を基調とする。

[遺物] 縄文土器、土師器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

[時期] 中世以降。

1101号土坑

遺構 (第193図)

[位置] (C-3) グリッド。

[構造] 310 Hを切る。平面楕円形、断面皿形。規模:0.67m×0.56m。深さ:15cm。長軸方位: N-34°-W。覆土:2層に分層。ローム粒、焼土粒、炭化物を含む極暗褐色土・黒褐色土を基調とする。

[遺物] 縄文土器、土師器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

[時期] 中世以降。

1102号土坑

遺構 (第193図)

[位置] (B・C-3・4) グリッド。

[構造] 310・317 Hを切り、1098 Dに切られる。平面楕円形、断面概ね箱形、坑底は平坦。規模:0.93m×0.83m。深さ:57cm。長軸方位: N。覆土:3層に分層。ローム粒、焼土粒、炭化物を含む暗褐色土を基調とする。

[遺物] 縄文土器、弥生土器、土師器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

[時期] 中世以降。

遺物 (第195図、図版94-3、第76表)

1は鉄釘、2は鉄滓である。

1106号土坑

遺構 (第193図)

[位置] (E-4) グリッド。

[構造] 単独。平面楕円形、断面箱形。坑底は平坦。規模:1.23m×0.82m。深さ:26cm。長軸方位:

N-60°-W。覆土：単層。ローム粒、焼土粒を含む黒褐色土である。

[遺物] 縄文土器、土師器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

[時期] 中世以降。

1108号土坑

遺構 (第193図)

[位置] (F-7) グリッド。

[構造] 単独。平面楕円形、断面概ね箱形、坑底は平坦。規模：1.34m × 0.9m。深さ：25cm。長軸方位：N-1°-E。覆土：単層。ローム粒を含む暗褐色土である。

[遺物] 縄文土器、土師器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

[時期] 中世以降。

1109号土坑

遺構 (第189図)

[位置] (I-8) グリッド。

[構造] 1110・1111・1112・1113 D、145 Pを切る。平面楕円形、断面概ね逆台形、坑底はやや凹凸。規模：1.16m × 0.72m。深さ：58cm。長軸方位：N-74°-W。覆土：4層に分層。ローム粒を含む黒褐色土を基調とする。

[遺物] 縄文土器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

[時期] 中世以降。

遺物 (図版94-3、第77表)

1は銭貨である。錆化が著しく、破片に分かれ、銘は不明である。

1113号土坑

遺構 (第189図)

[位置] (I-8) グリッド。

[構造] 22FPを切り、1109・1112 Dに切られる。平面楕円形と思われ、断面皿形、坑底は平坦。規模：0.81m以上 × 0.24m以上。深さ：12cm。長軸方位：一。覆土：不明。

[遺物] 縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

[時期] 中世以降。

1115号土坑

遺構 (第193図)

[位置] (D-6・7) グリッド。

[構造] 10 Jを切る。平面楕円形、断面逆台形、坑底は平坦。規模：1.52m × 1.05m。深さ：65cm。長軸方位：N-87°-W。覆土：3層に分層。ローム粒を含む暗褐色土を基調とする。

[遺物] 縄文土器、土師器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

[時期] 中世以降。

1123号土坑

遺構 (第193図)

[位置] (F・G-8) グリッド。

[構造] 69 Mを切る。平面楕円形、断面概ね逆台形、坑底は平坦。規模：1.28m × 1.12m。深さ：40cm。長軸方位：N-89°-W。覆土：5層に分層。ローム粒、炭化物を含む黒褐色土を基調とする。

[遺物] かわらけが出土した。他に縄文土器、土師器が出土している。

[時期] 中世 (15～16世紀か)。

遺物 (第195図、図版94-3、第79表)

1はかわらけの小皿である。

F群 T字形の土坑

1073号土坑

遺構 (第194図)

[位置] (J-3) グリッド。

[構造] T字形の形態をもつ。単独。

[主体部] 平面形：楕円に近い長方形。規模：長軸 1.1m / 短軸 0.51m / 深さ 23cm。壁：緩やかに立ち上がる。通気溝：特別作りつけられていない。長軸方位：N-1°-W。

[吸気坑] 主体部の西側に長三角形に張り出す。坑底は主体部へ向けて緩やかに傾斜する。規模：長軸 50cm / 短軸 34cm / 深さ 11cm。壁：緩やかに立ち上がる。長軸方位：E。

[覆土] 10層に分層した。炭化材、焼土粒を含む黒褐色土を基調とする。

[炭化材の状況] 小片のものがほとんどである。主体部中央付近に主体部長軸に沿った繊維方向をもつ部材が確認できた。

[人骨の状況] 小片あるいは粉状のものがほとんどであった。

[遺物] 縄文土器、土師器が出土したが、時期を推定できる遺物はない。

[時期] 放射性炭素年代測定の結果 (詳細は【付編】自然科学分析を参照) から13世紀末～14世紀末と推測される。

1119号土坑

遺構 (第194図)

[位置] (G-8) グリッド。

[構造] T字形の形態をもつ。69 M、1126 Dを切る。

[主体部] 平面形：楕円に近い長方形。規模：長軸 1.14m / 短軸 0.55m / 深さ 28cm。壁：緩やかに立ち上がる。通気溝：特別作りつけられていない。長軸方位：N-4°-E。

[吸気坑] 主体部の西側にU字形に張り出す。規模：長軸 34cm / 短軸 34cm / 深さ 17cm。坑底は主体部へ向けて緩やかに傾斜する。壁：緩やかに立ち上がる。長軸方位：N-86°-W。

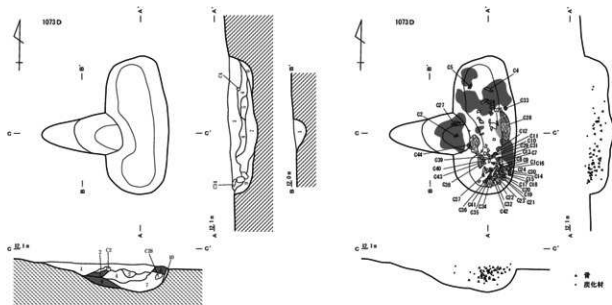
[覆土] 10層に分層した。炭化材、焼土粒を含む黒褐色土・黒色土を基調とする。

[炭化材の状況] 小片のものがほとんどである。主体部長軸に沿った繊維方向をもつ部材が多く確認できた。

[人骨の状況] 小片あるいは粉状のものがほとんどであった。

[遺物] 縄文土器、土師器が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

[時期] 放射性炭素年代測定の結果（詳細は〔付編〕自然科学分析を参照）から14世紀初頭～末と推測される。

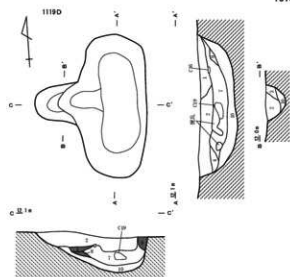


1073D 土層説明

- 1層 黒褐色土 (1073D/2) 細りやや強い、粘性やや強い、焼土 (φ3mm) を微量含む。
- 2層 黒褐色土 (1073D/2) 細り強い、粘性やや強い、炭化物をしみ状に少量、焼土 (φ1mm) を少量、骨粉を少量含む。
- 3層 明黄褐色土 (1073D/4) 細りやや強い、粘性やや強い、焼土プロット (φ3~15mm) 主体、炭 (φ3mm) を少量含む、炭灰層土
- 4層 黒褐色土 (1073D/2) 細り強い、粘性やや強い、炭化物をしみ状に少量、焼土 (φ1mm) を少量、骨粉を少量含む。

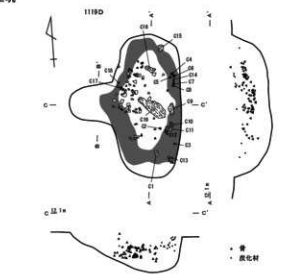
- 5層 黒褐色土 (1073D/2) 細り非常に強い、粘性強い、焼土 (5786/φ5mm) を多量、炭化物をしみ状に少量含む。
- 6層 オリーブ褐色土 (1073D/2) 細り強い、粘性やや強い、炭と焼土 (非酸化していない) の混合層
- 7層 黒色土 (1073D/7) 細り強い、粘性やや強い、赤にならない泥、骨なし。
- 8層 明黄褐色土 (1073D/4) 細りやや強い、粘性強い、焼土。
- 9層 黒褐色土 (1073D/2) 細りやや強い、粘性やや強い、炭化物をしみ状に少量、焼土 (φ1mm) を少量含む。
- 10層 濃い褐色土 (1073D/4) 細りやや強い、粘性強い。

1073号土坑



1119D 土層説明

- 1層 濃い黄褐色土 (10196/4) 細りやや強い、粘性やや強い、ローム (φ10mm) を多量、炭 (φ3mm) を少量、焼土 (φ2mm) を微量、骨粉を微量含む。
- 2層 黒褐色土 (10196/2) 細りやや強い、粘性やや強い、炭 (φ3mm) を微量、焼土 (φ3mm) を微量、骨粉を微量含む。
- 3層 濃い黄褐色土 (10196/3) 細りやや強い、粘性やや強い、焼土 (φ1mm) を微量含む。
- 4層 灰黄褐色土 (10196/2) 細りやや強い、粘性やや強い、炭 (φ3mm) を少量、焼土 (φ3mm) を少量含む。

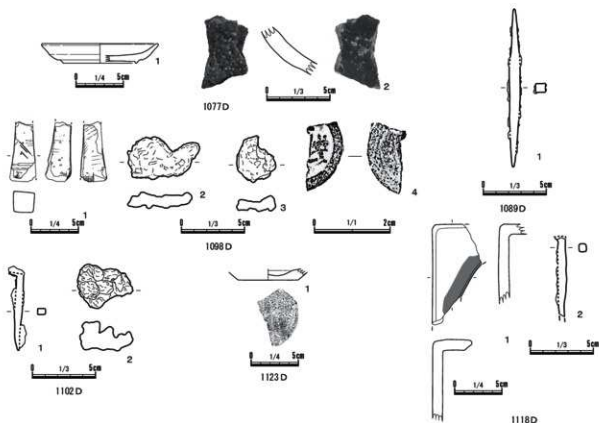


- 5層 褐色土 (10196/6) 細り強い、粘性やや強い、焼土主体。
- 6層 濃い赤褐色土 (10196/4) 細り強い、粘性やや強い、焼土主体、炭化した壁か?
- 7層 黒色土 (10196/7/1) 細り強い、粘性強い、炭主体 (土層化した)、炭主体 (土層化した)。
- 8層 明黄褐色土 (10197/6) 細り強い、粘性やや強い、炭 (φ5mm) を中量、骨粉を少量含む、炭粉ローム主体。
- 9層 黒褐色土 (10196/1) 細り強い、粘性強い、炭 (φ3mm) を少量含む。
- 10層 黒褐色土 (10196/2) 細りやや強い、粘性やや強い、ローム (φ10mm) を少量含む、炭粉ロームを少量含む。

1119号土坑



第194図 F群 T字形の土坑・遺物出土状態 (1/30)



第195図 土坑出土遺物(1/1・1/3・1/4)

標記番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第195図1 図版94-3-1	陶器 皿	覆土一括	口縁部 ~底部 8%	高口 2.1 (12.3) 底 (7.8)	灰色	緻密	削り高台/透明釉	瀬戸・美濃系(志野)/17世紀中葉
第195図2 図版94-3-2	陶器 甕	覆土一括	胴部片	高口 2.1 12.4 底 7.8	灰色	緻密	外面障灰が多量に溶けて緑白色を呈す(気泡が目立つ)/自然釉	常滑/13世紀前半

第73表 1077号土坑出土遺物一覧

標記番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	備考
第195図1 図版94-3-1	鉄製品 両釘	底上7cm	完形	鉄	12.5	0.8	0.7	19.5	断面方形/両端が尖る	合釘

第74表 1089号土坑出土遺物一覧

標記番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴	備考
第195図1 図版94-3-1	砥石	覆土中	両端欠損	変質流紋岩	[63.3]	[27.5]	[27.0]	56.8	分割形/表には横方向の溝状研ぎ面が見られる/全体に横方向の擦面がみられる	
標記番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	備考
第195図4 図版94-3-4	銭貨	底上51cm	25%	銅	[1.6]	[1.0]	0.1	0.5		銘「寶」
第195図2 図版94-3-2	鉄滓	覆土中	-	鉄	3.4	5.7	1.2	29.7		
第195図3 図版94-3-3	鉄滓	覆土中	-	鉄	3.7	3.1	1.2	7.7		

第75表 1098号土坑出土遺物一覧

探検番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	備考
第195図1 図版94-3-1	鉄製品 和釘	底上45cm	完形か	鉄	6.2	0.6	0.5	7.1	頭・先端が鋸跡れにより詳細不明/断面方形	
第195図2 図版94-3-2	鉄洋	底上30cm	—	鉄	3.5	4.4	2.2	35.9		

第76表 1102号土坑出土遺物一覧

探検番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	備考
図版94-3-1	銭貨	底面	90%	銅	2.3	2.3	0.2	1.7	もろく複製片に分割	銘不明

第77表 1109号土坑出土遺物一覧

探検番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第195図1 図版94-3-1	土師質 土器 甕 ²⁾	底上14cm	破片	高口 [5.2] [10.6] 底 [8.6]	褐色	砂粒中量	円形孔端部にスス付着/各面を辺で接着。接着をよくするために彫状工具で条線を引いている	19世紀後半

探検番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	備考
第195図2 図版94-3-2	鉄製品 和釘	底上28cm	両端欠損	鉄	[6.2]	0.6	0.6	5.8	断面正方形	

第78表 1118号土坑出土遺物一覧

探検番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第195図1 図版94-3-1	かわらけ 小皿	覆土一括	底部25%	高さ [1.2] 底 [6.4]	にがい褐色	緻密	底部外面に回転糸切り痕	15～16世紀

第79表 1123号土坑出土遺物一覧

(5) ピット

覆土中からオオタニシが出土した173号ピットは本項で報告する。他のピットについては諸属性を第80表にまとめた。

173号ピット

遺 構 (第196図)

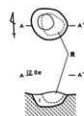
[位 置] (F-8) グリッド。

[構 造] 69 Mを切る。平面楕円形、断面U字形。規模: 29 cm × 25 cm。深さ: 11 cm。長軸方位: N-54°-W。覆土: 単層。褐色土粒を含む黒褐色土である。オオタニシを主体とする貝層を確認した。

[遺 物] 土師器の小片が出土しているが、時期を推定できる遺物はない。

[貝 層] オオタニシが122.5g (71点) 出土した。この内、状態のよい14点の殻径/殻高/重量を計測し、その平均値は、殻径29.3mm/殻高40.9mm/重量2.5gである。

[時 期] 69 Mを切るため、中世(14世紀)以降と推測される。



173P 上層透視
1層 黒褐色土(10R2/3) 細りや中強い、粘性やや弱い、黄色土(φ0.5~1mm)を多量、H(φ10~30mm)を中角部に中量含む。

1/30

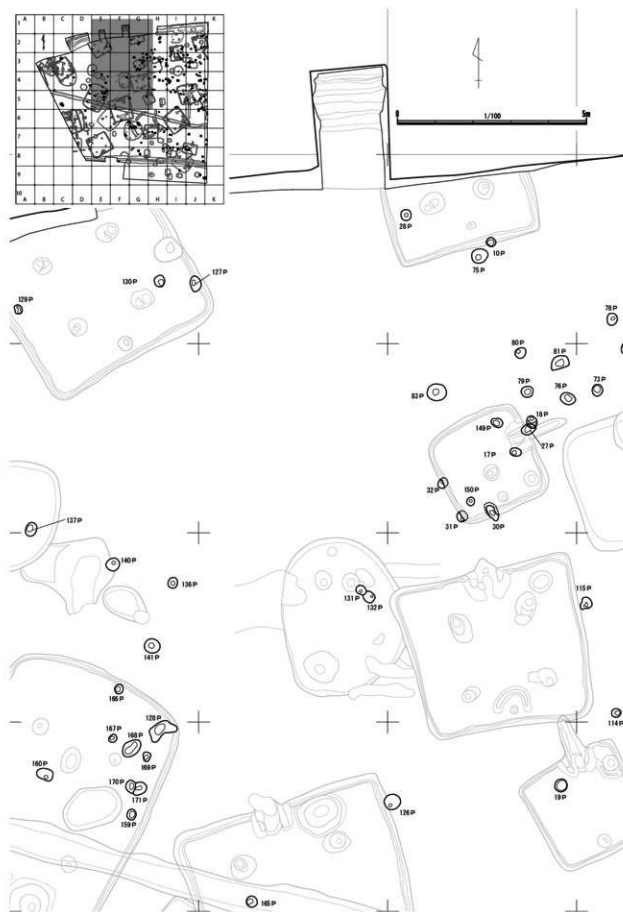
第196図 173号ピット(1/30)



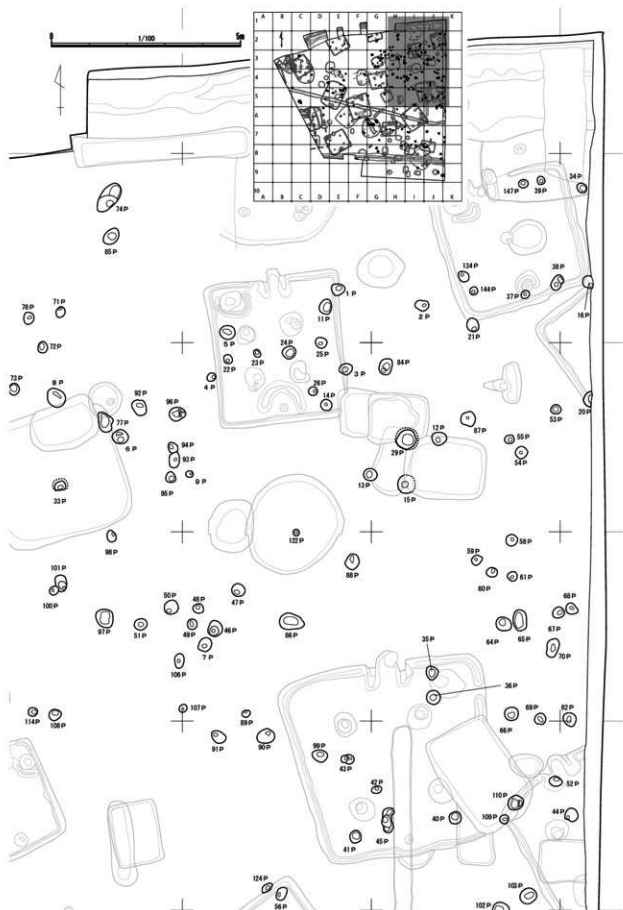
第197図 ピット全体図(1/300)



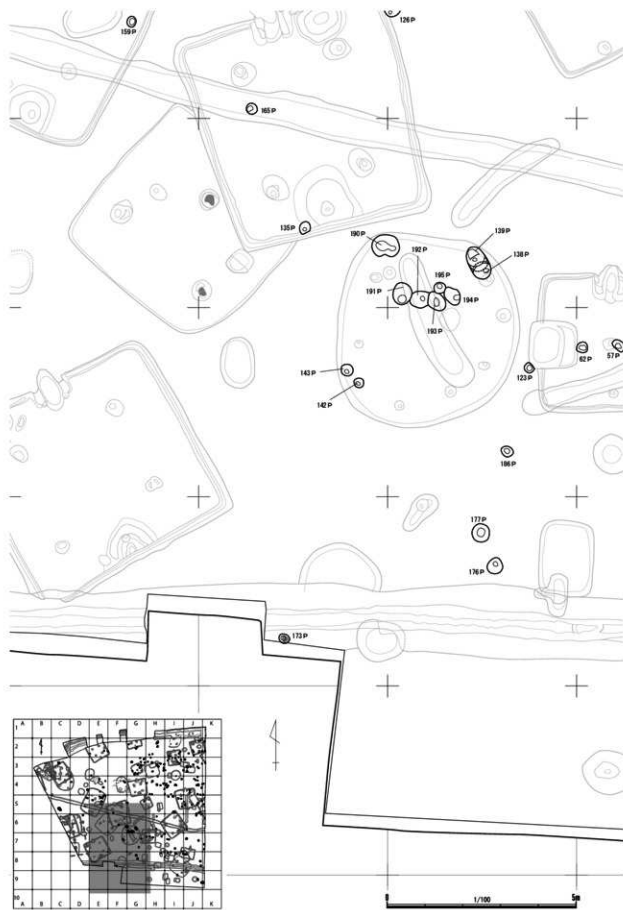
第198図 ビット区分図1 (1/100)



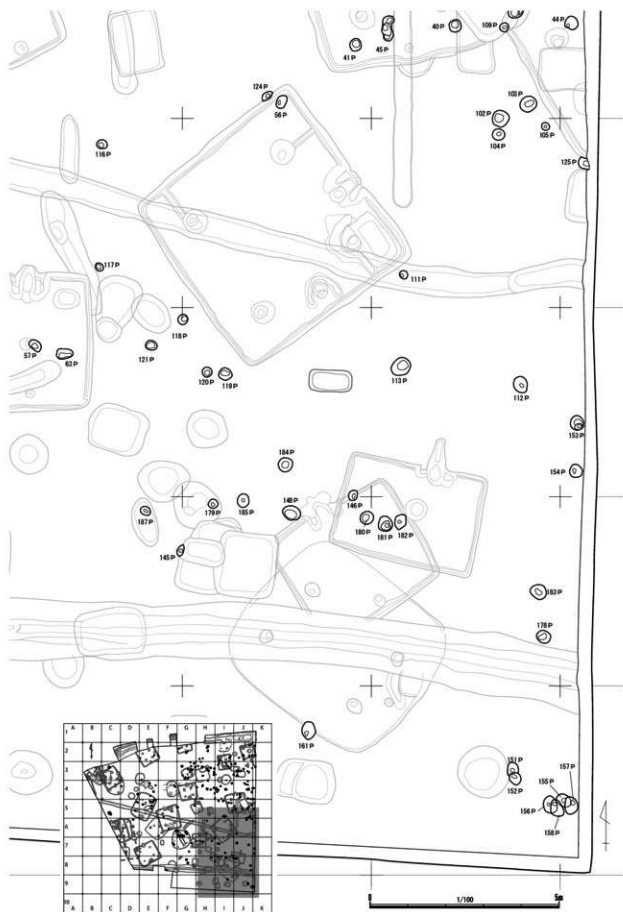
第199図 ビット区分図2 (1/100)



第200図 ビット区分図3 (1/100)



第201図 ビット区分図4 (1/100)



第 202 図 ビット区分図 5 (1/100)

遺構名	位置	平面形	規模 [cm]			覆土及び特徴	主な遺物	時期
			長軸	短軸	高さ			
1P	(I-2) G	楕円形	36	31	32	単層/黒褐色土(10YR3/2)締りやや強い、粘性やや弱い、ローム(ϕ 0.5 ~ 1mm)を斑状に少量、褐色土(ϕ 0.5 ~ 1mm)を極多量含む。/308 Hを切る。	縄文土器・土師器	中世以降
2P	(J-2) G	楕円形	37	28	39	2層/1層:黒褐色土(10YR2/2)締りやや強い、粘性やや弱い、ローム(ϕ 0.5 ~ 1mm)を斑状に少量、褐色土(ϕ 0.5 ~ 1mm)を極多量含む。/2層:黄褐色土(10YR5/6)締りやや強い、粘性やや弱い、ローム(ϕ 0.5 ~ 1mm)を多量、褐色土(ϕ 0.5 ~ 1mm)を斑状に微量含む。/単独。	土師器	中世以降
3P	(I-3) G	楕円形	36	30	23	単層/黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや弱い、褐色土(ϕ 0.5 ~ 1mm)を極多量含む。/308 Hを切る。	縄文土器・土師器	中世以降
4P	(I-3) G	楕円形	25	21	22	単層/黒褐色土(10YR2/3)締り強い、粘性やや弱い、ローム(ϕ 0.5 ~ 1mm)を斑状に微量、褐色土(ϕ 0.5 ~ 1mm)を極多量含む。/単独。	土師器	中世以降
5P	(I-2) G	楕円形	41	37	32	2層/1層:黒褐色土(10YR2/3)締り強い、粘性やや弱い、褐色土(ϕ 0.5 ~ 1mm)を極多量含む。/2層:黄褐色土(10YR5/6)締り強い、粘性やや弱い、ローム(ϕ 0.5 ~ 1mm)を極多量含む。/308 Hを切る。	縄文土器	中世以降
6P	(H-3) G	楕円形	43	37	43	単層/黒褐色土(10YR2/2)締りやや強い、粘性やや弱い、ローム(ϕ 0.5 ~ 1mm)を斑状に少量、褐色土(ϕ 0.5 ~ 1mm)を極多量含む。/単独。	なし	中世以降
7P	(I-4) G	楕円形	37	32	32	単層/黄褐色土(10YR3/4)締りやや強い、粘性やや弱い、ローム(ϕ 0.5 ~ 1mm)を斑状に少量、褐色土(ϕ 0.5 ~ 1mm)を多量含む。/単独。	なし	中世以降
8P	(H-3) G	楕円形	52	46	32	2層/1層:暗褐色土(10YR3/4)締りやや強い、粘性やや弱い、褐色土(ϕ 0.5 ~ 1mm)を極多量含む。/2層:褐色土(10YR4/4)締りやや強い、粘性やや弱い、ローム(ϕ 0.5 ~ 1mm)を少量、褐色土(ϕ 0.5 ~ 1mm)を極多量含む。/1076 Dを切る。	なし	中世以降
9P	(I-3) G	楕円形	19	17	21	単層/黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや弱い、褐色土(ϕ 0.5 ~ 1mm)を極多量含む。/単独。	なし	中世以降
10P	(G-2) G	楕円形	26	25	11	単層/黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや弱い、ローム(ϕ 0.5 ~ 1mm)を微量、褐色土(ϕ 0.5 ~ 1mm)を極多量含む。/316 Hを切る。	なし	中世以降
11P	(I-2) G	楕円形	40	32	13	単層/黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや弱い、褐色土(ϕ 0.5 ~ 1mm)を極多量含む。/308 Hを切る。	縄文土器	中世以降
12P	(J-3) G	楕円形	38	36	25	単層/褐色土(10YR4/6)締りやや強い、粘性やや弱い、ローム(ϕ 0.5 ~ 1mm)を中量、褐色土(ϕ 0.5 ~ 1mm)を斑状に中量含む。半平穴/1080 Dを切る。	縄文土器・土師器	中世以降
13P	(I・J-3) G	楕円形	36	32	32	単層/黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや弱い、褐色土(ϕ 0.5 ~ 1mm)を極多量含む。半平穴/1079 Dを切る。	縄文土器	中世以降
14P	(I-3) G	円形	30	29	46	2層/1層:黒褐色土(10YR2/2)締りやや弱い、粘性やや弱い、ローム(ϕ 0.5 ~ 1mm)を部分的に少量含む。/2層:黒褐色土(7.5YR2/2)締りやや強い、粘性やや弱い、ローム(ϕ 0.5 ~ 1mm)を多量、ローム(ϕ 10 ~ 20mm)を部分的に微量含む。/308 Hを切る。	縄文土器	中世以降
15P	(J-3) G	円形	49	36	15	3層/1層:黒褐色土(10YR2/2)締りやや強い、粘性やや弱い、ローム(ϕ 0.5 ~ 3mm)を少量含む。/2層:黒褐色土(10YR2/2)締りやや強い、粘性やや弱い、ローム(ϕ 0.5 ~ 2mm)を少量、山砂(ϕ 1 ~ 10mm)を多量含む。/3層:黒褐色土(10YR2/2)締りやや強い、粘性やや弱い、ローム(ϕ 0.5 ~ 1mm)を微量含む。/1079・1080 Dを切る。	なし	中世以降
16P	(K-2) G	楕円形	33	31	49	単層/黒褐色土(7.5YR2/2)締りやや強い、粘性やや弱い、ローム(ϕ 0.5 ~ 1mm)を全体的に少量、焼土(ϕ 0.5 ~ 1mm)を全体的に少量含む。/301 H・302 Hを切る。	なし	中世以降
17P	(G-3) G	楕円形	30	22	68	2層/1層:黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや弱い、褐色土(ϕ 0.5 ~ 1mm)を極多量含む。/2層:黒褐色土(10YR2/3)締り強い、粘性やや弱い、ローム(ϕ 0.5 ~ 1mm)を斑状/ブロック状(ϕ 20mm程)に少量、褐色土を多量含む。/312 Hを切る。	土師器	中世以降
18P	(G-3) G	楕円形	33	28	52	単層/黒褐色土(10YR2/3)締り強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5 ~ 1mm)を斑状/ブロック状(ϕ 40mm程)に少量、褐色土(ϕ 0.5 ~ 1mm)を多量含む。/312 H・27 Pを切る。	縄文土器	中世以降
19P	(G-5) G	楕円形	34	33	29	単層/黒褐色土(10YR2/3)締り強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5 ~ 1mm)をブロック状(ϕ 10mm程)に微量、褐色土(ϕ 0.5 ~ 1mm)を極多量含む。/314 Hを切る。	縄文土器	中世以降
20P	(K-3) G	楕円形	41	23	54	2層/1層:黒褐色土(7.5YR2/2)締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5 ~ 1mm)を全体的に少量、炭化物(ϕ 0.5 ~ 1mm)を全体的に微量、焼土(ϕ 0.5 ~ 1mm)を全体的に微量含む。/2層:暗褐色土(7.5YR3/4)締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5 ~ 50mm)を全体的に多量含む。/302 Hを切る。	なし	中世以降
21P	(J-2) G	楕円形	38	31	53	単層/1層:黒褐色土(10YR2/1)締り強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5 ~ 1mm)を多量、赤色粒子(ϕ 0.5 ~ 3mm)を微量含む。/2層:黒褐色土(10YR2/2)締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5 ~ 1mm)を多量、赤色粒子(ϕ 0.5 ~ 3mm)を微量、ローム(ϕ 0.5 ~ 1mm)を部分的に中量含む。/301 Hを切る。	なし	中世以降
22P	(I-3) G	楕円形	26	23	50	2層/1層:黒褐色土(10YR2/2)締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5 ~ 1mm)を全体的に中量含む。/2層:黒褐色土(7.5YR2/2)締り非常に強い、粘性強い、ローム(ϕ 0.5 ~ 1mm)を全体的に多量含む。/308 Hを切る。	土師器	中世以降

第80表 ピット一覧(1)

遺構名	位置	平面形	規模 [cm]			覆土及び特徴	主な遺物	時期
			長軸	短軸	深さ			
23P	(B-3) G	楕円形	22	17	39	3層/1層:黒褐色土(7.5YR2/2) 締りやや強い、粘性やや強い。ローム(ϕ 0.5mm)を全体的に少量、焼土(ϕ 0.5~1mm)を全体的に少量含む。/2層:黒褐色土(7.5YR2/2) 締りやや強い、粘性やや強い。ローム(ϕ 0.5~1mm)を全体的に少量、焼土(ϕ 0.5~1mm)を部分的に微量含む。/3層:黒褐色土(10YR2/3) 締りやや強い、粘性やや強い。ローム(ϕ 0.5~1mm)を全体的に多量含む。/308 Hを切る。	なし	中世以降
24P	(B-3) G	楕円形	36	34	49	2層/1層:黒褐色土(10YR2/2) 締りやや弱い、粘性やや強い。ローム(ϕ 0.5~1mm)を全体的に微量、焼土(ϕ 0.5~1mm)を全体的に微量含む。単層/黒褐色土(10YR2/2) 締りやや弱い、粘性やや強い。ローム(ϕ 0.5~1mm)を全体的に微量、焼土(ϕ 0.5~1mm)を全体的に微量含む。/2層:黒褐色土(7.5YR2/2) 締りやや弱い、粘性強い。ローム(ϕ 0.5~1mm)を全体的に極多量含む。/308 Hを切る。	土師器	中世以降
25P	(B-2・3) G	楕円形	30	29	55	単層/黒褐色土(10YR2/2) 締りやや弱い、粘性やや強い。ローム(ϕ 0.5~1mm)を部分的に多量含む。/308 Hを切る。	なし	中世以降
26P	(B-3) G	円形	24	23	66	単層/黒褐色土(10YR3/2) 締りやや弱い、粘性やや強い。ローム(ϕ 0.5~1mm)を部分的に少量、焼土(ϕ 0.5~1mm)を部分的に微量含む。/308 Hを切る。	縄文土器・土師器	中世以降
27P	(C-3) G	楕円形	39	28	60	2層/1層:黒褐色土(10YR2/3) 締り強い、粘性やや強い。焼土(ϕ 2~3mm)を微量、褐色土(ϕ 0.5~1mm)を多量含む。/2層:黒褐色土(10YR2/3) 締りやや強い、粘性やや強い。ローム(ϕ 0.5~1mm)を斑状・ブロック状(ϕ 10~20mm)に少量、褐色土を多量含む。/312 Hを切り、18 Pに切られる。	なし	中世以降
28P	(C-2) G	円形	29	28	73	単層/黒褐色土(10YR2/3) 締りやや強い、粘性やや強い。ローム(ϕ 0.5~1mm)を斑状に少量、褐色土(ϕ 0.5~1mm)を多量含む。/316 Hを切る。	なし	中世以降
29P	(J-3) G	円形	[52]	[48]	74	3層/1層:黒褐色土(10YR2/2) 締りやや弱い、粘性やや強い。ローム(ϕ 0.5~1mm)を微量含む。/2層:黒褐色土(10YR2/2) 締り強い、粘性やや強い。ローム(ϕ 0.5~3mm)を多量含む。/3層:黒褐色土(7.5YR2/2) 締り弱い、粘性やや強い。ローム(ϕ 0.5~5mm)を極多量含む。/1079 D・1080 D・1081 Dを切る。	なし	中世以降
30P	(C-3) G	楕円形	[46]	[22]	58	2層/1層:黒褐色土(10YR2/3) 締り、粘性。ローム(ϕ 0.5~1mm)を斑状・ブロック状(ϕ 40mm程)に少量、褐色土(ϕ 0.5~1mm)を多量含む。/2層:黄褐色土(10YR5/6) 締り強い、粘性やや強い。ローム(ϕ 0.5~1mm)を多量、褐色土(ϕ 0.5~1mm)を斑状に少量含む。/312 Hを切る。	なし	中世以降
31P	(C-3) G	楕円形	[26]	[14]	55	2層/1層:暗褐色土(10YR3/4) 締りやや強い、粘性やや強い。褐色土(ϕ 0.5~1mm)を多量、黒褐色土(ϕ 0.5~1mm)をブロック状(ϕ 10mm程)に少量含む。/2層:黒褐色土(10YR2/3) 締りやや強い、粘性やや強い。ローム(ϕ 0.5~1mm)を斑状・ブロック状(ϕ 20mm程)に少量、褐色土(ϕ 0.5~1mm)を極多量含む。/312 Hを切る。	なし	中世以降
32P	(C-3) G	楕円形	[24]	[16]	45	2層/1層:暗褐色土(10YR3/4) 締りやや強い、粘性やや強い。褐色土(ϕ 0.5~1mm)を斑状に少量、黄褐色土(ϕ 0.5~1mm)を多量含む。/2層:黒褐色土(10YR2/3) 締りやや強い、粘性やや強い。ローム(ϕ 0.5~1mm)をブロック状(ϕ 50mm程)に少量、褐色土(ϕ 0.5~1mm)を少量含む。/312 Hを切る。	なし	中世以降
33P	(H-3) G	不整楕円形	30	25	67	2層/1層:黒褐色土(10YR2/3) 締りやや強い、粘性やや強い。ローム(ϕ 0.5~1mm)をブロック状(ϕ 10mm程)に少量、褐色土(ϕ 0.5~1mm)を極多量含む。/2層:黒褐色土(10YR2/3) 締り強い、粘性やや強い。ローム(ϕ 0.5~1mm)/8 Yを切る。	なし	中世以降
34P	(K-2) G	楕円形	28	25	65	3層/1層:暗褐色土(7.5YR2/3) 締り強い、粘性やや強い。ローム(ϕ 0.5~1mm)を中量含む。/2層:黒褐色土(10YR2/3) 締り強い、粘性やや強い。ローム(ϕ 0.5~1mm)を中量含む。/3層:暗褐色土(7.5YR3/4) 締りやや強い、粘性やや強い。ローム(ϕ 0.5~1mm)を中量、焼土(ϕ 0.5~1mm)を部分的に微量含む。/300 Hを切る。	須恵器	中世以降
35P	(J-4) G	不整楕円形	37	32	36	単層/黒褐色土(10YR2/2) 締りやや弱い、粘性強い。ローム(ϕ 0.5~1mm)を部分的に微量、焼土(ϕ 0.5~1mm)を部分的に微量含む。/306 Hを切る。	土師器	中世以降
36P	(J-4) G	円形	37	37	36	単層/黒褐色土(7.5YR2/2) 締りやや強い、粘性やや強い。ローム(ϕ 0.5~1mm)を部分的に少量、焼土(ϕ 0.5~1mm)を部分的に微量含む。/306 Hを切る。	土師器	中世以降
37P	(J-2) G	楕円形	24	21	66	単層/黒褐色土(7.5YR2/2) 締り強い、粘性やや強い。ローム(ϕ 0.5~1mm)を中量含む。/301 Hを切る。	なし	中世以降
38P	(J・K-2) G	不整楕円形	42	27	73	3層/1層:黒褐色土(7.5YR2/2) 締りやや強い、粘性やや強い。ローム(ϕ 0.5~1mm)を部分的に微量、焼土(ϕ 0.5~1mm)を部分的に微量含む。/2層:黒褐色土(10YR2/3) 締りやや強い、粘性強い。ローム(ϕ 0.5~1mm)を多量含む。/3層:褐色土(7.5YR4/6) 締りやや強い、粘性強い。ローム(ϕ 0.5~1mm)を極多量含む。/301 Hを切る。	土師器	中世以降
39P	(J-2) G	円形	22	20	50	2層/1層:黒褐色土(10YR2/2) 締りやや強い、粘性やや強い。ローム(ϕ 0.5~1mm)を少量、焼土(ϕ 0.5~1mm)を微量含む。/2層:黒褐色土(10YR2/3) 締りやや強い、粘性やや強い。ローム(ϕ 0.5~1mm)を多量含む。/301 Hを切る。	なし	中世以降
40P	(J-5) G	不整円形	34	33	39	2層/1層:黒褐色土(10YR2/2) 締りやや強い、粘性やや強い。ローム(ϕ 0.5~1mm)を少量、焼土(ϕ 0.5~1mm)を微量含む。/2層:褐色土(7.5YR4/6) 締りやや弱い、粘性やや強い。ローム(ϕ 0.5~1mm)を極多量含む。/306 H・1085 Dを切る。	なし	中世以降

第80表 ピット一覧(2)

遺構名	位置	平面形	規模 [cm]			覆土及び特徴	主な遺物	時期
			長軸	短軸	高さ			
41P	(F-5) G	楕円形	34	31	41	2層/1層:黒褐色土(7.5YR2/2) 締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ 0.5~1mm)を少量、焼土(φ 0.5~1mm)を部分的に少量含む。2層:黒褐色土(10YR3/2) 締り強い、粘性強い。ローム(φ 0.5~10mm)を極少量、粘土(φ 0.5~1mm)を部分的に少量含む。/306 Hを切る。	なし	中世以降
42P	(J-5) G	楕円形	28	19	46	2層/1層:黒褐色土(10YR2/2) 締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ 0.5~1mm)を中量、焼土(φ 0.5~1mm)を中量含む。/2層:黒褐色土(7.5YR2/2) 締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ 0.5~10mm)を部分的に少量、焼土(φ 0.5~1mm)を部分的に少量含む。/306 Hを切る。	土師器	中世以降
43P	(F-5) G	不整楕円形	35	25	50	2層/1層:黒褐色土(10YR2/2) 締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ 0.5~1mm)を少量、焼土(φ 0.5~1mm)を少量含む。/2層:黒褐色土(7.5YR2/2) 締り強い、粘性やや強い。ローム(φ 0.5~10mm)を多量含む。/306 Hを切る。	なし	中世以降
44P	(K-5) G	不整円形	36	35	109	5層/1層:極暗褐色土(7.5YR2/3) 締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ 0.5~5mm)を多量含む。/2層:黒褐色土(7.5YR2/2) 締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ 0.5~1mm)を中量含む。/3層:黒褐色土(10YR2/3) 締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ 0.5~1mm)を多量含む。/4層:黒褐色土(7.5YR2/2) 締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ 0.5~1mm)を少量含む。/5層:暗褐色土(7.5YR3/4) 締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ 0.5~1mm)を極少量含む。/303 Hを切る。	縄文土器・土師器	中世以降
45P	(J-5) G	不整形	66	32	57	3層/1層:黒褐色土(10YR2/2) 締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ 0.5~20mm)を少量、焼土(φ 0.5~1mm)を少量含む。/2層:黒褐色土(10YR2/2) 締り強い、粘性強い。ローム(φ 0.5~1mm)を少量、焼土(φ 0.5~1mm)を少量含む。/3層:黒褐色土(10YR2/2) 締り非常に強い、粘性やや強い。ローム(φ 0.5~20mm)を極少量、焼土(φ 0.5~1mm)を部分的に少量含む。/306 Hを切る。	なし	中世以降
46P	(F-4) G	不整楕円形	42	40	45	単層/褐灰色土(10YR4/1) 締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ 2~5mm)を少量含む。/単独。	縄文土器・土師器	中世以降
47P	(F-4) G	楕円形	36	34	50	単層/褐灰色土(10YR4/1) 締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ 2~5mm)を少量含む。/単独。	土師器	中世以降
48P	(F-4) G	楕円形	30	26	41	単層/褐灰色土(10YR4/1) 締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ 2~5mm)を少量含む。/単独。	土師器	中世以降
49P	(F-4) G	円形	28	26	19	単層/褐灰色土(10YR4/1) 締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ 2~5mm)を少量含む。/単独。	縄文土器	中世以降
50P	(H-4) G	円形	39	38	46	単層/褐灰色土(10YR4/1) 締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ 2~5mm)を少量含む。/単独。	縄文土器・土師器	中世以降
51P	(H-4) G	楕円形	34	31	50	単層/褐灰色土(10YR4/1) 締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ 2~5mm)を少量含む。/単独。	縄文土器・土師器	中世以降
52P	(J・K-5) G	楕円形	34	31	100	4層/1層:褐灰色土(10YR4/1) 締りやや弱い、粘性やや強い。ローム(φ 1~5mm)を中量含む。/2層:黒褐色土(10YR3/2) 締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ 1~5mm)を少量含む。/3層:黒褐色土(10YR3/2) 締り強い、粘性やや強い。ローム(φ 1~10mm)を中量含む。/4層:灰黄褐色土(10YR5/2) 締り強い、粘性やや弱い。ローム(φ 1~10mm)を多量含む。/303 Hを切る。	土師器	中世以降
53P	(J-3) G	楕円形	28	25	13	単層/褐灰色土(10YR4/1) 締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ 2~5mm)を少量含む。/単独。	なし	中世以降
54P	(J-3) G	不整形	32	32	36	単層/褐灰色土(10YR4/1) 締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ 2~5mm)を少量含む。/単独。	なし	中世以降
55P	(J-3) G	楕円形	25	25	46	単層/褐灰色土(10YR4/1) 締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ 2~5mm)を少量含む。/単独。	縄文土器・土師器	中世以降
56P	(F-5) G	楕円形	37	27	58	単層/褐灰色土(10YR4/1) 締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ 2~10mm)を中量含む。/309 Hを切る。	なし	中世以降
57P	(H-7) G	楕円形	35	26	54	4層/1層:黒褐色土(10YR2/3) 締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ 0.5~1mm)を斑状・ブロック状(φ 20~30mm)に少量、褐色土(φ 0.5~1mm)を斑状に多量含む。/2層:黒褐色土(10YR2/3) 締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ 0.5~1mm)を斑状に少量、褐色土(φ 0.5~1mm)を斑状に極少量含む。/3層:褐色土(10YR4/4) 締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ 0.5~1mm)を斑状に少量、褐色土(φ 0.5~1mm)を斑状に多量含む。/4層:黄褐色土(10YR5/6) 締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ 0.5~1mm)を少量、褐色土(φ 0.5~1mm)を少量含む。/311 Hを切る。	縄文土器	中世以降
58P	(J-4) G	円形	32	31	35	3層/1層:灰褐色土(7.5YR4/2) 締りやや強い、粘性やや強い。焼土(φ 5mm程)を少量含む。/2層:暗褐色土(7.5YR3/4) 締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ 1~10mm)を多量含む。/3層:暗褐色土(7.5YR3/3) 締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ 1~10mm)を少量含む。/単独。	縄文土器・土師器	中世以降
59P	(J-4) G	不整楕円形	28	24	53	単層/褐灰色土(10YR4/1) 締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ 2~5mm)を少量含む。/単独。	なし	中世以降
60P	(J-4) G	楕円形	29	26	33	3層/1層:褐色土(7.5YR4/3) 締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ 1~5mm)を多量含む。/2層:灰褐色土(7.5YR4/2) 締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ 1~5mm)を多量含む。/3層:灰褐色土(7.5YR4/2) 締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ 1~10mm)を多量含む。/単独。	土師器	中世以降

第80表 ピット一覧(3)

遺構名	位置	平面形	規模 [cm]			覆土及び特徴	主な遺物	時期
			長軸	短軸	高さ			
61P	(J-4) G	円形	26	25	35	単層/黒灰色土(10YR4/1) 締りやや強い、粘性やや弱い。ローム($\phi 2 \sim 5$ mm)を微量含む。/単独。	なし	中世以降
62P	(H-7) G	不整形円形	31	29	40	2層/1層:黒褐色土(10YR2/3) 締りやや強い、粘性やや弱い。褐色土($\phi 0.5 \sim 1$ mm)を極多量含む。/2層:黒褐色土(10YR2/3) 締り強い、粘性やや弱い。ローム($\phi 0.5 \sim 1$ mm)を塊状・ブロック状($\phi 20 \sim 30$ mm)に少量、褐色土($\phi 0.5 \sim 1$ mm)を多量含む。/311日を切る。	土師器	中世以降
63P	(H-7) G	不整形楕円形	44	28	55	3層/1層:黒褐色土(10YR2/3) 締りやや強い、粘性やや弱い。ローム($\phi 0.5 \sim 1$ mm)を塊状に微量、褐色土($\phi 0.5 \sim 1$ mm)を極多量含む。/2層:黄褐色土(10Y5/6) 締りやや弱い、粘性やや弱い。ローム($\phi 0.5 \sim 1$ mm)を塊状に多量、褐色土($\phi 0.5 \sim 1$ mm)を塊状に少量含む。/3層:褐色土(10YR4/4) 締りやや強い、粘性やや弱い。ローム($\phi 0.5 \sim 1$ mm)を塊状に少量、褐色土($\phi 0.5 \sim 1$ mm)を塊状に多量含む。/311日を切る。	なし	中世以降
64P	(J-4) G	楕円形	44	37	57	単層/黒灰色土(10YR4/1) 締りやや強い、粘性やや弱い。ローム($\phi 2 \sim 5$ mm)を微量含む。/単独。	縄文土器・土師器	中世以降
65P	(J-4) G	楕円形	55	38	28	単層/黒灰色土(10YR4/1) 締りやや強い、粘性やや弱い。ローム($\phi 2 \sim 5$ mm)を微量含む。/単独。	縄文土器	中世以降
66P	(J-4) G	円形	37	37	45	単層/黒灰色土(10YR4/1) 締りやや強い、粘性やや弱い。ローム($\phi 2 \sim 5$ mm)を微量含む。/単独。	土師器	中世以降
67P	(J・K-4) G	楕円形	32	29	38	単層/黒灰色土(10YR4/1) 締りやや強い、粘性やや弱い。ローム($\phi 2 \sim 5$ mm)を微量含む。/単独。	なし	中世以降
68P	(K-4) G	不整形楕円形	33	28	36	単層/黒灰色土(10YR4/1) 締りやや強い、粘性やや弱い。ローム($\phi 2 \sim 5$ mm)を微量含む。/単独。	なし	中世以降
69P	(J-4・5) G	不整形楕円形	31	30	45	単層/黒灰色土(10YR4/1) 締りやや強い、粘性やや弱い。ローム($\phi 2 \sim 5$ mm)を微量含む。/単独。	なし	中世以降
70P	(J-4) G	不整形楕円形	51	33	58	単層/黒灰色土(10YR4/1) 締りやや強い、粘性やや弱い。ローム($\phi 2 \sim 5$ mm)を微量含む。/単独。	縄文土器・土師器	中世以降
71P	(H-2) G	楕円形	29	24	40	単層/黒褐色土(10YR2/2) 締りやや強い、粘性やや弱い。褐色土($\phi 0.5 \sim 1$ mm)を極多量含む。/単独。	なし	中世以降
72P	(H-2・3) G	楕円形	30	26	37	単層/黒褐色土(10YR2/3) 締りやや強い、粘性やや弱い。褐色土($\phi 0.5 \sim 1$ mm)を極多量含む。/単独。	なし	中世以降
73P	(H-3) G	楕円形	31	28	37	単層/黒褐色土(10YR2/3) 締り強い、粘性やや弱い。褐色土($\phi 0.5 \sim 1$ mm)を極多量含む。/単独。	土師器	中世以降
74P	(H-2) G	楕円形	88	45	45	2層/1層:黒褐色土(10YR2/2) 締り強い、粘性やや弱い。褐色土($\phi 0.5 \sim 1$ mm)を極多量含む。/2層:褐色土(10YR4/4) 締りやや強い、粘性やや弱い。ローム($\phi 0.5 \sim 1$ mm)を塊状に少量、褐色土($\phi 0.5 \sim 1$ mm)を塊状に多量含む。/単独。	縄文土器	中世以降
75P	(G-2) G	楕円形	44	38	70	3層/1層:黒褐色土(10YR2/3) 締りやや強い、粘性やや弱い。ローム($\phi 0.5 \sim 1$ mm)を塊状に中量、褐色土($\phi 0.5 \sim 1$ mm)を塊状に中量含む。/2層:黒褐色土(10YR2/3) 締りやや強い、粘性やや弱い。ローム($\phi 0.5 \sim 1$ mm)を塊状に微量、褐色土($\phi 0.5 \sim 1$ mm)を極多量含む。/3層:黒褐色土(10YR2/3) 締りやや強い、粘性やや弱い。ローム($\phi 0.5 \sim 1$ mm)を少量、褐色土($\phi 0.5 \sim 1$ mm)を多量含む。/単独。	なし	中世以降
76P	(G-3) G	楕円形	41	31	37	単層/黒褐色土(10YR2/3) 締りやや強い、粘性やや弱い。ローム($\phi 0.5 \sim 1$ mm)を塊状に少量、褐色土($\phi 0.5 \sim 1$ mm)を塊状に多量含む。/単独。	土師器	中世以降
77P	(H-3) G	不整形楕円形	56	41	54	4層/1層:黒褐色土(10YR2/3) 締り強い、粘性やや弱い。ローム($\phi 0.5 \sim 1$ mm)を塊状に微量、褐色土($\phi 0.5 \sim 1$ mm)を極多量含む。/2層:黄褐色土(10Y5/6) 締り、粘性。ローム($\phi 0.5 \sim 1$ mm)をブロック状($\phi 90$ mm程)に極多量、褐色土($\phi 0.5 \sim 1$ mm)をブロック状($\phi 10$ mm程)に微量含む。/3層:黒褐色土(10YR2/3) 締り強い、粘性やや弱い。ローム($\phi 0.5 \sim 1$ mm)を塊状に中量、褐色土($\phi 0.5 \sim 1$ mm)を塊状に中量含む。/4層:黄褐色土(10Y5/6) 締りやや強い、粘性やや弱い。ローム($\phi 0.5 \sim 1$ mm)を塊状に多量、褐色土($\phi 0.5 \sim 1$ mm)を塊状に微量含む。/8 Yを切り、1074・1076 Dに切られる。	土師器	中世以降
78P	(H-2) G	楕円形	32	28	53	2層/1層:黒褐色土(10YR2/3) 締りやや強い、粘性やや弱い。ローム($\phi 0.5 \sim 1$ mm)を極多量含む。/2層:黒褐色土(10YR2/3) 締りやや強い、粘性やや弱い。ローム($\phi 0.5 \sim 1$ mm)を塊状に少量、褐色土($\phi 0.5 \sim 1$ mm)を塊状に多量含む。/単独。	なし	中世以降
79P	(G-3) G	楕円形	32	28	34	単層/黒褐色土(10YR2/3) 締りやや強い、粘性やや弱い。ローム($\phi 0.5 \sim 1$ mm)を塊状に中量、褐色土($\phi 0.5 \sim 1$ mm)を塊状に中量含む。/単独。	なし	中世以降
80P	(G-3) G	楕円形	30	27	50	単層/黒褐色土(10YR2/3) 締りやや強い、粘性やや弱い。ローム($\phi 0.5 \sim 1$ mm)を塊状・ブロック状($\phi 40 \sim 60$ mm)に少量、褐色土($\phi 0.5 \sim 1$ mm)を塊状に多量含む。/単独。	土師器	中世以降
81P	(G-3) G	不整形楕円形	52	40	33	単層/黒褐色土(10YR2/3) 締りやや強い、粘性やや弱い。ローム($\phi 0.5 \sim 1$ mm)を塊状・ブロック状($\phi 10 \sim 70$ mm)に少量、褐色土($\phi 0.5 \sim 1$ mm)を塊状に多量含む。/単独。	縄文土器	中世以降
82P	(K-4・5) G	楕円形	38	32	73	単層/黒灰色土(10YR4/1) 締りやや強い、粘性やや弱い。ローム($\phi 2 \sim 5$ mm)を微量含む。/単独。	なし	中世以降
83P	(G-3) G	楕円形	50	44	38	単層/黒褐色土(10YR2/3) 締り強い、粘性やや弱い。褐色土($\phi 0.5 \sim 1$ mm)を極多量含む。/単独。	土師器	中世以降
84P	(J-3) G	楕円形	45	36	41	単層/黒灰色土(10YR4/1) 締りやや強い、粘性やや弱い。ローム($\phi 2 \sim 5$ mm)を微量含む。/単独。	なし	中世以降

第80表 ピット一覧(4)

第3章 検出された遺構と遺物

遺構名	位置	平面形	規模[m]			覆土及び特徴	主な遺物	時期
			長軸	短軸	高さ			
85P	(H-2) G	横円形	49	34	50	単層/黒褐色土(10YR2/3) 締り強い、粘性やや強い。ローム(φ0.5~1mm)を斑状・ブロック状(φ40~70mm)に中量、褐色土(φ0.5~1mm)を斑状・ブロック状(φ30~60mm)に中量含む。/単独。	なし	中世以降
86P	(I-4) G	不整横円形	66	45	15	単層/褐灰色土(10YR4/1) 締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ2~5mm)を微量含む。/単独。	なし	中世以降
87P	(J-3) G	不整円形	40	39	50	単層/褐灰色土(10YR4/1) 締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ2~5mm)を微量含む。/単独。	縄文土器	中世以降
88P	(I-4) G	不整横円形	42	38	49	単層/褐灰色土(10YR4/1) 締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ2~5mm)を微量含む。/単独。	なし	中世以降
89P	(I-4) G	横円形	23	18	38	単層/褐灰色土(10YR4/1) 締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ2~5mm)を微量含む。/単独。	土師器	中世以降
90P	(I-5) G	横円形	47	38	82	単層/褐灰色土(10YR4/1) 締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ2~5mm)を微量含む。/単独。	土師器	中世以降
91P	(I-5) G	横円形	41	30	48	単層/褐灰色土(10YR4/1) 締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(φ2~5mm)を微量含む。/単独。	なし	中世以降
92P	(H-3) G	不整横円形	45	38	27	単層/黒褐色土(10YR2/3) 締り強い、粘性やや強い。ローム(φ0.5~1mm)を斑状に少量、褐色土(φ0.5~1mm)を斑状に多量含む。/単独。	なし	中世以降
93P	(H-3) G	横円形	43	29	37	単層/黒褐色土(10YR2/3) 締り強い、粘性やや強い。ローム(φ0.5~1mm)を斑状・ブロック状(φ20~40mm)に少量、褐色土(φ0.5~1mm)を斑状に多量含む。/94Pを切る。	なし	中世以降
94P	(H-3) G	横円形	31	25	34	単層/黒褐色土(10YR2/3) 締り強い、粘性やや強い。褐色土(φ0.5~1mm)を極多量含む。/93Pに切られる。	縄文土器・土師器	中世以降
95P	(H-3) G	不整横円形	29	27	37	単層/黒褐色土(10YR2/3) 締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ0.5~1mm)を斑状に少量、褐色土(φ0.5~1mm)を斑状に多量含む。/単独。	土師器	中世以降
96P	(H-1-3) G	横円形	44	36	45	単層/黒褐色土(10YR2/3) 締り強い、粘性やや強い。ローム(φ0.5~1mm)をブロック状(φ10~30mm)に少量、褐色土(φ0.5~1mm)を多量含む。/単独。	なし	中世以降
97P	(H-4) G	不整横円形	53	47	43	単層/暗褐色土(10YR3/4) 締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ0.5~1mm)を斑状・ブロック状(φ10mm程度)に少量、褐色土(φ0.5~1mm)を多量含む。/単独。	土師器	中世以降
98P	(H-3-4) G	横円形	31	24	51	単層/褐灰色土(10YR4/1) 締り強い、粘性やや強い。褐色土(φ0.5~1mm)を極多量含む。/単独。	なし	中世以降
99P	(I-5) G	横円形	41	32	87	単層/褐灰色土(10YR4/1) 締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ2~5mm)を微量含む。/306Hを切る。	縄文土器・土師器	中世以降
100P	(H-4) G	横円形	26	22	39	単層/黒褐色土(10YR2/3) 締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ0.5~1mm)を斑状に少量、褐色土(φ0.5~1mm)を斑状に多量含む。/101Pを切る。	縄文土器	中世以降
101P	(H-4) G	横円形	39	14	42	単層/黒褐色土(10YR2/3) 締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ0.5~1mm)を斑状に少量、褐色土(φ0.5~1mm)を斑状に多量含む。/100Pに切られる。	縄文土器・土師器	中世以降
102P	(J-5+6) G	不整円形	46	45	37	単層/褐灰色土(10YR4/1) 締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ2~5mm)を微量含む。/単独。	縄文土器	中世以降
103P	(J-5) G	横円形	45	39	34	単層/褐灰色土(10YR4/1) 締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ2~5mm)を微量含む。/単独。	なし	中世以降
104P	(J-6) G	円形	32	30	20	単層/褐灰色土(10YR4/1) 締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ2~5mm)を微量含む。/単独。	土師器・陶器	中世以降
105P	(J-6) G	円形	22	20	53	単層/褐灰色土(10YR4/1) 締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ2~5mm)を微量含む。/単独。	なし	中世以降
106P	(H-1-4) G	横円形	38	25	56	単層/黒褐色土(10YR2/3) 締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ0.5~1mm)を斑状に少量、褐色土(φ0.5~1mm)を斑状に多量含む。/単独。	なし	中世以降
107P	(H-1-4) G	横円形	22	20	53	単層/黒褐色土(10YR2/3) 締り強い、粘性やや強い。ローム(φ0.5~1mm)を斑状に少量、褐色土(φ0.5~1mm)を斑状に多量含む。/単独。	なし	中世以降
108P	(H-4) G	横円形	34	30	92	単層/褐灰色土(10YR4/1) 締り強い、粘性やや強い。ローム(φ0.5~1mm)を斑状・ブロック状(φ30~50mm)に微量、褐色土(φ0.5~1mm)を極多量含む。/単独。	縄文土器	中世以降
109P	(J-5) G	円形	24	23	102	単層/褐灰色土(10YR4/1) 締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ2~5mm)を微量含む。/303Hを切り、1083Dに切られる。	なし	中世以降
110P	(J-5) G	横円形	41	38	81	単層/褐灰色土(10YR4/1) 締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ2~5mm)を微量含む。/303Hを切り、1083Dに切られる。	なし	中世以降
111P	(J-6) G	横円形	22	21	42	単層/褐灰色土(10YR4/1) 締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ2~5mm)を微量含む。/3道に切られる。	なし	中世以降
112P	(J-7) G	不整横円形	44	38	68	単層/褐灰色土(10YR4/1) 締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ2~5mm)を微量含む。/単独。	縄文土器・土師器	中世以降
113P	(J-7) G	横円形	53	45	33	単層/褐灰色土(10YR4/1) 締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ2~5mm)を微量含む。/単独。	なし	中世以降
114P	(H-4) G	不整横円形	26	23	37	単層/褐灰色土(10YR4/1) 締り強い、粘性やや強い。ローム(φ0.5~1mm)を斑状に微量、褐色土(φ0.5~1mm)を極多量含む。/単独。	土師器	中世以降
115P	(H-4) G	不整形	35	31	70	単層/黒褐色土(10YR2/3) 締りやや強い、粘性やや強い。ローム(φ0.5~1mm)を斑状に少量、褐色土(φ0.5~1mm)を多量含む。/単独。	なし	中世以降
116P	(H-6) G	横円形	29	24	20	単層/黒褐色土(10YR2/3) 締り強い、粘性やや強い。ローム(φ0.5~1mm)を斑状に微量、褐色土(φ0.5~1mm)を極多量含む。/単独。	土師器・銅器	中世以降

第80表 ビット一覧(5)

遺構名	位置	平面形	規模 [cm]			覆土及び特徴	主な遺物	時期
			長軸	短軸	高さ			
117P	(H-6) G	楕円形	24	20	16	単層/黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや弱い。褐色土(ϕ 0.5 ~ 1mm)を極多量含む。/単趾。	土師器	中世以降
118P	(H-17) G	楕円形	28	27	29	単層/黒褐色土(10YR2/3)締り強い、粘性やや弱い。ローム(ϕ 0.5 ~ 1mm)を斑状・ブロック状(ϕ 40 ~ 50mm)に少量、褐色土(ϕ 0.5 ~ 1mm)を斑状に多量含む。/単趾。	土師器	中世以降
119P	(I-7) G	楕円形	35	33	25	単層/黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(ϕ 0.5 ~ 1mm)を斑状に少量、褐色土(ϕ 0.5 ~ 1mm)を極多量含む。/単趾。	なし	中世以降
120P	(I-7) G	円形	26	26	40	単層/黒褐色土(10YR2/3)締り強い、粘性やや弱い。ローム(ϕ 0.5 ~ 1mm)を斑状に少量、褐色土(ϕ 0.5 ~ 1mm)を斑状に多量含む。/単趾。	なし	中世以降
121P	(H-7) G	楕円形	31	26	19	単層/黒褐色土(10YR2/2)締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(ϕ 0.5 ~ 1mm)を斑状に少量、褐色土(ϕ 0.5 ~ 1mm)を極多量含む。/単趾。	なし	中世以降
122P	(I-3・4) G	円形	18	17	37	単層/褐色土(10YR4/1)締りやや弱い、粘性やや強い。ローム(ϕ 1mm程)を少量、焼土(ϕ 1mm程)を少量含む。/5 Jを切る。	なし	中世以降
123P	(G-7) G	不整円形	28	27	39	単層/褐色土(10YR4/1)締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(ϕ 2 ~ 5mm)を少量含む。/1090 Dに切られる。	なし	中世以降
124P	(I-5) G	楕円形	33	18	39	単層/褐色土(10YR4/1)締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(ϕ 2 ~ 5mm)を少量含む。/309 Hを切る。	なし	中世以降
125P	(K-6) G	楕円形か	31	30	21	2層/1層:黒褐色土(10YR2/2)締りやや強い、粘性やや強い。焼土(ϕ 0.5 ~ 1mm)を全体的に少量含む。/2層:黒褐色土(7.5YR3/2)締りやや強い、粘性やや強い。ローム(ϕ 0.5 ~ 1mm)を全体的に多量含む。/303 Hを切り、1092 Dに切られる。	なし	中世以降
126P	(F・C-5) G	円形	44	41	67	3層/1層:明褐色土(10YR6/8)締りやや弱い、粘性やや弱い。ローム(ϕ 0.5 ~ 1mm)を斑状・ブロック状(ϕ 10 ~ 20mm)に多量、褐色土(ϕ 0.5 ~ 1mm)を斑状に少量含む。/2層:黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(ϕ 0.5 ~ 1mm)を斑状・ブロック状(ϕ 10 ~ 20mm)に多量、褐色土(ϕ 0.5 ~ 1mm)を斑状に中量含む。/3層:黄褐色土(10YR5/6)締りやや弱い、粘性やや弱い。ローム(ϕ 0.5 ~ 1mm)を斑状・ブロック状(ϕ 40 ~ 80mm)に中量、褐色土(ϕ 0.5 ~ 1mm)を斑状に中量含む。/315 Hを切る。	縄文土器・土師器	中世以降
127P	(E・F-2) G	楕円形	42	29	56	単層/黒褐色土(7.5YR2/2)締りやや強い、粘性やや強い。ローム(ϕ 0.5 ~ 1mm)を中量含む。/320 Hを切る。	なし	中世以降
128P	(E-4・5) G	不整楕円形	73	57	63	2層/1層:明褐色土(10YR6/8)締りやや弱い、粘性やや弱い。ローム(ϕ 0.5 ~ 1mm)を斑状・ブロック状(ϕ 10 ~ 20mm)に多量、褐色土(ϕ 0.5 ~ 1mm)を斑状に少量含む。/2層:黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(ϕ 0.5 ~ 1mm)を斑状・ブロック状(ϕ 10 ~ 20mm)に多量、褐色土(ϕ 0.5 ~ 1mm)を斑状に中量含む。/10 Yを切る。	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器	中世以降
129P	(E-2) G	不整楕円形	26	23	15	単層/黒褐色土(10YR2/2)締りやや強い、粘性やや強い。ローム(ϕ 0.5 ~ 1mm)を中量、焼土(ϕ 0.5 ~ 1mm)を少量含む。/320 Hを切る。	なし	中世以降
130P	(E-2) G	楕円形	30	29	45	単層/黒褐色土(7.5YR2/2)締りやや強い、粘性やや強い。ローム(ϕ 0.5 ~ 1mm)を多量、焼土(ϕ 0.5 ~ 1mm)を少量含む。/320 Hを切る。	なし	中世以降
131P	(F-4) G	楕円形	29	23	46	単層/黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(ϕ 0.5 ~ 1mm)を上部にブロック状(ϕ 20 ~ 40mm)に少量、褐色土(ϕ 0.5 ~ 1mm)を極多量含む。/7 J、132 Pを切る。	縄文土器・土師器	中世以降
132P	(F-4) G	楕円形	50	46	17	単層/黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(ϕ 0.5 ~ 1mm)をブロック状(ϕ 40 ~ 60mm)に少量、褐色土(ϕ 0.5 ~ 1mm)を極多量含む。/7 Jを切り、131 Pに切られる。	縄文土器	中世以降
133P	(C-3) G	不整楕円形	64	59	31	2層/1層:黒褐色土(7.5YR2/2)締り強い、粘性やや強い。ローム(ϕ 0.5 ~ 1mm)を中量含む。/2層:暗褐色土(7.5YR3/4)締りやや強い、粘性やや強い。ローム(ϕ 0.5 ~ 1mm)を多量含む。/317 Hを切る。	土師器	中世以降
134P	(J-2) G	不整楕円形	32	26	65	2層/1層:黒褐色土(7.5YR2/2)締りやや強い、粘性やや強い。ローム(ϕ 0.5 ~ 1mm)を少量含む。/2層:黒褐色土(10YR2/2)締りやや強い、粘性やや強い。ローム(ϕ 0.5 ~ 1mm)を多量含む。/301 Hを切る。	なし	中世以降
135P	(F-6) G	不整楕円形	35	29	84	単層/黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや弱い。褐色土(ϕ 0.5 ~ 1mm)を極多量含む。/315 Hを切る。	なし	中世以降
136P	(E-4) G	楕円形	28	25	40	単層/黒褐色土(7.5YR2/2)締りやや強い、粘性やや強い。ローム(ϕ 0.5 ~ 1mm)を少量、焼土(ϕ 0.5 ~ 1mm)を少量含む。/単趾。	なし	中世以降
137P	(E-3・4) G	楕円形	37	29	32	単層/黒褐色土(10YR2/2)締り強い、粘性やや強い。ローム(ϕ 0.5 ~ 1mm)を少量含む。/8 Jを切る。	なし	中世以降
138P	(G-6) G	円形か	49	40	70	2層/1層:黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(ϕ 0.5 ~ 1mm)をブロック状(ϕ 40 ~ 150mm)に少量、褐色土(ϕ 0.5 ~ 1mm)を多量含む。/2層:黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(ϕ 0.5 ~ 1mm)を斑状に少量、褐色土(ϕ 0.5 ~ 1mm)を斑状に極多量含む。/6 J、139 Pを切る。	陶器	中世以降
139P	(G-6) G	楕円形か	92	70	50	単層/暗褐色土(10YR3/3)締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(ϕ 0.5 ~ 1mm)を斑状に少量、褐色土(ϕ 0.5 ~ 1mm)を極多量含む。/6 Jを切り、138 Pに切られる。	縄文土器・土師器	中世以降
140P	(E-4) G	円形	35	33	68	単層/黒褐色土(10YR2/1)締りやや強い、粘性やや弱い。ローム(ϕ 0.5 ~ 1mm)を少量含む。/19 F Pを切る。	縄文土器・土師器	中世以降
141P	(E-4) G	楕円形	42	38	41	単層/黒褐色土(7.5YR2/2)締りやや強い、粘性やや強い。ローム(ϕ 0.5 ~ 1mm)を少量含む。/単趾。	なし	中世以降

第80表 ピット一覧(6)

遺構名	位置	平面形	規模 [cm]			覆土及び特徴	主な遺物	時期
			長軸	短軸	高さ			
142P	(F-7) G	不整円形	26	26	44	単層/黒褐色土(7.5YR2/2) 締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を中量含む。/ 6 Jを切る。	なし	中世以降
143P	(F-7) G	円形	33	31	88	単層/黒褐色土(10YR2/3) 締り強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を微量含む。/ 6 Jを切る。	なし	中世以降
144P	(J-2) G	楕円形	22	21	55	単層/黒褐色土(10YR2/3) 締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を多量含む。/ 301 Hを切る。	なし	中世以降
145P	(H-18) G	楕円形	132	116	35	単層/黒褐色土(10YR2/3) 締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を斑状に微量、褐色土(ϕ 0.5~1mm)を極多量含む。/ 1109 Dに切られる。	なし	中世以降
146P	(F-7・8) G	楕円形	29	24	49	単層/黒褐色土(10YR2/2) 締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を斑状に少量、褐色土(ϕ 0.5~1mm)を多量含む。/ 307・319 Hを切る。	なし	中世以降
147P	(J-2) G	楕円形	25	23	67	3層/1層: 灰褐色土(7.5YR2/3) 締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)をブロック状(ϕ 20~50mm)に中量、褐色土(ϕ 0.5~1mm)を中量含む。/ 2層: 黒褐色土(10YR3/2) 締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を少量、褐色土(ϕ 0.5~1mm)を少量含む。/ 3層: 灰褐色土(10YR5/2) 締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~5mm)を多量、褐色土(ϕ 0.5~1mm)を中量含む。/ 301 Hを切る。	縄文土器	中世以降
148P	(I-8) G	楕円形	49	38	32	単層/黒褐色土(10YR2/3) 締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)をブロック状(ϕ 10~40mm)に微量、褐色土(ϕ 0.5~1mm)を極多量含む。/ 単独。	なし	中世以降
149P	(G-3) G	不整楕円形	32	24	70	単層/黒褐色土(10YR2/3) 締り強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を斑状に少量、褐色土(ϕ 0.5~1mm)を多量含む。/ 312 Hを切る。	なし	中世以降
150P	(G-3) G	円形	22	20	63	単層/黒褐色土(10YR2/3) 締り強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を斑状に少量、褐色土(ϕ 0.5~1mm)を多量含む。/ 312 Hを切る。	なし	中世以降
151P	(J-9) G	不整楕円形	137	29	52	単層/黒褐色土(10YR2/3) 締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を斑状に微量、褐色土(ϕ 0.5~1mm)を極多量含む。/ 1117 D・152 Pを切る。	土師器・須恵器	中世以降
152P	(J-9) G	不整楕円形	152	50	55	単層/暗褐色土(10YR3/3) 締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を斑状に少量、褐色土(ϕ 0.5~1mm)を斑状に多量含む。/ 1117 Dを切り、151 Pに切られる。	なし	中世以降
153P	(K-7) G	楕円形	38	36	41	単層/黒褐色土(10YR2/3) 締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を斑状に微量、褐色土(ϕ 0.5~1mm)を極多量含む。/ 単独。	土師器	中世以降
154P	(K-7) G	不整円形	35	35	57	単層/黒褐色土(7.5YR2/1) 締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を微量含む。/ 単独。	なし	中世以降
155P	(J・K-9) G	楕円形	64	22	25	単層/黒褐色土(10YR2/3) 締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を斑状に少量、褐色土(ϕ 0.5~1mm)を極多量含む。/ 157・158 Pを切る。	なし	中世以降
156P	(J-9) G	楕円形	25	16	57	単層/褐色土(10YR4/4) 締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を斑状に中量、褐色土(ϕ 0.5~1mm)を斑状に中量含む。/ 158 Pを切る。	なし	中世以降
157P	(J・K-9) G	楕円形	45	36	64	単層/褐色土(10YR4/4) 締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を斑状に少量、褐色土(ϕ 0.5~1mm)を斑状に多量含む。/ 155 Pに切られる。	縄文土器・土師器	中世以降
158P	(J・K-9) G	不整楕円形	57	16	59	2層/1層: 褐色土(10YR4/4) 締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を斑状に中量、褐色土(ϕ 0.5~1mm)を斑状に中量含む。/ 2層: 黒褐色土(10YR2/2) 締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を斑状に少量、褐色土(ϕ 0.5~1mm)を斑状に多量含む。/ 155・156 Pに切られる。	土師器	中世以降
159P	(E-5) G	楕円形	29	24	20	単層/黒褐色土(10YR2/1) 締り強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を微量、焼土(ϕ 0.5~1mm)を微量含む。/ 10 Yを切る。	なし	中世以降
160P	(E-5) G	不整楕円形	43	31	57	2層/1層: 黒褐色土(7.5YR2/2) 締りやや強い、粘性強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を少量含む。/ 2層: 暗褐色土(7.5YR3/4) 締りやや強い、粘性強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を多量含む。/ 10 Yを切る。	なし	中世以降
161P	(I-9) G	不整楕円形	47	37	57	単層/褐色土(10YR4/1) 締り強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 5mm程)を多量含む。/ 9 Yを切る。	なし	中世以降
162P	(D-5) G	不整楕円形	34	29	87	単層/黒褐色土(7.5YR2/2) 締り強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を多量、焼土(ϕ 0.5~1mm)を中量含む。/ 10 Yを切る。	なし	中世以降
163P	(D-5) G	楕円形	22	19	36	単層/黒褐色土(7.5YR2/2) 締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を少量、焼土(ϕ 0.5~1mm)を中量含む。/ 10 Yを切る。	なし	中世以降
164P	(D-5) G	円形	29	28	17	2層/1層: 黒褐色土(7.5YR2/2) 締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を微量含む。/ 2層: 暗褐色土(7.5YR3/4) 締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を中量、焼土(ϕ 0.5~1mm)を中量含む。/ 10 Yを切り、3道に切られる。	なし	中世以降
165P	(F-5) G	円形	30	29	54	単層/黒褐色土(7.5YR2/2) 締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を少量含む。/ 315 Hを切り、3道に切られる。	縄文土器・土師器	中世以降
166P	(E-4) G	楕円形	25	23	15	2層/1層: 黒褐色土(7.5YR2/2) 締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を少量含む。/ 2層: 暗褐色土(7.5YR3/4) 締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を極多量含む。/ 10 Yを切る。	なし	中世以降
167P	(E-5) G	楕円形	23	20	20	単層/褐色土(10YR4/1) 締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 2~5mm)を微量含む。/ 10 Yを切る。	なし	中世以降

第80表 ビット一覧(7)

遺構名	位置	平面形	規模 [cm]			覆土及び特徴	主な遺物	時期
			長軸	短軸	高さ			
168P	(E-5) G	楕円形	57	39	31	3層/1層:灰黄褐色土(10YR4/2)締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 1~5mm)を少量含む。/2層:灰黄褐色土(10YR4/2)締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 1~20mm)を斑状に極多量含む。/3層:灰黄褐色土(10YR4/2)締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 1~5mm)を少量含む。/10 Yを切る。	なし	中世以降
169P	(E-5) C	不整楕円形	25	22	39	単層/灰黄褐色土(10YR4/2)締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 1~5mm)を少量含む。/10 Yを切る。	なし	中世以降
170P	(E-5) G	楕円形	35	[27]	47	2層/1層:灰黄褐色土(10YR4/2)締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 1~5mm)を少量含む。/2層:にぶい黄褐色土(10YR3/3)締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 1~10mm)を多量含む。/10 Yを切り、171 Pに切られる。	なし	中世以降
171P	(E-5) G	楕円形	[39]	32	47	単層/灰黄褐色土(10YR4/2)締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 1~10mm)を下層に中量含む。/10 Y・170 Pを切る。	なし	中世以降
172P	(D-6) G	不整楕円形	39	39	59	2層/1層:黒褐色土(7.5YR2/2)締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を微量含む。/2層:黒褐色土(10YR3/4)締りやや強い、粘性強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を多量含む。/単独。	なし	中世以降
173P	(F-8) G	楕円形	29	25	10	単層/黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや強い、褐色土(ϕ 0.5~1mm)を多量、貝(ϕ 40~50mm)を中央部に中量含む。/69 Mを切る。	土師器・貝	中世以降
174P	(C-5) G	不整楕円形	69	66	22	2層/1層:黒褐色土(7.5YR2/2)締り強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を微量、焼土(ϕ 0.5~1mm)を微量含む。/2層:黒褐色土(7.5YR2/2)締り強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を中量含む。/175 Pを切る。	縄文土器・土師器	中世以降
175P	(C-5) G	不整楕円形	48	48	18	2層/1層:黒褐色土(7.5YR2/2)締り強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を微量、炭化物(ϕ 0.5~1mm)を微量、焼土(ϕ 0.5~1mm)を微量含む。/2層:黒褐色土(7.5YR3/2)締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を微量含む。/174 Pに切られる。	なし	中世以降
176P	(G-8) G	楕円形	43	41	54	単層/黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや強い、褐色土(ϕ 0.5~1mm)を極多量含む。/単独。	なし	中世以降
177P	(G-8) G	楕円形	49	48	26	2層/1層:黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を微量、褐色土(ϕ 0.5~1mm)を極多量含む。/2層:黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を微量、褐色土(ϕ 0.5~1mm)を中量含む。/単独。	土師器	中世以降
178P	(J-8) G	楕円形	37	33	33	単層/黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を斑状に微量、褐色土(ϕ 0.5~1mm)を極多量含む。/単独。	なし	中世以降
179P	(I-8) G	不整円形	26	25	29	単層/黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや強い、褐色土(ϕ 0.5~1mm)を極多量含む。/22 F Pを切る。	なし	中世以降
180P	(I・J-8) G	楕円形	35	34	40	単層/黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を斑状・部分的に多量、褐色土(ϕ 0.5~1mm)を中量含む。/307・319 Hを切る。	なし	中世以降
181P	(J-8) G	不整円形	41	39	52	3層/1層:黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を斑状に少量、褐色土(ϕ 0.5~1mm)を多量含む。/2層:黄褐色土(10YR5/6)締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を多量、褐色土(ϕ 0.5~1mm)を斑状に少量含む。/3層:黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を中量、褐色土(ϕ 0.5~1mm)を中量含む。/307・319 Hを切る。	なし	中世以降
182P	(J-8) G	不整楕円形	42	32	44	2層/1層:暗褐色土(10YR3/3)締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を斑状に微量、焼土(ϕ 1~2mm)を微量、褐色土(ϕ 0.5~1mm)を極多量含む。/2層:黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を微量、褐色土(ϕ 0.5~1mm)を極多量含む。/307・319 Hを切る。	なし	中世以降
183P	(J-8) G	楕円形	44	39	27	単層/黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を斑状・ブロック状(ϕ 40~60mm)に少量、褐色土(ϕ 0.5~1mm)を多量含む。/単独。	なし	中世以降
184P	(I-7) G	円形	39	37	25	単層/黒褐色土(10YR2/3)締り強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を斑状に微量、焼土(ϕ 1~2mm)を微量、褐色土(ϕ 0.5~1mm)を極多量含む。/単独。	なし	中世以降
185P	(I-7・8) G	楕円形	36	31	52	単層/黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を微量、褐色土(ϕ 0.5~1mm)を極多量含む。/単独。	なし	中世以降
186P	(G-7) G	楕円形	33	28	26	4層/1層:黒褐色土(10YR2/3)締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を斑状に微量、褐色土(ϕ 0.5~1mm)を極多量含む。/2層:暗褐色土(10YR3/3)締り強い、粘性やや強い、褐色土(ϕ 0.5~1mm)を極多量含む。/3層:暗褐色土(10YR3/4)締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を斑状に少量、褐色土(ϕ 0.5~1mm)を多量含む。/4層:黄褐色土(10YR5/6)締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を多量、褐色土(ϕ 0.5~1mm)を斑状に少量含む。/単独。	縄文土器	中世以降
187P	(H-8) G	楕円形	29	22	27	単層/暗褐色土(10YR3/4)締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を斑状に微量、褐色土(ϕ 0.5~1mm)を極多量含む。/1130 Dを切る。	縄文土器	中世以降
188P	(D-4) G	楕円形	32	28	61	2層/1層:黒褐色土(10YR2/2)締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を少量含む。/2層:暗褐色土(10YR3/4)締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を中量含む。/12 Jを切る。	なし	中世以降

第80表 ピット一覧(8)

第3章 検出された遺構と遺物

遺構名	位置	平面形	規模 [cm]			層土及び特徴	主な遺物	時期
			長軸	短軸	高さ			
189P	(D-4) G	楕円形	55	50	11	単層/黒褐色土(7.5YR2/2)締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を中量含む。/単独。	縄文土器	縄文
190P	(F-6) G	不整楕円形	73	62	47	2層/1層:黒褐色土(7.5YR3/2)締り非常に強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を少量、焼土(ϕ 0.5~1mm)を微量含む。/2層:暗褐色土(10YR3/4)締り非常に強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を中量含む。/6Jと重複するが先後関係は不明。	なし	縄文
191P	(F・G-6) G	楕円形	58	52	33	3層/1層:黒褐色土(7.5YR2/2)締り強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を微量、焼土(ϕ 0.5~1mm)を微量含む。/2層:暗褐色土(7.5YR3/4)締り非常に強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を中量含む。/3層:暗褐色土(10YR3/4)締り非常に強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を少量含む。/192 Pを切る。6Jと重複するが、先後関係は不明。	なし	縄文
192P	(G-6) G	楕円形	55	45	30	単層/暗褐色土(7.5YR2/3)締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を中量、焼土(ϕ 0.5~1mm)を微量含む。/191 Pに切られる。6J、193 Pと重複するが先後関係は不明。	なし	縄文
193P	(G-6・7) G	楕円形	58	43	32	2層/1層:黒褐色土(7.5YR2/2)締りやや強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を微量、焼土(ϕ 0.5~1mm)を微量含む。/2層:暗褐色土(7.5YR3/4)締り強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を中量、焼土(ϕ 0.5~1mm)を少量含む。/6J、192・195 Pと重複するが先後関係は不明。	縄文土器	縄文
194P	(G-6) G	不整楕円形	53	39	25	2層/1層:黒褐色土(7.5YR2/2)締り強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を微量、焼土(ϕ 0.5~1mm)を少量含む。/2層:黒褐色土(7.5YR3/2)締り強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を多量、焼土(ϕ 0.5~1mm)を微量含む。/6J、195 Pと重複するが先後関係は不明。	縄文土器	縄文
195P	(G-6) G	円形	32	31	34	単層/黒褐色土(7.5YR2/2)締り強い、粘性やや強い、ローム(ϕ 0.5~1mm)を少量、焼土(ϕ 0.5~1mm)を微量含む。/6J、193・194 Pと重複するが先後関係は不明。	なし	縄文

第80表 ビット一覧(9)

第7節 遺構外出土遺物

表土や掘乱から出土した遺物の他、遺構内からの出土ではあるが、遺構の時期とは異なる、混入品と考えられる遺物をここで報告する。遺物の種類としては、縄文時代の土器、石器・石製品（1）、弥生時代中期～古墳時代前期の土器（2）、古墳時代後期の土器、土製品（3）、中世以降の土器、陶磁器、銭貨（4）である。

（1）縄文時代

〔土 器〕（第203～207図1～134、図版95～98-1～134、第81表）

縄文時代の住居跡は縄文時代前期後葉と中期後葉であったが、遺構外出土の縄文土器は、早期から後期までの各時期のものが出土している。1～18は早期、19～90は前期、91～130は中期、131～134は後期である。

1は沈線文系土器とみられる。2～7・9～15・18は条痕文系土器で、その内、9は茅山上層式土器、10・11は野島式土器である。8は早期、16・17は早期末とみられる。

19～31は前期前半の羽状縄文系土器である。19・20は花積下層式土器、23は関山式土器の底部、24～31は黒浜式土器である。32～76は前期後半の諸磯式土器である。32～53は諸磯a式、54～75は諸磯b式、76は諸磯c式である。77は前期末の十三菩提式土器である。78は前期後半、79・80は前期末の土器とみられる。81～90は前期後半の浮島式土器である。

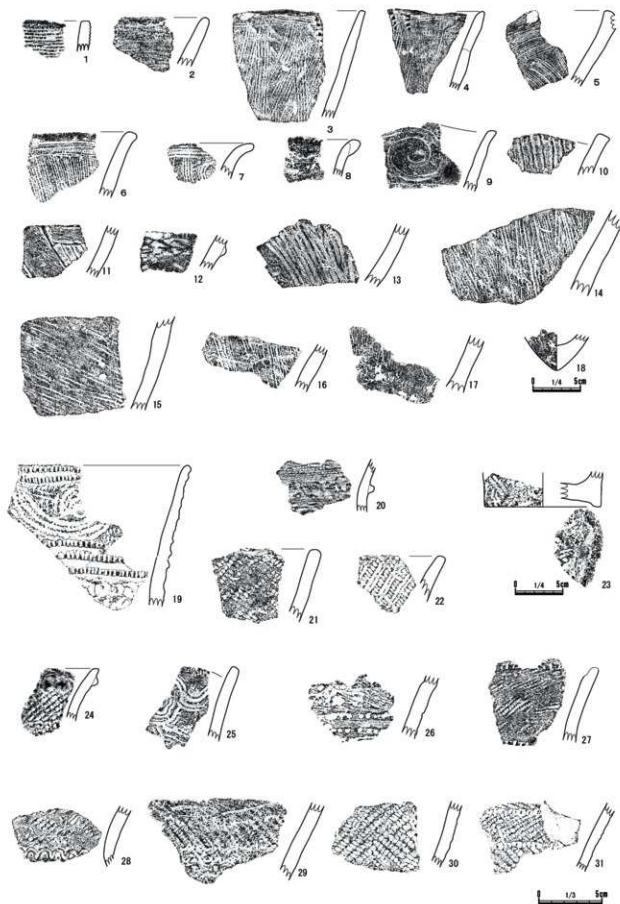
91～94は五領ヶ台式土器、95～98は勝坂式土器である。99～122は加曾利E式土器で、99～105は加曾利EⅠ式、106は加曾利EⅠ式かと思われる土器（器種不詳）、107は加曾利EⅠ式と思われる浅鉢、108～102は加曾利EⅡ式、103～118は加曾利EⅢ式、119～121は加曾利EⅢ～Ⅳ式、122は加曾利EⅣ式である。123～126は曾利式土器、127～130は連弧文土器である。

131～133は堀之内式土器で、その内、133は堀之内2式、134は加曾利B式土器である

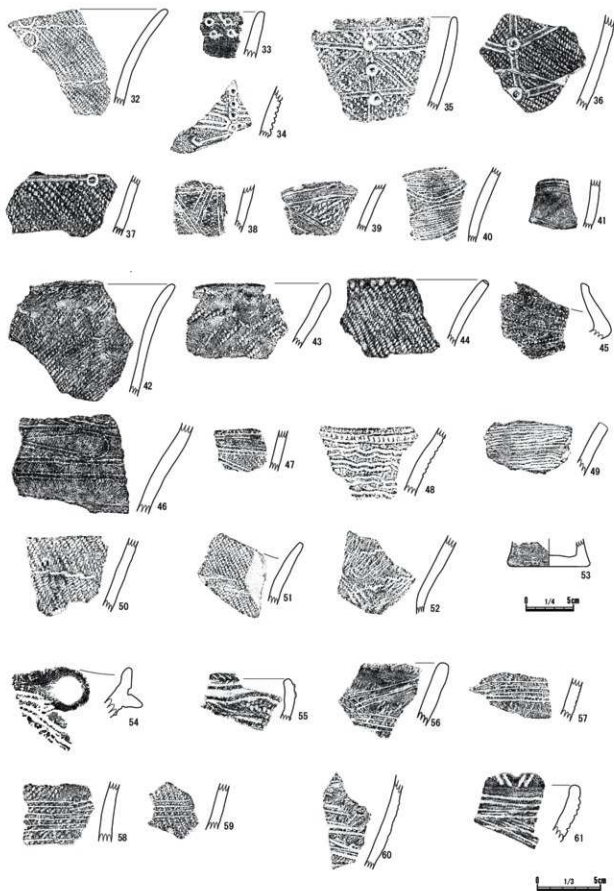
〔石 器〕（第208～210図135～168、図版99～100-135～168、第81表）

135～138は块状耳飾で、138は転用しようとしたらしく、工具痕がみられる。139は鍾飾である。

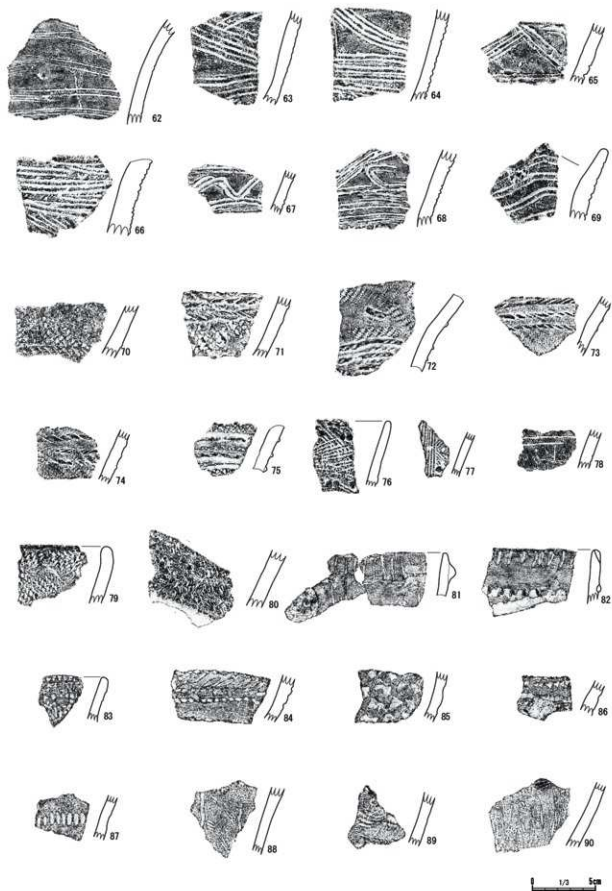
140～142は石鎌、143は石錐である。144～159は打製石斧で、159は凹石を転用している。160は磨製石斧である。161は磨石・凹石として使用したのち、編石に用いられたとみられる。162～165は敲石・磨石、166・167は石皿、168は礫石斧である。



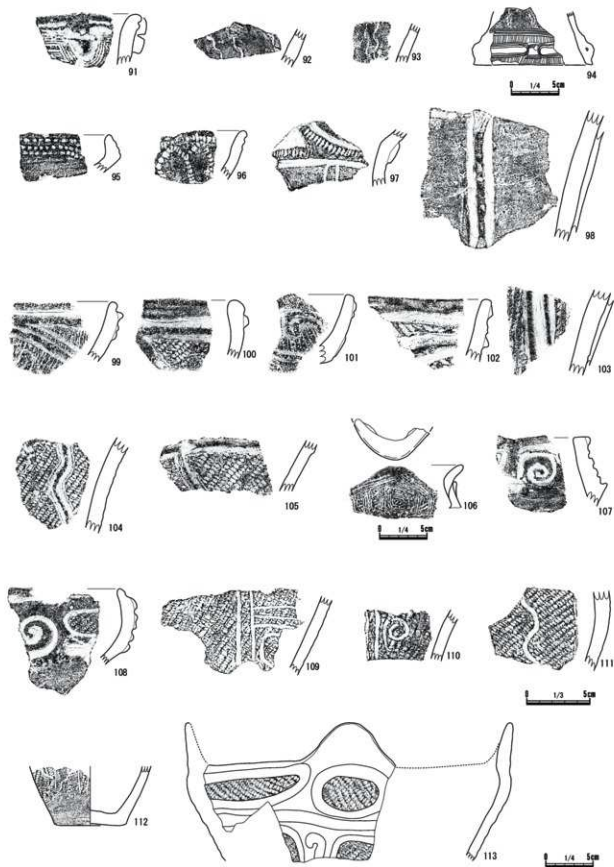
第203図 縄文時代遺構外出土遺物1 (1/3・1/4)



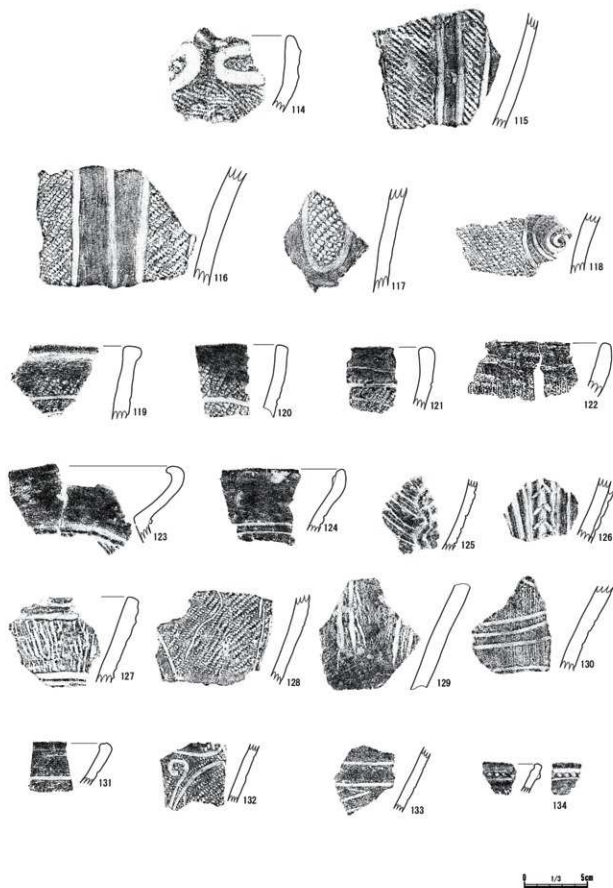
第204図 縄文時代遺構外出土遺物2 (1/3・1/4)



第 205 図 縄文時代遺構外出土遺物 3 (1/3)



第206图 縄文時代遺構外出土遺物4 (1/3・1/4)



第 207 図 縄文時代遺構外出土遺物 5 (1/3)

神岡番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第203図1 図版95-1	深鉢	2区表土	口縁部 片	厚 0.8	橙色	砂粒多量/白色粒子・黒色粒子中量	5本1単位工具による横位沈線	沈線文系 織土系
第203図2 図版95-2	深鉢	317 H	口縁部 片	厚 0.9	にぶい黄褐色～赤褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・角閃石中量/小礫少量	横位条痕	条痕文系 織土系
第203図3 図版95-3	深鉢	3道	口縁部 片	厚 0.9	にぶい褐色～にぶい黄褐色	砂粒・白色粒子中量/角閃石・小礫少量	櫛歯状工具による条痕	条痕文系 織土系
第203図4 図版95-4	深鉢	(H-5) グリッド	口縁部 片	厚 0.9	明褐色～にぶい黄褐色	砂粒・白色粒子中量/石英・角閃石少量	櫛歯状工具による縦位条痕/口縁部隆帯(キザミ)	条痕文系 織土系
第203図5 図版95-5	深鉢	2区表土	胴部片	厚 1.0	にぶい黄褐色～褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・角閃石中量	櫛歯状工具による横位と縦位の条痕	条痕文系 織土系
第203図6 図版95-6	深鉢	1区表土	口縁部 片	厚 1.0	にぶい黄褐色～明赤褐色	砂粒多量/白色粒子・黒色粒子・石英中量/小礫少量	口縁部に横位条痕/胴部に縦位条痕	条痕文系? 織土系
第203図7 図版95-7	深鉢	(E-6) グリッド	口縁部 片	厚 0.9	明灰黄色～にぶい黄色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・シャモット中量	口縁部に横位条痕/胴部に縦位条痕	条痕文系? 織土系
第203図8 図版95-8	深鉢	303 H	口縁部 片	厚 0.7	にぶい黄褐色	砂粒・白色粒子中量	無文	早期 織土系
第203図9 図版95-9	深鉢	(I-4) グリッド	口縁部 片	厚 0.8	にぶい褐色	砂粒多量/白色粒子・石英中量	沈線により渦巻きを強く	芋山土層式 織土系
第203図10 図版95-10	深鉢	308 H	口縁部 片	厚 1.0	灰黄褐色～赤褐色	砂粒・白色粒子・石英中量	波状口縁/細隆起縦文	野島式 織土系
第203図11 図版95-11	深鉢	308 H	胴部片	厚 1.0	赤褐色	砂粒・白色粒子・角閃石中量	細隆起縦文	野島式 織土系
第203図12 図版95-12	深鉢	1区表土	胴部片	厚 1.0	にぶい黄褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・白色針状物質中量	隆帯(刺突)	条痕文系 織土系
第203図13 図版95-13	深鉢	2区表土	胴部片	厚 1.1	灰黄褐色～にぶい黄褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・長石・角閃石中量	太めの縦位条痕	条痕文系 織土系
第203図14 図版95-14	深鉢	2区表土	胴部片	厚 1.3	灰黄褐色～褐色	砂粒・白色粒子・長石中量	外面に縦位条痕/内面に横位条痕	条痕文系 織土系
第203図15 図版95-15	深鉢	(F-4) グリッド	胴部片	厚 1.1	黒褐色～明褐色	砂粒やや多量/白色粒子・石英・長石・角閃石中量	外面斜位条痕/円形刺突2個/内面に太めの縦位条痕	条痕文系 織土系
第203図16 図版95-16	深鉢	2区表土	胴部片	厚 1.1	灰黄褐色～にぶい褐色	砂粒やや多量/白色粒子・赤色粒子・長石・當母中量/小礫少量	条痕	早期末 織土系
第203図17 図版95-17	深鉢	315 H	胴部片	厚 1.2	にぶい黄褐色～褐色	砂粒やや多量/白色粒子・石英中量	条痕	早期末 織土系
第203図18 図版95-18	深鉢	2区表土	底部 5%	高 3.8	にぶい黄褐色～にぶい褐色	砂粒・白色粒子・石英中量	無文	条痕文系 織土系
第203図19 図版95-19	深鉢	313 H	口縁部 片	厚 0.9	黒褐色～にぶい褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子中量	口縁部に2条の隆帯(キザミ)/胴部に3条の隆帯(キザミ)3本/4本の渦巻き状にし側面圧痕/胴部ループ文/胴間に刺突	花積土層式 織土系

第81表 縄文時代遺構外出土遺物一覧(1)

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存状況	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第203図20 図版95-20	深鉢	1方	胴部片	厚 0.8	黒褐色～ にぶい黄 褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子中量	隆帯/上部に2～3条の押引文/下部刺突	花積下層式 縄土器
第203図21 図版95-21	深鉢	(F-3)グ リッド	口縁部片	厚 1.1	黒褐色～ にぶい黄 褐色	砂粒・白色粒子中 量/長石少量	縄文 (RL)	羽状縄文系 縄土器
第203図22 図版95-22	深鉢	312 H	口縁部片	厚 0.9	黒褐色～ にぶい赤 褐色	砂粒中量	合の磨り、RとLをL磨り	羽状縄文系 縄土器
第203図23 図版95-23	深鉢	(H-5)グ リッド	底部 5%	高さ 2.6 9.4	灰褐色～ にぶい褐 色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子中量	上部に縄文 (RL) / 下部に縄文 (LR)	岡山式 縄土器
第203図24 図版95-24	深鉢	2区表土	口縁部片	厚 0.8	灰黄褐色～ 明黄褐色	砂粒・白色粒子中 量	縄文 (LR) / 下部にループ文/上部に貼付突起	黒氏式 縄土器
第203図25 図版95-25	深鉢	(J-3)グ リッド	胴部片	厚 0.9	にぶい黄 褐色～褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・石英・ 白色針状物質中量	波状口縁/沈線でモチーフを描く	黒氏式 縄土器
第203図26 図版95-26	深鉢	321 H	胴部片	厚 1.1	黒褐色～ 明赤褐色	砂粒やや多量/白 色粒子・赤色粒子 石英・長石中量	縄文 (無節 R) / 下部に連続刺突	黒氏式 縄土器
第203図27 図版95-27	深鉢	(I-4)グ リッド	胴部片	厚 0.9	灰黄褐色～ にぶい黄 褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・シャモツ ト中量	上部に爪形文/縦縄文 (無節 L)	黒氏式 縄土器
第203図28 図版95-28	深鉢	2区表土	胴部片	厚 1.0	暗褐色～ にぶい黄 褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・石英中 量	縦縄文 (無節 L) / 下部にコンパス文	黒氏式 縄土器
第203図29 図版95-29	深鉢	1区	胴部片	厚 1.0	灰黄褐色～ 褐色	砂粒やや多量・白 色粒子・長石中量 /小礫少量	縄文 (0段多条 RL)	黒氏式 縄土器
第203図30 図版95-30	深鉢	314 H	胴部片	厚 1.0	灰黄褐色～ 褐色	砂粒やや多量/白 色粒子・赤色粒子 中量	左部に縦縄文 (RL) / 右上部に縄文 (LR) / 右下部に縦縄文 (LR)	黒氏式 縄土器
第203図31 図版95-31	深鉢	1区表土	胴部片	厚 0.9	黒褐色～ にぶい黄 褐色	砂粒やや多量	上部に縄文 (RL) / 中部に縄文 (LR) / 下部に縄文 (0段多条 RL) / ループ文2か所	黒氏式 縄土器
第204図32 図版95-32	深鉢	2区表土	胴部片	厚 0.7	赤褐色～ 褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・長石中 量/角閃石少量	縄文 (RL) / 2か所に結線/下部に円形刺突2個	諸磯a式
第204図33 図版95-33	深鉢	(G-4)グ リッド粗乱	胴部片	厚 0.8	にぶい黄 褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子・長石・角閃石 中量	円形刺突4個	諸磯a式
第204図34 図版95-34	深鉢	11 Y	胴部片	厚 0.9	褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・石英中 量	斜縄文 (RL) / 平行沈線、米字文か? / 円形刺突4個	諸磯a式
第204図35 図版95-35	深鉢	311 H	口縁部片	厚 0.8	にぶい黄 褐色～褐色	砂粒多量/白色粒 子・黒色粒子・赤 色粒子・長石中量	縄文 (RL) / 平行沈線、米字文か? / 円形刺突3個	諸磯a式
第204図36 図版95-36	深鉢	306 H	胴部片	厚 0.8	にぶい 褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子・長石中量	縄文 (RL) / 平行沈線/円形刺突2個	諸磯a式
第204図37 図版96-37	深鉢	315 H	胴部片	厚 0.5	にぶい 褐色	砂粒多量/白色粒 子・赤色粒子・石 英・長石中量	縄文 (RL) / 平行沈線/円形刺突2個	諸磯a式
第204図38 図版96-38	深鉢	317 H	胴部片	厚 0.7	にぶい 褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・石英中 量	縄文 (LR) / 平行沈線/円形刺突1個	諸磯a式
第204図39 図版96-39	深鉢	(J-4)グ リッド	胴部片	厚 0.6	赤褐色～ 褐色	砂粒・白色粒子・ 長石中量	縄文 (無節 L) / 平行沈線	諸磯a式

第81表 縄文時代遺構外出土遺物一覧(2)

発掘番号 図版番号	構 造 種	出土位置	遺存度	法 量 (cm)	色 調	胎 土	特 徴	備 考	
第204図40 図版96-40	深鉢	2区表土	胴部片	厚	0.8	にぶい黄褐色	砂粒多量・白色粒子・赤色粒子・角閃石中量	平行沈線による木葉文/集合沈線充填	諸磯a式
第204図41 図版96-41	深鉢	2区表土	胴部片	厚	0.7	にぶい黄褐色～褐色	砂粒やや多量・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子中量	平行沈線、木葉文か?	諸磯a式
第204図42 図版96-42	深鉢	317 H	口縁部片	厚	0.7	褐色	砂粒・赤色粒子・石英中量/小礫少量	縄文(直前段多条、無筋L)	諸磯a式
第204図43 図版96-43	深鉢	309 H	口縁部片	厚	0.8	にぶい褐色～暗褐色	砂粒多量/白色粒子・石英・角閃石中量	黒点文	諸磯a式
第204図44 図版96-44	深鉢	2区表土	口縁部片	厚	0.7	にぶい黄褐色	砂粒多量/白色粒子・赤色粒子中量/角閃石少量	縄文(RL)/口唇部キザミ	諸磯a式
第204図45 図版96-45	深鉢	(1-3)グリッド	口縁部片	厚	1.4	灰黄褐色～にぶい黄褐色	砂粒多量/白色粒子・赤色粒子中量	波状口縁/平行沈線(刺突)	諸磯a式
第204図46 図版96-46	深鉢	10 Y	胴部片	厚	1.1	暗灰褐色～明褐色	砂粒・白色粒子・石英・シヤモット中量	平行沈線(刺突)/集合沈線充填/下部に2~3条の横位沈線	諸磯a式
第204図47 図版96-47	深鉢	2区表土	胴部片	厚	0.7	にぶい黄褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子中量/角閃石少量	縄文(RL)/平行沈線	諸磯a式
第204図48 図版96-48	深鉢	312 H	胴部片	厚	1.0	褐色	砂粒多量/白色粒子・赤色粒子・角閃石中量	斜縄文(RL?) / 4条の平行沈線による波状文/下部に爪形文	諸磯a式
第204図49 図版96-49	深鉢	1区表土	胴部片	厚	0.9	明赤褐色	砂粒多量・白色粒子・長石中量	密な横位平行沈線	諸磯a式
第204図50 図版96-50	深鉢	3区表土	胴部片	厚	0.8	明赤褐色～褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・石英・長石中量	縄文(RL)/結節	諸磯a式
第204図51 図版96-51	深鉢	2区表土	口縁部片	厚	0.8	にぶい赤褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子中量	波状口縁/縄文(RL)/2か所に結節	諸磯a式
第205図52 図版96-52	深鉢	308 H	胴部片	厚	0.7	灰黄褐色～にぶい褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・長石中量	左部に縄文(RL)/右部に縄文(LL)/2か所に結節	諸磯a式
第205図53 図版96-53	深鉢	2区表土	底部	高底	3.0 8.7	褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・長石中量	平行沈線	諸磯a式
第205図54 図版96-54	深鉢	北東壁付近の覆土中(床土23cm)	口縁部片	厚	1.3	明赤褐色	砂粒やや多量/白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・長石中量	口唇部S字状	諸磯b式
第205図55 図版96-55	深鉢	3区表土	口縁部片	厚	0.8	褐色～にぶい橙色	砂粒多量/白色粒子・石英・長石中量	縄文(RL)/隆帯	諸磯b式か
第205図56 図版96-56	深鉢	2区表土	口縁部片	厚	1.0	明褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・角閃石中量	2条の斜位と横位の平行沈線/下部に縄文(縞条か?)	諸磯b式
第205図57 図版96-57	深鉢	1区表土	胴部片	厚	0.8	黒褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子中量/小礫少量	縄文(RL)/3条の平行沈線	諸磯b式
第205図58 図版96-58	深鉢	321 H	胴部片	厚	0.9	褐色	砂粒多量/石英やや多量/白色粒子・黒色粒子中量	縄文(LR)/4条の横位平行沈線	諸磯b式
第205図59 図版96-59	深鉢	317 H	胴部片	厚	0.8	明褐色～赤褐色	砂粒多量/白色粒子・赤色粒子中量	縄文(RL)/2条の横位平行沈線	諸磯b式

第81表 縄文時代遺構外出土遺物一覧(3)

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存状況	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考	
第205図60 図版96-60	深鉢	315 H	胴部片	厚	0.9	褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・石英・ 長石中量	棒状工具による横位沈線	諸磯b式
第205図61 図版96-61	深鉢	313 H	口縁部 片	厚	1.1	黒褐色～ 褐色	砂粒・白色粒子・ 石英中量	2条の横位と斜位の平行沈線	諸磯b式
第205図62 図版96-62	深鉢	2区表土	胴部片	厚	1.0	にぶい黄 褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・石英・ 長石中量	5～6条の横位平行沈線	諸磯b式
第205図63 図版96-63	深鉢	314 H	胴部片	厚	1.1	にぶい黄 褐色	砂粒やや多量・白 色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・角閃石 中量	中央部に3条の平行沈線/下部に2条の 横位平行沈線	諸磯b式
第205図64 図版96-64	深鉢	3区表土	胴部片	厚	0.9	にぶい褐 色～にぶ い黄褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・長石・ 白色針状物質中量	上部に2条の弧を描く斜位平行沈線/下 部に4条の横位平行沈線	諸磯b式
第205図65 図版96-65	深鉢	69 M	胴部片	厚	1.1	にぶい黄 褐色～橙 色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子中量	平行沈線によりモチーフを描く	諸磯b式
第205図66 図版96-66	深鉢	309 H	胴部片	厚	1.6	赤褐色～ 褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子・長石中量	縄文(無筋1?) / 横位集合沈線	諸磯b式
第205図67 図版96-67	深鉢	(D-6)グ リッド	胴部片	厚	0.8	黒褐色～ 灰黄褐色	砂粒・白色粒子・ 石英・長石・角閃 石中量	平行沈線による波状文	諸磯b式
第205図68 図版96-68	深鉢	318 H	胴部片	厚	0.6	にぶい褐 色～灰黄 褐色	砂粒やや多量/白 色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・石英・角 閃石中量/小礫少 量	平行沈線によりモチーフを描く/4条の 横位平行沈線/下部連続的突	諸磯b式
第205図69 図版96-69	深鉢	69 M	胴部片	厚	1.3	にぶい黄 褐色～赤 色	砂粒やや多量/白 色粒子・黒色粒子・ 角閃石・白色針状 物質中量	波状口縁/口縁に沿って3条の平行沈線	諸磯b式
第205図70 図版96-70	深鉢	(1-3)グ リッド	胴部片	厚	1.0	褐色～明 褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子・長石中量/小礫 少量	縄文(RL?) / 浮線文(斜位キザミ)	諸磯b式
第205図71 図版96-71	深鉢	2区表土	胴部片	厚	1.0	明褐色 にぶい褐 色	砂粒多量/白色粒 子・黒色粒子・赤 色粒子中量/小礫 少量	2条の浮線文(キザミ)、離れている矢羽 状	諸磯b式
第205図72 図版96-72	深鉢	(D-5)グ リッド	胴部片	厚	1.0	黄褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子中量	縄文(RL) / 斜位浮線文、一部のみ残存 / 下部横位浮線文(縄文押捺)	諸磯b式
第205図73 図版96-73	深鉢	(H-5)グ リッド	胴部片	厚	1.0	黒褐色～ 明褐色	砂粒多量/白色粒 子・黒色粒子・赤 色粒子中量・角閃 石少量	3条の浮線文(キザミ)、離れている矢羽 状	諸磯b式
第205図74 図版97-74	深鉢	314 H	胴部片	厚	0.9	にぶい褐 色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・長石中 量	縄文(RL) / 浮線文(キザミ)、矢羽状	諸磯b式
第205図75 図版97-75	深鉢	317 H	胴部片	厚	1.0	褐色～明 赤褐色	砂粒やや多量/白 色粒子・赤色粒子・ 角閃石中量	縄文(RL) / 3条の浮線文(押捺)	諸磯b式
第205図76 図版97-76	深鉢	317 H	口縁部 片	厚	0.7	褐色	砂粒多量/白色粒 子・石英・長石・ 雲母中量	4条と5条の斜位平行沈線/上部と下部 に円形貼付け各3個	諸磯c式
第205図77 図版97-77	深鉢	(G-7)グ リッド	胴部片	厚	0.6	にぶい褐 色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・石英中 量	2～3条の横位と斜位平行沈線/円形貼 付け/円形刺突?	十三番提 式
第205図78 図版97-78	深鉢	2区表土	胴部片	厚	0.9	にぶい赤 褐色	砂粒・白色粒子中 量/小礫少量	横位沈線	前期後半

第81表 縄文時代遺構外出土遺物一覧(4)

発掘番号 図版番号	構 造 種	出土位置	遺存 部	法 量 (cm)	色 調	胎 土	特 徴	備 考	
第205図79 図版97-79	深鉢	301 H	口縁部 片	厚	1.2	黄褐色	砂粒多量/白色粒 子・石英・長石・ 角閃石中量	縄文(RL)/弱いキザミ	前期末
第205図80 図版97-80	深鉢	69 M	胴部片	厚	1.0	にふい黄 褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・角閃石 中量	擦痕調整	前期末
第205図81 図版97-81	深鉢	308 H	口縁部 片	厚	0.7	明赤褐色 ～褐色	砂粒やや多量/白 色粒子・赤色粒子 中量	隆帯(貝殻腹縁によるキザミ)	浮島式
第205図82 図版97-82	深鉢	1090 D	口縁部 片	厚	0.8	褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・石英中 量	口縁部にキザミ/下部に刺突、刺突によ り盛り上がる	浮島式
第205図83 図版97-83	深鉢	304 H	口縁部 片	厚	0.7	にふい褐 色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・石英中 量	口縁部に爪形文/連続刺突	浮島式
第205図84 図版97-84	深鉢	317 H	胴部片	厚	0.9	にふい黄 褐色～に ふい褐色	砂粒多量/白色粒 子・黒色粒子・石 英中量	斜位連続キザミ/2条の横位連続刺突	浮島式
第205図85 図版97-85	深鉢	(J-3)グ リッド	胴部片	厚	0.8	にふい黄 褐色	砂粒やや多量/白 色粒子・黒色粒子 中量	全面に三角文	浮島式
第205図86 図版97-86	深鉢	(C-4)グ リッド	胴部片	厚	1.0	にふい黄 褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・石英中 量	3条の連続する三角文、1条のみ引きがあ まい	浮島式
第205図87 図版97-87	深鉢	(H-5)グ リッド	胴部片	厚	0.7	黄褐色	砂粒多量/白色粒 子・赤色粒子・石英・ 長石中量	連続する貝殻腹縁文	浮島式
第205図88 図版97-88	深鉢	68 M	胴部片	厚	0.8	暗褐色～ 褐色	砂粒多量/白色粒 子・石英中量	貝殻背圧痕文	浮島式
第205図89 図版97-89	深鉢	321 H	胴部片	厚	0.8	にふい黄 褐色	砂粒やや多量/白 色粒子・赤色粒子・ 石英・角閃石中量	貝殻背圧痕文	浮島式
第205図90 図版97-90	深鉢	313 H	胴部片	厚	0.7	にふい黄 褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・角閃石 中量	貝殻背圧痕文	浮島式
第206図91 図版97-91	深鉢	3区表土	口縁部 片	厚	1.1	褐色	砂粒・黒色粒子・ 石英・金雲母中量	粘土粘貼付け、間にキザミ/櫛歯状工具 による条痕	五頭ヶ台 式
第206図92 図版97-92	深鉢	1区表土	胴部片	厚	1.0	褐色	砂粒・石英やや多 量/白色粒子・黒 色粒子・赤色粒子・ 長石・白色斜状物 質中量	縦縄文(無節L)/3か所に結節	五頭ヶ台 式
第206図93 図版97-93	深鉢	308 H	胴部片	厚	0.7	褐色	砂粒多量/石英や や多量/白色粒子・ 金雲母中量	2か所に結節のみ	五頭ヶ台 式
第206図94 図版97-94	台付鉢	1109 D	脚台	厚	0.9	にふい赤 褐色	砂粒多量/白色粒 子・黒色粒子・赤 色粒子・石英・金 雲母中量	横糸文/隆帯(キザミ)上下に沈線	五頭ヶ台 式
第206図95 図版97-95	深鉢	317 H	口縁部 片	厚	0.8	明赤褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子・石英中量	半截竹管の外側による押引文	棚板式
第206図96 図版97-96	深鉢	10 Y	胴部片	厚	0.9	褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子・石英中量/角 閃石少量	半截竹管の外側による押引文	棚板式
第206図97 図版97-97	深鉢	311 H	胴部片	厚	0.9	にふい赤 褐色	砂粒多量/白色粒 子・黒色粒子・長石 角閃石中量	隆帯(キザミ)/2条の縦位沈線	棚板式

第81表 縄文時代遺構外出土遺物一覧(5)

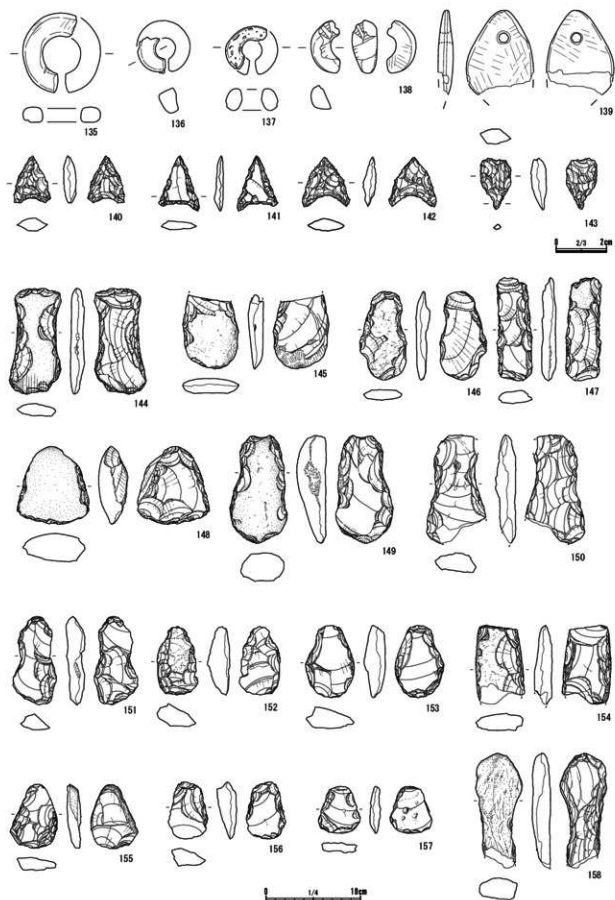
第3章 検出された遺構と遺物

検出番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存状況	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第206図98 図版97-98	深鉢	(G-3)グリッド	胴部片	厚 1.3	明褐色～ にふい黄 褐色	砂粒多量/白色粒 子やや多量/石英・ 長石・角閃石中量	縦位隆帯	磨板式
第206図99 図版97-99	深鉢	317 H	口縁部 片	厚 1.0	褐色	砂粒多量/白色粒 子・赤色粒子・長 石中量/角閃石少 量	隆帯によりモチーフを描く/縦位沈線充 填	加曽利E I式
第206図100 図版97-100	深鉢	68 M	口縁部 片	厚 1.0	褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・石英中 量	隆帯区画、縦縄文 (RL) 充填	加曽利E I式
第206図101 図版97-101	深鉢	317 H	口縁部 片	厚 1.1	褐色	砂粒多量/白色粒 子・赤色粒子・石英・ 長石中量/小礫少 量	隆帯区画、沈線充填	加曽利E I式
第206図102 図版97-102	深鉢	1方	口縁部 片	厚 1.0	にふい黄 褐色～橙 色	砂粒白色粒子・赤 色粒子・シャモツ ト中量/小礫少量	縄文 (無筋R) / 2条の隆帯	加曽利E I式
第206図103 図版97-103	深鉢	68 M	胴部片	厚 1.3	にふい橙 色	砂粒多量/白色粒 子・赤色粒子・小 礫中量	縄文 (無筋R) を側面圧痕 / 2条の縦位 隆帯	加曽利E I式
第206図104 図版97-104	深鉢	2区表土	胴部片	厚 1.2	黒褐色～ 明褐色	砂粒多量/白色粒 子・黒色粒子・赤 色粒子・石英・角 閃石中量	縦縄文 (RL) / 蛇行する縦位隆帯	加曽利E I式
第206図105 図版97-105	深鉢	2区表土	胴部片	厚 0.9	褐色	砂粒多量/白色粒 子・赤色粒子・長 石中量/角閃石少 量	隆帯/縦縄文 (RL)	加曽利E I式
第206図106 図版97-106	不明	305 H	口縁部 片	厚 0.6	黒褐色～ にふい黄 褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・石英中 量	沈線によりモチーフを描く	加曽利E I式?
第206図107 図版97-107	浅鉢	311 H	口縁部 片	厚 1.3	明黄褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子中量	沈線により渦巻を描く	加曽利E I式?
第206図108 図版97-108	深鉢	321 H	口縁部 片	厚 0.9	褐色	砂粒やや多量/白 色粒子・赤色粒 子中量	隆帯区画、横S字隆帯、縦縄文 (RL) 充 填	加曽利E II式
第206図109 図版97-109	深鉢	305 H	胴部片	厚 0.9	にふい黄 褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・石英・ 長石中量	縦縄文 (O段多糸RL) / 縦位と横位沈線	加曽利E II式
第206図110 図版97-110	深鉢	2区表土	胴部片	厚 0.9	にふい黄 褐色～橙 色	砂粒・黒色粒子・ 赤色粒子中量	縦縄文 (RL) / 縦位と円形沈線	加曽利E II式
第206図111 図版97-111	深鉢	10 Y	胴部片	厚 1.2	にふい黄 褐色	砂粒やや多量/白 色粒子・黒色粒 子・赤色粒子・長 石・角閃石中量	縦縄文 (RL) / 蛇行する縦位沈線	加曽利E II式
第206図112 図版98-112	深鉢	305 H	底部 5%	高さ 7.5	黒褐色～ 黄褐色	砂粒多量/白色粒 子・赤色粒子中量 /小礫少量	縦縄文 (RL) / 縦位と蛇行する沈線	加曽利E II式
第206図113 図版98-113	深鉢	69 M	口縁 5%	高さ 34.7	黒褐色～ 褐色	砂粒・白色粒子・ 石英・長石中量	沈線区画、口縁部縄文 (RL) 充填、胴部 縦縄文 (RL) 充填/突起を有す	加曽利E III式
第107図114 図版98-114	深鉢	313 H	口縁部 片	厚 1.2	にふい黄 褐色～明 赤褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子中量	縄文 (無筋R) / 沈線	加曽利E III式
第107図115 図版98-115	深鉢	10 Y	胴部片	厚 0.9	黒褐色～ にふい黄 褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子・石英中 量	縄文 (無筋L)	加曽利E III式
第107図116 図版98-116	深鉢	69 M	胴部片	厚 1.4	褐色	砂粒やや多量/白 色粒子・赤色粒子・ 石英・角閃石中量	縦位沈線/縦縄文 (RL)	加曽利E III式

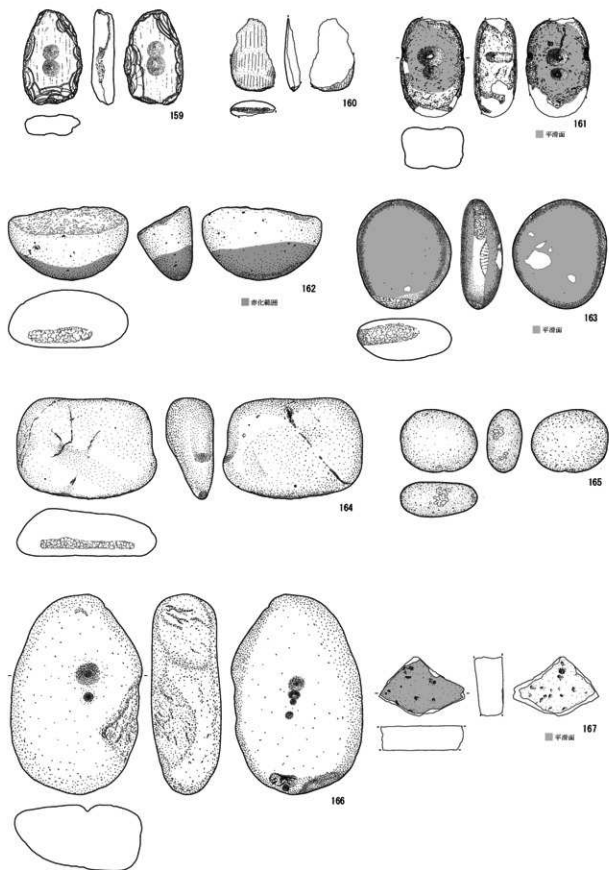
第81表 縄文時代遺構外出土遺物一覧(6)

探洞番号 図版番号	構 造 種	出土位置	遺存度	法 量 (cm)	色 調	胎 土	特 徴	備 考	
第107図117 図版98-117	深鉢	69 M	胴部片	厚	1.1	明赤褐色 ～橙色	砂粒多量/白色粒子・赤色粒子・石英・長石・角閃石中量	沈線区画/縦線文 (RL)	加曾利E Ⅲ式
第107図118 図版98-118	深鉢	(D-7) グ リッド	胴部片	厚	1.0	にぶい褐色	砂粒やや多量/白色粒子・黒色粒子中量	縦線文 (LRL) / 沈線により渦巻きを描く	加曾利E Ⅲ式
第107図119 図版98-119	深鉢	309 H	胴部片	厚	1.2	にぶい褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・長石中量	縦文 (LR) / 横位沈線	加曾利E Ⅲ～Ⅳ式
第107図120 図版98-120	深鉢	305 H	口縁部 片	厚	1.0	にぶい褐色 ～にぶい 橙色	砂粒やや多量/白色粒子・赤色粒子中量	縦線文 (RL) / 横位沈線	加曾利E Ⅲ～Ⅳ式
第107図121 図版98-121	深鉢	1区表土	口縁部 片	厚	1.0	褐色	砂粒多量/白色粒子・石英・角閃石中量	縦線文 (RL) / 横位沈線	加曾利E Ⅲ～Ⅳ式
第107図122 図版98-122	深鉢	7 J	口縁部 片	厚	1.3	にぶい黄 褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・石英中量	下部に縦位沈線	加曾利E Ⅳ式
第107図123 図版98-123	深鉢	317 H	口縁部 片	厚	0.8	明赤褐色	砂粒・雲母多量/白色粒子・長石・角閃石中量	下部斜位キザミ/粘土組貼付け	曾利式
第107図124 図版98-124	深鉢	305 H	口縁部 片	厚	0.7	褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・長石中量	横位沈線	曾利式
第107図125 図版98-125	深鉢	(1-2) グ リッド	胴部片	厚	0.5	にぶい黄 褐色	砂粒多量/白色粒子・赤色粒子中量	斜位沈線/蛇行する隆帯	曾利式
第107図126 図版98-126	深鉢	(F-4) グ リッド	胴部片	厚	0.9	褐色	砂粒多量/白色粒子・赤色粒子・長石中量/角閃石少量	縦位沈線/縦位隆帯(キザミ)、矢羽状	曾利式
第107図127 図版98-127	深鉢	305 H	胴部片	厚	0.9	灰黄褐色 ～褐色	砂粒やや多量/白色粒子・赤色粒子・石英・角閃石中量	縦線文 (RL) / 縦位と蛇行する沈線	連弧文
第107図128 図版98-128	深鉢	308 H	口縁部 片	厚	1.2	明赤褐色 ～暗赤褐色	砂粒・石英・角閃石多量/白色粒子中量	燃糸文/横位沈線	連弧文
第107図129 図版98-129	深鉢	308 H	胴部片	厚	1.3	暗赤褐色 ～明赤褐色	砂粒・石英・角閃石多量/白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・中量	5～6条の縦位沈線	連弧文
第107図130 図版98-130	深鉢	303 H	胴部片	厚	1.0	褐色～に ぶい褐色	砂粒多量/白色粒子・長石中量	糸線/横位沈線/上部に連弧文?	連弧文
第107図131 図版98-131	深鉢	310 H	口縁部 片	厚	0.8	にぶい黄 褐色	砂粒・白色粒子・赤色粒子・石英・長石中量/小礫少量	横位沈線	甕之内式
第107図132 図版98-132	深鉢	321 H	胴部片	厚	0.8	褐色	砂粒やや多量/白色粒子・赤色粒子・角閃石中量	縦線文 (RL) / 沈線でモチーフを描く	甕之内式
第107図133 図版98-133	深鉢	308 H	胴部片	厚	0.7	灰黄褐色 ～にぶい 黄褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・角閃石中量	横位と斜位沈線	甕之内2 式
第107図134 図版98-134	深鉢	314 H	口縁部 片	厚	0.5	にぶい褐色	砂粒・白色粒子・黒色粒子・赤色粒子中量	隆帯(キザミ)	加曾利b 式

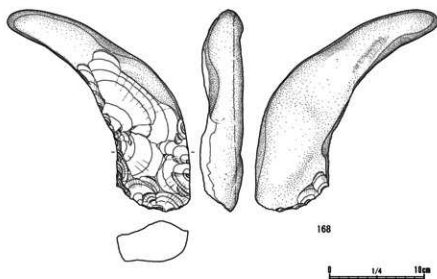
第81表 縄文時代遺構外出土遺物一覧(7)



第208図 縄文時代遺構外出土遺物6 (2/3・1/4)



第209图 縄文時代遺構外出土遺物7 (1/4)



第210図 縄文時代遺構外出土遺物8(1/4)

縄文番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特徴	備考
第208図135 図版99-135	塊状 耳飾	10 Y	50%	滑石	径 (30.8)	孔径 (15.1)	5.4	4.4	金環形で断面は隅丸長方形。表面は光沢あり、研磨されている。	
第208図136 図版99-136	塊状 耳飾	10 Y	25%	滑石	径 (21.1)	孔径 (8.0)	9.9	1.5	金環形で断面は肉厚で台形状。稜線はやや角張る。	
第208図137 図版99-137	塊状 耳飾	305 H	40%	軽石	径 (20.7)	孔径 (7.9)	8.6	0.5	金環形。断面は楕円状八字状を呈する。風化によりもろくなっている。	
第208図138 図版99-138	塊状 耳飾	306 H	30%	滑石	径 (20.7)	孔径 (8.1)	9.9	2.6	もとは塊状耳飾で欠損後下部をほそくし、上部に穿孔痕をほどこそうとしたようであるが目的まで到達せず。	
第208図139 図版99-139	垂飾	(J-7) グ リッド	下部 欠損	滑石	33.5	26.8	6.0	6.6	幅広のしずく状。上部は径の大きめの穿孔あり。光沢あり、研磨痕が見られる。	
第208図140 図版99-140	石鏡	10 Y	完形	チャート	74.2	58.6	20.2	1.1	凹基無茎で肉厚。先端部は尖る。側面はややふくらむ。	
第208図141 図版99-141	石鏡	305 H	完形	チャート	86.8	64.2	14.4	0.9	凹基無茎。片方の縁が長い。側片は直線的。素材面を残し、周辺部のみ削離がほどこされている。	
第208図142 図版99-142	石鏡	317 H	完形	チャート	78.6	75.0	20.2	1.2	凹基無茎。肉厚で側面は大きくふくらむ。	
第208図143 図版99-143	石鎌	(H-5) グ リッド	完形	チャート	81.4	48.6	24.6	1.4	つまみ部分に対して鎌部が小さい。鎌は断面は三角形。非常に細かな調整がほどこされている。	
第208図144 図版99-144	打製 石斧	10 Y	完形	片状 砂岩	111.7	54.6	14.7	113.5	文胴形ではほぼ完形。薄く作りで表に大きく自然面を残す。刃部は使用により摩滅している。側縁中央部に若干の敲打痕がみられる。	
第208図145 図版99-145	打製 石斧	304 H	基部 欠損	粘板岩	[78.1]	59.0	[15.9]	95.8	楕形か？表は刃部にかけて自然面を大きく残し、裏面は刃部にかけて非常に丁寧に研磨が施されている。	
第208図146 図版99-146	打製 石斧	304 H	完形	ホルン フェルス	94.5	49.4	14.4	65.1	楕形。左右とも両側縁中央部に丁寧に削離が施されている。風化著しい。	
第208図147 図版99-147	打製 石斧	315 H	完形	粘板岩	109.0	37.7	15.3	84.4	短円形。完形。連続する調整により成形。刃部付近が一層厚くなっている。	
第208図148 図版99-148	打製 石斧	313 H	完形	頁岩	82.2	75.8	30.8	210.4	楕形。小型だが肉厚。表は大きく自然面を残す。	

第81表 縄文時代遺構外出土遺物一覧(8)

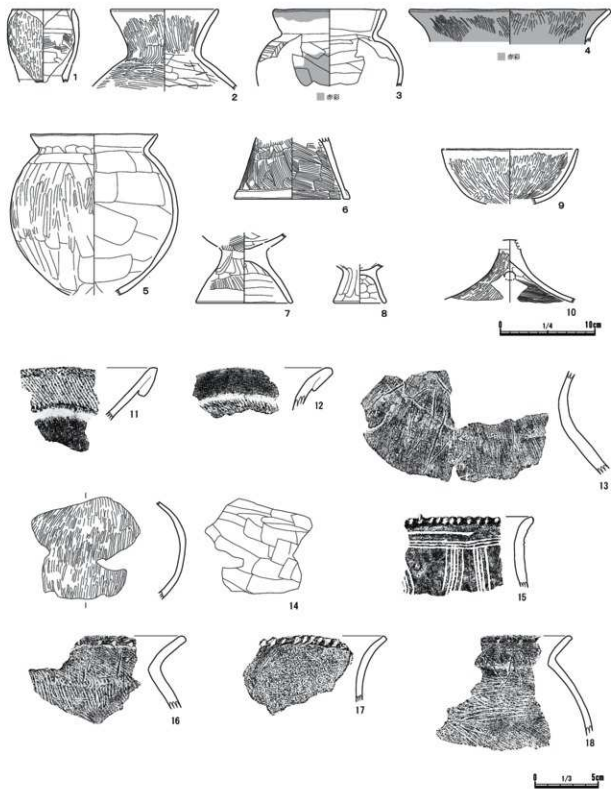
神宮番号 図版番号	部 種	出土位置	遺存度	石 材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	特 徴	備 考
第208図149 図版99-149	打製 石斧	318 H	完形	中粒 緑色 凝灰岩	1139	60.5	31.0	263.8	表面中央に自然面をのこす。表面刃部 付近は使用による研磨がみられる。側 縁中央部は敲打により歯つぶしが行わ れている。	
第208図150 図版99-150	打製 石斧	318 H	刃部・ 基部部 欠損	ホルン フェル ス	[114.6]	[62.6]	21.6	142.1	扇形。風化著しく表面はかなり凸凹に なっている。	
第208図151 図版99-151	打製 石斧	320 H	完形	ホルン フェル ス	93.1	45.7	19.5	73.8	扇形。節理もあり、剥離がゆがみやすい。	
第208図152 図版99-152	打製 石斧	(H-4) グ リッド	完形	ホルン フェル ス	71.9	43.2	23.5	66.0	表中央部に大きな節理面をのこす。全 体に側からの大きめの成形で形成され ている。	
第208図153 図版99-153	打製 石斧	2区表土	完形	ホルン フェル ス	75.0	51.8	22.6	85.7	肉厚で小型の打斧で扇形。辺縁に連続 する加工をほどこしている。	
第208図154 図版99-154	打製 石斧	309 H	刃部 欠損	珪質粘 板岩	[82.5]	[51.2]	18.2	100.4	短筒形。欠損時使用を考慮調整したも よう。上部は平端で急角度の調整が連 続して行われている。	
第208図155 図版99-155	打製 石斧	315 H	完形	頁岩	67.4	49.7	14.9	50.1	扇形。刃部以外は自然面をのこしてい る。非常に薄い剥離により整形されて いる。	
第208図156 図版99-156	打製 石斧	315 H	完形	ホルン フェル ス	60.0	41.7	20.8	48.4	肉厚で小型の打製石斧で扇形。刃部の 調整はあまりない。	
第208図157 図版99-157	打製 石斧	316 H	完形	ホルン フェル ス	49.6	44.1	11.4	27.1	小型の扇形の打製石斧で上部左右側縁 部は折曲により台形状を呈する。表裏 面とも縁辺部からの連続する剥離によ り調整される。	
第208図158 図版99-158	打製 石斧	311 H	下部 欠損	ホルン フェル ス	[121.4]	[49.3]	19.1	126.4	扇形？。側面はほぼ自然面。側面は急 角度な加工がほどこされ、左側面はそ の後に敲打がほどこされている。	
第209図159 図版99-159	凹石→ 打製 石斧	320 H	完形	緑泥 片岩	100.2	62.6	24.0	227.0	凹石として使用していたものが打製石 斧に転用されている。表裏中央に凹が く。側面から上部にかけ敲打による 歯つぶしが行われる。刃部はすりへり。	
第209図160 図版99-160	磨製 石斧	2区表土	刃部片	緑色岩	[76.7]	[47.3]	[16.1]	58.9	磨製石斧の一部の刃部。刃部は敲打に よって丸みをおびる。	
第209図161 図版99-161	磨石・ 凹石・ 礪石	309 H	部分的 に欠損	閃緑岩	[104.7]	[67.6]	45.2	482.9	表面はかなり風化し場所によって欠損 している。楕円形で厚みのある磨石・ 凹石として使用後くぼみをつけ礪石と して使用か？	
第209図162 図版100-162	礪石	1076 D	完形	砂岩	125.9	74.5	58.3	622.8	使用されたのち、被熱により下部が赤 化。下端部に敲打痕。上部の割れ口は 割れのち、全面を敲打により埋め込 んでいる。そのため割れ口のラインは 消らかくなっている。上部は再加工と いうことで欠損としない。	
第209図163 図版100-163	磨石・ 礪石	2区表土	完形	変質 ドレイ ライト	115.5	99.3	43.6	769.3	表・裏面に広く平滑面がひろがり、下 端から左側→上端→右側面上部にかけ て敲打痕が見られる。敲打痕は平滑面 より新しい。右側中央部は研磨痕がみ られる。	
第209図164 図版100-164	礪石	320 H	完形	砂岩	147.5	106.7	50.2	1083.0	上部は厚く、下部は薄くなる形状で下 端部に敲打痕をのこす。かなり重いが 上部はつかみやすい。	
第209図165 図版100-165	礪石	(1-3) グ リッド	完形	凝灰岩	66.3	80.9	37.5	291.6	こぶし大の自然産で両縁部にブロッ ク状の敲打痕がみられる。表面は風化が すすみ、磨り痕等は確認できず。	
第209図166 図版100-166	石皿・ 凹石	314 H	完形	安山岩	211.7	138.9	73.8	2827.4	大きく板状の自然石で、平端面中央に 複数の凹が有する。平端面は見られず。	
第209図167 図版100-167	石皿	2区表土	部分	閃緑岩	[90.5]	[62.2]	[30.3]	193.2	大きく欠損。皿部がやや斜めで平端。 表面は平滑。	
第210図168 図版100-168	礪石斧	(1-5) グ リッド	完形	細粒 砂岩	213.1	193.1	45.4	1139.1	角状に湾曲する自然産をもちいる。刃 部の表裏とも調整が入る。	

第81表 縄文時代遺構外出土遺物一覧(9)

(2) 弥生時代中期～古墳時代前期

[土器] (第211図1～10、図版101-1-1～18、第82表)

1は埴か、2、11～14は甕、3・4は広口甕、5・7・8・15～18は甕・台付甕、6は台付鉢か、9・10は高坏である。



第211図 弥生時代遺構外出土遺物 (1/3・1/4)

発掘番号 図版番号	構種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考
第211図1 図版101-1-1	埴か	306 H	口縁～ 底部 5%	口 (6.5)	にぶい 褐色	砂粒・白色粒子中 量	口縁部は内湾する/内面:ハケナデ・ヘ ラナデ/外面:ミガキ、接合部ハケナデ?	古墳時代前期
第211図2 図版101-1-2	甕	1区表土	口縁～ 胴部 15%	高口 (11.4)	褐色	砂粒多量/白色粒 子・黒色粒子・赤 色粒子・長石中量 /小礫少量	内面胴部ツギメが目立つ/内面:口縁部 ミガキ、胴部ヘラナデ/外面:口縁部縦 ミガキ、胴部横ミガキ	古墳時代前期
第211図3 図版101-1-3	甕	1区表土	口縁～ 胴部 10%	高口 (12.0)	にぶい 黄褐色	砂粒多量/白色粒 子・黒色粒子・赤 色粒子・石英中量	外面口縁部・胴部赤彩/内面:口縁部横 ナデ、胴部ヘラナデ/外面:口縁部横ナ デ、胴部ハケナデ・ヘラナデ	古墳時代前期
第211図4 図版101-1-4	広口甕	311 H	口縁部 5%	高口 (3.7) (21.4)	明赤褐 色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子中量/長 石少量	内面外面:ハケナデ→ミガキ	古墳時代前期
第211図5 図版101-1-5	台付甕 (J-4) グリッド	(J-4) グリッド	口縁～ 胴部 50%	高口 (17.0) (13.5)	褐色	砂粒やや多量/白 色粒子・赤色粒子 中量/角閃石・小 礫少量	内面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ/外 面:口縁部横ナデ、胴部ヘラナデ→ミガ キ	古墳時代前期
第211図6 図版101-1-6	台付鉢	314 H	口縁部 10%	高底 (6.5) (12.2)	褐色～ にぶい 褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子中量/小礫少量	内面外面:ハケナデ	古墳時代前期
第211図7 図版101-1-7	台付甕	306 H	高底	高底 (7.5) (10.2)	黒褐色 ～にぶ い褐色	砂粒多量/白色粒 子中量	内面:ヘラナデ/外面:接合部ヘラナデ・ ハケナデ、台下部横ナデ	弥生時代後期 後半～古墳時 代前期
第211図8 図版101-1-8	台付甕	309 H	高底	高底 (4.1) (5.6)	にぶい 褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子中量/長 石少量	内面:台見込部押え、台部ヘラナデ/ 外面:ヘラナデ	弥生時代後期 後半～古墳時 代前期
第211図9 図版101-1-9	高坏	321 H	口縁～ 体部 20%	高口 (5.8) (14.2)	明赤褐 色	砂粒やや多量/白 色粒子・赤色粒子 ・黒色粒子・長石 中量	内面外面:ミガキ	古墳時代前期
第211図10 図版101-1-10	高坏	313 H	胴部	高 (6.6)	褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子中量/角 閃石少量	胴上部に穿孔3単位/裾部は大きく広がる/ 内面:環部ナデ、臺見込部ヘラナデ、 下部ハケナデ/外面:ミガキ	古墳時代前期
第211図11 図版101-1-11	甕	309 H	口縁部 片	厚 0.5	褐色	砂粒やや多量/白 色粒子・赤色粒子 ・黒色粒子中量 /シャモット中量	複合口縁/口唇部・口縁部無筋織文し/ 複合口縁の折り返し先端一部キザミ/内 面:ハケナデ/外面:胴部ヘラナデ	弥生時代後期 後半
第211図12 図版101-1-12	甕	309 H	口縁部 片	厚 0.7	明褐色	砂粒・白色粒子・ 赤色粒子中量	複合口縁/内面:ミガキ/外面:口縁部 ミガキ、胴部ハケ→一部ミガキ	古墳時代前期
第211図13 図版101-1-13	甕	2区表土	頸部片	厚 0.8	にぶい 黄褐色 ～にぶ い褐色	砂粒・白色粒子・ 石英中量	内面:ハケナデ・ヘラナデ/外面:ハケ ナデ	弥生時代後期 ～古墳時代前 期
第211図14 図版101-1-14	甕	306 H	胴部片	厚 0.4	にぶい 褐色	砂粒・白色粒子・ 黒色粒子・赤色粒 子中量	内面:ヘラナデ/外面:ミガキ	古墳時代前期
第211図15 図版101-1-15	甕	9 J	口縁部 片	厚 0.7	褐色	砂粒・白色粒子・ 長石・石英中量	口縁部は外挿する/頸部に3条の横位沈 線/胴部に3～4条の横位沈線/口縁部 キザミ/内面:ナデ/外面:ナデ	弥生時代中期 末葉
第211図16 図版101-1-16	台付甕	2区表土	口縁～ 胴部片	厚 0.8	にぶい 褐色	砂粒・白色粒子中 量	内外面口縁部赤彩/内面:ハケナデ・ヘ ラナデ/外面:口唇部ヘラナデ、口縁～ 胴部ハケナデ、口縁上部横ヘラナデ	古墳時代前期
第211図17 図版101-1-17	台付甕	304 H	口縁部 片	厚 0.5	にぶい 褐色	砂粒多量/白色粒 子・石英・長石中 量	口唇部キザミ/口縁部は緩やかに外反す る/内面:ハケナデ/外面:ハケナデ	弥生時代後期 後半
第211図18 図版101-1-18	台付甕	312 H	口縁～ 胴部辺	厚 0.5	黄灰色	砂粒やや多量/白 色粒子・長石・シャ モット中量	口唇部キザミ/内面:口縁部横ナデ、 胴部ヘラナデ/口唇部横ナデ、口縁部横 ナデ、胴部ハケナデ	古墳時代前期

第82表 弥生時代中期～古墳時代前期遺構外出土遺物一覧

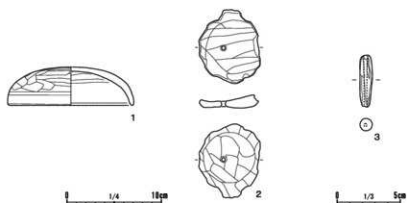
(3) 古墳時代

[土 器] (第212図1、図版101-2-2-1、第83表)

1は須恵器の蓋である。

[土 製品] (第214図2・3、図版101-2-2-2・3、第83表)

2は土師器の甕を転用した紡錘車、3は土鍾である。



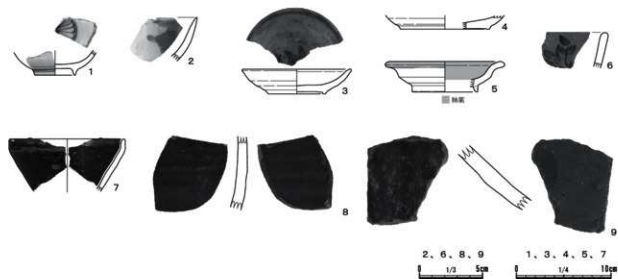
第212図 古墳時代後期遺構外出土遺物(1/3・1/4)

碑図番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法量 (cm)	色調	胎土	特徴	備考	
第212図1 図版101-2-1	須恵器 蓋	表深	完形	高口 4.0 13.3	黄灰色	砂粒・白色粒子多量 /長石・角閃石 中量	内面：回転ナデ/外面：頂部手持ちヘラケズリ、体部回転ナデ	湖西京跡産/6世紀後葉	
碑図番号 図版番号	器種	出土位置	遺存度	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特徴	備考
第212図2 図版101-2-2	土師器 裏転用 紡錘車	2区表土	完形	0.8	0.7	0.1	49.8	土師器裏の底部を転用して作成される。楕円形で中央をやや外れて3.8mmの穿孔を開ける。	
第212図3 図版101-2-3	土製品 土鉢	表深	完形か	4.1	1.0	1.0	3.0	中央部穿孔。外面ナデ、一部に工具痕あり。	

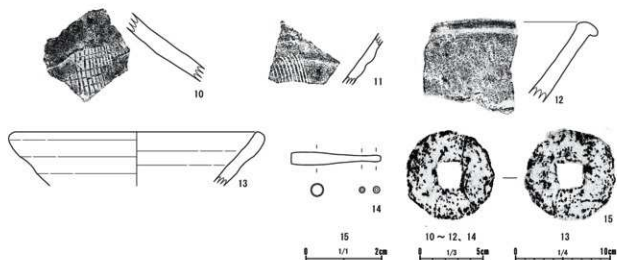
第83表 古墳時代遺構外出土遺物一覧

(4) 中世以降(第213・214図1～15、図版102-1-1～15、第84表)

1・2は磁器碗、3～12は陶器で、3～5は皿、6は鬢水入れ、7は碗、8は瓶類、9・10は甕、11は播鉢、12は鉢、13は瓦質土器鉢、14は煙管の吸口、15は銭貨である。



第213図 中世以降遺構外出土遺物1(1/3・1/4)



第214図 中世以降遺構外出土遺物2 (1/1・1/1・3/1・1/4)

神四番号 図版番号	種別 器種	出土位置	遺存度	法 量 (cm)	色 調	胎 土	特 徴	備 考		
第213図1 図版102-1-1	磁器 碗	表採	体部～ 底部 15%	高口 2.6 底 (4.3)	白色	緻密	外面下部～高台に呉須描き面線3条、内面 見込みに呉須描き面線・菊文/透明軸	肥前系/17世紀 末～18世紀初		
第213図2 図版102-1-2	磁器 碗	3区表土	口縁部 ～体部 片	厚 0.5	白色	緻密	外面に呉須描き文様/透明軸	肥前系(波佐見) /18世紀前		
第213図3 図版102-1-3	陶器 皿	(J-5) グリッド 確認面	口縁部 ～底部 30%	高口 2.6 底 (11.6) (6.1)	灰色	緻密	口縁部内面に鉄絵面線、内面見込みに鉄絵 紅葉様の文様/削り高台/透明軸	瀬戸・美濃系(志野) /17世紀中葉		
第213図4 図版102-1-4	陶器 皿	313H	口縁部 ～底部 8%	高口 1.5 底 (9.5)	白色	緻密	内外面細かな貫入/削り高台/白色軸	瀬戸・美濃系(志野) /17世紀前		
第213図5 図版102-1-5	陶器 皿	2区表土	口縁部 ～底部 5%	高口 3.2 底 (12.7) 7	白色	緻密	内面見込みに鉄絵/外面の軸は口縁部のみ /貼り付け高台/白色軸	瀬戸・美濃系(志野) /17世紀中葉		
第213図6 図版102-1-6	陶器 髷水 入れ	(I-9) グリッド 補丸	口縁部 ～体部 片	厚 0.5	灰色	緻密	外面に鉄絵篆文/透明軸	瀬戸・美濃系/18 世紀		
第213図7 図版102-1-7	陶器 碗	2区表土	口縁部 ～胴部 15%	高口 5.5 底 (12.3)	茶白色	緻密	天目軸	天目輪/瀬戸・美 濃系/近世か		
第213図8 図版102-1-8	陶器 瓶類	2区表土	胴部片	厚 0.8	灰色	緻密	轆轤水挽成形/鉄軸	瀬戸・美濃系/近 世		
第213図9 図版102-1-9	陶器 甕	2区表土	胴部	厚 1.3	灰色	緻密	外面降灰が溶けて濃緑色を呈す/自然軸	常滑/13世紀前 半		
第214図10 図版102-1-10	陶器 甕	2区表土	胴部片	厚 1.2	灰色	緻密、砂 粒やや多 量	外面格子状噴/無軸	常滑/14～15世 紀		
第214図11 図版102-1-11	陶器 鉢鉢	2区表土	体部片	厚 0.7	灰白色	緻密、砂 粒やや多 量	外面轆轤目、内面櫛目(単位10本)/鉄軸	瀬戸・美濃系/近 世		
第214図12 図版102-1-12	陶器 鉢鉢	2区表土	口縁部 ～体部 片	厚 1.1	黄灰色～ 赤褐色	緻密、砂 粒やや多 量	内外面ナ字調整/無軸	常滑/15世紀前 葉～中葉		
第214図13 図版102-1-13	瓦質 土器 鉢鉢	2区表土	口縁部 ～体部 片	高口 5.7 底 (27.2)	灰色	緻密	内外面ナ字調整、外面一部ケズリ/内面下 半平滑/程鉢/無軸	中世		
神四番号 図版番号	器 種	出土位置	遺存度	材 質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	特 徴	備 考
第214図14 図版102-1-14	副製品 煙管 吸口	2区表土	完形	銅	7.1	1.0	1.0	5.7	小口側の厚さ0.6mm、口元側の厚さ1.5 mm。	
第214図15 図版102-1-15	残貨	表採	完形	銅	2.3	2.3	0.2	1.8		落不明

第214表 中世以降遺構外出土遺物一覧

第4章 調査のまとめ

第1節 旧石器時代

城山遺跡では、これまで4地点から、立川ローム第IV層上部・VI層・VII層を出土層準として、8か所の石器集中地点と、9基の礫群が出土している(註1)。ここでは、既報告の石器集中地点と礫群に報告順の連番を付与しながら(第85～87表)、各旧石器出土地点の成果を1)立地、2)石器集中地点、3)礫群の視点で踏まえ、第96地点の意義を考えてみたい。

第42地点は、遺跡の中央西端に位置する。立川ローム第IV層上部(第1文化層)と、VII層(第2文化層)を出土層準とする石器集中地点2か所が確認されている。各石器集中地点で接合資料は確認されていない。1号石器集中地点は、石器19点である。器種は、挟入石器1点、剥片18点である。石質は、挟入石器が頁岩であることを除いて、剥片は全て黒曜石である。2号石器集中地点は、石器10点、礫1点の総数11点である。器種は二次加工剥片1点、剥片8点、碎片1点である。石質は、二次加工剥片が砂岩、剥片が安山岩3点、チャート1点、頁岩3点に分かれる。碎片はチャートである(尾形・深井・青木 2005)。

第63地点は、遺跡の南東端に位置する。立川ローム層VI層を出土層準とする石器集中地点3か所が出土している。石器の石質は全て黒曜石である。3号石器集中地点(1号試掘坑)は石器9点、礫6点の総数15点である。器種は、接合して1点となる二次加工剥片2点と、剥片7点である。4号石器集中地点(2号試掘坑)は、石器26点、礫1点の総数27点である。器種は、二次加工剥片4点、石核1点、剥片21点である。石核には二次加工剥片4点と剥片7点が接合する。5号石器集中地点(5号試掘坑)は、石器3点である。器種は剥片である(尾形・徳留・坂上・青池・鈴木 2011)。

第62地点は、第63地点と近接し、遺跡の南東端に位置する。立川ローム層IV層上部を出土層準とする散漫な分布の6号石器集中地点を検出している。石器は5点である。器種は、ナイフ形石器1点、剥片4点である。石質は、ナイフ形石器が頁岩、剥片が頁岩2点、黒曜石1点、報告書記載なく不明1点である(尾形・徳留・深井・青木 2012)。

第71地点は、遺跡の北東端に位置する。立川ローム第V層上部～IV層下部を出土層準とする石器集中地点2か所と礫群9基が出土している。石器集中地点は母岩を共有する。7号石器集中地点(1ブロック)は、石器49点である。器種は、スクレイパー3点、二次的剥離のある剥片2点、不規則剥離のある剥片3点、剥片23点、調整剥片4点、碎片3点、石核11点である。石質は、頁岩17点、チャート31点、黒曜石1点である。8号石器集中地点(2ブロック)は、石器12点である。器種は、不規則剥離のある剥片1点、剥片8点、調整剥片2点、石核1点である。石質は全てチャートである。礫群は、調査区が異なる2か所の礫群を視覚的に細分して9基としたものである。礫群1(礫群1A～1F:1～6号礫群)は、総点数は422点である。完形礫は161点で、それ以外は破砕礫である。石質は砂岩338点、チャート80点、ホルンフェルス4点である。重量別の組成では50g未満が111点、50～100g未満が101点、100g～250g未満が164点、250g～1000g未満が40点、1000g以上が6点である。礫表面・破断面の状態は、表面が赤化するもの162点、表面に付着物が認められるもの311点である。礫群2(礫群2A～2C:7～9号礫群)は、総点数は173点である。完形礫は

53点で、それ以外は破砕礫である。石質は砂岩 135点、チャート 33点、ホルンフェルス 5点である。重量別の組成では 50g 未満が 51点、50～100g 未満が 48点、100g～250g 未満が 53点、250g～1000g 未満が 19点、1000g 以上が 2点である。礫表面・破断面の状態は、表面が赤化するもの 72点、表面に付着物が認められるもの 140点である。(尾形・大久保・中山・二瓶・稲村・加藤 2013)。

城山遺跡の旧石器地点の立地は、いずれも遺跡の端部にある。第 96 地点も遺跡の北西端に位置する。特に柳瀬川を望む遺跡の北端で石器集中地点の規模が大きい傾向にあると言えるだろう。礫群がこちらだけに残されていることも考えれば、相対的に長い集落が営まれたのは、こちら側だったと考えられよう。ただし、遺跡の北端に位置する第 71・96 地点と、それ以外の 42・62・63 地点では文化層が残される出土層準が異なっており、必要な遺跡立地が、狩猟採集生活の遊動や生業活動の違いに起因する可能性もある。

城山遺跡の石器集中地点は、立川ローム第Ⅳ層上部・Ⅵ層・Ⅶ層を出土層準としていたが、第 96 地点によって、立川ローム第Ⅶ下～Ⅸ上層に遡ることが明らかとなった。また、立川ローム層第Ⅳ下～Ⅴ層段階で最も主体となる石質が黒曜石であることも明確となった。第 96 地点から出土した黒曜石は産地推定を実施し、麦草峠産であることが判明した(株式会社東京航業研究所地球科学分析室 2020)。今回対象とした資料に加えて、既報告の黒曜石についても産地推定を実施すれば、城山遺跡における旧石器時代の利用黒曜石産地の変遷や、産地別構成比の時期的変化を明らかにすることができるだろう。加えて、指摘される黒曜石利用の傾向や画期、提案されている黒曜石獲得モデルについても、議論が可能となるかもしれない。

城山遺跡の礫群は、遺跡の北側だけに認められる。同じ北端で同時期の 71 地点と 96 地点でも、ナイフ形石器にみる狩猟具の残され方や、調理施設と考えられる礫群の規模は異なっているようである。

石器集中地点 (調査地点)	出土層準	ナイフ形石器	スクレイパー	抉入石器	楔形石器	石核	二次加工断片	微細剥離断片	調整断片	剥片	砕片	合計
1号石器集中地点 (第42地点1文)	Ⅳ上			1						18		19
6号石器集中地点 (第62地点)	Ⅳ上	1								4		5
7号石器集中地点 (第71地点1B)	ⅣFV上		3			11	2	3	4	23	3	49
8号石器集中地点 (第71地点2B)	ⅣFV上					1		1	2	8		12
9号石器集中地点 (第96地点1文)	ⅣFV上	7		2		4	1	1		84	22	121
10号石器集中地点 (第96地点2文)	ⅤFV上					2	1			38	9	50
3号石器集中地点 (第63地点TP1)	M						2			7		9
4号石器集中地点 (第63地点TP2)	M					1	4			21		26
5号石器集中地点 (第63地点TP3)	M									3		3
2号石器集中地点 (第42地点2文)	Ⅵ						1			8	1	10
11号石器集中地点 (第96地点3文)	ⅦFⅨ上	1			1					58	12	72

第 85 表 城山遺跡出土石器集中地点の出土層準別器種組成

石器集中地点(調査地点)	出土層準	黒曜石	チャート	頁岩	安山岩	碧玉	砂岩	不明	合計	備考 (接合例・O B産地)
1号石器集中地点(第42地点1文)	IV上	18		1					19	接合なし・不明
6号石器集中地点(第62地点)	IV上	1		3				1	5	接合なし・不明
7号石器集中地点(第71地点1B)	IVFV上	1	31	17					49	接合10例・不明
8号石器集中地点(第71地点2B)	IVFV上		12						12	接合なし
9号石器集中地点(第96地点1文)	IVFV上	89	6	3	22	1			121	接合6例・変草峠
10号石器集中地点(第96地点2文)	VFM上		45	5					50	接合1例
3号石器集中地点(第63地点TF1)	M	9							9	接合1例・信州系?
4号石器集中地点(第63地点TF2)	M	26							26	接合1例・信州系?
5号石器集中地点(第63地点TF3)	M	3							3	接合なし・信州系?
2号石器集中地点(第42地点2文)	VI		1	4	4		1		10	接合なし
11号石器集中地点(第96地点3文)	VIFX上	2	68	2					72	接合1例・小片不明

第86表 城山遺跡出土石器集中地点の出土層準別石質組成

礫群(調査地点)	出土層準	点数	重さ・平均重さ	完形率	破砕礫	50%未満	50%未満	100%未満	250%未満	250%以上	赤化(%)	付着物(%)	破砕面(%)	破砕面付着物(%)	備考
1号礫群(第71地点1A)	IVFV上	46	-	11	35	29	7	8	2	0	18 (39)	26 (57)	-	-	接合10
2号礫群(第71地点1B)	IVFV上	11	-	2	9	7	0	2	2	0	7 (64)	10 (91)	-	-	接合4
3号礫群(第71地点1C)	IVFV上	140	-	57	83	29	31	62	14	4	44 (31)	109 (78)	-	-	接合19
4号礫群(第71地点1D)	IVFV上	83	-	35	48	14	24	39	6	0	34 (41)	66 (80)	-	-	接合12
5号礫群(第71地点1E)	IVFV上	120	-	43	77	31	31	43	13	2	49 (41)	84 (70)	-	-	接合17
6号礫群(第71地点1F)	IVFV上	22	-	13	9	1	8	10	3	0	10 (45)	16 (73)	-	-	接合17
7号礫群(第71地点2A)	IVFV上	29	-	6	23	13	6	7	3	0	12 (41)	17 (59)	-	-	接合17
8号礫群(第71地点2B)	IVFV上	107	-	40	67	28	29	37	12	1	46 (43)	90 (84)	-	-	接合9
9号礫群(第71地点2C)	IVFV上	36	-	7	29	10	13	8	4	1	14 (39)	32 (89)	-	-	接合4
10号礫群(第96地点1文)接合前	IVFV上	301	21124 ・70	18	283	184	58	44	14	0	270 (90)	80 (27)	250 (83)	54 (18)	接合44
10号礫群(第96地点1文)接合後	IVFV上	156	20686 ・133	21	177	80	9	34	31	1	131 (84)	52 (33)	114 (73)	27 (17)	
11号礫群(第96地点3文)接合前	VI~IX	22	3489 ・159	8	13	11	1	4	4	1	14 (64)	4 (18)	7 (32)	0	接合2
11号礫群(第96地点3文)接合後	VI~IX	20	3487 ・174	10	9	9	1	4	4	1	13 (65)	4 (20)	6 (30)	0	

第87表 城山遺跡出土礫群の出土層準別集計表

第2節 縄文時代

今回の調査で、縄文時代の遺構は、住居跡 11 軒、集石土坑 2 基、土坑 17 基、ピット 7 基を検出した。住居跡の内訳は、縄文時代前期の住居跡が 5・7～9・12 J の 5 軒、中期の住居跡が 4・6・10 J の 3 軒、前期から中期と思われる 11・12・13 J の 3 軒である。11～13 J は、重複により、出土遺物の帰属が困難で、詳細時期がわからなかった。前期の住居跡である 7～9・12 J からは、覆土中から貝類が出土した。ここでは、出土した貝類をみていくことにする。

①海産・淡水産貝類について

縄文時代の住居跡から出土した、貝類の種類と出土量を第 88 表に示す（12 J は出土量が少ないため除外した）。貝殻が出土したのは、7 J と 8 J は、住居跡の覆土中から、9 J は、柱穴と考えられる P1・2 からである。出土量は約 30kg と、7 J が断然多い。マガキとヤマトシジミは、3 軒とも共通して出土しており、また、出土量の割合も他の種類の貝に比べ、圧倒的に高く、主要な貝種といえる。ウネナシトマヤガイも共通して出土しているが、ウネナシトマヤガイは、マガキ礁を棲息地とすることがあるので、マガキに混じて採集されたものと考えられる。ハマグリも、出土量が少なく、ヤマトシジミと混棲することがあるので、ヤマトシジミに混じて採集された可能性がある。ヤマトシジミ、ハマグリは汽水域の砂泥底に生息し、マガキも、汽水域に生息するウネナシトマヤガイと一緒に出土していることから、これらの貝殻は河口付近で採集されたものと考えられる。おそらく、城山遺跡の立地する舌状台地の北側に、古東京湾にそそぐ柳瀬川の河口が位置していたのだろう。

オオタニシ、チリメンカワニナ、マツカサガイ、イシガイは淡水に生息する種類である。淡水棲なので、マガキやヤマトシジミに混じたわけではなく、また、自然に混入することもないため、当時の人々が目的をもって、採集したことは間違いない。海産貝類に比べれば、出土量は非常に少ないので、淡水産貝類はあまり食さなかったであろう。

7 J では、マガキとヤマトシジミが互層状に堆積する状況が観察された。この互層状の堆積は多い所で、3 単位が確認できた。仮に、マガキとヤマトシジミの採集が、通年ではなく、季節性を持って行われたとすると、少なくとも 3 年間をかけて堆積したものと推測される。

②陸産貝類について

次に、陸産貝類（カタツムリ）も確認できたので、それらをみていくことにする。第 89 表が、住居跡から出土した陸産貝類の一覧である。黒住耐二の研究（黒住 2009）によると、貝塚土層中から出土した陸産貝類は、「周辺の植生から貝塚に集まってきて繁殖したり、短距離を流されてきもの」であり、「陸産貝類の組成から、貝塚形成時の古環境を推定することが可能」である。陸産貝類の生息環境によって、林内生息種（森林の中に生息する種）、林縁生息種（林の縁にすむ種）、開放地生息種（草原や開けた灌木林にみられる種）という 3 つの生息場所類型を設定している。今回の調査で確認された陸産貝類の生息場所類型は、ヒメベッコウマイマイ、ヒメコハクガイ、オカチョウジガイ、ニッポンマイマイが開放地生息種、ヒダリマキゴマガイが林縁生息種、マルシタライは記載がないため類型不明である。

7 J から出土した陸産貝類は、全て開放地生息種であることから、貝層形成時には、周辺が開けた環境であることがわかる。8 J は、林縁生息種のヒダリマキゴマガイが 58% をしめ、林に近い場所であっ

たことが推測される。9 J は確認された陸産貝類は、2 個体だけだが、全て開放地生息種である。9 J が、7・8 J に比べ、陸産貝類の出土量が少ないのは、9 J で貝類が出土したのは、柱穴と考えられる P1・2 からであり、住居跡の覆土中から出土した7・8 J よりも、貝層が埋没するまでの時間が早かったためと考えられる。7 J と8 J には、幼貝がみられることから、この場で、産卵していたことがわかり、ある程度の期間、貝層が露出していたことの証左となる。7 J と8 J の時期は、諸磯 a 式期、9 J が諸磯 a～b 式期で、やや遅れるが、3 軒ともほぼ同時期とみることができる。貝層は、廃絶された住居の窪地に貝類を廃棄することによって形成されるので、人が居住していた時期よりも後であるが、まだ埋まりきっていない、つまり、人が住まなくなってから、あまり時間がたっていない時期に形成されたと考えることができる。陸産貝類の生息環境からは、7・9 J が開けた集落の中心部に近く、8 J が集落の縁辺に位置していたことが想定される。

③城山貝塚との関係について

城山貝塚は、「縄文時代前期という大雑把な捉え方しかできないうちに破壊消滅した」とされる(志木市 1990)。市史編さん事業の一環で実施された分布調査では、貝類が表面採集されている。貝の種類は、カワニナ、オオタニシ、アラムシロ、ヤマトシジミ、マガキ、ハマグリ、オオノガイ、サルボウ、アサリ、オキシジミ、ウネナシトマヤガイで、ヤマトシジミが主体、次いでマガキが多いということである(志木市 1984)。本調査地点から出土した貝類と共通するのは、カワニナ(本調査地点ではチリメンカワニナ)、オオタニシ、ヤマトシジミ、マガキ、ハマグリ、ウネナシトマヤガイである。本調査地点では、イシガイが出土しており、それ以外は、全て採集資料の中に含まれている。また、本調査地点ではヤマトシジミよりマガキの方が、出土量が多いが、ヤマトシジミとマガキの2種類が主体的である点は共通する。貝種の構成が類似することから、貝の採集地も同じであったと思われる。

本調査地点と城山貝塚は、遺跡が立地する舌状台地北端部の、本調査地点が西側、城山貝塚が東側に位置する。これまで、城山遺跡では縄文時代前期の住居跡は、第46地点(2 J)と第3地点(3 J)で検出されている。どちらも、城山遺跡の中でも南側に位置し、貝類は確認されていない。貝層が形成されるかどうかは、単純に、採集地からの距離の影響が大きいものと思われ、台地の北端部に、貝層を伴う住居跡が集中することが予想される。

	マガキ (g)	ヤマトシジミ (g)	ハマグリ (g)	ウネナシ トマヤガイ (g)	オオ タニシ (g)	チリメン カワニナ (g)	マツカサ ガイ (g)	イシガイ (g)	合計
7 J	23287.5	6400.5	9.3	53.0	3.6	0.8	3.0	29758.0	
8 J	677.0	26.6	11.2	1.6				716.4	
9 J	2426.6	1398.8		2.4	17.7	21.1	4.5	3871.1	

第 88 表 縄文時代住居跡出土貝類一覧

	ヒメベッコ ウマイマイ	ヒメベッコ ウマイマイ (幼貝)	ヒメコハク ガイ	ヒメコハク ガイ(幼貝)	オカチョウ シガイ	オカチョウ シガイ(幼 貝)	マルシタラ カイ	ヒダリマキ ゴマガイ	ニッポンマ イマイ	合計
7 J	68	29	16	7	26	37	7			190
8 J	6	1	3	1		2	1	19		33
9 J	1								1	2

第 89 表 縄文時代住居跡出土陸産貝類一覧

第3節 弥生時代中期～古墳時代前期

今回の調査では弥生時代中期後半の住居跡（10Y）が調査された。当該期遺構は志木市内で初めてであり、焼失住居跡からの出土で一括性も高く、土器のみでなく石器のセット関係も把握でき資料的価値が高い。以下、遺物の諸特徴を見て、その問題について述べてみたい。

図化した土器の器種は壺・広口壺・高環・甕・台付鉢・異形土製品、石器は挟入柱状片刃石斧・扁平片刃石斧・石庖丁様石器・砥石・石皿・凹石・編石である（第81～84図）。

まず土器についてみてみたい。文様が認められるのは壺・広口壺・高環である。

壺は単純口縁と受け口状口縁が認められる。単純口縁のものは頸部に横位沈線と鋸歯文を重ねるもの（1）、頸部と胴部中に横位沈線を施すもの（3）が認められる。

受け口状を呈するものはいずれも口縁部に二個一對の縦長の貼り瘤が4単位めぐると考えられる。口縁部に縄文を施すもの（5・6）と、無文とするもの（2・7）がある。頸部から胴部に文様帯を持つかは不明である。11は頸部より上を欠くが、胴部上半部に沈線で区画せず縄文により連続する三角文を描く。

広口壺は胴上半部に幅広の縄文帯を持つもの（15）と受け口状の口縁部に鋸歯文を描き赤彩するもの（16）が認められる。

高環（17）は口縁部が強く外側に屈曲し内面に鋸歯文を描き、刺突を充填している。

壺を基にこれらの特徴をまとめると、無文土器が一定量組成する。文様を持つものは、文様帯が狭く胴上部および頸部に集中する。このような特徴を持つ遺構一括資料としては、周辺では朝霞市新屋敷（台の城山）遺跡6号住居跡、富士見市南通遺跡02号住居跡が挙げられる。比企地域では寄居町用土平遺跡12号住居が挙げられる。

新屋敷遺跡では頸部に櫛描文波状文と上下を沈線で区画した内部に縄文と沈線を施すものが出土している。南通遺跡では、縄文のみ及び沈線区画+縄文を施文し、本遺跡と同様に櫛描文が組成から欠落している。用土平遺跡も同様に櫛描文を欠いている。ただし先に挙げた12号住居跡以外では壺・甕の多くの土器に櫛描文が施文される。

本遺跡の横位沈線は区画線としての役目が形骸化しているのが特徴である。1も頸部下端に区画線である横位沈線が欠落している。3はおそらく栗林系の土器の影響で区画内の文様が欠落したものである。

これらのことから宮ノ台式土器の後半、安藤広道編年（安藤 1990・1996）のⅣ～Ⅴ期前半に相当するものと考えられる。ただしⅤ期になると羽状縄文が卓越する状況が見て取れるが、今回の調査ではそれに該当する資料は認められない。これが単なる遺構における偏りか、それ以前に位置づけるべきものであるかは今後の課題となろう。いずれによせ今回の調査で宮ノ台式土器分布圏の外縁部に位置し、他型式との接点が多分にみられる地理的特性から今後型式間の平行関係を考える上で貴重な資料となる。

異形土製品（35）

かつて金井塚良一氏により木履形土器として報告されたものに近い（金井塚 1965）。五領遺跡に近

按する東松山市柏崎の住宅地から出土したものである。伴出した土器から、金井塚氏は弥生時代後期末の前野町式期のもと考えている。中期中葉では小敷田遺跡 11 号方形周溝墓から出土したのもこれらの類例の一種と考えられる。形状からヒョウタンなどの容器を模したのもと考えたい。

石器について

挟入柱状片刃石斧(36・37)は2個出土しているが、刃部に研ぎ直しが認められ、長期にわたり使用していた様子が見て取れる。扁平片刃石斧(38)は更に顕著に長期にわたり使用していたことがわかる。石材に関しては挟入柱状片刃石斧に関しては相模川流域の石材、扁平片刃石斧に関しては長野県方面の石材との鑑定を受けた。本遺跡では榎田型磨製石斧の出土を見ないが、それらの流通形態とともに注目される。

第4節 古墳時代後期

今回の調査では、古墳時代後期の遺構は、住居跡 19 軒を検出した。同時期の住居跡の重複は、以下の2例のみである。

(旧→新) 313 H→314 H 305 H→321 H

ここでは、時期を推定できる土器が出土しなかった 302 Hを除いた 18 軒の住居跡の土器をみていき、住居跡の時期を推定することとする。

301号住居跡(第91図)

本住居跡から出土した土器は、土師器環(1~3)・甕(4~6)である。3は深身の坏か、あるいは、小型の甕や甕の可能性もある。また、全て、在地系土師器(尾形 2006)である。

1・2は口縁部と体部との境に稜を持つ、無彩系有稜坏である。1は底部に木葉痕がみられる。底部に木葉痕が残るのは、志木市の土師器編年(尾形 2001)では、7世紀初頭から中葉とされている(註2)。4は長甕で、下半部が欠損するが、残存する下端部がすばまりはじめているので、口縁部に最大径を持つものと考えられる。長甕が口縁部に最大径を持つものは、7世紀中葉に出現している(尾形 2012)。以上から、本住居跡の時期は、7世紀中葉と考えられる。

303号住居跡(第95図)

本住居跡から出土した土器は、土師器環(1~6)、甕(7)、甕(8~13)である。

1は、いわゆる比企型坏(水口 1989・尾形 1999)で、さらに色調が赤い胎土を特徴とするため、入間系土師器(尾形 2008)と考えられる。推定口径が11.6cmと小型化がみられることから、おおよそ7世紀中葉に比定される。2は、口縁部が内湾気味に立ち上がり、口縁部の内外面に赤彩が施される。胎土は入間系土師器とも在地系土師器とも異なり、また、他の遺物より古い様相を呈す。3~13は胎土の特徴から、在地系土師器と考えられる。3は黒色系有稜坏、4は無彩系有稜坏である。底部に木葉痕がみられ、7世紀初頭から中葉に比定される。5・6は粗雑なつくりの坏で、6世紀前葉ころからみられはじめ、7世紀前葉以降、出土量が増える傾向にある(尾形 2012)。7は、赤彩が施され、胎土

が2に類似し、入間系土師器・在地系土師器とは異なり、2同様、他の土器より古い様相を呈す。8は長甕で、口縁部に最大径を持つことから、7世紀中葉～末葉のものと考えられる。2・7は古い時期の遺物の流れ込みで、他の土器から、本住居跡の時期は、7世紀中葉と考えられる。

304 号住居跡 (第99・100図)

本住居跡から出土した土器は、須恵器壺(1)、土師器環(2～4)、鉢(5～8)、甕(9～18)、甗(19)、ミニチュア土器(20)である。

1は産地不明須恵器壺類の頸部片である。2～20は、胎土の特徴から、在地系土師器と考えらえる。2・3は黒色系有段環、4は無彩系有段環・5は無彩系有稜環である。3が推定口径11.6cm、4が推定口径11.3cmと小型化した段階のもので、7世紀中葉頃に出現する。6～8は、黒色系の鉢で、浅鉢タイプのものである。9～16は長甕で、口縁部に最大径をもつものが多く、7世紀中葉～末葉に比定される。19の甗は、単純口縁を呈し、筒抜け式で、胴部は直線的に長胴の形態である。6世紀末葉ころ出現し、7世紀を通してみられる。以上から、本住居跡の時期は、7世紀中葉～末葉と考えられる。

305 号住居跡 (第104図)

本住居跡から出土した土器は、須恵器甕(1)、土師器環(2・3)、鉢(4)、甕(5～8)、ミニチュア土器(9)である。

1は産地不明須恵器甕の頸部片である。2は、いわゆる比企型環で、さらに色調が赤い胎土を特徴とするため、入間系土師器と考えられる。推定口径が12.1cmと小型化がみられることから、おおそ7世紀前葉から中葉に比定される。3～8は、胎土の特徴から、在地系土師器と考えらえる。3は無彩系有段環で、推定口径12.0cmと、小型化が進む段階のもので、7世紀前葉から中葉に比定される。5～7は長甕で、6は胴部を大きく欠損するが、残存部位から口縁部に最大径をもつものと判断でき、7世紀中葉～末葉の所産と推測される。以上から、本住居跡の時期は、7世紀中葉と考えられる。

306 号住居跡 (第108～110図)

本住居跡から出土した土器は、須恵器蓋(1・2)、環(3・4)、短頸鉢(5・6)、フラスコ形長頸瓶(7)、短頸壺(8)、甕(9)、土師器環(10～13)、甕(14～22)である(註3)。

1～9は、湖西窯跡産の須恵器である。湖西窯跡編年(後藤 2015)を参考にすると、1は、天井部の調整技法が「同心円形」のヘラケズリを施すD形式と考えられ、口径が11.8cm、天井部と口縁部の境に稜を設けることから、合子状環蓋D1aに分類される。2は天井部を欠損するため調整技法が不明である。推定口径が11.4cm、天井部と口縁部の境に沈線を設けることから、合子状環蓋C3bあるいはD1bと推測される。3・4は、底部の調整技法が「同心円形」のヘラケズリを施すD形式、3が推定受径11.4cm、4が推定受径13.0cmであることから、合子状環身D1に分類される。1・3・4がIV-1中期に比定され、時期は、おおそ7世紀前葉と推測される。7のフラスコ形長頸瓶は、7世紀初頭に出現し、7世紀末葉ころ長頸瓶に形式変化することから、7世紀代の所産と考えられる。8の短頸壺は、7世紀前葉に出現する器種である。

10はいわゆる比企型環で、さらに色調が赤い胎土を特徴とするため、入間系土師器と考えられる。推定口径が11.8cmと小型化がみられることから、おおそ7世紀中葉に比定される。11～16は、胎

土の特徴から、在地系土師器と考えられる。11・12は、無彩系有稜環、13は黒色系有段環である。14～16は長甕で、14は口縁部に最大径を持ち、7世紀中葉～末葉の所産と推測される。

湖西窯跡産須恵器は、蓋(1)・環(3・4)から7世紀前葉、土師器は主に環(10)と甕(14)から7世紀中葉の所産と推測される。湖西窯跡産須恵器が土師器より1段階古い時期であるのは、生産地と消費地との違いや伝世的な要因によるものと捉え、本住居跡の時期は、7世紀中葉と考えられる。

308号住居跡(第113図)

本住居跡から出土した土器は、土師器環(1～3)、転用甕(4)、壺(5)である。

1は、いわゆる比企型環で、さらに色調が赤い胎土を特徴とするため、入間系土師器と考えられる。推定口径が11.2cmと小型化がみられることから、およそ7世紀中葉に比定される。2～5は、胎土の特徴から、在地系土師器と考えられる。2は無彩系有稜環、3は黒色系有段環である。4は長甕の底部を打ち欠いて穿孔し、甕に転用したと思われる。5は口縁部に弱い段を持つ。以上から、本住居跡の時期は、7世紀中葉と考えられる。

309号住居跡(117図)

本住居跡から出土した土器は、土師器環(1～3・7・8)、高環(4)、甕(5・6・14)、甕(9～13)である。

1は、いわゆる比企型環で、さらに色調が赤い胎土を特徴とするため、入間系土師器と考えられる。口径が14.8cmと大型であり、6世紀中葉から後葉の特徴を持つ。2は小針型環で、体部が小さく、口縁部が外湾しながら大きく「八」の字状に開き、口径が18.8cmと大型なことから、環ⅡC類3段階に分類され、6世紀後葉に比定される(齋持 2000)。3は黒色系の環で、内面に半円を組み合わせたような円形と放射状の暗文が施されている。5は、単純口縁を呈する、筒抜け式のもので、胴部中位にやや膨らみをもつ。この形態の甕は6世紀初頭に出現する。6は不明瞭な複合口縁を呈し、筒抜け式で、胴部は直線的に長胴のものである。この形態の甕は、6世紀前葉に出現し、7世紀初頭まで存続する。1～6は、次の7～14に対し、古い様相を呈すものである。1と2から6世紀後葉の所産と推測される。

7～14は、胎土の特徴から、在地系土師器と考えられる。7は無彩系有段環で、推定口径が12.0cmと小型化へ進む段階のものともみられ、時期は、7世紀前葉から中葉に比定される。8は無彩系有稜環で、深身の腕タイプである。9は長甕で、胴部中位に最大径を持つものと思われる。14は筒抜け式の甕である。7～14の新しい様相の土器群は、7世紀中葉に出現する、口縁部に最大径を持つ長甕がみられないことから、7世紀前葉の所産と推測される。

本住居跡からは、6世紀後葉(1～6)と7世紀前葉(7～14)の、大きく2時期の土器が出土した。出土状況を見ると、6世紀後葉とした土器が比較的下層から出土している。このことから、住居跡の時期は6世紀後葉で、新しい時期の土器は、住居跡を土器捨て場として利用した際に堆積したとも考えられる。しかし、9の長甕が、貯蔵穴(P5)の底面付近から出土していることを重視し、本住居跡の時期は、7世紀前葉と推測した。

311号住居跡(第121～123図)

本住居跡から出土した土器は、土師器環(1～9)、鉢(10・11)、甕(12～26)、甕(27・28)、ミニチュ

ア土器(29)である。

1～29は、胎土の特徴から、在地系土師器と考えられる。1～3・5は黒色系有段環、4・7～9は黒色系有稜環、6は無彩系有稜環である。1のように、底部に木葉痕を残すものは7世紀初頭から中葉にかけてみられる。7は、口径が10.8cmと小型化が進み、7世紀中葉ころに出現する。長甕では、口縁部に最大径をもつもの(13・14・19)を含み、7世紀中葉～末葉の所産と考えられる。28の甕は、単純口縁を呈し、筒抜け式で、長胴のものに比べ、やや幅がある形態である。この形態の甕は7世紀前葉に出現し、7世紀後葉まで存続する。29は、長甕の底部を穿孔し、甕に転用したものであると思われる。以上から、本住居跡の時期は、7世紀中葉と推測される。

312号住居跡(第126図)

本住居跡から出土した土器は、土師器甕(1～3)である。

1～3は、胎土の特徴から、在地系土師器と考えられる。1・2は長甕、3は丸甕である。1は口縁部ないしは胴部上半に、2は口縁部に最大径を持つ。口縁部に最大径を持つ長甕が出土していることから、本住居跡の時期は、7世紀中葉～末葉と推測される。

313号住居跡(第130～132図)

本住居跡から出土した土器は、土師器環(1～10)、鉢(11)、甕(12～26)、甕(27～29)である。

1・2は、いわゆる比企型環で、さらに色調が赤い胎土を特徴とするため、入間系土師器と考えられる。1が推定口径13.0cm、2が推定口径12.0cmと、やや小型化したものが出現する。7世紀前葉に比定される。3～30は、胎土の特徴から、在地系土師器と考えられる。3・4は無彩系有稜環、5～7・10は無彩系有段環、8・9は黒色系有段環である。5が推定口径12.5cm、6が推定口径12.1cm、8が推定口径12.8cmとやや小型化がみられ、7世紀前葉から中葉の所産と推測される。11の甕は、単純口縁を呈し、口縁部が大きく開く形態である。この形態の鉢は、7世紀前葉ころに出現するものとされる(尾形2012)。長甕では、口縁部に最大径をもつもの(13・14・17)がみられ、7世紀中葉～末葉の所産と推測される。28の甕は、単純口縁を呈する筒抜け式で、胴部は直線的に長胴の形態である。この形態の甕は、6世紀末葉に出現し、7世紀末葉まで存続する。29は多孔式の甕である。

以上から、本住居跡から出土した土器の時期は、7世紀中葉と推測される。本住居跡は314Hと重複し、314Hに切られている。後述するが、314H出土土器の時期も7世紀中葉と推測される。切合関係を考慮し、本住居の時期は、7世紀中葉前段階と考える。

314号住居跡(第135図)

本住居跡から出土した土器は、土師器甕(1～7)、甕(8・9)である。

1～9は、胎土の特徴から、在地系土師器と考えられる。1～4は長甕、5～7は丸甕である。1・2の長甕は、口縁部に最大径を持ち、7世紀中葉～末葉の所産と考えられる。8の甕は、単純口縁を呈し、筒抜け式で、長胴のものに比べ、やや幅がある形態である。この形態の甕は7世紀前葉に出現し、7世紀後葉まで存続する。9の甕は、内面に縦方向のミガキが施されていることから、単純口縁を呈する甕と考えられる。甕内面のミガキは、7世紀中葉を境に、「密」なものを「疎」へと変化する傾向がある(尾形2001)。8にも内面にミガキが施され、8のミガキは9に比べ「密」である。両者が相伴している

のは、ちょうど「密」から「疎」への移行期にあたり、7世紀中葉の所産である可能性が高い。

以上から、本住居跡から出土した土器の時期は、7世紀中葉と推測される。本住居跡は313 Hと重複し、313 Hを切る。先述の通り、313 H出土土器の時期も7世紀中葉と推測され、切合関係を考慮し、本住居の時期は、7世紀中葉後段階と考える。

315号住居跡（第142～145図）

本住居跡から出土した土器は、土師器環（1～21）、甕を転用したと思われる環（22）、鉢（23）、甕（24～39）、甌（40～44）、ミニチュア土器（45～48）である。

1～3は、色調が赤い胎土を特徴とするため、人間系土師器と考えられる。1・2は、深身で、口縁部が内傾・直立するタイプである（尾形 2008）。3は、いわゆる比企型環で、口径が11.5cmと、小型化が進んだ、7世紀中葉に比定される。4～48は、胎土の特徴から、在地系土師器と考えられる。4・6・13は無彩系有段環、5・9は黒色系有段環、7・10・11は無彩系有稜環、8・12・14～16は黒色系有稜環、17・20・22・23は無彩系の粗雑品、18・19・21は黒色系の粗雑品である。有段環では13が、口径11.6cmと、有稜環では、7が口径11.2cm、10が口径11.3cm、16が口径11.3cmと小型化が進む段階のもので、時期は7世紀中葉と推測される。長甕では、29～32・34～38が口縁部に最大径を持ち、7世紀中葉～末葉の所産と考えられる。44～46の甌は、単純口縁を呈し、筒抜け式で、長胴のものに比べ、やや横幅がある形態である。この形態の甌は7世紀前葉に出現し、7世紀後葉まで存続する。47の甌は、口縁部を欠損するが、複合口縁を呈す甌は、7世紀初頭に消滅するので、単純口縁を呈する可能性が高く、44～46と同様な形態と思われる。44・47は内面の縦方向のミガキが見られず、45は「疎」、46はやや「疎」な縦方向のミガキが施される。44～46は、7世紀中葉から後葉の所産と推測される。48は多孔式の甌で、形態は、単純口縁を呈し、深身で、口縁部が大きく開く鉢に類似する。この形態の鉢は、7世紀前葉から中葉にかけてみられるので、48もこの時期に比定できるものと思われる。以上から、本住居跡の時期は、7世紀中葉と推測される。

316号住居跡（第148図）

本住居跡から出土した土器は、土師器環・甕である。この内、土師器環（1）を掲載した。

1は、胎土の特徴から、在地系土師器と考えられる。黒色系有段環で、口径11.3cmと小型化が進む段階のもので、時期は7世紀中葉～末葉と推測される。以上から、本住居跡の時期は、7世紀中葉～末葉と推測される。

317号住居跡（第152図）

本住居跡から出土した土器は、須恵器甕・フラスコ形長頸瓶、土師器環・甕・甌である。この内、須恵器フラスコ形長頸瓶（1）、土師器環（2～6）、甕（7～10）を掲載した。

1は湖西窯跡産とみられる。フラスコ形長頸瓶は、7世紀初頭に出現し、7世紀末葉ころ長頸瓶に形式変化することから、7世紀代の所産と考えられる。2～10は、胎土の特徴から、在地系土師器と考えられる。2は黒色系有段環で、口縁部を歪ませ、片口状に変形させている。3・4は無彩系有稜環、5は無彩系有段環、1は黒色系有稜環である。4は推定口径11.0cm、5は推定口径10.6cmと、小型化がみられ、おおそ7世紀中葉に比定される。長甕では、7が口縁部に最大径を持ち、7世紀中葉～末

葉の所産と考えられる。以上から、本住居跡の時期は、7世紀中葉と推測される。

318号住居跡（第153図）

本住居跡から出土した土器は、土師器環（1～5）、甕（6～7）、甔（9）である。

1・2は、いわゆる比企型環で、さらに色調が赤い胎土を特徴とするため、入間系土師器と考えられる。1が推定口径11.5cm、2が推定口径10.7cmと、小型化がみられることから、おおよそ7世紀中葉に比定される。3・5は無彩系有稜環、4は粗雑なつくりの環である。3の口径が11.7cmと、小型化がみられ、長甕では6が、口縁部に最大径を持ち、7世紀中葉～末葉の所産と考えられる。以上から、本住居跡の時期は、7世紀中葉と推測される。

319号住居跡（第157・158図）

本住居跡から出土した土器は、土師器環（1～9）、甕（10～13）、甔（14・15）である。

1～3は、色調が赤い胎土を特徴とするため、入間系土師器と考えられる。1は深身で口縁部が内傾するタイプ、3は扁平で口縁部が大きく外反するタイプである（尾形 2008）。2は、いわゆる比企型環で、口径が11.0cmと、小型化が進んだ、7世紀中葉に比定される。4～13は、胎土の特徴から、在地系土師器と考えられる。4・6は無彩系有段環、5は黒色系有稜環、7は無彩系有稜環、8・9は黒色系有稜環で深身の椀タイプである。6は口径10.8cm、7は口径9.9cmと、小型化が進んだ、7世紀中葉～末葉の所産と推測される。8は底部に木葉痕を残し、7世紀初頭から中葉に比定される。長甕は、10だけであるが、胴部に最大径をもつものである。14・15の甔は、単純口縁を呈し、筒抜け式で、長胴のものに比べ、やや横幅がある形態である。この形態の甔は7世紀前葉に出現し、7世紀後葉まで存続する。14は15よりもサイズが大きく、内面にやや「密」な縦方向のミガキを施す。15には内面の縦方向のミガキがみられない。以上から、本住居跡の時期は、7世紀中葉と推測される。

320号住居跡（第161図）

本住居跡から出土した土器は、須恵器壺（1・2）、土師器甕（3）、甔（4・5）、鉢（6）である。

1・2は、産地不明ながら、胎土は類似し、同じ産地と推測される。3の長甕は、口縁部に最大径を持ち、7世紀中葉～末葉の所産と考えられる。4・5は、底部を欠損するが、残存部位の形態から、単純口縁を呈する甔である可能性が高い。6の鉢は、単純口縁を呈し、深身で、口縁部が大きく開く形態である。この形態の鉢は、7世紀前葉から中葉にかけてみられる。以上から、本住居跡の時期は、7世紀中葉～末葉と推測される。

321号住居跡（第165～169図）

本住居跡から出土した土器は、須恵器長頸瓶（1）、甕（2）、土師器環（3～34）、鉢（35・36）、甕（37～58）、甔（59・60）である。なお、写真のみ掲載した、土師器環（64～85）、甕（86～89・91～102）、甔（90・103～108）は、ここでは除外する。また、本住居跡は、遺物の出土量が非常に多いことが特筆される。

1は湖西窯跡産とみられ、フラスコ形長頸瓶ないしは長頸瓶の口縁部と思われる。2は甕の頸部片で、産地は不明である。3～9は、色調が赤い胎土を特徴とするため、入間系土師器と考えられる。3は、

口縁部外面と内面に赤彩が施され、口縁部と体部の境に稜を持ち、口縁部はほぼ垂直に立ち上がる。底部内面と体部に放射状のミガキを施し、非常に丁寧なつくりである。4～9は、いわゆる比企型坏で、口径は最小のもので10.6cmと、小型化が進んだ段階のものであるが、口径13.0cmとやや大ぶりの個体も残存することを含めると、時期は7世紀中葉から後葉に比定される。10～60は、胎土の特徴から、在地系土師器と考えられる。10・11・21・26～28は無彩系有稜坏、12・13・23は無彩系有段坏、14・15・22・31・32・33・34は黒色系有段坏で、33・34は深身の椀タイプ、16～20は黒色系有稜坏、24・25・29・30は無彩系の粗雑品である。26の口径が9.4cm、23の口径が10.0cm、22の口径が10.6cmと、小型化が進んだものを含む。時期は7世紀中葉～末葉と推測される。35は浅鉢タイプ、36の鉢は、深身で、口縁部が外反し、胴部に膨らみをもつ形態である。35は7世紀中葉、36は7世紀前葉から中葉にかけてみられる形態である。長豊は、40～45・48～50が口縁部に最大径を持ち、7世紀中葉～末葉の所産と推測される。59は、筒抜け式で、胴部は直線的に長胴の甗である。内面の縦方向のミガキが「疎」であることから、時期は7世紀中葉～末葉と考えられる。60は単純口縁を呈し、筒抜け式で、長胴のものに比べ、やや横幅がある形態である。この形態の甗は、7世紀前葉から後葉にかけてみられる。これらの出土土器の様相は7世紀中葉から後葉の特徴を示し、また、7世紀中葉とみられる305 Hを切ることから、本住居跡の時期は、7世紀後葉と推測される。

第5節 平安時代

今回の調査で検出された平安時代の住居跡は、300 H、307 H、310 Hの3軒である。同時代の住居跡同士の重複はなく、それぞれ、30～40mほど離れている。ここでは、各遺構から出土した遺物の特徴から、遺構の帰属時期をみていきたい。

300号住居跡（第172図）

本住居跡から出土した土器は、須恵器坏、土師器甕である。小片のため図化できなかった。須恵器坏の底部を転用した紡錘車（1）を掲載しているので、それを見てみよう。

紡錘車の元となった須恵器坏は、胎土に白色針状物質を含み、南比企窯跡産とみられる。底部は回転糸切り難し後未調整である。また、坏としての底径は、残存している部分から復元し6.1cmを測る。底部の縮小化が進んでいない段階のものとして、9世紀代の所産と推定される（古代の入間を考える会2013）。

307号住居跡（第175図）

本住居跡から出土した土器は、須恵器坏（1～5）、土師器甕（6）である。

1～5は、東金子窯跡産とみられる。底部が確認できるものでは、全て、回転糸切り難し後未調整である。口縁部から底部までが残る1～3について、口径と内底径の比をとると、1が52%、2が54%、3が55%である。古代の入間を考える会による東金子窯跡の編年（古代の入間を考える会2015）を参照すると、Ⅶ期に比定され、時期は9世紀中葉と推測される。6は、いわゆる「武蔵型甕」であり、口縁部の形状が「コ」の字状を呈するものである。桜岡正信氏の分類（桜岡2015）を参照

すると、口縁部の形状が「コ」の字状を呈するのは、6～8段階で、年代は、9世紀前半から後半に想定されている。以上から、本住居跡の時期は9世紀中葉と推測される。

310号住居跡（第178図）

本住居跡から出土した土器は、須恵系土師質土器杯（1・2）、高台付杯（3・4）、皿（5）、土師器の甕・鉢類（6・7）である。

須恵系土師質土器は、福田健司氏の提唱する、「土師器でも須恵器でもなく、一言でいえば焼成法・焼成温度において中間に位置する土器」で、「ロクロ土師器」と称されている土器を含むものである（福田 2017）。須恵器と共通する形態的特徴をもつので、試みに、東金子薫跡の編年を当てはめてみる。1の底部の再調整は、回転系切り離し後未調整、口径と内底径の比は、38%である。X期に相当し、時期は10世紀初頭から前葉となる。須恵器編年の援用からであるが、本住居跡の時期は、10世紀初頭から前葉と推測する。

第6節 中世以降

中世以降の遺構は、溝跡2本、道路状遺構1本、土坑41基、ピット188基を検出した。ここでは、T字形の平面形を呈す火葬土坑と、溝跡、道路状遺構に触れることとする。

（1）火葬土坑について

今回の調査で検出した1073 Dと1119 Dは、平面がT字形を呈し、焼土、炭化材、人骨片が出土したことから、火葬跡と考えられる遺構である。志木市内では、市内で初の検出となった、中野遺跡第95地点の274・284・311・316・318号土坑に次ぐ事例である。中野遺跡第95地点の調査成果（尾形 2017）では、埼玉県熊谷市（旧大里郡大里町）下町遺跡Ⅱの調査報告書でまとめられた内容との比較を行っている。ここでは中野遺跡第95地点の調査成果と比較し、いくつかの項目に対し検討することとする。

①時期

出土遺物による時期の推定はできなかった。炭化材による放射性炭素年代測定を実施しているので、中野遺跡の測定結果もあわせ、以下に記す。

中野遺跡	274 D	14世紀前半～中頃・14世紀末～15世紀前半／鎌倉～室町時代
	284 D	13世紀末～15世紀初頭／鎌倉～室町時代
	311 D	15世紀初頭～15世紀前半／室町時代
	316 D	14世紀前半・14世紀末～15世紀前半／鎌倉～室町時代
	318 D	15世紀初頭～前半／室町時代
城山遺跡	1073 D	13世紀末～14世紀末／鎌倉～室町時代

1119 D 14世紀初頭～末／室町時代

②火葬土坑の規模

下田町遺跡Ⅱでは、長軸 80～130cm、短軸 30～55cmの範囲に収まっているとされる。中野遺跡第95地点では、長軸 98～142cm、短軸 52～61cmと、下田町遺跡Ⅱより、やや大きい傾向がある。本調査地点 1073 Dは長軸 110cm、短軸 51cm、1119 Dは 114cm、短軸 55cmと、下田町遺跡Ⅱにおける範囲に収まる。

③火葬土坑の主体部長軸方向

長軸方位は、1073 DがN-1°-W、1119 DがN-4°-Eで、両者とも南北方向をとる。また、焚き口である突出部の設置方向は、両者ともに西側に設けられている。

④人骨について

1073・1119 D、ともに、人骨の遺存状態は悪く、形を留めないものがほとんどであった。

⑤炭化材の出土状況について

中野遺跡で炭化材が「主体部長軸方向と同じ向きに並べられている状況」は、1073・1119 Dにおいても、繊維方向が確認できるものでは、長軸に沿うものが多くみられることから、同様の状況といえる。「坑底面に2本の横木状の丸木を短軸方向に向けて設置」する状況は、1073・1119 Dでは確認できなかった。また、1073・1119 Dでは、空気の通りをよくするための設備と考えられる、通気溝も設けられていない。1073・1119 Dは、中野遺跡の火葬土坑に比べ、材の組み方や土坑の掘方など、より簡易な構造といえる。

炭化材と人骨片との層位的な上下関係は、人骨片はおおむね炭化材の上部から出土している状況が確認できた。このことは、「遺体の下部に燃料材が敷かれていた」状況と想定されている。

本調査においても、炭化材の樹種同定を実施している。以下に、中野遺跡での結果もあわせて示す。

中野遺跡	274 D	エノキ属、タケ亜科
	284 D	エノキ属、タケ亜科
	311 D	エノキ属、タケ亜科、マダケ
	316 D	エノキ属、タケ亜科、マダケ
	318 D	エノキ属、タケ亜科、マダケ、クリ
城山遺跡	1073 D	エノキ属、タケ亜科
	1119 D	クヌギ節、タケ亜科、イネ科

タケ亜科は全ての遺構から出土している。クヌギ節が出土しているのは、城山遺跡 1119 Dのみで、他の土坑はエノキ属が共通して出土している。樹種同定を委託した小林克也氏は、「タケ亜科とイネ科は着火材として、クヌギ節とエノキ属は燃料材として利用された」としている（付編Ⅱ）。また、1119 Dだけ、クヌギ節が使用されている背景を、「時期による周辺植生の違い」や「葬送儀礼の違い」であ

る可能性を指摘している。

(2) 溝跡・道路状遺構について

68号溝跡

68 Mは、調査区の北縁に位置する。敷地の北側には、現況で大木が存在し、大木を避けて調査を行ったため、68号溝跡の検出は断続的なものとなった。東側ではほぼ東西方向に直線的に伸び、西側では、やや南西に向け、弧状に伸びる。また、北側の肩が調査区外のため、全幅は不明である。検出した範囲内での上幅は、最も広い所で4.15mである。断面形は、数段の緩い階段状を呈し、概ね浅いV字形である。深い所で、確認面から173cm下がる。18世紀後半とみられる肥前系の磁器碗(第185図1)、詳細時期は不明だが近世の所産と思われる、瀬戸・美濃系の陶器片(同図2)が出土しており、それらを掲載した。時期を推定できる遺物が少ないが、掲載した遺物から18世紀ころに埋没したものと考えられる。

69号溝跡

69 Mは、調査区の南縁に位置する。ほぼ東西に直線的に伸びる。断面形は、緩い段掘りを有し、概ねV字形を呈す。上幅は最も広い所で、1.97m、確認面からの深さは、深い所で0.88mである。遺物は、陶器が散漫に分布していた。第188図に掲載した1は、山茶碗系の片口鉢で、13世紀の所産、2～4は、常滑窯跡産の裏で13世紀前半の所産と推測されるものである。69 Mは、1119 Dと重複しており、69 Mが完全に埋まりきった後に、1119 Dが構築されている。先述の通り、1119 Dは、出土した炭化材の放射性炭素年代測定を行っており、14世紀初頭～末(室町時代)という結果を得ている。出土遺物の時期も考え合わせると、概ね13世紀末～14世紀初頭には、69 Mは埋没していたものと推測される。柏城が城として機能していたと考えられる15～16世紀(野沢 2005)よりも、古い時期の遺構となる。規模こそ幅1.97mと、それほど大きなものではないが、溝の掘方自体はしっかりと掘り込まれ、断面が下部に緩い断を持つV字形を呈し、薬研堀としてよいかと思われ、城館に伴う堀として捉えられる。14世紀代には1073 Dや1119 Dのような火葬が行われる、葬送の場所として利用されるので、柏城とは直接的には連続しない。溝跡1本からではあるが、柏城以前の城館の存在が想定される。

3号道路状遺構

調査区の中央を、東西に横断するように検出された。東側の調査区壁から4mほどの位置で緩やかに屈曲し、そこから西北西の方向へ直線的に伸びる。上幅は広い所で0.97m、確認面の深さは、深い所で20cmである。覆土中に、4～5面の硬化面が確認され、硬化面の存在により道路状遺構と判断した。出土遺物や遺構の切合関係からは、時期の特定ができず、覆土の様相から、中世以降の所産と考えている。

〔註〕

註1 試掘坑から出土した自然礫を旧石器の可能性を検討して報告した報告書もあるが、最終的に自然礫と結論されているので除外した(青池編 2012)。

註2 1世紀を5区分し、それぞれ初頭・前葉・中葉・後葉・末葉と表記する。

註3 器種名は原則として、後藤健一氏の分類(後藤 2015)に従ったが、5・6の器種名は、具体的な記述がされていないため、『愛知県史』(愛知県史編さん委員会 2015)で用いられている名称から、「短頸鉢」とした。

【引用文献】

- 安藤広道 1990「神奈川原下木古台地における宮ノ台式土器の細分—遺跡群研究のためのタイムスケールの整理—」『古代文化』第42集6・7号
- 1996「南関東（中期後半・後期）」『YAY！（やいっ！）弥生土器を語る会 20 回記念論文集』弥生土器を語る会
- 愛知県史編さん委員会 2007『愛知県史 別編 窯業2 中世・近世 瀬戸系』愛知県
- 2012『愛知県史 別編 窯業3 中世・近世 常滑系』愛知県
- 2015『愛知県史 別編 窯業1 古代 猿投系』愛知県
- 稲村太郎 2013「調査のまとめ」『城山遺跡第71地点埋蔵文化財発掘調査報告書』
- 江戸遺跡研究会 2001『図説江戸考古学研究事典』
- 尾形則敏 1999「いわゆる「比企型坏」の編年基準の要点—少地域を対象とした編年の確立に向けて—」『あらかわ』第2号
あらかわ考古談話会
- 2000「志木市における古墳時代の土師器の編年（1）—5世紀から7世紀の坏形土器の変遷—」『あらかわ』第3号
あらかわ考古談話会
- 2001「志木市における古墳時代の土師器の編年（2）—5世紀から7世紀の甗・甗形土器の変遷—」『あらかわ』第4号
あらかわ考古談話会
- 2005「中・近世について」『城山遺跡第42地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市遺跡調査会調査報告第10集
志木市遺跡調査会
- 2006「7世紀における「在地系土師器」の出現と歴史的意義—武蔵野台地北西部の無彩系・黒色系土師器の一事例—」
『埼玉考古Ⅱ』埼玉考古学会
- 2008「古墳時代後期の土師器研究の再認識—（仮称）「人間系土師器」の実態と生産地推定を例として—」『埼玉考古43』
- 2012「第4章 調査のまとめ」『城山遺跡第62地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第48集 志木市教育委員会
- 2017「中野遺跡第95地点の調査成果」『市場裏遺跡第23地点 城山遺跡第87地点 西原大塚遺跡第207地点 中野遺跡第95地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第68集 志木市教育委員会
- 尾形則敏・深井恵子・青木 修 2005『城山遺跡第42地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市遺跡調査会調査報告第10集
志木市遺跡調査会
- 尾形則敏・徳留彰紀・坂上直嗣・青池紀子・鈴木伸哉 2011『城山遺跡第63地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第46集 志木市教育委員会
- 尾形則敏・徳留彰紀・深井恵子・青木 修 2012『城山遺跡第62地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第48集
志木市教育委員会
- 尾形則敏・徳留彰紀・村上孝司・青池紀子・矢作健二・石岡智武 2012『城山遺跡第72地点』志木市の文化財第49集 志木市教育委員会
- 尾形則敏・大久保聡・中山哲也・二瓶秀幸・稲村太郎・加藤夏姫 2013『城山遺跡第71地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市の文化財第54集 志木市教育委員会
- 金井塚良一 1965「資料紹介 木履形土器（口輪解説）—埼玉県東松山市柏崎出土—」『考古学雑誌』第50巻第2号
- 黒住耐二 2007「陸産・海産微小貝類分析」『市原市西広貝塚Ⅲ』市原市教育委員会
- 2009「微小貝類からみた東京湾沿岸の巨大貝塚の時代」『東京湾巨大貝塚の時代と社会』株式会社 雄山閣

- 鍋持和夫 2000「築道下遺跡出土土器について」『築道下遺跡Ⅲ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第245集
- 小出輝雄ほか 1983『針ヶ谷遺跡群—南通遺跡第3地点の調査—』富士見市遺跡調査会遺跡調査報告書第21集
- 小久保徹・浜野一重・利根川章彦・山本 禎・高橋好信・田中正夫・岩瀬 譲・龍瀬芳之 1983
「埼玉県における古墳出土の研究Ⅰ—鉄鍬について—」『研究紀要』財団法人埼玉県埋蔵文化財事業団
- 古代の人間を考える会 2013『古代人間の土器と遺跡(Ⅱ)—須恵器杯の編年(9・10世紀)—』
2015『南比企窯と東金子窯(Ⅱ)—東金子窯の開窯と9世紀の編年—』
- 後藤健一 2015『遠江湖西窯跡群の研究』
- 小林達雄 2008『総覧 縄文土器』『総覧 縄文土器』刊行委員会
- 板岡正信 2003『武蔵型窯について—上野地域の生産と流通—』『高崎市史研究』17
- 志木市 1984『志木市史 原始・古代資料編』
1990『志木市史 通史編 上』
- 瀬戸市史編さん委員会 2001『瀬戸市史 陶磁史編6』瀬戸市
- 新宿区内藤町遺跡調査会 1992『内藤町遺跡』
- 田辺昭三 1981『須恵器大成』
- 谷井 彪・宮崎朝雄 1975『台の城山遺跡』朝霞市教育委員会
- 東京大学埋蔵文化財調査室 1999『東京大学校地内遺跡調査研究年報2』
2011『東京大学校地内遺跡調査研究年報7』
- 野沢 均 2005「中・近世における城山遺跡の総括」『城山遺跡第42地点 埋蔵文化財発掘調査報告書』志木市遺跡調査会
査報告第10集 志木市遺跡調査
- 橋本裕行ほか 1984『用土・平遺跡』『寄居町史 原始・古代中世資料編』寄居町教育委員会
- 増田 修・内山りゅう 2010『日本産淡水貝類図鑑 ②汽水域を含む全国の淡水貝類』株式会社ビーシーズ
- 水口由紀子 1989「いわゆる“比企型杯”の再検討」『東京考古』第7号 東京考古学会
- 港区伊皿子貝塚遺跡調査団 1981『伊皿子貝塚遺跡』日本電信電話公社 港区伊皿子貝塚遺跡調査団
- 福田健司 2017『土器編年と集落構造—落川・一の宮遺跡の出自と生業を探る—』株式会社ニューサイエンス社
- 村山 卓 2019『栗橋宿本陣跡Ⅰ』公益財団法人埼玉県埋蔵文化財事業団
- 渡部 一 1990『鳩山窯跡群Ⅱ』鳩山窯跡群遺跡調査会 鳩山町教育委員会
- 吉田稔 1990『小敷田遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第95集 南通り遺跡
- 株式会社東京航業研究所 地球化学分析室 2020『研究紀要』創刊号(特集:日本の黒曜石) 株式会社東京航業研究所

[付 編]

自然科学分析

I. 放射性炭素年代測定

伊藤 茂・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・Zaur Lomtadze・黒沼保子
(パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ)

1. はじめに

埼玉県志木市の城山遺跡 96 地点から出土した炭化材について、加速器質量分析法 (AMS 法) による放射性炭素年代測定を行った。

2. 試料と方法

試料は、弥生時代中期の竪穴住居跡 10 Y から採取された炭化材 1 点 (試料 No.23; PLD-41970)、中世の火葬墓 1073 D と 1119 D から採取された炭化材各 1 点 (試料 No.220; PLD-41971、試料 No.245; PLD-41972) の、合計 3 点である。試料には、いずれも最終形成年輪が残存していた。

測定試料の情報、調製データは第 90 表のとおりである。試料は調製後、加速器質量分析計 (パレオ・ラボ、コンパクト AMS: NEC 製 1.5SDH) を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、 ^{14}C 年代、暦年代を算出した。

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-41970	遺構: 10Y 遺物 No.C9 試料 No.23	種類: 炭化材 (コナラ属クヌギ節) 試料の性状: 最終形成年輪 状態: dry	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L)
PLD-41971	遺構: 1073D 遺物 No.C28 試料 No.220	種類: 炭化材 (エノキ属) 試料の性状: 最終形成年輪 状態: dry	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L)
PLD-41972	遺構: 1119D 遺物 No.C9 試料 No.245	種類: 炭化材 (コナラ属クヌギ節) 試料の性状: 最終形成年輪 状態: dry	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L, 塩酸: 1.2 mol/L)

第 90 表 測定試料および処理

3. 結果

第 91 表に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比 ($\delta^{13}\text{C}$)、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代、暦年較正結果を、第 215 図に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下 1 桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。 ^{14}C 年代 (yrBP) の算出には、 ^{14}C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差 ($\pm 1\sigma$) は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が

68.27%であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の¹⁴C濃度が一定で半減期が5568年として算出された¹⁴C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動、および半減期の違い(¹⁴Cの半減期 5730 ± 40 年)を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

¹⁴C年代の暦年較正にはOxCal4.4(較正曲線データ: IntCal20)を使用した。なお、1 σ 暦年代範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された¹⁴C年代誤差に相当する68.27%信頼限界の暦年代範囲であり、同様に2 σ 暦年代範囲は95.45%信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は¹⁴C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す(第215図)。

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	14C年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	14C年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-41970 遺物 No.C9 試料 No.23	-27.90 \pm 0.17	2102 \pm 18	2100 \pm 20	152-95 cal BC (52.14%) 73-56 cal BC (16.13%)	170-51 cal BC (95.45%)
PLD-41971 遺物 No.C28 試料 No.220	-26.59 \pm 0.16	628 \pm 17	630 \pm 15	1303-1322 cal AD (33.31%) 1357-1367 cal AD (17.03%) 1380-1391 cal AD (17.93%)	1298-1327 cal AD (41.54%) 1346-1395 cal AD (53.91%)
PLD-41972 遺物 No.C9 試料 No.245	-29.43 \pm 0.12	612 \pm 17	610 \pm 15	1306-1327 cal AD (31.14%) 1348-1364 cal AD (21.92%) 1385-1395 cal AD (15.21%)	1303-1367 cal AD (75.23%) 1380-1397 cal AD (20.22%)

第91表 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

4. 考察

以下、各試料の暦年較正結果のうち2 σ 暦年代範囲(確率95.45%)に着目して結果を整理する。なお、弥生時代の暦年代については(小林 2009)を参照した。

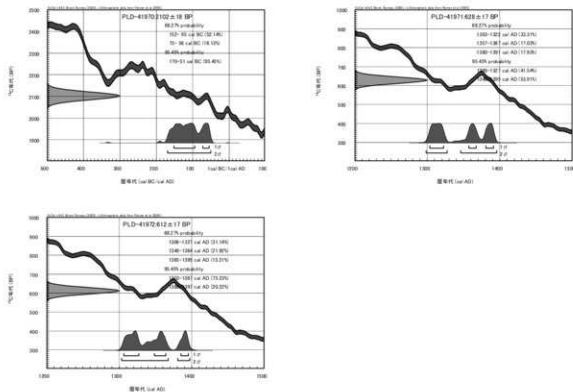
竪穴住居跡10Y出土の炭化材(試料No.23: PLD-41970)は、170-51 cal BC (95.45%)の暦年代を示した。これは弥生時代中期後葉に相当する暦年代である。したがって、調査所見による推定時期の弥生時代中期に対して整合的である。

火葬墓1073 D出土の炭化材(試料No.220: PLD-41971)は、1298-1327 cal AD (41.54%)および1346-1395 cal AD (53.91%)の暦年代を示した。これは13世紀末～14世紀末で、鎌倉時代～室町時代の暦年代である。また、火葬墓1119 D出土の炭化材(試料No.245: PLD-41972)は、1303-1367 cal AD (75.23%)および1380-1397 cal AD (20.22%)の暦年代を示した。これは14世紀初頭～末で、鎌倉時代～室町時代の暦年代である。どちらも、火葬墓1073 Dと1119 Dの推定時期である中世に対して整合的であった。

木材は、最終形成年輪部分を測定すると枯死もしくは伐採年代が得られるが、内側の年輪を測定すると内側であるほど古い年代が得られる(古木効果)。今回分析を行った試料は、いずれも最終形成年輪が残存しており、得られた最終形成年輪の年代は、木材が伐採もしくは枯死した年代を示していると考えられる。

【引用・参考文献】

- Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51(1), 337-360.
- 小林謙一 (2009) 近畿地方以東の地域への拡散。西本豊弘編「新弥生時代のはじまり第4巻 弥生農耕のはじまりとその年代」: 55-82, 雄山閣。
- 中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎。日本先史時代の14C年代編集委員会編「日本先史時代の14C年代」: 3-20, 日本第四紀学会。
- Reimer, P.J., Austin, W.E.N., Bard, E., Bayliss, A., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Butzin, M., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kromer, B., Manning, S.W., Muscheler, R., Palmer, J.G., Pearson, C., van der Plicht, J., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Turney, C.S.M., Wacker, L., Adolphi, F., Büntgen, U., Capano, M., Fahrni, S.M., Fogtmann-Schulz, A., Friedrich, R., Köhler, P., Kudsk, S., Miyake, F., Olsen, J., Reinig, F., Sakamoto, M., Sookdeo, A. and Talamo, S. (2020) The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP). *Radiocarbon*, 62(4), 725-757, doi:10.1017/RDC.2020.41. <https://doi.org/10.1017/RDC.2020.41> (cited 12 August 2020)



第 215 図 暦年較正結果

II. 城山遺跡第 96 地点出土炭化材の樹種同定

小林克也 (パレオ・ラボ)

1. はじめに

埼玉県志木市の城山遺跡第 96 地点において出土した炭化材の樹種同定を行なった。なお、一部の試料を用いて放射性炭素年代測定も行われている(放射性炭素年代測定の項参照)。

2. 試料と方法

試料は、弥生時代中期の竪穴住居跡 10 Y から 43 点、弥生時代後期の竪穴住居跡 9Y から 14 点、古墳時代～古代の竪穴住居跡 304 H から 135 点、中世の火葬墓 1073 D から 44 点、火葬墓 1119 D から 19 点の、計 255 点の出土炭化材である。各試料について、同定前に木取りの確認を行なった。

樹種同定は、まず試料を乾燥させ、材の横断面（木口）、接線断面（板目）、放射断面（柃目）について、カミソリと手で切断面を作製し、整形して試料台にカーボンテープで固定した。その後、イオンスパッタにて金蒸着を施し、走査型電子顕微鏡（KEYENCE 社製 VE-9800）にて検鏡および写真撮影を行なった。

3. 結果

同定の結果、針葉樹のヒノキ科 1 分類群と、広葉樹のモモとエノキ属、クワ属、クリ、コナラ属クヌギ節（以下、クヌギ節）、コナラ属コナラ節（以下、コナラ節）、オニグルミ、ハンノキ属ヤシャブシ亜属（以下、ヤシャブシ亜属）、ハンノキ属ハンノキ亜属（以下、ハンノキ亜属）、ヤナギ属の 10 分類群、単子葉のタケ亜科とイネ科の 2 分類群の、計 13 分類群が確認された。

コナラ節が 106 点で最も多く、クヌギ節が 72 点、エノキ属が 41 点、クリが 12 点、ハンノキ亜属が 6 点、タケ亜科が 5 点、クワ属が 4 点、ヤシャブシ亜属とヤナギ属が各 2 点、ヒノキ科とモモ、オニグルミ、イネ科が各 1 点であった。また、試料が微細で広葉樹までの同定に留めた試料が 1 点みられた。同定結果を第 92 表に、一覧を第 93 表に示す。

以下に、同定された材の特徴を記載し、図版 104～106 に光学顕微鏡写真を示す。

(1) ヒノキ科 Cupressaceae 図版 104 1a-1c(No.169)

仮道管と放射組織、樹脂細胞で構成される針葉樹である。晩材部は厚く、早材から晩材への移行は緩やかである。放射組織は単列で、高さ 1～15 列である。分野壁孔は 1 分野に 2 個みられるが、分野壁孔の形状が確認できなかったため、ヒノキ科までの同定とした。

ヒノキ科にはスギ、ヒノキ、サワラ、ネズコ、アスナロなどの樹種がみられる。

(2) モモ Prunus persica (L) Batsch バラ科 図版 104 2a-2c(No.140)

樹種/遺構	10 Y	9 Y	304 H	1073 D	1119 D	合計
ヒノキ科			1			1
モモ			1			1
エノキ属				41		41
クワ属			4			4
クリ			12			12
コナラ属クヌギ節	28	11	17		16	72
コナラ属コナラ節	8		98			106
オニグルミ		1				1
ハンノキ属ヤシャブシ亜属			2			2
ハンノキ属ハンノキ亜属	6					6
ヤナギ属		2				2
広葉樹	1					1
タケ亜科				3	2	5
イネ科					1	1
合計	43	14	135	44	19	255

第 92 表 遺構別の樹種同定結果

年輪のはじめに中型の道管が数列並び、晩材部では徐々に径を減じた道管が単独ないし2～3個複合してやや密に散在する半環孔材である。軸方向柔組織は短接線状となる。道管は単穿孔を有し、内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は平伏、方形、直立細胞が混在する異性で、幅1～5列である。

モモの原産地は中国北部で、平安時代には果実を食用や薬用として利用するために日本列島でも栽培されていた樹木である。材は重硬で、切削加工等は困難である。

(3) エノキ属 *Celtis* アサ科 図版 104 3a-3c(No.234)

年輪のはじめに大型の道管が数列並び、晩材部では徐々に径を減じた道管が多数複合して斜線状に配列する環孔材である。軸方向柔組織は周囲状となる。道管は単穿孔を有し、小道管の内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は上下端1～3列が方形となる異性で、幅1～5列となる。放射組織には鞘細胞がみられる。

エノキ属にはエノキやシダレエノキなどがあり、代表的なエノキは本州から九州にかけての温帯から暖帯に分布する落葉高木の広葉樹である。材はやや硬い。まとめて生育せず、現在では薪炭材などに利用される程度である。

(4) クワ属 *Morus* クワ科 図版 104 4a-4c(No.97)

年輪のはじめに大型の道管が並び、晩材部では徐々に径を減じた道管が多数複合し、斜め方向に断続的に複合する半環孔材である。軸方向柔組織は周囲状となる。道管は単穿孔を有し、小道管の内壁にはらせん肥厚がみられる。放射組織は上下端1～3列が方形となる異性で、幅1～6列となる。

クワ属にはヤマグワやマグワなどがあり、温帯から亜熱帯に分布し、日本全国の山中にみられる落葉高木の広葉樹である。材はやや重硬で、保存性が高いが、切削加工はやや困難である。

(5) クリ *Castanea crenata* Siebold. et Zucc. ブナ科 図版 104 5a-5c(No.83)

年輪のはじめに大型の道管が1～3列並び、晩材部では徐々に径を減じる道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状である。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、単列である。

クリは、北海道の石狩、日高地方以南の温帯から暖帯にかけての山林に分布する落葉中高木の広葉樹である。材は重硬で、耐朽性が高い。

(6) コナラ属クヌギ節 *Quercus* sect. *Aegilops* ブナ科 図版 104・105 6a-6c(No.12)、7a(No.11)、8a(No.51)、9a(No.103)

年輪のはじめに大型の道管が1～3列並び、晩材部では急に径を減じた、厚壁で丸い道管が放射方向に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、単列のものと広放射組織がみられる。

コナラ属クヌギ節にはクヌギとアベマキがあり、温帯から暖帯にかけて分布する落葉高木の広葉樹である。材は重硬で、切削などの加工はやや困難である。

(7) コナラ属コナラ節 *Quercus* sect. *Prinus* ブナ科 図版 105 10a-10c(No.23)、11a(No.86)、12a(No.91)

年輪のはじめに大型の道管が1～2列並び、晩材部では急に径を減じた、薄壁で角張った道管が火炎状に配列する環孔材である。軸方向柔組織はいびつな線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、単列のものと広放射組織がみられる。

コナラ属コナラ節にはコナラやミズナラなどがあり、温帯から暖帯にかけて広く分布する落葉高木の

広葉樹である。代表的なミズナラの材は、やや重く強靱で、切削加工はやや難しい。

- (8) オニグルミ *Juglans mandshurica* Maxim. var. *sieboldiana* (Maxim.) Makino クルミ科 図版 105 13a-13c(No.10)

やや大型の道管が単独ないし2～3個複合してまばらに散在し、晩材部では道管径が減じる半環孔材である。軸方向柔組織は短接線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、1～4列となる。

オニグルミは北海道から九州まで広く分布し、河岸や湿潤な平地の肥沃なところに育成する落葉高木の広葉樹である。材の堅さ、重さは中庸で、切削等の加工は容易である。

- (9) ハンノキ属ヤシャブシ亜属 *Alnus* subgen. *Alnaster* カバノキ科 図版 105 14a-14c (No.154)

小型の道管が、放射方向に数個複合して分布する散孔材である。軸方向柔組織は短接線状もしくは散在状となる。道管の穿孔は10～20段程度の階段状である。放射組織は単列で、同性である。

ヤシャブシ亜属は主に温帯に分布する落葉高木または低木で、ミヤマハンノキやヤシャブシなど4種がある。材の硬さと重さは中庸である。

- (10) ハンノキ属ハンノキ亜属 *Alnus* subgen. *Alnus* カバノキ科 図版 106 15a-15c(No.49)

小型の道管が単独ないし2～3個複合してやや密に散在する散孔材である。軸方向柔組織は短接線状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同性で、単列のものど集合放射組織がみられる。

ハンノキ属ハンノキ亜属にはヤマハンノキやハンノキなどがあり、温帯から暖帯に分布する落葉高木の広葉樹である。ヤマハンノキは山林部に、ハンノキは平地の湿地や河川などの湿潤地に多い。材の重さは中庸で、切削加工なども中庸から容易である。

- (11) ヤナギ属 *Salix* ヤナギ科 図版 106 16a-16c(No.6)

小型の道管が単独ないし2～3個複合し、やや密に散在する散孔材である。道管は単穿孔を有し、道管放射組織間壁孔は円形の単壁孔状となる。放射組織は上下端1～3列が直立する異性で、単列となる。

ヤナギ属にはタチヤナギやバッコヤナギなどがあり、水湿に富んだ日当たりのよい土地を好む落葉大高木～灌木の広葉樹である。材は軽軟で強度が強く、切削加工などは容易である。

- (12) 広葉樹 Broadleaf-wood

道管が確認できたが、微細な試料であるため、作製できたのは横断面のみで、横断面でも年輪界が確認できなかったため、広葉樹までの同定とした。

- (13) タケ亜科 Subfam. Bambusoideae イネ科 図版 106 17a(No.197)

向軸側の原生木部、その左右の2個の後生木部、背軸側の節部の三つで構成される維管束が散在する単子葉植物の秆である。維管束の配列は不整中心柱となる。維管束鞘の細胞は厚壁であり、向・背軸部に関わりなく厚くなる。

タケ亜科はいわゆるタケ・ササの仲間、日本には12属がある。

- (14) イネ科 Gramineae 図版 106 18a(No.251)

向軸側の原生木部、その左右の2個の後生木部、背軸側の節部の三つで構成される維管束が散在する単子葉植物の秆である。維管束の配列は不整中心柱となる。維管束鞘の細胞は比較的薄い。

イネ科はタケ亜科やキビ亜科など7亜科がみられる単子葉植物であるが、対照標本が少なく、同定までには至っていない。

4. 考察

弥生時代中期の竪穴住居跡 10 Y ではクヌギ節とコナラ節、ハンノキ亜属、広葉樹が、弥生時代後期の 9 Y ではクヌギ節とオニグルミ、ヤナギ属がみられ、共にクヌギ節が多くみられた。試料は、焼けた建築材と考えられている。クヌギ節とコナラ節、オニグルミは堅硬な部類に属する樹種であり、ハンノキ亜属とヤナギ属は軽軟な樹種である。また、ハンノキ亜属とヤナギ属は水辺に生育する樹種である（伊東ほか，2011）。木取りをみると、堅硬な材、軽軟な材共に、芯持丸木状や半割状、みかん割り状で確認されており、顕著な使い分けは確認できなかった。

古墳時代～古代の竪穴住居跡 304 H では、ヒノキ科とモモ、クワ属、クリ、クヌギ節、コナラ節、ヤシヤブシ亜属がみられた。試料は、焼けた建築材と考えられている。モモとクワ属、クリ、クヌギ節、コナラ節は堅硬な樹種であり、ヒノキ科とヤシヤブシ亜属は軽軟な樹種である（伊東ほか 2011）。木取りをみると、軽軟な樹種であるヒノキ科は割れ、ヤシヤブシ亜属はみかん割りないし半割状であり、堅硬な樹種との顕著な使い分けは確認できなかった。また、コナラ節では芯去削出状の試料が 5 点みられた。それらの試料については、建築材ではなく、木製品の一部であった可能性も考えられる。

城山遺跡第 35 地点で出土した古墳時代中期～後期の焼けた建築材ではクヌギ節やコナラ節が確認されており、傾向は一致する（伊東・山田編 2012）。

中世の火葬墓である 1073 D ではエノキ属とタケ亜科、1119 D ではクヌギ節とタケ亜科、イネ科が確認された。試料はいずれも遺体を茶甕に付す際に使用された燃料材と考えられる。クヌギ節とエノキ属は、薪炭材として普通に利用される樹種である（伊東ほか 2011）。また、タケ亜科は火付きが良く、燃焼性が高い（室井 1973）。タケ亜科とイネ科は着火材として、クヌギ節とエノキ属は燃料材として利用されたと考えられる。

時期別に竪穴住居跡の建築材の利用傾向をみると、弥生時代中期～後期では、クヌギ節を中心とした堅硬な樹種が多くみられ、ハンノキ亜属やヤナギ属など水辺に生育する樹種もみられたが、古墳時代～古代ではコナラ節を中心とした堅硬な樹種が確認され、水辺に生育する樹種は確認されなかった。クヌギ節とコナラ節は、ほぼ同じ材質であり、選択的にクヌギ節とコナラ節を使い分けていたとは考え難い。古墳時代～古代になってコナラ節が主体となる傾向は、遺跡周辺の植生の変化を反映している可能性がある。

中世の火葬墓については、タケ亜科は 1073 D と 1119 D の両方で確認できたが、燃料材としては 1073 D ではエノキ属、1119 D ではクヌギ節で、異なる利用傾向がみられた。鳩ヶ谷市の辻字宮地第 2 遺跡の鎌倉時代～室町時代の火葬墓の燃料材ではエノキ属が多く確認されており（伊東・山田 2012）、志木市周辺では、火葬墓にエノキ属が利用される場合が多い。1073 D と 1119 D で燃料材の樹種が異なる背景としては、時期による周辺植生の違いを反映している可能性や、葬送儀礼の違いである可能性などが考えられる。

[引用文献]

- 伊東隆夫・佐野雄三・安部 久・内海泰弘・山口和穂 2011『日本有用樹木誌』238p 海青社
 伊東隆夫・山田昌久編 2012『木の考古学—出土木製品用材データベース—』449p 海青社
 室井 紳 1973『ものと人間の文化史 10・竹』311p 法政大学出版局

遺構	遺物 No.	種類	樹種	木取り	年代測定番号	遺構	遺物 No.	種類	樹種	木取り	年代測定番号
9 Y	C1	炭化材	コナラ属クヌギ節	芯持丸木		304 H	C4	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ	
	C2	炭化材	コナラ属クヌギ節	みかん割り			C5	炭化材	コナラ属コナラ節	椀目	
	C3	炭化材	コナラ属クヌギ節	芯持丸木			C6	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り	
	C4	炭化材	コナラ属クヌギ節	芯持丸木			C7	炭化材	コナラ属コナラ節	椀目	
	C5	炭化材	コナラ属クヌギ節	芯持丸木			C8	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ	
	C6	炭化材	ヤナギ属	芯持丸木			C9	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り	
	C7	炭化材	ヤナギ属	割れ			C10	炭化材	コナラ属コナラ節	椀目	
	C8	炭化材	コナラ属クヌギ節	芯持丸木			C11	炭化材	コナラ属コナラ節	椀目	
	C9	炭化材	コナラ属クヌギ節	芯持丸木			C12	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ	
	C10	炭化材	オニグルミ	芯持丸木			C13	炭化材	コナラ属コナラ節	半割	
	C11	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ			C14	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ	
	C12	炭化材	コナラ属クヌギ節	みかん割り			C15	炭化材	コナラ属コナラ節	椀目	
	C13	炭化材	コナラ属クヌギ節	みかん割り			C16	炭化材	コナラ属コナラ節	椀目	
	C14	炭化材	コナラ属クヌギ節	みかん割り			C17	炭化材	コナラ属コナラ節	椀目	
10 Y	C1	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ		C18	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ		
	C2	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ		C19	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り		
	C3	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ		C20	炭化材	コナラ属コナラ節	椀目		
	C4	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ		C21	炭化材	コナラ属コナラ節	椀目		
	C5	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ		C22	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り		
	C6	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ		C23	炭化材	コナラ属コナラ節	椀目		
	C7	炭化材	広葉樹	割れ		C24	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ		
	C8	炭化材	コナラ属コナラ節	芯持丸木		C25	炭化材	クリ	椀目		
	C9	炭化材	コナラ属コナラ節	芯持丸木	PLD-41970	C26	炭化材	クリ	みかん割り		
	C10	炭化材	コナラ属クヌギ節	みかん割り		C27	炭化材	コナラ属コナラ節	椀目		
	C11	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ		C28	炭化材	コナラ属コナラ節	椀目		
	C12	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ		C29	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ		
	C13	炭化材	ハンノキ属 ハンノキ亜属	割れ		C30	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ		
	C14	炭化材	ハンノキ属 ハンノキ亜属	半割		C31	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ		
304 H	C15	炭化材	コナラ属クヌギ節	半割		C32	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ		
	C16	炭化材	コナラ属クヌギ節	椀目		C33	炭化材	コナラ属コナラ節	椀目		
	C17	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ		C34	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り		
	C18	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ		C35	炭化材	コナラ属コナラ節	椀目		
	C19	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ		C36	炭化材	クワ属	割れ		
	C20	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り		C37	炭化材	クワ属	割れ		
	C21	炭化材	コナラ属コナラ節	椀目		C38	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ		
	C22	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ		C39	炭化材	コナラ属クヌギ節	芯持丸木		
	C23	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ		C40	炭化材	クワ属	芯持丸木		
	C24	炭化材	コナラ属クヌギ節	みかん割り		C41	炭化材	コナラ属コナラ節	椀目		
	C25	炭化材	コナラ属クヌギ節	みかん割り		C42	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ		
	C26	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ		C43	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ		
	C27	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ		C44	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り		
	C28	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ		C45	炭化材	コナラ属コナラ節	椀目		
C29	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ		C46	炭化材	コナラ属クヌギ節	半割			
C30	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ		C47	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り			
C31	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ		C48	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り			
C32	炭化材	ハンノキ属 ハンノキ亜属	割れ		C49	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り			
C33	炭化材	ハンノキ属 ハンノキ亜属	みかん割り		C50	炭化材	コナラ属コナラ節	椀目			
C34	炭化材	ハンノキ属 ハンノキ亜属	みかん割り		C51	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り			
C35	炭化材	ハンノキ属 ハンノキ亜属	みかん割り		C52	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ			
C36	炭化材	コナラ属クヌギ節	みかん割り		C53	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ			
C37	炭化材	コナラ属クヌギ節	みかん割り		C54	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り			
C38	炭化材	コナラ属クヌギ節	みかん割り		C55	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り			
C39	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ		C56	炭化材	コナラ属コナラ節	半割			
C40	炭化材	コナラ属クヌギ節	みかん割り		C57	炭化材	コナラ属コナラ節	椀目			
C41	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ		C58	炭化材	コナラ属クヌギ節	みかん割り			
C42	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ		C59	炭化材	コナラ属コナラ節	椀目			
No.293	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ		C60	炭化材	コナラ属クヌギ節	割れ			
C1	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り		C61	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ			
C2	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り		C62	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り			
C3	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ		C63	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ			
					C64	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ			
					C65	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ			
					C66	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り			
					C67	炭化材	クリ	みかん割り			
					C68	炭化材	クリ	椀目			
					C69	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ			

第93表 樹種同定結果一覧(1)

II. 城山遺跡第 96 地点出土炭化材の樹種同定

遺構	遺物 No.	種類	樹種	木取り	年代測定番号	遺構	遺物 No.	種類	樹種	木取り	年代測定番号
304 H	C70	炭化材	コナラ属コナラ節	芯持丸木		304 H	C134	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ	
	C71	炭化材	コナラ属クスギ節	みかん割り			C135	炭化材	コナラ属コナラ節	芯芝削出	
	C72	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り			C1	炭化材	エノキ属	割れ	
	C73	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り			C2	炭化材	エノキ属	割れ	
	C74	炭化材	コナラ属コナラ節	板目			C3	炭化材	エノキ属	割れ	
	C75	炭化材	クリ	板目			C4	炭化材	エノキ属	割れ	
	C76	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り			C5	炭化材	タケ垂料	半割	
	C77	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り			C6	炭化材	エノキ属	割れ	
	C78	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ			C7	炭化材	エノキ属	割れ	
	C79	炭化材	コナラ属コナラ節	板目			C8	炭化材	エノキ属	割れ	
	C80	炭化材	コナラ属クスギ節	芯持丸木			C9	炭化材	エノキ属	割れ	
	C81	炭化材	コナラ属コナラ節	板目			C10	炭化材	エノキ属	割れ	
	C82	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り			C11	炭化材	エノキ属	割れ	
	C83	炭化材	モモ	みかん割り			C12	炭化材	エノキ属	割れ	
	C84	炭化材	コナラ属クスギ節	芯持丸木			C13	炭化材	エノキ属	割れ	
	C85	炭化材	コナラ属コナラ節	芯持丸木			C14	炭化材	エノキ属	割れ	
	C86	炭化材	コナラ属コナラ節	半割			C15	炭化材	エノキ属	割れ	
	C87	炭化材	コナラ属コナラ節	板目			C16	炭化材	エノキ属	割れ	
	C88	炭化材	コナラ属コナラ節	板目			C17	炭化材	エノキ属	割れ	
	C89	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ			C18	炭化材	エノキ属	割れ	
	C90	炭化材	コナラ属クスギ節	みかん割り			C19	炭化材	エノキ属	割れ	
	C91	炭化材	コナラ属クスギ節	半割			C20	炭化材	エノキ属	割れ	
	C92	炭化材	コナラ属コナラ節	芯芝削出			C21	炭化材	エノキ属	割れ	
	C93	炭化材	コナラ属クスギ節	半割			C22	炭化材	エノキ属	半割	
	C94	炭化材	コナラ属コナラ節	芯芝削出			C23	炭化材	エノキ属	みかん割り	
	C95	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り			C24	炭化材	エノキ属	みかん割り	
	C96	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ			C25	炭化材	タケ垂料	割れ	
	C97	炭化材	ハンノキ属 ヤシヤブシ亜属	みかん割り			C26	炭化材	タケ垂料	割れ	
	C98	炭化材	クリ	芯持丸木			C27	炭化材	エノキ属	割れ	
	C99	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ			C28	炭化材	エノキ属	芯持丸木	PLD-41971
	C100	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り			C29	炭化材	エノキ属	割れ	
	C101	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ			C30	炭化材	エノキ属	割れ	
	C102	炭化材	クリ	芯持丸木			C31	炭化材	エノキ属	割れ	
C103	炭化材	コナラ属コナラ節	芯芝削出		C32	炭化材	エノキ属	割れ			
C104	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り		C33	炭化材	エノキ属	半割			
C105	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り		C34	炭化材	エノキ属	半割			
C106	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り		C35	炭化材	エノキ属	割れ			
C107	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り		C36	炭化材	エノキ属	割れ			
C108	炭化材	クリ	芯持丸木		C37	炭化材	エノキ属	割れ			
C109	炭化材	クリ	芯持丸木		C38	炭化材	エノキ属	割れ			
C110	炭化材	ハンノキ属 ヤシヤブシ亜属	芯持丸木		C39	炭化材	エノキ属	割れ			
C111	炭化材	クスギ属	半割		C40	炭化材	エノキ属	割れ			
C112	炭化材	ヒノキ科	割れ		C41	炭化材	エノキ属	みかん割り			
C113	炭化材	コナラ属コナラ節	芯芝削出		C42	炭化材	エノキ属	みかん割り			
C114	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り		C43	炭化材	エノキ属	みかん割り			
C115	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り		C44	炭化材	エノキ属	芯持丸木			
C116	炭化材	クリ	みかん割り		C1	炭化材	コナラ属クスギ節	割れ			
C117	炭化材	コナラ属コナラ節	半割		C2	炭化材	コナラ属クスギ節	割れ			
C118	炭化材	クリ	半割		C3	炭化材	コナラ属クスギ節	割れ			
C119	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り		C4	炭化材	コナラ属クスギ節	割れ			
C120	炭化材	コナラ属クスギ節	割れ		C5	炭化材	コナラ属クスギ節	割れ			
C121	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ		C6	炭化材	タケ垂料	割れ			
C122	炭化材	コナラ属クスギ節	芯持丸木		C7	炭化材	タケ垂料	割れ			
C123	炭化材	コナラ属コナラ節	芯持丸木		C8	炭化材	コナラ属クスギ節	みかん割り			
C124	炭化材	コナラ属クスギ節	みかん割り		C9	炭化材	コナラ属クスギ節	みかん割り	PLD-41972		
C125	炭化材	コナラ属クスギ節	芯持丸木		C10	炭化材	コナラ属クスギ節	割れ			
C126	炭化材	クリ	みかん割り		C11	炭化材	コナラ属クスギ節	みかん割り			
C127	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ		C12	炭化材	コナラ属クスギ節	割れ			
C128	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り		C13	炭化材	コナラ属クスギ節	割れ			
C129	炭化材	コナラ属クスギ節	みかん割り		C14	炭化材	コナラ属クスギ節	割れ			
C130	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ		C15	炭化材	イネ科	丸			
C131	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り		C16	炭化材	コナラ属クスギ節	みかん割り			
C132	炭化材	コナラ属コナラ節	みかん割り		C17	炭化材	コナラ属クスギ節	みかん割り			
C133	炭化材	コナラ属コナラ節	割れ		C18	炭化材	コナラ属クスギ節	割れ			
					C19	炭化材	コナラ属クスギ節	みかん割り			

第 93 表 樹種同定結果一覧 (2)

Ⅲ. 城山遺跡第 96 地点出土黒曜石の産地推定

東京航業研究所 地球化学分析室

1. はじめに

埼玉県志木市城山遺跡第 96 地点出土の黒曜石遺物 91 点について、蛍光 X 線による非破壊分析で、産地推定を行った。

2. 原理

黒曜石は、主として旧石器時代から縄文時代にかけて、石器の材料として大量に使用されている。しかし、その産出地点は限られているため、先史時代人は、直接採取に行くか、あるいは交易など様々な手段を駆使して黒曜石を入手し、その需要を満たしていたと考えられる。

この黒曜石は、産地毎に元素組成が異なるため、黒曜石製の石器の元素組成を測定することによって、その産地を推定することが可能である。産地が推定できれば、石器材料である黒曜石原石か、あるいは製作された石器が先史時代人によって運搬されたことについて、出発地点である産地と、最終到達地点である遺跡の位置が明らかとなり、具体的な人や物の動きを議論することが可能となる。

なお、測定に使用した蛍光 X 線分析法は、測定対象の表面に X 線を照射し、表面に含まれている元素と照射した X 線の相互作用によって、元素特有の蛍光 X 線が含有量に応じて発生することに着目し、この蛍光 X 線のエネルギー量（波長）から元素の種類を、検出量から元素の含有量を求める方法である。

蛍光 X 線分析法については、以下の点に注意が必要である。

- ① 相対分析法であるので、元素濃度を決定するためには、被検試料に対して組成と形状が類似した濃度既知の標準物質を予め測定し、これとの対比で元素組成を求める必要がある。黒曜石については、元素組成と形状が類似した標準物質が市販されていないため、一般的には組成は類似しているが形状が異なる標準物質を使用して元素組成を求めることとなる。
- ② 蛍光 X 線分析法で正確な濃度を求めるためには、幾つかの前提条件を満たす必要があり、その一つに、測定物質の表面形状が平滑な平面であることがあげられる。産地の基準試料は研磨によって平滑面を作り出して測定しているが、遺物については加工することができないため、遺物の測定面は一般的には平滑ではあるが平面ではない。従って、厳密な意味で正確な濃度を求めることは難しい。
- ③ 遺物の表面には、風化によって変質した部分や土壌によって汚染された部分が存在している。これは、新鮮な剥離面が光沢を帯びていることに対して、遺物表面の光沢が弱いことから明らかである。一般に水和層と呼ばれる黒曜石表面の風化層は、元素組成についても厳密な意味では本来の値とは異なっていることが予想される。
- ④ 元素ごとに検出限界は異なっており、検出限界以下の含有量では、たとえその元素が含まれていても非検出（ND）となり、同様に検出限界付近では、その値が大きくぶれて、誤差が大きくなる。
- ⑤ 含有量が少ない元素については、十分な蛍光 X 線を得る為に一定の照射面積が必要である。しかし微細な剥片ではこの条件を満たすことができない。そのため、小破片の含有量が少ない元素については、検出できない場合や値が不正確になる場合がある。

⑥同様に、試料の厚さが十分に厚くない場合、照射した X 線の一部が透過し、値が不正確になる場合がある。

⑦蛍光 X 線の検出強度は、測定値からバックグラウンドの値を差し引いて求められるが、バックグラウンドの設定は、元素ごとに一定の方式で行っており、個別の試料ごとに変更をしていない。したがって、測定限界付近の濃度の場合、検出強度が計算上、負の値として算出される場合がある。

このように、蛍光 X 線分析法で遺物を測定する場合には、幾つかの問題が存在しており、厳密な元素組成を求めることは難しいが、黒曜石の場合には、産地間の元素組成の差が著しいために、一定の誤差を前提とした上で、実用的な産地推定法が成立している。

なお、現在最も多く用いられている方法は、望月明彦氏によって提案された、Rb 分率と Sr 分率を用いる判別図によるものであり、ここでもこの方法によっている。

望月による方法の特徴は、標準試料をもとにして算出された元素濃度を用いるのではなく、各元素固有の検出強度を用いている点にある。この検出強度は、バックグラウンドは差し引かれているものの、重なり補正が行われていないため、元素濃度に必ずしも比例せず、各分析装置固有の値であるという問題点がある。しかし、産地推定に有効であることが多くの研究者の経験によって裏付けられている。ここでは、この判別図を望月ダイアグラムと称した。

3. 操作

- ①エネルギー分散型蛍光 X 線分析装置を使用して、被検試料である黒曜石の蛍光 X 線の強度を測定。
- ②地球化学分析室には、予め、原産地から採取した黒曜石基準試料が準備されており、その測定値が登録されている。
- ③黒曜石製の遺物試料を測定した値について、原産地の試料から想定した判別群と照合し、帰属する判別群を推定した。
- ④判別群の呼称は、原則として東京航業研究所 地球化学分析室編「日本の黒曜石」の記載に準拠した。
- ⑤判別群の推定に際しては、現在、最も普及している望月の方法を利用した。具体的には、Rb 分率として、横軸に $(Rb \times 100) / (Rb + Sr + Y + Zr)$ 、縦軸に $(Mn \times 100) / Fe$ を取った判別図を作成した。また Sr 分率として、横軸に $(Sr \times 100) / (Rb + Sr + Y + Zr)$ 、縦軸に $\log_{10}(Fe / K)$ を取った判別図を作成した。なお、数値の単位は絶対濃度ではなく、蛍光 X 線の検出強度 (バックグラウンドを除去した積分強度) である点に注意されたい。
- ⑥2枚の判別図には、予め原産地から採取した黒曜石から求めた値によって各判別群のエリアを想定しており、遺物の測定値がどのエリアにプロットされるかによって、判別群を判断した。
- ⑦なお試料では、大きさ、厚さ、風化、あるいは汚染の問題があるために、原石から想定したエリアを大きく外れる場合がある。そのため、標準試料から求めた元素濃度でも、判別群への帰属を検討した。

4. 測定条件

- ①測定には、リガク製エネルギー分散型蛍光 X 線分析装置 NEX-D E を使用した。
- ②測定元素は、主成分元素は Na, Mg, Al, Si, P, K, Ca, Ti, Mn, Fe の 10 種類、微量成分元素は

Rb、Sr、Y、Zr、Nb、Baの6種類である。

- ③検出強度は、分析装置が算出した値を用いた。
- ④元素濃度は、主成分は酸化物濃度で、微量成分は元素濃度でそれぞれ求めた。
- ⑤測定時間は、各グループ250秒とした。
- ⑥X線管球は60kV、12W、Agターゲットのものを使用した。
- ⑦X線の照射径は10mmとし、ターレットを使用せず、1個体ずつ測定窓の上に設置して測定した。
- ⑧測定時の雰囲気は、ヘリウム雰囲気とした。
- ⑨X線が下面から照射されるエンドウインドウタイプなので、測定窓に4 μ m厚の専用プロレンフィルムを貼った。
- ⑩その他の条件については、第94表に示した。

5. 結果

- ①黒曜石遺物91点の中には極小の剥片も多く、それらは分析の前提である十分な厚みをもたず、測定結果をもとにした考察には適さない。そのため本分析では、質量が0.50g以上の遺物32点について考察を行った。質量が0.50g未満の遺物59点については⑪、⑫、⑬に記した。
- ②32点の遺物から得られたX線強度を第95表に示した。また、X線強度から算出した元素濃度を第96表に示した。
- ③測定結果を第216～219図の望月ダイアグラムに示した。第216図はRb分率図、第217図はSr分率図であり、第218図はRb分率拡大図、第219図はSr分率拡大図である。各図中の黒丸は、分析した黒曜石遺物32点の値をプロットしたものである。
- ④望月ダイアグラム上のプロットを産地毎の黒曜石基準試料の分布と比較して推定した産地を第97表に示した。
- ⑤測定した遺物32点のうち、No.1、3、5、6、8～15、17、26、35、36、41の17点は、麦草峠判別群と判定された。また、No.90は恩馳島判別群と判定された。
- ⑥No.91はRb分率図で僅かに星ヶ塔判別群の値を外れたが、測定誤差の範囲内と判断し、星ヶ塔判別群と判定した。Rb分率図におけるずれは、測定面が平滑ではないことによると考えられる。
- ⑦No.7は麦草峠判別群、大門川判別群の重複部分にプロットされた。しかし、大門川判別群の黒曜石には球類が多量に含まれており、石器原材料として使用された例は報告されていないため、麦草峠判別群に属する可能性が高いと考えられる。
- ⑧No.4は大門川判別群と判定されたが、Sr分率図では麦草峠判別群にも属し、Rb分率図でも麦草峠判別群から僅かに下方に外れたにすぎないため、麦草峠判別群の可能性も否定できない。
- ⑨No.29、32の2点は大門川判別群と判定された。しかし⑦で述べたように、大門川判別群の黒曜石が石器原材料として使用された例は、これまでに報告されていない。2点の産地判定については保留としたい。
- ⑩No.2、16、22、27、28、34、38、43、44の9点は、Rb分率図またはSr分率図で僅かに麦草峠判別群の値をはずれたが、測定誤差の範囲内と判断し、麦草峠判別群と判定した。麦草峠判別群から僅かに外れているのは、風化あるいは測定面の凸凹によることが原因と考えられる。

- ⑪質量が0.50g未満の黒曜石遺物59点についても測定を行った。これは、微細な剥片を測定することによって、遺跡内での加工が把握できるためである。
- ⑫⑪の測定結果を第220・221図の望月ダイアグラムに示した。第220図はRb分率拡大図、第221図はSr分率拡大図である。各図中の黒丸は、分析した黒曜石遺物59点の値をプロットしたものである。
- ⑬プロットされた点の拡がり方から、これら59点は麦草峠判別群に属する可能性が高いと考えられる。特にSr分率図ではいくつかの外れ値はあるものの、多くが麦草峠判別群に属している。Rb分率図では麦草峠判別群の下方に拡がるようにプロットされた。
- ⑭遺物が各判別群の定義範囲に該当すれば産地として推定可能であるが、多くの判別群では、未だ十分に分布範囲が確定されているとはいえない。複数地点からの試料によって範囲を確定させるとともに、風化の影響によるずれについても、データを蓄積する必要がある。

元素名	算出形態	測定条件	分析線	1次フィルタ	管電圧 /kV	管電流 / μ A	測定時間 /sec
Na	Na ₂ O	Low-Z	K α	Open	6.5	適宜設定	250
Mg	MgO	Low-Z	K α	Open	6.5	適宜設定	250
Al	Al ₂ O ₃	Low-Z	K α	Open	6.5	適宜設定	250
Si	SiO ₂	Low-Z	K α	Open	6.5	適宜設定	250
P	P ₂ O ₅	Low-Z	K α	Open	6.5	適宜設定	250
K	K ₂ O	Mid-Z	K α	C	35.0	適宜設定	250
Ca	CaO	Mid-Z	K α	C	35.0	適宜設定	250
Ti	TiO ₂	Mid-Z	K α	C	35.0	適宜設定	250
Mn	MnO	Mid-Z	K α	C	35.0	適宜設定	250
Fe	Fe ₂ O ₃	Mid-Z	K α	C	35.0	適宜設定	250
Rb	Rb	Mid-Z	K α	C	35.0	適宜設定	250
Sr	Sr	Mid-Z	K α	C	35.0	適宜設定	250
Y	Y	Mid-Z	K α	C	35.0	適宜設定	250
Zr	Zr	Mid-Z	K α	C	35.0	適宜設定	250
Nb	Nb	Mid-Z	K α	C	35.0	適宜設定	250
Ba	Ba	High-Z_F	K α	F	60.0	適宜設定	250

第94表 分析の各種条件

番号	Na-K α	Mg-K α	Al-K α	Si-K α	P-K α	K-K α	Ca-K α	Ti-K α	Mn-K α	Fe-K α	Rb-K α	Sr-K α	Y-K α	Zr-K α	Nb-K α	Ba-K α
1	0.380	0.278	27.1	383	0.023	0.92	0.364	0.164	0.218	6.28	2.49	3.50	0.95	4.43	0.261	5.60
2	0.193	0.314	18.8	285	0.015	0.83	0.341	0.147	0.204	5.92	2.33	3.31	0.91	4.25	0.213	3.92
3	0.417	0.293	28.2	395	0.028	1.04	0.406	0.177	0.245	7.06	2.76	3.87	1.05	4.89	0.253	5.58
4	0.403	0.299	27.6	382	0.031	0.88	0.370	0.166	0.214	6.39	2.37	3.63	0.94	4.59	0.226	5.41
5	0.505	0.283	31.5	432	0.026	1.07	0.423	0.181	0.243	7.02	2.85	3.76	1.08	4.76	0.270	5.59
6	0.262	0.300	22.2	324	0.023	0.97	0.382	0.165	0.220	6.42	2.58	3.36	0.97	4.24	0.211	3.98
7	0.403	0.297	28.2	389	0.018	0.98	0.409	0.180	0.233	6.87	2.64	3.93	1.01	4.81	0.260	3.49
8	0.372	0.312	24.9	356	0.061	0.97	0.401	0.191	0.232	6.83	2.59	3.67	1.00	4.58	0.247	4.13
9	0.549	0.304	32.7	438	0.037	1.04	0.427	0.216	0.245	7.27	2.76	4.06	1.10	5.24	0.268	5.24
10	0.491	0.290	30.7	423	0.031	1.00	0.401	0.175	0.240	6.89	2.63	3.87	1.05	4.92	0.246	5.63
11	0.404	0.278	28.1	398	0.019	0.98	0.390	0.170	0.230	6.78	2.65	3.83	1.00	4.75	0.267	4.75
12	0.515	0.279	31.3	432	0.018	0.96	0.380	0.161	0.219	6.46	2.54	3.55	0.99	4.52	0.235	5.00
13	0.337	0.297	25.4	363	0.015	0.92	0.363	0.158	0.220	6.24	2.63	3.44	0.97	4.32	0.242	5.71
14	0.420	0.278	28.9	409	0.032	0.98	0.372	0.154	0.217	6.30	2.63	3.27	0.96	4.19	0.225	5.10
15	0.258	0.310	21.4	317	0.020	0.89	0.343	0.151	0.207	6.07	2.46	3.38	0.96	4.30	0.231	5.15
16	0.616	0.287	35.9	483	0.045	1.13	0.448	0.189	0.250	7.45	2.95	3.87	1.10	4.95	0.270	6.05
17	0.517	0.286	31.9	436	0.044	1.02	0.418	0.186	0.239	7.01	2.47	3.54	0.94	4.31	0.234	2.31
22	0.648	0.272	35.3	458	0.047	1.04	0.419	0.181	0.236	7.02	2.61	3.60	1.00	4.56	0.255	3.52
26	0.584	0.370	32.5	444	0.026	1.05	0.614	0.182	0.248	7.30	2.78	3.92	1.06	4.91	0.269	4.45
27	0.364	0.307	26.5	370	0.038	0.93	0.389	0.162	0.215	6.46	2.39	3.50	0.93	4.63	0.233	2.68
28	0.398	0.276	26.3	366	0.029	0.91	0.369	0.157	0.204	6.16	2.19	2.95	0.81	3.57	0.181	2.33
29	0.459	0.279	29.9	415	0.025	1.00	0.424	0.178	0.236	6.95	2.59	4.34	1.03	4.97	0.264	3.59
32	0.417	0.302	29.3	387	0.034	0.88	0.387	0.186	0.216	6.53	2.30	3.73	0.90	4.38	0.225	2.84
34	0.603	0.320	34.6	461	0.053	1.06	0.435	0.192	0.259	7.33	2.72	3.73	1.04	4.73	0.266	3.47
35	0.437	0.348	29.4	397	0.031	1.01	0.441	0.175	0.234	6.80	2.66	3.56	0.98	4.42	0.234	3.86
36	0.579	0.297	33.9	452	0.040	1.05	0.439	0.174	0.240	6.96	2.74	3.74	1.00	4.42	0.241	3.19
38	0.419	0.307	28.7	396	0.033	0.99	0.398	0.177	0.234	6.76	2.65	3.48	0.99	4.50	0.248	3.27
41	0.424	0.269	24.5	314	0.048	0.88	0.437	0.360	0.215	6.14	2.29	3.35	0.89	4.14	0.248	3.65
43	0.246	0.341	21.8	303	0.028	0.85	0.362	0.154	0.199	5.94	2.06	2.92	0.78	3.62	0.215	2.61
44	0.495	0.316	32.3	407	0.055	0.97	0.403	0.189	0.238	7.15	2.50	3.78	1.01	4.79	0.250	3.87
90	0.493	0.276	29.5	402	0.028	0.81	0.396	0.138	0.337	6.14	1.64	2.16	1.07	2.95	0.277	2.46
91	0.594	0.271	34.0	457	0.030	1.21	0.334	0.109	0.366	4.91	3.86	1.30	1.59	3.18	0.379	1.75

単位は cps/ μ A

第95表 試料のX線強度

番号	Na2O	MgO	Al2O3	SiO2	P2O5	K2O	CaO	TiO2	MnO	Fe2O3	Rb	Sr	Y	Zr	Nb	Ba
1	2.8	0.17	11.6	79.3	0.014	4.1	0.76	0.15	0.052	0.96	0.011	0.014	0.0018	0.012	0.00071	0.087
2	1.7	0.28	9.6	81.8	0.010	4.4	0.86	0.17	0.058	1.09	0.012	0.016	0.0021	0.014	0.00071	0.073
3	3.0	0.19	11.7	78.4	0.016	4.5	0.83	0.16	0.057	1.05	0.011	0.015	0.0019	0.013	0.00069	0.084
4	3.0	0.21	11.7	79.1	0.019	3.9	0.78	0.16	0.051	0.98	0.010	0.015	0.0018	0.012	0.00059	0.084
5	3.4	0.17	12.3	77.6	0.015	4.3	0.81	0.16	0.053	0.99	0.011	0.014	0.0019	0.012	0.00065	0.079
6	2.1	0.23	10.4	80.2	0.015	4.7	0.88	0.18	0.058	1.09	0.012	0.015	0.0020	0.012	0.00066	0.068
7	2.9	0.20	11.8	78.6	0.010	4.3	0.85	0.18	0.055	1.04	0.011	0.015	0.0019	0.013	0.00070	0.053
8	2.9	0.24	11.0	79.1	0.042	4.4	0.88	0.20	0.057	1.09	0.011	0.015	0.0020	0.013	0.00074	0.066
9	3.7	0.20	12.6	77.2	0.021	4.1	0.82	0.19	0.053	1.01	0.011	0.015	0.0019	0.013	0.00065	0.073
10	3.4	0.18	12.2	78.0	0.018	4.1	0.78	0.15	0.053	0.99	0.010	0.014	0.0019	0.012	0.00067	0.081
11	2.9	0.17	11.7	78.8	0.011	4.2	0.80	0.16	0.054	1.01	0.011	0.015	0.0019	0.012	0.00070	0.072
12	3.5	0.16	12.3	78.1	0.009	3.9	0.73	0.14	0.048	0.91	0.010	0.013	0.0018	0.011	0.00066	0.071
13	2.6	0.21	11.2	79.7	0.009	4.2	0.78	0.15	0.054	0.99	0.012	0.014	0.0018	0.012	0.00074	0.091
14	3.0	0.17	11.9	78.8	0.019	4.1	0.74	0.14	0.050	0.93	0.011	0.013	0.0016	0.011	0.00057	0.076
15	2.1	0.26	10.2	80.8	0.013	4.4	0.80	0.16	0.056	1.05	0.012	0.015	0.0020	0.013	0.00067	0.089
16	3.9	0.16	12.9	76.7	0.024	4.2	0.80	0.15	0.051	0.97	0.011	0.013	0.0017	0.011	0.00061	0.079
17	3.5	0.17	12.4	77.7	0.026	4.1	0.80	0.18	0.052	0.98	0.010	0.013	0.0016	0.011	0.00065	0.033
22	4.2	0.14	13.1	76.5	0.027	4.0	0.77	0.16	0.049	0.94	0.010	0.013	0.0017	0.011	0.00062	0.048
26	3.9	0.30	12.4	76.7	0.014	4.1	1.22	0.16	0.053	1.00	0.011	0.014	0.0018	0.012	0.00064	0.061
27	2.8	0.23	11.5	79.1	0.025	4.2	0.84	0.17	0.052	1.01	0.010	0.014	0.0018	0.013	0.00073	0.042
28	3.0	0.17	11.4	79.2	0.019	4.1	0.79	0.16	0.050	0.97	0.009	0.012	0.0015	0.010	0.00049	0.037
29	3.2	0.16	12.0	78.2	0.014	4.2	0.85	0.17	0.053	1.01	0.010	0.016	0.0019	0.012	0.00068	0.053
32	3.1	0.21	12.3	78.5	0.021	3.8	0.82	0.19	0.051	0.99	0.010	0.015	0.0016	0.011	0.00059	0.043
34	3.9	0.22	12.9	76.8	0.030	4.1	0.80	0.17	0.054	0.98	0.010	0.013	0.0017	0.011	0.00062	0.047
35	3.1	0.29	12.1	78.0	0.018	4.3	0.91	0.17	0.054	1.01	0.011	0.014	0.0017	0.011	0.00069	0.058
36	3.8	0.18	12.8	77.0	0.022	4.1	0.82	0.16	0.051	0.95	0.010	0.013	0.0016	0.010	0.00063	0.044
38	3.0	0.22	11.9	78.4	0.020	4.2	0.81	0.17	0.054	1.01	0.011	0.014	0.0017	0.012	0.00069	0.049
41	3.4	0.17	11.4	78.1	0.034	4.3	1.04	0.41	0.056	1.03	0.011	0.015	0.0018	0.012	0.00078	0.061
43	2.1	0.33	10.6	80.5	0.020	4.3	0.88	0.18	0.054	1.04	0.010	0.013	0.0016	0.011	0.00068	0.046
44	3.5	0.23	13.0	77.1	0.034	4.0	0.80	0.18	0.053	1.03	0.010	0.014	0.0019	0.012	0.00067	0.056
90	3.5	0.16	12.2	78.6	0.017	3.5	0.83	0.13	0.077	0.91	0.007	0.008	0.0026	0.008	0.00069	0.037
91	3.9	0.14	12.8	77.0	0.017	4.7	0.56	0.10	0.076	0.66	0.014	0.005	0.0028	0.008	0.00094	0.024

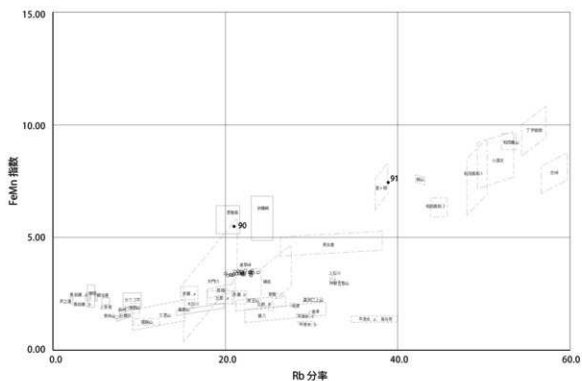
単位は mass%

第 96 表 試料の元素濃度

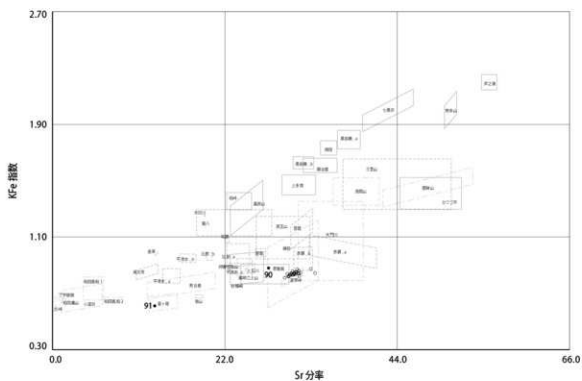
番号	遺構名	注記	黒曜石質量/g	推定された判別群	図面の番号等
1	TP8	Ka96 TP8-168	41.53	麦草峠	
2	TP8	Ka96 TP8-166	19.64	(麦草峠)	
3	TP8	Ka96 TP8-160	11.25	麦草峠	
4	TP8	Ka96 TP8-140	8.64	大門川(?)	
5	TP8	Ka96 TP8-200	9.82	麦草峠	
6	TP8	Ka96 TP8-440	3.40	麦草峠	
7	TP8	Ka96 TP8-121	2.63	大門川(?) または麦草峠	
8	TP8	Ka96 TP8-165	5.43	麦草峠	第13図4
9	TP8	Ka96 TP8-162	5.26	麦草峠	第13図2
10	TP8	Ka96 TP8-170	10.13	麦草峠	
11	TP8	Ka96 TP8-164	34.55	麦草峠	第15図11
12	TP8	Ka96 TP8-460	17.07	麦草峠	第16図17
13	TP8	Ka96 TP8-169	49.71	麦草峠	第15図12
14	TP8	Ka96 TP8-193	8.08	麦草峠	第13図3
15	TP8	Ka96 TP8-146-2	18.67	麦草峠	第16図14
16	TP8	Ka96 TP8-78	13.45	(麦草峠)	第14図8
17	TP8	Ka96 TP8-148	0.59	麦草峠	
22	TP8	Ka96 TP8-135	0.69	(麦草峠)	
26	TP8	Ka96 TP8-103	1.03	麦草峠	
27	TP8	Ka96 TP8-96	0.62	(麦草峠)	
28	TP8	Ka96 TP8-206	0.69	(麦草峠)	
29	TP8	Ka96 TP8-201	1.00	大門川(?)	
32	TP8	Ka96 TP8-446	0.76	大門川(?)	
34	TP8	Ka96 TP8-98	0.53	(麦草峠)	
35	TP8	Ka96 TP8-95	1.12	麦草峠	
36	TP8	Ka96 TP8-99	0.61	麦草峠	
38	TP8	Ka96 TP8-70	1.07	(麦草峠)	
41	TP8	Ka96 TP8-459	0.68	麦草峠	
43	TP8	Ka96 TP8-153	0.78	(麦草峠)	
44	TP8	Ka96 TP8-156	0.75	(麦草峠)	
90	TP11	Ka96 TP11-カ	0.97	恩輪島	
91	4J	Ka96 4J-31	0.76	(星ヶ塔)	第33図8

注：括弧なしは判定プログラムの結果、括弧つきは分析者が推定した判別群。

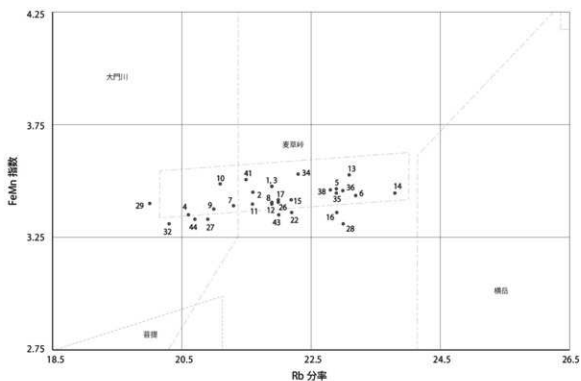
第97表 推定された判別群



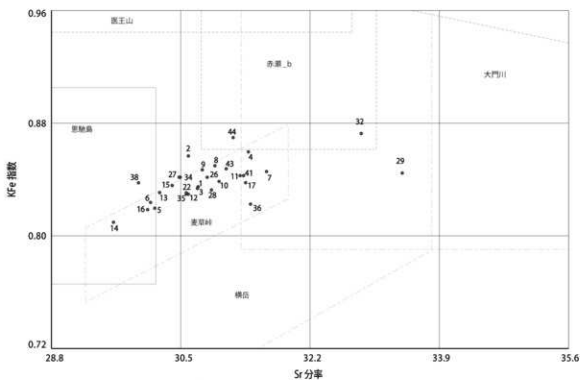
第 216 図 望月ダイアグラム (Rb 分率図/城山遺跡 第 96 地点)



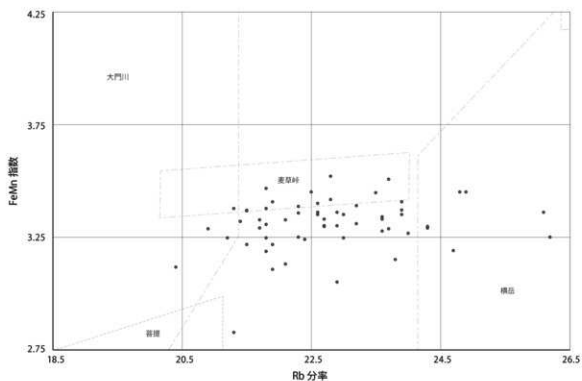
第 217 図 望月ダイアグラム (Rb 分率図/城山遺跡 第 96 地点)



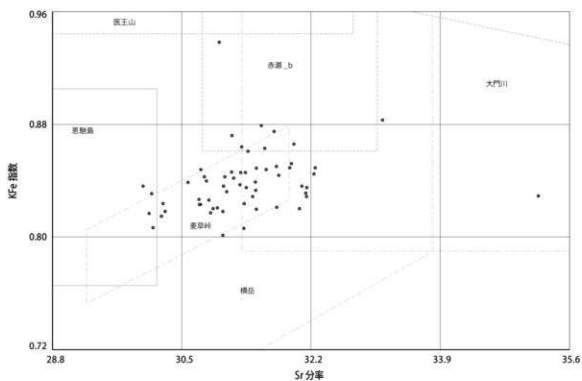
第 218 図 望月ダイアグラム (Rb 分率拡大図) 城山遺跡 第 96 地点)



第 219 図 望月ダイアグラム (Sr 分率拡大図) 城山遺跡 第 96 地点)



第 220 図 望月ダイアグラム (Rb 分率拡大図/城山遺跡 第 96 地点)



第 221 図 望月ダイアグラム (Sr 分率拡大図/城山遺跡 第 96 地点)

图 版



1. TP1北壁（南から）



2. TP1西壁（東から）



3. TP2北壁（南から）



4. TP2東壁（西から）



5. TP3北壁（南から）



6. TP3西壁（東から）



7. TP4北壁（南から）



8. TP4西壁（東から）



1. TP 5 北壁 (南から)



2. TP 5 西壁 (東から)



3. TP 6 北壁 (南から)



4. TP 6 東壁 (西から)



5. TP 7 北壁 (南から)



6. TP 7 西壁 (東から)



7. TP 8 北壁西側 (南から)



8. TP 8 北壁東側 (南から)



1. TP8西壁北側（東から）



2. TP8西壁中の南壁（北から）



3. TP8西壁南側（東から）



4. TP8東壁（西から）



5. TP9北壁（南から）



6. TP9西壁（東から）



7. TP10北壁（南から）



8. TP10西壁（東から）



1. TP 11 北壁 (南から)



2. TP 11 東壁 (西から)



3. TP 12 北壁 (南から)



4. TP 12 西壁 (東から)



5. TP 2 遺物出土状態 (北から)



6. TP 2 遺物出土状態 (西から)



7. TP 7 遺物出土状態 (東から)



8. TP 7 遺物出土状態 (北東から)



1. TP 8 9号石器集中地点・10号礫群
(南から)



2. TP 8 9号石器集中地点・10号礫群
(南西から)



3. TP 8 10号礫群 (南から)



4. TP 8 10号礫群北側 (東から)



5. TP 8 10号礫群東側 (東から)



1. TP 8 10号礫群南側（南から）



2. TP 8 10号石器集中地点（南から）



3. TP 8 10号石器集中地点（東から）



4. TP 8 11号石器集中地点・11号礫群
（南東から）



5. TP 8 11号石器集中地点・11号礫群
（東から）



1. 4号住居跡（西から）



2. 4号住居跡掘方（西から）



3. 4号住居跡炉跡（北から）



4. 4号住居跡炉跡燃焼面（北から）



5. 5号住居跡（南から）



6. 5号住居跡掘方（南から）



7. 5号住居跡遺物出土状態（西から）



8. 5号住居跡遺物出土状態（南から）



1. 6号住居跡 (南から)



2. 6号住居跡遺物出土状態 (南から)



3. 6号住居跡遺物出土状態 (北から)



4. 6号住居跡遺物出土状態 (東から)



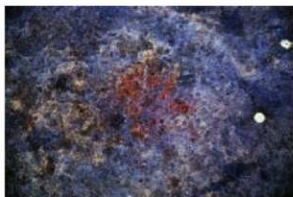
5. 6号住居跡炉跡 (南から)



6. 6号住居跡焼土 (南から)



7. 7号住居跡 (南から)



8. 7号住居跡炉跡 (南から)



1. 7号住居跡貝・遺物出土状態（南から）



2. 7号住居跡遺物出土状態（南東から）



3. 7号住居跡貝出土状態（南東から）



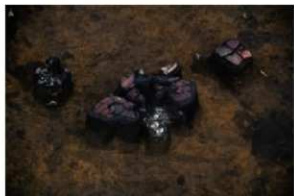
4. 7号住居跡貝層断面（東から）



5. 8号住居跡（東から）



6. 8号住居跡貝・遺物出土状態（東から）



7. 8号住居跡貝・遺物出土状態（南から）



8. 8号住居跡貝出土状態（東から）



1. 8号住居跡貝出土状態（西から）



2. 8号住居跡貝出土状態（西から）



3. 9号住居跡（南東から）



4. 9号住居跡掘方（南東から）



5. 9号住居跡炉跡（南東から）



6. 9号住居跡遺物出土状態（南東から）



7. 9号住居跡遺物出土状態（南東から）



8. 9号住居跡遺物出土状態（南西から）



1. 9号住居跡遺物出土状態（東から）



2. 9号住居跡遺物出土状態（南西から）



3. 9号住居跡P1貝出土状態（南東から）



4. 9号住居跡P2貝出土状態（南東から）



5. 10号住居跡（西から）



6. 10号住居跡炉跡（南東から）



7. 11・13号住居跡（西から）



8. 14号住居跡（西から）



1. 12号住居跡（西から）



2. 12号住居跡貝出土状態（西から）



3. 12号住居跡遺物出土状態（北から）



4. 12号住居跡遺物出土状態（南から）



5. 6号集石礫出土状態（南から）



6. 6号集石（南から）



7. 7号集石礫出土状態（南西から）



8. 7号集石（南西から）



1. 18号炉穴（南から）



2. 19号炉穴（北から）



3. 20号炉穴（南東から）



4. 21号炉穴（北東から）



5. 22号炉穴（北西から）



6. 1086号土坑（南から）



7. 1095号土坑（南から）



8. 1095号土坑遺物出土状態（南から）



1. 1096号土坑・1097号土坑（西から）



2. 1103号土坑（東から）



3. 1104号土坑（南から）



4. 1105号土坑（南から）



5. 1107号土坑（北から）



6. 1114号土坑（南から）



7. 1116号土坑（南西から）



8. 1117号土坑（西から）



1. 1121号土坑（南から）



2. 1125号土坑（北東から）



3. 1127号土坑（北から）



4. 1128号土坑（東から）



5. 1129号土坑（東から）



6. 1130号土坑・187号ピット（東から）



7. 1131号土坑（北西から）



8. 189号ピット遺物出土状態（南から）



1. 8号住居跡（南から）



2. 8号住居跡掘方（南から）



3. 8号住居跡炭化物・遺物出土状態（南から）



4. 8号住居跡炭化物出土状態（北東から）



5. 9号住居跡（南東から）



6. 9号住居跡掘方（南東から）



7. 9号住居跡遺物出土状態（南から）



8. 9号住居跡炭化物出土状態（南東から）



1. 10号住居跡(南西から)



2. 10号住居跡掘方(南西から)



3. 10号住居跡炉跡(南西から)



4. 10号住居跡焼土検出状況(南西から)



5. 10号住居跡貯蔵穴(東から)



6. 10号住居跡遺物出土状態(東から)



7. 10号住居跡遺物出土状態(北西から)



8. 10号住居跡遺物出土状態(北西から)



1. 10号住居跡遺物出土状態（南東から）



2. 10号住居跡遺物出土状態（南東から）



3. 10号住居跡遺物出土状態（北西から）



4. 10号住居跡遺物出土状態（北西から）



5. 10号住居跡遺物出土状態（南東から）



6. 10号住居跡遺物出土状態（西から）



7. 10号住居跡遺物出土状態（北から）



8. 10号住居跡遺物出土状態（南から）



1. 10号住居跡遺物出土状態（西から）



2. 10号住居跡遺物出土状態（東から）



3. 10号住居跡遺物出土状態（南から）



4. 10号住居跡遺物出土状態（南西から）



5. 10号住居跡炭化物出土状態（南から）



6. 10号住居跡遺物出土状態（北から）



7. 10号住居跡遺物出土状態（北から）



8. 10号住居跡遺物出土状態（東から）



1. 11号住居跡（南から）



2. 11号住居跡掘方（南から）



3. 11号住居跡遺物出土状態（南から）



4. 11号住居跡遺物出土状態（東から）



5. 1号方形周溝墓（南から）



1. 301号住居跡（南から）



2. 301号住居跡掘方（南から）



3. 301号住居跡遺物出土状態（南から）



4. 301号住居跡遺物出土状態（南から）



5. 301号住居跡カマド（南から）



6. 301号住居跡カマド掘方（南から）



7. 302号住居跡（北西から）



8. 302号住居跡掘方（北西から）



1. 302号住居跡遺物出土状態（北西から）



2. 302号住居跡遺物出土状態（東から）



3. 303号住居跡（南西から）



4. 303号住居跡掘方（南西から）



5. 303号住居跡遺物出土状態（南東から）



6. 303号住居跡遺物出土状態（南から）



7. 303号住居跡カマド（南東から）



8. 303号住居跡カマド掘方（南東から）



1. 304号住居跡(東から)



2. 304号住居跡焼土・炭化物・遺物出土状態(東から)



3. 304号住居跡焼土・炭化物出土状態(西から)



4. 304号住居跡炭化物出土状態(北から)



5. 304号住居跡炭化物出土状態(東から)



6. 304号住居跡カマド遺物出土状態(南から)



7. 304号住居跡カマド(南から)



8. 304号住居跡カマド掘方(南から)



1. 305号住居跡(東から)



2. 305号住居跡掘方(東から)



3. 305号住居跡ルーム検出状況(東から)



4. 305号住居跡遺物出土状態(北東から)



5. 305号住居跡カマド(南から)



6. 305号住居跡カマド掘方(南から)



7. 306号住居跡(南から)



8. 306号住居跡掘方(南から)



1. 306号住居跡遺物出土状態（南から）



2. 306号住居跡遺物出土状態（南西から）



3. 306号住居跡貯蔵穴遺物出土状態（南から）



4. 306号住居跡カマド遺物出土状態（南から）



5. 306号住居跡カマド（南から）



6. 306号住居跡カマド掘方（南から）



7. 308号住居跡（南から）



8. 308号住居跡掘方（南から）



1. 308号住居跡遺物出土状態（南から）



2. 308号住居跡遺物出土状態（東から）



3. 308号住居跡カマド（南から）



4. 308号住居跡カマド掘方（南から）



5. 309号住居跡（南東から）



6. 309号住居跡掘方（南東から）



7. 309号住居跡貯蔵穴遺物出土状態（南から）



8. 309号住居跡遺物出土状態（南から）



1. 309号住居跡カマド(南西から)



2. 309号住居跡カマド掘方(南西から)



3. 311号住居跡(南から)



4. 311号住居跡掘方(南から)



5. 311号住居跡遺物出土状態(南から)



6. 311号住居跡遺物出土状態(東から)



7. 311号住居跡遺物出土状態(西から)



8. 311号住居跡貯蔵穴遺物出土状態(南から)



1. 311号住居跡カマド（南から）



2. 311号住居跡カマド掘方（南から）



3. 311号住居跡カマド遺物出土状態（南から）



4. 311号住居跡生粘土断面（南西から）



5. 312号住居跡（西から）



6. 312号住居跡掘方（西から）



7. 312号住居跡遺物出土状態（西から）



8. 312号住居跡遺物出土状態（南西から）



1. 312号住居跡貯蔵穴遺物出土状態(西から)



2. 312号住居跡カマド遺物出土状態(南西から)



3. 312号住居跡カマド(西から)



4. 312号住居跡カマド掘方(西から)



5. 313号住居跡(南から)



6. 313号住居跡掘方(南から)



7. 313号住居跡遺物出土状態(南から)



8. 311号住居跡遺物出土状態(南東から)



1. 313号住居跡カマド（南から）



2. 313号住居跡カマド掘方（南から）



3. 314号住居跡（南から）



4. 314号住居跡掘方（南から）



5. 314号住居跡遺物出土状態（南から）



6. 314号住居跡遺物出土状態（南から）



7. 314号住居跡遺物出土状態（西から）



8. 314号住居跡カマド遺物出土状態（南西から）



1. 314号住居跡カマド（南から）



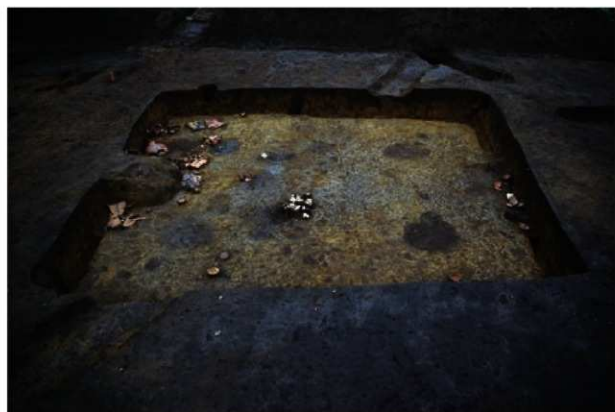
2. 314号住居跡カマド掘方（南から）



3. 315号住居跡（南から）



4. 315号住居跡遺物出土状態（南から）



5. 315号住居跡遺物出土状態（西から）



1. 315号住居跡遺物出土状態（南から）



2. 315号住居跡遺物出土状態（東から）



3. 315号住居跡貯蔵穴遺物出土状態（南から）



4. 315号住居跡貯蔵穴遺物出土状態（南から）



5. 315号住居跡カマド（南から）



6. 315号住居跡カマド掘方（南から）



7. 315号住居跡カマド遺物出土状態（南から）



8. 315号住居跡粘土断面（東から）



1. 316号住居跡（南から）



2. 316号住居跡掘方（南から）



3. 316号住居跡遺物出土状態（東から）



4. 316号住居跡遺物出土状態（北から）



5. 317号住居跡（南から）



6. 317号住居跡掘方（南から）



7. 317号住居跡遺物出土状態（北から）



8. 317号住居跡炉跡A・炉跡B（南から）



1. 317号住居跡カマドA (南から)



2. 317号住居跡カマドA掘方 (南から)



3. 317号住居跡カマドB (西から)



4. 317号住居跡カマドB掘方 (西から)



5. 318号住居跡 (北から)



6. 318号住居跡掘方 (北東から)



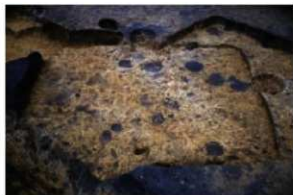
7. 318号住居跡遺物出土状態 (北東から)



8. 318号住居跡遺物出土状態 (東から)



1. 319号住居跡（南東から）



2. 319号住居跡掘方（南東から）



3. 319号住居跡遺物出土状態（南東から）



4. 319号住居跡遺物出土状態（北東から）



5. 319号住居跡生粘土・遺物出土状態
（北東から）



6. 319号住居跡遺物出土状態（東から）



7. 319号住居跡カマド（南東から）



8. 319号住居跡カマド掘方（南東から）



1. 320号住居跡(南から)



2. 320号住居跡
粘土・山砂・遺物出土状態(南から)



3. 320号住居跡粘土・遺物出土状態(南から)



4. 320号住居跡粘土断面(南西から)



5. 321号住居跡(南から)



6. 321号住居跡
貯蔵穴遺物出土状態(南から)



7. 321号住居跡カマド(南から)



8. 321号住居跡カマド掘方(南から)



1. 300号住居跡（南から）



2. 300号住居跡掘方（南から）



3. 300号住居跡遺物出土状態（南から）



4. 300号住居跡遺物出土状態（西から）



5. 307号住居跡（南から）



6. 307号住居跡掘方（南から）



7. 307号住居跡遺物出土状態（南から）



8. 307号住居跡遺物出土状態（東から）



1. 307号住居跡硬化ローム検出状況(南から)



2. 307号住居跡P1断面(南から)



3. 307号住居跡カマド(南から)



4. 307号住居跡カマド掘方(南から)



5. 310号住居跡(南から)



6. 310号住居跡カマド遺物出土状態(北から)



7. 310号住居跡カマド(西から)



8. 310号住居跡カマド掘方(西から)



1. 68号溝跡C・Dグリッド（東から）



2. 68号溝跡Eグリッド（東から）



3. 68号溝跡Fグリッド（東から）



4. 68号溝跡H～Kグリッド（西から）



5. 69号溝跡D・Eグリッド（東から）



6. 69号溝跡F～Kグリッド（西から）



7. 3号道路状遺構B～Fグリッド（東から）



8. 3号道路状遺構G～Kグリッド（西から）



1. 1090号土坑硬化面検出状況(南から)



2. 1090号土坑(南から)



3. 1092号土坑(南から)



4. 1109～1113号土坑・145号ピット
(南から)



5. 1077号土坑(南から)



6. 1078号土坑(西から)



7. 1084号土坑(南から)



8. 1089号土坑(南から)



1. 1098号土坑（南から）



2. 1075・1079・1080・1081号土坑（南から）



3. 1076号土坑（東から）



4. 1083号土坑（北から）



5. 1085号土坑（南から）



6. 1087号土坑（南から）



7. 1088号土坑（西から）



8. 1091号土坑（南から）



1. 1093号土坑（南から）



2. 1118号土坑（南から）



3. 1120号土坑（東から）



4. 1124号土坑（東から）



5. 1126号土坑（西から）



6. 1074号土坑（南東から）



7. 1122号土坑（東から）



8. 1082号土坑（北から）



1. 1094号土坑（北から）



2. 1099号土坑（南から）



3. 1100号土坑焼土検出状況（東から）



4. 1100号土坑（東から）



5. 1101号土坑焼土検出状況（南から）



6. 1101号土坑（南から）



7. 1102号土坑（南から）



8. 1106号土坑・141号ピット（南から）



1. 1108号土坑（南から）



2. 1115号土坑（南西から）



3. 1123号土坑（東から）



4. 1073号土坑検出状況（南から）



5. 1073号土坑骨・焼土・炭化物出土状態
（南から）



6. 1073号土坑骨・焼土・炭化物出土状態
（南から）



7. 1073号土坑骨・焼土・炭化物出土状態
（南から）



8. 1073号土坑焼土・炭化物出土状態（南から）



1. 1073号土坑焼土検出状況(南から)



2. 1073号土坑(南から)



3. 1119号土坑検出状況(南から)



4. 1119号土坑骨・焼土・炭化物出土状態(南から)



5. 1119号土坑骨・炭化物出土状態(南から)



6. 1119号土坑(南から)



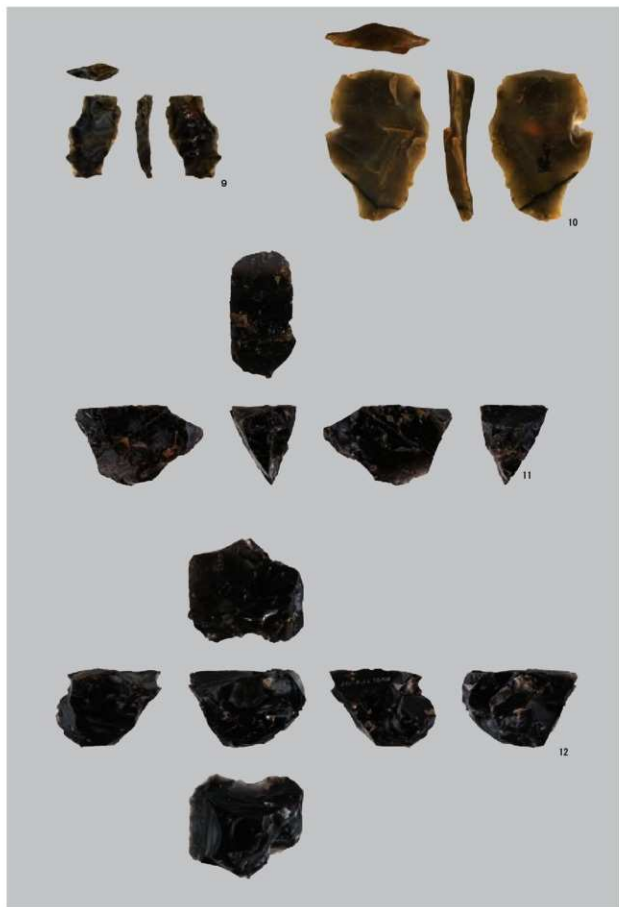
7. 縄文時代遺構外遺物(168)出土状態(北東から)



8. 弥生時代中期～古墳時代前期遺構外遺物(5)出土状態(東から)



9号石器集中地点出土遗物 1



9号石器集中地点出土遗物2



9号石器集中地点出土遗物3



1. 9号石器集中地点出土遗物 4



2. 10号石器集中地点出土遗物 1



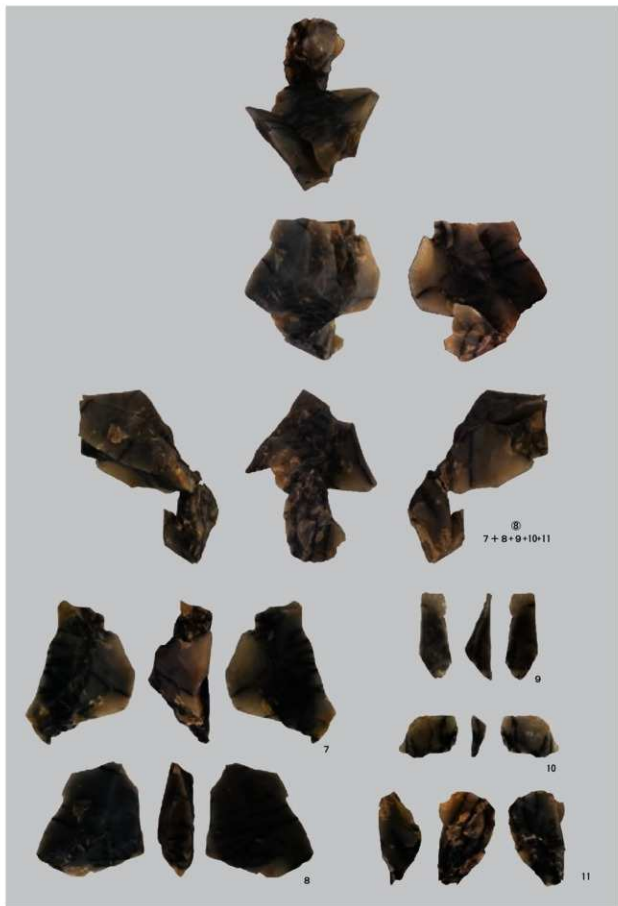
10 号石器集中地点出土遗物 2



1. 10号石器集中地点出土遗物3



2. 11号石器集中地点出土遗物1



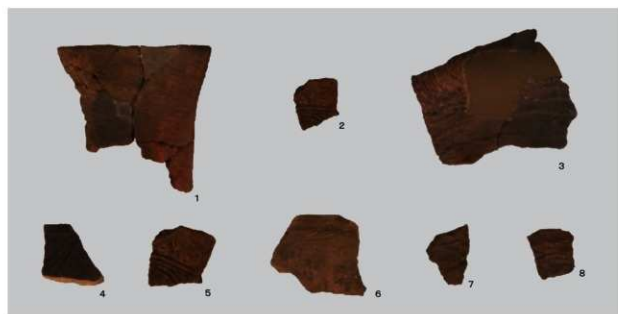
11 号石器集中地点出土遗物 2



1. 旧石器時代遺構外出土遺物



2. 4号住居跡出土遺物



3. 5号住居跡出土遺物



1. 6号住居跡出土遺物



2. 7号住居跡出土遺物



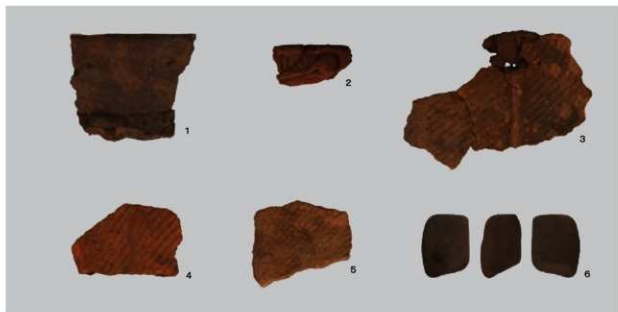
1. 8号住居跡出土遺物



2. 9号住居跡出土遺物 1



9号住居跡出土遺物 2



1. 10号住居跡出土遺物



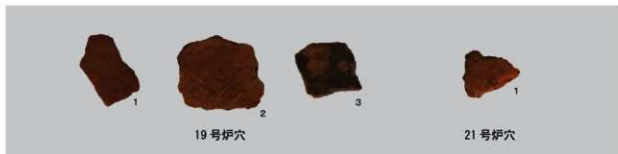
2. 11・13・14号住居跡出土遺物



1. 12号住居跡出土遺物



2. 6号集石出土遺物



3. 炉穴出土遺物



1. 1095号土坑出土遺物



2. 1096号土坑出土遺物



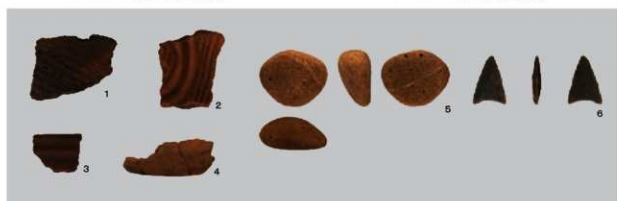
3. 1097号土坑出土遺物



4. 1121号土坑出土遺物



6. 1127号土坑出土遺物



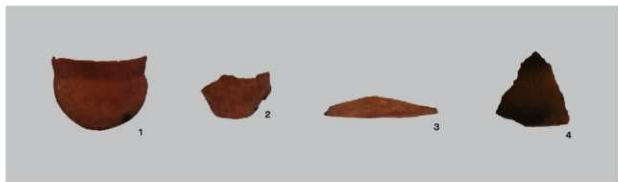
5. 1125号土坑出土遺物



7. 1131号土坑出土遺物



8. 189号ピット出土遺物



1. 8号住居跡出土遺物



2. 9号住居跡出土遺物



3. 10号住居跡出土遺物 1



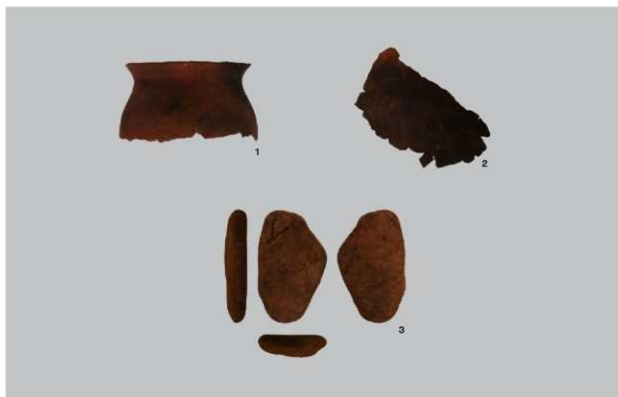
10号住居跡出土遺物2



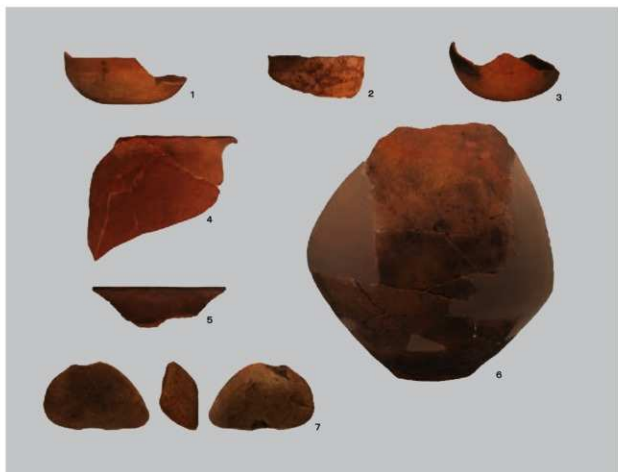
10号住居跡出土遺物3



10号住居跡出土遺物 4



1. 11号住居跡出土遺物



2. 301号住居跡出土遺物



303号住居跡出土遺物



304 号住居跡出土遺物 1



304号住居跡出土遺物2



1. 305 号住居跡出土遺物



2. 306 号住居跡出土遺物 1



306号住居跡出土遺物 2



306号住居跡出土遺物3



1. 308号住居跡出土遺物



2. 309号住居跡出土遺物



311号住居跡出土遺物 1



311 号住居跡出土遺物 2



311号住居跡出土遺物3



1. 312号住居跡出土遺物



2. 313号住居跡出土遺物 1



313号住居跡出土遺物2



313号住居跡出土遺物 3



314号住居跡出土遺物 1



1. 314 号住居跡出土遺物 2



2. 315 号住居跡出土遺物 1



315号住居跡出土遺物2



315号住居跡出土遺物3



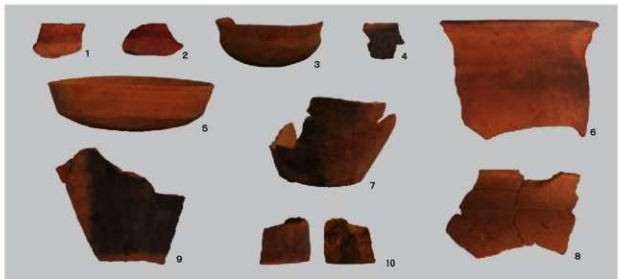
315号住居跡出土遺物4



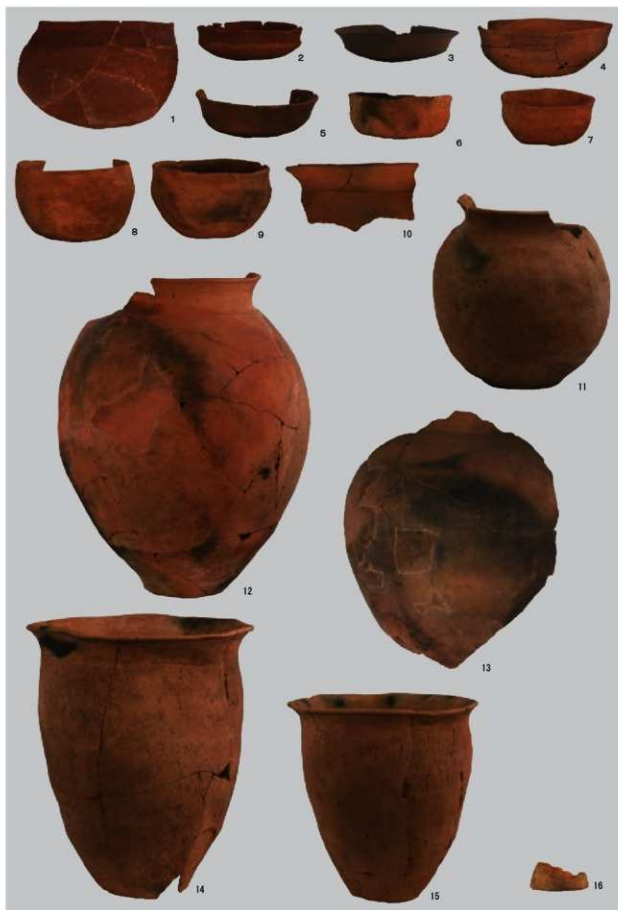
1. 316号住居跡出土遺物



2. 317号住居跡出土遺物



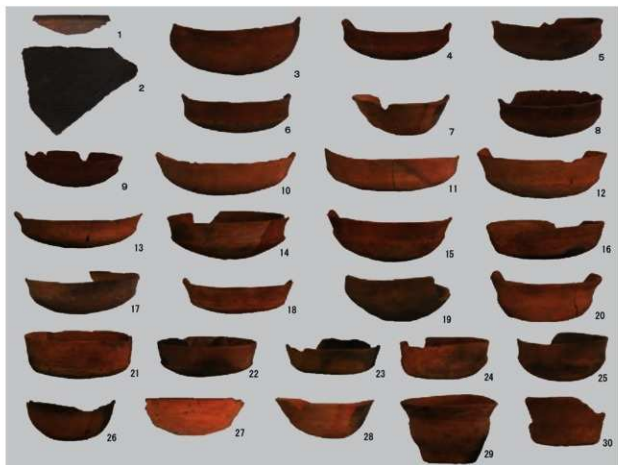
2. 318号住居跡出土遺物



319号住居跡出土遺物



1. 320号住居跡出土遺物



2. 321号住居跡出土遺物 1



321 号住居跡出土遺物 2



321号住居跡出土遺物3



321号住居跡出土遺物 4



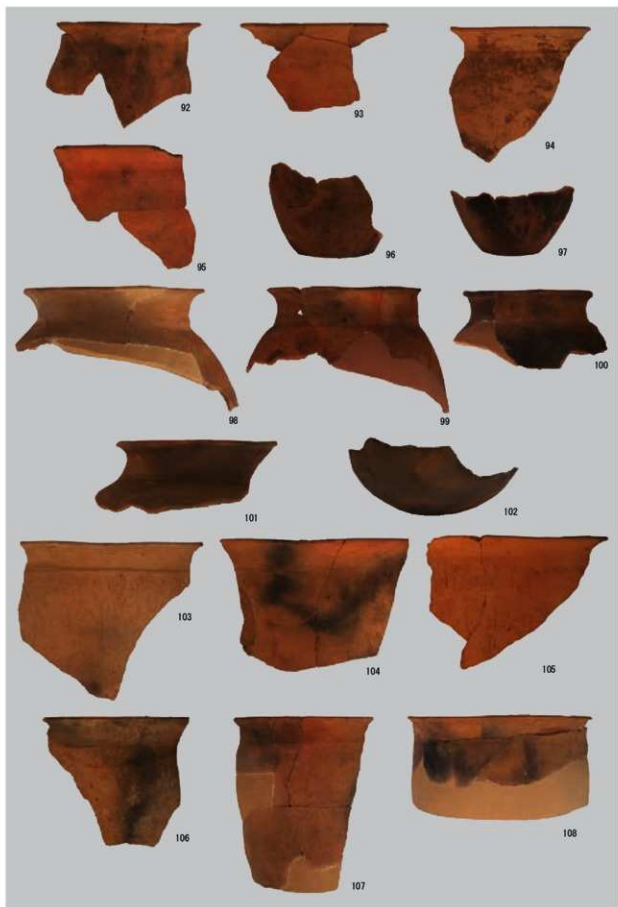
321号住居跡出土遺物 5



321 号住居跡出土遺物 6



321号住居跡出土遺物7



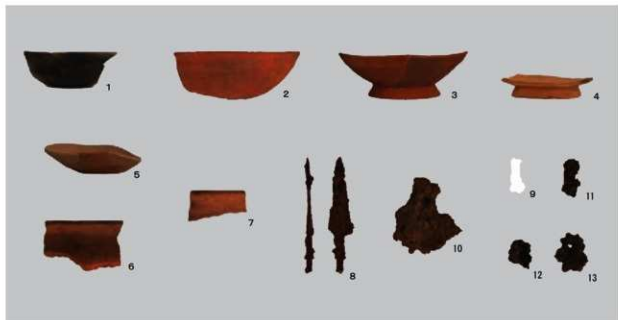
321 号住居跡出土遺物 8



1. 300号住居跡出土遺物



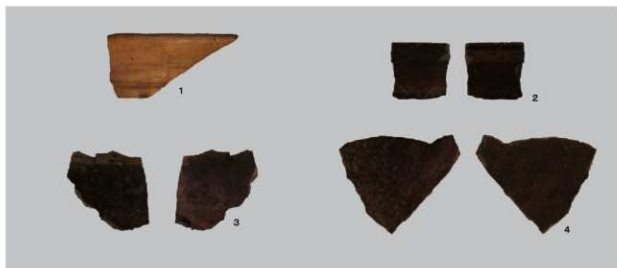
2. 307号住居跡出土遺物



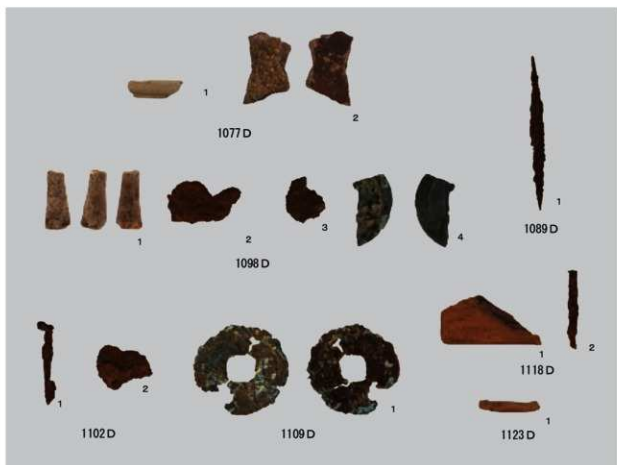
3. 310号住居跡出土遺物



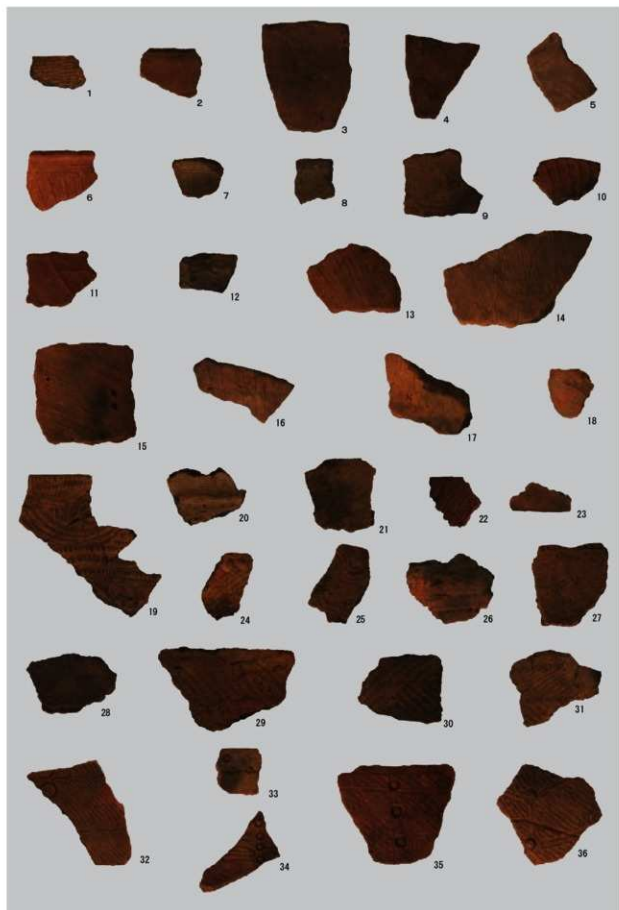
1. 68号溝跡出土遺物



2. 69号溝跡出土遺物



3. 中世以降の土坑出土遺物



縄文時代遺構外出土遺物 1



縄文時代遺構外出土遺物 2



縄文時代遺構外出土遺物 3



縄文時代遺構外出土遺物 4



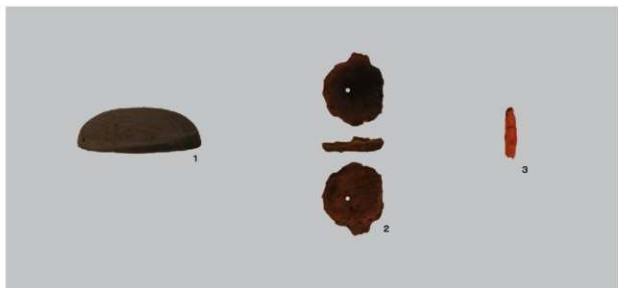
縄文時代遺構外出土遺物 5



縄文時代遺構外出土遺物 6



1. 弥生時代中期～古墳時代前期遺構外出土遺物



2. 古墳時代後期遺構外出土遺物



1. 中世以降遺構外出土遺物



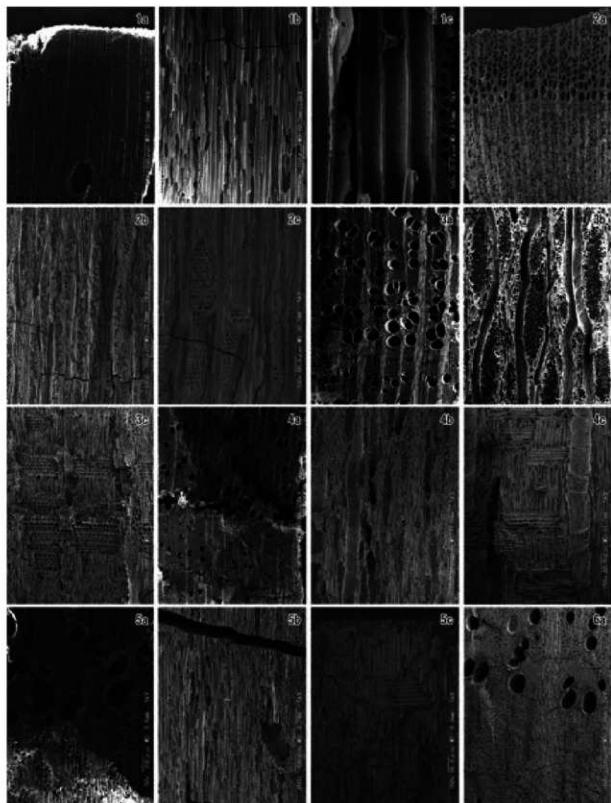
a: ヤマトシジミ (x0.5) b: ヤマトシジミ幼貝 (x0.5) c: ハマガリ (x0.5) d: ウネナシトマヤガイ (x1) e: イシガイ (x0.5) f: マガキ (x0.5)

2. 城山遺跡第96地点出土貝類



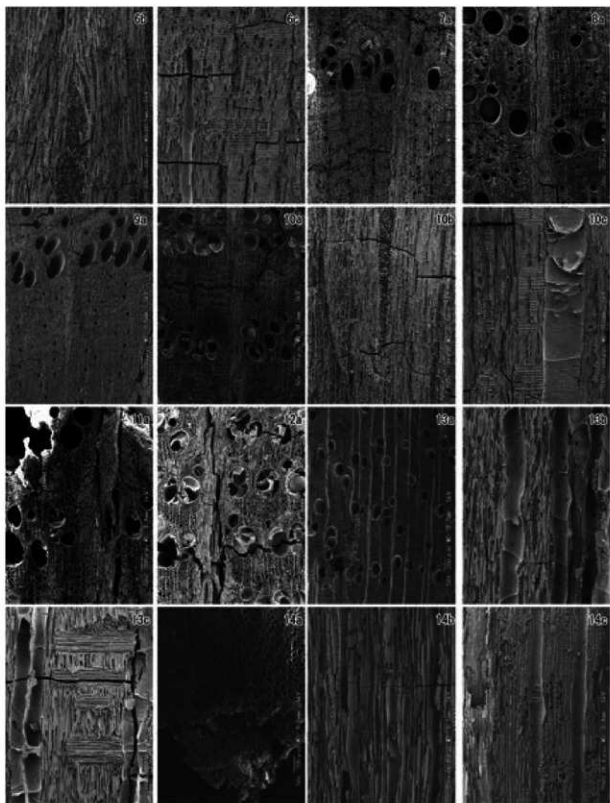
g: オオタニシ (x1) h: チリメンカワニナ (x1) i: 魚類の顎骨か (x60) j: 魚類(タイカ)の歯 (x200)
 k: 魚類の椎骨 (x200) l: ヒメコハクガイ (x200) m: マルシタラガイ (x200) n: ヒメベッコウマイマイ (x200)
 o: ニッポンマイマイ (x20) p: ヒダリマキゴマガイ (x200) q: オカチヨウジガイ (x200)

城山遺跡第96地点出土貝類・魚歯・魚骨



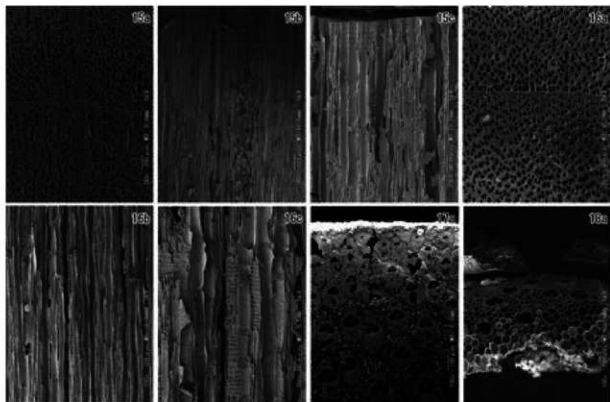
1a-1c ヒノキ科 (No.169)、2a-2c モモ (No.140)、3a-3c エノキ属 (No.234)、4a-4c クワ属 (No.97)、5a-5c クリ (No.83)、
6a. コナラ属クヌギ節 (No.12)

a: 横断面、b: 接線断面、c: 放射断面



6b-6c. コナラ属クスギ節 (No.12)、7a. コナラ属クスギ節 (No.11)、8a. コナラ属クスギ節 (No.51)、9a. コナラ属クスギ節 (No.103)、10a-10c. コナラ属コナラ節 (No.23)、11a. コナラ属コナラ節 (No.86)、12a. コナラ属コナラ節 (No.91)、13a-13c. オニグルミ (No.10)、14a-14c. ハンノキ属ヤシャブシ亜属 (No.154)

a: 横断面 (スケール=250 μ m)、b: 接線断面 (スケール=100 μ m)、c: 放射断面 (スケール=針:25 μ m・広:100 μ m)



15a-15c. ハンノキ属ハンノキ亜属 (No.49)、16a-16c. ヤナギ属 (No.6)、17a. タケ亜科 (No.197)、18a. イネ科 (No.251)
a. 横断面、b. 接線断面、c. 放射断面

報 告 書 抄 録

ふりがな	しろやまいせきだい96ちてん							
書名	城山遺跡第96地点							
シリーズ名	志木市の文化財							
シリーズ番号	第78集							
編者名	尾形剛敏・徳留彰紀・大久保聡・遠竹陽一郎・坂下貴則・宅間清公							
編集機関	埼玉県志木市教育委員会							
所在地	〒353-0002 埼玉県志木市中宗岡1丁目1番1号 TEL048 (473) 1111							
発行年月日	令和3(2021)年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 (°'")	東経 (°'")	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しろやまいせきだい 城山遺跡 (第96地点)	志木市柏町 3丁目1139番 3・4	11228	09-003	35° 49' 59"	139° 34' 07"	20190527 ～ 20191102	1,496	市営墓地 拡張工事
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
城山遺跡 (第96地点)	集落跡	旧石器時代		石器集中地点 3か所 礫群 2か所		石器 礫		縄文時代前期 の住居跡(7 ～9・12J) から貝層を検 出した。 市内ではじめて 弥生時代中期 後葉の住居 跡(10Y)を 検出した。
		縄文時代		住居跡 11軒 集石 2基 炉穴 5基 土坑 18基 ビット 7基		土器、石器 土器 土器 土器 土器		
		弥生時代中期～ 古墳時代前期		住居跡 4軒 方形周溝墓 1基		土器、石器、土製品		
		古墳時代後期		住居跡 19軒		土師器、須恵器、鉄製品、 土製品、石製品		
		平安時代		住居跡 3軒		土師器、須恵器、鉄製品、 土製品		
		中世以降		掘立柱建築遺構 1棟 溝跡 2本 道路状遺構 1本 土坑 41基 ビット 188基		磁器、陶器 磁器、陶器、土器、鉄製品、 銭貨		
要 約								
<p>今回の調査では、旧石器時代から近世に亘る、遺構・遺物が発見された。</p> <p>遺構は旧石器時代の石器集中地点・礫群、縄文時代の住居跡・集石・炉穴、弥生時代中期～古墳時代の住居跡・方形周溝墓、古墳時代後期の住居跡、平安時代の住居跡・掘立柱建築遺構、中世から近世の溝跡・道路状遺構・火葬土坑などである。</p> <p>遺物は、旧石器時代のナイフ形石器・剥片・礫、縄文時代の土器・石器、弥生時代中期～古墳時代前期の土器・石器・土製品、古墳時代後期の土師器・須恵器・鉄製品・土製品・石製品、平安時代の土師器・須恵器・鉄製品・土製品、中世～近世の磁器・陶器・土師質土器・金属製品などが出土した。また、縄文時代の住居跡からは、マガキ・ヤマトシジミを主体とする貝層を検出した。</p>								

志木市の文化財 第78集

城山遺跡第96地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

発 行 埼玉県志木市教育委員会
埼玉県志木市中宗岡1丁目1番1号
発行日 令和3(2021)年3月31日
印 刷 朝日印刷工業株式会社